

九州・沖縄エリア

一般社団法人 島原半島観光連盟

管理番号	原稿 No.	施設名	施設内スポット名
1117	1	雲仙	雲仙（全般的な紹介）
1118	2	雲仙	雲仙（全般的な紹介）
1119	3	仁田峠	仁田峠・雲仙岳（全般的な紹介）
1120	4	仁田峠	仁田峠・雲仙岳（全般的な紹介）
1121	5	仁田峠	仁田峠・雲仙岳（全般的な紹介）
1122	6	仁田峠園地・駐車場	仁田峠園地・周辺の見どころ
1123	7	仁田峠園地・駐車場	仁田峠展望所からの眺め（平成新山・普賢岳・妙見岳、赤松谷等）
1124	8	仁田峠園地・駐車場	雲仙ロープウェイ
1125	9	仁田峠第二展望所	普賢岳噴火災害（平成新山、土石流等の痕跡）
1126	10	普賢岳トレッキングコース	普賢岳トレッキングコース
1127	11	普賢岳トレッキングコース	普賢岳トレッキングコース
1128	12	普賢岳トレッキングコース	妙見岳展望所からの眺め
1129	13	普賢岳トレッキングコース	普賢岳からの眺め
1130	14	普賢岳トレッキングコース	普賢岳周辺で見られる動植物（あざみ谷の野鳥等）
1131	15	お手軽トレッキングコース	絹笠山トレッキングコース
1132	16	お手軽トレッキングコース	絹笠山トレッキングコース
1133	17	お手軽トレッキングコース	高岩山トレッキングコース
1134	18	お手軽トレッキングコース	高岩山トレッキングコース
1135	19	雲仙地獄	雲仙地獄
1136	20	雲仙地獄	雲仙地獄
1137	21	雲仙地獄	地獄地帯の特異景観（大叫喚、お糸など）
1138	22	雲仙地獄	温泉の情報 ※噴気現象のしくみはサブ、または訴求なし
1139	23	雲仙地獄	温泉（噴気）の及ぼす影響とその利用
1140	24	雲仙地獄	キリスト教の布教と雲仙寺社の破壊・再興
1141	25	雲仙地獄	クリンタン弾圧と島原一揆
1142	26	雲仙お山の情報館	外国人避暑地として繁栄し国立公園に指定された当時の雲仙の写真等（別館）
1143	27	各種プログラム	雲仙プレミアムナイト
1144	28	各種プログラム	ナイトエコツアー
1145	29	山岳信仰・仏教関連史跡	雲仙における山岳信仰・仏教の歴史
長崎市多言語解説協議会			
1146	1	メイン画面	
1147	2	設立の背景	

管理番号	原稿 No.	施設名	施設内スポット名
1148	3	設立の背景（布教）	
1149	4	設立の背景（発展）	
1150	5	設立の背景（禁教）	
1151	6	設立の背景（潜伏）	
1152	7	設立の背景（移住）	
1153	8	設立の背景（復活）	
1154	9	設立の背景（設立）	
1155	10	家族と生い立ち（トップ）	
1156	11	家族と生い立ち①	
1157	12	家族と生い立ち②	
1158	13	信仰布教①	
1159	14	信仰布教②	
1160	15	教育	
1161	16	福祉	
1162	17	医療・救護	
1163	18	農業	
1164	19	建築・土木①	
1165	20	建築・土木②	
1166	21	ブチジャン神父	
1167	22	中村近蔵	
1168	23	岩永マキ	
1169	24	大石シゲ	
1170	25	鉄川与助	
1171	26	本田俊育・永田要	
1172	27	救助院について（トップ）	
1173	28	救助院について（授産場）	
1174	29	救助院について（マカロニ工場）	
1175	30	救助院について（鰯網工場）	
1176	31	救助院について（旧製粉工場）	
1177	32	救助院について（薬局）	
1178	33	授産場について（食品加工）	
1179	34	授産場について（繊維関連）	
1180	35	授産場について（信仰と生活）	
1181	36	キリシタンの母郷	
1182	37	愛の火は燃え続け	

管理番号	原稿 No.	施設名	施設内スポット名
1183	38	周辺観光ガイド（トップ）	
1184	39	周辺観光ガイド（ド・ロ神父記念館）	
1185	40	周辺観光ガイド（出津協会）	
1186	41	周辺観光ガイド（野道の墓）	
1187	42	周辺観光ガイド（大野教会）	
1188	43	周辺観光ガイド（黒崎教会）	
1189	44	周辺観光ガイド（大平作業所跡）	
1190	45	周辺観光ガイド（バスチャン屋敷跡）	
1191	46	周辺観光ガイド（枯松神社）	
1192	47	周辺観光ガイド（外海歴史民族資料館）	
1193	48	周辺観光ガイド（道の駅）	
1194	49	周辺観光ガイド（遠藤周作文学館）	
1195	50	周辺観光ガイド（城山公園展望所）	

五島列島ジオパーク推進協議会

1196	1	鬼岳	
1197	2	鎧瀬海岸	
1198	3	大瀬崎	
1199	4	井坑	
1200	5	富江の石蔵	
1201	6	淡水貝化石	
1202	7	嵯峨島千畳敷	
1203	8	立小島	
1204	9	城岳からの展望	
1205	10	漣痕	
1206	11	荒川温泉	
1207	12	多郎島の海岸	
1208	15	牛瀬・馬瀬	
1209	16	鬼岳	
1210	17	鎧瀬海岸	
1211	18	大瀬崎	
1212	19	井坑	
1213	20	富江の石蔵	
1214	21	淡水貝化石	

管理番号	原稿 No.	施設名	施設内スポット名
1215	22	嵯峨島千畳敷	
1216	23	立小島	
1217	24	城岳からの展望	
1218	25	漣痕	
1219	26	荒川温泉	
1220	27	多郎島の海岸	
1221	28	天保海岸	
1222	29	丸子海岸	
1223	30	牛瀬・馬瀬	
1224	42	奈留島 千畳敷	
1225	43	奈留島 千畳敷	

豊後高田市多言語解説協議会

1226	1	豊後高田市	豊後高田の魅力：六郷満山、神仏習合（WEB）
1227	2	富貴寺	①山門の仁王像と山門前の石像について ②富貴寺を象徴する大堂の基本情報について ③阿弥陀如来坐像と大堂内の壁画について ④本堂と境内にある石像美術について
1228	3	真木大堂	真木大堂の概要と3体の仏像について（WEB）
1229	4	熊野磨崖仏	自然の崖面に掘られた大日如来像と不動明王（WEB）
1230	5	天念寺耶馬	①境内の概要（WEB）②神仏習合（WEB） ③修正鬼会（WEB）④鬼（WEB）
1231	6	田染荘小崎地区	①概要（WEB）②農業遺産となったきっかけ（WEB） ③散策方法と朝日観音、夕日観音（WEB）
1232	7	国東半島峯道ロングトレイル	国東半島峯道ロングトレイル全体概要（WEB）
1233	8	昭和の町	昭和の町全体概要（WEB）
1234	9	長崎鼻	長崎鼻全体概要（WEB）
1235	10	富貴寺	概要（看板・簡易リーフレット）
1236	11	真木大堂	概要（看板・簡易リーフレット）
1237	12	熊野磨崖仏	概要（看板・簡易リーフレット）
1238	13	天念寺耶馬	概要（看板・簡易リーフレット）
1239	14	富貴寺	①山門の仁王像と山門前の石像について ②富貴寺を象徴する大堂の基本情報について ③阿弥陀如来坐像と大堂内の壁画について
1240	15	真木大堂	①3体の仏像（音声ガイド）②真木大堂の概要（音声ガイド）

管理番号	原稿 No.	施設名	施設内スポット名
1241	16	六郷満山	六郷満山寺院の特徴（音声ガイド）
1242	17	熊野磨崖仏	①鬼が築いた石段（音声ガイド） ②磨崖仏（音声ガイド）
1243	18	天念寺耶馬	①天念寺耶馬全体概要（音声ガイド） ②修正鬼会（音声ガイド）
1244	19	田染荘小崎地区	田染荘小崎地区全体概要（Wi-Fi 音声ガイド）
1245	20	昭和の町	昭和の町全体概要（Wi-Fi 音声ガイド）
1246	21	長崎鼻	長崎鼻全体概要（Wi-Fi 音声ガイド）
環境省阿蘇くじゅう国立公園管理事務所			
1247	1	阿蘇くじゅう	国立公園
1248	2	阿蘇くじゅう	火山①
1249	3	阿蘇くじゅう	草原①
1250	4	阿蘇くじゅう	阿蘇の湧き水
1251	5	砂千里	周辺案内(火山口についての案内)
1252	6	砂千里	砂千里解説
1253	7	砂千里	第5火口
1254	8	草原学習館	水の道
1255	9	草原学習館	放牧
1256	10	草原学習館	盆花摘み
1257	11	草原学習館	草原と農業
1258	12	草原学習館	草原保全活動
1259	13	草原学習館	茅の利用
1260	14	南阿蘇 VC	火山
1261	15	南阿蘇 VC	湧水
1262	16	南阿蘇 VC	生き物
1263	17	南阿蘇 VC	草原
1264	18	南阿蘇 VC	文化
1265	19	南阿蘇 VC	ジオ・文化遺産
1266	20	南阿蘇 VC	散策マップ（らくだ山）
1267	21	南阿蘇 VC	散策マップ（高森殿の杉）
1268	22	南阿蘇 VC	散策マップ（上色見熊野座神社）
1269	23	南阿蘇野草園	野草園の案内
1270	24	南阿蘇野草園	阿蘇の特異な植物
1271	25	南阿蘇野草園	野の花に集まる蝶

管理番号	原稿 No.	施設名	施設内スポット名
1272	26	南阿蘇野草園	阿蘇の森林
1273	27	南阿蘇野草園	阿蘇の動物
1274	28	南阿蘇野草園	阿蘇の木とドングリ
1275	29	南阿蘇野草園	風景解説
1276	30	長者原	全体説明(自然的価値、見どころなど)
1277	31	長者原	散策ルート紹介(シーズン、植生、見どころなど)
1278	32	タデ原	タデ原の概要
1279	33	タデ原	タデ原の水源
1280	34	坊がツル湿原	雨ヶ池の概要
1281	35	猪瀬戸湿原	成り立ち
1282	36	猪瀬戸湿原	野焼きの復活
1283	37	猪瀬戸湿原	猪瀬戸湿原の今
1284	38	タデ原湿原(長者原)	長者原の人々の営み
1285	39	タデ原湿原(長者原)	高原の魅力
1286	40	タデ原湿原(長者原)	トレッキングの拠点としてのビジターセンター トレッキングに役立つ内容や注意事項などが確認できる、便利な施設であることを説明
1287	41	タデ原湿原(長者原)	草原の昔と今
1288	42	タデ原湿原(長者原)	湿原の美しい草花、残された自然
1289	43	タデ原湿原(長者原)	野焼きの維持
1290	44	タデ原湿原(長者原)	ラムサール登録
1291	45	坊がツル湿原	坊がツルの歴史
1292	46	坊がツル湿原	法華院温泉と草原
1293	47	坊がツル湿原	野焼き
1294	48	男池	男池湧水池
1295	49	男池	黒岳の原生林を散策
1296	50	久住高原、沢水湧水地	広大な草原を眺める
1297	51	久住高原、沢水湧水地	納池公園
1298	52	久住高原、沢水湧水地	野焼きの維持
1299	53	くじゅう連山	四季折々の魅力

一般社団法人 豊の国千年ロマン観光圏

1300	1	宇佐神宮	パンフレット：宇佐神宮の歴史
1301	2	宇佐神宮	パンフレット：由緒
1302	3	宇佐神宮	パンフレット：御許山
1303	4	姫島	パンフレット：国生み神話

管理番号	原稿 No.	施設名	施設内スポット名
1304	5	姫島	パンフレット：黒曜石
1305	6	姫島	パンフレット：由緒
1306	7	姫島	パンフレット：拍子水
1307	8	姫島	パンフレット：千人堂
1308	9	姫島	パンフレット：大帯八幡社
1309	10	国東半島（全体）	パンフレット：国東半島の歴史
1310	11	国東半島（全体）	パンフレット：六郷満山の寺、両子寺、富貴寺
1311	12	国東半島（全体）	パンフレット：石仏文化、熊野磨崖仏
1312	13	国東半島（全体）	パンフレット：石仏文化、国東塔
1313	14	田染荘	パンフレット：宇佐神宮の荘園
1314	15	田染荘	パンフレット：千年以上残る景観
1315	16	3つの城下町	パンフレット：3つの城下町
1316	17	中津城下町	パンフレット：河の城下町
1317	18	中津城下町	パンフレット：福澤旧居
1318	19	中津城下町	パンフレット：職人
1319	20	杵築城下町	パンフレット：坂の城下町
1320	21	杵築城下町	パンフレット：酔屋の坂
1321	22	杵築城下町	パンフレット：大原邸
1322	23	日出城下町	パンフレット：海の城下町
1323	24	日出城下町	パンフレット：日出城址
1324	25	別府温泉	パンフレット：共同湯文化
1325	26	別府温泉	パンフレット：近代建築、別荘文化
1326	27	別府温泉	パンフレット：路地裏
1327	28	別府温泉	パンフレット：温泉のある暮らし、地獄蒸し
1328	29	豊後高田昭和の町	パンフレット：昭和の町
1329	30	薦神社	
1330	31	八幡奈多宮	
1331	32	竹瓦温泉	
オール高千穂観光地域づくり協議会			
1332	1	高千穂町観光協会	高千穂町概要
1333	2	高千穂町観光協会	神話「天地の初めと国生み」 ※禊ぎまで含む
1334	3	高千穂町観光協会	神話「天岩戸開き」
1335	4	高千穂町観光協会	神話「天孫降臨」 ※できれば日向風土記逸文も
1336	5	高千穂町観光協会	伝説「猿田彦命と天鈿女命の出会いと結婚」

管理番号	原稿 No.	施設名	施設内スポット名
1337	6	高千穂町観光協会	伝説「三毛入野命の帰還と鬼八伝説」
1338	7	高千穂神社	概要
1339	8	高千穂神社	本殿
1340	9	高千穂神社	夫婦杉
1341	10	高千穂神社	秩父杉
1342	11	高千穂神社	鉄製狛犬、鎮石
1343	12	くしふる神社	穂觸神社、穂觸峰
1344	13	くしふる神社	本殿、四皇子峰、高天原遥拝所
1345	14	天岩戸神社	概要
1346	15	天岩戸神社	東本宮、西本宮
1347	16	天岩戸神社	天安河原
1348	17	荒立神社	概要
1349	18	荒立神社	拝殿、板木
1350	19	国見ヶ丘	展望所、瓊々杵尊像
1351	20	高千穂の夜神楽	概要
1352	21	高千穂の夜神楽	奉仕者、神庭
1353	22	高千穂の夜神楽	面様、彫り物
1354	23	高千穂の夜神楽	夜神楽三十三番、夜神楽鑑賞心得
1355	24	高千穂神楽	神楽殿
1356	25	高千穂峡	概要、渓谷
1357	26	高千穂峡	真名井の滝、高千穂三橋の景観
1358	27	棚田と山腹用水路	栃又・尾戸の口棚田、山腹用水路
1359	28	高千穂あまてらす鉄道	高千穂あまてらす鉄道
1360	29	流しソーメン	千穂の家、田舎家
1361	30	かつぼ鶏・かつぼ酒	神楽の館、仲山城址キャンプ場
1362	31	高千穂牛	レストラン和、初栄
1363	32	釜炒り茶	がまだせ市場、甲斐製茶園
1364	33	三秀台	三秀台、祖母山
環境省霧島錦江湾国立公園管理事務所			
1365	1	霧島錦江湾国立公園	霧島錦江湾国立公園のストーリー・体験・魅力
1366	2	雄川の滝	成り立ち
1367	3	雄川の滝	魅力
1368	4	雄川の滝	遊歩道の魅力
1369	5	知林ヶ島	知林ヶ島の概要

管理番号	原稿 No.	施設名	施設内スポット名
1370	6	知林ヶ島	砂州の形成
1371	7	知林ヶ島	利用の案内
1372	8	霧島連山	成り立ち、特徴
1373	9	霧島連山	登山利用
1374	12	霧島連山	天孫降臨神話
1375	13	霧島連山	霧島神宮
1376	14	霧島連山	高千穂峰・古宮址
1377	15	霧島連山	霧島の温泉
1378	16	霧島連山	霧島の食
1379	17	桜島	桜島島内の各スポット
1380	18	御池	形成過程
1381	19	御池	利用、魅力
1382	20	佐多岬	佐多岬展望台
1383	21	佐多岬	御崎神社
1384	22	佐多岬	灯台守広場
1385	23	佐多岬	灯台守の官舎跡地
1386	24	佐多岬	佐多岬灯台と官舎
1387	25	えびの高原	歴史
1388	26	えびの高原	動植物
1389	27	えびの高原	施設
1390	28	えびの高原	池巡りコース
1391	29	えびの高原	周囲の山・池
1392	31	えびの高原	えびの高原の成り立ち
1393	32	えびの高原	えびの高原の植生遷移
1394	34	大浪池	形成過程
1395	36	大浪池	大浪池の不思議
1396	37	大浪池	お浪の伝説
1397	38	錦江湾奥	始良カルデラの成り立ち
1398	39	錦江湾奥	たぎり
1399	40	錦江湾奥	イルカ、生き物
1400	41	錦江湾奥	重富海岸
1401	42	錦江湾奥	若尊鼻
1402	43	錦江湾奥	寺山
1403	44	錦江湾奥	神造島
1404	45	錦江湾奥	神瀬

管理番号	原稿 No.	施設名	施設内スポット名
1405	46	錦江湾奥	高峠
1406	59	錦江湾奥	白銀坂
1407	47	夷守台	大幡山登山口
1408	48	桜島	成り立ち
1409	49	桜島	地形地質
1410	50	桜島	溶岩と植生
1411	51	桜島	文化・産業・暮らし
1412	52	桜島	アクティビティ
1413	53	桜島	灰との付き合い方
1414	54	指宿	砂蒸し温泉
1415	55	指宿	開聞岳
1416	56	指宿	池田湖
1417	57	指宿	鰻池
1418	58	指宿	指宿地域の食

屋久島外国人観光促進協議会

1419	1	白谷雲水峡	http://y-rekumori.com
1420	2	屋久島伝承蔵	https://www.hombo.co.jp/company/kura/yakushima.html
1421	3	大川の滝	http://yakukan.jp/spot
1422	4	トローキの滝	http://yakukan.jp/spot
1423	5	千尋の滝	http://yakukan.jp/spot
1424	6	永田いなか浜	http://yakukan.jp/spot
1425	7	西部林道	http://yakukan.jp/spot
1426	8	屋久杉	http://yakukan.jp/spot
1427	9	ヤクスギランド	http://y-rekumori.com
1428	10	紀元杉	http://yakukan.jp/spot
1429	11	三代杉	http://yakukan.jp/spot
1430	12	翁杉	http://yakukan.jp/spot
1431	13	ウィルソン株	http://yakukan.jp/spot
1432	14	大王杉	http://yakukan.jp/spot
1433	15	双子杉	http://yakukan.jp/spot
1434	16	縄文杉	http://yakukan.jp/spot
1435	17	横河溪谷	http://yakukan.jp/spot
1436	18	平内海中温泉	http://yakukan.jp/spot
1437	19	湯泊温泉	http://yakukan.jp/spot

管理番号	原稿 No.	施設名	施設内スポット名
1438	20	栗生川のメルギ群落	http://yakukan.jp/spot
1439	21	屋久島町歴史民俗資料館	http://yakukan.jp/spot
1440	22	蛇之口滝	http://yakukan.jp/spot
1441	23	太鼓岩	http://yakukan.jp/spot
1442	24	荒川登山口	http://yakukan.jp/spot
1443	25	尾之間温泉	http://yakukan.jp/spot
1444	26	一湊海水浴場	http://yakukan.jp/spot
1445	27	春田浜海水浴場	http://yakukan.jp/spot
1446	28	栗生海水浴場	http://yakukan.jp/spot
1447	29	ぼんたん館	http://www.yakushima-marche.com/cust-spot/5471/
1448	30	屋久島有用植物リサーチパーク	http://yakukan.jp/spot
1449	31	屋久島環境文化村センター	http://yakukan.jp/spot
1450	32	屋久杉自然館	http://yakukan.jp/spot
1451	33	中間ガジュマル	http://yakukan.jp/spot
1452	34	屋久島灯台	http://yakukan.jp/spot

環境省慶良間自然保護官事務所

1453	1	慶良間諸島国立公園	JNTO 国立公園情報一括サイト（仮）
1454	2	慶良間諸島国立公園	公園の特徴、地形・景観などの概要
1455	3	慶良間諸島国立公園	渡嘉敷島の特徴、地形・景観などの概要
1456	4	慶良間諸島国立公園	座間味島の特徴、地形・景観などの概要
1457	5	慶良間諸島国立公園	阿嘉島・慶留間島・外地島の特徴、地形・景観などの概要
1458	6	慶良間諸島国立公園	ラムサール条約
1459	7	渡嘉敷島	阿波連ビーチ・阿波連集落・阿波連港・渡嘉敷村青少年旅行村キャンプ場
1460	8	渡嘉敷島	渡嘉志久集落・渡嘉志久ビーチ
1461	9	渡嘉敷島	渡嘉敷集落・渡嘉敷港・旅の案内人（渡嘉敷観光案内所）・渡嘉敷村立歴史民俗資料館
1462	10	渡嘉敷島	国立沖縄青年交流の家
1463	11	渡嘉敷島	ハナリ島
1464	12	渡嘉敷島	見花原遊歩道・見花原遊歩道展望台
1465	13	渡嘉敷島	照山園地・照山展望台・照山園地遊歩道
1466	14	渡嘉敷島	阿波連園地展望台
1467	15	渡嘉敷島	クバンダキ・クバンダキ展望台・歴史を見守るクバンダキ
1468	16	渡嘉敷島	北(ニシ)山山頂・北(ニシ)山展望台
1469	17	阿嘉島	腰原(クシバル)園地・クシバル展望台・クシバルビーチ

管理番号	原稿 No.	施設名	施設内スポット名
1470	18	渡嘉敷島	白玉之塔
1471	19	渡嘉敷島	戦跡碑
1472	20	渡嘉敷島	根元家の石垣
1473	21	渡嘉敷島	特攻艇秘匿壕
1474	22	阿嘉島・慶留間島・外地島	慶良間空港・外地展望台
1475	23	座間味島	稲崎展望台
1476	24	阿嘉島・慶留間島・外地島	北浜(ニシバマ)ビーチ・ニシバマテラス・ニシバマ展望台
1477	25	阿嘉島・慶留間島・外地島	ニシバマテラス
1478	26	座間味島	神の浜展望台
1479	27	阿嘉島・慶留間島・外地島	さんごゆんたく館
1480	28	座間味島	高月山展望台
1481	29	座間味島	女瀬の碇(うなじのさち) 展望台
1482	30	阿嘉島・慶留間島・外地島	高良家
1483	31	座間味島	チシ展望台
1484	32	阿嘉島・慶留間島・外地島	阿嘉集落・阿嘉港・シロの像
1485	33	座間味島	古座間味ビーチ
1486	34	座間味島	阿真集落・阿真ビーチ・青少年旅行村キャンプ場(阿真ビーチキャンプ場)
1487	35	阿嘉島・慶留間島・外地島	慶留間集落
1488	36	阿嘉島・慶留間島・外地島	阿嘉大橋
1489	37	座間味島	座間味村平和の塔
1490	38	座間味島	阿護の浦・阿佐集落
1491	39	阿嘉島・慶留間島・外地島	慶留間橋
1492	40	座間味島	マリリンの像
1493	41	阿嘉島・慶留間島・外地島	小鳩の塔
1494	42	座間味島	座間味集落・座間味港・座間味村観光案内所(座間味港内)
1495	43	阿嘉島・慶留間島・外地島	アマグスク展望台
1496	44	座間味島	安慶名敷島
1497	45	座間味島	嘉比島
1498	46	座間味島	安室島
1499	47	阿嘉島・慶留間島・外地島	久場島・屋嘉比島
1500	48	慶良間諸島国立公園	公園内の陸域動物
1501	49	阿嘉島・慶留間島・外地島	ムカラク島
1502	50	慶良間諸島国立公園	慶良間諸島の文化

一般社団法人 島原半島観光連盟

【施設名】雲仙

【整備予定媒体】Web サイト

<http://www.unzen.org/>

できあがった英語解説文

Unzen: History, Adventure, and Natural Wonders

Come to Unzen, one of Japan's first and finest national parks. Stroll around the bubbling, boiling acres of volcanic activity that have long been referred to by the local people as *jigoku*, or "hells." Trek to the top of several nearby peaks, with routes ranging from family-friendly strolls and picnic spots to intermediate full-day climbs of rocky summits. Soak your cares away in the "hell"-heated hot spring baths found in quaint public spas and local hotels, believed to have health benefits and relaxing properties in their mineral makeup.

Come to Unzen, a destination of natural beauty year-round, from the azalea-blanketed slopes in full spring bloom to the rare winter phenomenon of rime ice that glitters diamond-like on the branches of the mountain forests. Explore this UNESCO Global Geopark, centered around a volcano that has been active for half a million years.

Come to Unzen, where you will discover a history dating back to the introduction of Buddhism some 1,300 years ago. Trace footsteps of Meiji-era Westerners, who would travel from Nagasaki and Shanghai to use the town of Unzen Onsen and its surroundings as a cool highland getaway from the oppressive summer heat of the cities.

Come to Unzen and spend some quality time in one of Kyushu's most wonderful natural playgrounds.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

雲仙：歴史と冒険、自然の神秘

日本初の国立公園の一つで、指折りの美しさをもつ雲仙へどうぞお越しください。ぶくぶく煮え立つ様から、長きにわたり地元の人たちに「地獄」と呼ばれてきた広大な火山活動エリアを散策してみましょう。周辺の山々では、家族向けのお散歩ルートやピクニックスポットから、日帰りで岩に覆われた山頂を目指す中級者コースまで用意されており、登山を楽しむことができます。また、地元のホテルやレトロな公衆浴場には「地獄」で温められた温泉があり、そのミネラル成分には健康効果やリラックス効果があると信じられています。温泉につかって日頃の疲れを流すのはいかがでしょう。

一年を通して自然の美しさを楽しめる雲仙では、春の満開時には斜面が一面ツツジの花で覆われ、冬には山林の木々がダイヤモンドのようにキラキラ輝く、霧氷という稀少な現象を目にすることができます。50 万年前より活動を続ける火山を中心に広がる、ユネスコ世界ジオパークに指定された公園をどうぞ散策ください。

雲仙では、1,300 年ほど前の仏教伝来の歴史まで遡ることができます。明治時代には、夏になると都市の猛暑から逃れるために長崎や上海から西欧の貿易商が訪れ、雲仙温泉町とその周辺を高地の避暑地として使っていました。当時の旅人が歩いた道をなぞってみましょう。

九州屈指の自然の遊び場、雲仙まで極上のひと時を味わいに是非お越しく下さい。

本事業以前の英語解説文

Japan's first national park Unzen

In 1927, Unzen was ranked 1st in the mountain category for the New Eight Views of Japan, and in 1934 was designated as our country's first national park. Unzen's nature has been preciously preserved since days of old, and is an encyclopedia of nature.

A World Enclosed in Hot Spring Gas Fumes

Unzen Jigoku, an attraction characteristic of Unzen. High-temperature hot springs and gasses erupt violently from everywhere, and with the strong smell of sulfur, the steamy scenery evokes a vision of hell. There are around 30 geothermal fields, such as “Oito Jigoku”, and “Daikyoukan Jigoku”.

Feel the Change of the Four Seasons in Unzen

In spring, Unzen azaleas turn the mountainside pink, and when the fresh, young leaves turn to early summer green leaves, they herald the arrival of summer. When the entire mountain becomes red and orange, autumn and fall leaves have arrived, and come winter, the trees become crystallized with hard rime.

【施設名】雲仙

【整備予定媒体】パンフレット

できあがった英語解説文

Unzen: History and Adventure amid Natural Wonders

Welcome to Unzen, one of Japan's first and finest national parks, where a whole host of activities is available to fill your days and nights. Most travelers begin their visit with a stroll around the bubbling, boiling sites of volcanic activity that are warmly referred to by the local people as *jigoku*, or "hells." Trailheads that lead to the top of several nearby peaks start in town, or a short drive away, and the routes range from family-friendly strolls and picnic spots to intermediate-level, full-day climbs of rocky summits. Many visitors also choose to soak their cares away by immersing themselves in the "hell"-heated hot spring baths. These can be found in all the local hotels, as well as several quaint public spas, and the mineral-laden hot water is believed to have health benefits and relaxing properties.

Unzen is a location of natural beauty year-round. It is part of the Unzen Volcanic Area UNESCO Global Geopark, centered around a volcano that has been active for half a million years. In the spring, a wide variety of azalea blossoms blanket the mountain slopes in pink, and the Japanese dogwood trees turn the slopes white in early summer. The natural forest means spectacular bursts of color in the fall, and in the winter, the rare phenomenon of rime ice forms on the forest trees, glittering diamond-like in the sunlight.

Unzen has long been a favored destination for visitors since the priest Gyoki established the Manmyoji Temple in 701. It gained international renown in the Meiji period (1868–1912), when visitors from other parts of Japan and Asia would use the town of Unzen Onsen and its surroundings as a cool highland getaway from the oppressive summer heat.

Today, Unzen continues to appeal to international travelers and Japanese looking for mountain adventures, historical appeal and a very unique, mysterious landscape.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

雲仙：自然の神秘に潜む歴史と冒険

雲仙へようこそ。指折りの美しさをもつ雲仙は日本初の国立公園の一つで、昼夜を問わずお楽しみいただけるアクティビティが豊富に揃っています。観光客の方の多くがまず向かうのは、ぶくぶく煮え立つ様から地元の人たちに「地獄」として親しまれる、広大な火山活動のみられる散策エリアです。近辺の山頂に続く登山道は町中、または車ですぐの場所から始まります。ここでは、家族向けのお散歩ルートやピクニックスポットから、日帰りで岩に覆われた山頂を目指す中級

者コースまで用意されており、登山を楽しむことができます。「地獄」で温められた温泉に浸かって疲れを癒すのも、観光客定番のアクティビティです。現地のホテルならどこでも入ることができ、レトロな公衆浴場でも地獄温泉を使っている所があります。また、このミネラル豊富な温泉には、健康効果やリラックス効果があると信じられています。

雲仙は一年中、自然の美しさが楽しめる場所です。そんな雲仙は、50 万年前より活動を続ける火山を中心に広がる、島原半島ジオパークの中にあります。春には一面ツツジの花で覆われ、初夏にはヤマボウシで斜面が真っ白に染まります。この自然林では、秋には一面が色鮮やかに染まる壮観な景色が楽しみ、冬には霧氷という珍しい現象により、森林の木々が陽を浴びてダイヤモンドのようにキラキラと輝きます。

701 年に僧侶の行基が満明寺を開いてからというもの、雲仙は長きにわたり人気の観光スポットとして栄えてきました。明治時代（1868～1912 年）には、高地で夏の酷暑を凌ごうと、雲仙温泉町を避暑地として使う人が日本の各地域やアジアからも訪れるようになり、国際的にも広く認知されるようになりました。

雲仙は今も、山登りや歴史的な魅力、そして独特な神秘風景を求める海外や日本人の旅行者の心を魅了し続けています。

本事業以前の英語解説文

なし

1119

No.3 Nita Pass

<島原半島、長崎>

【施設名】仁田峠

【整備予定媒体】Web サイト

<http://www.unzen.org/tourism/spot2.html>

できあがった英語解説文

Nita Pass: Gateway to the Peaks

In a stunning location at an altitude of 1,040 meters, Nita Pass is the gateway to the peninsula's highest peaks. There are a number of mountain lookouts where clear skies can mean unlimited views of the entire peninsula, and across the waters to places as distant as the Amakusa Islands, Mt. Aso, and the city of Kumamoto. But drawing most of the visual attention is the peak looming over everything else—one of the newest mountains on Earth. Mt. Heisei-shinzan is a massive lava dome 1,483 meters in height that resulted from a five-year eruption from Mt. Fugen that began on November 17, 1990. In June 1991, a pyroclastic flow from the volcano caused the deaths of forty-three people, and thousands were evacuated.

Paths to the summit

The destination for most trekkers is Mt. Fugen, and a trailhead can be found at the pass. A short walk from the parking lot leads to a ropeway station, where gondolas whisk passengers up to Mt. Myoken station, an altitude of 1,333 meters, in less than three minutes. This is where many people start their hike, but it's equally interesting for non-climbers. Steps lead up to the highest lookout on the peninsula that does not require a tough climb, and included in the 360-degree view is the sight of trekkers across the valley summing the rocky peak of Mt. Fugen.

A broad diversity of wildlife

From early to late May, azaleas of all hues cover many of the mountain slopes, and it is said that 100,000 bushes can be found in the Nita Pass area alone. In early summer, the Japanese dogwoods turn the mountainsides white. Birdwatchers are encouraged to make the easy 25-minute walk from the lower ropeway station to the Azamidani valley bird-watching area frequented by local and migratory birds. Among them are the narcissus flycatcher, the males of which feature a distinctive pattern of a black crown and bright orange throat, and the Japanese bush warbler, whose distinctive mating call once led it to be called the Japanese nightingale. The round trip from the upper station of the ropeway to Mt. Fugen and back is a three- to four-hour trek.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

仁田峠：山頂への玄関口

標高 1,040m の絶景ロケーションにある仁田峠は、半島最高峰群への入り口となっています。山には展望台がいくつかあり、晴天の日には限りなく広がる半島の景色を一望でき、海のはるか向こうには天草諸島や阿蘇山、そして熊本市の景色を望めます。その中でもひととき目を引いているのは、地球上で最も新しい山の一つである、平成新山です。周囲に覆いかぶさるようにそびえ立つ平成新山は標高 1,483m で、1990 年 11 月 17 日から 5 年間続いた普賢岳の噴火によってできた巨大な溶岩ドームです。1991 年 6 月には火山からの火砕流により 43 名の死者を出し、数千人が避難しました。

山頂への道

山登り目的で訪れる方のほとんどが普賢岳を目指しますが、その登山口は仁田峠にあります。駐車場から少し歩くとロープウェイの駅があり、標高 1,333m の妙見岳駅まで、ゴンドラに乗って 3 分もしないうちに着きます。ここから多くの方がハイキングを開始しますが、山登りをしない人も同じくらい楽しめます。半島最高地点の展望台までは階段を登って行けるため、険しい山道を登ることなく、パノラマの景色を楽しむことができます。展望台からは、谷の向こうに岩だらけの普賢岳山頂を登る登山者の姿も見えます。

多様性に富んだ野生生物

5 月の上旬から下旬にかけては、山面のあちこちが色とりどりのツツジに覆い尽くされますが、仁田峠エリアだけでも約 10 万もの群生地があると言われています。また、初夏にはヤマボウシの花が山腹を真っ白に染め上げます。野鳥観察を楽しみたい方には、ロープウェイの山麓側の駅から気軽に歩ける道を 25 分進んだところにあるあざみ谷野鳥観察エリアがお勧めです。ここには、オスの上面の黒色と胸元の鮮やかなオレンジ色の模様が特徴のキビタキや、求愛時の独特な鳴き声からジャパニーズ・ナイチンゲールとも呼ばれていたウグイスを始めとする、地域の在来種や渡り鳥が頻りに訪れます。ロープウェイの山頂側の駅から普賢岳までは往復で 3~4 時間の山登りとなります。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】仁田峠

【整備予定媒体】パンフレット

できあがった英語解説文

Nita Pass: Impressive Views and Trekking Trailheads

A short drive up a forest road east of Unzen Onsen town is Nita Pass, the gateway to Mt. Unzen, a series of volcanic peaks that offers spectacular vistas in every direction. The views from the mountain lookouts to the south stretch over the Ariake Sea and far beyond to the many islands of Amakusa. Mt. Aso and the city of Kumamoto lie to the distant east and Nagasaki to the west. Looming high to the northwest is one of the newest mountains on Earth: Mt. Heisei-shinzan is a massive lava dome 1,483 meters in height that resulted from an eruption that began on Mt. Fugen on November 17, 1990. In June 1991, a pyroclastic flow from the volcano caused the deaths of forty-three people, and thousands threatened by the route of the flow were evacuated. A ropeway takes visitors on a quick, breathtaking hop from the pass (at 1,040 meters) to the nearest peak of Mt. Myoken (1,333 meters), and trailheads for hikers can be found at both ends of the ropeway.

You do not have to climb to enjoy the natural wonders of the area. From early to late May, a variety of azaleas of all hues and blossom sizes cover many of the slopes in pink, where it is said some 100,000 bushes are found in the Nita Pass area alone. The Japanese dogwoods turn the mountains white in early summer, and the natural forest shows off with vibrant colors in the fall. Steps from the upper station of the ropeway lead to a lookout where climbers can be seen summiting the craggy peak of Mt. Fugen on the other side of the valley. An easy 25-minute walk from the lower ropeway station is a bird-watching area frequented by tits, narcissus flycatchers, blue-and-white flycatchers, and Japanese bush warblers among the local and migratory birds.

Visitors in winter might be lucky enough to catch the rare phenomenon of rime ice (sometimes called “frost flowers”), which occurs when heavy fog meets a cold wind. The resultant ice forms a thin crust on one side of tree branches, which shimmers in the sunlight, turning the mountain into a jewel-encrusted wonder.

Drinks, snacks, and souvenirs are available at two convenient locations: the parking lot and the ropeway station. The first two are a necessity for the trek to Mt. Fugen and back, which takes between three and four hours.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

仁田峠：壮観な景色と登山口

雲仙温泉町の東に位置する林道を車で少し走ったところに、仁田峠があります。仁田峠は火山が連なる雲仙岳への

入り口で、四方八方に壮観な景色が広がります。山の展望台からは有明海が南に広がり、はるか向こうには天草諸島が見えます。阿蘇山と熊本市街地はここから遠く東に、長崎市は西に位置しています。北西に高くそびえるのは地球で最も新しい山の一つ、平成新山です。この標高 1,483m の巨大な溶岩ドームは、1990 年 11 月 17 日に始まった普賢岳の噴火によって形成されました。1991 年 6 月には火山からの火砕流により 43 名の死者を出し、その流れ道に脅かされた数千人が避難しました。仁田峠（標高 1,040m）からロープウェイに乗ると、最寄りの山峰、妙見岳（標高 1,333m）まで短い乗車の間絶景をお楽しみいただけます。登山口はロープウェイ乗り場の両方にあります。

当エリアの自然の神秘を満喫するのに、山を登る必要はありません。5 月上旬から下旬にかけては、色合いや大きさの異なる多種多様なツツジが山面のあちこちをピンクに染め上げます。そしてこの仁田峠エリアだけでも、約 10 万ものツツジ群生地があるとされています。初夏にはヤマボウシが山を白く染め、秋には自然林が色鮮やかに紅葉します。また、ロープウェイの山頂側の駅から出ている階段を上ると展望台があり、谷の向こうに岩だらけの普賢岳山頂を登る登山者の姿が見えます。ロープウェイの山麓側の駅から 25 分間、歩きやすい道をたどると野鳥観察エリアがあり、シジュウカラやキビタキ、オオルリ、ウグイスを始めとする地域の在来種や渡り鳥が頻繁に見られます。

運が良ければ、冬には濃霧に冷たい風が接触するときに起こる稀少な現象、霧氷（別名「フロストフラワー」）を目にすることができるかもしれません。この現象では木枝の片側に薄い氷殻が形成され、それが太陽の光を浴びると山が宝石でちりばめられたかのような神秘的な煌めきを見せます。

飲み物やおやつ、お土産は、駐車場とロープウェイ駅の 2 つの便利なロケーションで買うことができます。普賢岳への山登りは往復で 3～4 時間かかり、飲み物とおやつは必須です。

本事業以前の英語解説文

なし

1121

No.5 Nita Pass

<島原半島、長崎>

【施設名】仁田峠

【整備予定媒体】登山マップ

できあがった英語解説文

Trekking Unzen: A Selection of Courses

The Unzen-Amakusa National Park is one of Japan's oldest national parks, established in 1934. The area has also been selected as a UNESCO Global Geopark for its particular geological importance. Among the central attractions are well-maintained trekking trails that lead to the summits of the volcanic mountains at the center of the Shimabara Peninsula. There are a number of trails in the Unzen Onsen area. The trails up Mt. Kinugasa and Mt. Takaiwa are short courses, while the one to the top of Mt. Fugen is considered an intermediate-level long course. (Climbing times can vary, depending on the location where you start. For example, using the ropeway on the climb to the peak of Mt. Fugen shortens the time required.)

The trails are clearly marked and easy to follow, and make the best of the natural habitat. The lush, natural forests host a wide variety of trees and other foliage, home to many birds, including tits, warblers, and flycatchers.

Please stay on the trails. There are some spots that are restricted to one-way traffic, and the volcano is still active. It is closely monitored, however, so if trekkers follow directions, climbing in the park is completely safe.

Finally, there's no better place to recover from a good day of trekking than soaking any cares away in one of the hot spring baths, either at your hotel, or at one of several public facilities.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

雲仙で山登り：選べるコース

1934年に設立された雲仙天草国立公園は、日本最古の国立公園の一つで、特有の地質学的価値をもつことからユネスコ世界ジオパークにも選定されています。主な観光スポットの一つに、しっかり整備された登山道があり、これらの道は島原半島の中心部にある火山群の山頂へ続いています。雲仙温泉エリアにも登山道がいくつかあります。絹笠山・高岩山の登山道は「ショートコース」で、普賢岳山頂に続く登山道は「中級者向けのロングコース」とされています。

（登山時間は、開始地点により異なります。例えば、普賢岳山頂への登山コースでロープウェイを使うと、所要時間は短くなります。）

登山道にはわかりやすくはっきりとした標識が設置されていて、自然生息地の魅力を最大限に引き出します。緑豊

かな自然林には非常に多様な木や植物が茂り、シジョウカラやウグイス、ヒタキなど、多くの鳥類の生息地となっています。

登山道からは外れないでください。一方通行の制限がかかっている箇所もあり、火山も依然として活動しています。尚、厳重な監視を行なっておりますので、公園の道順に従っている限り、絶対安全に山登りをお楽しみいただけます。山登りを楽しんだ後は、温泉にゆったり浸かって一日の疲れを癒すのが一番。ご滞在のホテルでも、公衆浴場でも入れます。

本事業以前の英語解説文

なし

1122

No.6 Nita Pass

<島原半島、長崎>

【施設名】仁田峠園地・駐車場

【整備予定媒体】案内板

できあがった英語解説文

Nita Pass: Gateway to Mount Unzen

This pass is the gateway to the series of still-active volcanic peaks known as Mt. Unzen. They are in the center of the Unzen-Amakusa National Park and have been evolving through violent eruptions since prehistoric times—the most recent eruption beginning in 1990. Follow the walkway to the Unzen Ropeway station and a mountain lookout with panoramic views of the Shimabara Peninsula. The ropeway climbs another 174 meters in altitude to Mt. Myoken, which has the best views of the other peaks. Trailheads for trekking can be found here and at the top of the ropeway. The Kyushu azaleas which spread over much of this area are hardy plants that can grow under difficult environmental conditions and are resistant to volcanic gases. Seasonal highlights include the azalea blossoms in May, vivid forest colors in fall, and rime ice, an unusual winter phenomenon that cloaks the tree branches in glistening frosty jewels.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

仁田峠：雲仙岳への玄関口

この峠は、今尚活動を続けている、雲仙岳として知られる火山群への入り口になっています。雲仙岳は雲仙天草国立公園の中心にあり、先史時代から激しい噴火を繰り返し発達し続けています。直近の噴火は、1990年に始まりました。雲仙のロープウェイ駅と山の展望台へ続く散歩道をたどると、島原半島を一望することができます。そしてロープウェイでさらに174mの高さを上ると、他の山峰の景色を楽しめる絶好のスポットである妙見岳に到着します。登山口はこの仁田峠と、ロープウェイの妙見岳山頂側の駅にあります。このエリア各地に広がるのが、火山ガスに負けず過酷な環境でも育つツツジの、ミヤマキリシマです。季節の見所としては、5月にはツツジの花、秋には鮮やかな紅葉、そして冬には霧氷という、木々の枝が霜に覆われ宝石のようにキラキラ輝く稀少な現象があります。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】仁田峠園地・駐車場

【整備予定媒体】案内板

できあがった英語解説文

Mount Unzen: A View of an Active Volcano

The four major peaks that make up Mt. Unzen, Mt. Myoken, Mt. Kunimi, and Mt. Fugen are all ancient peaks, while Mt. Heisei-shinzan is a lava dome, created by a massive eruption that saw 200 million cubic meters of lava spew out between November 1990 and 1995. The swift moving clouds of gas and volcanic matter known as pyroclastic flows reached almost five kilometers from the summit, killing some forty scientists. The damage from the avalanche of earth and rocks—as well as the volcanic ash—was extensive and heightened by rainfall. Over 11,000 residents were evacuated and some 2,500 buildings destroyed.

Though the routes taken by the pyroclastic flows are clearly visible, the forests and plant life that were overrun and destroyed are gradually returning. The recovery began with grasses, scrub forest, and azaleas, which grow even in extreme environments, and will continue as larger trees—maple and other broadleaves—get a foothold.

Today, the mountain is carefully monitored, and trekking paths are open to all the peaks except for the lava dome, whose boulder-strewn surface is still unstable. The ropeway ends on the peak of Mt. Myoken, one of the highest spots with a panoramic view of the entire peninsula. Bird watchers are encouraged to make the short trek starting to the left of the shrine, which leads to the Azamidani valley area, populated by tits, warblers, flycatchers, and other species.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

雲仙岳：活火山のある風景

雲仙岳、妙見岳、国見岳、そして普賢岳を成す四大峰はすべて古くからある山ですが、平成新山は 1990 年 11 月から 1995 年の間に 2 億立法メートルの溶岩を噴出した大噴火によってできた溶岩ドームです。火砕流と呼ばれる、高速に流れる火山ガスの雲や火山噴出物は山頂から 5km 近くの地点まで到達し、四十数人の科学者が死亡しました。山津波と火山灰による被害は広範囲におよび、降雨によりさらに拡大。これにより 11,000 人以上の住民が避難し、約 2,500 軒の住宅が破壊されました。

火砕流の爪痕は今もはっきりと残っていますが、溶岩に飲み込まれ破壊された森林や植物は少しずつ回復してきています。まず最初に戻ってきたのは、過酷な環境でも生長する草や低木林、そしてツツジ。モミジを始めとする広葉樹な

どの大きな樹木も次第には根を張り始め、自然の蘇生は続きます。

現在、山は嚴重に監視されており、地表に岩が転がり未だ不安定な平成新山を除くすべての登山道が利用可能となっています。ロープウェイの終着駅は、半島を一望できる最高地点の一つである妙見岳山頂にあります。野鳥観察を楽しみたい方は、神社の左側から始まる登山道を少し歩いたところにある、あざみ谷エリアがお勧めです。あざみ谷にはシジョウカラ、ウグイス、ヒタキなどの鳥類が生息しています。

本事業以前の英語解説文

なし

1124

No.8 Unzen Ropeway

<島原半島、長崎>

【施設名】仁田峠園地・駐車場

【整備予定媒体】パンフレット

できあがった英語解説文

Unzen Ropeway

The Unzen Ropeway, opened in 1957, climbs from Nita Pass to the top of Mt. Myoken in just three minutes, a 500-meter journey over an ascent of 174 meters. From the left side of the gondola, the entire southwestern side of the peninsula is visible, including Japan's second-oldest golf course and the towns of Unzen Onsen and Minamishimabara. On the right side, the slopes of the mountains still bear visible scars of the lava flows, but an increasing amount of vegetation can be seen as it slowly regains a foothold on the barren ground. There are several attractions near the station at the top: a Shinto shrine where climbers often make offerings before setting off on their journey; an observation deck with a 360-degree panoramic view, and a diorama at the station that offers a bird's-eye view of the entire peninsula. (Ropeway operation times vary with the season and the weather. The fee is ¥630 one-way.)

上記解説文の仮訳（日本語訳）

雲仙ロープウェイ

1957年に開通した雲仙ロープウェイは、仁田峠から妙見岳山頂まで500mの距離、174mの高度をわずか3分で上ります。ゴンドラの左側からは、日本で2番目に古いゴルフ場や、雲仙温泉町、南島原市など、半島の南西部を一望することができます。右側からは今もなお山面に火砕流の爪痕を見ることができますが、荒地で少しずつ根を張りつつある植物が増えてきています。ロープウェイの山頂側の駅の近くには、山登りの前に登山者が参拝に向かう神社や、景色を360度見渡すことができる展望台、半島の全景をあらわした駅構内のジオラマなど、観光スポットがいくつかあります（ロープウェイの営業時間は季節や天候によって異なります。運賃は片道630円となっています）。

本事業以前の英語解説文

なし

1125

No.9 Sign at 2nd observatory deck

<島原半島、長崎>

【施設名】仁田峠第二展望所

【整備予定媒体】案内板

できあがった英語解説文

View of Southern Shimbara and Beyond

You are facing the southern region of the Shimabara Peninsula, though landmarks as far away as Mt. Aso and the city of Kumamoto can be seen to the east on clear days. The fertile farmland of the plains surrounding these mountains is the largest agricultural area in Nagasaki, and the fast-moving waters of the Ariake Sea beyond are rich with fish, and a favorite playground for dolphins. In the distance are the Amakusa Islands, part of the Unzen-Amakusa National Park. It was from this peninsula that the Shimabara Rebellion was launched in 1637 by a coalition of those disgruntled by higher taxes and the persecution of Catholics. The rebellion, led by a 16-year-old boy, ended at Hara Castle on the south coast of this peninsula, where over 120,000 soldiers of the shogunate forces eventually overwhelmed the rebel defenders on April 15, 1638, after a long siege. More than 20,000 rebels and their sympathizers were beheaded in the aftermath. Following this uprising, the shogunate chose to cut Japan off contact with most of the outside world, and stricter policies against Christians drove the religion underground. Only the castle's ruins remain today.

Behind you, if you turn to your left, is the newest addition to the mountain, which you can easily identify from its barren surface. Mt. Heisei-shinzan is a lava dome that grew from a recent eruption beginning in November 1990. This is one of the best perspectives for viewing the routes of the resulting pyroclastic flows, some of which reached the sea. If you look closely, you'll notice that there are spots of green where plants and trees are beginning to get a foothold—the beginnings of reforestation on the mountainside.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

島原南部とその向こうにひろがる景色

この展望台は島原半島南部に面していますが、晴れた日には遥か遠く東に阿蘇山や熊本市街地などのランドマークを望むことができます。また、これらの山を囲む平原地帯は肥沃な土壌を有し、長崎県内最大の農業地域となっています。そして、その向こうに位置する有明海は海流が早く魚に恵まれ、イルカたちにとってお気に入りの遊び場でもあります。遠くには、雲仙天草国立公園の一部である天草諸島が見えます。

1637年、重い年貢・キリシタン迫害に不満を募らせた者たちが一体となって起こした島原の乱は、この半島から始

まりました。1638年4月15日、120,000人以上の幕府討伐軍が長期の包囲攻撃を仕掛けると一揆軍は制圧され、16歳の少年が先導した島原の乱は半島の南沿岸部にあった原城で終わりを遂げます。その後、一揆軍とその支持者20,000人が斬首されました。島原の乱の後、幕府は国外との交流をほぼすべて絶ち、キリシタンに対する禁教策をさらに強化したことでキリスト教は闇に葬られました。現在残っているのは、原城の史跡のみとなっています。

背後左側をみると、この連山に新しく仲間入りした、不毛の地表が目印の平成新山が見えます。平成新山は1990年11月に始まった近年の噴火により形成された溶岩ドームで、この噴火による火砕流は海にまで到達しました。ここは、その跡を眺めるのに絶好のスポットとなっています。目を凝らすと、植物や木々が根を張り始めた箇所が緑に染まっているのが見えます。これは山腹における森林再生の兆しです。

本事業以前の英語解説文

Geopark is a natural park with scientifically significant geological and topographic heritage sites. Shimabara Peninsula is the home of geosites such as the Heisei Eruption (1990-95), the “Shimabara Catastrophe” eruption, spring water and hot springs. These sites are not only geological highlights but also cultural and historical places of interest.

View of Mt. Heisei Shinzan and disaster-affected areas from a distance

Since the hot lava, which rose from the ground was very viscous, it created raised terrain near the park-the lava dome. As the lava flowed down hanging over the steep slope, pyroclastic flow occurred when parts of the lava crumbled. Tracks of the pyroclastic flow can be observed at the foot of Mt. Heisei Shinzan, as well as the tracks of the sediment flow, which reached the Ariake Sea.

Unzen Volcano and its dips

The Unzen Volcano is cut by many faults such as the Chijiwa Fault on the north side and the Futsu and Fukae faults on the south side. These have created dips in the volcano. This type of geological structure is called a graben. The middle part of the Unzen graben has vast amounts of ejecta produced by the volcanic eruptions. If the volcano did not have these dips, it is believed that Mt. Fugen would have been the highest mountain in Kyushu with an altitude over 2,000 meters.

1126

No.10 Climbing Mount Fugen

<島原半島、長崎>

【施設名】普賢岳トレッキングコース

【整備予定媒体】Web サイト

<http://www.unzen.org/about/guide.html>

できあがった英語解説文

Climbing Mount Fugen: Unzen's Highest Accessible Summit

Climbers who want to make a full day of climbing Mt. Fugen, a moderate to advanced-level hike, should begin in the town of Unzen Onsen. Shorter routes, however, begin at the Nita Pass Unzen Ropeway station (1,080 meters) or at the upper ropeway station on Mt. Myoken (1,300 meters). The highest point on the peninsula, the lava dome from the 1990 eruption, is still off-limits to climbers, but the routes to Mt. Kunimi and Mt. Fugen are open and offer a wide range of terrain. The trail passes across narrow ridges, through mossy valleys, up and down rugged rocky steps, and past cave openings and the boulder-strewn dome. In some places it could be called “Ghibli World,” for its resemblance to the landscape that appears in the beloved animations of Miyazaki Hayao.

Broad vistas and volcanic formations

The weather is very fickle at altitude and the peaks are often swept with banks of fog, hampering visibility, but when clear, the views along the way are spectacular. One highlight is the up-close look at the formidable dome. Keep an eye out also for the stone ruins of buildings that were once connected with lava caves and used for storing silkworm eggs during the Meiji period (1868–1912). Equally fascinating are the many strange volcanic formations and rocks, including “breadcrust bombs”—stones with a cracked surface that were tossed out in the recent eruption. The summit of Mt Fugen, at 1,359 meters, has a number of photogenic rocky outcrops. On a clear day, climbers can experience a panoramic view that extends as far as Mt Aso, sometimes even as far as Mt. Sakurajima, some 140 kilometers away in Kagoshima!

The route that leads from the top of the ropeway to Mt. Fugen and back to the bottom of the ropeway takes between three and four hours.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

普賢岳登山：雲仙で登頂可能な最高峰

普賢岳で登山を1日楽しみたい方には、雲仙温泉町から始まる中級～上級レベルのハイキングコースがあります。また、短めのコースは仁田峠雲仙ロープウェイ駅（1,080m）、または妙見岳にある山頂駅（1,333m）から始まりま

す。1990 年の噴火でできた、半島最高峰の平成新山は、未だ登山者立ち入り禁止となっていますが、国見岳と普賢岳へのルートは通行可能です。この山道では狭い尾根を渡り、苔むした谷間を抜け、ゴツゴツした石段を上り下りし、洞穴の口や岩がゴロゴロしているドームの横を通ったりと、変化に富んだ地形を楽しめます。中には、みんなに愛される宮崎駿のアニメに出てきそうな景色から「ジブリワールド」とでも呼べそうなスポットもあります。

広大な景色と火山岩層

高地では天候が非常に変わりやすく、山々の頂きはしばしば濃霧の壁に飲まれ視界が妨げられますが、晴れていれば道中の景色は壮観です。間近に見る溶岩ドームの姿は圧巻で、見どころの一つとなっています。かつて溶岩洞窟とつながっており、明治時代（1868～1912 年）には蚕種の保管に使われていた石造建物の廃墟も要チェックです。また、これに負けないほど興味深いのが、あちこちにみられる不思議な形の火山岩層や地形です。これには、最近の噴火で放出された、表面のひび割れた石ころ、別名「パン皮状火山弾」も含まれます。標高 1,359m の普賢岳の山頂には、岩石の露頭があちこちにあり、写真映え抜群です。登山者は、晴れた日には遠く阿蘇山まで広がる景色を一望することができます。時には、はるか 140 何 km 離れた鹿児島島の桜島まで見渡せることも！

ロープウェイの山頂側の駅から普賢岳まで登り、ロープウェイの山麓側の駅まで戻るルートにかかる時間は 3～4 時間です。

本事業以前の英語解説文

なし

1127

No.11 Climbing Mount Fugen

<島原半島、長崎>

【施設名】普賢岳トレッキングコース

【整備予定媒体】登山マップ

できあがった英語解説文

Mount Fugen Long Course

This most strenuous of the climbs has a number of trailheads, depending on the length and time trekkers want to devote to it. Starting in the town of Unzen Onsen will require a full day, while departing from Nitta Pass will cut that down to four or five hours, and leaving from the top of the ropeway will cut another 40 minutes to an hour. The weather can be fickle: you may end up on top of clouds or inside them, but it often clears to unveil a number of stunning views. There are some steep downhill sections on both the ascent and descent, but most of the climb is intermediate level. The trail crosses narrow ridges, goes through mossy valleys, and passes fascinating volcanic rock formations and the massive form of boulder-strewn Mt Heisei-shinzan, a product of the 1990 eruption that is still off-limits to climbers.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

普賢岳「ロングコース」

この極めて過酷な登山には入り口がいくつかあり、登山者が山登りにかけたい時間、歩きたい距離にあわせて選べます。雲仙温泉町からの出発だと丸1日かかりますが、仁田峠から出発すれば4、5時間に短縮できます。また、ロープウェイの山頂側の駅から出発するとさらに40分から1時間短縮することができます。天候は変わりやすく、雲の上、あるいは雲の中ということになってしまう場合もありますが、たいていは晴れ上がって絶景があちこちで姿を現します。登山時、下山時には急な下り坂がいくつかありますが、登山の大半は中級レベルです。登山道では狭い尾根や苔むした谷間を渡り、見事な火山岩層を通り過ぎます。そして、登山者は未だ立ち入り禁止ですが、1990年の噴火で出来た平成新山の、岩に覆われた壮大な姿の横も通っていきます。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】普賢岳トレッキングコース

【整備予定媒体】案内板

できあがった英語解説文

Mount Myoken Observation Deck

You are standing at one of the highest spots on Mt. Myoken, and most of the peninsula is visible from here. To the northeast, Mt. Fugen is the closest peak, and climbers' silhouettes can usually be seen celebrating their successful ascent on its rocky summit. Beyond that is the barren lava dome of Mt. Heisei-shinzan, which formed from an eruption out of the side of Mt. Fugen. Far to the east is Tachibana Bay. To the southeast, you should be able to make out the popular hot spring resort town of Unzen Onsen and the local golf course. Beyond that is the city of Obama, another hot spring resort on the bay. Directly south is Mt. Takaiwa, another favorite trekking destination. The city of Kumamoto (at 40 kilometers) and another famous volcano, Mt. Aso (at almost 80 kilometers), can be seen in the distant east on a clear day.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

妙見岳展望台

今、妙見岳で一二を争う高さを誇る場所に立っています。ここからは、ほぼ半島全体を見渡すことができます。また、北東方向で最も近い山は普賢岳で、通常そのゴツゴツした山頂への登頂成功を祝う登山者たちの輪郭が見えます。その向こうに見えるのが、普賢岳の中腹からの噴火でできた不毛の溶岩ドーム、平成新山です。そして、遠く東の方に見えるのが橘湾です。南東方向には、人気の温泉街雲仙温泉と、地元のゴルフ場が見えるはず。その向こうには、湾に面したもう一つの温泉街、小浜町があります。そして真南にあるのが、やはり人気のトレッキングスポット、高岩山です。快晴の日には、はるか東に熊本市（40km 先）や、これまた有名な火山、阿蘇山（80km 近く先）が見えます。

本事業以前の英語解説文

なし

1129

No.13 Mount Fugen Summit

<島原半島、長崎>

【施設名】普賢岳トレッキングコース

【整備予定媒体】案内板

できあがった英語解説文

Mount Fugen Summit

You have successfully reached the summit of Mt. Fugen. At 1,359 meters, this was once the highest peak on the peninsula before the eruption from its northeastern side beginning in 1990 created the lava dome known as Mt. Heisei-shinzan (1,486 meters). Mt. Fugen is one of the younger peaks at less than 5,000 years old, and has been one of the most active. In 1792, at a time of increased volcanic activity, a peak to the east collapsed into the Ariake Sea, creating a tsunami that took an estimated 15,000 lives. The mountains of which Mt. Fugen is the center, are collectively known as Mt. Unzen, and have been considered sacred from ancient times. Fugen Shrine, located on the eastern flank, was wiped out in the recent eruption. On clear days, Mt. Aso is visible, and sometimes the volcanic plume from Mt. Sakurajima in southern Kyushu can be seen, some 140 kilometers away!

上記解説文の仮訳（日本語訳）

普賢岳山頂

普賢岳登頂成功、おめでとうございます。かつて、1990年に山の北東部で始まった噴火により溶岩ドームの平成新山（1,486m）が形成される前は、標高 1,359m に立つ普賢岳は半島の最高峰でした。普賢岳は、形成から 5,000 年経っていない比較的新しい山で、火山活動の最も盛んな山の一つです。1792年に火山活動がさらに活発化した際、東側の山峰が有明海に崩れ落ち、推定 15,000 人の命を奪った津波が発生しています。普賢岳を中心に構える連山は雲仙岳と総称され、古代より神聖な地とされてきましたが、東側の面に位置した普賢神社は近年の噴火で埋もれてしまいました。よく晴れた日には阿蘇山や、時には 140 何 km 離れた、南九州の桜島から立ち上る火山の噴煙も見えます。

本事業以前の英語解説文

なし

1130

No.14 Azamidani Vally Bird Watching

<島原半島、長崎>

【施設名】普賢岳トレッキングコース
【整備予定媒体】案内板

できあがった英語解説文

Azamidani Valley Bird Watching

A number of wild bird species, some migratory, populate this area of the forest, and come to the small pond. The summer months are especially good for birdwatching.

Narcissus flycatcher

The narcissus flycatcher migrates long distances, arriving in this area in spring and summer. The male has a distinctive pattern of a black crown and bright orange throat, while the female plumage is largely brown tones. The male's song is a melodious series of whistles.

Varied tit

While a member of the tit family, the varied tit is quite different than the others. Its plumage of a brown chest and blue-gray wings is striking. The varied tit can be seen here year-round, often feeding by holding acorns in its feet, cracking them with its strong beak.

Blue-and-white flycatcher

This member of the flycatcher family is also migratory. It winters in south-east Asia, but can often be seen in this forest in the summer. The male, with a striking contrast of a blue back and white chest, tends to perch for long periods of time on the ends of high branches and has a beautiful singing voice. It repeats a pattern of leaving its perch to catch insects in mid-air and returning.

Japanese bush warbler

The Japanese bush warbler, once known as the Japanese nightingale, is more often heard than seen. It holds a special place in the hearts of Japanese and is a frequent motif in poetry. Its breeding call, "ho-hokekyo," can be heard from early spring. In winter, it moves to lower elevations.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

あざみ谷野鳥観察

森のこの地帯には渡り鳥を含む数多くの野鳥類が生息し、小池を訪れます。夏季は特に、野鳥観察にうってつけの時期です。

キビタキ

キビタキは長い距離を移動する渡り鳥で、春と夏にこの地域にやってきます。オスには黒い上面に鮮やかなオレンジ色の胸元と、特徴的な模様が入っています。一方でメスの羽衣は概ね茶色い色調です。また、オスは美しい笛の旋律のような鳴き声を発します。

ヤマガラ

シジュウカラ属の一員ですが、ヤマガラは同属の他の鳥とは大きく異なります。羽衣は、茶色の胸元に青みがかった灰色の翼が印象的。ヤマガラはここでは年間を通して見ることができ、ドングリを足でおさえ丈夫なくちばしで割って食べる姿がよく見られます。

オオルリ

ヒタキ科のこの鳥もまた、渡り鳥です。東南アジアで冬を越しますが、夏にはこの森でしばしば見られます。白い胸元に青い背のコントラストが印象的なオスは、高い木の枝の端で長いこと羽を休める傾向があり、美しい鳴き声を持っています。止り木から飛び立ち空中で昆虫を捕らえ、また止り木に戻るといったパターンを繰り返します。

ウグイス

かつてジャパニーズ・ナイチンゲールとして知られていたウグイスは、目にするよりも耳にすることが多いです。ウグイスは日本人にとって特別な存在で、詩歌でもよくモチーフにされています。求愛のさえずり「ホーホケキョ」は早春から聞くことができますが、冬には標高の低い土地に移動します。

本事業以前の英語解説文

なし

1131

No.15 Climbing Mount Kinugasa

<島原半島、長崎>

【施設名】お手軽トレッキングコース

【整備予定媒体】Web サイト

<http://www.unzen.org/about/guide.html>

できあがった英語解説文

Climbing Mount Kinugasa: A Gentle Slope and Superb View

The trailhead for the Mt. Kinugasa climb is located at Lake Shirakumo, a 20-minute walk from the town of Unzen Onsen. The path is a broad, mostly gentle slope that is very family friendly, winding its way through a beautiful natural forest redolent with surrounding birdsong. The summit is an 879-meter-high peak overlooking the quaint little town and the steaming hot spring “hells” that have helped make it famous. The trek to the top can be done in less than an hour. At one time, flocks of sheep had reduced all the foliage on the mountain to grassland, making it an ideal location for watching Tachibana Bay reflect the rays of the setting sun, and earning it the name “Sunset Hill.” Today, a wooden lookout deck serves the same purpose, and the sheep are nowhere to be seen. (A campsite and boat rental service are located at the trailhead next to the lake.)

上記解説文の仮訳（日本語訳）

衣笠山登山：なだらかな斜面と極上の眺め

衣笠山への登山口は、雲仙温泉町から歩いて 20 分の白雲池にあります。道は家族連れに非常に優しい、広く緩やかな坂となっており、鳥のさえずりに包まれた美しい自然林の中を進んでいきます。標高 879m の山頂からは古風な小さな町と、この町の知名度アップに一役買った、湯気を立てる温泉「地獄」が見下ろせます。山頂までの登山には 1 時間もかかりません。一時期は、ヤギが山頂の葉を食べ尽くしたことで山が草原と化し、橘湾に映る夕陽を拝む絶好のスポットとなったことで「サンセットヒル」として名を馳せました。今は木製の展望台が同じ役割を果たしていますが、ヤギはどこにも見当たりません。（池の隣の登山口にはキャンプ場とレンタルボートサービスがあります。）

本事業以前の英語解説文

なし

1132

No.16 Climbing Mount Kinugasa

<島原半島、長崎>

【施設名】お手軽トレッキングコース

【整備予定媒体】登山マップ

できあがった英語解説文

Mount Kinugasa Short Course

This family-friendly course can be trekked from the town center, or from the trailhead at Lake Shirakumo, a 20-minute walk. The trail, which takes less than an hour, features a broad, fairly gentle slope that winds up through an airy natural forest that is redolent with bird song. A wooden lookout deck at the summit adds another three meters to the 879-meter-high peak, and offers a magnificent panorama overlooking the quaint town and the clouds of steam from the hot springs that have made it famous, as well as the nearby golf course. At one time a century ago, flocks of grazing sheep had turned the forest into grasslands, leaving it perfect for distant views and earning it the name “Sunset Hill.” A campsite and boat-rental service are located at the trailhead next to the lake.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

衣笠山「ショートコース」

町を中心から、もしくは徒歩 20 分の白雲ノ池の登山口から歩ける、家族連れに優しいコースです。登山には 1 時間もかからず、鳥のさえずりに包まれた開放感のある自然林の中、広くて大方緩やかな斜面を進みます。標高 879m の山頂からさらに 3メートルの高さの木造の展望台からは、古風な町と、町の知名度アップに一役買った温泉から立ち上る湯煙、そして近隣のゴルフ場などのパノラマの絶景が眼下に広がります。かつて 100 年ほど前は、ヤギの群れが山頂の葉を食べ尽くしたことで森が草原と化し、遠くの景色を眺める絶好のスポットとなったことから「サンセットヒル」として名を馳せました。今は木製の展望台が同じ役割を果たしていますが、ヤギはどこにも見当たりません。池の隣の登山口にはキャンプ場とレンタルボートサービスがあります。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】お手軽トレッキングコース

【整備予定媒体】Web サイト

<http://www.unzen.org/about/guide.html>

できあがった英語解説文

Climbing Mount Takaiwa: *Torii* gates and “Rocky Hill”

The trailhead to the beginner-level climb up 881-meter-high Mt. Takaiwa is a 30-minute walk from town. From the azalea-filled Hobaru Azalea Garden, the trail rises slowly for a while through cedar forests. One stretch passes through a series of weather-worn *torii* gates, and the beams of sunlight breaking through the forest create quite an ethereal atmosphere. The trail steepens as it approaches the higher slopes, and craggy cliffs and massive rock outcroppings become more prevalent—hints of the reason this mountain has earned the name “Rocky Hill.” Like the other mountains in the area, Japanese dogwood trees grow everywhere, adding splashes of white to the forest with their June blossoms. A small shrine sits near the peak, where from ancient times farmers have come to pay their respects to the gods and pray for a good harvest.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

高岩山登山：鳥居と「ロッキーヒル」

標高 881m の高岩山を登る初級コースの登山口は、町から 30 分歩いたところにあります。登山道は、ツツジが繚乱する宝原園地からしばらくの間杉林の中をゆっくりと上っていきます。途中、風雨で傷んだ鳥居群をくぐりますが、ここでは森の中に差し込む太陽の光がなんととも幻想的な雰囲気醸し出します。坂道の上部に近づくにつれて登山道は陰しくなり、荒々しい崖や巨岩の露頭があちこちに出現し始め、この山が「ロッキーヒル」の名を得た理由が感じ取れます。地域の他の山と同様に、ここでも至るところにヤマボウシの木が生えており、6 月に花が咲くと森に白いアクセントを添えます。山頂の近くには、古代より農民が神々を拝み豊作祈願を行ってきた小さな神社があります。

本事業以前の英語解説文

なし

1134

No.18 Climbing Mount Takaiwa

<島原半島、長崎>

【施設名】お手軽トレッキングコース

【整備予定媒体】登山マップ

できあがった英語解説文

Mount Takaiwa Medium Course

The 30-minute walk from town to the trailhead leading to 881-meter-high Mt. Takaiwa passes the Kojigoku Onsen. It has been open since the first half of the eighteenth century (and is a great spot to relax on the return journey). The trailhead of this beginner-level trek is located at the Hobaru Azalea Garden, which is enveloped in blossoms from the beginning of May. From there, the trail rises slowly for a while through cedar forests, and one unforgettable stretch passes through a series of weather-worn *torii* gates. On a sunny day, the beams of sunlight breaking through the forest on the ancient wood pillars create quite an ethereal atmosphere. The trail steepens as it approaches the higher slopes, and craggy cliffs and massive rock outcroppings become more prevalent—hints of the reason this mountain also goes by the name “Rocky Hill.” A small shrine sits near the peak, where from ancient times farmers have come to pray for a good harvest.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

高岩山「ミドルコース」

標高 881m の高岩山に続く登山口まで町から 30 分歩く途中、小地獄温泉を通ります。ここは 18 世紀前半から開業しており、帰り道にリラックスするには絶好の場所でもあります。この初級ハイキングコースの登山口は、5 月初旬から花が咲き乱れる宝原ツツジ公園にあります。登山道はそこからしばらくの間、杉林の中をゆっくりと上っていきます。中でも、風雨で傷んだ鳥居群をくぐりぬける道は、心に残るスポットとなっています。晴れた日には、森を抜け、古代から残る鳥居の木柱に注ぐ太陽の光がなんと幻想的な雰囲気醸し出します。坂道の上部に近づくにつれて登山道は険しくなり、荒々しい崖や巨岩の露頭があちこちに出現し始め、この山が「ロッキーヒル」の名を得た理由が感じ取れます。山頂の近くには、古代より農民が豊作祈願を行ってきた小さな神社があります。

本事業以前の英語解説文

なし

1135

No.19 Unzen *Jigoku*

<島原半島、長崎>

【施設名】雲仙地獄

【整備予定媒体】Web サイト

<http://www.unzen.org/tourism/spot1.html>

できあがった英語解説文

Unzen *Jigoku*: Welcome to “Hell”

No one who visits Unzen can ignore the smell of sulfur in the air, the sound of gases and water escaping from the earth, and the billowing columns of steam twisted into swirling clouds by the wind. These emissions are proof that volcanic activity is still occurring not far beneath the earth’s surface. The areas where they occur are called *jigoku*, or “hell,” from references in Buddhism to a symbol of the suffering that evildoers will experience.

Heat from the depths of the earth

The “hells” offer a striking contrast to the lushly forested hills that ring the town; they are barren, pale but not colorless expanses of rock, from large boulders to sandy soil, where water and gases seem to surface from every fissure in the earth. Walkways pass close to the various “hells” and the points of interest: in some areas, gases escape from the earth in quiet gasps while in others they burst forth with loud, violent expulsions. The hydrogen sulfide gas, despite its strong sulfuric odor, is harmless at the levels found in the areas open to the public, but the steam can reach temperatures up to 120 degrees Celsius.

A part of local life

For the local people of Unzen, the “hells” are also the source of much of their livelihood, for the thermal energy and mineral properties of the water provide the town with the hot-spring baths that have attracted tourists for generations. But they are also places of beauty and an intimate part of their neighborhood. It is not unusual for someone to be heard saying to their family, “*Jigoku ni ittekimasu,*” or “I’ll be right back. I’m just going to hell.”

上記解説文の仮訳（日本語訳）

雲仙地獄：「地獄」へようこそ

雲仙に足を踏み入ると、空気中の硫黄の匂いや、地中から吹き出るガスや水の音、風で渦巻く湯煙の煙柱に誰も

が気づきます。ここでの放出活動は、火山活動が今でも地表からそう深くない場所で行われている証拠です。この現象が起こる地域は「地獄」と呼ばれ、仏教において悪行を行った者が受ける苦しみの象徴から来ています。

地中から放出される熱

この「地獄」は、町を囲む緑豊かな山々と印象的なコントラストを生み出しています。巨岩から砂土まで、色とりどりの霞んだ岩が点在する荒地が広がり、地面のいたる裂け目から水やガスが噴き出しているように見えます。遊歩道は、様々な「地獄」や見所の近くを通ります。ガスが静かな音を立て地面から漏れ出しているところもあれば、大きな音を上げて激しく噴き出しているところもあります。強い硫黄臭があるものの、一般人が入れるエリアの硫化水素ガスのレベルでは人体に害はありません。ただ、蒸気は 120℃もの高温にまで達することがあります。

生活の一部

「地獄」の水の持つ熱エネルギーやミネラル成分はこの地に温泉をもたらし、何世代にも渡って観光客を魅了してきました。そのため、これらの「地獄」は、地元の人々の生活基盤となっています。この「地獄」はまた、地域に根付いた美しい名所でもあります。この地では、家族に向かって「地獄に行ってきます」と言うことは決して珍しいことではありません。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】雲仙地獄

【整備予定媒体】パンフレット

できあがった英語解説文

Unzen *Jigoku*: Welcome to “Hell”

The first things you will notice in Unzen are the smell of sulfur in the air and the billowing columns of steam swirling in the air, proof that the mountain underneath is still alive with volcanic activity. They are called *jigoku*, or “hell,” a term that Buddhist teachings connect with man’s temporary destination after leading a life of evil. But for the local people of Unzen, who make their lives here, each area is a place of beauty and an intimate part of their neighborhood. They are also the source of much of their livelihood, for the thermal energy and mineral properties provide the town with the hot-spring baths that have attracted tourists for generations.

Though the hydrogen sulfide gas can wreak havoc on certain metals, it is harmless to humans and the mountain greenery at the levels found in the areas open to the public. In some places, gases and liquids escape from the earth in quiet gasps, while in others they burst forth in violent expulsions. There are walkways that pass by all of the major areas, and certain particular formations have been given names or have played a part in the town’s history. You’re required to stay on the walkways and observation points, since the steam from the hydrogen sulfide gas can reach temperatures of up to 120 degrees Celsius.

The walkways are open twenty-four hours a day, and for the fearless, a stroll through the “hells” after dark is highly recommended, when the moans and whistles and bubbling springs make for a very unusual, very eerie experience. (Don’t forget a flashlight.)

上記解説文の仮訳（日本語訳）

雲仙地獄：「地獄」へようこそ

雲仙に来てまず気づくことと言えば、空気中の硫黄の匂いと、もうもうと立ち上がる湯けむりの渦でしょう。これは今でも地中に眠る山が健在で火山活動が行われている証拠です。ここは、「邪な人生を送った者が一時的に行き着く場所」という仏教の教えと結びついた用語からとって、「地獄」と呼ばれています。しかし雲仙で暮らしを営む地元民にとっては、「地獄」はどれも地域に根付いた美しい場所です。また、「地獄」の熱エネルギーやミネラル成分はこの地に温泉をもたらし、何世代にも渡って観光客を魅了してきたことから、地元の人々の生活基盤となっています。

硫化水素ガスは特定の金属に大きな損傷を与え得るものですが、一般人が入れるエリアにおける濃度レベルでは、

人体や森の木々に害はありません。地獄には、ガスや水が静かな音を立て地面から漏れ出ているところもあれば、大きな音を上げて激しく噴き出しているところもあります。遊歩道は全主要エリアに設置されており、中でも独特な形の地層には名前が付けられていたり、町の歴史の一端を担っているものもあります。硫化水素ガスの蒸気は時に 120℃にまで達することがあるため、観光の際は遊歩道や展望所から出ないようにご注意ください。

遊歩道は 24 時間通行可能です。怖いもの知らずの方は是非、暗くなってから「地獄」散策を試みてください。うめき声やヒューっという音、温泉がブクブクと噴き出す音が聞こえる中、ぞっとするような非日常的な体験ができるはずです。（懐中電灯をお忘れなく。）

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】雲仙地獄

【整備予定媒体】Web サイト

<http://www.unzen.org/>

できあがった英語解説文

Hellish Tales: Exploring the *Jigoku*

Several clearly marked sites are connected with historical events or legendary tales that have been passed down over the years. “Oito’s Hell,” a greenish pool of boiling water, memorializes the tale of Oito, an adulteress who murdered her husband to be with her wealthy lover. When this spring erupted around the time of her execution, it was given its name as a warning that those who damage their households will go to hell. A similar site is called “Seishichi’s Hell,” named after a Christian who was executed for refusing to renounce his religion. And “Shrieking Hell” is surely one of the most spine-chilling spots—its gases escaping with such power that the sounds could be imagined as the shrieks and groans of the souls of the damned.

Martyrdom of the faithful

On the hill overlooking the barren landscape stands a cross and a memorial honoring Christian martyrs. More than thirty of them were tortured and executed here in the early seventeenth century after the shogunate, fearful of the spread of the religion and its ties to colonialism, cracked down on its believers. The oppression of Nagasaki and Shimabara Peninsula Christians is the inspiration behind *Silence*, the novel by renowned author Endo Shusaku (1923–1996) that was made into a film by Martin Scorsese.

A challenge in the dark

Other spots include a mini-volcano-like formation, and one area where visitors can remove their shoes and feel the heat from the earth on carefully placed stones—a real treat in the winter. But even in bright daylight, the sounds and sights of the “hells” can be eerie; in inclement weather or at night, strolling through the hells is a particularly unsettling though intriguing experience.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

地獄物語：地獄を散策

この地には、何年にも渡って語り継がれてきた歴史的な事件や伝説にまつわる場所がいくつかあり、はっきり示されています。緑がかった熱湯のたまり場「お糸地獄」は、裕福な愛人と一緒になるため夫を殺した不貞な女、お糸の伝説にまつわる場所です。この温泉はお糸の処刑と同時期に湧き上がったため、「家庭を崩壊させる者は地獄へ落ちる」という戒めとして、この名がつけられました。似たような場所に「清七地獄」があり、これは信仰を捨てることを拒絶し処刑されたキリシタンにちなんで名づけられました。また、「大叫喚地獄」が最も恐ろしいスポットの1つであることは、間違いありません。勢いよく噴き出すガスの音は、地獄に落ちた者の魂の叫びや呻き声のように聞こえます。

信者の殉教

この荒れ地を俯瞰する丘に、キリシタンの殉教者を祀った十字架と殉職碑があります。17世紀前半、キリスト教の広がりとその植民地主義との結びつきを危惧した幕府は、信者を厳しく取り締まりました。その結果、30人以上のキリシタンが拷問され、処刑されたのです。長崎と島原半島のキリシタン弾圧は、著名な作家である遠藤周作（1923～1996年）の小説『沈黙』に着想を与え、マーティン・スコセッシにより映画化されました。

暗闇での挑戦

他にも、プチ火山のような地形や、丁寧に配置された石の上で靴を脱いで地熱を体感できる、冬にはありがたいスポットがあります。昼間の明るい時でさえ、「地獄」の音や光景は不気味なものです。天気が悪い時や夜の地獄散策は一層不吉ですが、面白い体験ができるはず。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】雲仙地獄

【整備予定媒体】Web サイト

<http://www.unzen.org/>

できあがった英語解説文

Soaking It Up: Hot-Spring Bathing

The hells are the product of volcanic activity that has been going on under the area for millennia. Gases and underground water are heated by the magma and rise to the surface to escape from the earth as hot mud, water, or steam. The hot spring water used in the baths of the many hotels, traditional inns, and public bath facilities is heated in the hells. The acidity from the sulfur in the water has a sterilizing effect that is good for treating skin diseases, and is considered efficacious for muscle pain, fatigue, and overall health. An undebatable fact is that the hot baths are incredibly relaxing after a day on the move or trekking in the mountains. One of the public baths, the Kojigoku Onsen, is a charming, traditional building on the site of a bathhouse that opened in 1731, and like Unzen's other public facilities, has no restrictions on visitors with tattoos. Visitors are asked to follow traditional Japanese bathing practices, such as washing outside the bath.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

湯浴み：温泉

地獄は、数千年もの間この地域の下で続いている火山活動の産物です。ガスや地下水はマグマによって温められ、熱泥や熱湯、蒸気となって地表に上がってきます。ホテルや旅館の浴室、そして公衆浴場の多くに使われる温泉水は、この地獄で温められます。

温泉水に含まれる硫黄の酸性には殺菌効果があり、皮膚疾患の治癒に効きます。また、筋肉痛、疲労、健康全般にも良いとされています。温泉にはなんといってもリラックス効果があり、移動ばかりの1日や山登りの終わりに入ると一層癒されます。尚、伝統的で趣のある建物の小地獄温泉館は、1731年に開湯された公衆浴場です。雲仙にある他の公衆浴場と同様に、タワーのある方への入場制限はありません。浴槽の外で体を洗う等、利用者は日本の浴場におけるしきたりに従う必要があります。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】雲仙地獄

【整備予定媒体】Web サイト

<http://www.unzen.org/>

できあがった英語解説文

Life in Unzen: A Lot of Heaven and a Little Bit of “Hell”

Life in the midst of “hells” has its ups and downs, and anyone living here learns to deal with both the benefits and the disadvantages. Complex arrangements of pipes can be seen all over the hot spring fields, since they not only supply the hotels and public spas with bathwater, but are also used to heat mountain spring water that is piped to the hotels and circulated in a natural heating system. Water from the hot springs is also used in making the batter of *yusempei*, a tasty, crispy, not-too-sweet local version of the ubiquitous *senbei* rice crackers. *Onsen tamago*, eggs that are cooked in the steam gushing from the earth, are another popular snack. But while the sulfuric atmosphere is harmless, it is extremely corrosive, and people learn to deal with corroded concrete, car finishes tarnishing, metal parts such as water faucets rusting, and the lifespans of electrical appliances being considerably shortened. Locals soon learn that there are consequences to living in a heavenly location with its own “hells.”

上記解説文の仮訳（日本語訳）

雲仙での暮らし：天国づくしにちよっぴり「地獄」

「地獄」に囲まれた生活は楽あれば苦あり。この地で暮らす人々は、その恩恵とも不便とも上手に向き合う術を身に付けています。温泉地帯の至るところに複雑に張り巡らされた配管がありますが、この配管はホテルや公衆浴場用の水を引くためだけでなく、宿泊施設に送る山の湧き水を温め、これを自然の暖房システムを通して循環させるためにも使われています。また温泉水は、甘すぎずサクサクしておいしい地元の煎餅、湯せんぺいの生地を作るのにも使われています。地上から沸き立つ蒸気で調理された温泉卵もまた、人気のおやつとなっています。一方で、硫黄を含有する大気は、人体への害は無くとも強い腐食性があります。住民はコンクリートの腐食、車の変色、蛇口等の金属パーツの錆や、圧倒的に短い電化製品の寿命などの付き合い方を学びます。地元の人々は、この天国のような土地には「地獄」の顔もあり、その暮らしには代償が伴うことを思い知らされます。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】雲仙地獄

【整備予定媒体】Web サイト

<http://www.unzen.org/>

できあがった英語解説文

Unzen as a Religious Center: Spirituality in the Mountains

The mountains of Unzen have long held a special spiritual appeal. Kyushu's setting as the nearest point in Japan to the Asian continent meant that the island has often been the entry point for imported products and ideas, from pottery styles to religious thought. Buddhism made its way to Japan in the sixth century, and was introduced to the Unzen area by the monk Gyoki in 701, when he founded Manmyoji Temple. As in most areas of Japan, Buddhism's precepts and the pantheon of deities were accepted quite naturally and managed to coexist along with the indigenous nature worship that was developing into the Shinto religion. The closeness of the two religions is illustrated by the proximity of the places of worship in Unzen, the Shinto shrine being just across the road from the Buddhist temple.

Clash of cultures

When Christianity made its way to Kyushu in the mid-sixteenth century, it was also welcomed at first, and soon there was a large number of converts, including high-level officials on the Shimabara Peninsula. But unlike with Buddhism, it was not an easy melding of beliefs, and conflicts were soon the norm. Christians saw other religions' places and objects of worship—such as temples, shrines, and the stone statues of Buddhist deities—as sacrilegious and would disfigure or destroy them. The Christian daimyo Arima Harunobu ordered over forty large and small Shinto shrines and Buddhist temples completely destroyed. Converts were also encouraged to take Western names and to adopt Western culture. As the conversions increased, so did friction.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

宗教の中心地としての雲仙：山々の霊性

雲仙の山々は長い間、霊場として崇められてきました。日本でアジア大陸に最も近い場所に位置する九州は、陶器の様式から宗教的な考えまで、海外のモノや思想がもたらされる入口となっていました。仏教は6世紀に日本に伝わり、雲仙地域には僧侶の行基が701年に満明寺を建立した際に持ち込まれました。多くの日本の地域と同様に、仏教の教えや神々はこの地でごく自然に受け入れられ、のちの神道となった土着の自然崇拝ともうまく共存していました。雲

仙では仏教寺院のちょうど向かいに神社があるという場所の近さからも、この2つの宗教がいかに近接した存在であるかが見てとれます。

文化の衝突

キリスト教が16世紀半ばに九州に伝播した時も当初は歓迎され、島原半島の高官を含め、すぐに多数の転向者が現れました。しかし仏教とは違い、この信仰との共存は難しく、すぐに対立が日常化しました。キリシタンはしばしば、寺院や神社、石造の天部像など、他宗教で利用される祈りの場や物を冒瀆的と考え、それらを毀損・破壊しました。キリシタン大名の有馬晴信にいたっては、40以上もの大小の神社と寺院の完全破壊を命じています。また、キリスト教に転向した者は西洋の名前を持ち、生活に西洋文化を取り入れるよう促されました。転向者が増えるにつれ、対立も深刻化していったのです。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】雲仙地獄

【整備予定媒体】Web サイト

<http://www.unzen.org/>

できあがった英語解説文

Backlash: From Initial Acceptance to Total Ban

The surging population of Christians, particularly in Kyushu, gave life to suspicions among the rulers that the religion was a possible spearhead for colonialization, and by the end of the century, Christianity was no longer welcome. Christians, even regional lords, were persecuted and executed for not renouncing their faith. In 1614, the Tokugawa shogunate effectively banned the religion, demanding believers renounce their faith, and forcing the religion underground.

Between 1627 and 1630, some thirty-three believers in Unzen were tortured in the boiling hell waters in attempts to get them to renounce their faith. A cross monument on a hill overlooking the location where the torture is thought to have taken place memorializes their sacrifice. The oppression of Nagasaki and Shimabara Peninsula Christians is the inspiration behind *Silence*, the novel by renowned author Endo Shusaku (1923–1996), later made into a film by Martin Scorsese.

The last stand of a popular uprising

One of the last gasps of Christianity as a popular religion was the Shimabara Rebellion, an uprising of Catholic peasants, tradesmen, fishermen, and itinerant warriors that began on December 17, 1637. The former lord of the region was a Christian, so the Shimabara Peninsula had remained a religious stronghold. Partly an expression of anger at higher taxes, partly a reaction to persecution of Catholics, more than 20,000 rebels overran much of the area before holing up in Hara Castle on the southern coast of the peninsula. After a long siege by 120,000 soldiers of the Shogunate forces (including the master swordsman, Miyamoto Musashi), the rebels were routed on April 15, 1638. In the end, an estimated 20,000 rebels and their sympathizers, including the 16-year old leader Amakusa Shiro, were executed. The result of the rebellion was a stricter enforcement of the Christian ban and a more severe policy of national seclusion that was to last for more than two centuries.

Unzen Visitor Center

The Unzen Visitor Center, located in the town of Unzen Onsen, is stocked with information about the area and its

many attractions. This is where to go if you are interested in the science behind volcanic activity, the flora and fauna of the area, the history of Unzen, or if you need information on anything from hot-spring baths to hiking paths, campsites, or even just getting around the many “hells.” There are events, video displays, a diorama of the Shimabara Peninsula, a photo gallery, and free wi-fi and electrical outlets, as well as a rest area. Pamphlets and brochures in a number of languages are available free of charge. The annex across the road features a fascinating display of old travel brochures and photos of the foreign community dating from the late nineteenth century.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

反動：当初の歓迎から全面禁止へ

特に九州においては、キリシタンが急増したことにより、統治者の間でキリスト教が植民地化の皮切りなのではないかという疑念が生まれました。そして 16 世紀末には、キリスト教はもはや歓迎されなくなりました。信仰放棄を拒絶するキリシタンは、地域の大名であろうと迫害や処刑を受けたのです。そして 1614 年、江戸幕府はキリスト教を事実上禁止しました。幕府は信仰を棄てるよう迫り、キリスト教は闇の中へ葬られました。

雲仙では、1627 年から 1630 年にかけて 33 人のキリシタンが信仰を放棄するよう、地獄の熱湯による拷問を受けました。拷問が行われたとされる場所を俯瞰できる山には、キリシタンたちの犠牲を追悼する十字架と殉職碑が建てられています。長崎と島原半島のキリシタン弾圧は、著名な作家である遠藤周作（1923～1996 年）の小説『沈黙』に着想を与え、のちにマーティン・スコセッシにより映画化されました。

民衆蜂起による最後の抵抗

キリスト教が大衆宗教としてみせた最後の抵抗のひとつに、キリシタンの農民、商人、漁師、浪人の蜂起で 1637 年 12 月 17 日に始まった島原の乱があります。この地域の元大名がキリシタンであったことから、島原半島は依然としてキリスト教の拠点となっていました。重い年貢負担への怒りの現れであり、キリシタン迫害に対する反抗でもあったこの乱では、約 20,000 人もの一揆軍がこの地を制圧し、島原半島の南岸にあった原城に籠城しました。しかし、剣豪の宮本武蔵を含む 120,000 人の幕府討伐軍が仕掛けた長期の包囲攻撃により、一揆軍は 1638 年 4 月 15 日に敗北します。最終的には、16 歳の指導者を含む推定 20,000 人の反乱者やその支持者が処刑されました。この反乱の結果、キリスト教の弾圧はさらに強化され、2 世紀以上もの間続くこととなる一層厳格な国家政策、鎖国へと繋がりました。

雲仙ビジターセンター

雲仙温泉町にある雲仙ビジターセンターでは、この地域に関する情報や様々な観光地について案内しています。火山活動の裏側にある科学やこの地域の動植物、雲仙の歴史について知りたい方や、温泉やハイキングコース、キャンプ場についての情報が必要な方、また「地獄」巡りをするだけの方も、是非お立ち寄りください。イベントやビデオ展示、島原半島のジオラマ、フォトギャラリー、無料でご利用いただける Wi-Fi やコンセント、休憩場がございます。また、パンフレット

やチラシも多言語で無料にてご用意しております。向かいにある別館では、昔の観光チラシや、19 世紀後半に遡る外国人コミュニティの写真など、興味深い展示をご覧になれます。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】雲仙お山の情報館

【整備予定媒体】案内板

できあがった英語解説文

Portraits of Unzen: Historical Photographs from the Late 1800s and 1900s

We hope you enjoy this fascinating display on the walls of the Visitor Center, a photographic record of Unzen Onsen's long history as a popular destination for foreign visitors. From the early Meiji period (1868–1912), foreigners found Unzen's mountain location to be a cool escape from the summer heat. Traffic from Shanghai's International Settlement increased after a local newspaper introduced Unzen to its readers in 1890, and the beginning of a ferry service between Shanghai and Nagasaki further improved access. The visitors changed the life of Unzen, which soon saw the introduction of segregated bathing and Western-style hotels with beds. A golf course and tennis courts (both still in operation) were laid out by 1913, and the visitors even had their own newspaper. Eminent visitors, such as Helen Keller and Chiang Kai-Shek, made their way here, as did the Indian poet Rabindranath Tagore. While there is little detailed information about the people in these photos—both Japanese and foreigners—we think they offer a fascinating look at the social and cultural activities of the time.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

雲仙の歴史：1800年代後半、1900年代の写真

雲仙お山の情報館の壁に展示された素晴らしい写真の数々をお楽しみください。外国人観光客に人気の観光地、雲仙温泉の長い歴史を記録した写真コレクションです。明治時代（1868年～1912年）初期から、雲仙の山岳地は避暑地として外国人観光客に人気がありました。そして1890年に上海の新聞で雲仙が紹介され、上海と長崎を結ぶフェリーにより交通の便がさらに良くなると、上海共同租界からの観光客が増加。観光客により雲仙の生活にも変化が生じ、すぐに男女別の風呂やベッド付きの西洋式ホテルが登場しました。1913年までにはゴルフ場やテニスコート（両方現在も営業中）が作られ、観光客用の新聞さえありました。ヘレン・ケラーや蒋介石、インドの詩人ラビンドラナート・タゴールなどの有名人も雲仙を訪れています。この数々の写真に写っている日本人や外国人に関する詳しい情報はほとんどありませんが、当時の社会や文化的活動を垣間見ることのできる非常に興味深い展示になっていると思います。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】各種プログラム

【整備予定媒体】Web サイト

http://www.unzen.org/premium_night/

できあがった英語解説文

Unzen Premium Night: An Evening with the Stars

Several times throughout the year, the town of Unzen Onsen hosts a program in which local guides lead visitors on an after-hours visit deep into the National Park and up to Nita Pass. For this event, titled Unzen Premium Night, the gates of the winding Nita Pass road are opened and participants are bussed to the ropeway station for a ride in the gondolas up to the peak of Mt. Myoken. The night view from this 1,300-meter peak is astonishing when clear, encompassing the spread of lights from the entire peninsula below and the Milky Way and other constellations above. Even when the weather is not so cooperative, our guides have plenty of tricks up their sleeves to make the mountain visit a thrilling experience, regardless of the time of year. For availability, check with the tour desks at the hotel or at the visitor center.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

雲仙プレミアムナイト：星と過ごす夜

年に数回、雲仙温泉では、現地ガイドと一緒に国立公園に分け入り、仁田峠まで行く夜間のプログラムを実施しています。雲仙プレミアムナイトと名付けられたこのイベントでは、曲がりくねった仁田峠循環道路のゲートが開かれ、参加者はバスでロープウェイ駅まで移動しゴンドラで妙見岳の頂上まで登ります。天候の良い日に海拔 1,300m の頂上から見る夜景は息を呑む美しさで、眼下には半島全体の夜景が、頭上には天の川を始めとする星座が広がっています。天候が好ましくなくても、ガイドによる数々の工夫で、時期を問わずわくわくするような体験をお届けします。空き状況に関しては、ホテルのツアーデスクや雲仙お山の情報館にお問い合わせください。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】各種プログラム

【整備予定媒体】Web サイト

<http://www.unzen.org/blog/archives/956>

できあがった英語解説文

Night Eco-Tatsu: A Body- and Heart-Warming Experience

A special program organized by Unzen Onsen townspeople uses the heat from the hells to bring warmth to a very traditional Japanese activity. “Night Eco-tatsu” is held in a plaza in the center of the Kyuhachiman Jigoku, where the stone floor is continuously heated by the thermal activity of the hot springs.

In a traditional Japanese home, people keep warm in the winter by sitting around a low table in a tatami mat room. A heating element is put under the table frame, a heavy blanket or futon is placed on the frame and a table top is placed on that. Then everyone slides their feet under the futon to keep warm on the most bitter winter nights. The table set-up is called a *kotatsu*, and the Unzen planners have named the program using a pun based on the words “eco,” for ecology, and “*kotatsu*.”

Each Saturday night during the winter season, these low tables are set up on the warm stones, and visitors can enjoy the unique atmosphere of steaming hot springs and the open air while sipping tea or enjoying other refreshments. Reservations are accepted for two sittings each night, and the fee is ¥2,000 per person, ¥3,000 per couple (children under six are free of charge).

上記解説文の仮訳（日本語訳）

ナイトエコタツ：体も心も温まる体験

雲仙温泉の町民主催の特別プログラムでは、「地獄」の熱を利用した、日本的な暖かさを体験できます。「ナイトエコタツ」は旧八幡地獄の中心部に位置する広場にて開催されており、この広場の石畳は温泉の熱活動により絶えず温められています。

伝統的な日本家庭では、冬には畳の部屋で座卓の周りに座って暖を取ります。この座卓の下にはヒーターがあり、重たい毛布や布団で枠を覆い、机の台がその上に置かれます。そして皆で布団の下に脚を入れると、寒さの厳しい夜でも暖かく過ごせます。この机の様式はこたつと呼ばれており、雲仙のプログラムはエコロジーの「エコ」と「こたつ」をもじって「エコタツ」と名づけられました。

冬になると、毎週土曜の夜、温かい石の上にこたつが設置され、参加者はお茶をすすりお菓子をつまみながら、湯気上げる温泉や野外の非日常的な雰囲気を楽しむことができます。ご予約は一晚につき 2 席まで受け付けています。料金は 1 人 2,000 円、2 人で 3,000 円となっています（6 歳未満のお子様は無料）。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】山岳信仰・仏教関連史跡

【整備予定媒体】Web サイト

<http://unzen.org/about/history.html>

できあがった英語解説文

Unzen's Buddhist Heritage: The Koyasan of Western Japan

The history of Unzen's relationship with Buddhism began in the year 701, when the Buddhist monk Gyoki started a temple here, and named the mountain Unzen, using the characters for hot spring, usually read as "onsen." As a sacred mountain, it was off-limits to women, but the area flourished as a place of worship and a center for ascetic training by followers of Esoteric Buddhism. It became known as the "Koyasan" of western Japan, in reference to the famous monastic center in Wakayama. Manmyoji Temple, the one Gyoki began in Unzen so many years ago, is just off the town square. Inside the simple exterior is an impressive five-meter-tall wooden statue of a sitting Buddha built in 1914. It was repaired in 1960 and covered with five layers of pure gold leaf. If five layers seem an extravagance, it's a necessity in Unzen, as like so many things in this town of "hells," gold leaf is susceptible to rust from the sulfuric atmosphere.

A peaceful miniature pilgrimage

Beyond the temple bell tower is a hidden forest walk that is easily overlooked, but highly recommended. Beginning on the the grounds of the temple is a winding path lined with splendid stone statues of Buddhist deities. These weathered images represent the eighty-eight temples on the famous traditional pilgrimage route around the island of Shikoku, meant to free worshippers from eighty-eight evil desires. Instead of the weeks of trekking required to complete the real route, however, this one can be done in minutes. But take a moment to contemplate the many different expressions, from peaceful, meditative calm to fierce, and almost frightening facial features. A larger statue of the temple's founder Gyoki stands inconspicuously off the trail, as if silently watching over the temple he established so long ago.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

雲仙に残る仏教の遺産：西日本の高野山

雲仙と仏教の歴史は 701 年にまで遡ります。この年、仏僧の行基がこの地に寺院を建立し、通常「おんせん」と読まれる温泉の文字から取ってこの山を雲仙と名付けたのです。神聖な山として女人禁制とはなっていたものの、この地域は密教修行の中心地や信仰の場として栄えました。そして、和歌山県にある有名な密教の聖地に例え、雲仙は西日

本の「高野山」として知られるようになりました。大昔に行基が雲仙に建立した満明寺は、町の広場のすぐ近くにあります。シンプルな外装の建物の中には、1914年に造られた高さ5mの木造の仏像が鎮座しています。この仏像は1960年の修復時に5層の純金箔で覆われました。5層の金箔はやりすぎだと思うかもしれませんが、この「地獄」の町雲仙において、金箔は他のものと同様硫黄を含んだ大気の影響で錆びやすいため、これは欠かせない対策なのです。

穏やかな小巡礼

満明寺の鐘楼堂の向こうには森の歩道が隠れています。見過ごされがちですが、大変おすすめです。寺院の敷地を抜けると、曲がりくねった小道に立派な石造りの天部像が並んでいます。風雨にさらされた像は、四国の由緒ある有名巡礼ルートでまわる88の寺院を表しており、これらの寺院は88の煩惱から参拝者を解放することを目的としています。何週間もかけて実際の巡礼ルートをまわらなくても、ここなら数分で巡礼が可能です。でも是非、天部像の豊かな表情をじっくりとご覧ください。穏やかで瞑想しているように落ち着いたものから、恐ろしいと言ってもいいような険しい顔の特徴をもつものまであります。少し道から外れたところには、寺院の創立者である行基の大きな像が、まるで自分が大昔に建てた寺を静かに見守るかのようにひっそりと立っています。

本事業以前の英語解説文

なし

長崎市多言語解説協議会

1146

No.1 Main Screen, The Shitsu Aid Center, Nagasaki

<長崎市、長崎>

【場所】旧出津救助院
【整備予定媒体】タッチパネル式案内板

できあがった英語解説文

The Aid Center

Background

Founder: Father de Rotz

Introduction of the Various Facilities of the Aid Center

Vocational Training Center

Food Processing

Textiles

Faith and Life

Relaying the Faith

Following in the Footsteps of Father de Rotz: Clerics from Sotome

“Ave Maria Society” Order: Passing Philanthropy on to the Present

Sightseeing Guide: Places Connected with Father de Rotz and the Christians

Value of the Aid Center as an Important Cultural Property

Vocational Training Center

Macaroni Factory

上記解説文の仮訳（日本語訳）

救助院について

設立の背景

設立者ド・ロ神父

救助院の各施設の紹介

授産場について

食品加工

繊維関連

信仰と生活

信仰の精神をつなぐ

ド・ロ神父の精神を継ぐ外海出身の聖職者たち

愛の事業を今に継ぐ「お告げの MARIA 修造会」

～ド・ロ神父とキリシタンのゆかりの地を訪ねる～ 周辺観光ガイド

救助院の文化財としての価値について

授産場

マカロニ工場

本事業以前の英語解説文

なし

1147

No.2 Background, The Shitsu Aid Center, Nagasaki

<長崎市、長崎>

【場所】旧出津救助院

【整備予定媒体】タッチパネル式案内板

できあがった英語解説文

The Aid Center

Background and Establishment: The History of Nagasaki and Christians from Sotome

The Mission (1549)

Development (1571-)

Persecution (1587-)

In Hiding (1657-)

Resettling (1773-)

Revival (1865-)

Establishment (1879-)

上記解説文の仮訳（日本語訳）

救助院について

設立の背景・長崎と外海のキリシタンの歴史

・布教(1549年～)

・発展(1571年～)

・禁教(1587年～)

・潜伏(1657年～)

・移住(1773年～)

・復活(1865年～)

・設立(1879年～)

本事業以前の英語解説文

なし

1148

No.3 Background (The Mission), The Shitsu Aid Center, Nagasaki

<長崎市、長崎>

【場所】旧出津救助院
【整備予定媒体】タッチパネル式案内板

できあがった英語解説文

The Mission (1549-)

The Arrival of Christianity in Japan

Statue of Saint Francis Xavier (Kobe Municipal Museum)

Portrait of Omura Sumitada (Nagasaki Museum of History and Culture)

In 1548 in Malacca (present-day Philippines), the Jesuit priest Francis Xavier (1506–1552), who had been sent by the Pope as a missionary, set off to Japan with two other Spanish Jesuits.

In 1549, Xavier arrived in Kagoshima in Kyushu, Japan, but succeeded in converting only a small number of people there. However, he was slightly more successful in 1550 in Hirado, Nagasaki, where the religion was received more favorably as a result of the influence of Portuguese traders who had also settled there.

Two years after Xavier's departure, additional Jesuit missionaries arrived in Kyushu and converted around 4,000 Japanese people. An acceleration in the rise of Japanese Christians, however, came when three local rulers were baptized. One of these rulers was Omura Sumitada (1533–1587). He is known as the first Christian ruler in Japan. These rulers not only showed an interest in the practices and teachings of Roman Catholicism, but also understood the importance of religious ties with the Jesuits for Portuguese-Japanese trade relations, which provided them with European firearms and Chinese silk.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

布教(1549年～)

日本へのキリスト教の伝来

聖フランシスコ・ザビエル像(神戸市立博物館蔵)

日本殉教聖庫「大村純忠の図」(長崎歴史文化博物館蔵)

1548年、マラッカ（現在のフィリピン）において、ローマ法王によって宣教師として派遣されていたイエズス会の司祭フランシスコ・ザビエルは、イエズス会の二人のスペイン人と共に日本に向かいました。

1549年、ザビエルは九州の鹿児島に到着しましたが、布教はあまり進みませんでした。ただし、ポルトガルからの商人がすでに滞在していた長崎の平戸では、比較的良い成果を上げることができました。

ザビエルが去ってから二年後、イエズス会からの増援が九州に訪れ、4000人あまりの日本人を改宗させました。キリシタン大名の台頭は、この地域の権力者の洗礼によって始まりました。そのうちの一人が大村純忠です。彼は日本初のキリシタン大名でした。彼らは、ローマ・カトリックの教えや習慣に興味を示していたと同時に、中国の絹やヨーロッパの武器などの、日本とポルトガルの貿易に置ける、イエズス会との宗教的な結びつきの重要性を理解していました。

本事業以前の英語解説文

なし

1149

No.4 Background (Development), The Shitsu Aid Center, Nagasaki

<長崎市、長崎>

【場所】旧出津救助院

【整備予定媒体】タッチパネル式案内板

できあがった英語解説文

Development (1571-)

The Explosive Growth of Christianity in Nagasaki

Portrait of the Tensho Embassy (Kyoto University Library)

The first local ruler who converted to Christianity was Omura Sumitada (1533-1587), who controlled the Western part of what is now Nagasaki prefecture. Sumitada knew of the significant influence of the Jesuits on Portuguese-Japanese trade and so assigned the port of Yokoseura to the Jesuits. After that, the port of trade with Portugal was switched to Fukuda in 1565, and then in 1571 to the prosperous port of Nagasaki itself. As a result of Sumitada's offer of the port of Nagasaki to the Jesuits, it eventually became the most important harbor in Japan for international trade.

Around 60,000 Christians lived in Nagasaki during Sumitada's reign. There were so many churches constructed that it was referred to as Little Rome. In 1582, Sumitada and other Christian rulers sponsored the first Japanese embassy to Europe under which four young men were sent to Rome to meet the Pope and King Philip II of Spain.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

発展(1571年～)

長崎でのキリスト教の広まり

天正遣欧使節団肖像画(京都大学附属図書館蔵)

最初のキリシタン大名、大村純忠は現在の長崎の西部を統治していました。純忠は日葡貿易の重要性を理解していたため、イエズス会に横瀬浦の利用を許しました。その後 1565 年に福田へと港を移し、1571 年にポルトガルとの貿易港として長崎が開港しました。純忠はより繁栄していた長崎の港をイエズス会に寄進し、やがて長崎は、日本の国際貿易における最も重要な港となりました。

純忠の領内にはおよそ 6 万人のキリシタンが住んでいたと言われ、多くの教会も建てられたため、「小ローマ」と呼ばれました。1582年、純忠等は日本で初めての遣欧使節として、四人の少年たちをローマ教皇とスペインの王、フェリペ 2 世のもとに赴く旅へと向かわせました。

本事業以前の英語解説文

なし

1150

No. 5 Background (Persecution), The Shitsu Aid Center, Nagasaki

<長崎市、長崎>

【場所】旧出津救助院

【整備予定媒体】タッチパネル式案内板

できあがった英語解説文

Persecution (1587–)

The Expulsion of Christianity from Japan

Painting of the Twenty-Six Martyrs of Japan (Oura Church)

Fumie (Sotome Museum of History and Folklore)

Christianity was initially embraced by Japan's unifier, Toyotomi Hideyoshi (1537–1598). However, this favorable treatment did not continue for long. For example, in 1597, twenty-six Japanese and foreign Christians were taken from Kyoto and crucified at Nishizaka Hill in Nagasaki.

Under the succeeding Tokugawa shogunate Christian persecutions occurred only sporadically at first. A law forbidding Christianity was decreed in 1614, and the practice of *fumi-e* (in which suspected Christians were forced to step on Christian icons to show they were non-followers) was implemented in 1629. If a suspected Christian refused to step on the icon, he would be tortured until he renounced his faith.

Christianity in Japan received its final blow in 1637 when 37,000 peasants, including many Christians, started an uprising in Shimabara. The uprising convinced the Tokugawa regime that Christianity was a subversive faith, and the event led to the complete expulsion of all Europeans. However, the Dutch East India Company was allowed to continue to operate from a small island named Dejima in Nagasaki port for trade purposes.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

禁教(1587年～)

日本でのキリシタン弾圧

日本 26 殉教者の油絵(大浦天主堂蔵) 踏み絵(外海歴史民俗資料館蔵)

伝来した当初、キリスト教は天下統一を果たした豊臣秀吉によって受け入れられていました。しかし、この好意的な態度は長くは続きませんでした。1597年には、26人の日本人と外国人を含むキリシタンたちが捕らえられ、京都から長崎へ連れてこられ、長崎の西坂の丘において磔の刑に処されました。

徳川幕府が発足した直後には、キリスト教への迫害は散発的にしか起こりませんでした。ただし、1614年にキリスト教禁止令が発布され、1629年には踏み絵（キリスト教を信仰していないことを証明するためにキリスト教の聖像画を踏

ませる行為) が実施されました。嫌疑のかかったキリスト教徒が踏み絵を拒否した場合、信仰を放棄するまで拷問を受けさせられました。

1637年に、多くのキリシタンを含む37,000人が島原で起こした一揆は、日本におけるキリスト教への最終的な打撃となりました。この一揆の後、徳川幕府はキリスト教を反政府的な宗教だとみなし、これがヨーロッパ人の完全な排斥へとつながりました。しかし、オランダ東インド会社は、貿易のみを目的とすることで、長崎港の小さな島、出島で活動を続けることを許されました。

本事業以前の英語解説文

なし

1151

No.6 Background (In Hiding), The Shitsu Aid Center, Nagasaki

<長崎市、長崎>

【場所】旧出津救助院

【整備予定媒体】タッチパネル式案内板

できあがった英語解説文

In Hiding (1657-)

Secret Practices and Bastian's Prophecies

St. Mary of the Snows (Twenty-Six Martyrs Museum)

Bastian's Christian Calendar (Sotome Museum of History and Folklore)

Maria Kannon Statue (Sotome Museum of History and Folklore)

In the mid-seventeenth century, Japanese Christians started to practice their faith in secrecy. In Sotome, which includes the two villages of Kurosaki and Shitsu, the teachings of two people in particular came to form the central part of Christian thought and practices. The first was San Juan, a Portuguese missionary steeped in legend. The second, Bastian, was a gatekeeper of a Buddhist temple born in the south of Nagasaki who became San Juan's disciple. During the 1650s, at a time when persecution was fierce, these two missionaries traveled together to hidden Christian communities.

Bastian transmitted four prophecies before his death. Thereafter, throughout their 250 years of concealment, the Christians of Sotome firmly hung onto the prophecies of Bastian that foretold better times.

Bastian's Four Prophecies

The first forecasted that after seven generations, those reckoned as Bastian's children would have their souls saved from distress.

The second predicted that confessors would arrive in black ships after which everyone would be able to confess every week.

The third described a time when the hidden Christians would no longer need to hide but would be able to openly sing Christian hymns.

Finally, the fourth conveyed that when Christians meet unbelievers on the road, the unbelievers would give way to them.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

潜伏(1657年～)

バスチヤンの伝説と、潜伏して信仰を守り伝えたキリシタンたち

雪のサンタマリア(日本二十六聖人記念館蔵)

バスチャンの日繰り(外海歴史民俗資料館蔵)

マリア観音像(外海歴史民俗資料館蔵)

17世紀中盤、日本のキリスト教徒たちは、潜伏しながら信仰を続けました。黒崎や出津の村を含む外海では、二人の人物の教えがキリスト教の思想や慣例の中心となっていました。一人目の人物は数多くの伝説を残したポルトガル人宣教師サン・ジワン神父でした。二人目の人物は、元は長崎南部の仏教の寺の門番を勤めており、その後サン・ジワンの弟子となった日本人伝道士のバスチャンでした。彼ら二人は、1650年代、キリスト教徒への弾圧が激しかった時代に、隠れキリシタンたちのコミュニティーへ訪問するなどしました。

バスチャンは死の前に四つの予言を残しました。鎖国が行われていた250年間、外海のキリスト教徒たちは、再び自由にキリスト教を信仰できる未来についてバスチャンの予言に希望をかけて密かに信仰を守り続けていました。

バスチャンの四つの予言

1. みんな七代までわが子とする。
2. その後はコンヘソーロ（告白を聞く神父）が大きな黒船でやってきて、毎週でもコンビサン（告白）ができるようになる。
3. どこでも大声でキリシタンの歌を歌って歩けるようになる。
4. 道で異教徒に出会って、相手が道をゆずるようになる。

本事業以前の英語解説文

なし

1152

No.7 Background (Resettling), The Shitsu Aid Center, Nagasaki

<長崎市、長崎>

【場所】旧出津救助院

【整備予定媒体】タッチパネル式案内板

できあがった英語解説文

Resettling (1773-)

Migration to the Goto Islands

Kashiragashima Church (The easternmost church in the Goto Islands, located in Shinkamigoto-cho)

Maria Kannon Statue (Found at the Goto Islands, Sotome Museum of History and Folklore collections)

In the late eighteenth century, many people migrated from Sotome to the Goto Islands. Conditions were so severe for farmers in Sotome that, in order to survive, the ruler of the domain ordered each family to kill all but the eldest son. Unable to comply due to their Christian faith, many families moved to the Goto Islands where they were welcomed due to the lack of indigenous laborers.

The peak of this migration was in 1797 when approximately 3,000 people resettled on the Islands. However, life was far from easy there, too. The land was barren, just like in Sotome, and the people did not have what to eat. An old song describes the circumstances that the migrants faced: "Goto seems like paradise, but once you live there it's hell."

上記解説文の仮訳（日本語訳）

移住(1773年～)

「五島」への移住

五島の最東端にある頭ヶ島天主堂(新上五島町)

五島で見つかったマリア観音像(外海歴史民俗資料館蔵)

18世紀後半、多くの人々は外海から五島列島へと移住しました。外海は狭い土地に人が多く住み、農家の生活は貧しく、藩から長男以外の子供は殺せという命令が出されるほどでした。キリスト教の教えからこの命令に従うことができなかった多くの潜伏キリシタンの家族は、労働者人口が少なかった五島に渡り、歓迎されました。この移住は、1797年ごろにピークを迎え、この頃には3000人ほどが五島に移り住みました。ただし、五島にも外海のように土地に恵まれない場所があり、食べ物不足することもありました。その状況は、「五島は楽園のようだが、住んでみたら地獄」、と古い歌としても表されていました。

本事業以前の英語解説文

なし

1153

No.8 Background (Revival), The Shitsu Aid Center, Nagasaki

<長崎市、長崎>

【場所】旧出津救助院

【整備予定媒体】タッチパネル式案内板

できあがった英語解説文

Revival (1865–)

The Discovery of Hidden Christians in Nagasaki

A Relief of the Discovery of Christians (Oura Church)

St. Mary Statue (Oura Church)

Father Petitjean

In 1854, after a period of more than 200 years, the trade and travel restrictions forbidding foreigners to live in Japan came to an end. Trade treaties with the United States, Holland, England, Russia, and France were made in 1858, establishing Nagasaki port as one of the free trade ports in Japan. These treaties also allowed foreigners to reside within the port area. Among the many foreigners who settled in Japan was the French Roman Catholic priest Bernard Thaddée Petitjean (1829–1884), who took up residence in Nagasaki in 1863. There he contributed to the establishment of the Oura Church. Initially, the cathedral was used only by French Catholics, although some Japanese people came to visit the “barbarian temple” out of curiosity. However, soon after its opening in 1865, Petitjean met some villagers from nearby Urakami who revealed they were themselves hidden Christians.

As the villagers grew in confidence in the practice of their faith (for example, refusing to participate in Buddhist funeral practices), persecutions increased. One such large-scale persecution in Urakami led to the exile of 3,394 Japanese Christians. Only in 1873, mainly due to the heavy protests of Western countries, was the ban on Christianity lifted and the persecutions ended. After the abolition of the ban, it is thought that many Christians in hiding began to participate in the Catholic Church again, whereas others kept practicing the traditions of their ancestors.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

復活(1865年～)

長崎での信徒発見

信徒発見のレリーフ(大浦天主堂蔵)

サンタマリア像(大浦天主堂蔵)

プチジャン神父

1854年、200年以上の年月を経て、外国人の日本への貿易および来航の禁止が終わりを迎えました。1858年には、アメリカ・オランダ・イギリス・ロシア・フランスと貿易に関する条約が結ばれ、長崎は自由貿易港の一つとなりました。

そして、長崎に外国人に留置が設置されました。日本に定住した数多くの外国人の一人には、フランス人のローマ・カトリックの神父で、1863年に長崎に居を構えたベルナルド・タデー・プティジャンがいました。長崎で彼は、大浦天主堂の建築に貢献をしました。当初、天主堂は、フランス人のカトリック教徒に利用されていましたが、南蛮寺を見たいという好奇心旺盛な少数の日本人が訪れることもありました。天主堂が1865年に完成して間もなくして、キリシタンである浦上の村民が訪れ、プチジャンに自身がキリシタンであることを告白しました。

村民は宣教師たちの存在に力をもらい、仏教の葬式の慣例に従うことを拒否するなど、自分たちの信仰に確信を深めてきました。それとともにまだ禁教下の中、彼らへの迫害も増えていきました。浦上に置ける大きな迫害のうちの一つは、結果的に3394人の日本人キリスト教徒を流罪に処しました。西洋諸国からの非難によって、1873年に、ようやくキリスト教への禁止令は撤廃され迫害も終わりを告げました。禁止令の撤廃ののち、多くの隠れキリシタンたちは、カトリック教会での信仰を再び始めましたが。その一方で、先祖から受け継がれて来た伝統を引き続き信仰する人々もいました。

本事業以前の英語解説文

なし

1154

No.9 Background (Establishment), The Shitsu Aid Center, Nagasaki

<長崎市、長崎>

【場所】旧出津救助院

【整備予定媒体】タッチパネル式案内板

できあがった英語解説文

Establishment of an Aid Center (1879–)

Father de Rotz arrives in Sotome

The Aid Center

Uniformed Women of the Aid Center

Father de Rotz (age 38)

In 1879, the French missionary Marc Marie de Rotz (1840–1914) was assigned Head Priest of Sotome by Father Petitjean (1829–1884). In 1883, concerned about the poor living conditions of the farmers, de Rotz established the Shitsu Aid Center using money borrowed from his family. The objective of the Aid Center was to teach women to be independent and to provide for themselves. It was used for the production of pasta, Japanese somen noodles, and textiles among other things. In addition, the women learned about Christianity, reading and writing, mathematics, agriculture, flour milling, and bread making. The Center gradually expanded through the 1880s to include a fishing-net workshop, a nursery school, and a medical center. In addition to the Aid Center, Father de Rotz established churches, private schools, farms, and many other facilities in the surrounding areas. After his death in 1914, the Aid Center developed further and became a convent for women. However, in the four decades of its existence, many women had benefited from its facilities and had become independent, realizing Father de Rotz's objectives.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

設立(1879年～)

ド・ロ神父が外海に赴任

当時の救助院周辺

救助院の制服を着た女性たち

38歳のド・ロ神父

1879年、フランス人宣教師、マルク・マリー・ド・ロが、プチジャン神父によって、外海の主任司祭に任命されました。1883年、農民たちの貧しい暮らしを懸念したド・ロは、私財を用いて、出津救助院を設立しました。救助院の目的は、女性の自立する力をつけさせるというものでした。救助院では、パスタ、日本の素麺、織物の製造などが行われました。また、女性たちはキリスト教や読み書き、算数、農業、漁業、製粉、またパン作りなどについて学びました。救助院の規模はだんだんと拡大し、1880年代には、漁網の製作所や、託児所、診察所なども含むようになりました。救助院

の他にも、ド・ロ神父は教会や、私立学校、農場などの多くの施設を近隣の地域に立ち上げました。1914年の彼の死後、次第に発展して、女性のための修道院へと姿を変えました。救助院のおかげで、40年間ほどの間に、多くの女性が自立をすることができ、ド・ロ神父の目的は達成されました。

本事業以前の英語解説文

なし

1155

No.10 Father de Rotz, The Shitsu Aid Center, Nagasaki

<長崎市、長崎>

【場所】旧出津救助院

【整備予定媒体】タッチパネル式案内板

できあがった英語解説文

Father de Rotz

A Brief Biography

Activities at the Center

(from top left, left to right & top to bottom)

- ・ Evangelical Mission
- ・ Medical Aid
- ・ Relief Work
- ・ Education
- ・ Farming
- ・ Engineering Projects

Associates

- ・ Father Petitjean
- ・ Iwanaga Maki
- ・ Nakamura Kinzo
- ・ Oishi Shige
- ・ Honda Toshiiku and Nagata Kaname
- ・ Tetsukawa Yosuke

上記解説文の仮訳（日本語訳）

家族と生い立ち(略伝)

多彩な活動

- ・信仰・布教
- ・医療活動
- ・福祉
- ・教育
- ・農業
- ・建築・土木

協力者たち

- ・プチジャン神父
- ・岩永マキ
- ・中村近蔵
- ・大石シゲ
- ・本田俊育・永田要
- ・鉄川与助

本事業以前の英語解説文

なし

1156,1157

Nos.11, 12 Father de Rotz, The Shitsu Aid Center, Nagasaki

<長崎市、長崎>

【場所】旧出津救助院

【整備予定媒体】タッチパネル式案内板

できあがった英語解説文

Father de Rotz

A brief biography

Marc Marie de Rotz (1840–1914) was born the second son of a French aristocratic family in 1840. After graduating from the theological Bayeux Seminary in 1865, he briefly worked as an assistant priest. One year later he joined the Paris Foreign Missions Society to leave for the East as a missionary.

After running a lithography office for 10 years at Oura Church and working in Yokohama, he was appointed head priest at Sotome. Here he devoted himself to the people of Sotome, establishing the Shitsu Aid Center and many other facilities where he could use his expertise in construction work, medicine, farming, and food production acquired in France.

In total he invested around 240,000 francs, sent from his parents in the Aid Center. After founding two churches, improving roads, and offering medical aid for the people of Sotome, de Rotz passed away at 74 years of age. He was buried in the Shitsu Public Cemetery, which he had designed and constructed himself. Fully dedicated to his projects in Shitsu, de Rotz never traveled back to France.

1840 Born in Vaux-sur-Aure in the Calvados Department in Normandy, France

1865 Graduated from Bayeux Seminary and ordained as a priest

1866 Becomes Assistant Priest at Julian Church

1867 Joins the Paris Foreign Missions Society

1868 Arrives in Nagasaki. Establishes lithography office at Oura Church

1871 Transferred to Yokohama, where he works as a chaplain at the chapel of Yokosuka shipyard and operates a lithography office

1873–1879 Assigned Priest of Oura Church. Runs a printing business

1875 Leads the construction of Oura Seminary

1879 Moves to Sotome and becomes Head Priest of Shitsu Church

1881 Sets up Youth Education Center

1882 Leads the construction of Shitsu Church

1883 Establishes the Shitsu Aid Center. Production of somen (noodles) and bread, along with the textile business, starts. Also establishes a citadel.

1884 Cultivates fields in the Mount Hendake. Engages in relief work of famine.

1885 Sets up a sardine net workshop, nursery school, and a mill for grinding flour by water wheel in Watase river in Makino. Also constructs a sea wall in Toishizaki and operates a pharmacy for the treatment of typhoid during an epidemic. The construction of a sardine net workshop is completed.

1886 Assists the residents of Himosashi in their move to cultivate the Tabira and Hirado area.

1887 Purchases land in Takematsu-go, Omura for relief of the poor

1891 Organizes a youth relief corps during an outbreak of dysentery

1893 Leads the construction of Ono Church

1895 Reconstruction and improvement of the prefectural highways, providing food and wages for impoverished villagers suffering from a drought

1896 Expansion of Shitsu Church. (Second phase, from 1893 to 1896)

1898 Establishes a public cemetery in Nomichi, Shitsu

1899 Construction of a macaroni factory is completed

1901 Set up farms and a tea plantation in the mountains of Hendake to promote farming

1904 Renovates the mill into the aid center

1910 The Aid Center is renamed “Shifu Bokusha.” Develops and supervises the construction of the Archbishop’s residence at Oura, Nagasaki

1914 Passes away on November 7 in Minamiyamate, Nagasaki at 74 years old. Buried at the public cemetery (present-day Shitsu Public Cemetery) in Nomichi, Shitsu.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

家族と生い立ち（略伝）

マルク・マリー・ド・ロは、フランスの貴族の家の次男として、1840年に生まれました。彼は、バイユ大神学校を卒業後、しばらくの間助任司祭として働いていました。それから1年後、彼はパリ外国宣教会に入会し、東へと宣教師として旅立ちました。

彼は、10年間、大浦天主堂の石版印刷所と横浜で働いたあと、外海の主任司祭に任命されました。そこで彼は、フランスで学んだ建設、医学、農業、食料生産などの技術を生かした旧出津救助院などの施設を設立し、外海の人々のために尽くしました。

彼は、日本に来る際、両親から贈られた約240000フランを投資し、2つの教会を建設し、道路を直し、外海の人々に医療援助を行ったあと、ド・ロは74歳でなくなりました。彼は、自ら設計し建造した出津共同墓地に埋葬されました。出津での活動に尽力したド・ロは、フランスに帰ることはありませんでした。

マルコ・マリー・ド・ロ神父 略伝

1840年 3月26日フランス・カルバドス県バイユ郡ヴォスロワール村に生まれる。

1865年 バイユの神学校を卒業(司祭叙階)。

1866年 カン市聖ジュリアン教会の助任司祭となり、福祉活動を行う。

1867年 パリ外国宣教会に入会。

1868年 長崎に上陸、大浦天主堂に石版印刷所を設ける。

1871年 横浜に転籍、横浜造船所の小聖堂チャプレンを兼務し、石版印刷所を設ける。

1873年 長崎に戻って大浦天主堂付き司祭となり、印刷事業をはじめめる。

1874年 浦上で赤痢の救護にあたる。羅典神学校建設着工。

1875年 羅典神学校完成。

1878年 「オラシヨ 並ニ ラシヘ」を印刷。

1879年 外海に主任司祭として赴任。出津に聖ヨゼフ会を設立。

1881年 出津教会、授産場建設着工。青年教育所を開設。

1882年 出津教会完成。

1883年 救助院を設立。授産場が完成。素麺・パンの製造、製糸、機織りなどの授産事業を本格的に始める。伝道所も開設。

1884年 西出津の変岳裏に野原二町歩を購入、開拓をはじめめる。

飢餓による貧民救済を開始。

1885年 診療所、薬局を開設(外海地方に腸チフス流行)。牧野の渡瀬川に水車による製粉工場を建設。砥石崎に防波堤を作る。鰯網工場完成。

1886年 田平、平戸への紐光の開拓移住に尽力。鰯網工場を保育園とする。

1887年 大村竹松郷に貧民救済のための土地を購入。

1891年 赤痢が発生。避病舎を設置し、青年救護隊を結成。

1893年 大野教会を建設。

1895年 県道改修工事を行い、飢餓に苦しむ村民に食料・労賃を与える。

1896年 出津教会増築(第2期/93~96年)

1898年 出津の野道に共同墓地を造成。

1899年 マカロニ工場完成。

1901年 変岳(大平)に作業所を設け、茶園を開いて農業の振興に努める。

1904年 製粉工場を救助院へ移築。

1909年 出津教会、玄関部、鐘塔の増築(第3期)

1910年 救助院を至風木舎と改名。長崎大浦天司教館の設計・建築監督を行う。

1911年 養生のため出津より大浦司教館に転任。

1914年 11月7日長崎南山手で帰天(逝去)、野道の墓(現出津共同墓地)に葬られる。

本事業以前の英語解説文

なし

【場所】旧出津救助院

【整備予定媒体】タッチパネル式案内板

できあがった英語解説文

Evangelical Mission (1)

The Transmission of Christian Teachings through Print

Lithograph Supervised by Father de Rotz: “Salvation of the Soul in Purgatory”

Engraving Block for “Salvation of the Soul in Purgatory” (the former Latin Seminary)

Lithograph Supervised by Father de Rotz: “The Last Judgement and Resurrection of Humanity”

Lithograph Supervised by Father de Rotz: “Saint Mary” (the former Latin Seminary)

Like the Jesuits, who had established a Gutenberg press in late sixteenth-century Japan, missionaries such as Bernard Petitjean (1829–1884) and Marc Marie de Rotz (1840–1914) understood the importance of print in the propagation of religion. Like their Jesuit predecessors, they sought to educate the people of Nagasaki about Christianity with the help of books and images. De Rotz had studied printing technology in France and was sent to Oura Church in 1868 to start a printing office there. The moralizing publications of the Oura printing office were produced in easy to understand texts, making them accessible to many people. Their purpose was to transmit basic Christian knowledge and help people memorize prayers, while the images served as instructional materials to explain the Christian doctrine.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

信仰布教①

印刷技術を用いた布教

ド・ロ版大木版画「煉獄の靈魂の救い」

「煉獄の靈魂の救い」の版木(旧羅典神学校蔵)

ド・ロ版大木版画「公審判と人類の復活」

ド・ロ版大木版画「サンタマリア」(旧羅典神学校蔵)

ベルナルド・プチジャンやマルク・マリー・ド・ロなどの宣教師は、16世紀後半にグーテンベルグの活版印刷を日本に定着させたイエズス会と同じように、布教における宗教書印刷の重要性を理解していました。イエズス会の前任者たちと同じように、彼らは本や版画を用いて長崎の人々に、キリスト教について教えようとしていました。ド・ロはフランスで印刷技術を学び、1868年に大浦天主堂に印刷所を設立するために派遣されました。大浦の印刷所で出版された宗教書は、人々がわかりやすいように、簡単な文章で書かれていました。これらの宗教書は、基本的なキリスト教の教えを伝え、人々が祈りの言葉を覚えることができるように出版され、版画たちは、キリスト教の教義を説明するための教材とし

て用いられました。

本事業以前の英語解説文

なし

1159

No.14 Evangelical Mission (2), The Shitsu Aid Center, Nagasaki

<長崎市、長崎>

【場所】旧出津救助院

【整備予定媒体】タッチパネル式案内板

できあがった英語解説文

Evangelical Mission (2)

Instruction in Printing

Vestment Sewn by Mother and Younger Sister of Father de Rotz (Father de Rotz Memorial Hall)

Copy of “Orasho Narabini Oshie” (Father de Rotz Memorial Hall)

In addition to printing books and images, de Rotz (1840–1914) also instructed Japanese people in using the new printing technology of lithography. Some of these printed works, such as *Learning and Practicing Christian Prayer* (1878), and some of the calendars printed to help believers memorize important days, can still be viewed today at the Father de Rotz Memorial Hall. The books were written in Japanese using the Roman alphabet, and de Rotz was assisted by his friend and fellow teacher, Nakamura Kinzo(1859–1945).

上記解説文の仮訳（日本語訳）

信仰布教②

活字を用いた教え

母と妹から贈られた手作りの祭服(ド・ロ神父記念館蔵)

オラシヨ 並ビニ ヲシヘ(ド・ロ神父記念館蔵)

本の印刷や版画の他に、ド・ロは日本の人々に石版の技術を教えました。1878 年に出版されたオラシヨ並ニヲシヘや、信者にキリスト教における重要な日にちを教えるのに使われたカレンダーは、今でもド・ロ神父記念館にて閲覧することができます。ローマ字を用いて日本語で書かれたこれらの本は、友人であり同僚の教育者であった中村近蔵の助けを得ながら作られたものでした。

本事業以前の英語解説文

なし

【場所】旧出津救助院

【整備予定媒体】タッチパネル式案内板

できあがった英語解説文

Education

The Establishment of Facilities in Sotome

Large Abacus (Father de Rotz Memorial Hall)

Textbook (Father de Rotz Memorial Hall)

Kindergarten Graduation Ceremony, 1940

Father de Rotz (1840–1914) believed that education was the key to building strong character. He therefore not only promoted Christian teachings by the use of books and other written texts, but also established various educational and vocational facilities.

For example, in 1877 he published a book titled *The Path to Wisdom and Enlightenment*, a text which he encouraged both men and women to read. Then, after settling in Sotome in 1879, he founded a number of private schools and training facilities for local farmers. In 1886, when he learned that the fishing-net workshop at the Shitsu Aid Center was making little money, he reinvented the facility as a nursery school. This school exists to this day, albeit at a different location, and is called Shitsu Aijien.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

教育

外海に教育施設を設立

当時使用していた教育用の大型そろばん(ド・ロ神父記念館蔵)

当時使用していた教科書(ド・ロ神父記念館蔵)

1940年の愛児園卒園式

ド・ロ神父は、教育は人格形成の鍵であると信じていました。そのため、彼は本などの書物を用いてキリスト教の教えを広めるだけでなく、様々な教育施設や、職業施設などを設立しました。

1877年、彼は、知恵明ヶ乃道を出版し、男性だけでなく女性にも読書を勧めました。1879年に外海に定住したのちには、いくつかの私学校や地域の農民のための訓練施設を設立しました。1886年には、出津救助院の漁網の工場が利益をあげられていないことを知ると、この施設を保育所へと作り替えました。この保育所は、場所こそ違いますが、現在も出津愛児園として存続しています。

本事業以前の英語解説文

なし

【場所】旧出津救助院

【整備予定媒体】タッチパネル式案内板

できあがった英語解説文

Relief Work

The Founding of Organizations in the Region

Women Nursing Orphans

Women of the Urakami Cross Society

Urakami Orphanage at Motohara-go, circa 1920

During an outbreak of dysentery in Urakami, Nagasaki, Father de Rotz (1840–1914) borrowed a shed to use for relief work from his friend, Takagi Senemon(1824–1899), and turned it into an orphanage. Another associate of Father de Rotz, Iwanaga Maki (1848–1920), conducted agricultural work together with local young females and raised and educated the orphans. Moreover, the same young women established a religious organization called the Urakami Cross Society (later the Ave Maria Society) that worked to construct churches and convents in the area. In the Shitsu area in 1879, the Saint Joseph Society was founded with Oishi Shige (1850–1921) as its head. Relief work became the central focus of these organizations, and the activities of the Ave Maria Society continue to this day.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

福祉

各地に修道院が誕生

孤児院の子どもを膝に抱く女性たち

浦上十字会創立の頃の女性たち

本原郷に建てられた浦上養育院(1920年頃)

長崎の浦上で赤痢の大流行が起きた際、ド・ロ神父は、友人の高木仙右衛門から小屋を借りて救助の拠点とし、後にそれを孤児院へと作り変えました。ド・ロ神父の仲間であった岩永マキは、地域の若い女性たちとともに、農業を行い、孤児達を育て、教育を与えました。また、彼女は浦上十字会（後のお告げのマリア修道会）を立ち上げ、この地域で教会や女子修道院の設立に尽くしました。その支援を受けて出津でも、1879年には大石シゲを院長として、聖ヨゼフ会が設立されました。福祉活動はこれらの団体の中心的となり、お告げのマリア修道会の活動は現在も続いています。

本事業以前の英語解説文

なし

【場所】旧出津救助院

【整備予定媒体】タッチパネル式案内板

できあがった英語解説文

Medical Aid

Father de Rotz Passes on His Knowledge

Medical Scale (Father de Rotz Memorial Hall)

Model of the Pelvis of a Pregnant Woman (Father de Rotz Memorial Hall)

From the nineteenth to mid-twentieth century, it was common for French priests to provide medical care in the countryside. Father de Rotz (1840–1914) was no exception. During his missionary work in Japan, he passed on to the people of Nagasaki and Sotome the knowledge of medicine and medical treatment that he had learned during his theological education.

First, after hearing about the dysentery and smallpox the people of Urakami had contracted, he imported French medicine. In the Shitsu area in 1885, during an outbreak of typhoid, he opened a pharmacy at the Shitsu Aid Center and conducted medical exams for patients.

After he moved to Sotome, another dysentery epidemic occurred in East Shitsu in 1891. De Rotz immediately built a special hospital ward, isolated the victims, and founded a first-aid corps of young volunteers to nurse the patients.

Also, to lower the prevailing high infant-mortality rate in Sotome, he imported an anatomical model of a human body, which he used to instruct midwives.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

医療・救護

ド・ロ神父による知識の伝授

当時の医療用秤(ド・ロ神父記念館蔵)

当時の妊婦骨盤模型(ド・ロ神父記念館蔵)

19世紀から20世紀中期の間、フランス人の聖職者が田舎の地域で医療を提供することは一般的であり、ド・ロ神父も彼らの内の一人でした。日本での宣教活動のなかで、彼は、フランスでの神学教育の中で学んだ薬学や医療の知識を、長崎や外海の人々に伝えました。まず初めに、浦上の人々に赤痢や天然痘が流行したことを聞くと、フラン

スから薬を輸入しました。

出津で 1885 年に腸チフスが流行した際には、彼は出津救助院にて薬局を開き、診療を行いました。外海に赴任後に外海地方で 1891 年に出津の東の地域で赤痢が流行した際には、隔離病棟を建て、病棟を急いで作り、患者を隔離し、若いボランティアを募り、患者の世話をする青年救助隊を結成しました。また、外海の新生児の死亡率を下げるため、人体模型をフランスから取り寄せ、助産師達の教育を行いました。

本事業以前の英語解説文

なし

1163

No.18 Farming, The Shitsu Aid Center, Nagasaki

<長崎市、長崎>

【場所】旧出津救助院

【整備予定媒体】タッチパネル式案内板

できあがった英語解説文

Farming

New Tools, Methods and Crops in Sotome

The Cultivation of Hendake in Nishi-Shitsu

Cultivator (Sotome Museum of History and Folkore)

Farming Tools Designed by Father de Rotz (Drawn by Miyazaki Sozaburo)

In 1884, Father de Rotz (1840–1914) purchased several farms at Obira, close to Mount Hendake in northern Shitsu. Here he taught people how to farm using new tools and methods from France, and to produce wheat, potatoes, cotton and tea. It is thought that de Rotz had Japanese artists draw pictures that illustrate how to use the tools and how to farm more effectively, and these drawings can still be seen in the De Rotz Memorial Hall.

He also imported strawberries and tomatoes, both of which were rare in Japan. Concerned about the wellness of the villagers, de Rotz planted nutritious watercress, which was called “De Rotz Watercress” in Sotome.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

農業

新しい機械や方法を用いた外海での農業

西出津変岳の開拓

当時農耕に使用したカルチベーター(外海歴史民俗資料館蔵)

ド・ロ神父が考案した農具の絵図(宮崎惣三郎画)

ド・ロ神父は、1884 年に出津北部の変岳裏の大平の土地を購入し、いくつかの農場を設立しました。ここで彼は、人々にフランスの新しい農具や農法を使った農業を教え、小麦、ジャガイモ、綿、そして茶などの生産を行いました。ド・ロ神父は、農具の使い方や、より効率的な農業の行い方を日本人画家に描かせ、農耕法を教えたと考えられます。これらの絵は、ド・ロ神父記念館にて、今でも見ることができます。彼は、当時日本では珍しかったイチゴやトマトなども栽培しました。

村人の健康にも配慮したド・ロ神父は、栄養価の高いクレソンを栽培しました。クレソンは出津で、ド・ロさまゼリと呼ばれていました。

本事業以前の英語解説文

なし

1164

No.19 Engineering Projects (1), The Shitsu Aid Center, Nagasaki

<長崎市、長崎>

【場所】旧出津救助院

【整備予定媒体】タッチパネル式案内板

できあがった英語解説文

Engineering Projects (1)

Building churches in Japan

Former Latin Seminary (Spiral Staircase Designed by Father de Rotz)

Shitsu Church

Well-versed in architecture, de Rotz (1840–1914) contributed to the construction of the Convent of the Sisters of Saint Maur in Yokohama and the Latin Seminary in Nagasaki. In Sotome, he was in charge of the construction of Shitsu Church, the various facilities of the Shitsu Aid Center, Ono Church, and other buildings. These churches still exist today.

He introduced European construction techniques utilizing local building materials from Sotome and constructed durable buildings. The majority of these structures have been designated Important Cultural Properties. Additionally, Tetsukawa Yosuke (1879–1976), who headed the design of churches studied architecture under de Rotz.

De Rotz contributed a lot of his own money to building churches, although only the bishop seems to have been aware of this at the time.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

建築・土木①

教会の建築

旧羅典神学校(外観とド・ロ神父考案のらせん階段)

出津教会

建築技術に精通していたド・ロ神父は、横浜のサンモール会修道院や長崎の羅典神学校の建設に貢献しました。外海では、彼は出津教会、出津救助院の各施設、大野教会などを建築しました。これらの教会は現存しています。彼は、ヨーロッパの耐久性のある建築技術と、外海の地元の建材の利用を融合させて、独自に堅牢な建築技術を築きました。

これらの建築で現存するもののほとんどは重要文化財や県の文化財に指定されています。また、教会建築を手がけた

鉄川与助もド・ロ神父から建築技術を学びました。

ド・ロ神父は各地の教会の建築に密かに私費を投じていましたが、司教以外の人々はこのことを知りませんでした。

本事業以前の英語解説文

なし

1165

No.20 Engineering Projects (2), The Shitsu Aid Center, Nagasaki

<長崎市、長崎>

【場所】旧出津救助院

【整備予定媒体】タッチパネル式案内板

できあがった英語解説文

Engineering Projects (2)

The Construction of Seawalls and Roads

Breakwater at Toishizaki

Civil Engineering Tools Designed by Father de Rotz (Father de Rotz Memorial Hall)

Few fishing boats landed at Sotome due to its inconvenient location, with hardly any inlets for boats to anchor and leave from. To solve this problem, in 1885 Father de Rotz (1840–1914) constructed seawalls along the coast of Shitsu that provided fishing boats with safe spots to anchor and from which to fish.

Another example of de Rotz's engineering projects was providing tools to male villagers so that they could earn wages and help lead road-building efforts.

During this road construction project, Sotome suffered a famine. In order to help the construction workers to not go hungry, de Rotz ordered a large amount of rice cakes to sell to the villagers at their original price. And as a consequence of the resulting prefectural road system, the isolated villages of Sotome became more easily accessible.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

建築・土木②

防波堤や県道を築く

砥石崎の防波堤

ド・ロ神父が考案した土木工具(ド・ロ神父記念館蔵)

外海には船が停泊できる入り江が少なく、漁船が出入りできる場所が少ししかありませんでした。この問題を解決するため、1885年にド・ロ神父は漁船が安全に停泊し漁業を行えるように、出津の沿岸に防波堤を作りました。

ド・ロ神父のもう一つの土木事業の例としては、県道工事が行われた際、工事で現金収入が得られるように村の男性たちに工具を与え、指導者も配置して道路工事に協力したことです。ちょうど同じ年、大飢饉にみまわれたので、空腹で工事にたずさわらなくてよいように、大量のかんころを取り寄せ、村人に原価で与えました。この事業によってできた県道によって、孤立していた外海の村へのアクセスが改善しました。

本事業以前の英語解説文

なし

【場所】旧出津救助院

【整備予定媒体】タッチパネル式案内板

できあがった英語解説文

Father Petitjean

The Missionary Who Discovered the Hidden Christians in Nagasaki

Father Petitjean

After studying at Autun Seminary and briefly working as a professor there, the French Roman Catholic, Bernard Thaddée Petitjean, (1829–1884) joined the mission and, in 1858, set out for Japan on the orders of his superiors. He initially lived on the Ryukyu islands (present-day Okinawa), where he studied Japanese. In this period, foreigners were gradually being allowed to openly practice their faith in Japan for the first time since the seventeenth century, although the religion was still forbidden for Japanese people. Petitjean moved to Yokohama in 1862 and left for Nagasaki the following year to work on the construction of Oura church. There he was pleasantly surprised when, only a few weeks after the completion of the church in 1865, villagers from Urakami told him they were descendants of the Christians-in-hiding he had heard so much about.

Petitjean became one of the most important members of the Nagasaki mission. He established various education centers and churches in the region, many aimed at re-educating the secret Christians who had been practicing the religion by themselves for centuries. Understanding the importance of print in re-educating and further spreading Christianity, Petitjean sought a missionary well-versed in printing. This led him to Father de Rotz (1840–1914), whom he called to Japan in 1868. Bernard Petitjean died and was buried at Oura Church in 1884.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

プチジャン神父

「信徒発見」に立ち会った宣教師

プチジャン神父

フランス人のローマ・カトリック教徒、ベルナール・タデー・プチジャン（1829-1884）は、オータンの神学校で学び、そこで短い間教授として働いたのち、布教活動に参加し、上司からの命令を受け日本へと向かいました。彼は、まず始めに琉球諸島（現在の沖縄）に住み、日本語の勉強をしました。この時代、キリスト教は、日本人には未だに信仰が禁じられていましたが、外国人には17世紀以来初めて、日本で隠さずに信仰を行うことが許され初めていました。プチジャンは1862年に横浜に移り、その翌年、大浦天主堂の建設に携わるため長崎に移りました。1865年に天主堂が完

成した数週間後、彼は話で聞いていた、浦上の村から来た隠れキリシタンの末裔に会うという、喜ばしい驚きに巡り会いました。

長崎の布教活動において、プチジャンは最も重要なメンバーの一員となりました。彼はこの地域に多くの教育施設や協会を設立し、それらの多くは、自分たちで数世紀に渡って信仰を守り続けてきた隠れキリシタン達の再教育に使われました。この再教育や、キリスト教の更なる布教を行うにおいて、印刷の重要性を理解したプチジャンは、この技術に精通した宣教師を探し求めました。このため、彼はド・ロ神父を 1868 年に日本に呼びました。ベルナール・プチジャンは、1884 年に亡くなり、大浦天主堂に埋葬されました。

本事業以前の英語解説文

なし

1167

No.22 Nakamura Kinzo, The Shitsu Aid Center, Nagasaki

<長崎市、長崎>

【場所】旧出津救助院

【整備予定媒体】タッチパネル式案内板

できあがった英語解説文

Nakamura Kinzo

Educator and Protégé of Father de Rotz

Nakamura Kinzo

Nakamura Kinzo (1859–1945) was born in Shitsu and went to the Oura Latin Seminary to become a priest.

When Father de Rotz (1840–1914) moved to Sotome to become Head Priest at Shitsu Church and told Nakamura about his plans to establish a work relief center in Shitsu, Nakamura helped him obtain official permits to open and begin operations. In 1883, after the establishment of the center, Nakamura became de Rotz's right-hand man and became a teacher. He helped to explain the religious sermons and to transfer de Rotz's knowledge of farming by publishing relevant books.

Later, he opened a school for boys where he taught math, law, arithmetic, and Japanese poetry and calligraphy, and worked for the village assembly.

As a lifelong educator convinced of the importance of education in a person's development, Nakamura contributed to Father de Rotz's mission to improve the lives of the people of Sotome.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

中村近蔵

ド・ロ神父の手足であり教育者

中村近蔵

中村近蔵は、出津で生まれ、聖職者となるため、大浦の羅典神学校で学びました。

ド・ロ神父が外海に移り、出津教会の主任司祭となり、中村に救助院を設立する計画を伝えた際に、中村は、設立と福祉活動をはじめると許可を得ることに尽力しました。救助院の開設後、中村はド・ロの右腕、そして先生となりました。彼は、宗教的な説教の解説を手伝ったり、ド・ロの農業に関する知識を広めるため、本を出版するなどしました。後に男子校を開き、数学、法学、算術、日本語の詩、習字などを教え、村の議会でも働きました。生涯を教育者として捧げ、人間の成長、発展における教育の重要性を理解していた中村は、外海の人々の生活を改善するというド・ロ神

父の任務に大きく貢献しました。

本事業以前の英語解説文

なし

【場所】旧出津救助院

【整備予定媒体】タッチパネル式案内板

できあがった英語解説文

Iwanaga Maki

Founder of the Urakami Cross Society

Iwanaga Maki (Nagasaki Junshin Catholic University Museum)

Iwanaga Maki (1848–1920), had been one of the 3,394 Japanese Christians expelled in 1869. After the ban was lifted in 1873, Iwanaga at the age of twenty-five, returned from Okayama, where she had been in exile, to Urakami.

When a dysentery epidemic broke out in Urakami in 1874, Iwanaga participated in nursing activities carried out by Father de Rotz (1840–1914).

Iwanaga, together with the young women who received support from de Rotz, started taking care of orphaned and abandoned children following typhoon damage and smallpox epidemics.

These women, under the instruction and guidance of de Rotz, founded the Urakami Cross Society, and raised and adopted 294 orphans. Up to this day, the activities pioneered by Iwanaga are continued by the Ave Maria Society.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

岩永マキ

浦上十字会の設立者

岩永マキ(長崎純心大学博物館蔵)

岩永は 1869 年に浦上から追放された 3394 名の一人でしたが、1873 年、日本でのキリスト教の禁教が終わった後、当時 25 歳であった岩永マキ(1848-1920)は、追放、流刑されていた岡山から浦上に戻りました。

1874 年に浦上で赤痢が流行した際、岩永は、ド・ロ神父が行った救護活動に参加しました。その後もド・ロ神父の精神的・経済的支援を受けながら仲間の女性たちとともに、相次ぐ台風による被害や、天然痘の流行の後に、彼女は孤児となった子供達の世話を始めました。この時に形成された女子の共同体は浦上十字会となりました。

ド・ロ神父の指導と援助を受けて、浦上十字会を設立し、294 人の孤児を養子として育てました。岩永によって創始された活動は、今でもお告げのマリア修道会に継承されています。

本事業以前の英語解説文

なし

1169

No.24 Oishi Shige, The Shitsu Aid Center, Nagasaki

<長崎市、長崎>

【場所】旧出津救助院

【整備予定媒体】タッチパネル式案内板

できあがった英語解説文

Oishi Shige

Key Associate of Father de Rotz

Oishi Shige

Oishi Shige and the Women of the Aid Center

After his assignment to Shitsu Church in 1879, Father de Rotz (1840–1914) sought associates to set up his social activities for the people of Sotome. An early collaborator was Oishi Shige(1850–1921), who studied and then taught fabric production and dyeing to women she invited to her father's house. After being dispatched to the Convent of the Sisters of Saint Maur in Yokohama for two years to learn about religious instruction, she returned to Sotome in 1883 when the Shitsu Aid Center was finished. She was chosen to be one of the people in charge of the management of the center and became one of the founders of the Saint Joseph Society, where she later also became director.

Following the teachings of Father de Rotz, she lived as an independent teacher and devoted her life to the education and development of young women.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

大石シゲ

ド・ロ神父の重要な協力者

大石シゲ

大石シゲと救助院の女性達

1879 年に出津教会での任務を任されたド・ロ神父は外海の人々のための社会福祉活動を行うのに、協力者を求めました。

彼の初めの協力者のうちの一人、大石シゲ(1850-1921)は、父の家で他の女性たちを招きを、織物や染色を学び教えました。彼女は、横浜のサンモール修道会に二年間派遣され宗教指導について勉強しました。彼女は、出津救助院が完成した1883年に外海に戻りました。彼女は、救助院の運営を任された人の一人となり、聖ヨゼフ会の創始者の一人として、のちに院長を務めました。彼女はド・ロ神父の指導に従って若い女性たちに仕事を与え教育を行い、自立した女性の教師として生涯を捧げました。

本事業以前の英語解説文

なし

1170

No.25 Tetsukawa Yosuke, The Shitsu Aid Center, Nagasaki

<長崎市、長崎>

【場所】旧出津救助院
【整備予定媒体】タッチパネル式案内板

できあがった英語解説文

Tetsukawa Yosuke

Church Architect in West Japan

Tetsukawa Yosuke, in his Younger Days

Tetsukawa Yosuke, in his Later Years

Tabira Church in Hirado City/Copyright: Hamamoto Masaharu

Kashiragashima Church (Shinkamigoto-cho)

Tetsukawa Yosuke(1879–1976) was born the eldest son of a family of carpenters on the Goto Islands in Nagasaki prefecture. He worked on the construction of Sone Church in 1899. In 1910, during the construction of the Archbishop's Hall at Oura Church, he met Father de Rotz (1840–1914) and started to study Western architecture.

During his lifetime he designed over thirty churches in West Japan, despite the fact that he was himself a Buddhist. His characteristic architectural style can be seen in the Tabira Catholic Church and the Kashiragashima Church, both of which are highlights of his work.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

鉄川与助

西日本の教会設計者

若き日の鉄川与助

晩年の鉄川与助

田平天主堂(平戸市)©濱本政春

頭ヶ島天主堂(新上五島町)

鉄川与助(1879-1976)は、一家の長男として長崎県五島列島の大工の家に生まれました。

1899年に曾根教会の建設に関わりました。1910年、大浦天主堂の大司教の館を建設する際に、彼はド・ロ神父に出会い、さまざまな西洋建築の技術を学びました。

彼は、自らは仏教徒であったにもかかわらず、その生涯に西日本の30以上の教会を設計しました。彼の特徴的な建築様式は田平天主堂や頭ヶ島天主堂などに顕著に現れています。

本事業以前の英語解説文

なし

1171

No.26 Honda Toshiiku and Nagata Kaname, The Shitsu Aid Center, Nagasaki

<長崎市、長崎>

【場所】旧出津救助院

【整備予定媒体】タッチパネル式案内板

できあがった英語解説文

Honda Toshiiku and Nagata Kaname

The Doctors Who Assisted Father de Rotz at the Shitsu Aid Center

Doctor Honda Toshiiku

Doctor Nagata Kaname

Medical Tools (Father de Rotz Memorial Hall)

Honda Toshiiku (1856–1917) and his younger brother Kaname (1855–1939) were born into a family of doctors in Kamiura. Toshiiku studied both Western and Chinese medicine, and Kaname went to the public Nagasaki Medical School. After Kaname graduated, he returned to Sotome, got married and was adopted by his family-in-law, changing his family name to Nagata, a common practice in Japan at the time. Father de Rotz (1840–1914) requested Toshiiku and Kaname to assist with the medical facilities of the Shitsu Aid Center, and he also instructed them in medical practice. Toshiiku learned Western internal medicine, whereas Kaname studied surgery. Much like Father de Rotz, with whom they maintained a lifelong friendship, Toshiiku and Kaname devoted their lives to the welfare of the villagers of Sotome.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

本田俊育・永田要

出津救助院でド・ロ神父に協力した医師たち

本田俊育医師

永田要医師

当時の医療器具(ド・ロ神父記念館)

本田俊育(1856-1917) とかれの弟要(1855-1939)は、神浦の医師の家族に生まれました。俊育は西洋と漢方両方の医術を学び、要は国立の長崎医学専門学校で学びました。要は、卒業後、外海に戻り、婿養子として結婚し、当時の日本の習わしで苗字を永田と変えました。ド・ロ神父は、俊育と要に、出津救助院の医療施設での補助を依頼するとともに、彼らに医療行為を教えました。俊育は、西洋内科医学を、要は外科を学びました。彼は、生涯の友となったド・ロ神父と同じように、人生を外海の村民の幸福のために捧げました

本事業以前の英語解説文

なし

1172

No.27 The Shitsu Aid Center (Top Page), The Shitsu Aid Center, Nagasaki

<長崎市、長崎>

【場所】旧出津救助院
【整備予定媒体】タッチパネル式案内板

できあがった英語解説文

The Shitsu Aid Center

Top Page

Introducing the facilities of the Shitsu Aid Center

How to operate:

To view information, touch the facility title.

Fishing-Net Workshop

Pharmacy

Macaroni Factory

Vocational Center

Former Mill

Administration Office of the Aid Center

Important Cultural Property of Japan

Important Cultural Property of Prefecture

上記解説文の仮訳（日本語訳）

救助院について（トップ）

操作方法

ご覧になりたい施設をタッチしてください。

タッチして頂くと、施設の紹介が表示されます。

- ・鰯網工場
- ・薬局
- ・マカロニ工場
- ・授産場
- ・旧製粉工場
- ・救助院管理棟

重要文化財建造物

県指定跡内建造物

本事業以前の英語解説文

なし

1173

No.28 The Shitsu Aid Center (The Workshop), The Shitsu Aid Center, Nagasaki

<長崎市、長崎>

【場所】旧出津救助院

【整備予定媒体】タッチパネル式案内板

できあがった英語解説文

The Workshop

The Workshop, which formed the center of the vocational activities of the Shitsu Aid Center, was constructed in 1883. The activities carried out in the building ranged from spinning and dyeing to the production of bread and Japanese somen noodles, and the brewing of soy sauce.

For construction, red water-absorbing clay mixed with lime and sand was used, layered with stones collected in Sotome to create a strong basis. The resulting walls, utilizing European architectural design, and used in various construction projects, came to be known as “de Rotz walls” and, in Japan, can be found only in Sotome.

The Workshop is an early example of both a modern welfare project and a building constructed with new Western techniques and materials, a characteristic of the Meiji period (1868–1908). In 2003, the building was designated an item of

Important Cultural Property of Japan.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

救助院について（授産場）

出津救助院の職業訓練の中心となった授産場は、1883年に建設されました。ここでの活動は、製糸や染色から、パン、日本のそうめん、醤油などの製造にまで及びました。

この建物の強い基盤を作るため、彼は吸水性の高い赤い粘土を砂と石灰を混ぜたものに、外海で採掘した石を重ねました。この方法で作られた壁は、ド・ロ壁と呼ばれました。ヨーロッパの技術が取り入れられた壁は、さまざまな建築に使われ、外海で見ることができます。

この授産場は、近代の社会福祉プロジェクトの初期の例であると同時に、明治時代(1868-1908)の特徴である新しい西洋の技術と素材を用いて作られた建築の初期の例でもあります。2003年に、この建物は、国の重要文化財に指定されました。

本事業以前の英語解説文

なし

1174

No.29 The Shitsu Aid Center (The Macaroni Factory), The Shitsu Aid Center, Nagasaki

<長崎市、長崎>

【場所】旧出津救助院

【整備予定媒体】タッチパネル式案内板

できあがった英語解説文

The Macaroni Factory

Due to its resemblance to a Japanese rice granary, the Macaroni Factory was also referred to as the storehouse. According to Father de Rotz's records, among other items the room held a machine imported from the West to produce both macaroni and other pasta; however, only a cast-iron cooking stove and pasta recipes devised by de Rotz remain today. The pasta produced in the Macaroni Factory seems to have been popular with foreigners living in Nagasaki, and they were probably the main customers.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

救助院について（マカロニ工場）

マカロニ工場は、日本の蔵のような家であったため、クライエとも呼ばれていました。

ド・ロ神父が残した記録によると、この部屋には西洋から輸入された、マカロニやパスタを作るための製造機などが置かれていました。ただし、現在は、鋳鉄製のコンロと、ド・ロ神父が考案したパスタのレシピのみが残されています。マカロニ工場で作られたパスタは、長崎に住む外国人に好評で、彼らが主な顧客でした。

本事業以前の英語解説文

なし

1175

No.30 The Shitsu Aid Center (The Fishing-Net Workshop), The Shitsu Aid Center, Nagasaki

<長崎市、長崎>

【場所】旧出津救助院

【整備予定媒体】タッチパネル式案内板

できあがった英語解説文

The Fishing-Net Workshop

Father de Rotz (1840–1914) established the Fishing-Net Workshop to offer the impoverished farmers a side job. He believed that by producing fishing nets, the farmers could earn extra income, providing them with a better existence. The quality of the fishing nets was good, and they sold well for a brief period. However, sales stagnated soon after the founding of the workshop as other factories began to produce better nets using advanced machine technology and, thus, made the manual industry unprofitable. After this, the Fishing-Net Workshop was discontinued, and the building was turned into a nursery school. Today it is a museum dedicated to Father de Rotz, showcasing various objects related to him.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

救助院について（鱚網工場）

ド・ロ神父は、貧しい農民に副業を与えるため、漁網工場を設立しました。彼は、漁網の生産によって、農民がより多くの収入を得ることができ、より良い暮らしを送れると信じていました。漁網の質は良く、しばらくのあいだ、良い売れ行きを見せていました。

しかし、この工場ができて間もなく、他の工場が機械技術を使いより良い網を作り始めたため、手作業の製造業であったこの工場の利益はなくなってしまい、漁網工場は廃止されました。その後、この建物は、保育所へと生まれ変わりました。

今では、この建物はド・ロ神父に関わるさまざまな品を展示した博物館となっています。

本事業以前の英語解説文

なし

1176

No.31 The Shitsu Aid Center (The Old Flour Mill), The Shitsu Aid Center, Nagasaki

<長崎市、長崎>

【場所】旧出津救助院

【整備予定媒体】タッチパネル式案内板

できあがった英語解説文

The Old Flour Mill

The Flour Mill was first introduced to this region by Father de Rotz (1840–1914). It was used to create white flour for macaroni and somen noodles. Initially it had been built by the river but was later moved to the grounds of the Aid Center.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

救助院について（旧製粉工場）

製粉工場は、ド・ロ神父によってこの地域にもたらされました。ここでは、マカロニや素麺を作るための小麦粉が生産されました。当初は、川の近くに建てられていましたが、その後救助院の敷地内に移築されました。

本事業以前の英語解説文

なし

1177

No.32 The Shitsu Aid Center (The Pharmacy), The Shitsu Aid Center, Nagasaki

<長崎市、長崎>

【場所】旧出津救助院

【整備予定媒体】タッチパネル式案内板

できあがった英語解説文

The Pharmacy

Since there was no hospital in Sotome, Father de Rotz (1840–1914) installed a clinic and pharmacy at the Aid Center. This building became The Pharmacy. Although he was not a qualified pharmacist, the medicines de Rotz prepared were said to be very effective.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

救助院について（薬局）

外海には病院が無かったため、ド・ロ神父は救助院内に診療所と薬局を設置しました。この建物は、薬局となりました。彼は、薬剤師の資格を持ってはいませんでした。ド・ロ神父が調合した薬は、とても効果的であったと言われています。

本事業以前の英語解説文

なし

1178

No.33 Food Manufacturing, The Shitsu Aid Center, Nagasaki

<長崎市、長崎>

【場所】旧出津救助院

【整備予定媒体】タッチパネル式案内板

できあがった英語解説文

Food Manufacturing

Producing High-Quality Products for Foreigners in Nagasaki

Food Label (Father de Rotz Memorial Hall)

Kneading Bowl (Father de Rotz Memorial Hall)

Scale for the Somen (Father de Rotz Memorial Hall)

On the first floor of the Aid Center, the people produced Japanese somen noodles, macaroni, bread, green tea, black tea and soy sauce. De Rotz (1840–1914) used the flour mill by the riverside for milling and also imported and grew high-quality flour seed from France for the production of somen.

The somen produced was mixed with homemade peanut oil and dough to produce delicious noodles. Even today people still enjoy “de Rotz somen.” Thomas Glover, a British merchant who had settled in Nagasaki, helped sell the food produced at the center. Some of these products seem to have enjoyed great popularity at the time. The activities of the Aid Center were carried out based on the ideas of Father de Rotz with the constant aim of helping people.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

授産場について（食品加工）

長崎の外国人に高品質な食品を提供

当時の食品ラベル(ド・ロ神父記念館蔵)

当時の捏ね鉢(ド・ロ神父記念館蔵)

当時の素麺秤器(ド・ロ神父記念館蔵)

授産場一階では、救助院の人々によって、日本の素麺、マカロニ、パン、緑茶、紅茶、醤油などが製造されていました。ド・ロ神父はフランスから高品質の小麦粉の種を輸入して育て、川岸の製粉所で製粉を行い、素麺を造りました。

この素麺を造る際に、自分たちで栽培した落花生の油を混ぜて味をよくする工夫をしました。今でも人々は、ド・ロ素麺を味わうことができます。長崎中の顧客相手に商売をするために、救助院で作られた食品は、長崎に定住したイギリス人、トーマス・グラバーなどの協力を得て売られました。これらの食品の一部は、非常に高い人気を誇っていたようです。

救助院の活動はド・ロ神父のアイデアと工夫、そして人々のためには常によりよいものをという教えの元に行われていました。

本事業以前の英語解説文
なし

1179

No.34 Textile Production, The Shitsu Aid Center, Nagasaki

<長崎市、長崎>

【場所】旧出津救助院

【整備予定媒体】タッチパネル式案内板

できあがった英語解説文

Textile Production

Fabrics for Foreigners and Western Uniforms

Spinning Wheel (Father de Rotz Memorial Hall)

German Medias Knitting-Machine (Father de Rotz Memorial Hall)

Fabric and Tabi (Split-Toe Socks) Made at the Vocational Center (Father de Rotz Memorial Hall)

Aid Center Uniform Designed by Father de Rotz (Father de Rotz Memorial Hall)

On the second floor of the workshop, women manufactured textiles using cotton looms imported from France. They produced sheets, towels, napkins, handkerchiefs, and other products mainly in response to demand from foreigners living in Nagasaki. The women also produced Japanese-customized Western working clothes for the staff of the Aid Center. These clothes were more convenient to wear for work than were Japanese traditional clothes. At that time, Western clothes were mostly associated with high-class people; however, the uniforms worn by the Shitsu Aid Center workers were designed for practical considerations such as freer body movement rather than to display social status.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

授産場について（繊維関連）

外国人向けの布製品と救助院の制服

当時の糸車(ド・ロ神父記念館蔵)

当時のドイツ製メリヤス編機(ド・ロ神父記念館蔵)

当時製造していた生地と足袋(ド・ロ神父記念館蔵)

ド・ロ神父が考案した救助院の制服(ド・ロ神父記念館蔵)

授産場の二階では、フランスから輸入された木綿織機を使い、女性が織物を生産していました。彼女達は、長崎に住んでいる外国人の需要に応じて、シャツ、タオル、ナプキン、ハンカチなどを生産していました。

また、彼女達は、救助院で働く人たちが着るために、日本風に改良を加えた西洋の作業着も生産していました。この作業着は、日本の伝統的な衣服に比べて、仕事をする際の利便性が高いものでした。

この時代、洋服は上流階級の人々が着るものだと言われていましたが、出津救助院の制服は、そのような社会的な地位を示すために作られたわけではなく、作業中により楽に体を動かせることなどの実用的な考慮からデザインされたものでした。

本事業以前の英語解説文

なし

【場所】旧出津救助院

【整備予定媒体】タッチパネル式案内板

できあがった英語解説文

Religious Practice and Daily Life

Life and Marriage

Altar on the Second Floor of the Former Vocational Center

Organ Brought to Japan by Father de Rotz

At the Center, Father de Rotz (1840–1914) and the women who worked and lived there together led extremely frugal lifestyles. De Rotz gave much of their earnings to the poor and people in unfortunate circumstances.

De Rotz not only helped the women of The Center to become independent through their work and skills but, in some cases, also aided with wedding ceremony preparations for those who wished to get married. Documents reveal that when weddings occurred, it was customary to have a celebratory meal with white rice to honor the bride.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

授産場について（信仰と生活）

人生と結婚

以前の授産場の2階の祭壇

ド・ロ神父ゆかりのオルガン

救助院では、ド・ロ神父やここで働いていた女性は、とても質素な共同生活をしていました。ド・ロ神父は救助院の収益金を、貧しい人々や不幸な状況に陥った人々に分け与えていました。

ド・ロ神父は、救助院を生活や仕事を通じて救助院の女性の自立を手助けする場に、ときには、結婚を希望する女性の結婚の支度を行う役割も担いました。資料によると、結婚するときには、白米を食べて他の人々と花嫁を祝うことが習慣となっていたようです。

本事業以前の英語解説文

なし

1181

No.36 Born in Sotome, the Home of Christians, The Shitsu Aid Center, Nagasaki

<長崎市、長崎>

【場所】旧出津救助院

【整備予定媒体】タッチパネル式案内板

できあがった英語解説文

Born in Sotome, the Home of Christians

Cardinal Taguchi Yoshigoro (1902–1978)

Cardinal Satowaki Senjiro (1904–1996)

Father de Rotz (1840–1914) speculated that to establish his religion in this land, women should be taught to raise their children as Christians. His idea came to fruition, as some of the children and grandchildren of the women who studied at the Aid Center chose religious vocations.

Father Matsushita Sakichi was baptized by de Rotz; Cardinal Taguchi Yoshigoro of the Osaka Diocese, son of the founder of the Taguchi Factory which manufactured farming and civil engineering tools designed by de Rotz; and Cardinal Satowaki Senjiro of the Nagasaki Diocese, who was treated affectionately by de Rotz. All these men of the cloth were touched in one way or another by the spirit of Father de Rotz, and Sotome came to be called the “Home of Christians.”

上記解説文の仮訳（日本語訳）

キリシタンの母郷、外海に生まれて

田口芳五郎枢機卿(1902年～1978年)

里脇浅次郎枢機卿(1904年～1996年)

ド・ロ神父はこの地に真の信仰を植え付けるためには、良い信徒を育てる立派な母親を教育しなければならないと考えていました。その想いは実り、救助院で学んだ後母親となった人たちの子どもや孫から多くの司祭や修道者が誕生します。

ド・ロ神父からカリス(聖杯)をいただいた松下佐吉神父、ド・ロ神父が考案した農機具や土木工具を製造していた田口鍛冶工場の息子の田口芳五郎枢機卿(大阪大司教区)、子どもの頃よくド・ロ神父に頭を撫でてもらっていた里脇浅次郎枢機卿(長崎大司教区)などが、ド・ロ神父の精神を受け継ぎ、外海は「キリシタンの母郷」呼ばれるようになったのです。

本事業以前の英語解説文

なし

1182

No.37 Christian Love and Social Welfare Work, The Shitsu Aid Center, Nagasaki

<長崎市、長崎>

【場所】旧出津救助院

【整備予定媒体】タッチパネル式案内板

できあがった英語解説文

Christian Love and Social Welfare Work

The Headquarters of the “Ave Maria Society” Order

Religious Vows

Living with Infants

To Heal the Mind and Body

1874: Iwanaga Maki (1848–1920) and other women help Father de Rotz (1840–1914) in dysentery relief work.

1877: Under the guidance of Father de Rotz, Iwanaga and other women establish a quasi-order titled “Urakami Cross Society.”

1956: Twenty-six quasi-orders in the Nagasaki Diocese organize to become “Sacred Servant Sister Convent.”

1975: Under the guidance of Cardinal Satowaki Senjiro, the archbishop of Nagasaki at the time, “Sacred Servant Sister Convent” re-organizes as the “Ave Maria Society” Order. This Order carried on the welfare efforts of Father de Rotz, especially with respect to the religious education of children.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

キリスト教の愛の火と福祉活動

お告げの MARIA 修道会本部

終生誓願式

幼き子どもたちと共に生きる

心と体の癒しを願って

1874: 岩永マキなどの女性が、ド・ロ神父による赤痢救済の活動に協力する。

1877: 岩永マキなどの女性が、ド・ロ神父の指導により準修道会[浦上十字会]を創立する。

1956: 長崎教区の 26 の準修道会が、聖婢姉妹会として統合される。

1975: 当時の長崎大司教、里脇浅次郎枢機卿の指導のもと、聖婢姉妹会が、お告げの MARIA 修道会となる。この修道会は特に子どもへの宗教教育などを通して、ド・ロ神父の福祉活動を受け継いでいる。

本事業以前の英語解説文

なし

1183

No.38 Sightseeing Guide of the Surrounding Areas, The Shitsu Aid Center, Nagasaki

<長崎市、長崎>

【場所】旧出津救助院

【整備予定媒体】タッチパネル式案内板

できあがった英語解説文

Sightseeing Guide of the Surrounding Areas

A Tour in the Footsteps of Father de Rotz and Christians

To the Top

Ono Church (Important Cultural Property of Japan)

Remains of the Odaira Workshop

Shitsu Church (Important Cultural Property of Japan)

Sotome Children's Museum

Sotome Museum of History and Folklore

Rest Stop “Yuhigaoka Sotome”

Endo Shusaku Literary Museum

Shiroyama Park Observatory

Bastian's Hut

Nomichi Cemetery (Grave of Father de Rotz)/Shitsu Public Cemetery

Father de Rotz Memorial Hall (Important Cultural Property of Japan)

Karematsu Shrine

Kurosaki Church

Onodake

Hendake

Toishizaki Public Square

Former Shitsu Aid Center (Present Location)

Sumo Sea

上記解説文の仮訳（日本語訳）

周辺観光ガイド

ド・ロ神父とキリシタンのゆかりの地を訪ねる

TOP へ

大野教会(国指定重要文化財)
大平作業所跡
出津教会(国指定重要文化財)
外海子ども博物館
外海歴史民族資料館
道の駅「夕陽が丘そとめ」
遠藤周作文学館
城山公園展望所
バスチャン屋敷跡
野道の墓(ド・ロ神父の墓)／出津共同墓地
ド・ロ神父記念館(国指定重要文化財)
枯松神社
黒崎教会

大野岳
変岳
砥石崎いこいの広場
旧出津救助院(現在地)
角力灘

本事業以前の英語解説文
なし

1184

No.39 Father de Rotz Memorial Hall, The Shitsu Aid Center, Nagasaki

<長崎市、長崎>

【場所】旧出津救助院

【整備予定媒体】タッチパネル式案内板

できあがった英語解説文

Father de Rotz Memorial Hall (Important Cultural Property of Japan)

The sardine fishing-net workshop, designed by Father de Rotz (1840–1914), has been renovated into a Memorial Hall, exhibiting materials related to de Rotz.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

ド・ロ神父記念館(国指定重要文化財)

ド・ロ神父の設計で建てられた鰯網工場が記念館となり、神父のゆかりの品々が多数展示されています。

本事業以前の英語解説文

なし

1185

No.40 Shitsu Church, The Shitsu Aid Center, Nagasaki

<長崎市、長崎>

【場所】旧出津救助院
【整備予定媒体】タッチパネル式案内板

できあがった英語解説文

Shitsu Church (Important Cultural Property of Japan)

This church was designed by Father de Rotz (1840–1914). The low-rise, sturdy building features a bell tower containing a bell ordered from France by the Father.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

出津教会(国指定重要文化財)

ド・ロ神父の設計で建てられた教会。低く堅牢な造りで、鐘楼の鐘は神父がフランスから取り寄せたものです。

本事業以前の英語解説文

なし

1186

No.41 Nomichi Cemetery, The Shitsu Aid Center, Nagasaki

<長崎市、長崎>

【場所】旧出津救助院

【整備予定媒体】タッチパネル式案内板

できあがった英語解説文

Nomichi Cemetery (Grave of Father de Rotz)/Shitsu Public Cemetery

This Cemetery, designed by Father de Rotz (1840–1914), is his resting place, and that of his followers. A magnificent tombstone stands at its entrance.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

野道の墓(ド・ロ神父の墓)／出津共同墓地

ド・ロ神父が愛した多くの信徒たちと共に眠る、自らが造った共同墓地。入り口には立派な墓碑が建てられています。

本事業以前の英語解説文

なし

1187

No.42 Ono Church, The Shitsu Aid Center, Nagasaki

<長崎市、長崎>

【場所】旧出津救助院

【整備予定媒体】タッチパネル式案内板

できあがった英語解説文

Ono Church (Important Cultural Property of Japan)

This church was designed by Father de Rotz (1840–1914) for his followers who came from twenty-six different families. It is located at Ono-go, deep in the mountains and overlooking the Goto Sea. The priest at this church was also the priest at Shitsu Church.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

大野教会(国指定重要文化財)

ド・ロ神父が26戸の信者のために建てた教会。五島灘を望む大野郷の山あいの中腹にある出津教会の巡回教会です。

本事業以前の英語解説文

なし

1188

No.43 Kurosaki Church, The Shitsu Aid Center, Nagasaki

<長崎市、長崎>

【場所】旧出津救助院

【整備予定媒体】タッチパネル式案内板

できあがった英語解説文

Kurosaki Church

Construction was carried out under the guidance of Father de Rotz (1840–1914), and the bricks were laid by his followers, as their greatest gesture of service and sacrifice.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

黒崎教会

ド・ロ神父の指導で敷地を造成。信徒たちが奉仕と犠牲の結晶として、煉瓦を一つ一つ積み上げて建てた教会です。

本事業以前の英語解説文

なし

1189

No.44 Odaira Field Office Site, The Shitsu Aid Center, Nagasaki

<長崎市、長崎>

【場所】旧出津救助院

【整備予定媒体】タッチパネル式案内板

できあがった英語解説文

Odaira Field Office Site

This is the former site of the office that was used in the development of Hendake Hill at Shitsu. The metal fixtures of the stall in which Father de Rotz (1840–1914) kept his favorite horse still remain.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

大平作業所跡

ド・ロ神父が出津変岳の野原を開墾した時の作業所跡。神父の愛馬を繋いだといわれる留金具などが残っています。

本事業以前の英語解説文

なし

1190

No.45 Bastian's Hut, The Shitsu Aid Center, Nagasaki

<長崎市、長崎>

【場所】旧出津救助院

【整備予定媒体】タッチパネル式案内板

できあがった英語解説文

Bastian's Hut

According to legend, the Japanese missionary Bastian, who gave hope to Christians in feudal Japan, used this hut, located deep in the mountains of Sotome, as a refuge.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

バスチャン屋敷跡

潜伏キリシタンに希望を与えた日本人伝道師バスチャンが隠れていたとされる場所は、外海の緑深い山中です。

本事業以前の英語解説文

なし

1191

No.46 Karematsu Shrine, The Shitsu Aid Center, Nagasaki

<長崎市、長崎>

【場所】旧出津救助院

【整備予定媒体】タッチパネル式案内板

できあがった英語解説文

Karematsu Shrine

This shrine, one of only three Christian shrines in Japan, is dedicated to “San Jiwan,” who was said to be Bastian's mentor and stands on the site of his grave.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

枯松神社

バスチャンの師サン・ジワンのお墓の上に祠を建てて聖地とした、日本に三社しか知られていないキリシタン神社です。

本事業以前の英語解説文

なし

1192

No.47 Sotome Museum of History and Folklore, The Shitsu Aid Center, Nagasaki

<長崎市、長崎>

【場所】旧出津救助院

【整備予定媒体】タッチパネル式案内板

できあがった英語解説文

Sotome Museum of History and Folklore

The exhibits in this museum present the heritage of the Sotome people. Much material concerns Christians in feudal Japan.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

外海歴史民族資料館

外海の先人達の遺産や暮らしぶりを展示。なかでも隠れキリシタンに関する資料は他に類を見ないほど豊富です。

本事業以前の英語解説文

なし

1193

No.48 Yuhigaoka Sotome, The Shitsu Aid Center, Nagasaki

<長崎市、長崎>

【場所】旧出津救助院

【整備予定媒体】タッチパネル式案内板

できあがった英語解説文

Yuhigaoka Sotome

This rest-stop offers views of the Goto Islands and the Sumo Sea, which is said to be beautiful at sunset. It also has a market that sells local products, and a restaurant.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

道の駅「夕陽が丘そとめ」

外海の魅力である角力灘(すもうなだ)の夕日や五島列島などの光景を見渡せる道の駅。特産物の販売やレストランもあります。

本事業以前の英語解説文

なし

1194

No.49 Endo Shusaku Literary Museum, The Shitsu Aid Center, Nagasaki

<長崎市、長崎>

【場所】旧出津救助院

【整備予定媒体】タッチパネル式案内板

できあがった英語解説文

Endo Shusaku Literary Museum

This museum, commanding a view of the sea, displays various materials relating to the works of the late novelist Endo Shusaku (1923–1996). His masterpiece “Silence” is set in Sotome.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

遠藤周作文学館

海を望む絶景の地に建つ、故遠藤周作氏の文学館。遠藤氏の代表作「沈黙」は外海を舞台に描かれました。

本事業以前の英語解説文

なし

1195

No. 50 Shiroyama Park Observatory, The Shitsu Aid Center, Nagasaki

<長崎市、長崎>

【場所】旧出津救助院

【整備予定媒体】タッチパネル式案内板

できあがった英語解説文

Shiroyama Park Observatory

The cliffs that run along the Sumo Sea shoreline, created by wave erosion, can be viewed from this observatory. Visitors can appreciate the harsh environment that surrounds Sotome.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

城山公園展望所

角力灘の波が打ち寄せて断崖を形成する外海の海岸線を見渡せる展望所。外海の自然の厳しさを体感できます。

本事業以前の英語解説文

なし

五島列島ジオパーク推進協議会

1196

No. 1 Mt. Onidake

<五島ジオパーク、長崎>

【施設名】鬼岳

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

The Goto Islands are home to many volcanoes, and the largest island, Fukue, has a number of volcanic fields. One of the most prominent of these is the Mt. Onidake volcano group, comprised of eleven monogenetic basalt volcanoes (Daienji, Koba, Nagate, Masuda, Shimosakiyama, Hinodake, Kamiozu, Shiroadake, Sakiyamabana, Midake-Usudake, and Onidake). The oldest of these was active roughly half a million years ago, while the youngest, Onidake, was active as recently as 18,000 years ago.

In its early stages, Onidake produced lava flows and scoria falls. Scoria is a type of volcanic rock with many cavities caused by gas bubbles. Later, the vent generated wide-area scoria falls, and in the final phase it released several separate lava flows. During this period of activity, multiple scoria cones were created.

A 315-meter-high cinder cone covered with grass is all that remains. From the summit you can see the flattest stretch of land in the Fukue district. This plain, which includes much of the business center of Goto City, Fukue Port, and Fukue Airport, is a product of the considerable lava flow from the Onidake volcanic group.

Onidake has a gentle slope, and it is a relatively short, easy hike to the top. That vantage point offers a pleasant view not only of Goto City, but also of the surrounding area and many of the Goto Islands. Lower down, there is a picnic area and a lookout spot. Few places in these islands can rival Onidake for both geologic history and scenic beauty.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

福江島は、火山がひしめく五島列島最大の島であり、火山群が点在しています。中でも特に名高い鬼岳火山群は、11の玄武岩質の単成火山から成ります（大円寺火山、木場火山、長手火山、増田火山、下崎山火山、火ノ岳、上大津火山、城岳、崎山鼻火山、箕岳・臼岳、鬼岳）。最も古い火山が最後に噴火したのは約50万年前です。最も新しい鬼岳が最後に噴火したのは、わずか1万8,000年前です。

生まれて間もない鬼岳で、溶岩流とスコリア流が発生しました。スコリアとは火山岩の一種であり、気泡による穴だらけの構造をしています。その後、火道で広範囲にわたりスコリア流が作られ、最終的には溶岩流がいくつかに分かれて流出しました。この活動期に複数のスコリア丘が形成されました。

その形跡として唯一残されたのは、芝生で覆われた標高315mのスコリア丘です。頂上からは福江地区に広がる平地を一望できます。五島市の市街地の大部分や、福江港、福江空港などが占める平野部は、もともと鬼岳火山群からの大量の溶岩流によって形作られたものです。

鬼岳の傾斜は緩やかで、山頂への距離も短く、登るのに苦労はしません。頂上からは、五島市やその周辺地域、五島

列島の島々の美しい姿を望むことができます。下にはピクニックエリアや展望所があります。五島列島の中でも、鬼岳はとりわけ見事な景色や地質の歴史を有しています。

本事業以前の英語解説文

なし

1197

No. 2 Abunze Lava Coast

<五島ジオパーク、長崎>

【施設名】鐙瀬溶岩海岸

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Follow the path that leads downhill toward the ocean and climb to the top of the observation tower. You will see Mt. Onidake behind you and long stretches of dark black rock in both directions along the coast.

Blackened rocky coastlines are nothing unusual in the Goto Islands, but the Abunze Lava Coast has a special history. Some 18,000 years ago, Onidake erupted, and some of that lava flowed down to this area.

This lava, known as a'a, is rough in texture. When it cools, it creates large, uneven, black rocks, many pockmarked with holes where gas escaped from the solidifying ooze. This a'a lava also produces sharp, black fragments called clinkers, which are visible here among the larger rocks. Over the millennia, these all suffered erosion from the pounding ocean and were broken down further, creating volcanic rocks of all sizes and shapes.

The eruptions of Onidake and other nearby volcanoes produced this 7-kilometer-long jagged coastline which, thanks to the Tsushima Current, is the warmest place on the island. There are even subtropical plants growing here.

The name Abunze is quite unusual, meaning "stirrup shallows." An old story says that a local lord tried to escape an uprising against his rule in 1507, fleeing on horseback along the coast, but at this point one of his stirrups broke, and he was forced to escape in a fishing boat to a nearby island. He ultimately killed himself rather than be captured.

Thus was born the legend of the "stirrup shallows."

上記解説文の仮訳（日本語訳）

海から続く急な坂を登り、展望台の上まで達すると、背後に鬼岳が見えます。海岸沿いには黒ずんだ岩場が左右に広がっているのが見えます。

このような海岸線は五島列島では特に珍しくありませんが、鐙瀬溶岩海岸は特別な歴史を秘めています。鬼岳は約 1 万 8,000 年前に噴火を起こし、溶岩の一部が海岸まで流れてきました。

この種の溶岩はアア溶岩と呼ばれ、表面がざらざらとしています。冷めて固まると、大きくてこぼこした黒い岩石になります。岩石は、溶岩から出る気体を通った穴で覆われています。また、アア溶岩はクリンカーと呼ばれる黒く鋭い破片を作り出します。海岸ではより大きな岩石の間で見ることができます。長年かけて、打ち寄せる波の侵食により岩が細かく砕かれ、大小・形さまざまな火山岩が作られました。

鬼岳をはじめとする辺り一帯の火山の噴火は、7km に及ぶノコギリ状の海岸線を生みました。対馬海流のおかげで鐙瀬溶岩海岸の気温は島で最も高く、亜熱帯植物も生息しています。

鐙瀬という珍しい名前は「鐙の浅瀬」を意味します。言い伝えによると、1507 年、逆臣に追われる藩主が海岸で馬を

走らせていたところ、この場所で片方の鐙が切れてしまいました。藩主は漁船で近くの島に逃れたものの、捕らわれるよりはと、腹を切りました。「鐙の浅瀬」の言い伝えはこのようにして生まれたのです。

本事業以前の英語解説文

なし

1198

No. 3 Cape Osezaki

<五島ジオパーク、長崎>

【施設名】大瀬崎
【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Cape Osezaki is the westernmost point in the Goto Islands, which are themselves one of the westernmost points in Kyushu, so this spot is famous as one of the last places in Kyushu to watch the sun set into the East China Sea. The jagged promontory on which the lighthouse sits is a part of the Goto Group, an accumulation of sand and mud that hardened into rock in the area between the Asian mainland and the land mass that is now Japan. From the west (ocean) side, you can see a basalt dike—what appears to be several parallel grooves cut deeply into the rock face—and all around the sheer rock walls of this promontory there are similar but less pronounced grooves. This is all more evidence of the geological history of the Goto Group's accumulation of deposits from the continent.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

九州西端の五島列島の中でも、大瀬崎は最西端に位置します。九州で最も日没が遅い地域ということもあり、東シナ海に沈む夕日を望むスポットとして人気です。
灯台が立つゴツゴツした岬は、五島層群に属しています。五島層群とは、土砂の堆積物が固まって岩となったもので、アジア大陸と日本列島の間に位置しています。
岬の西側（海側）からは、玄武岩の岩脈が見えます。岩肌に平行に走る、何本もの深い亀裂に見えるものが岩脈です。規模はより小さいですが、ここ以外でも大瀬崎の岩壁では同様の亀裂を見ることができます。こうした痕跡は、大陸からの堆積物に由来する五島層群の、地質的な歴史を物語っています。

本事業以前の英語解説文

なし

1199

No. 4 Iana Lava Tunnel

<五島ジオパーク、長崎>

【施設名】井坑（溶岩トンネル）

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

A lava tube or tunnel is created when super-hot lava flows from a volcanic eruption. The inner core remains extremely hot, but the surface of the lava cools rapidly when it contacts either air or water. The cooling lava creates a quickly hardening “roof” while the hot inner core flows onward. When the lava disbursts at the far end, it leaves behind a tunnel.

Tomie has many lava tubes, but Iana is the largest one, stretching over 1,400 meters in total. Approximately 400 meters from the entrance, it narrows to about one meter and is filled with water.

Within this structure, researchers have discovered a variety of cave creatures that are either rare or unique to this locale, such as the fish, *Lucigobius albus*, a small, blind species of goby, which is in danger of extinction. It has been discovered in only one other place in all of Japan.

The Iana Lava Tunnel is not open to the public, but the large entrance is a popular tourist attraction.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

溶岩トンネルは溶岩洞とも呼ばれ、火山噴火により超高温の岩石が流出した際に作られます。溶岩の中心部は極めて高温を保ち続けますが、表面は空気や水に触れた瞬間、急速に温度が下がります。温度の下がった溶岩は、冷えた部分が急速に固まり「屋根」になりますが、高温の中心部は流れ続けます。溶岩が吹き出して途切れる所まで達すると、通った跡に洞窟が残ります。

富江には数多くの溶岩トンネルがありますが、その中でも井坑は最も規模が大きく、全長は1,400m以上に及びます。入り口から約400mの地点では、幅が1mほどまで狭まり、水で満たされています。

研究者たちは洞窟内部で様々な洞穴生物を発見しました。ハゼの小型な盲目種であるドウクツミズハゼなど、どれも珍種やこの地特有の生物ばかりでした。ドウクツミズハゼは絶滅危惧種に指定されており、日本国内では、ここも唯一箇所にしか生息していません。

「井坑」溶岩トンネルは一般の立ち入りが禁止されていますが、巨大な入り口は人気の観光スポットになっています。

本事業以前の英語解説文

なし

1200

No. 5 Tomie Stone Storehouse

<五島ジオパーク、長崎>

【施設名】富江陣屋
【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

This storehouse is one of the few buildings remaining of a large compound belonging to a feudal lord centuries ago. This 9 x 25 meter stone storehouse may be large, but it was a relatively small part of the total compound. It was used to store stocks of grains that had been paid as taxes to the lord's fief. One of those grains, rice, was commonly used as currency well into the Edo period (1603-1867), and as such, this building was something between a grain warehouse and a bank vault.

To preserve the stocks of rice and other grains, the storehouse was built from basalt, a type of volcanic rock found in almost all of the Tomie area. Large slabs of basalt were hewn, chiseled, and carefully shaped into building blocks. No mortar was used to hold the blocks together. This style of precisely fitted stonework was a very laborious and expensive construction technique and was normally used only for the storage of very important grains.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

数世紀前、藩主が大規模な陣屋を所有していましたが、石蔵はそこに残された建物の一つです。9m x 25m という大きさですが、陣屋全体から見るとほんの一部に過ぎません。石蔵は、藩への年貢として納められていた穀物を備蓄するために使われました。その中でも、米は江戸時代（1603年～1867年）に入ってから通貨として広く使用されており、石蔵は穀物庫と銀行の金庫室の役割を兼ね備えていました。

年貢米など、備蓄する穀物の保存状態を保つため、石蔵は玄武岩で作られています。玄武岩は火山岩の一種で、富江地区のいたる所に存在します。玄武岩から切り出された大きな石板はのみで加工され、丁寧に建築用ブロックに仕上げられます。石材を繋ぎ合わせるためにモルタルは使われていません。こうした緻密な石造建築技術は多大な労力と費用を要するので、特に重要な穀物を保存する目的に限って使用されることがほとんどでした。

本事業以前の英語解説文

なし

1201

No. 6 Freshwater Fossils

<五島ジオパーク、長崎>

【施設名】淡水貝化石

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

What is most interesting here is not simply this outcropping of rocks, but what lies half-buried within them, something significant enough to make Goto City designate these rocks a natural monument.

On many of the flat surfaces here you can see shells—spiral shells and flat (bivalve) shells. Fossilized shells buried within rocks are unusual to begin with, but these particular shells are from freshwater shellfish. That means the sand and mud layers that created these rocks were at some point under a body of fresh water when Japan was separated from the Asian mainland tens of millions of years ago.

Similar shell fossils have been found in nearby sites in other parts of Nagasaki Prefecture, leading scholars to believe that the strata of dirt and sand that formed this land were once at the bottom of a shallow freshwater lake or river on the continent. That makes this site of particular interest not only to geologists, but also to travelers who might want to pause a moment to look at these shells from far away in both time and place, and ponder how they got here.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

露出した岩も興味深いです、それ以上に関心を引くものがあります。岩に体の一部が埋まっていて、五島市がその岩自体を天然記念物に指定するほど重要なものです。

ここで見られる岩の平らな表面には、ところどころに巻き貝や二枚貝の貝殻が埋まっています。岩の中で化石化した貝というだけでも珍しいのですが、この貝は淡水貝であるという特徴を持っています。淡水貝が存在するということは、数千万年前、日本列島がまだアジア大陸と分かれていた時代に、岩のもとになった土砂の層が、ある時点で淡水に沈んでいたことを意味します。

このような貝の化石は、ここから近い長崎県内の他の場所でも見つかっており、学者たちはこの地を形成した土砂の地層が、かつて大陸の浅い淡水湖か淡水川の底に沈んでいたのではないかと考えています。このような特徴により、地質学者だけでなく多くの旅行者がこの地に惹き付けられています。足を止めて、大昔に遠く離れた場所からやって来た貝の化石を眺め、そこに至った歴史に思いを馳せてみるのはいかがでしょうか。

本事業以前の英語解説文

なし

1202

No. 7 Senjojiki Rocks on Saganoshima Island

<五島ジオパーク、長崎>

【施設名】嵯峨島千畳敷

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

The Senjojiki Rocks are a broad, open area of hardened black tuff made of compressed ash, sand, and small rocks expelled from a volcano, bordered by ocean on one side and walls of neatly layered sedimentary rock on the other. The open part is not completely flat, but is easy to walk on and devoid of vegetation. The layers of rock are unusually distinct and easily visible, resembling geological tree rings.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

千畳敷は、黒い凝灰岩により作られた、広々とした空間です。凝灰岩とは、火山が噴出した灰や砂、小石が圧縮され形成されたものです。片側には海、もう片側には堆積岩が綺麗な層を成す岩壁が広がっています。開けた部分は一部に起伏がありますが、植物も生えておらず歩きやすいです。岩の層は年輪のような模様をしており、一目でそれと分かります。

本事業以前の英語解説文

なし

1203

No. 8 Tatekojima Island

<五島ジオパーク、長崎>

【施設名】立小島

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Ages ago, a section of the Earth's crust in the area that is now the Goto Islands was deformed (diastrophism), and part of a compressed layer of mudstone and sandstone was forced downwards. Bent in this way, parts of its upper surface broke off or were washed away due to erosion. What remained were the broken ends of the stratum that had descended into the earth. Here at Tatekojima Island you can see these broken ends protruding upwards almost vertically, and different layers of rock formed from deposits of mud and sand are easily visible.

Tatekojima is just a small outcropping of this geological stratum called the Goto Group, which is the subterranean foundation of the Goto Islands.

The rocky outline of Tatekojima appears to be separated from the mainland by a narrow channel. In fact, the channel is quite shallow, and when the tide is low the rocky spine connecting the main island of Fukue to Tatekojima becomes visible. If you time it correctly, you can walk from Fukue across the exposed rock to Tatekojima with just a pair of waterproof boots and explore millions of years of geological history for yourself.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

遙か昔、今日の五島列島に相当する地帯を構成する地殻の一部が変形し（地殻変動）、圧縮された泥岩と砂岩の層が下に押しやられました。こうして湾曲した地殻は、表面が裂けたり侵食によって流失しましたが、裂けて地殻に沈み込んだ地層の、端の部分だけは残りました。ここ立小島では、その地層がほぼ垂直に突き出している姿が見られます。土砂の堆積物で形成された、様々な岩の層を気軽に見ることができます。

立小島は、五島層群と呼ばれる地層のほんの一角にすぎません。五島層群は五島列島の構造を地中で支えています。

立小島のごつごつした輪郭を見ると、福江島とは狭い海峡で隔てられているような印象を受けます。しかし実際には海峡の水深はかなり浅く、干潮時には立小島と福江島とを結ぶ岩の連なりが姿を現します。タイミングが良ければ、出現した岩を長靴で歩き、福江島から立小島まで渡ることができます。数百万年に及ぶ地質の歴史を、ご自分の目でお確かめください。

本事業以前の英語解説文

なし

1204

No. 9 Shirotake Scenic Overlook

<五島ジオパーク、長崎>

【施設名】城岳からの展望

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

One of the best places on Fukue Island to see several of the Goto Islands as well as a panorama of geological history is this scenic overlook, named for a castle built here in 1383. Although the Shirotake Scenic Overlook is only a little over 200 meters high, it shows clearly that massive lava flows spread out and created the plains below. This area was originally part of the Goto Group geologic stratum and probably had a jagged, rough surface much like the rocky islet of Tatekojima, which is visible off to the left. Somewhere around 900,000 years ago, a volcanic eruption released a huge outflow of lava, which covered this rocky surface. When the lava flows subsided, what remained was a broad, flat plain, what is now the Kishuku Lava Plateau. Over a long period of time, this land became rich, fertile soil and the jagged rocks of the coastline formed from the lava became home to various kinds of fish, shellfish, and so on.

The contrast between the sharp spikes of Tatekojima Island and the smoother surface of the plateau provides a vivid “before and after” view of volcanic activity.

For an even better view of this scene, climb the stairs to the tower behind the Overlook. It has its own observation deck with a spectacular panoramic view of the area. From there you can easily see Shiraishi Bay and other inlets to the left of this scene, which served as safe harbors for sailing ships transporting scholars and Buddhist monks back and forth to China over 1,000 years ago. For centuries, the Goto Islands served as a gateway, helping to facilitate the exchange of goods and learning between the Chinese and Japanese civilizations of the time.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

福江島で、五島列島の島々や地質の歴史が作り出した景色を眺めるには、城岳展望所がうってつけです。展望所の名前は、1383年にこの場所に建てられた城に由来します。城岳展望所の標高は200mをわずかに上回るに過ぎませんが、麓に広がる平地が、流出した大量の溶岩流により形作られたことを確認するには十分です。

ここ一帯はかつて五島層群の地層の一部であった場所であり、向かって左に見える岩のような立小島と同様、もとの地表は起伏に富んでいたと考えられています。約90万年前、火山の噴火によって大量の溶岩が流出し、後に岩場となる地表を覆い尽くしました。流出が収まると、八朔台地と呼ばれる広大な平地が残されました。長い時を経て、この地は豊かで肥沃な土壌に恵まれるようになり、溶岩が形成した海岸部のゴツゴツした岩場には、様々な魚介類などが生息するようになりました。

起伏の激しい立小島の姿と、平たい台地の姿が成すコントラストは、火山活動の「ビフォア&アフター」をありありと表現

しています。

さらに良い景色を求めるなら、展望所の裏手にある塔への階段を登りましょう。展望デッキから辺り一帯の絶景を眺めることができます。ここからは、左手に白石湾などの入り江がよく見えます。千年以上前、入り江は中国への学者や仏僧を運ぶために往来する帆船の、安全な泊地として使われていました。五島列島は何世紀にもわたって玄関口としての役割を果たし、それぞれの時代において、日本と中国の両文明による文物のやり取りに貢献してきました。

本事業以前の英語解説文

なし

1205

No. 10 Shiraragahama Ancient Ripple Marks

<五島ジオパーク、長崎>

【施設名】白良ヶ浜の漣痕

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

The sedimentary layer of the Earth's crust that formed these islands, a geologic stratum called the Goto Group, was composed of highly compressed sand, mud, and other materials. At the time it was being formed, it was under a shallow body of water. Eons of pressure from accumulating layers of mud and sand pressed these ripple imprints into this pattern.

The rocks we see here were originally part of that horizontal stratum, but deformations in the Earth's crust bent this multilayered stratum downwards. Over time, the top layer was stripped off by wind or water erosion, exposing the ripple patterns we see here.

The site was declared a Natural Monument by Nagasaki Prefecture in 1959, but now that the surface has been exposed to the elements for many years, the ripple pattern has begun to fade.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

五島列島を形成した地殻の堆積層は五島層群と呼ばれており、強く圧縮された土砂やその他の物質で構成されていました。形成段階にあった堆積層は、浅瀬の水底に沈んでいました。長年にわたって堆積した土砂層から圧縮を受けたことにより、漣痕にはこのような模様が生じました。

この辺りの岩石は、もともと水平な堆積層の一部でしたが、地殻変動により地層が複数層にわたって下向きに湾曲しました。やがて表層部が風や水による侵食で裂かれ、ここで見られる漣痕が露出するに至りました。

白良ヶ浜は 1959 年、長崎県により天然記念物に指定されましたが、長年岩肌が雨風に曝されたことにより、漣痕は消失し始めています。

本事業以前の英語解説文

なし

1206

No. 11 Arakawa *Onsen* Hot Spring

<五島ジオパーク、長崎>

【施設名】荒川温泉

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Other *onsen* hot springs are found on Fukue Island, but most are a result of drilling 1,000 meters or more down in search of hot water. Arakawa *Onsen* Hot Spring is the area's only natural hot spring.

Arakawa is interesting geologically because it is a non-volcanic hot spring, which is unusual, as most island hot springs tend to be volcanic in origin. In a non-volcanic hot spring, water seeps into the Earth, where it is heated and then pushed back up to the surface by subterranean gas pressure.

Hot springs have different geological origins, and Arakawa is categorized as a “green tuff” type. In this type, the hot water originates in an underground layer of greenish-hued volcanic ash (tuff) that accumulated after an eruption and was compacted into rock over time. Green tuff is found all along the coast of the Sea of Japan. It was formed at the bottom of a giant lowland area that existed perhaps 20 million years ago between the Eurasian continent and what is now the Sea of Japan. Many volcanic eruptions occurred within that lowland area, and the material ejected as ash eventually became green tuff.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

福江島の温泉は荒川温泉だけではありませんが、その多くは熱湯を得るために1,000m以上掘削して作られたものです。荒川温泉は地域で唯一の天然温泉です。地質的に見て荒川温泉が興味深いのは、島にある温泉なのにも関わらず、非火山性であるという点です。島の温泉はたいてい火山性なのです。非火山性温泉では、地中に下りた水が熱せられ、地下ガスの圧力によって再び地表まで押し上げられます。

温泉の地質的な由来は様々で、荒川温泉は「緑色凝灰岩型（グリーンタフ型）」に分類されます。この種の温泉は緑色凝灰岩から成る地層を泉源とします。緑色凝灰岩とは、噴火後に緑色を帯びた火山灰（凝灰岩）が堆積し、時間をかけて岩に圧縮されたものです。日本海沿岸全域に分布しています。

緑色凝灰岩は約2,000万年前、ユーラシア大陸と今の日本海に相当する場所との間に存在した、広大な低地の底で形成されました。低地ではしばしば噴火が発生し、火山灰として噴出された物質は、やがて緑色凝灰岩になりました。

本事業以前の英語解説文

なし

1207

No. 12 Tarojima Island

<五島ジオパーク、長崎>

【施設名】多郎島
【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Lava has always been plentiful in the Goto Islands. The earliest settlers here were surely familiar with the black rocks they saw everywhere.

These ancients developed an ingenious way of using lava rocks to catch fish. They waded out into the shallow bays and used small rocks to build walled-in spaces among the subsurface lava. The walls were designed to be near the waterline at high tide. When the tide came in, a few fish might swim into the walled area. All the fishermen had to do was wait for the tide to go out again. The fish would be trapped inside, with less and less water to swim around in, and could be caught easily by hand or with primitive nets or spikes.

People in the Tomie area called this “shallows fishing.” If you would like to try it for yourself, the SanSan Tomie Camp Village nearby has a program to give visitors a taste of shallows fishing.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

昔から五島列島には溶岩が豊富に存在します。最初に島を拓いた先人たちは、島中で見られる黒い岩石に慣れ親しんでいたことでしょう。

彼らは溶岩石で魚を捕らえる独創的な方法を編み出していました。まず、入り江の浅瀬に入り、小石で水面下の溶岩どうしを結んで囲いを作ります。囲いは満潮時の水面の高さに調整します。潮が満ちると魚が囲いに入ります。漁師は再び潮が引くのを待つだけです。水面が下がり泳ぎ回れなくなった魚は中に閉じ込められ、素手でも原始的な網や鉤でも簡単に捕まえることができました。

富江の人々はこの漁を「すけ漁」と呼んでいました。挑戦してみたいという方には、近くの「さんさん富江キャンプ村」にて、「すけ漁」を体験する教室が開かれています。

本事業以前の英語解説文

なし

1208

No. 15 Horse and Ox Rocks

<五島ジオパーク、長崎>

【施設名】馬瀬・牛瀬
【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

This V-shaped outcropping, which gives these rocks their name, is both historically and geologically significant. On the right is the rock known as the Ox, composed mostly of sandstone, which means it was part of the Goto Group stratum. This stratum, which formed a little over 15 million years ago, consists of accumulated deposits from the time period when the landmass that became Japan separated from the Asian mainland about 20 million years ago. The Horse rock on the left is a basaltic dyke, meaning magma that has cooled down inside the Earth.

It appears that the basaltic rock on the left intruded, or pushed through, the sandstone on the right, and the effects of this intrusion are visible in the sandstone.

The unusual names of the rocks derive from a meeting held centuries ago to determine the border between two rival clans. The representative from Tomie came by ox, while the one from Fukue rode a horse. They met at this spot and agreed that henceforth it would be the border between their fiefs. They decided on a line from the rocks out towards a neighboring island to identify their respective fishing zones. Even today these rocks mark the border between the districts of Tomie and Fukue in Goto City.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

馬瀬・牛瀬は、歴史的にも地質的にも重要な意味を持っており、その名前はV字型の岩の形に由来します。右手の岩が牛瀬と呼ばれ、主な成分は砂岩です。これは、岩が過去に五島層群の一部であったことを意味します。馬瀬・牛瀬の地層は1,500万年以上に形成されました。その成分は、今の日本に相当する陸地が約2,000万年前にアジア大陸から分かれる過程で溜まった堆積物です。左手の馬瀬は玄武岩質の岩脈で、地中のマグマが冷めてできたものです。

左の馬瀬は右の牛瀬に、貫入（貫通）していることが分かります。貫入による影響は牛瀬に見て取ることができます。珍しい岩の名前は、何世紀も前に、対立する藩同士が境界を決めるために開いた会合に由来します。富江藩の代表者は牛で到着し、福江藩の代表者は馬で現れました。両者はこの場所で会合を開き、以後、岩を領地の境界線にすることで合意しました。岩から付近の島に向かって伸びる直線を、漁場を分ける基準とすることに決めました。今日も、岩は五島市の富江地区と福江地区の境界を示しています。

本事業以前の英語解説文

なし

1209

No. 16 Mt. Onidake

<五島ジオパーク、長崎>

【施設名】鬼岳

【整備予定媒体】Web サイト

五島ジオパーク Web サイト内に来年度制作予定

<http://www.city.goto.nagasaki.jp/contents/special/index0001.php>

できあがった英語解説文

A View from a Volcano

The Goto Islands are home to many volcanoes, and the largest island, Fukue, has a number of volcanic fields. One of the most prominent of these is the Mt. Onidake volcano group, comprised of eleven monogenetic basalt volcanoes. The youngest of these, Onidake, was active as recently as 18,000 years ago.

Onidake is a 315-meter cinder cone covered with grass. The top of what is often translated as “Ogre Mountain” is truncated, with a deep crater inside, the result of the last eruption. About every three years the top of Onidake is burned, so there are no trees or large scrub growing there.

Hiking on a Volcano

It is an easy walk up clearly marked stairs from the parking lot to the first level, which is also covered with grass, and there is a pleasant roofed picnic area and a lookout spot with giant binoculars on a stand. From here you can see the plain below, which includes much of the business center of Goto City, Fukue Port, and Fukue Airport. This broad, flat land is a result of the considerable lava flow from the Onidake volcanic group tens of thousands of years ago.

From the picnic area, it is a short, not very strenuous hike up to the summit on a well-trodden path. Once at the top, you can see not only the Fukue district, but also the Gotonada Sea, the East China Sea, and some of the more than 100 islands and islets that constitute the Goto Islands.

Go Fly a Kite!

One thing you will notice at any level on the mountain is the constant breeze, and at the summit it is quite strong. The winds and the soft grass make this area ideal for flying kites, and there is an annual event for both children and adults. You will see replicas of some of the colorful kite designs in nearby gift shops, restaurants, and other tourist locations. Many places in town even sell kites, so if you're planning to visit Ogre Mountain, you might want to try your hand.

Next to the parking lot is the Onidake Observatory. Perched on a hillside near a small grove of cherry trees, the

observatory is open to the public. For a small fee and a reservation by phone (same-day reservations are OK), you can use their telescope to look at the stars from the side of a volcano. The staff can provide an introduction to astronomy for those who are interested.

Volcanic history, scenic views, picnics, kite-flying, and star-gazing: Few places in these islands can rival Onidake for both geologic history and interesting activities.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

火山からの眺め

福江島は、火山がひしめく五島列島最大の島であり、火山群が点在しています。中でも特に名高い鬼岳火山群は、11の玄武岩質の単成火山から成ります。最も新しい鬼岳が最後に噴火したのは、ほんの1万8,000年前です。

鬼岳は標高315mのスコリア丘で、芝生に覆われています。「鬼の山」とも訳されるこの山は、最後の噴火によって頂上が切り取られた形をしており、中には深い火口跡が穿たれています。頂上ではおよそ3年ごとに野焼きが行われるため、木々や背の高い藪が育つことはありません

火山への登頂

駐車場から展望台までは、見つけやすい階段から楽に登ることができます。展望台には大型の双眼鏡が設置されています。屋根付きのピクニックエリアもあり、周りは芝生で覆われています。麓の平地に目をやると、五島市の市街地や福江港、福江空港が目に入ります。何万年も前に鬼岳火山群から流出した大量の溶岩流により、広大な平地が形作られました。

ピクニックエリアから頂上へは通路を通ってすぐなので、大して体力は使いません。頂上からは、福江地区だけでなく、五島灘や東シナ海、100以上の島々から成る五島列島を一望することができます。

凧揚げに挑戦！

鬼岳は標高に関わらず絶え間なく風が吹いており、特に頂上では強風が吹き付けます。風に加えて柔らかい芝生という条件は、凧揚げに最適です。年に一度、子供も大人も楽しめるイベントが開催されています。付近のギフトショップやレストラン、その他観光施設では、彩り豊かな凧のレプリカを見かけます。凧は街のいたる所で購入できるので、鬼岳にお越しになった際には、ぜひ凧揚げに挑戦してみてください。

駐車場の隣には鬼岳天文台があります。山の斜面に佇む鬼岳天文台の傍らには、小さな桜の木立が見えます。天文台は一般入場が可能で、望遠鏡を使って山腹から星を観察することができます。電話予約が必要ですが（当日予約可）、入場料はわずかです。興味があれば、スタッフに天文学の説明を受けることもできます。

火山の歴史、美しい景色、登山、凧揚げ、星空観察など、これほど素晴らしい地質の歴史とアクティビティが両立した場所は、鬼岳を除いて、五島列島にもそうそうありません。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】燈瀬溶岩海岸

【整備予定媒体】Web サイト

五島ジオパーク Web サイト内に来年度制作予定

<http://www.city.goto.nagasaki.jp/contents/special/index0001.php>

できあがった英語解説文

Sub-tropical Lava Coast

Not far from the Abunze Visitor Center, a path leads downhill toward the ocean. Following this path brings you to a coastline unlike most in Japan. To get a better view, climb to the top of the observation tower. Behind you is the truncated form of Mt. Onidake, the largest mountain in the area, and if you look in both directions along the coast, you can see long stretches of dark black rocks at the water's edge. Although the approach to the coastline is green and covered with flora, that stops abruptly, and there is no vegetation on these rocks.

A Recent Eruption

Blackened rocky coastlines are nothing unusual in the Goto Islands, but the Abunze Lava Coast has a special history. Some 18,000 years ago, when Onidake or another nearby volcano erupted, some of the lava from that event flowed down to this spot.

This type of lava, known as a'a, is rough in texture. When it cools, it creates large, uneven, black rocks, many pockmarked with holes where gas escaped from the solidifying ooze. This a'a lava also produces sharp, black fragments called clinkers, which are visible here among the larger rocks. Over the millennia, these all suffered erosion from the pounding ocean and were broken down further, creating a broad stretch of volcanic rocks of all sizes and shapes.

The eruptions of Mt. Onidake and some other nearby volcanoes produced just such a phenomenon, creating this 7-kilometer-long jagged coast with more than half a dozen tiny bays. Today, thanks to the Tsushima Current, the Abunze Coast is the warmest place on the island. There are even subtropical plants growing here.

Feudal Lord's Escape Route

One more unusual element here is the name: the characters mean something like "stirrup shallows," which implies that this coastline has some connection with horses. According to an old story, a local lord tried to escape an uprising against his rule back in 1507. Fleeing on horseback, he rode along the coast, but just at this point one of his stirrups broke and he was forced to escape in a fishing boat to a nearby island. Ultimately, he killed himself rather than be

captured. Thus was born the legend of “stirrup shallows.”

Regardless of the old historical tales, the spot is definitely worth a visit, either before or after checking out the Visitor Center nearby to get an overall picture of the Goto Islands, their geography, wildlife, flora, and geological origins.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

亜熱帯の溶岩海岸

鐙瀬ビジターセンターから少し離れた所に、海岸まで下る小道があります。小道の先にある海岸部の景色は、とても日本のものとは思えません。展望台に登ると、辺りを一望することができます。背後には地域で最高峰の鬼岳が見え、頂上部分が切り取られた形になっているのが分かります。海岸線を左右に見渡すと、波打ち際に黒い岩石が連なっています。海岸に続く道には植物が生い茂っていますが、途中で途切れており、そこから先の岩場には植物が見当たりません。

最後の噴火

黒ずんだ岩場が並ぶ海岸線は五島列島では特に珍しくありませんが、鐙瀬溶岩海岸は特別な歴史を秘めています。鬼岳をはじめとする付近の火山が約 1 万 8,000 年前に噴火を起こし、溶岩の一部が海岸まで流れてきました。この種の溶岩はアア溶岩と呼ばれ、表面がざらざらしています。冷めて固まると、大きくでこぼこした黒い岩石になります。岩石は、溶岩から出る気体を通った穴で覆われています。また、アア溶岩はクリンカーと呼ばれる黒く鋭い破片を作り出します。海岸ではより大きな岩石の間で見ることができます。長年かけて、打ち寄せる波の侵食により岩が細かく砕かれ、大小・形さまざまな火山岩が分布するようになりました。

鬼岳をはじめとする辺り一帯の火山の噴火は、火山岩のみならず、7km に及ぶノコギリ状の海岸線や、いくつもの入り江を作り出しました。対馬海流のおかげで鐙瀬溶岩海岸の気温は現在島で最も高く、亜熱帯植物も生息しています。

藩主の逃げ道

鐙瀬のもう一つの特徴は、その名前の由来です。「鐙の浅瀬」を意味し、海岸と馬との関連を示唆しています。言い伝えによると、1507 年、謀反を起こされた藩主が逃亡を試みました。藩主は海岸で馬を走らせていましたが、この場所で片方の鐙が切れてしまいました。漁船で近くの島に逃れたものの、捕られるよりはと、腹を切りました。「鐙の浅瀬」の言い伝えはこのようにして生まれたのです。

歴史的な言い伝えなど予備知識の有無に関わらず、鐙瀬溶岩海岸は必見のスポットです。もちろん、ビジターセンターで五島列島の地理や動植物、地質的な由来など、全体像を掴んでからでもお楽しみいただけます。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】大瀬崎

【整備予定媒体】Web サイト

五島ジオパーク Web サイト内に来年度制作予定

<http://www.city.goto.nagasaki.jp/contents/special/index0001.php>

できあがった英語解説文

A Uniquely Interesting Spot to Watch the Sun Set

The Goto Islands are one of the westernmost parts of Kyushu, and Cape Osezaki is the westernmost part of the Goto Islands. Aside from the islands of Okinawa, this is the last place the setting sun can be seen in Japan.

A Picturesque Lighthouse Stands Alone

At the end of this point of land is a large lighthouse, one of the brightest in Japan, standing alone against the crashing wind and waves of the East China Sea. If you make the trek to the lighthouse, there is an observation deck, which has a magnificent view of the surrounding scenery. On clear days you can see the Danjo Islands far out to sea.

Parallel Dikes

The lighthouse sits on a jagged promontory jutting out from the coast. This chunk of rock is part of the Goto Group, an accumulation of sand and mud that were deposits from mainland Asia. During the Tertiary period, the Goto Group deposits filled the space between the mainland and the land that became Japan.

Viewed from the west (ocean) side, you can see a basalt dike—what appear to be several parallel grooves cut deeply into the rock face. All around the sheer rock walls of this promontory we can see a pattern of similar but less pronounced grooves.

Rare Flowers

This promontory is famous for flowers and birds. The ladybell, shimashajin (*Adenophora tashiroi*) is classified as endangered by the Ministry of Environment. These tiny, bright purple flowers grow in the open fields of Osezaki and nowhere else on the Goto Islands. You can find some growing within easy reach quite close to the lighthouse.

The purple blooms generally flower from mid-September to early November.

Ten Thousand Birds en Route to China

The other attraction of Osezaki is the flocks of migrating birds that pass overhead in the fall, especially the Oriental

or crested honey buzzards (*Pernis ptilorhynchus*). These are quite large birds of prey with wingspans of well over a meter, so they are easy to see. In a period of just a few weeks between mid-September and early October, over 10,000 buzzards will pass overhead on their way west. The buzzards fly all the way down through China and beyond even to Indonesia. You can easily see hundreds flying overhead in a single day.

Worth a Visit!

At first glance, the Cape may look desolate and uninteresting, but between the majestic lighthouse, the interesting rock formations, the unusual local flowers, and the flocks of large birds flying overhead, the area has a combination of charms that make it well worth a visit.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

他では見られない夕日スポット

九州西端の五島列島の中でも、大瀬崎は最西端に位置します。沖縄の島々を除けば、日本で最後に夕日が沈む場所です。

一人佇む、絵画のような灯台

岬の先には大きな灯台が立っており、そこから放たれる光は日本最大級の明るさで知られます。一人佇む灯台は、東シナ海から吹き付ける波風に曝されています。灯台まで足を進めると展望台に至り、周囲の雄大な景色を一望することができます。晴れた日には、海の彼方に男女群島が見えます。

並行に走る岩脈

灯台は、海岸から突き出た大瀬崎の先端にそびえています。ゴツゴツした岩の塊とも言える岬は五島層群に属しており、アジア大陸から来た土砂が堆積して作られました。第三紀に、日本列島のもとになった地形と、アジア大陸との隙間に堆積してできたのが、五島層群です。

岬の西側（海側）からは、玄武岩の岩脈が見えます。岩肌に平行に走る、何本もの深い亀裂に見えるのが岩脈です。規模はより小さいですが、ここ以外でも大瀬崎の岩壁では同様の亀裂を見ることができます。

珍しい花

大瀬崎は花や鳥でも有名です。日本のレディーベルであるシマシャジン（学名 *Adenophora tashiroi*）は環境省により絶滅危惧種に指定されています。シマシャジンは明るい紫色の小さな花で、五島列島では大瀬崎の野原にしか自生していません。灯台から歩いて行ける場所でも見ることができます。開花時期は9月中旬から11月上旬です。

中国へ向かう1万の鳥

秋にはハチクマ（学名 *ペルニス・プティロリユクス*）など、空を飛び抜ける渡り鳥の群れを見ることができ、大瀬崎の名物になっています。ハチクマは翼幅1mをゆうに超える巨大な猛禽類であり、一目でそれと分かります。9月中旬から10月上旬にかけて、数週間の間に1万羽以上が西に向けて飛び去っていきます。ハチクマは中国を横断して、インド

ネシアにまで達します。苦労せずとも、1日のうちに数百羽が飛ぶ姿を見ることができます。

ぜひお越しを！

一見、退屈で寂しい場所に見える大瀬崎ですが、灯台の雄大さや岩壁の興味深い歴史、珍しい花々や頭上を飛び交う巨大な鳥の群れなど、大瀬崎は人を惹き付ける魅力に溢れています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】井坑（溶岩トンネル）

【整備予定媒体】Web サイト

五島ジオパーク Web サイト内に来年度制作予定

<http://www.city.goto.nagasaki.jp/contents/special/index0001.php>

できあがった英語解説文

Largest Lava Tunnel in the Goto Islands

A lava tunnel (also called a lava tube) is essentially a tunnel created when super-hot lava flows from a volcanic eruption. As the lava flows, it melts everything in its path, including rock. The inner core of the flow remains extremely hot (some calculations say it cools only 1 degree Celsius per kilometer of travel), but the surface of the flow begins to cool rapidly when it contacts either air or water. This process creates a strange geologic phenomenon in which the cooling lava forms a quickly hardening “roof” while the hot inner core melts its way onward. In most cases, the lava disbursts at the far end, leaving behind a hollow space where it once flowed.

Long, Dark, and Full of Seawater

Because of Tomie’s volcanic history, it has many such lava tunnels. The largest one is Iana, which stretches over 1,400 meters in total. Approximately 400 meters from the wide entrance, the tunnel narrows to about one meter and is filled with seawater, which indicates an underground connection to the ocean.

Rare Cave Creatures

Aside from its considerable size, this lava tunnel is special because researchers have discovered within it a variety of cave creatures that are either rare or unique to this locale. For example, where water has collected in the darkened tunnel, there are tiny marine animals. One interesting resident is the fish *Lucigobius albus*, a very small, blind species of goby, which is so rare that it is considered in danger of extinction. It has been discovered in only one other place in all of Japan.

Out of concern for safety, the Iana Lava Tunnel is not open to the public, but the large entrance, which affords a good view into the interior, is a popular tourist attraction.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

五島列島最大の溶岩トンネル

溶岩トンネル（溶岩洞ともいいます）とは、火山噴火により超高温の溶岩が流出した際に作られる洞窟です。溶岩は進路上のあらゆるものを溶かして流れます。岩も例外ではありません。溶岩の中心部は極めて高温を保ちますが（ある計算によると、1km進むごとにわずか1度しか下がりません）、表面は空気や水に触れた瞬間、急速に温度が下がります。溶岩のこうした特性により、不思議な地質現象が起こります。温度の下がった溶岩は、冷えた部分が急速に固まって「屋根」になり、高温の中心部は流れ続けます。多くの場合、溶岩が吹き出して途切れると、流れた跡に空洞が残ります。

長く、暗く、海水で満たされた空間

過去の火山活動により、富江には溶岩トンネルが数多く存在します。その中でも井坑は最も規模が大きく、全長は1,400m以上に及びます。広い入口から入って約400mの地点では、洞窟の幅が1mほどまで狭まり、海水で満たされています。海水の存在は、洞窟が地下で海と繋がっていることを示しています。

珍しい洞穴生物

井坑の特徴はその大きさだけではなく、研究者たちが洞窟内部でこの地特有の珍しい生物など、様々な洞穴生物を発見しているのです。例えば、洞窟の暗い場所に溜まった水には、小型の海洋動物が生息しています。洞窟に定住するドウクツミズハゼは、とても小さな盲目種のハゼです。興味深い魚ですが非常に珍しく、絶滅危惧種に指定されています。発見されている場所は、日本国内でここを含めて2箇所だけです。

安全上の懸念から、「井坑」溶岩トンネルは一般の立ち入りが禁止されています。しかし、巨大な入り口からは内部を良く見渡すことができ、人気の観光スポットになっています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】富江陣屋

【整備予定媒体】Web サイト

五島ジオパーク Web サイト内に来年度制作予定

<http://www.city.goto.nagasaki.jp/contents/special/index0001.php>

できあがった英語解説文

A Lord's Storehouse

This storehouse is one of the few buildings remaining of a large compound belonging to a feudal lord centuries ago. This storehouse was used for holding the grains paid as tax to his fief, such as barley and millet. The building is essentially a cross between a grain storehouse and a bank vault.

Rock-solid Construction

The building is made of basalt, which is found in almost all of the Tomie area. The rock was quarried somewhere nearby, probably moved in large slabs, then hewn, chiseled, and carefully shaped into blocks which were used to build the walls of the storehouse without using mortar. This style of precisely fitting stones was the most laborious and most expensive building technique at the time and was used for the storage of important grains.

An Artful Building

The construction method itself was an art form that involved matching precisely shaped blocks so that they fit together perfectly. In many of the walls there is not even enough room to insert a credit card between the blocks. No mortar was used to hold the blocks together, only gravity. And yet, despite many strong storms, the walls have stood for three and a half centuries.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

藩主の石蔵

数世紀前、藩主が大規模な陣屋を所有していましたが、石蔵はそこに残された建物の一つです。石蔵は藩への年貢として納められていた大麦やキビなど、穀物の保存に使用されました。石蔵は穀物庫と銀行の金庫室の役割を兼ね備えていました。

頑丈な建築物

石蔵は玄武岩で作られています。玄武岩は富江地区のいたる所に存在します。近くのどこかで採取された石は、恐らく大きな石板に分けて運び込まれ、石材として切り出され、のみで加工された後に、丁寧に建築用ブロックに仕上げられました。石蔵は、この石材をモルタルを使わずに積み上げて建築されました。こうした緻密な石造建築技術は、当時最も大きな労力と費用を要するものだったので、重要な穀物を保存する目的で使用されていました。

精巧な建造物

この建築手法では、精密な加工を行った石材を隙間なく組み合わせる必要があります、その技術は芸術的とも言えます。ほとんどの壁は、石材の間にクレジットカード 1 枚の隙間もありません。石材は重力だけで繋ぎ合わされており、モルタルは使われていません。それに加えて幾多の嵐に曝されてきたにも関わらず、石壁は 3 世紀半が経った今でも、その形を留めています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】淡水貝化石

【整備予定媒体】Web サイト

五島ジオパーク Web サイト内に来年度制作予定

<http://www.city.goto.nagasaki.jp/contents/special/index0001.php>

できあがった英語解説文

Fossilized Shells Preserved in Rock

Along a seaside road on Naru Island, an outcropping of sharp rocks juts up from the ground at roughly 45 degrees. Even to the untrained eye there are clearly defined layers of different types of rock. But it is what lies half-buried within these rocks that is most interesting and is the reason this site is recognized as a natural monument by Goto City.

Shells Trapped in Rock

On many of the flat surfaces, both vertical and horizontal, you can see shells, the same kinds you might expect to find at a beach. There are spiral shells and flat (bivalve) shells, many small ones of both types and a few larger bivalves. Finding fossilized shells buried within such rocks is unusual to begin with, but these shells are the remains of freshwater shellfish.

The evidence of these fossilized shellfish means that the layers of sand and mud that formed this rock stratum were at some point in the past under a body of fresh water. Similar shell fossils have been found in nearby sites, not only in the Goto Islands, but also in parts of northern Nagasaki Prefecture.

As a result, scientists suggest that the strata of dirt and sand that formed this land were once at the bottom of a shallow freshwater lake or river that stretched for approximately 100 kilometers.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

岩の中で保存された貝化石

奈留島の海沿いの道に沿って、尖った岩の一部が約 45 度の角度で地面から突き出ています。知識がなくても、様々な種類の岩が層を成していることが見て取れます。しかし最も興味を引くのは、これらの岩石に一部が埋まった貝化石です。貝化石は、この場所が五島市により天然記念物に指定された理由でもあります。

岩に閉じ込められた貝殻

上部にも側面にも、岩の表面にはところどころに貝が埋まっています。海岸で見かけるものと同じ種類です。小型の巻き貝や二枚貝が多く、大型の二枚貝はわずかです。岩に埋まった貝化石が見つかること自体が珍しいですが、この化石は淡水貝の痕跡であるという特徴を持っています。

淡水貝の化石が存在するという事実は、岩の層を形成した土砂の層が、過去のある時点で淡水に沈んでいたことを意味します。同様の貝化石は五島列島だけでなく、ここから近い長崎県北部でも見つかっています。

これを受け、科学者たちはこの地を形成した土砂の層が、過去に約 100km 規模の淡水湖または淡水川の浅瀬に沈んでいたという説を唱えています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】嵯峨島千畳敷

【整備予定媒体】Web サイト

五島ジオパーク Web サイト内に来年度制作予定

<http://www.city.goto.nagasaki.jp/contents/special/index0001.php>

できあがった英語解説文

Otherworldly Landscape

Saganoshima Island is a small outcropping to the west of Fukue Island. Although its total area is only 3 square kilometers, it produced two pyroclastic cones, Odake and Medake, both close to the sea. Over the ages, the ocean waves and strong winds eroded much of their craters, leaving them stunted (the taller one is only 150 meters high). The rugged sea cliffs are famous, and there is an impressive view of them from the viewing platform on the southwest shore near Medake.

A Thousand Tatami Mats

The most famous feature of the island is the area called Senjojiki Rocks. Less than a half hour's walk from the main pier, this coastline features broad, open spaces of hardened black tuff—a material composed mostly of compressed ash, sand, and small rocks expelled from a volcano—bordered by crashing waves on one side and walls of neatly layered sedimentary rock on the other.

The Japanese name, meaning 1,000 tatami mats, refers to the hard, dark, barren surface across which you can easily walk. But what catches the eye are the walls, which feature unusually distinct, easily visible layers that look something like geologic tree rings.

Caves on the Shore

The effects of wind and water have rendered this otherworldly landscape starkly uneven. In addition to the smooth, flat surfaces where you can walk, there are also deep cracks resembling small gorges, as well as caves where the pounding ocean enters.

This scenery is so breathtakingly unusual that it alone justifies a trip to Saganoshima.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

別世界のような景色

嵯峨ノ島は福江島の西に位置する小さな島です。総面積わずか 3 平方 km の島ですが、2 つの火山砕屑丘が海辺に形成されました。火口の大部分は激しい波風による長年の侵食を受け、成長が妨げられています（高い方の砕屑丘でもわずか標高 150m です）。ゴツゴツした海食崖は人気スポットとなっており、島南西部の海岸沿い、女岳付近にある展望台からはその絶景を望むことができます。

千枚の畳

島で一番人気の見所は、千畳敷と呼ばれるエリアです。主要な船着き場から徒歩 30 分以内の海岸沿いに、黒い凝灰岩が広がる、開けた空間があります。凝灰岩の主な成分は、火山が噴出した灰や砂、小石が圧縮されたものです。片側には波が打ち寄せ、もう片側には堆積岩が綺麗な層を成す岩壁が広がっています。

日本語で「千枚の畳」を意味する千畳敷という名前の通り、ここでは暗く無機質な岩肌を、気軽に歩くことができます。しかし、一番目を引くのは岩壁です。岩の層が年輪のような模様をしており、一目でそれと分かります。

海岸沿いの洞窟

凹凸が織り成す別世界のような景色は、波風の影響によるものです。平たい岩肌を歩くことができる一方で、小さな谷のようにも見える深い亀裂が走っていたり、打ち寄せる波が侵入する洞窟が空いています。

息を呑む珍しい景色だけでも、嵯峨島を訪れる価値は十分あります。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】立小島

【整備予定媒体】Web サイト

五島ジオパーク Web サイト内に来年度制作予定

<http://www.city.goto.nagasaki.jp/contents/special/index0001.php>

できあがった英語解説文

An Accessible Island

Ages ago, a section of the Earth's crust in the area that is now the Goto Islands was deformed, and a compressed layer of mudstone and sandstone forced downwards. Parts of its upper surface broke off or were washed away due to erosion. What remained were the broken ends of the stratum that descended into the earth. You can easily see these shards sticking up from the ground at Tatekojima Island.

Bypassed by the Rivers of Lava

At first glance, Tatekojima is unimpressive—just a small outcropping of jagged rocks. However, those are the ends of the subterranean stratum that was bent and broken off eons ago. Now you can see the various rocky layers protruding upwards almost vertically.

The sharp outline of Tatekojima is a stark contrast to the flat plains in the surrounding area. Clearly, the lava flows that created the nearby plateau bypassed this area, leaving the sharp upright protrusions here to tell the story.

A Dangerous Signpost to a Safe Harbor

The lighthouse at the tip of Tatekojima seems to imply that all of this rocky coastline is dangerous and that ships should stay far away. But just the opposite is true. Tatekojima stands near the mouth of harbors such as Shiraishi Bay that have welcomed seafaring ships for well over a thousand years. In ancient times, Japanese ships would stop here on the way to China. These early missions were not only for trade, but also studies of technology, religion, and more. Today, the lighthouse not only warns of a rocky outcropping, but also welcomes ships to this safe harbor.

Walking on Water

Tatekojima appears to be separated from the mainland by a narrow channel, but the channel is actually quite shallow, and when the tide is low you can see part of the rocky spine connecting Tatekojima to Fukue Island begin to emerge. If you time it correctly, all you need is a pair of waterproof boots to walk from the main island across the exposed rock to Tatekojima to explore millions of years of geological history for yourself.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

立ち寄りやすい島

遙か昔、今日の五島列島に相当する地帯を形成する地殻の一部が変形し（地殻変動）、圧縮された泥岩と砂岩の層が下に押しやられました。地殻表面の一部は裂けたり侵食によって流失しましたが、裂けて地殻に沈み込んだ地層の、端の部分だけは残りました。立小島では、その地層の断片が、地面からほぼ垂直に突き出している姿を気軽に見ることができます。

溶岩流が避けた場所

立小島は、一見するとゴツゴツした小さな岩の塊に過ぎず、特に魅力を感じないかもしれません。しかしその塊の正体は、遙か昔、湾曲した地殻から裂けた地層の端の部分です。様々な岩の層が、ほぼ垂直に突き出た姿を見ることができます。

立小島の鋭いシルエットは、周囲の平地と強烈なコントラストを成しています。近くの台地を形成した溶岩流が、この地を通らなかったことは明らかです。鋭く突き出た数々の岩が、その事実を物語っています。

安全な港への危険な道しるべ

立小島の先にある灯台は、岩だらけの危険な海岸線に近付くな、と船に警告しているかのようです。しかし、実際のイメージはそれとは逆です。立小島は、白石湾をはじめとする湾の入り口の近くに位置しており、千年以上にわたって船を迎え入れてきました。古代には、中国に向かう日本船が停泊していました。初期の遣使の目的は貿易にとどまらず、技術や宗教などの調査も含まれていました。今日では、灯台は岩礁の存在について注意を促すだけでなく、安全な港に迎え入れる役割も果たしています。

水を歩く

立小島は福江島と狭い海峡で隔てられているように見えますが、実際には海峡の水深はかなり浅く、干潮時には立小島と福江島とを結ぶ岩の連なりが出現する姿を見ることができます。タイミングが良ければ、出現した岩を長靴で歩き、福江島から立小島まで渡ることができます。数百万年に及ぶ地質の歴史を、ご自分の目でお確かめください。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】城岳からの展望

【整備予定媒体】Web サイト

五島ジオパーク Web サイト内に来年度制作予定

<http://www.city.goto.nagasaki.jp/contents/special/index0001.php>

できあがった英語解説文

Spectacular Panoramic View

One of the best places on Fukue Island to see the geological history of the area is this scenic overlook, which, despite being only a little over 200 meters high, offers a stunning vista showing how massive lava flows spreading outwards created the land we see today.

Volcanic Transformation

This area was originally part of the Goto Group geologic stratum and probably had a jagged, rough surface of exposed layers of sandstone and mudstone, much like the saw-tooth profile of Tatekojima Island, which is visible off to the left side of this broad plain.

Around 900,000 years ago, a volcanic eruption released a huge outflow of lava, which spread out, leaving behind it a broad, flat plain, what is now the Kishuku Lava Plateau. Over hundreds of thousands of years this land became rich, fertile soil, and the jagged rocks of the coastline where the lava suddenly cooled ultimately became a home to various kinds of fish, shellfish, seaweed, and other aquatic life.

The contrast between the sharp spikes of Tatekojima and the relatively smooth surface of the plateau provides a vivid “before and after” view of volcanic activity.

A Safe Harbor That Changed Japan Forever

To the left of the Kishuku Lava Plateau, you can see Shiraiishi Bay, which provided natural shelter for seafaring ships for over 1,000 years. From roughly 700 to 900 CE, several cultural missions led by Japanese scholars and Buddhist monks set sail in small wooden boats from the area near Osaka, worked their way down the coast, and made their final landing here in the Goto Islands before crossing the open sea. The ships would take advantage of the natural safe harbor you can see from this overlook and wait for favorable winds before making the perilous journey to China. In various places on the shore below, you will see monuments dedicated to these brave missions that the Yamato (Japanese) people sent to Tang-dynasty China (618–907), which was arguably the pinnacle of world civilization at the time. The knowledge that passed through these ports on the return trip—religion, literature, writing, even the

technique for making Goto's famous udon noodles—had a profound influence on Japanese culture.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

眼前に広がる絶景

福江島で地質の歴史が作り出した景色を眺めるには、城岳展望所がうってつけです。展望所の標高は 200m をわずかに上回るに過ぎませんが、ここからの絶景は、大量の溶岩流が目の前の平地を形作った様子を物語っています。

火山が生んだ変化

ここ一帯はかつて五島層群の地層であった場所であり、広大な平地の左手に見えるノコギリ状の立小島と同様に、もとの地表は砂岩・泥岩の層が露出した起伏の激しいものであったと考えられています。

約 90 万年前、火山の噴火によって大量の溶岩が流出し、今では八朔台地として知られる広大な平地を残しました。何十万年もの時を経て、この地は豊かで肥沃な土壌に恵まれるようになりました。急激に冷やされた溶岩が生んだ海岸部の岩場には、魚介類や海草など、様々な水生生物が生息するようになりました。

起伏の激しい立小島の姿と、比較的平たい台地の姿が成すコントラストは、火山活動の「ビフォア & アフター」をありありと表現しています。

今の日本を作った、安全な泊地

八朔台地の左手には白石湾が見えます。白石湾は千年以上にわたり、往来する船に対して天然の待避所の役割を果たしていました。およそ 700 年から 900 年にかけて、日本の学者と仏僧が率いる文化使節団の派遣が複数回行われ、大阪近辺で小型の木造船が出港していました。使節団の船は海岸沿いに航海した後外洋に出るのですが、それに先立ち五島列島に入港していました。展望所から見える入り江は、中国への危険な航海の前に追い風が来るのを待つための、天然の泊地として利用されていたのです。

眼下に広がる海岸には、大和の人々（日本人）に派遣された、勇敢な使節団を讃える記念碑が各所に建っています。使節団は、当時恐らく世界文明の頂点であった唐王朝（618 年～907 年）に派遣されていました。宗教、文学、文字、さらには五島列島名物のうどんの製法など、港を通して帰路に着く使節が伝えた知識は、日本文化に深い影響を残しました。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】白良ヶ浜の漣痕

【整備予定媒体】Web サイト

五島ジオパーク Web サイト内に来年度制作予定

<http://www.city.goto.nagasaki.jp/contents/special/index0001.php>

できあがった英語解説文

See an Imprint of Waves on Sand Preserved for Eons

The sedimentary layer of the Earth's crust that formed these islands is a geologic stratum called the Goto Group. It was formed some 16–18 million years ago when the Japanese archipelago broke away from the Asian mainland. Multiple layers of sand, mud, and small rocks accumulated and were compressed, ultimately forming the Goto Group.

Under Water

When the Goto Group was being formed, part of it was under a shallow body of water. Eons of pressure from accumulated layers of mud and sand likely pressed these imprints into this pattern.

The rock face we see here was originally part of a horizontal stratum made up of multiple layers of sand, mud, and gravel that accumulated over time. Deformations of the Earth's crust bent this multilayered stratum downwards. Then, over time, the top layer was stripped off by wind or water erosion, exposing lower layers where we can see traces of ripple patterns.

Enjoy Them While You Can

The Shiraragahama Ripple Marks were declared a Natural Monument by Nagasaki Prefecture in 1959. However, these ripple patterns have been exposed to the elements for decades; the surface has gradually begun to lose its distinct features and the ripple pattern has begun to fade.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

測り知れない年月に耐えた、波模様の砂の痕跡

五島列島を形成した地殻の堆積層は、五島層群と呼ばれる地層です。堆積層は、日本列島が1,600万年～1,800万年前にアジア大陸から分かれた際に形成されました。土砂や小石が複数層にわたって堆積し、それが圧縮さ

れたことで五島層群が形作られました。

水中で

形成段階にあった五島層群は、その一部が浅瀬の水底に沈んでいました。長年にわたって堆積した土砂層から圧縮を受けたことにより、漣痕にこのような模様が生じたと考えられています。

この辺りの岩石は、かつては水平な地層の一部でした。土砂や砂利が長年かけて堆積してできたその地層は、地殻変動が起きた際に複数層にわたって下向きに湾曲しました。やがて表層部が風や水による侵食で裂かれ、下層部が露出するようになりました。露出した下層部では、土砂の波模様の痕跡を見ることができます。

鑑賞するなら今のうち

白良ヶ浜の漣痕は 1959 年、長崎県により天然記念物に指定されました。しかし、漣痕は波風に曝されて数十年が経過しており、表面の特徴的な外観が次第に損なわれ、波模様も消失し始めています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】荒川温泉

【整備予定媒体】Web サイト

五島ジオパーク Web サイト内に来年度制作予定

<http://www.city.goto.nagasaki.jp/contents/special/index0001.php>

できあがった英語解説文

A Purely Natural Hot Spring

On the rocky coast of Fukue Island is the area's only hot, continuously flowing artesian well. Today, there are several *onsen* hot springs on Fukue Island, but most are a result of drilling, not nature. Arakawa *Onsen* Hot Spring is completely natural.

Non-volcanic, But Still Hot

Arakawa is interesting geologically because it is of non-volcanic origin, which is unusual as most hot springs on islands are volcanic in nature. In a non-volcanic hot spring, rain seeps into the Earth, is heated, and returned to the surface by subterranean pressure.

Another interesting feature of Arakawa is that it is a “green tuff hot spring,” meaning the hot water originated in a layer of greenish-hued rock composed of volcanic ash that collected after an eruption (tuff) and was compacted over time to rock-like hardness. The green tuff, which is found all along the coast of the Sea of Japan, was formed at the bottom of a giant lowland area that existed perhaps 20 million years ago between the Eurasian continent and what is now the Sea of Japan. Many volcanic eruptions occurred within that lowland area, and the material ejected as ash eventually became green tuff.

A Recent Find

It is somewhat unusual to find a green tuff hot spring on an island, which makes this one even more interesting. The first discovery was relatively recent—an outflowing of hot water was found nearby in 1856. However, the current hot spring was discovered even more recently, in 1913, by a 12-year-old boy. Since then, it has been developed and has become an attraction for visitors to the area. Its heat is also used to warm a greenhouse.

The *onsen* hot spring is open to the public every day for a small fee. You should definitely stop here on your visit to the Goto Islands to relax and soothe both your muscles and nerves.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

純粹な天然温泉

福江島の岩がちな海岸部には、地域で唯一の自噴泉があります。今日、島には複数の温泉がありますが、その多くは掘削により人為的に作られたものです。完全に天然なのが荒川温泉です。

非火山性でも熱いとは

地質的に見て荒川温泉が興味深いのは、島にある温泉なのにも関わらず、非火山性であるという点です。本来、島の温泉は火山性な場合が多いのです。非火山性温泉では、地中に染み込んだ雨水が熱せられ、地下ガスの圧力によって地表に戻されます。

荒川温泉は「グリーンタフ型（緑色凝灰岩型）の温泉」であるという興味深い特徴も備えており、緑色を帯びた岩の層を泉源としています。この層は、噴火後に堆積した火山灰が、時間をかけて岩に圧縮されたものです。緑色凝灰岩は日本海沿岸全域に分布しており、約 2,000 万年前、ユーラシア大陸と今の日本海に相当する場所との間に存在した、広大な低地の底で形成されました。低地ではしばしば噴火が発生し、火山灰として噴出された物質は、やがて緑色凝灰岩になりました。

最近の発見

島でグリーンタフ型の温泉を見かけることは珍しく、荒川温泉への興味がさらに高まります。最初に発見されたのは比較的最近のことで、1856 年に付近で温泉の噴出が確認されました。しかし、現在の温泉が見つかったのはそれより後の 1913 年のことで、発見者は 12 歳の少年でした。それ以来、地域の開発が進み、地元を訪れる観光客への観光名所になりました。温泉の熱は温室を暖める目的にも使われています。

温泉施設は毎日営業しており、わずかな料金で利用できます。五島列島を訪れた際にはぜひ立ち寄って、ゆっくり身も心も癒していきましょう。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】多郎島

【整備予定媒体】Web サイト

五島ジオパーク Web サイト内に来年度制作予定

<http://www.city.goto.nagasaki.jp/contents/special/index0001.php>

できあがった英語解説文

Fishing, The Easy Way!

Lava is plentiful in the Goto Islands—igneous rocks seem to be everywhere and have been for ages. Even recent volcanic eruptions such as Mt. Onidake happened thousands of years before there were people on these islands, so we can assume that the earliest settlers were well acquainted with the black rocks they found everywhere. On Tarojima Island we can see samples of pahoehoe lava, a type that is characterized by multiple thin layers of relatively smooth, hard rock.

Primitive But Fun!

Ancient people here developed an ingenious idea for using lava rocks: a unique form of fishing in the shallow bays created by lava-encrusted coastlines. They used small rocks to build walls when the tides went out. The walls were designed to be near the waterline at high tide. When the tide came in, some fish would swim into the walled area. All the fishermen had to do was wait. When the tide went out again the fish would be trapped, and with the water receding, they could be caught easily by hand or with primitive nets or spikes.

People in the Tomie area called this “shallows fishing.” If you would like to try your hand at it, the nearby camping park, SanSan Tomie Camp Village, provides an opportunity to try out shallows fishing yourself.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

漁を楽な方法で！

五島列島には溶岩が豊富に存在し、島中に見られる火成岩は、太古の姿を伝えているようです。鬼岳など最後の噴火が起きたのも、島が拓かれるずっと前のことです。このことから、島を拓いた先人たちは、島中にある黒い岩石にはよく慣れ親しんでいたことでしょう。多郎島で見られるパホイホイ溶岩は、複数の薄い層から成り、比較的ツヤがある硬い岩で構成されるという特徴を持っています。

原始的な楽しさ！

先人たちは、溶岩を使った独創的なアイデアを編み出しました。溶岩に覆われた海岸線が構成する入り江の浅瀬ならではの漁法です。まず、干潮時に小石で囲いを作ります。囲いは満潮時の水面の高さに調整します。潮が満ちると魚が囲いに入ります。漁師は待つだけです。潮が再び引くと魚は閉じ込められ、水が引いた囲いの中では、素手でも原始的な網や銚でも簡単に捕まえることができました。

富江の人々はこの漁を「すけ漁」と呼んでいました。挑戦してみたいという方には、近くのキャンプ場「さんさん富江キャンプ村」にて、「すけ漁」を体験する機会が提供されています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】天保海岸

【整備予定媒体】Web サイト

五島ジオパーク Web サイト内に来年度制作予定

<http://www.city.goto.nagasaki.jp/contents/special/index0001.php>

できあがった英語解説文

Lava Covers Sand

The interesting feature of the Amayasu Coast is that it reveals clear examples of the Goto Group stratum coming into contact with basaltic lava. We can see outcroppings of pure sandstone (part of the Goto Group) easily visible on the surface, and just a few meters away are black igneous rocks resulting from flows of basaltic lava.

But the most interesting areas are those where we can see them together, clear evidence of lava covering an underlayer of sand and gravel. The sandstone is often mixed with gravel and small rocks, and the parts that touched the hot lava are usually burned dark brown from the heat.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

砂を覆う溶岩

興味深い特徴を持つ天保海岸では、玄武岩質の溶岩に接する五島層群の姿をはっきりと見ることができます。海岸の地表からは純粋な砂岩が露出しており（五島層群の一部です）、そこから数メートル離れた所には、玄武岩質の溶岩流から生まれた黒い火成岩が横たわっています。

しかし、最も興味を引く場所では、その両方が一緒になった姿を見ることができます。溶岩の下に砂と砂利の地層が隠れているという、明らかな証拠です。砂岩には砂利と小石が混じっていることが多く、高温の溶岩に接した部分は、たいへん熱により焦げ茶色に変色します。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】丸子海岸

【整備予定媒体】Web サイト

五島ジオパーク Web サイト内に来年度制作予定

<http://www.city.goto.nagasaki.jp/contents/special/index0001.php>

できあがった英語解説文

Magma Snakes Its Way to the Sea

The Maruko Coast is extremely rocky, and there are no rest areas or other facilities to welcome tourists, yet it is well worth a visit. Though difficult to reach on foot, it is a wondrous illustration of ancient geologic activity in these islands.

Snakes in Granite

In several places you can see where long, narrow snakes of dykes (mostly basalt) have intruded themselves into blocks of granite. Finding basaltic dykes that have intruded in sedimentary deposits such as sandstone or mudstone is not so unusual, but here we can see examples of dykes having intruded into another igneous rock, granite.

In some places, the long, thin line of grey basalt now stands alone, a rope twisting toward the sea, because the granite around it has been washed away by erosion, and in other places you can see the invading black basalt “snake” settled right in the middle of the host granite.

Rocks Burned Black

Where the hot lava has intruded, it has usually burned the original granite and left clear signs of that fiery contact. In some cases, it has recrystallized the original rock, creating what are called hornfels, a phenomenon in which a cooler base rock (usually sedimentary) comes into contact with a hot, igneous material, such as basaltic magma, and the intense heat creates a new version of the original base rock.

If you have any interest in seeing unusual formations that show the amazing and unexpected power of geologic events, it is well worth taking a hike along the beach to explore the Maruko Coast.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

蛇行するマグマが海に迫る

岩だらけの丸子海岸には、観光客が利用できる休憩所などの施設がありません。徒歩での進入は難しいですが、太古の五島列島における地質活動の驚異を伝えており、訪問の価値あります。

花崗岩に走る岩脈

複数の場所で、花崗岩に細長い岩脈（大部分が玄武岩です）が蛇行している姿を見ることができます。砂岩や泥岩などの堆積物に貫入した玄武岩質の岩脈は珍しくありませんが、ここで見られるのは別の火成岩である花崗岩に貫入した岩脈です。

灰色玄武岩の細長い1本の筋が、海に向かって蛇行している場所もあります。周りの花崗岩が侵食で消失したことによるものです。別の場所では、花崗岩のど真ん中に、黒い玄武岩が貫入し蛇行している様子も見ることができます。

黒焦げの岩

多くの場合、高温の溶岩が貫入した場所では、もともと花崗岩であった箇所が焦げ、灼熱との接触による爪痕が残っています。場合によっては、溶岩の接触を受けた岩が再結晶化し、ホルンフェルスと呼ばれる物質が生じます。この現象では、高温でない母岩（たいてい堆積物です）が、玄武岩質マグマなど高温の火成岩質物質に接触し、高熱によって母岩が新しい形に生まれ変わります。

珍しい岩の構造を観察し、地質活動の驚異的な力をご覧になりたい方には、ぜひ丸子海岸を歩いて探索してみてください。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】馬瀬・牛瀬

【整備予定媒体】Web サイト

五島ジオパーク Web サイト内に来年度制作予定

<http://www.city.goto.nagasaki.jp/contents/special/index0001.php>

できあがった英語解説文

History of the Horse and Ox Rocks

This V-shaped outcropping of rock, which gives the Horse and Ox Rocks their names, is the kind of natural formation that is both historically and geologically significant.

Every Rock Tells a Story

The rocks themselves tell a fascinating story.

On the right is the Ox, composed mostly of sandstone, which means it was part of the subterranean Goto Group that forms the foundation of these islands. The Horse rock on the left is a basaltic dyke. These are the two primary materials that comprise most of the surface of the Goto Islands: on the one hand, sandstone, mudstone, and gravel from the Goto Group, materials that were deposited and accumulated when Japan was separated from the Asian mainland, and on the other, magma that was cooled down after originating inside the Earth.

Here we can see these two fundamental rock formations side by side. It appears that the basaltic rock on the left intruded, or pushed through, the sandstone on the right, and the effects of this intrusion can be seen in the sandstone.

The Origin of “Horse” and “Ox”

The unusual names have a story all their own.

Centuries ago, the Goto fief and the neighboring Tomie fief were arch rivals, competing for the natural resources of the island. To settle a dispute about who could fish and hunt and farm where, both groups sent a representative to negotiate an agreement. It is said that the representative from Tomie came via ox, while the representative from Fukue rode a horse. They met at this spot and agreed that it would henceforth be the border between the two fiefs. They also agreed to draw a line from the rocks out into the bay towards the Ojirase rocks to demarcate their respective fishing zones. Even today these rocks mark the border between the districts of Tomie and Fukue in Goto City.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

馬瀬・牛瀬の歴史

馬瀬・牛瀬は、歴史的にも地質的にも重要な意味を持つ自然の造形物であり、その名前はV字型の岩の形に由来します。

歴史を物語る岩たち

魅力溢れる歴史を伝える岩たち。

右手の岩は牛瀬と呼ばれ、主な成分は砂岩です。これは、岩が過去に、五島列島を成す五島層群の一部であったことを意味します。左手の馬瀬は玄武岩質の岩脈です。五島列島の地表は主に2種類の成分から成ります。1つ目は、五島層群に由来する砂岩・泥岩・砂利です。これらの物質は、日本列島がアジア大陸から分かれる過程で堆積したものです。2つ目は、地球内部に由来するマグマが冷えて生じた物質です。

ここでは、2つの岩の構造が隣り合っている姿を眺めることができます。左の馬瀬は右の牛瀬に貫入（貫通）していることがわかります。貫入による影響は牛瀬に見て取ることができます。

「馬」と「牛」の由来

珍しい名前にはそれぞれの歴史が込められています。

数世紀前、福江藩（五島藩）と隣り合う富江藩は、島の天然資源をめぐる対立関係にありました。漁業・狩猟・農業の権益をめぐる争いに決着を付けるため、両者は代表者を送って交渉を行い、取り決めに交わすことにしました。富江藩の代表者は牛で到着し、福江藩の代表者は馬で現れたと伝えられています。両者はこの場所で会合を開き、以後、岩を領地の境界線とすることで合意しました。また、岩から湾を通して近くの小白瀬島に伸びる直線を、それぞれの漁場の境界線とすることで一致しました。今日も、岩は五島市の富江地区と福江地区の境界を示しています。

本事業以前の英語解説文

なし

1224

No. 42 Shutogashima Coast, Naru Island

<五島ジオパーク、長崎>

【施設名】奈留島 千畳敷

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Shutogashima Coast is known for its rocky shoreline and its beautiful blue-green waters. The shallows here provide an inviting place to wade or swim. It is equally famous for the tiny island just offshore, connected to the beach by a causeway of flat rocks.

In fact, this stretch of flat rocks is a reminder of the formation of the Goto Islands. These rocks were made from the basic layers of sandstone and mudstone that accumulated over time to form the Goto Group stratum that underlies these islands. They are the top layer of the Goto Group, exposed by ages of wind and wave erosion.

On these flat rocks you can find footprints of large animals, such as rhinoceroses, that walked on them eons ago when today's rocks were still a marshy wetland that was connected to the Eurasian continent. This small, rocky island has been designated a nature conservation area by Nagasaki Prefecture.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

舅ヶ島海岸は、岩がちな海岸線と美しい青緑色の海で知られています。足まで浸かるのにも泳ぐのにも魅力的な浅瀬です。舅ヶ島海岸が有名な理由のもう一つは、すぐ沖合にある小島です。小島は平たい岩場の通路で海岸と繋がっています。

平たい岩場は、五島列島を形作った歴史を思い起こさせます。主に砂岩と泥岩の層から成る岩場は、長年かけて堆積し、列島の下に横たわる五島層群を成すに至りました。岩場は五島層群の表層であり、波風による長期の侵食を受けたことにより露出しました。

平たい岩場の表面には、サイなど大型動物の足跡が見られます。岩場がかつてぬかるんだ湿地としてユーラシア大陸と繋がっていた時代、その上を大型動物が歩いていました。岩で覆われたこの小島は、長崎県により自然環境保全地域に指定されています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】奈留島 千畳敷

【整備予定媒体】Web サイト

五島ジオパーク Web サイト内に来年度制作予定

<http://www.city.goto.nagasaki.jp/contents/special/index0001.php>

できあがった英語解説文

How Did That Rhinoceros Get on This Tiny Island?

Shutogashima Coast is famous for a number of things. One is its curved beachfront, which is covered more with small, round rocks than with sand. The ocean here is a beautiful greenish blue, and there are attractive shallows for wading and swimming.

Island Attached to an Island

Another attraction is the short causeway of land that connects the mainland of Naru Island to the little speck of an island nearby. This rocky bridge is quite flat and easy to cross on foot, allowing visitors to reach the little island easily. While short on scenery for sunbathing tourists, the tiny island is of great interest to anyone looking into the geological past of this area.

In fact, this stretch of flat rock and the many distinct, horizontal layers of sedimentary rock on the island are reminders of the formation of the Goto Islands. These rocks, exposed by ages of wind and wave erosion, were made from the basic layers of sandstone and mudstone that came to form the Goto Group stratum. There is even evidence here of a time long before these islands were born, when the materials that became the Goto Group were still connected to the Eurasian continent.

Footprints in the Mud

For example, on these flat rocks you can find footprints of large animals, such as rhinoceroses. These ancient creatures did not live in the current Goto Islands, but rather, walked in the mud of a marshy wetland eons ago that later became part of the Goto Group stratum that separated from the continent and created these islands.

This small rocky area has been designated a nature conservation area by Nagasaki Prefecture.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

どうしてサイがこの小島に？

舅ヶ島海岸が有名なのには数多くの理由があります。砂の代わりに丸い小石で覆われた浜辺もその一つです。弧を描く浜辺から望む海は緑がかった美しい青色をしており、その浅瀬は、足まで浸るのにも泳ぐのにも魅力的です。

島に繋がる島

もう一つのスポットは、奈留島と近くの小島を結ぶ短い陸地による通路です。この岩場の通路は比較的平坦なので、歩いて楽に渡ることができ、小島へは気軽に足を伸ばすことができます。日光浴に来た観光客には景色が物足りないかもしれませんが、地域における地質の歴史を覗いてみたいという方にとっては、大変興味深い島です。

実際、この平たい岩場や、特徴的な層を水平に成す島中の堆積岩を見ると、五島列島を形作った歴史を思い起こさずにはいられません。波風による長年の侵食により露出したそれらの岩は、主に五島層群に由来する砂岩と泥岩の層により形成されました。奈留島には島が生まれる遙か昔の痕跡も残っています。五島層群を作った物質が、かつてユーラシア大陸と繋がっていた時代の痕跡です。

泥に残った足跡

例えば、この平たい岩場では、サイをはじめとする大型動物の足跡を見つけることができます。足跡を残した古代生物は、今と同じ五島列島に生息していたわけではありません。太古の昔、後に五島層群の一部になる、ぬかるんだ湿地の泥の中を歩いていました。その後、ユーラシア大陸から分かれた五島層群は、五島列島を形成しました。

舅ヶ島は、長崎県により自然環境保全地域に指定されています。

本事業以前の英語解説文

なし

豊後高田市多言語解説協議会

【施設名】 豊後高田市

【整備予定媒体】 Web サイト

できあがった英語解説文

Bungo Takada: Magical, Mystical, Mysterious

Welcome to the city of Bungo Takada, a corner of Japan with a timeless quality and superb natural and cultural attractions. Located on Kyushu's Kunisaki Peninsula, the city's distance from the historic capitals of Kyoto and Tokyo has helped keep its many unique aspects free from the spoils of modern uniformity. Wherever you turn, you'll find dramatic natural landscapes and the remains of an extraordinary culture that saw the merging of Buddhism and Japan's indigenous religious beliefs over 1,300 years ago.

Bungo Takada serves as a cultural and historical hub for exploring the peninsula. The city stretches inland from the populated coastal area and rises through lush agricultural farmland into low, craggy mountains that hide valleys with landscapes unchanged for a thousand years. The volcanic rocks in the mountains have been the perfect medium for the chisels of stone carvers for centuries, and remarkable examples of their artistic skills are found in temple gateways, on awe-inspiring cliff faces and, just as often, on the roadside or in the garden of a local family. (It is said that some 70 percent of Japan's Buddhist statuary can be found on the Kunisaki Peninsula.) There is something magical about this area's close links to antiquity, at once captivating and mystical.

The roads here are well-marked and well-maintained, and the many English-language road signs make it a highly accessible destination for leisurely travel by car. For those looking for something more challenging, the rugged trails of the interior—which once catered only to the sandaled feet of ascetic monks in training—now offer hiking routes of varying lengths and levels of difficulty.

Bungo Takada is a haven of hidden treasures—a largely untouched area of Japan with an intriguing culture of great depth and mystery.

***Rokugo Manzan*: A Heritage of Religious Acceptance**

No words are more important in understanding the Kunisaki Peninsula than “Rokugo Manzan.” The term refers both to this area and the culture that was spawned and flourished here. *Rokugo* literally means six (*roku*) regions (*go*), a reference to six communities on the peninsula that were separated by mountain ranges. The characters for *manzan* can

be read as “mountainous,” but actually refer to the innumerable places of worship in the region that range in scope from a particular rock on the side of a mountain trail to age-old centers of Buddhist learning. It was here that the syncretism of various religious beliefs developed over the centuries to create the unique culture of Kunisaki.

Sharing Space and Deities

On this peninsula, sometime in the eighth and ninth centuries, Esoteric Buddhism first came to coexist along with the older beliefs of mountain worship. This began at Usa Jingu Shrine in the neighboring city of Usa, which despite being one of the country’s most important shrines is surprisingly little known. Here the two religions found enough in common to share certain deities and even the same grounds for their places of worship, a practice that spread across the region. The result was an eclectic mix of doctrines and precepts where, for example, *oni*—legendary ogres with origins in pre-Buddhist times—found a central place in Buddhist festivals. Strikingly designed masks, from the primitive to the elaborate, have long been used as the embodiment of *oni* and can still be seen at some local festivals in ceremonies meant to bring luck and ward off evil.

To Educate and Proselytize

At one time, over sixty-five temples dotted this peninsula, divided roughly into three areas that specialized in different functions: the temples in the west focused on studying, those in the central area taught ascetic training, and those on the eastern side concentrated on spreading the word of Buddhism. While the numbers have dropped, thirty-one temples belonging to the Tendai sect of Esoteric Buddhism can still be found here today, and the aura of spirituality that defines *Rokugo Manzan* permeates every inch of the area.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

豊後高田市 不思議で魔法にかかったように神秘的な都市

豊後高田によろこそ。時代を超えて受け継がれてきた遺産と素晴らしい自然、文化的アトラクションを備えた都市が、日本の片隅にあります。九州の国東半島に位置しており、歴史都市である京都と東京からは隔てられていたため、均一的な現代社会の影響を受けることなく、独特の局面が多く残されました。どの道を曲がっても、ドラマチックな自然の景観と、文化遺跡を目にすることでしょう。この文化遺跡は 1300 年以上前に仏教と日本固有の信仰が融合したものとされています。

国東半島を探索するときに、利便性の高い玄関口となるのは、豊後高田市です。豊後高田市は、人口密度の高い沿岸地域から内陸に向かって広がっています。みずみずしい農地を通過して上がっていくと岩山に到達します。この岩山が、数千年の間変わらない景観をもつ谷間を見えなくしています。数世紀にわたり、この山の火山性の岩石は、石彫工が使う鑿の引き立て役となっています。寺院に向かう入り口で目にするのは、石彫工の芸術的な技の一例が刻ま

れている荘厳な岩肌です。さらに道路脇や、地元家族の庭でもよく見かけます。70%の日本の石造仏が国東半島にあると言われています。この地域は、古代と密接に繋がっていて魔法のような何かがあります。

道路は、標識がしっかりと表示されており、よく管理された状態です。英語の道路標示も多く、車を使うレジャー旅行の場合、目的地まで非常にアクセスしやすくなっています。もっと何か難しいものを探している人には、起伏の多い奥地に入る道があります。

この道は、修行中の身でサンダルを履いた修行僧専用の道でしたが、今では、様々な距離ならびに難易度のトレッキングルートを利用できます。

豊後高田市は、隠れた財宝を安全に隠せる場所です。日本ですが大部分が手つかずの地であり、好奇心をそそる文化には、非常に奥が深い不思議が詰まっています。

六郷満山 宗教を容認する遺産

国東半島を理解するうえで、六郷満山よりも重要なものはありません。六郷満山とは、この地域と、ここで誕生して栄えた文化の両方を指します。六郷とは、文字通り 六(6)と郷(地域)を意味しています。国東半島の6つのコミュニティは、山筋によって分けられています。満山の漢字では、「山が多い」と読むことができますが、実際には無数の寺院が点在することを指しています。寺院は、山道側にある特定の岩石から、昔から修行僧が学ぶ中心地までの範囲に広がっています。ここでは、様々な信仰の共存が年月を経て育まれ、国東の独自の文化をつくってきました。

スペースと神様を共有

国東半島において8世紀または9世紀のあるときに、密教が古来の山岳信仰とともに初めて共存するようになりました。これは近隣の宇佐市にある宇佐神宮で始まったものであり、国で最も重要な神社の1つですが、あまり知られていません。2つの宗教には、特定の神様や、参拝場所として同じ敷地、および地域に広がる習慣などを共有できるほど十分な共通点が見られます。結果として、教義と教訓の入り混じった折衷的なものになりました。例として鬼が挙げられます。仏教時代の前に発祥した伝説的な鬼は、仏教祭りにおいて、中心的な立ち位置にいるのが見受けられます。古代から続く印象的な形をした面は、鬼の体現として長きに渡り使われ、今も地元の祭でみることができます。人に幸運をもたらす、邪気を払うと言われています。

教育と改宗

かつて、65を超える寺院が国東半島に点在しており、異なる機能に特化した地域を約3地域に分割しました。西側にある寺院は学問研究に焦点を当てており、中央部の寺院は修行を、東側の寺院は仏様の言葉を布教する活動に集中していました。今日では数が減少してしまい、31の寺院が確認できます。六郷満山を定義するスピリチュアルなオーラは、この地域の隅から隅まで行き渡っています。

本事業以前の英語解説文

なし

1227

No. 2 Fukiji Temple

<豊後高田市、大分>

【施設名】 富貴寺

【整備予定媒体】 Web サイト

できあがった英語解説文

Fukiji Temple: A Study in Ancient Aesthetics

Fukiji Odo Sanmon Gate: Protecting the Approach

The entrance to Fukiji Temple, nestled in the corner of a small valley southeast of the city center, is a humble one. At the sides of the gate stand two stone carvings of *nio*, fearsome looking deities that were likely carved in the Edo period (1603–1867). These figures were carved from *tashibu-ishi*, a kind of soft stone that is indigenous to the area and is ideal for stonework. Like many gate guardians at shrines and temples, the one on the right has his mouth open representing the sound “*a*” while the one on the left has his closed, representing the sound “*um*.” Together, they form the phrase “*a-um*,” a Buddhist concept not unlike the Biblical “alpha” and “omega” that represents the beginning and end of all things. Under the two guardians’ feet are base stones featuring a lotus motif.

Despite being protected by the wooden roof of the gate, these *nio* are now worn and discolored, a foreshadowing of the overall aesthetic of the temple beyond.

Odo Amida Hall: Path to Paradise

At the top of the steps two massive trees—nutmeg on the left, ginkgo on the right—tower protectively over a temple building of subdued beauty that holds a revered place in Kunisaki’s Buddhist heritage. The temple was constructed in the late Heian period (794–1185) as an Amida-do, a hall meant to host a statue of Amida Nyorai, the Buddhist deity who invites believers to paradise. Likely built under the direction of one of the chief priests of the nearby Usa Shrine, the building’s sweeping roof lines are meant to resemble a phoenix, one of the sacred animals of Buddhism.

Fukiji Temple is the oldest wooden structure still standing in Kyushu. It has been classified as a National Treasure and is considered one of the three best Amida-do in Japan. (The two others are in Chusonji Temple in northern Japan and Byodoin Temple near Kyoto.) The structure, along with the statue of Amida it houses, is made of wood from a nutmeg tree, one that legend says grew over 3,000 meters tall and kept its entire surroundings in shade. The folk tale also relates how the woodcutters struggled with felling the tree, as no matter how much they cut, the tree would return to its former shape every night. But they eventually prevailed, and the wood that remained after construction was hauled off on the

back of an ox to the site of another local temple. Or so says the legend.

The temple building sits regally in its niche among the forest trees, reflecting the changes in the seasonal foliage.

The Hall's Interior: Remains of Splendor

It's hard to imagine how different the antiquated appearance of the temple's interior today is from the way it looked at the time of construction. Befitting the paradise realm of Amida Buddha, everything was originally done in bright colors—reds, yellows, blues, and greens. Rich paintings covered most of the interior surface. The 86-centimeter-tall Amida statue was covered in gold leaf, and the reflected light must have dazzled in the subdued daylight, filtering in under the low eaves or in the flickering candlelight at night.

Only the plain grain of the nutmeg wood is now visible on the four columns around the statue, but these were once covered in vivid illustrations of Buddhist figures, and a heavenly landscape graced the wall behind the statue. Worshippers would make their way around the hallway, circling the central figure in a clockwise direction as they said their prayers. Looking down on them from the upper walls were countless paintings of heavenly figures. Though severely faded, they can still be seen, slowly emerging from obscurity as one's eyes adjust to the darkness.

Japanese aesthetics underwent a major change during the Muromachi period (1336–1573), when Zen and the tea ceremony aesthetic led to the appreciation of a more sober, refined style of art and architecture. Bright colors were shunned, the effects of aging celebrated, and buildings like this were left to show their years of wear. Luckily, the ravages of time (and the effects of a WWII bomb that dropped just behind the hall) have done little to harm the beauty and peaceful ambience of this remarkable temple.

*An outstanding full-sized replica of the temple can be found in the Oita Prefectural Museum of History in nearby Usa, where you can experience the hall and its interior in its original, colorful glory.

The Temple Grounds: Ogres, Guardians, and Stupas

To the right just inside the gate is the *bondo*, or main hall, where daily rituals are held—though its appeal to visitors is dwarfed by that of the Amida Hall just up the slope. Guests are welcome to step inside, and should visit the room to the left, where a display features two ancient masks used in the dance of the *oni* (ogres) that date from the times of mountain worship. *Oni* have been incorporated into the mix that marks the unique religious heritage of this area, and are also featured in a raucous festival held yearly at the nearby Tennenji Temple.

On the grounds around the Amida Hall are a number of statues and carvings that showcase the peninsula's history of stone artistry. To the left of the building stands a rare collection: small but intricately carved images of Buddhism's Ten Judges of Hell, the body that decides the fate of those still in purgatory. Also standing in the temple's courtyard are

stone stupas called *kaasa toba*, whose tops are meant to resemble the woven hats worn by monks in training, and *gorinto*, the small pagodas used as memorials in the Esoteric Buddhism popular at the time. The five stone “rings” are meant to symbolize (from bottom to top) earth, water, fire, air (wind), and ether.

The Legend of the Nutmeg Tree

Long, long ago, a huge nutmeg tree once grew in this quaint valley of butterbur in Tashibu. The tree was so large, it was said, that its shadow reached all the way to the river in the morning, and all the way to the rice fields in the evening.

One day, the legendary Buddhist monk Ninmon decided to consecrate this spot as sacred ground and ordered the building of a hall to enshrine an image of the Amida Buddha. But when it came time for the woodcutters to cut down the huge nutmeg tree for wood to build the temple, a very odd thing happened. No matter how much they cut, the next day they would return to find the tree in its previous state. Perplexed, the woodcutters didn't know what to do. Then one day, they were told by a local plant whose view of the sun was blocked by the tree, “At the end of every day, burn the sawdust that comes from your cutting, and the tree will eventually come down.” Thanks to that advice, the woodcutters were finally able to fell the tree and continue construction. Following Ninmon's orders, a large temple was built and a Buddhist image carved, all from the one nutmeg tree. The remaining wood was loaded on the back of an ox and carried off. The ox stopped where the Maki Odo Temple is and refused to continue any further.

This is the legend of the National Treasure known as Fukiji Temple. Today, many people feel spiritually close to this holy place, and a large nutmeg tree once again grows on the grounds.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

富貴寺大堂 古代美学の研究

富貴寺大堂山門 侵入者からの保護

富貴寺への入り口は、市の中心部から南東にある小さな谷間の片隅に立っています。この入り口は地味なものです。門の脇には 2 体の石像である仁王が立っています。恐ろしい形相をした神様は、おそらく江戸時代（1603 年から 1867 年）に彫られたものです。この石像は田染石を使用して彫られました。ある種の柔らかい石でこの地域固有のものであり、石造りには理想的な石です。神社やお寺に設置されている多くの門の守護者のように、右のものが口を開いており（「阿」）、左のものは口を閉じています（「吽」）。「阿吽」は、仏教の教理であり、ギリシャ語の「アルファであり、オメガである」とは似ていないこともないのですが、すべての物事の始まりと終わりを表しています。2 体の守護者の足元には、蓮をモチーフにした石造りの台座があります。

木製の門の屋根で守られているにもかかわらず、この仁王像は、今やすり減って、色褪せており、寺院の全体的な美感を示す前置きとなっています。

阿弥陀堂 極楽浄土への道

階段の頂上には 2 本の巨木があります。左側は榎の木（カヤの木）、右側は銀杏の木であり、落ち着いた美しい寺院の建物を守るようにそびえ立っています。国東の仏教遺産において崇敬される場所となっています。寺院は、阿弥陀堂として平安後期（794 年から 1185 年）に創建されました。阿弥陀仏像を祀っています。信者を極楽浄土へ救済する仏教の神様です。近隣にある宇佐神宮の宮司のうちの 1 人の指示に従って建立されているようです。建物の弧を描くような屋根のラインは、仏教における神聖な動物の 1 つである不死鳥に似せる意図があります。

富貴寺は、九州において現存する最古の木造建築構造を有しています。国宝指定されており、日本では最高峰の三大阿弥陀堂うちの 1 つとされています。（他の 2 つは、北日本にある中尊寺金色堂、京都近くにある平等院鳳凰堂です）。建築構造は、榎の木材から作られています。伝説によると、この榎の木は 3 キロメートル超もあり、周囲全体を覆っていました。民話では、木を伐り落そうと試行錯誤していたと伝えています。いくら切っても切っても、毎晩元の形に戻ってしまいましたが、最終的には打ち勝ち、寺院建立後に余った木材は、牛の背に引かれて別の地元のお寺へ運ばれました。伝承ではそのように伝えられています。

寺院の建物は、木の葉の四季の移ろいを反映しながら、森林の中のかぼみに堂々と立っています。

阿弥陀堂の境内 輝く遺物

寺院の内装は年月を経ており、創建時の内装が今のものとは異なるものであったと想像するのは難しいです。極楽浄土を基盤とする阿弥陀如来に相応しく、元々は、すべての箇所、赤、黄色、青、緑、など明るい色彩が使われていました。さらに内装表面の多くは豊かな壁画で覆われていました。86 センチメートルの阿弥陀如来坐像は、金の木の葉に覆われており、反射する光は、低いひさしの下から入り込んで落ち着いた光になり、光り輝いていたにちがいません。夜にはろうそくの光が揺れて美しく輝いていたはずで

今では榎の木の木目は、仏像周りの四柱にだけしか確認できませんが、これらはかつて鮮やかな仏像の絵で覆われていました。仏像の背後には極楽浄土の風景で美しく飾られた壁があります。参拝者は、案内の通り時計回りで中央の仏像の周りを周るように廊下をぐるりと進みます。上部の壁から見下ろすと、極楽浄土の描かれた無数の絵があります。ひどく色褪せていますが、今でも見えますし、目が暗闇に慣れてくると暗がりから徐々に浮き上がってきます。

日本の美的感覚は、室町時代(1336 年から 1573 年)に潮流の変化がありました。禅と茶道の美的感覚は、美術と建築においては、より節度のある洗練された様式を重んじる傾向になりました。明るい色彩の使用は回避されて、経年変化した効果が称えられ、このような建物は、使い古された年月のまま残されました。幸運なことに、時間の経過による損壊（および第二次世界大戦で本堂のすぐ後ろに落ちた影響）は、ほとんどなく、素晴らしき寺院の美と平和の雰囲気損なうことはほとんどありませんでした。

※富貴寺の素晴らしい原寸大模型が、宇佐市近くの大分県立歴史博物館で見られます。当時の栄華を再現した色彩で本堂とその内装を体験できます。

寺院の敷地 鬼、守護者と石造りの塔

ほんの少しだけ小高いところに、本堂があります。ここでは毎日儀式が行われています。訪問者へのアピールは、阿弥陀本堂があるために小さくなってしまっていますが、スロープのすぐ上で開催されています。ゲストの入場を歓迎しています。左方向の部屋には是非入ってみてください。古代のお面が2つ飾られています。このお面は鬼の踊りで使用されるもので、山岳信仰の時代に作成されたものです。鬼は、この地域独特の宗教遺産の特徴と、近くの天念時で毎年開催される喧々囂々としたお祭りの特徴が混ぜ合わさって具現化したものです。

阿弥陀堂周辺の敷地には、沢山の仏像と彫刻があります。これらは石造りの芸術性における国東半島の歴史を示すものです。建物の左手方向には、珍しい収蔵物が立っています。小型ですが、仏教における冥途の裁判官である十王像が精巧に刻まれており、この一団が、煉獄にいる者の運命を判断します。また寺院の中庭に立つと、笠塔婆と呼ばれる石造りの塔があります。頭部は修行僧が編んだとされる笠に似せています。小型の塔である五輪塔は、当時人気の高い密教において、記念碑として使用されていました。5つの塔の「輪」とは、（下から上に）土、水、火、空気（風）そしてエーテルを象徴しているとされています。

榎の木の伝説

昔々、巨大な榎の木が、田染町にある古風で趣のある西洋フキの谷で育っていました。この木は非常に大きかったために、朝にはその影が川の方にまで届き、夕方には田畑まで届くと言われていました。

ある日、伝説的な僧侶である仁聞は、この場所を神聖な土地として崇拝の対象とすることに決めました。阿弥陀如来像を安置するための本堂を建立するよう命じました。しかし、木びきが寺院を建立するための木材を求めて、巨大な榎の木を切り出したときに、奇妙なことが起こりました。いくら切っても次の日には、木は元の状態に戻っているのです。木びきは困り果て、どこを変えたらよいかかわからずじまいでした。ある日、この木のせいで太陽が遮られている地元の植物が、このように教えてくれました。「毎日の終わりに、切った木から出るおが屑を燃やしてください。そうすると木を倒すことができますよ」。助言に感謝しつつ、木びきは最終的に木を倒すことができました。仁聞の命令に従い、大きな寺院が建立されて仏像が刻まれました。一本の榎の木からすべてが生まれたのです。残りの木材は牛の背に積み込まれて運ばれていきました。牛は真木大堂で止まり、以降続けることを拒みしました。

これは富貴寺として知られている国宝の伝説です。今日、多くの人々が、この聖地付近にスピリチュアルなものを感じています。大きな榎の木は再びこの地で育っています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 真木大堂

【整備予定媒体】 Web サイト

できあがった英語解説文

Maki Odo Temple: Sanctuary of Buddhist Treasures

At its peak many years ago, Makisan Denjoji Temple was one of the largest temples on the whole peninsula, a center for ascetic training. (If you would like to believe the legend, this is also where the ox with the wood from Fukiji Temple grew tired and refused to move any further with his load.) Today, however, it is most important for housing some of the finest examples of wooden Buddhist statuary in Japan—all Important Cultural Properties carved in the Heian period (794–1185). Even seen in this contemporary structure, their presence is powerful and intense, befitting their exalted positions in Esoteric Buddhism’s pantheon. There is an aura of mystery however, for there is no clear record of where they came from or when—just another of the historical and spiritual enigmas that seem to haunt the mountains of the Kunisaki Peninsula.

Amida Nyorai

The centerpiece of the Treasure Hall is the seated image of Amida Nyorai, made of several large sections of Japanese cypress and guarded by four armored devas. The peaceful meditative pose and calm facial features of this 216-centimeter-tall statue are in sharp contrast to the poses of the four guardians, who seem caught in action. The bare skin of the Amida statue appears black where the gold leaf has worn down to show the dark lacquer base coat beneath. The shape of the face is not as round as most depictions of this deity, and the position of the hands is in their most welcoming alignment.

Fudo Myo-o

To the right of Amida is a rare standing image of Fudo Myo-o, a protective deity, with two attendants at its side. At over 250 centimeters, this is one of the largest wooden statues of this Buddhist figure in Japan. The exaggerated appearance is not meant to depict evil, but to frighten people into accepting salvation. Hints of the original indigo color of the robes are still visible in places on the worn surface. His right eye is clear and looking toward heaven, while his left is clouded and looking down at the earth. On his back is a spectacular rendition of a flaming sacred phoenix that swirls all around him, probably a later addition from the Edo period (1603–1867). The sword he wields in his right hand is said to cut through ignorance.

Daiitoku Myo-o

To the left of Amida sits a wooden image of Daiitoku Myo-o on a water buffalo. Like the figure on the other side, this is one of the Five Great Wisdom Kings of Esoteric Buddhism. His Sanskrit name is Yamantaka, or “one who terminates death” —so it’s easy to understand why he became popular as a god of warriors. At 241 centimeters in height, this is the largest wooden statue of this Buddhist deity in Japan. The very lifelike head and body of the water buffalo heightens the exaggerated physical nature of the king on its back, with his six faces, six arms, and six legs. (The animal is construed by some as support for the legend of the nutmeg tree of Fukiji Temple, but it also appears in earlier renditions of Yamantaka in China and India, so the connection is doubtful.)

上記解説文の仮訳（日本語訳）

真木大堂 仏教の至宝がある場所

馬城山伝乗寺は、数百年前の絶頂期に半島全体で最大の寺院の 1 つでした。修行が行われる中心地でもあります。（伝説を信じるのであれば、富貴寺の木材を引いていた牛が疲れ果て、これ以上先に荷物を運搬することを拒否した場所です）。すべてが平安時代(794 年から 1185 年)に作成された国宝であり、今日、日本における木造の仏像彫刻の最高傑作を数体安置していることから、最も重要な寺院となっています。同年代の構造をみても、この寺院の存在は、密教の殿堂において高い位置に相応しいほど力強く強烈なものです。不思議なオーラがありますが、仏像はどこからいつ来たのか明確な記録がありません。また 1 つ歴史的でスピリチュアルな謎が現れて、この国東半島の山々を覆っているようです。

阿弥陀如来

宝物殿の目玉は、阿弥陀如来坐像です。大部分が複数の日本糸杉から作られており、4 体の甲冑をまとった四天王に守られています。穏やかな瞑想ポーズと落ち着いた表情をしており、大きさは 216 センチメートルあります。4 体の守護者のポーズとは対照的であるのが明確にわかります。阿弥陀如来の肌色は黒っぽく見えますが、金色の木の葉が色褪せて、下の基礎部の漆コートが見えているのです。顔の形は、大半の神様の描写よりも丸みが少なく、手の位置は、最も歓迎している位置に配置されています。

不動明王

阿弥陀如来の右方向には、不動明王立像があります。守護の神様であり、両脇に脇侍が 2 体控えています。日本における最大の木彫仏であり、大きさは 250 センチメートルあります。誇張した外見は、邪気を追い払うためだけでなく、人々に対して救済を受理するよう脅すためのものです。従来の藍色が袈裟にわずかに残っているのを手掛かりとして、色褪せた表面上にも藍色の個所が見えます。右目ははっきりと天を見つめており、左目は地を見下ろしています。

背後には、圧巻の演出があります。神聖な燃える不死鳥が周囲を飛んでおり、おそらく江戸時代後期(1603年から1867年)に追加されたものでしょう。右手に持つ剣は、煩悩を断ち切るためのものと伝えられています。

大威徳明王

阿弥陀如来坐像の左方向には、水牛に乗った木彫大威徳明王像が安置されています。反対側の像と同じく、密教における5大明王の1人です。梵名ヤマーンタカ、または「死を断ち切る者」の意味です。戦士の神様として人気がある理由はわかりやすいです。高さ241センチメートルのこの像は日本で最大の木像不動です。頭部と水牛の体部は生き生きとしており、王様の身体的特徴である後ろに見える6個の頭、6本の腕、6本の足をさらに誇張しています。

(水牛は富貴寺の榎の木の伝説を援護するものとして解釈されていますが、中国やインドでもこれより前の時代でも見られるために、その関係については懐疑的です)。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 熊野摩崖仏

【整備予定媒体】 Web サイト

できあがった英語解説文

Kumano Magaibutsu: Buddhist Art on a Cliff Face

Two of the most awe-inspiring stone carvings in Bungo Takada are the Kumano Magaibutsu, monumental bas-reliefs of Buddhist deities. Viewing these carvings requires a certain amount of effort, as they are located on a cliff wall in the mountains. The steps on the route are a seemingly haphazard grouping of stones that grow steeper as you climb, a pattern blamed by local lore on a rush job performed overnight by an ogre eager for a promised meal of human flesh. But the reward for making the climb is worth the effort: the two images are stunning, made all the more spectacular by their isolated location.

The first image to catch the eye is that of Fudo Myo-o, measuring over eight meters in height, and probably dating from the end of the Heian period (794–1185). Off to the right, and clearly a relief of higher quality, is a figure of Dainichi Nyorai, sometimes called the Cosmic Buddha. This carving measures some 6.8 meters and dates from the mid-Heian period. Looking carefully, you can see three mandala that were carved above the head. Both of these figures are powerful icons of Esoteric Buddhism, in which paradise is achieved through arduous practice and secret teachings. A Shinto shrine is located a bit further up the steps, and the spot is also a trailhead for one of the routes of the Long Trail.

(Note: Walking sticks are available at the entrance to the climb, and come in handy on both ascent and descent.)

上記解説文の仮訳（日本語訳）

熊野磨崖仏 岩壁の仏教芸術

最も畏敬の念を抱かせる石彫彫刻のうち、2 つが豊後高田市にあります。これらは熊野磨崖仏であり、仏教の神様についての記念碑的な浅い浮彫です。これらの彫刻を鑑賞するには、山中の岩壁に位置しているため、一定の努力が必要になります。ルート上にある石段は、でたらめに並んだ石の寄せ集めと思われ、登るにつれて急になっていきます。地元の伝承によるとこの石段は、鬼が急いで作業を行い、一晩で築いたものです。この鬼は、人間の肉を食べること望んでおり、石段と引き換えにそれを許そうと約束されていました。しかし石段を築いた報いは、努力に値するものです。2 つの像は素晴らしく、孤立した場所であることから、さらに目を見張るものになっています。

まず目に留まる磨崖仏は、不動明王です。高さが8メートルあり、おそらく平安時代末期（794年から1185年）に彫られたものです。右の方に進んでいくと、はっきりとして品のある浮彫がありますが、これは大日如来です。宇宙を司る神と呼ばれることがあります。この石彫は約6.8メートルあり、平安中期に彫られました。頭上には集中して彫られた3つの曼陀羅が確認できます。この2体の磨崖仏は、密教における圧倒的な偶像です。密教では、困難な修行と密教の教えを实践することで、極楽浄土に行けるされています。もう少し石段を登ると神社があります。またこの場所は、ロングトレイルのルートの一つであり、登山口でもあります。

（注記：登山の際は、受付で杖を貸し出しています。登り下りの両方で役立ちます）

本事業以前の英語解説文

なし

1230

No. 5 Tennenji Temple

<豊後高田市、大分>

【施設名】 天念寺耶馬

【整備予定媒体】 Web サイト

できあがった英語解説文

Tennenji Temple: A Paean to Antiquity

No structure could blend more perfectly into its surroundings than this one, for Tennenji Temple is literally built into the face of a cliff wall. For hundreds of years after it was constructed in the Heian period (794–1185), it was a center for *shugendo*, arduous training for ascetic Buddhist monks in search of enlightenment. The rigorous discipline they undertook is evident in the legacy of trails they used to crisscross the rugged hills as part of their training. Those in good physical shape who would like to experience something of their regimen today can climb a steep trail to the ridge overlooking the temple. But if you are content with just like a glimpse of what was involved, look up at the top of the ridge where the arch of a stone bridge crosses a narrow chasm between two rocky peaks. Across the road, a carved image of the deity Fudo Myo-o stares out from the face of a huge boulder in the middle of the river.

Shared Spirituality: *Shinbutsu shugo*

The Tennenji Temple Lecture Hall shares space with a Shinto shrine (behind the *torii* gate on the right). This syncretism of Shinto—the religion with animistic origins native to Japan—and Buddhism is called *shinbutsu shugo*. Historically, the intermingling and fusion began, according to scholars, at Usa Shrine just west of Bungo Takada. And, although the two religions were never actually fully merged, they did manage to coexist for hundreds of years until the government attempted to separate them in the Meiji period (1868–1912). Unlike most parts of the country, the remote Kunisaki Peninsula was able to circumvent most of the government’s efforts, and Tennenji Temple is one of the best of many examples of *shinbutsu shugo* that still dot the area.

A Festival of Ogres: *Shujo Onie*

While the temple-shrine configuration illustrates the historical coexistence of the two religions, a spirited traditional festival keeps the concept alive. Held on the seventh day of the old lunar calendar (usually in February), the event begins with conch trumpets echoing across the valley, calling on participants to purify themselves in the frigid mountain stream in front of the shrine. Huge torches are then lit and carried by the men to the temple, where teams joust, sparks flying as they smash the torches against the stone base of the building.

Primitive Masks and the Main Event

The exuberant main event features a pair of masked *oni*, the ogres of ancient Japan, in a whirling, leaping dance, wielding blazing torches and flinging sparks over an ecstatic crowd. These *oni*, while ferocious in appearance, are reincarnated Buddhas, and therefore have been invited in to chase away evil and bring good luck and prosperity to those fortunate enough to be touched by the sparks. In the event's climax, believers even proffer their bodies to be swatted by the lit torches.

The gods must be benevolent ones—they've protected this old wooden building from the heat and the flames for hundreds of years. (For those unable to attend the festival, an explanatory video at the nearby Historical Museum captures much of the atmosphere.)

上記解説文の仮訳（日本語訳）

天念寺 古代への賛歌

天念寺ほど周囲の環境と融合できている構造物は他にありません。天念時は、文字通り岩に建てられました。平安時代（794年から1185年）に建立されてから数百年の間、修験道の中心地でありました。修験道とは、修行僧が悟りを求めて厳しい修練を行う宗教です。修行僧が守っていた厳格な戒律は、修行により僧侶が険しい丘陵を歩き来していた道の遺産であることは明らかです。修行僧の修行療法を何かしら経験してみたい健康的な人は、山の尾根に向けて、険しい道に登ることができます。そこからは寺院を見渡せます。単に何があるのかちらっと見てみたい人は、尾根の頂上を見上げることもできます。そこには、2つの岩の頂き間に、石橋のアーチが低い裂け目を覆うように掛かっています。道路を渡ると、不動明王を刻む仏像が、川の真ん中にある巨石の表面からこちらを見渡しています。

共有する精神性 神仏習合

寺院（左方向にある）は、神社（右方向の鳥居の後ろにある）とスペースを共有しています。これは、神仏習合、または神道との習合の典型的な例となっています。これは日本固有の精霊信仰を起源とする宗教であり、仏教でもあります。学者の説によると、神仏習合は、豊後高田市の西部にある宇佐神宮で始まったとされています。2つの宗教が、実際に取り入れられることはありませんが、政府が明治時代（1868年から1912年）に2つの宗教を分離しようと試みるまで、数百年の間なんとか共存していました。国の大部分の地域とは対照的に、国東半島は、大半の政府の試みを回避できました。天念寺は、この地域に今も点在する神仏習合における多くの例のうち、最高傑作の1つです。

鬼の祭り 修正鬼会

寺院と神社の構成は、宗教における歴史的な共存と説明する一方で、威勢の良い伝統的な祭りには、その概念が生きています。祭りは、旧暦の1月7日に（大抵2月）開催されます。行事は、谷中にエコーするホウ貝の合図に、参

加者が応答する形で始まります。神社の前を流れる冷たい溪流で身を清めます。巨大な松明に火がともされて、一行によってお寺に運ばれます。一行は、建物の石製の基礎部分に松明を叩きつけて、競い合い、火の粉を飛ばします。

原始的な仮面と中心行事

活気に満ちた中心行事では、鬼の仮面を被った2人がペアとなり、日本古代の鬼となって、ぐるぐる周りながら、飛び跳ねて踊り、燃える松明を使い、歓喜にわく観衆に火の粉を叩きつけます。この鬼は獰猛な外見をしていますが、仏の化身であることから、鬼を追い払うために招き入れられます。火の粉に触れた幸運な者には、幸運と繁栄をもたらされます。最高潮に達すると、信者は自らの体を照明用の松明で打つように申し出ます。

神は情け深いにちがいありません。数百年もの間、炎や火災からこの古い木造建築物を守っているのです。（祭りに参加できない人のために、近くの歴史博物館に解説ビデオがあるので、雰囲気をつかめます）。

本事業以前の英語解説文

なし

1231

No. 6 Tashibu no Sho

<豊後高田市、大分>

【施設名】 田染荘小崎地区

【整備予定媒体】 Web サイト

できあがった英語解説文

Tashibu no Sho: A Thriving Ancient Landscape

Stone artifacts are not all that have withstood the march of time in Bungo Takada. A short drive from the city center lies the picturesque valley of Tashibu no Sho, where, as ancient maps can attest, the landscape has changed little over the past millennium. Protected by the steep slopes of the surrounding mountains, rice paddies in irregular, rounded patterns follow the natural contours of the land on a slow descent down the valley slope, creating a photogenic panorama. The district was once the feudal estate of Usa Shrine, where the harvested rice was offered to the gods.

Natural and Sustainable

Several unique characteristics of the local farming methods have led to this peninsula being designated as a World Agricultural Heritage site, including a network of reservoirs that were developed to store water. The oak tree forests surrounding the valley have long acted as both an enriching agent and a natural filter for rainfall, and are a fine place for cultivating *shiitake* mushrooms, which help fertilize the soil. (On walks through the forest shade, you'll notice stacks of logs where the mushrooms are being grown.) The natural systems developed over the centuries are still used today to maintain a sustainable system of agriculture.

Following the Bodhisattva's Gaze

To appreciate the beauty and the layout of the rice farms, visitors are encouraged to walk around the valley for views from different perspectives. At the westernmost point of the valley is the *torii* gate of Amabiki Shrine, from which a spring once irrigated all the rice paddies below. But save the best for last: a short hike up a narrow trail on the eastern side of the valley leads to two outlooks with fabulous views over the entire ecosystem. They are named after the statues of the bodhisattva Kannon that watch over the valley from depressions carved out of the cliff face: on the eastern side, Asahi (sunrise); on the western, Yuhi (sunset). Kannon, often called the Goddess of Mercy, is a bodhisattva, beings who has postponed their own enlightenment to stay behind and help others. It's hard not to believe that this pristine area's survival can be traced to the deities' benevolent gaze.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

田染荘 繁栄する古代の風景

豊後高田市にある石造文化財は、思うほど年月の経過に耐えるものではありません。市の中心部から運転していくと近い距離に、田染の荘園という風光明媚な谷間があります。古代地図からも確認できますが、過去千年紀にわたり景観の変化はほとんどありません。写真うつりのよいパノラマの谷間の斜面ゆっくり下ると、周辺の山の急傾斜に守られて、不規則で丸みを帯びた水田が、土地に沿った自然な輪郭を形成しています。この地区は、かつて宇佐神宮の封建的な所有物件であり、そこでは収穫した米を神様に捧げていました。

自然と持続可能性

地元の農業方法に独自の特徴が複数存在することで、この半島は世界農業遺産として指定を受けました。水を貯めておくために開発された貯水池のネットワークも含まれます。谷間に囲まれている檜の木の森は、充実した媒体かつ降雨時の自然のフィルターとして長らくその役目を果たしています。さらには椎茸栽培に適した場所です。椎茸栽培は土地に栄養を与えてくれます。（森の木陰を歩くとすぐに丸太の存在に気がきます。この丸太を使用して椎茸は成長します。）数百年にわたり開発された自然の方式は、持続可能な農業システムを維持できるよう現在も使用されています。

菩薩の視線に続く

稲作農業の美とレイアウトのおかげで、訪問者は別の視点から見える景色を求めて、谷間周辺を歩いてみたいと思っています。谷の最西端には、雨引社に向かう鳥居があります。春になると下にあるすべての水田が灌漑されます。楽しみはとっておいてください。谷間の東側の狭い道を登っていくと、2 体の見張りにたどり着きます。この見張りは、素晴らしい景色と全生態系の監視を行っています。この2 体は観音菩薩像の名をとって命名されました。観音菩薩は、岩壁の表面から彫られたもので、くぼみから谷間を見守っています。東側では朝日（日の出）観音が、西側では夕日（日の入り）観音が安置されています。観音様は、哀れみ深い菩薩として知られています。自身の悟りを後回しにして他者を助けます。この美しい地域が存続しているのは、神様が優しい視線を投げかけているからと考えるのは想像に難くありません。

本事業以前の英語解説文

なし

1232

No.7 Long Trail

<豊後高田市、大分>

【施設名】 国東半島峯道ロングトレイル

【整備予定媒体】 Web サイト

できあがった英語解説文

The Long Trail: In the Steps of Ascetics

The footprints of the monks who have done their ascetic training here over the past millennium have left a legacy of outstanding trails that lace the mountains of the peninsula. Their training was called *mineiri*, “walking the ridges,” and the practitioners would dress in simple white clothing, leggings, and sandals for the strenuous journey to the various temples. Now called the “Minemichi Long Trail,” what remains today is 135 kilometers of connected mountain paths and ancient roads, traversing broad valleys and almost vertical volcanic rock peaks.

A Choice of Hiking Routes

The Long Trail consists of ten courses in all. The four courses in Bungo Takada give visitors a chance to enjoy hiking through some iconic scenery while experiencing some of the spiritual connections that infuse every corner of this region. The routes pass through all the important sites. The southernmost, for example, begins at the Buddhist cliff carvings of Kumano Magaibutsu and passes by the Maki Odo, with its spectacular statuary, and the lush valley of Tashibu no Sho; other routes pass by the ancient structures of Fukiji and Tennenji temples. The distances range from 10 to 15 kilometers, but the difficulty can be deceptive—some places are not much more than a stroll, while in other sections climbers must rely on chains embedded in the vertical rock face to make their ascent.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

ロングトレイル 苦行の段階

過去 1000 年以上もの間、ここで修行を積んだ僧侶の歩んだ足跡は、傑出した道の遺産を残すことになりました。この道は半島の山々を繋ぎ合わせています。僧侶の修行は峰入り「尾根を歩く」と呼ばれています。様々な寺院に向かう非常に労力のいる旅であり、修行者は質素な白の服、レギンス、サンダルを着用します。今では、「峰道ロングトレイル」と呼ばれています。今日残っているものは、山道および古道、縦走する広い谷間、ほぼ垂直の火山岩の頂上を結ぶ 135 キロメートルの道です。

トレッキングのルート選択

ロングトレイルは 10 コースあり、4 コースが豊後高田市に位置しています。この地域全体を漂うスピリチュアルな繋がりを

体験しつつ、象徴的な景色を眺めながらトレッキングを楽しむ機会を与えてくれます。ルートは、重要な場所をすべて網羅しています。最南端の場所では、例に挙げると、熊野磨崖仏の岩彫りの仏像から始まり、見事な仏像を有する真木大堂を通過して、田染荘のあるみずみずしい谷間に行き、その後は富貴寺や天念寺など古代の建造物を通過します。距離は 10 キロメートルから 15 キロメートルまでの範囲ですが、難易度は当てになりません。散歩以上にならない場所もある一方で、登山者は、垂直の岩壁にはめ込まれた鎖を頼りにして登らなければいけない箇所もあります。

本事業以前の英語解説文

なし

1233

No.8 Showa no Machi

<豊後高田市、大分>

【施設名】 昭和の町

【整備予定媒体】 Web サイト

できあがった英語解説文

Showa No Machi: Sentimental Journey

Nostalgia buffs will enjoy strolling around the shopping district known as Showa no Machi, or “Showa Town” —and absorbing the atmosphere of the 1950s and ’60s, the heyday of Japan’s Showa period (1926–1989). The neighborhood’s buildings celebrate the years when the country began to enjoy the peace and prosperity of the post-war era. Many seem to exist in a mythical area between a commercial operation and a museum, and browsers can poke through displays of old record players, TVs, toys, and popular animation figures from the past, or bite into the same style of “ice candy” popsicles that kids clamored for in simpler times.

Several museums housed in old warehouses host exhibitions related to the times, featuring toys and snacks, cars, storybooks—even the interiors of houses, shops, and a typical schoolroom. On weekends, a “classic” bus, complete with protruding bonnet and guide dressed in period clothing, leaves its garage to transport visitors on a route around town. Guests can dine at a restaurant that not only serves popular dishes from the era, but also does so at the shockingly low prices of the times. Part-museum, part-local shopping street, part “neighborhood under glass,” this is a slice of time that older Japanese look back on with sentimentality, and curious younger ones find quaintly fascinating.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

昭和の町 感傷旅行

ノスタルジアのファンであれば、昭和の町として知られているショッピング地区をぶらぶら歩いてみると楽しいでしょう。日本の最盛期であった昭和時代（1926年から1989年）の1950年代と1960年代の雰囲気を取り入れています。近隣の建物は、国が戦後の平和と繁栄を享受し始めた数年を称えています。商業的な運営と博物館の間にある神秘的な領域には、多くのものが存在しているようです。旧式のレコードプレイヤー、テレビ、おもちゃ、昔人気の高かったアニメのフィギュアに触れることができます。また子供が欲しくて泣き叫んだ「アイスキャンディ」と同型のをかぶりつくこともできます。

古い倉庫内にある複数の博物館には、おもちゃやスナック、車、物語本、家の内装もそうですし、お店や典型的な学校教室など、その時代に関連した展示を行っています。週末には、ボンネットが突き出た「クラシック」バスが、当時の

服装をしたガイドと訪問者を乗せて、ガレージを出発して、町巡回ルートに行く旅を体験できます。ゲストは、レストランで食事が可能です。その時代に人気の高かった食事が出されるだけでなく、驚くほど低かった当時の価格で食事ができます。博物館部分、地元のショッピング街部分、「ガラスケースの中にあるご近所」的な部分など、この場所1つで色々なものが楽しめます。年配の日本人は、感傷的な気持ちで当時を回顧し、好奇心旺盛な若者世は、古風で趣のあるものに魅力があると感じることでしょう。

本事業以前の英語解説文

なし

1234

No. 9 Nagasaki Bana

<豊後高田市、大分>

【施設名】 長崎鼻

【整備予定媒体】 Web サイト

できあがった英語解説文

Nagasaki Bana: Coastal Campsite

This cape on the Inland Sea coast east of the city center has been developed as a “resort campsite,” complete with a pristine white sand beach and other vacation facilities. The accommodations available range from bungalows and log cabins of all sizes to tent sites. The major attraction is the sprawling flower fields that explode with color at different times of the year—canola blossoms in the spring, hydrangeas in early summer, and over 1.4 million sunflower blossoms in late summer. (Oil from the canola and sunflowers, which is distributed to gourmet restaurants as far away as Tokyo, is also sold here.) Scattered around the resort area are a number of art installations, including thirteen “invisible benches” produced by Yoko Ono, with her poems engraved in their stone surfaces. Take part in the activities—fishing, swimming, sunbathing—or just stroll the coastline on a beachcombing excursion.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

長崎鼻 沿岸地帯のキャンプ場

市の中心部から東の海岸内地にあるこの岬は、「リゾートキャンプ場」として開発されています。白い綺麗な砂浜とその他休暇用の施設が完成しました。宿泊施設は、バンガローから丸太小屋まで利用できます。主要なアトラクションは、時期によって変わりますが、色が溢れる広大なお花畑です。春には菜の花が咲き、初夏にはアジサイ、夏の終わりには140万本ものヒマワリが咲きます。（菜の花とヒマワリから取れる油は、はるか遠くにある東京のグルメレストランまで提供されています。こちらでも販売しています）。リゾートエリアに点在していますが、多くの芸術作品が設置されています。オノ・ヨーコ作の「見えないベンチ」は13基あります。その石の表面には彼女の詩も刻まれています。釣り、水泳、日光浴などのアクティビティにも参加してみてください。または単にビーチコーミングで海岸沿いをぶらぶら歩くのもよいでしょう。

本事業以前の英語解説文

なし

1235

No.10 Fukiji Temple

<豊後高田市、大分>

【施設名】 富貴寺

【整備予定媒体】 看板・簡易リーフレット

できあがった英語解説文

Fukiji Temple

The main hall of Fukiji Temple was built in the late Heian period (794–1185) to host a statue of Amida Nyorai, the Buddhist deity who invites believers to paradise. It is a National Treasure and the oldest wooden structure still standing in Kyushu. The temple is guarded by two fearsome-looking *niō* guardians at the gate and two massive trees—nutmeg on the left, ginkgo on the right—at the top of the steps. The building itself is built of the wood of the nutmeg tree, as is the Buddhist statue inside, and the sweeping roof design is meant to represent the shape of a phoenix, one of the sacred animals of Buddhism. The interior was originally adorned with vivid colors, with detailed paintings covering much of the walls and columns, and the Amida statue was covered in brilliant gold leaf. Worshippers would circle Amida in a clockwise direction, overseen by the heavenly figures painted high up on the surrounding walls. (Most of them are still faintly visible.) In later years, a more sober and refined aesthetic was introduced to Japanese art and architecture with the influence of Zen and the tea ceremony, and lavishly decorated temples such as Fukiji were left to take on a timeless worn and faded patina.

The Legend of the Nutmeg Tree

Long, long ago, a huge nutmeg tree once grew in this quaint valley of butterbur in Tashibu. The tree was so large, it was said, that its shadow reached all the way to the river in the morning, and all the way to the rice fields in the evening.

One day, the legendary Buddhist monk Ninmon decided to consecrate this spot as sacred ground and ordered the building of a hall to enshrine an image of the Amida Buddha. But when it came time for the woodcutters to cut down the huge nutmeg tree for wood to build the temple, a very odd thing happened. No matter how much they cut, the next day they would return to find the tree in its previous state. Perplexed, the woodcutters didn't know what to do. Then one day, they were told by a local plant whose view of the sun was blocked by the tree, "At the end of every day, burn the sawdust that comes from your cutting, and the tree will eventually come down." Thanks to that advice, the woodcutters were finally able to fell the tree and continue construction. Following Ninmon's orders, a large temple was built and a Buddhist image carved, all from the single nutmeg tree.

This structure is the National Treasure known as Fukiji Temple. Today, many people feel spiritually close to this place, and a large nutmeg tree still grows on the grounds.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

富貴寺大堂

富貴寺は平安後期（794年から1185年）、仏教徒を極楽浄土へと導く仏である阿弥陀如来像を祀るために建立されました。大堂は国宝に指定されており、九州で現存する最古の木造建築物です。富貴寺は、恐ろしい形相で門に立つ2体の仁王像と2本の大きな木 - 左が榎、右が銀杏 - に守られています。内部の仏像と同様に大堂自体が榎の木で作られており、弧を描く屋根のデザインは、仏教における神聖な生き物である鳳凰を象徴しています。元々内装は鮮やかな色で塗られており、細部まで書かれた絵が壁や柱の大部分を覆い、阿弥陀如来像は輝く金箔に包まれていました。礼拝者たちは壁高くに描かれた極楽浄土の仏に見守られながら、時計回りの方向に仏像の周りを回りました。（多くはまだかすかに目に見えます）後年、禅や茶道の影響から、より控えめで洗練された美学が日本の美術や建築に取り入れられました。富貴寺のように豪華に装飾された寺は、古くなり色褪せて、永遠性の風格を帯びていったのです。

榎の木の伝説

むかしむかし、田染のふきの谷に大きな榎の木が一本ありました。この木はとても大きく、その影は朝には川にまで及び、夕べには水田にまで達するほどでした。ある日、伝説の仏教僧である仁聞菩薩がここに霊場を開くことを決め、阿弥陀仏を祀る大堂を建てるよう命じました。しかし寺を建立するために木こりがその大きな榎の木を切り倒そうとすると、とても不思議なことが起こったのです。どれだけ切っても、次の日には木が元の状態に戻っていました。木こりは困って、どうすればいいかわからずにいました。するとある日、その木に日光を遮られていた地元の植物がこう言いました。「毎日その日の終わりに木から出てくるおがくずを燃やせば、その木を倒すことができますよ。」その助言のおかげで、木こりはついにその木を倒し、寺の建設を進めることができました。仁聞菩薩の命に従って、大きな寺と仏像が、全て1本の榎の木から作られました。

これが、国宝である富貴寺です。今日でも多くの人がこの地に惹かれます。今でも大きな榎の木がこの地で育っています。

本事業以前の英語解説文

なし

1236

No.11 Maki Odo Temple

<豊後高田市、大分>

【施設名】 真木大堂

【整備予定媒体】 看板・簡易リーフレット

できあがった英語解説文

Maki Odo Temple

The three statues in this treasure hall are some of the finest examples of wooden Buddhist statuary in Japan—all National Treasures thought to have been carved in the Heian period (794–1185). The centerpiece is an image of Amida Nyorai, 216 centimeters tall and made from several large sections of Japanese cypress. Faint remnants of the original gold leaf that covered the bare skin can be seen against the black lacquered base coat. Guarding the figure are four armored devas, standing on grimacing ogres. On the right is a rare standing image of Fudo Myo-o, whose fearsome expression is meant to frighten people into accepting salvation. At over 250 centimeters, it is one of the largest wooden statues of this Buddhist figure in Japan. On his back is a flaming sacred phoenix, probably an addition from the Edo period (1603–1867). In addition, he holds a sword used to cut through ignorance. He is one of the Five Great Wisdom Kings of Esoteric Buddhism, as is the figure sitting on the water buffalo on the left—Daiitoku Myo-o. The very lifelike animal contrasts with the exaggerated physical nature of the king on its back, with his six faces, arms, and legs. In contrast to many other major temple images, there is no definitive record of where or when these superb statues were made.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

真木大堂

真木大堂の宝物殿にある3体の仏像は、日本の木造仏像を知る上で非常に良い例となります。この3体の仏像は全て重要文化財に指定されており、平安時代（794年～1185年）に彫刻されたものと考えられています。中央は阿弥陀如来像で、高さは216cmあり、檜の大きなパーツをいくつか合わせて作られています。如来像に貼られていた金箔のかすかな名残を、黒漆の下地に見ることができます。阿弥陀如来像は4体の武装した守護神に守られており、それぞれの像は顔をしかめた邪鬼の上に立っています。如来像の右側の像は不動明王で、珍しい立像となっています。不動明王が恐ろしい表情をしているのは、人々を怖がらせ、救いの道へ導くためです。250cm以上あるこの像は、日本で最大の木造不動です。背後は炎に包まれた聖なる鳥が彫られており、これは江戸時代（1603年から1867年）に追加されたものとされています。また、その手には無知を切り裂く剣が握られています。不動明王は、左手にある水牛の上に座っている像、大威徳明王と同様に、密教の五大明王の一員として崇められています。大威徳明王像は、その背後にある六面六臂六足という強調された身体的特徴と、実物のような水牛が対照的な像です。驚くこと

に、これらの素晴らしい像がどこから、そしていつもたらされたのかという決定的な記録は一切残っていません。

本事業以前の英語解説文

なし

1237

No.12 Kumano Magaibutsu

<豊後高田市、大分>

【施設名】 熊野摩崖仏

【整備予定媒体】 看板・簡易リーフレット

できあがった英語解説文

Kumano Magaibutsu

These stunning bas-reliefs of Buddhist deities are some of the largest cliff-face carvings in Japan. The figure on the upper right is of Dainichi Nyorai, sometimes called the Cosmic Buddha, and measures some 6.8 meters in height. It was probably carved in the tenth or eleventh century by an accomplished sculptor who had worked in Nara and in Japan's capital of Kyoto. Three mandalas can be seen carved in the rock over its head. The figure on the left is Fudo Myo-o, a deity associated with prayers for safety and health. It is the larger of these two reliefs at 8 meters, and is thought to have been carved in the twelfth century. Most depictions of this deity show a more ferocious figure, and the mild expression here is a rarity. Both of these images are powerful icons of Esoteric Buddhism, in which paradise is achieved through arduous practice and secret teachings. (According to legend, the uneven pattern of the stone steps leading up to these carvings is the creation of an ogre in a rush to build them overnight in return for a promised meal of human flesh.)

上記解説文の仮訳（日本語訳）

熊野磨崖仏

これらの見事な浅浮き彫りの仏像は、国内最大級の磨崖仏です。右上の仏像が大日如来で、摩訶毘盧遮那仏とも呼ばれ、高さは約 6.8mあります。京都の彫刻家により 10 世紀または 11 世紀に作られたものとされています。仏像の頭上には 3 つの曼陀羅が彫られていることが分かります。左手の仏像は不動明王で、人々が安全と健康を祈って崇める明王です。大きさは 8mで、12 世紀に見習いの僧によって彫られたと考えられています。不動明王像の多くは恐ろしい形相をしていますが、この像では珍しく穏やかな表情をしています。どちらも、極楽浄土は努力の実践と秘められた技術により到達できると考える密教を象徴する像です。（伝説によると、この磨崖仏に続く乱積された石段は、人間の肉を対価として約束された鬼が一夜にして急いで作ったものとされています。）

本事業以前の英語解説文

なし

1238

No.13 Tennenji Temple

<豊後高田市、大分>

【施設名】 天念寺耶馬

【整備予定媒体】 看板・簡易リーフレット

できあがった英語解説文

Tennenji Temple

This ancient wooden temple is literally built into the face of a cliff wall. For hundreds of years after its construction in the Heian period (794–1185), it was a center for *shugendo*, arduous training for ascetic Buddhist monks in search of enlightenment. The trails they used in their regimen crisscross the hills and valleys of this peninsula and are a favorite of hikers and pilgrims. The Buddhist Temple Lecture Hall (on the left) shares space with a Shinto shrine (behind the *torii* gate on the right), an example of the coexistence of Buddhism and Shinto that was characteristic of this area. A spirited traditional festival called *Shujo Oni-e*, held at the temple on the seventh day of the old calendar (usually in February), illustrates how the two religions sometimes shared more than space. The exuberant main event features a pair of dancing masked *oni* (the ogres of ancient Japan), wielding torches and flinging sparks over the crowd of attendees. While ferocious in appearance, the *oni* are actually reincarnated Buddhas, welcomed in to chase away evil and bring good luck and prosperity to those fortunate enough to be touched by the sparks.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

天念寺

古くからある木造の寺である天念寺は、文字通り崖壁の表面に建てられたものを意味します。平安時代（794年～1185年）に建立された後何百年間もの間、天念寺は悟りを得るために苦行を行う仏教僧のための厳しい修行、修験道を中心でした。彼らが修行に使った道は国東半島の丘や谷を縦横に走っており、ハイカーや巡礼者に人気となっています。この寺（左手）は神道の神社（右手の鳥居の後ろ）と共有の場所にあり、この時代に仏教と神道が共存していたことを示す例となっています。旧暦の7日（通常2月）に行われる、修正鬼会と呼ばれる伝統的な祭りは、2つの宗教が時に場所以上のものを共有していたことを示しています。活気溢れるこの祭りのメインイベントでは、面を被った2体の鬼（古代日本の怪物）が踊り、松明を振りかざし、参加者に火の粉を浴びせます。見た目は恐い鬼ですが、実際は仏が姿を変えた存在とされ、火の粉に触れた者の厄を払い幸運や繁栄をもたらすとして歓迎されています。

本事業以前の英語解説文

なし

1239

No.14 Fukiji Temple

<豊後高田市、大分>

【施設名】 富貴寺

【整備予定媒体】 音声ガイド

できあがった英語解説文

Fukiji Temple

The approach

As you climb the first steps on the approach to the gates of Fukiji Temple, notice the indentations in the stones. At one time, these held oil that was lit to illuminate the entrance at night, and it must have been a magical sight.

Halfway up the steps, on both sides of the wooden main gate, are fearsome stone deities standing guard. These are called *nio*, and were probably made much later than when the temple was built. They were carved out of the local stone, which is remarkably soft, and ideal for statuary. The one on the right has his mouth open to pronounce the sound “*a*” and the one on the left has his closed to pronounce the sound “*un*.” The phrase “*a-un*” is a Buddhist concept representing the beginning and end of all things, similar to the Biblical use of the Greek “alpha” and “omega.”

You’ll notice many examples of stone carving artistry all over this peninsula: in temples, by the side of the road—even in people’s private gardens. The stone in this area is ideal for carving, and it is said that some 70 percent of the country’s stone Buddhist statues can be found on the Kunisaki Peninsula. Although the surface of the stone guardians of Fukiji Temple has become worn and discolored, this matches the overall aesthetic of the temple today.

Amida Hall

The Fukiji Odo main hall, a building of subdued beauty, is very important to Kunisaki’s Buddhist heritage. It was built in the late Heian period (794–1185) as a hall to host the Buddhist deity Amida, who invites true believers to paradise. There are two large trees at the top of the steps: the one on the left is nutmeg; the one on the right is ginkgo. The graceful curves of the roof are meant to resemble a phoenix, one of Buddhism’s sacred animals.

The building is a National Treasure and the oldest wooden structure still standing in Kyushu. It is made of the wood of the nutmeg tree, one that legend says was over 3,000 meters tall. The legend goes on to say that woodsmen had a hard time cutting it down, because each night it would return to its former shape. But they eventually were able to fell it, and thus finish the temple. Today, the variety of the trees in the grounds help surround the temple in beauty year-round.

The interior

The appearance of the interior today is very different from when it was built. Most of the surface then was covered in paintings done in bright colors: reds, yellows, blues, and greens. The statue of Amida, which is 86 centimeters tall and also made of the wood of the nutmeg tree, was covered entirely in gold leaf. It must have been a stunning sight in the light filtering in under the low eaves.

Even the bare wooden columns that you see were once covered in intricate paintings, and the wall behind the statue featured a heavenly landscape. People who came to worship would circle the hallway around the statue in a clockwise direction as they said their prayers. Once your eyes have adjusted to the darkness, look up to where the walls meet the ceiling and you can catch a glimpse of many heavenly figures, though the paintings have faded over the years.

In later years, this kind of lavish decoration lost favor, and a more refined and sober style of art and architecture became popular throughout the country. It was thought that buildings like this one should show their years of wear and tear, and Fukiji Odo is a perfect example of the sublime beauty that has resulted from this aesthetic.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

富貴寺大堂

参道

富貴寺の門へ続く参道の石段を一、二歩登ったところで、石のくぼみにご注目ください。かつてこれらのくぼみには油が入れられており、その油で夜の入り口を照らしていたのです。その光景はどれほど幻想的だったことでしょう。

石段を半分ほど登ったあたり、木造の表門の両側に、恐ろしい姿をした石造りの守護神が立っています。これらは仁王と呼ばれ、お寺建立のずっと後で作られたものだと思います。この地方に特有の、大変柔らかく彫像に最適の石を彫って作られたものです。右の像は口を開いて「あ（阿）」と発声し、左の像は口を閉じて「うん（吽）」と発声しています。この「阿吽（あうん）」という言葉は仏教の概念で、古代ギリシャの「ΑΩ（アルファオメガ）」のように、すべてのものごとの始まりと終わりを表しています。

この半島には石造美術の例が数多く見られることに気づかれることでしょう。お寺や道端、さらには民家の庭にまで、石造物があちこちに見られます。約 70%の日本の石造仏がこの地方にあると言われています。富貴寺を護る仁王像の表面は擦り切れて変色もしていますが、それはそれで今日あるお寺の姿の全体的な美しさと調和していると思われます。

阿弥陀堂

この静かで落ち着いた美しさを持つ大堂は、国東半島の仏教遺産を伝える非常に大切な建物です。真の信者を極楽へと招く仏教の神、阿弥陀仏を本尊とする建物として平安後期（794年から1185年）に建てられました。石段の最上段には大木が2本あります。左の木は榎で、右の木は銀杏です。屋根の優雅な曲線は、仏教の神聖な動物の1つである鳳凰に似せて作られています。

国宝にも指定されているこの建物は、九州に現存する最古の木造建築物でもあります。榎の木から作られており、この木は伝説では3000メートル以上の高さがあったと言われています。この伝説によりますと、この木は切っても切ってもその晩にはまた元の形に戻るため、木こり達はこの木を切り倒すのに大変苦労したということです。それでもついに切り倒すことができ、お寺を完成させることができました。今日では、境内のさまざまな樹木がお寺の建物を取り囲み、お寺を一年中美しく見せています。

内部

今日見られるお寺の内部は、建立当時とは見た目が大きく異なったものとなっています。当時は、表面のほとんどに赤や黄色、青、緑といった明るい色の塗料が塗られていました。高さが86cmあり、建物と同じように榎の木で作られた阿弥陀像は、全面を金箔で覆われていました。それが低いひさしの下から差し込む光に照らされていたのですから、それはそれは見事な光景だったに違いありません。

今は裸状態の木柱も、かつては凝った絵柄で覆われていましたし、阿弥陀像の後ろの壁にも極楽浄土の景色が描かれていました。祈りに訪れた人々は、念仏をつぶやきながら阿弥陀像の周りを時計回りに回ったことでしょう。目が暗さに慣れたら、壁と天井がまじわる部分を見上げてみてください。何年もの年月を経て絵や色が褪せてはいますが、極楽浄土に住むたくさんの生物を垣間見ることができます。

後にこのような豪華な装飾は人気は薄れ、全国的にもっと地味で洗練されたスタイルの芸術や建築が好まれるようになりました。このような派手な建物は長年の摩滅の様子を見せる方がいいとされ、それ以来元の設計通りに修復し、その壮観さを再現しようとした人は誰もいませんでした。

本事業以前の英語解説文

なし

1240

No.15 Maki Odo Temple

<豊後高田市、大分>

【施設名】 真木大堂

【整備予定媒体】 音声ガイド

できあがった英語解説文

Maki Odo Temple

Inside the Treasure Hall

On display here in the treasure hall of Makisan Denjoji Temple are some of the finest wooden Buddhist statues in Japan. These are all Important Cultural Properties thought to have been carved in the eleventh or twelfth century, but there is no record of exactly where they came from, or when.

The seated figure in the center is that of a peaceful and meditative Amida Nyorai, guarded by four armored devas. The statue was carved from several large pieces of Japanese cypress. Notice how the gold leaf that once covered the deity's bare skin has now worn off, showing the black lacquer base coat. If you look closely, you can see four *oni*, ogres that have been trapped in various poses under the feet of the protecting guardians.

On the sides of Amida are two of Esoteric Buddhism's Five Great Wisdom Kings. On the right is a rare standing figure of Fudo Myo-o, a protective deity whom people pray to for safety and health. This is one of the largest wooden statues of this deity in Japan. Notice how his right eye is clear and looking toward heaven, while his left eye is clouded and looking down at the earth. The flaming phoenix on his back was probably added later, perhaps in the Edo period (1603–1867).

On the left, the deity Daiitoku Myo-o rides a water buffalo. His fierce gaze of righteous anger represents victory over death—so you can imagine why he is sometimes called the god of warriors. Depictions of this deity come in various forms, some with up to nine heads, thirty-four arms, and sixteen legs, but six of each is most common in Japan. Local legend has it that the animal he is riding on is the ox from the legend of Fukiji Temple, but as this animal also appears along with the same deity portrayed elsewhere, including China and India, the connection is doubtful.

Denjoji Temple

This temple, now called Maki Odo, was built sometime during the Edo period, which lasted from 1603 to 1867. But there's a mystery involved. At the entrance of the temple are written the characters for Denjoji, the name of what was said to be the main temple of this whole peninsula. It no longer exists, and even its former location is unknown—

which is why it is called the “illusory temple.” But it is believed that the Buddhist statues enshrined next door in the treasure hall once belonged to that “illusory” temple.

Beyond the temple hall is a walking garden with a collection of ancient stone monuments and Buddhist statues. Look for the stone stupas called *kasa toba*, whose stone tops are meant to resemble the woven hats worn by monks in training, and *gorinto*, the small pagodas used for memorial purposes. The five stacked stones are meant to symbolize (from bottom to top) earth, water, fire, air (wind), and ether. You can also find stupas known as Kunisaki-to, which are unique to the area, and have hollows carved in the stone for inserting prayers.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

真木大堂

（所蔵庫内）

馬城山伝乗寺（まきさんでんじょうじ）の所蔵庫に展示されているこの木造の仏像の数々は、日本屈指の素晴らしい木像だとされています。これらはすべて国の重要文化財に指定されており、11世紀か12世紀に彫られたと考えられています。制作場所や制作年の正確な記録はありません。

中央にある座った姿をした像が、阿弥陀如来像です。安らかで瞑想的な姿勢が、武装した4体の守護神に守られています。この如来像は、檜（ひのき）の大きな木材を何本か使って彫られたものです。かつては如来のむき出しの肌を覆っていた金箔が今では剥がれ落ち、黒の漆塗りの下地を見せていることにご注目ください。近くでよくご覧になると、守護神の足元に4体の鬼が様々なポーズで捕らえられているのが見えると思います。

阿弥陀仏の両側には、密教の五大明王のうちの2名の明王がいます。右側には、人々が安全と健康をお祈りする守護神である不動明王の珍しい立像が立っています。不動明王の木像としては日本最大のもので、左眼が濁って地を見下ろしているのに対し、澄み切った右眼は回りをしっかり見張っていることにご注目ください。背後に背負う迦楼羅焰（かるらえん）は、後で付け加えられたものだと考えられ、おそらく江戸時代（1603～1867）のものではないかとされています。

左側では、大威徳明王が水牛にまたがっています。忿怒相をした明王の激しく睨む姿は、死に対する勝利を表しています。これでこの明王が時として戦士の神と呼ばれるわけが理解できますね。この神はさまざまな形で描写されます。九面、三十四臂、十六足のもものありますが、日本では六面六臂六足が最も一般的です。地元の伝説では、明王がまたがっている動物は富貴寺の伝説に登場する牛だともされていますが、同じ描写が中国やチベットなど他の地域でも見られることから、富貴寺伝説との繋がりは疑わしいとされています。

伝乗寺

現在は真木大堂と呼ばれるこのお寺は、1603年から1868年まで続いた江戸時代に建てられたものですが、実は謎が絡んだお寺なのです。お寺の入り口にはこの半島全体の本山本寺とされていた寺院の名前である「伝乗寺」という文字が書かれていますが、これは今では存在せず、それが以前どこに置かれていたかも分かっていません。それでこのお寺は「幻の寺院」と呼ばれているのです。しかし、隣の所蔵庫に祀られている仏像は、かつては伝乗寺に所蔵されていたと信じられています。

本堂の先には、古代の石碑や仏像が集められた、散策用の公園があります。笠塔婆と呼ばれる石造の仏舎利塔を探してみてください。石塔の頭部分が修行中の僧がかぶる編み笠を思わせるように作られたとされています。五輪塔にもご注目ください。記念碑として使われる小型の仏塔です。五段に積み重ねられた石は、地水火風空を（昇順に）象徴させています。またここでは国東塔と呼ばれる仏塔もご覧いただけます。経典を納めるための穴が石に彫り込まれた、この地域独特の石塔です。

本事業以前の英語解説文

なし

1241

No.16 Rokugo Manzan

<豊後高田市、大分>

【施設名】 六郷満山

【整備予定媒体】 音声ガイド

できあがった英語解説文

Rokugo Manzan

The term “*Rokugo Manzan*” is important for understanding the history and culture of the Kunisaki Peninsula. The characters can be read as “six mountainous regions,” but the term actually refers to the many places of worship that are found throughout the peninsula. These can range from a particular rock on the side of a mountain to centers of Buddhist learning.

Sometime during the eighth and ninth centuries, Esoteric Buddhism came to coexist with native Shinto beliefs, probably first at a shrine in the neighboring city of Usa. Over the years, an eclectic mix of doctrines and precepts evolved: Buddhist temples came to share space with Shinto shrines, and Buddhist terms were even absorbed into the Shinto lexicon—and vice versa.

Kunisaki was once home to over sixty-five temples scattered around the peninsula, with their focus divided between study, ascetic training, and proselytizing. Today, thirty-one temples of the Tendai sect of Esoteric Buddhism remain, as does the aura of spirituality that recalls the long history of *Rokugo Manzan* culture.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

六郷満山

六郷満山という言葉は国東半島の歴史と文化を理解するのに大切な言葉です。文字で読む限りは「6つの山岳地域」という意味のようですが、実際には半島一帯に数多く点在する寺院群の総称なのです。その寺院群には、山腹にある特定の岩から仏教の学問の本山まで、幅広い仏教施設が含まれます。

8世紀から9世紀に至る時代のある時期に、密教が日本古来の神道信仰と共存するようになりました。近隣の宇佐神宮がその最初の場所ではなかったかとされています。その後年月を経て、教義や教訓の折衷的な組み合わせが進化していきました。仏教の寺院は神道の神社と空間を共有し、仏教文字が神道の辞書に吸収されるまでもなり、またその逆のパターンも起こるようになりました。

国東半島にはかつて半島一体に 65 の寺院が点在しており、その中心となる活動は学問、修行、布教の三活動に分かれていました。現在でも 31 の寺院とともに、六郷満山文化の長い歴史を思い起こさせる宗教的、霊的な雰囲気が残っています。

本事業以前の英語解説文

なし

1242

No.17 Kumano Magaibutsu

<豊後高田市、大分>

【施設名】 熊野摩崖仏
【整備予定媒体】 音声ガイド

できあがった英語解説文

Kumano Magaibutsu

Ahead of you is a steep 20-minute hike that leads to the Buddhist stone carvings known as Kumano Magaibutsu. But before you begin, here's a local folk tale about how the trail was made. You might want to bear it in mind as you climb, as it goes like this:

Once upon a time, a red ogre who lived nearby woke up feeling starved for the taste of human flesh. He went to Gongen, a local deity, and begged him for permission to satisfy his hunger. Gongen, thinking an impossible task might dissuade the ogre from pursuing this any further, told him, "If you can build 100 stone steps up the mountainside before daybreak, I'll grant your wish."

The ogre was delighted, and immediately leapt to work hauling stones of all sizes, and piling them up haphazardly to make the steps. He worked without rest, images of a tasty human feast fueling his movements.

Just before dawn, Gongen began to worry that the ogre might finish his task, and he went to the mountain to check. When he arrived, he saw the ogre, tired but energized, hauling the last stone up the mountain. If put in place, it would complete the one-hundredth step.

Gongen was shocked, and quickly thought of an idea to stop the ogre from succeeding: Mimicking a cock at sunrise, he cried out, "Cock-a-doodle doo!"

The frustrated ogre threw away the last stone and fled, fearful of being killed by Gongen for his failure to complete the task before the deadline. And the local humans, unaware of how close they'd come to being an ogre's meal, went on with their lives. They also used the ogre's fine set of steps whenever they climbed the mountain.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

熊野磨崖仏（くまのまがいぶつ）

前方には険しい山道があり、ここを 20 分ほど登っていくと、熊野磨崖仏と呼ばれる石造の仏像にたどり着きます。ですがハイキングの前に、この道がどうやって作られたかを語る地元の民話をお聞きましょう。次のようなお話ですので、登りながら思い出してみてください。

昔々、村の近くに住む赤鬼が、人間の肉を味わいたいと思うばかりに目を覚ましてしまいました。赤鬼は地元の神である権現様の元へ行き、飢えを満たしたいのだがよろしいかとお許しをうかがいました。権現様は、出来ないであろう無理難題を言えば赤鬼もあきらめるだろうと思い、こう言いました。「夜明け前までに山腹に百段の石段を築くことができれば、お前の願いを叶えてやる。」

赤鬼は喜び勇んで、さっそくあらゆる大きさの石運びに取り掛かり、手あたり次第に石を積み重ね、石段を造っていきました。休みもせず、おいしそうな人間の肉をたらふく平らげる自分の姿を想像しては元気を出して働きました。

真夜中近くになると、権現様は鬼が任務を終えてしまうのではないかと心配になり、山まで見に行きました。権現様が山に着くと、体は疲れているが気持ちは元気満々といったところの鬼が最後の石を山の上に運んでいる姿が見えました。この石を置いてしまうと、百段目の石段が完成してしまいます。

権現様はこれは大変と、赤鬼の成功を妨げる方法をとっさに考え出しました。夜明けと共に鳴くニワトリの声をまね、「コケッコー！」と大声で叫んだのです。

慌てた鬼は、締め切り前に任務を果たせなければ権現様に殺されてしまう、という恐れから最後の石をほっぽり出して逃げていきました。鬼の餌食になる寸前だったことなど夢にも知らない地元の人間たちは、何事もなかったかのように暮らしを続けました。また山に登るときにはいつでも、赤鬼が築いた見事な石段を利用したのでした。

本事業以前の英語解説文

なし

1243

No.18 Tennenji Temple

<豊後高田市、大分>

【施設名】 天念寺耶馬

【整備予定媒体】 音声ガイド

できあがった英語解説文

Tennenji Temple

You're standing in front of Tennenji Temple, one of the best examples of the unique religious heritage of the area. This is a Buddhist temple that is literally built into the face of a cliff and shares a wall with the neighboring Shinto shrine. You can tell that the building on the right is the shrine because it has a *torii* gate at the entrance. The Temple Lecture Hall on the left was once a center for ascetic training by Buddhist monks who were searching for enlightenment, and the training would include climbing the trails that crisscross the rugged hills behind the shrine.

If you'd like to experience something of their strict regimen, you can climb the steep trail that leads to the ridge above the temple. If you'd just like a glimpse of what they went through, look up to your right at the ridge and you can see the arch of a small stone bridge that crosses a narrow chasm between two rocky peaks. We also recommend that you cross to the bridge in front of the shrine, to view the superb stone carving of a Buddhist deity on the face of a large boulder in the middle of the river.

Shujo Oni-e

Tennenji Temple is the site of a rare and fascinating festival showcasing the coexistence of the Buddhist religion and ancient mountain worship. The event, which is held in February each year, begins with conch trumpets calling on men to purify themselves in the frigid waters of the river just across the road. Fire plays a big part in the festival, with the men jousting outside with huge lit torches before the events move indoors.

After ritual dances and offerings, a pair of masked *oni*, the ogres of ancient Japan, join in a whirling, leaping dance, wielding blazing torches over an ecstatic crowd. The *oni* are welcomed to chase away evil and bring good luck to those touched by the sparks. Visitors are welcome to view an explanatory video, which captures some of the exuberant atmosphere, at the nearby Historical Museum.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

天然寺

目の前に立つ建物は、天然寺です。この地域独特の宗教遺産の最も優れた例の一つです。これは仏教のお寺ですが、神社と文字通り壁を隣り合わせにしているのです。入り口に鳥居の門があることから、右側の建物は神社だと分かります。寺は、かつては悟りを求める修行僧の修験場の中心地でした。修行僧は、神社の裏にある岩だらけの険しい丘の縦横に交差する山道を登ったりして修行を行っていました。

修行僧の厳しい修行法を少しでも体験したいという方には、寺の上の尾根につながる急な山道を登ることができます。修行僧がどんな体験をしていたかを垣間見たいと思ったら、尾根を右の方向に見上げてみてください。2つの岩山の山頂の間の狭い峡谷にかかる、小さな石橋のアーチが見えるはずです。もう1つのお勧めとして、神社正面の橋を渡り、川の真ん中にある大きな岩の表面に彫られた見事な磨崖仏をご覧ください。

修正鬼会（しゅじょうおにえ）

天然寺は、仏教と古代の山岳信仰の共存を伝える、魅力にあふれた珍しいお祭りの開催地でもあります。毎年2月に開催されるこの行事は、ほら貝の笛の呼び出しに応えた男衆が道の向かい側の川の冷水に入り身を清める儀式から始まります。このお祭りでは火が大きな役割を果たしており、火の点いた大松明を持った男衆が屋外で暴れまわり、その後行事は屋内に移動します。

儀式としての踊りや捧げ物の後、古代日本の鬼の面をつけた一組が、旋風を巻き起こしながら飛び跳ねる踊りに加わり、興奮する観衆の上で燃え上がる松明を振り回します。鬼は悪を追い払い、火花に触れた人に幸運をもたらすとして、歓迎されます。近くの歴史博物館でこの行事の活気あふれる雰囲気味わえる解説用ビデオの閲覧が可能ですので、こちらもどうぞご覧になってみてください。

本事業以前の英語解説文

なし

1244

No.19 Tashibu no Sho

<豊後高田市、大分>

【施設名】 田染荘小崎地区

【整備予定媒体】 音声ガイド

できあがった英語解説文

Tashibu no Sho

This thriving agricultural landscape in front of you has changed little over the last millennium. In fact, if you compare your view today with the old map shown on the signboard, you can see that even the shapes of the rice paddies are the same.

This district was once the feudal property of Usa Shrine, used for cultivating rice that would be offered to the gods after harvesting. Notice the *torii* gate standing at the edge of the forest on the far western side of the valley. This marks the location of Amabiki Shrine, which houses a spring from which water once irrigated the entire valley. See how the paddies make a slow descent from that spot? It is believed that the rice fields were first developed in the spring area at the end of the seventh century, and gradually spread to encompass the valley, creating the same landscape we can admire over a thousand years later.

This district has been named a World Agricultural Heritage site thanks to several unique characteristics, including a network of reservoirs to store water, and the use of oak forests as a natural filter and enriching agent. These methods are still being used today to maintain a sustainable system of farming.

For the best view, hike up the short but steep trail on the eastern side of the valley to the two outlooks named after the two Bodhisattvas that watch over the area: on the eastern side, Asahi (which means sunrise); on the western, Yuhi (which means sunset).

上記解説文の仮訳（日本語訳）

田染荘（たしぶのしょう）

目の前には農地として栄える地区が広がっています。ここは千年変わらぬ田園風景を今に残す地区であり、実際、現在の眺めと看板に表示された古い地図とを比べてみても、水田の形状さえ同じであることがわかります。

この地区は、かつては宇佐神宮の荘園であり、収穫後に神に捧げるコメを栽培するために使用されていました。谷のはるか西側の林の端に立つ鳥居門にご注目ください。雨引社の場所を示しています。かつてはこの神社から湧き出た水が、谷全体に灌漑されていたのです。この地点から、水田が緩やかに下るように広がる様子がお分かりになりますか？水田は7世紀の終わりに湧き水周辺から開発が始まり、徐々に広がっていき、千年後には谷を取り囲むようにして一帯に広がったと考えられています。

この地区は、ため池を連携させたネットワークや、クヌギ林を自然力として利用し汚染物を取り去りながら水や土地に涵養をもたらすようにするシステムといった、唯一無二の特徴がいくつも揃っていることを評価され、世界農業遺産に指定されました。これらの方法は今日でも使用され、持続可能なシステムによる農業を維持するのに役立っています。

絶景ポイントをお探しの方は、谷の東側にある短いながら急な山道を登ると、2人の観音様の名前をつけた展望台までたどり着けます。東側が朝日観音、西側が夕日観音、というわけです。

本事業以前の英語解説文

なし

1245

No.20 Showa no Machi

<豊後高田市、大分>

【施設名】 昭和の町

【整備予定媒体】 音声ガイド

できあがった英語解説文

Showa no Machi

Imagine yourself in a small Japanese town some years ago, strolling through the neighborhood streets on a shopping errand. That's what you'll find here at "Showa no Machi"—a part of Bungo Takada that has retained the atmosphere of the heyday of Japan's Showa period in the 1950s and '60s. The facades and interiors of the area's buildings celebrate those years when the country began to enjoy the peace and prosperity of the post-war era. Feel free to poke through the displays of old record players, TVs, toys, and popular animation figures from the past, or bite into the same style of "ice candy" popsicles that kids clamored for in simpler times.

Several museums in old warehouses host exhibitions related to the times—the interiors of houses, shops, and a typical schoolroom. On weekends, a "classic" bus, complete with guide dressed in period clothing, transports visitors on a route around town. Look for the restaurant that not only serves popular dishes from the era, but also does so at the shockingly low prices of the times. Part-museum, part-local shopping street, Showa no Machi represents a slice of time that older Japanese look back on with great sentimentality, and curious younger Japanese find quaintly fascinating.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

昭和の町

自分が数十年前の日本の小さな町にいて、買い物のお使いで近所の通りを歩いている姿を想像してみてください。それが見つかるのがここ、「昭和の町」です。この地域が元気だった1950年代と60年代、日本では昭和の時代の雰囲気は今に残す、豊後高田の町です。この辺りの建物のファサードや内装は、戦後の日本が平和と繁栄を享受し始めた時代を賛美しているかのような、楽しいデザインです。古いレコードプレーヤーやテレビ、おもちゃ、過去に人気のあった漫画やアニメのキャラクターのディスプレイをのんびりと見て回ってもよし、今日ほど物がなかった時代に子供たちが欲しかったのと同じスタイルの「アイスクャンデー」にかぶりついてよし、ご自由にこの町をお楽しみください。

ここには古い倉庫を改造した美術館がいくつかあり、そこでは昭和関連の展示や展覧会が開かれています。民家や商

店、典型的な学校の教室の内装などをご覧ください。週末には、時代衣装を着たガイド付きの「クラシック」なバスが観光客を乗せて町周辺のルートを周遊します。この時代の人気メニューを揃え、しかもそれを驚くほど安い昭和価格で提供しているレストランをお探してください。博物館でもあり地元の商店街でもある「昭和の町」は、その時代を知る日本人なら懐かしさを大いに感じ、そして新しもの好きの若い日本人なら昔の時代の趣にワクワク感を感じていただけるような、タイムスリップ体験型の町です。

本事業以前の英語解説文

なし

1246

No.21 Nagasaki Bana

<豊後高田市、大分>

【施設名】 長崎鼻

【整備予定媒体】 音声ガイド

できあがった英語解説文

Nagasaki Bana

Welcome to Nagasaki Bana, a cape jutting out into the calm waters of the Inland Sea. On the far horizon is Yamaguchi Prefecture, and to your right can be seen the island of Hime-shima.

This is a well-equipped resort area, with accommodations that include cottages, log houses, and tent sites. Major attractions include a pristine white sand beach and sprawling flower fields that are in bloom for much of the year, with canola blossoms in spring and sunflowers in summer.

There are plenty of things to do here, from fishing, swimming, and sunbathing to simply strolling the coastline on a beachcombing excursion. Visitors interested in contemporary art should search for the art installations that dot the cape. Yoko Ono has contributed thirteen “invisible benches” that feature her poems engraved in their stone surfaces.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

長崎鼻

長崎鼻へようこそ。瀬戸内海の穏やかな海に突き出した岬です。水平線の遠く向こう側には山口県があり、右手には、天気が良ければ姫島が見えます。

ここは設備がよく整ったリゾートエリアです。宿泊施設としては、コテージ、ログハウス、テントサイトなどが揃っています。見どころの中心は、美しい自然の残る白い砂浜、そして春には菜の花、夏にはひまわり、とほとんど一年中季節の花が咲き誇るお花畑です。

ここでは、釣り、水遊び、日光浴、ビーチコーミングしながらの海岸線の散歩など、様々なアクティビティがお楽しみいただけます。現代美術に興味のある方なら、岬全体に点在するアートインスタレーションをお探してください。オノ・ヨーコ氏は長崎鼻のために「見えないベンチ」を13基寄贈しています。ベンチの石の表面に自作の詩を彫り込ませた作品です。

本事業以前の英語解説文

なし

環境省阿蘇くじゅう国立公園管理事務所

1247

No.1 Aso-Kuju National Park

<阿蘇くじゅう、熊本・大分>

【施設名】 阿蘇くじゅう

【整備予定媒体】JNTO 国立公園ウェブサイト

できあがった英語解説文

Aso-Kuju National Park

General Information

Covering an area of 726km², Aso-Kuju National Park stretches across Oita and Kumamoto, two prefectures in Central Kyushu. The unique landforms and other geographical features of the park, molded by volcanic activity, have given rise to an attractive local culture. Traditional customs are still alive in the park, including rituals and observances dedicated to deities associated with volcanoes, fire festivals, and harvest prayers.

Aso-Kuju National Park was designated in 1934. Highlights of the park include Mt. Aso and its surrounding giant caldera (a depression formed by the collapse of a volcano into itself), the Kuju Mountains flanked by a range of volcanic peaks, and the widespread grasslands and marshlands that cover the open plateaus at the base of these jagged ridges.

In the south of the park, the Aso Caldera, one of the largest caldera sites in the world, measures 18km from east to west and 25 km from north to south. At the center stand the five peaks of Mt. Aso, rising up from the surrounding flat caldera floor. Viewed from a distance, these are said to resemble a sleeping Buddha. The highest peak, Mt. Takadake, is 1,592 m. Takadake is flanked by the active Mt. Nakadake, whose central crater is filled with an acidic blue pool from which steam regularly rises. The crater here can be approached on foot, by car, or by ropeway (closed at the moment), meaning different aspects of the rugged landscape can be observed close-up. The Aso area also features an almost perfectly shaped volcanic cone, Komezuka, the broad grasslands of the Kusaseni ga hama, the otherworldly barren landscapes of the Sunaseni ga hama, and the high caldera walls that surround them.

Located in the middle of the park, the Kuju Mountains offer a majestic and diverse landscape. From the volcanic peaks, including the highest point in Kyushu, Mt. Nakadake, standing at 1,791m above sea level, to the Handa, Chojabaru and Kuju plateaus, formed from ancient volcanic ash and debris, now almost completely covered in grassland plains, these areas form the contrasting landscapes that Kuju is famous for. The area's highland marshes, Tadewara and Bogatsuru, have both been recognized as Ramsar Sites of International Importance. They are low-lying waterlogged areas in the mountain range that have evolved as unique habitats and are home to an abundance of rare plants and animals.

Mt. Tsurumi, in the north of the park, has been considered a sacred mountain since ancient times. Mt. Yufu, on the other hand, is the source of many of the natural hot springs for which Beppu and Yufuin are famous. Mt. Tsurumi has

a number of small statues of deities, Buddhas, and shrines at its summit, which is accessible by ropeway or on foot. On clear days there are panoramic views of Beppu Bay, Mt. Yufu, and the Kuju Mountains.

The ecology of the park is generally classified into three categories: areas in which volcanic gases are emitted, forests that spread over the base of mountains and managed grassland. In areas of high volcanic gas emissions, very few plants and animals can survive. The forests, including both primary and secondary forests where trees have spread across areas of ancient grasslands, are home to a wide variety of plant and animal life. The grasslands of the park make up most of the area. They are a unique feature of the parkland and consist of both native, semi-natural areas of meadow, pasture, *kaya* reed beds and marshes, and areas where grasses and plants have been introduced and cultivated. The grasslands support over 600 species of plants, a thriving agricultural crop and livestock industry (having been adapted to specific needs by the local people). With invaluable water resources, this area is known as the 'Reservoir of Kyushu', with natural underground rainwater reserves in the porous volcanic ground providing pure, mineral-rich water used by no less than five million people in Kyushu.

Each spring, the grasslands are subject to controlled burnings, known as *noyaki*. This is done in order to keep shrubs and trees from spreading across the grasslands and to preserve their rich natural habitats. Without this human intervention, the grasslands would be taken over by forest, and diversity would be lost.

Aso-Kuju National Park showcases the contrasts typical of Japan's volcanic landscapes. From dense forest to rugged mountains, lush marshes, hidden hot springs (onsen) and pristine waters, the park offers stunning views and a wealth of flora and fauna to enjoy in every season of the year.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

阿蘇くじゅう国立公園

概要

726 km²の面積を擁する阿蘇くじゅう国立公園は、大分、熊本 の 2 県にまたがる九州の中央部に位置しています。火山により形成されたこの公園特有の地形および地理的自然環境から見事な文化が生まれています。祭りや収穫祈願など山の神に捧げられる儀式や活動などの伝統行事をこの公園の至る所で今も見ることができます。

阿蘇くじゅう国立公園は 1934 年に誕生しました。この公園の特徴は阿蘇山、阿蘇山を囲む巨大なカルデラ（火山の崩壊によって形成されたくぼ地）、火山の頂きが連なるくじゅう連山、さらにはこれら連山の山麓に位置する広大な台地を覆う草原です。

公園の南側には東西 18km、南北 25km にわたる世界有数のカルデラが位置します。中央には平らなカルデラから起き上がった阿蘇山の 5 つの頂きがそびえています。これらは遠くから見ると、お釈迦様の涅槃像のようだと言われています。活火山の中岳に隣接する最高峰高岳は海拔 1592m、その中央部の火口は酸性の青い池で満たされ絶えず蒸気が上がっています。火口には徒歩、車、ロープウェイ（現在休止中）で近づくことができ、その峻険な景観を間近で見ることができます。ほぼ完璧な円錐形をした米塚、広大な草原の草千里ガ浜、まるで別世界のように荒涼とした砂千里ヶ浜の光景、それらを取りまく高いカルデラの壁などもこの地域の見どころです。

この公園の中央に位置するくじゅう連山の景観は壮大で多様なものです。古代の火山活動による火山灰やがれきにより形成された海拔 1791m の九州最高峰の中岳をはじめとする火山連峰から半田、長者原、久住高原までが今ではほぼ完全に草原に姿を変えていて、こうした景観のコントラストがくじゅう公園の名を知らしめています。この高原のタデ原湿原、坊ガツル湿原のどちらもラムサール条約湿地として認められており、珍しい植物や動物にあふれた比類ない生息地を作り上げた連峰の斜面に広がる湿原です。

公園の北に位置する鶴見岳は古代から霊山として敬われていました。他方、由布岳は有名な別府や湯布院の天然温泉の源です。鶴見岳の頂上には数多くの小さな仏像や神々の像、神社などが祭られており、徒歩かロープウェイを利用して行くことができます。快晴の日には別府湾、由布岳、久住連山のパノラマを見晴らすことができます。

この公園の生態系は大まかに 3 つに分類することができます。すなわち、火山性蒸気が立ち上る区域、山の麓に広がる森林、および人の手で管理されている草原です。高濃度の火山ガスが発生する区域ではほとんどの直物や動物は生き延びることができません。森林は原生林と古くからの草原地帯に木々が侵入してできた二次的な森林から形成されており、多種多様な植物や動物の生息地です。この公園の大部分を草原が占めています。こうした草原がこの公園を特徴づけており、牧草地や放牧地、かやの原、沼地などの自生の地域または半自然の地域と草や木が植樹された人工的な地域から成ります。草原は 600 種以上の植物や牧畜業および農耕産業（現地の人々の特定のニーズに合わせているため）を支えると共に非常に貴重な水源となっています。この水源は九州の貯水池として知られ、火山台地は雨水をためる自然の地下水タンクとなり、清浄でミネラル分の豊富な水を産出し九州の 500 万人の人々に水を供給しています。

春には草原は野焼きとして知られる野火で人工的に燃やされます。この野焼きは灌木や木が草原に侵入するのを防ぐために行われており、このようにして草原の豊かな自然生息地を保全します。このような人の手が入らないと、草地は森林へと姿を変えこの土地の多様性は失われることでしょう。

阿蘇くじゅう国立公園では、典型的な日本の火山景観のコントラストが見られます。深い森や険しい山々、草木の生い茂った湿地帯、隠れた温泉、清らかな湧き水などが見られると共に、一年を通じ、息をのむほどの美しい景色と豊富な草花に出会えます。

本事業以前の英語解説文

なし

1248

No.2 Volcanoes, Aso-Kuju

<阿蘇くじゅう、熊本・大分>

【施設名】 阿蘇くじゅう

【整備予定媒体】 ウェブサイト、パンフレット

できあがった英語解説文

Aso-Kuju National Park, Volcanoes

There has been volcanic activity in the Aso-Kuju National Park area for at least 270,000 years. The present geological structure of the area has been formed by volcanic activity during the last 90,000 years. The Aso Caldera, measuring 18 km from east to west and 25 km from north to south, was formed by four separate eruptions that took place over several thousands of years.

During the first stage, there were three periods of activity which occurred between 120,000 and 270,000 years ago, when huge pyroclastic flows formed plateaus around the active crater site. Approximately 90,000 years ago another eruption broadened the pyroclastic plateau. After this eruption, the process of caldera formation was triggered by massive landslides, cave-ins, and the eventual collapse of the crater. The caldera site then collected vast amounts of rainfall, and for a long period was a large lake. Several thousand years' seismic activities then caused this water to drain, resulting in the current caldera structure.

The Kuju Mountains are also volcanic. This activity began approximately 150,000 years ago. Over the last 5,000 years, there have been volcanic eruptions about once every thousand years. The most recent large-scale magma eruption was that of Mt. Kurodake, about 1,700 years ago. More recently, on October 11th, 1995, Mt. Io erupted, ejecting cinders the size of a fist distance of up to 100 m from the crater. Even now, Mt. Io still emits gas fumes.

Home to two active volcanoes, Mt. Aso in the Aso range and Mt. Io in the Kuju range, the Aso-Kuju area still experiences volcanic activity, and in recent years (three times since 2010) has had a number of smaller-scale eruptions, mostly consisting of ash and rocks.

Despite the risk of having to evacuate the crater area when there is any danger of an eruption, there are many benefits to this volcanic environment, namely the rich water resources, the hot springs, and the cool climate in the summer months.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

阿蘇くじゅう国立公園

火山群

阿蘇くじゅう国立公園では 270,000 年前から火山活動が起こっています。90,000 年以降火山活動によって現在の地形が形成されました。東西 18km、南北 25km にわたる阿蘇カルデラは数千年に及ぶ 4 回のそれぞれ別々の噴火によって形成されました。

第 1 期は、120,000 年から 270,000 年前の間に起こった 3 回の火山活動からなり、火砕岩の大規模な流出が活動する火口の周りに台地を築き上げました。約 90,000 年前に起こった別の噴火が火砕岩台地を拡大しました。この噴火後、土砂崩れや山体の陥没、クレーター崩壊によりカルデラが形成されました。その後火口付近は莫大な量の雨水をため、長い年月の間大きな湖でした。何千年も前のある時地震が起き、この水が流出した結果、現在のカルデラの形が出来上がりました。

くじゅう連山も火山で形成されており、約 15 万年前に活動を開始した活火山です。最近 5000 年の間は、1000 年程度の感覚で噴火が発生しています。大規模なマグマ噴火としては、約 1700 年前に生じた黒岳の噴火が最後です。近年では、1995 年 10 月 11 日に、硫黄山（いおうざん）で噴火が発生し、火口から 100m の範囲にこぼし大の噴石が飛びました。現在でも、硫黄山はガスを噴出しています。

2 つの活火山である阿蘇連山の 1 つ阿蘇山とくじゅう連山の 1 つ硫黄岳を擁するこの一帯は未だに噴火活動に見舞われており、最近では(2010 年以降 3 回)ほとんどが火山灰や岩の小規模な噴火が何回か起こっています。

噴火の際には火口の周囲から避難しなければなりません。この火山環境からは、豊富な水資源や温泉、夏の季節の涼しい気候などの多くの恩恵を受けることができます。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 阿蘇くじゅう

【整備予定媒体】 ウェブサイト、パンフレット

できあがった英語解説文

Aso-Kuju National Park

Grasslands

The Aso Caldera is one of the largest calderas in the world. Covering a total area of 380 km², the unique landscape is characterized by mountains and grasslands. The grasslands of the Aso Caldera make up approximately 200 km² of the total area. These grasslands are a unique feature of the caldera, with native, semi-natural areas including meadows, pasture land, reed fields (for thatching), marshes, and areas where grasses and plants have been introduced and cultivated.

Due to the geographical location and climate of the park, the grasslands support a diverse range of plants and animals. The Aso grassland area is home to over 600 species of plants, successful livestock and agricultural crop industries, and an invaluable source of water. The area is known as “the thousand-year-old grassland,” but geological evidence in the soil indicates that the grasslands have been cultivated and maintained by humans for at least 10,000 years.

The Kuju Plateau, lying at the foot of the Kuju mountain range, is also known for its broad grassland landscape. The local soil contains pyroclastic sediments deposited by past volcanic activity. The soils here favor the growth of pampas and other tall grasses.

The grasslands are managed as cattle pastures, by mowing, and by controlled springtime burnings called *noyaki*. Without these methods, trees and shrubs would invade, turning the land into forest, and the natural wealth of the grasslands would be lost.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

阿蘇くじゅう国立公園

草原

阿蘇カルデラは世界的に見ても最大級のカルデラの1つです。総面積 380 km²を擁するこの独特の景観は山々と草原から成り立っています。阿蘇カルデラの草原はおよそ総面積 200 km²に及びます。これら草原は湿地帯、牧草地、茅の原、沼地などから成る原生地帯や準天然地帯、そして草木が人手によって植えられた人工的地帯から成り、カルデラ

の独特な特徴を生み出しています。

この公園の立地および独特の気候のため、草原は多様な植物、動物を育むことができます。この一帯は 600 種以上の植物、盛んな牧畜や農耕業（地域の人々の特定の目的に合わせているため）、貴重な水資源が共存しています。この地域は「数千年前からの草原」として知られていますが、大地の地勢学的研究では、少なくとも 10,000 年もの間、草原は人の手によって開墾され維持されて来たことが証明されています。

くじゅう連山のふもとに広がる久住高原も、どこまでも広がる草原の風景で知られています。このエリアの土は、過去の火山活動によって発生した火砕流堆積物で形成されており、ここでススキやその他の高い草が多く生えています。

草原の維持管理の方法としては、放牧や草の刈り取り、野焼きと呼ばれる春に野に火を放つ作業などがあります。こうして草原を維持しなければ草や藪がこの土地に侵入し草原は森へと姿を変え、その豊かな自然は失われてしまいます。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 阿蘇くじゅう

【整備予定媒体】 ウェブサイト、パンフレット

できあがった英語解説文

Aso-Kuju National Park

Waters of Aso and Kuju

The location of the Aso grasslands, at a high altitude and close to the sea, means they receive a significant amount of rainfall annually; more than double the national average for the rest of Japan. When it rains, grass covering the broad grassland areas moderates the flow of water so that it seeps more slowly into the mineral-rich volcanic ground. It then collects in natural underground reserves and feeds streams and rivers that irrigate northern Kyushu. They include six Class A rivers that provide water for living and agriculture to over five million people in the region. The area is commonly regarded as the water reservoir of Kyushu.

In certain areas, groundwater wells up to the surface under cliffs and at the base of hills, where it forms natural springs producing fresh, clean water. Over large areas of low-lying land, water collects to form a number of wetlands that support a wide range of unique plant and animal life. This has contributed to the area being awarded UNESCO Global Geopark status. There are many hot spring (onsen) towns in the Aso area. Hot springs have been an important part of the daily lives of the locals since ancient times. Many tourists visit the area to bathe in the volcanic hot spring waters, bringing significant economic benefits to the area.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

阿蘇くじゅう国立公園

阿蘇とくじゅうの水

海拔が高い上に海に近いという独特の地形的立地により、阿蘇の草原には日本の年間平均雨量の2倍を超える大量の雨が降ります。雨が降ると広大な草原地帯を覆う草の葉が水の流れを穏やかにするため、水はミネラル分を多く含む火山性の大地に染み込みます。こうして水は自然にできた地下の「水がめ」に集められ北九州を潤す河川へと運ばれます。6つの第一級河川を含むこれら河川が500万人を超える一帯の人々の生活水や農業水となっています。この地域は九州の水がめとして知られています。

崖下や丘陵の麓などでは地下水レベルが地表より上になり、そこは清浄な水が湧き出る自然の泉となります。広大な低地帯には水が流れ込み、多様な希少植物や動物を育む数多くの湿原が形成されます。これがユネスコ世界ジオパ

ークに選ばれた要因となりました。また、阿蘇一帯には多くの温泉街が点在します。温泉は大昔から地域の人々の日常生活の一部となっています。多くの観光客がこの土地を訪れ火山が生んだ温泉に浸り、この一帯に経済効果をもたらしています。

本事業以前の英語解説文

なし

1251

No.5 Sunasenri and the Surrounding Area, Sunasenri

<阿蘇くじゅう、熊本・大分>

【施設名】 砂千里
【整備予定媒体】 看板

できあがった英語解説文

Aso-Kuju National Park

Sunasenri and the Surrounding Area

At 1,506 m above sea level, Nakadake is Mt. Aso's second highest peak after Takadake (1,592 m). Nakadake is an active volcano with seven craters on its summit. It is flanked on the west side by a crater floor covered by fine black sand of crumbled volcanic rocks, called Sunasenri ga hama. The area is a barren landscape with high volcanic gas levels in which few plants can grow.

Of the seven craters of Nakadake, Crater No. 1 is unique in that visitors can approach the crater and observe the acidic blue pond that has formed there. The color is produced by dissolved volcanic minerals. The temperature naturally remains at around 60°C, increasing during periods of volcanic activity. Crater No. 1 constantly discharges volcanic gases and is under continuous surveillance. The gas is mostly composed of water vapor. However, levels of hazardous substances, such as sulfur dioxide, can change from minute to minute and, on particularly active days, can reach dangerous levels without warning. For this reason, access is limited to ensure visitors' safety. It is recommended that people with asthma, or cardiovascular or heart disease, do not approach the Nakadake area. Visitors who do approach the crater area must stay away from restricted zones, pay close attention to announcements regarding volcanic gas emissions, and follow all instructions by crater monitors during an emergency.

The remaining craters are inactive and made up of volcanic rock: pumice, scoria (a pumice-like rock created by the hardening of gaseous basaltic magma) and welded tuff (a hardened rock created from the heat and pressure of a pyroclastic flow). Much like Sunasenri, the area is covered in volcanic ash and debris.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

阿蘇くじゅう国立公園

砂千里 - 周辺地域

海拔 1506m の中岳は高岳（1592m）に次ぐ阿蘇山で 2 番目に高い山です。中岳はその頂上に 7 つの火口を有する活火山です。中岳は砂千里ヶ浜と呼ばれる破碎された火山岩から出来た細かな黒砂で覆われた火口原傍の

西側面に位置します。この一帯は植物がほとんど生育しない高濃度の火山ガスに覆われる不毛地帯です。

中岳の7つの火口のうち、第1火口は観光客が火口に近づき青い酸性の火口湖を見物することができる世界的にも珍しい火口です。青色は水中に溶けだした火山性鉱物によるものです。水温は常におよそ60°Cを保っていますが、火山活動の時期には上昇します。第1火口は常に火山性ガスを噴出しており、監視下に置かれています。ガスの成分はほとんどが水蒸気ですが、有害物質である二酸化硫黄の濃度が刻々変化するため、特に火山活動中は警告がなくても危険な濃度に達することがあります。このため、立入規制による安全管理を行っています。喘息の方、心臓血管や心臓に持病をお持ちの方々には速やかに火口周辺のこのエリアから離れてください。火口付近に近づく見物客は制限区域には足を踏み入れず、火山ガスの噴出に関する放送に注意して緊急事態発生時には火口監視員の指示に全面的に従ってください。

その他の火口は休止中で火山岩（軽石、スコリア（ガス性の玄武岩のマグマが固結してできた軽石のような岩）と溶けて固まった凝灰岩（火砕流の熱と圧力によって出来た岩））で出来ています。砂千里と同様この地帯は火山灰と瓦礫で覆われています。

本事業以前の英語解説文

Aso volcano is one of the biggest caldera volcanoes (a large volcanic depression) in the world, which is 18km from east to west, 25km from north to south, and approximately 100km around. It also consists of extensive pyroclastic flow plateaus spreading around the caldera and numerous volcanic edifices, which were formed by subsequent activities. Its scale, intricacy and variety of landforms and geology are special characteristics of Aso which nature has created for hundreds of thousands of years. It is popular symbol of Kumamoto Prefecture, which is known as the Country of Fire. The blessings of nature serves as a natural background to human life that can be traced back from over tens of thousands of years ago. It also gave birth to the development of its unique culture and history. Around Aso Volcano, there are numerous geo-sites that will allow people to learn the relationship between the works nature and the human life while enjoying the landscape.

1252

No.6 Features of Sunasenri, Sunasenri

<阿蘇くじゅう、熊本・大分>

【施設名】 砂千里
【整備予定媒体】 看板

できあがった英語解説文

Aso-Kuju National Park

Features of Sunasenri

Sunasenri ga hama is a crater floor covered with volcanic ash. The area is dotted with volcanic ash deposits and masses of hardened magma called “volcanic bombs.” The size of these volcanic bombs can vary from several centimeters to tens of centimeters, some even measuring more than 1 m in diameter, and can be seen distributed across the rugged terrain of the Sunasenri ga hama.

The terrain of the Sunasenri ga hama is made up of volcanic rock: pumice, scoria (a pumice-like rock created by the hardening of gaseous basaltic magma) and welded tuff (a hardened rock created from the heat and pressure of a pyroclastic flow). Volcanic ash and pumice fragments discharged from the nearby active crater are distributed over Sunasenri ga hama, creating an ever-changing landscape. During an eruption, ash fall can dramatically decrease visibility and obscure the view.

Sunasenri ga hama is a barren landscape. The area is subject to high steam levels and volcanic gases, such as hydrogen sulfide and carbon dioxide. These gases are constantly emitted from the Nakadake crater, fumaroles or vents, and from hot spring sources. The hazardous gases create an environment in which few plants can grow. Visitors are strongly advised to stay on the wooden walkway.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

阿蘇くじゅう国立公園

砂千里の特徴

砂千里ヶ浜は火山灰で覆われた火口原です。一帯は堆積した火山灰と「火山弾」と呼ばれる冷えた溶岩の塊が点々と散らばっています。これら火山弾の大きさは数センチから数十センチ、時には直径 1m を超えるものまで多岐にわたり、砂千里ヶ浜の荒涼とした一帯に散乱した様子を見ることができます。

砂千里ヶ浜一帯は火山岩（軽石、スコリア（ガス性の玄武岩のマグマが凝結してできた軽石のような岩）と溶けて固

まった凝灰岩（火砕流の熱と圧力によって出来た岩）とで出来ています。近傍の活火山火口から放出された火山灰と軽石の破片が砂千里ヶ浜全体に広がり、刻々と変化する景観を作り出しています。噴火が始まると降り注ぐ火山灰で視界が極端に悪くなり辺りがぼんやりと霞ます。

砂千里ヶ浜は不毛地帯です。この一帯は、中岳火口、噴気孔や通気口、さらには源泉から絶え間なく噴き出す硫化水素や二酸化炭素を含む多量の蒸気と火山性ガスにさらされます。この有毒ガスにより植物がほとんど生育しない環境が生まれました。観光客は木製の遊歩道から出ないように注意されます。

本事業以前の英語解説文

The gentle, desert-like, sand-gravel mound stretching over this area is called SUNA-SENRI-GA-HAMA. Suna-Senri is an atrio (Approx. Elevation 1,250 m-M.S.L.) of Nakadake young edifice, whose low-lying slope surrounding south side is also the crater wall of the Nakadake young edifice. The relatively high slope on the north side is the youngest cone that emerged in the crater of the Nakadake young edifice. The southern, gentle slope stretching over the Suna-senri is an alluvial fan formed at piedmont due to erosion of the youngest cone. Its sediments contain a large quantity of sand.

Suna-senri is a volcanic desert, where limited kinds of plants, such as Japanese knotweed and *Carex chrysolepis*, could only grow due to volcanic ashes and toxic volcanic gas from the Nakadake crater. Particularly, the Japanese knotweed grows on many small sandy mounds called ITADORI-ZUKA.

1253

No.7 Crater No.5, Sunasenri

<阿蘇くじゅう、熊本・大分>

【施設名】 砂千里
【整備予定媒体】 看板

できあがった英語解説文

Aso-Kuju National Park

Crater No.5

The Nakadake peak of Mt. Aso was formed by a series of multiple eruptions. Today, Nakadake has seven craters located within a 1 km area, running north to south. Crater No.5, in contrast to craters number 1 and 2, has not erupted in recent years. However, the entire crater area is constantly under surveillance to ensure the safety of visitors, and to enable large-scale volcanic research into disaster prevention measures.

The terrain around Crater No.5 is barren and made up of volcanic rock: pumice, scoria (a pumice-like rock created by the hardening of gaseous basaltic magma), and welded tuff (a hardened rock created by the heat and pressure of a pyroclastic flow).

Even though Crater No.5 is inactive, the level of sulfuric acid in the air from the remaining active crater areas is still high. Please do not step beyond the “No Entry” barriers.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

阿蘇くじゅう国立公園

第 5 火口

阿蘇山の中岳頂上は繰り返し起きた噴火によって形成されました。現在中岳には南北に走る 1 kmの範囲内に 7 個の火口が点在します。第 1 火口、第 2 火口とは対照的に第 5 火口は近年噴火していませんが、火口一帯では観光客の安全確保と防災対策のための大規模な火山研究につながる調査が絶えず実施されています。

第 5 火口周辺は火山岩、軽石、スコリア（ガス性の玄武岩のマグマが固結してできた軽石のような岩）と溶けて固まった凝灰岩（火砕流の熱と圧力によって出来た岩）で出来た荒涼とした一帯です。

第 5 火口が休止中であるとはいえ、その他の活火山の火口から噴出する大気中の硫化水素のレベルは依然として高いままです。立ち入り禁止柵の先には決して入らないください。

本事業以前の英語解説文

The gentle, desert-like, sand-gravel mound stretching over this area is called SUNA-SENRI-GA-HAMA. Suna-Senri is an atrio (Approx. Elevation 1,250 m-M.S.L.) of Nakadake young edifice, whose low-lying slope surrounding south side is also the crater wall of the Nakadake young edifice. The relatively high slope on the north side is the youngest cone that emerged in the crater of the Nakadake young edifice. The southern, gentle slope stretching over the Sunasenri is an alluvial fan formed at piedmont due to erosion of the youngest cone. Its sediments contain a large quantity of sand.

Sunasenri is a volcanic desert, where limited kinds of plants, such as Japanese knotweed and *Carex chrysolepis*, could only grow due to volcanic ashes and toxic volcanic gas from the Nakadake crater. Particularly, the Japanese knotweed grows on many small sandy mounds called ITADORI-ZUKA.

【施設名】 草原学習館

【整備予定媒体】 ウェブサイト、パンフレット

できあがった英語解説文

Aso Grassland Conservation Center

The Water Cycle in the Aso Grassland Area

The grasslands of Aso are known as the water reservoir of Kyushu. Due to the grasslands' geographical location at a high altitude and close to the sea, they receive large volumes of rainfall annually; more than double the national average for the rest of Japan.

When it rains, grass covering the broad grassland areas moderate the flow of water, allowing it to seep more steadily into the mineral-rich volcanic ground. There it is collected in natural reservoirs, feeding the streams and rivers that irrigate northern Kyushu. The reservoirs are a source of incredibly pure water for the six main rivers. They supply over five million people with water for daily use and for agriculture.

In certain areas, groundwater wells up under cliffs and at the base of hills, where it forms natural springs producing fresh, clean water. Throughout broad areas of low-lying land, water collects to form wetlands that support a range of unique plant and animal life.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

阿蘇草原保全活動センター

阿蘇草原地帯における水の循環

阿蘇の草原地帯は九州の水がめとして知られています。海拔が高い上に海に近いという特有の地形的立地により、この地域には日本の年間平均雨量の2倍を超える大量の雨が降ります。

雨が降ると広大な草原地帯を覆う草の葉が水の流れを穏やかにするため、水はミネラル分を多く含む火山性の大地に染み込みます。こうして水は自然にできた地下の「水がめ」に集められ北九州を潤す河川へと運ばれます。この水がめは北九州の6主要河川に信じられないほど清浄な水を送り込み、500万人を超える人々に生活水や農業水を供給する水源となっています。

崖下や丘陵の麓などでは地下水レベルが地表より上になり、そこは清浄な水が湧き出る自然の泉となります。広大な低地帯には水が流れ込み、多様な希少植物や動物を育む数多くの湿原が形成されます。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 草原学習館

【整備予定媒体】 ウェブサイト、パンフレット

できあがった英語解説文

Aso Grassland Conservation Center

Grazing

The grassland in Aso is managed using a number of traditional techniques, one of which is livestock grazing on designated pasture land. Grazing ensures a continual grass growth cycle, with cattle feasting on the long grass to ensure fresh growth. Without this management, Aso's grassland would become forested and the natural fertility of the land would be lost.

Today there are around 5,700 grazing cattle in Aso. The cattle are an effective method of maintaining the grasslands as they are allowed to roam freely across the land. They can climb steep valley sides to reach areas that are inaccessible to humans and machinery. More than 70% of the grasslands cannot be accessed by tractor and so must be naturally managed by grazing cattle.

The effects of grazing cattle on the landscape can be seen in the stripe patterns that appear over Aso's hills. These are the result of years of cattle wandering around the mountainsides. If grazing did not take place, the grass would grow so high it would become dangerous to manage the controlled burning. Cattle are vital in conserving Aso's grasslands and its distinctive flora and fauna.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

阿蘇草原保全活動センター

放牧

阿蘇の草原は様々な伝統的方法で維持されており、その一つに、指定された牧草地に放牧し牛に草を食べさせる方法があります。牛に成長した草を食べさせることで草の新たな成長を促す継続的な草の成長周期を確保することができます。こうした維持活動がなければ、阿蘇の草原は森へと変貌しこの土地の豊かな自然は失われてしまいます。

現在、およそ 5,700 頭の牛が放牧されています。牛たちは草を食みながら土地を自由に動き回るので、放牧は草原

を維持するための効果的な方法です。牛たちは急峻な谷を昇り切り人間や機械が入り込めない一帯にも踏み入ることのできる強い足を持っています。草原の 70%以上がトラクターでは近づくことができないので、牛の放牧によって草原を維持することは自然の成り行きに違いありません。

阿蘇一帯に牛を放牧する効果は、阿蘇の丘陵全体に現れた縞模様に見出すことができます。これらの模様は、牛が何年もの間、山の側面を草を食みながら歩いたためにできました。放牧をしなかったら草は高く成長しすぎ、野焼きによって草を管理するにも危険です。牛は阿蘇の草原やその希少な草花を保護する上で欠かせない存在なのです。

本事業以前の英語解説文

なし

1256

No.10 Obon Flower-Picking Tradition, Aso Grassland Conservation Center

<阿蘇くじゅう、熊本・大分>

【施設名】 草原学習館

【整備予定媒体】 ウェブサイト、パンフレット

できあがった英語解説文

Aso Grassland Conservation Center

Obon Flower-Picking Tradition

The grasslands of Aso are home to 600 different types of plants and flowers. Each year in August (around the 15th), local people celebrate the Obon Festival, a centuries-old tradition in which Japanese people welcome their ancestors' spirits into their homes and provide them with offerings. Families pay tribute to their ancestors by presenting these offerings both at special altars that are prepared within the home and at the graves of deceased relatives.

In Aso, people gather wildflowers from the abundant grasslands to use in offerings for the Obon Festival. Over the years, as the grasslands have diminished in size, so too have the variety and number of wildflowers found in Aso. Many plants are now protected species and must not be collected by locals or visitors. The Obon flower-picking tradition stems from the harmonious relationship between people and nature. It continues thanks to the respect and understanding of the local people for this special habitat.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

阿蘇草原保全活動センター

盆花摘みの伝統

阿蘇の草原には 600 種もの植物や花が生息しています。毎年 8 月（15 日ごろ）に、地元の人々はお盆を取り行います。お盆は日本人がその先祖の魂を家々に迎え入れ、彼らに供物を捧げる何世紀も続く行事です。家族は家の中に用意された特別な祭壇や死亡した親族のお墓に供物を捧げて、自分たちの先祖に敬意を表します。

阿蘇の人々はお盆行事に供えるために豊かな草原から野草を摘みます。草原は年々縮小傾向にあり阿蘇で見られる野草の種類や数も少なくなってきました。多くの植物が今や保護種であり、地元民も観光客も勝手に摘むことは禁じられています。お盆に花を摘む伝統は、人と自然との調和の取れた関係から生まれたものであって、地元民がこの特別な生息地に抱く敬意と理解から存続し続けています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 草原学習館

【整備予定媒体】 ウェブサイト、パンフレット

できあがった英語解説文

Aso Grassland Conservation Center

Grassland and Agriculture

Agriculture has been a way of life on the Aso grasslands for a long time. The wild grass that has been cut in the fall and used as bedding for the cattle becomes good quality compost and is in turn used to sustain agriculture. Paddies for rice, fields for cereal crops and vegetables, cultured flowers, and meadows of thatch grasses and combustible-fuel grasses all thrive in the region's relatively cool climate and the favorable environment provided by the broad plains and grasslands.

Due to the abundant grass and water resources, livestock farming, in particular, is a substantial part of the region's agricultural output. By exploiting the natural wealth of the land, farmers have established a symbiotic relationship whereby their livestock is not only used as a source of income but also helps to preserve the state of the grasslands through grazing.

As in the rest of Japan, farming in rural areas is in decline. Aging populations and young workers' desire to pursue careers in other industries, and to move to larger cities, has meant that Aso's farmland can no longer be properly maintained by the local people. Today, the annual controlled burnings of the grassland rely on the hiring of around 2,500 volunteers from the surrounding cities.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

草原保全活動センター

草原と農業

農業は、長い期間、阿蘇草原の生活手段でした。草原で秋に刈り取り、牛の敷料として使った野草は良好な堆肥として阿蘇の農業を支えてきました。米や穀物、野菜づくり、花卉や茅、可燃性の燃料用植物の栽培などがいずれもこの地域特有の寒冷な気象条件および広大な平原や草原が生み出す良好な環境の下で盛んに行われています。

豊富な草と水源のおかげで、特に牧畜業はこの地域の重要な農業の 1 つです。土地の自然の恵みを利用することに

より、農民たちは牧畜業を収入源とするだけでなく放牧によって草原の状態を保全する共生関係を築きました。

日本の他の地域と同様、地方の農業は衰退しつつあります。高齢化や若い労働者たちの他の職種や大都市でキャリアを磨きたいという願望があって、阿蘇の農地は地元民ではもはや十分に維持することができなくなって来ています。現在では毎年の野焼きは周辺の大都市から受け入れたおよそ 2500 人のボランティアに頼る状況です。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 草原学習館

【整備予定媒体】 ウェブサイト、パンフレット

できあがった英語解説文

Aso Grassland Conservation Center

Conservation of the Grasslands

The grasslands of the Aso Caldera cover an area of approximately 220 km². These grasslands are a distinctive feature of the caldera, consisting of both native, semi-natural areas including meadows, pasture land, thatch fields, and marshes, as well as areas in which grasses and plants have been introduced and cultivated. Without human intervention, these areas would succumb to invasions of fast-growing shrubs and the land would quickly be forested, resulting in the extinction of the diverse range of plant species found in the grasslands.

Both grazing and controlled burnings, known as *noyaki* in Japanese, need to be done in order to maintain the grasslands. Controlled burning has been practiced for a thousand years or so in and around the Aso Caldera. Burning prevents shrubs and trees from taking over and preserves the grasslands and the wealth of nature contained within them. The burnings take place in early spring and can be completed only with the help of trained volunteers. Volunteers also help in early autumn when over 500 km of firebreaks must be cut into the grasslands in order to prevent the fires from spreading to protected areas.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

阿蘇草原保全活動センター

草原の保全

阿蘇カルデラの草原は総面積およそ 220 km²に及びます。こうした草原がこの公園を特徴づけており、牧草地や放牧地、かやの原、沼地などの自生の地域または半自然の地域と草や木が植樹された人工的な地域から成ります。こうした地域は人の手で維持されず放置されると、急成長する藪の侵入を防ぐことができず、土地は急速に森林へと変貌し草原に見られる多種多様な植物は駆逐されてしまいます。

放牧や日本語で野焼きとして知られる管理の下で枯草を燃やす作業は草原を維持するために続ける必要があります。野焼きは阿蘇カルデラの周辺で一千年もの間実施されてきました。野焼きにより藪や木々が土地を占領するのを防ぎ、草原や草原に備わっている自然の恵みを保全することができます。野焼きは早春に行われますが、熟練ボランテ

イアの助けがなければ立ち行きません。ボランティアはまた初秋にも火が保護地域に広がるのを防ぐため、500km 以上にわたり草を刈り取る防火帯を設けるために手伝ってくれます。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 草原学習館

【整備予定媒体】 ウェブサイト、パンフレット

できあがった英語解説文

Aso Grassland Conservation Center

Use of Thatch Grass

Houses with traditional, thatched roofs, were once common in the Aso area. Some locals still harvest *susuki* (*Miscanthus sinensis*) for rethatching roofs every year. *Susuki* grass is abundant on the grasslands stretching across the Aso Caldera, thriving in the relatively cool summers and fall, and low snowfall in winter. The Aso area is known for producing exceptionally high-quality thatch that is robust and durable. Indeed, it was used in the building of the highly-esteemed Aoi Aso Shrine, the first Important Cultural Property in Kumamoto Prefecture to be designated a National Treasure, and the southernmost building in Japan to receive this title.

Today, as a result of the declining number of locally thatched roofs, Aso has been able to take advantage of the quality of its thatch. Responding to high demand in prefectures from Kanazawa to Kyoto, the thatch is used for all manner of repairs, including repairs to important temples, shrines, and other cultural assets. This use of *susuki* grass in the industry has brought economic benefits to Aso and given an additional incentive to sustainably manage specific areas of grassland.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

阿蘇草原保全活動センター

茅の利用

かつては茅葺の屋根をもつ伝統的な家屋が阿蘇地域にはありました。阿蘇の一部の地元民は今もなお茅葺屋根に使用する毎年のすすきの栽培を続けています。阿蘇カルデラ全域に広がる草原は寒い気候の夏や秋、雪の少ない冬に繁茂するすすきで覆われます。阿蘇は寿命の長い耐久性に優れたとびきり高品質の茅を産することで知られており、熊本県で最初の重要文化財であり、熱い信仰を集める青井阿蘇神社の神殿に使用されることにもなりました。青井阿蘇神社は国宝にも指定されこの名誉を受けた日本最南端の建物です。

現在、茅葺屋根の数が減少した結果、阿蘇はその良質な茅を利用して、金沢から京都まで日本全国から寄せられる、多くの重要な仏閣、神社、文化遺産などの修理に使用するための茅の高い需要に応えています。すすきの産業へ

の利用は阿蘇に経済利益をもたらし、草原の特定地域に別の持続可能な管理方法を増やしつつあります。

本事業以前の英語解説文

なし

1260

No.14 Volcano, Minami Aso VC

<阿蘇くじゅう、熊本・大分>

【施設名】 南阿蘇 VC

【整備予定媒体】 ウェブサイト、パンフレット

できあがった英語解説文

Living Near a Volcano

The relationship between people and Aso has developed over thousands of years. People have inhabited and farmed this area, cultivating and preserving the characteristic grasslands, wetlands, and ancient forests, while shaping a unique culture with Mt. Aso at its heart.

Nakadake, an active volcano, is monitored constantly to predict volcanic eruptions and earthquakes resulting from seismic activity on the Aso fault line. Safety measures and warning systems are in place, helping to ensure that locals and visitors can safely enjoy the natural beauty of the area.

In spite of the potential risks associated with living so close to an active crater, the people living in the Aso area also enjoy beneficial interactions with the volcano. The area has plenty of pure spring water, filtered through volcanic rock, which is essential for use in everyday life and agriculture. Hot springs are abundant, with many relaxing onsen that have attracted visitors and contributed greatly to the local economy. Broad grasslands sweep across the foot of Mt. Aso. These are ideal for raising livestock and growing crops. The grasslands also create unique ecosystems that provide habitats for rare plants, insects, and birds.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

火山近くでの暮らし

人間と阿蘇との関係は、何千年も前から形成されてきました。人々はこの地に住み、農地開拓を行い、特徴的な草原や湿地、古代の森林を栽培・保護するとともに、この阿蘇という地域のユニークな文化を作ってきました。

活火山とである中岳地帯は、噴火や阿蘇断層活動により引き起こされる地震予知のために常に監視されています。安全対策と警報システムが整備されているため、地元や観光客が安全に自然の美しさを楽しむことができます。

活発な噴火口の近くに住むことに伴う潜在的な危険はありますが、阿蘇地区に住む人々は、火山からもたらされる数多くの恩恵を得ています。この地域には、日常生活や農業での使用に不可欠な、火山岩を介して濾過された純粋な

湧水がたくさんあります。温泉は豊富で、リラックスできる観光スポットが地域経済に大きく貢献しています。阿蘇は、広大な牧草が山麓に広がっており、家畜の飼育や作物の栽培に最適な場所です。また、草原は希少な植物、昆虫、および鳥類の生息地を提供するユニークな生態系を作り出しています。

本事業以前の英語解説文

なし

1261

No.15 Spring Water, Minami Aso VC

<阿蘇くじゅう、熊本・大分>

【施設名】 南阿蘇 VC

【整備予定媒体】 ウェブサイト、パンフレット

できあがった英語解説文

Spring Water

Minami Aso is located between the central volcanic cone group and the outer rim of the Aso Caldera. An abundance of natural springs is found in this area. Rainwater in Aso flows through the central volcanic cone and southern outer rim, draining into the lower basin of the mountains through permeable volcanic rock strata.

Within the lower basin, groundwater collects in natural underground reservoirs, which in turn feed streams and rivers that irrigate northern Kyushu. These subterranean reservoirs are the main source for the six main rivers that provide over five million people with water for living and agriculture.

In certain areas, groundwater wells up under cliffs and at the base of hills, forming natural springs, rivers, and wetland areas characterized by fresh, clean water. One complete cycle, from water falling as rain to reappearing in a freshwater environment, takes between twenty and thirty years.

Volcanic activity in the Aso area has resulted in the formation of various geological structures in Minami Aso. The excellent quality of water associated with the natural springs in the area is the result of groundwater from these underground sources having been filtered through tunnels and rock layers before reaching individual springs. Water from these springs has sustained life and human activity for thousands of years.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

湧水

南阿蘇は中央火口丘群と阿蘇カルデラの外縁の間に位置しています。この地域には豊富な自然の泉が湧いています。阿蘇の雨水は、中央火口丘群と南の外縁へと流れ、浸透した火山岩の層を通して山の下流域まで流れていきます。

下部流域では、水が天然の地下水槽に集まり、九州北部を灌漑する河川に流れていきます。この地下水槽は、生活と農業のために 500 万人以上の人々に水を提供する 6 つの主要河川の主な供給源となっています。

特定の地域では、崖下や丘陵地帯などの地表面より水位が高くなっており、新鮮で清潔な水を生む天然の泉、河

川、湿地帯を形成しています。雨として降る水から淡水域を作り上げるに至るまでの一連のサイクルは、20～30 年かかると言われています。

阿蘇地域の火山活動は、南阿蘇において様々な地質構造の変化をもたらしました。地質変化は、この地域の水質の向上に影響を与えています。地下水はいくつもの岩層等を通り、それぞれの泉へ流れているのです。これらの泉の水は何千年もの間、人々の生活を支えてきました。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 南阿蘇 VC

【整備予定媒体】 ウェブサイト、パンフレット

できあがった英語解説文

Animal, Bird, and Insect Life in the Aso Area

The Aso Caldera, one of the largest in the world, measuring 18 km east to west and 25 km north to south, is an area rich in natural grasslands, wetlands, and rugged mountain terrain. The environment of the Aso Caldera provides important habitats for many animals. The animals are attracted by almost 1,600 different species of plants that grow in the area. Of these species, 600 are found within the grasslands, forming the basis of a flourishing ecosystem supporting many rare insects, butterflies, birds, and mammals.

Some of the creatures typically found in Aso include butterflies such as the Aso Blue Butterfly (*Shijimiaeoides divinus barine*). Insects such as the *Daikoku-kogane* dung beetles (*Copris ochus*) and the *Kyushu-ezozeni* cicadas attract birds to the area. About 300 species of birds have been recorded in Kumamoto Prefecture. Half of them are found in the grasslands of Aso. Smaller birds such as meadow bunting (*Emberiza cioides*), zitting cisticola (*Cisticola juncidis*), and the black-browed warbler (*Acrocephalus bistrigiceps*), may also be observed, as well as a number of raptors such as the eastern buzzard (*Buteo japonicus*) and the Japanese sparrowhawk (*Accipiter gularis*), which prey on small mammals in the grasslands. Other creatures found in Aso include the Japanese giant salamander (*Andrias japonicus*), the Kajika frog (*Buergeria buergeri*), and the Japanese odd-scaled snake (*Achalinus*).

上記解説文の仮訳（日本語訳）

阿蘇の生き物

阿蘇カルデラは、世界の中でも最大のカルデラの 1 つであり、東西 18km、南北 25km におよび、自然の草原、湿地、険しい山地に富んだ地域です。阿蘇カルデラのユニークな環境は、多くの動物にとって重要な生息地となっています。この地域に存在する 1600 種もの植物群に魅了され、動物たちが集まっているのです。草原には 1600 種のうち 600 種が存在しており、珍しい昆虫、蝶、鳥類、哺乳類などの豊かな生態系の基盤となっています。

阿蘇でよく見られる生物の 1 つは、草原の草を餌にして生活しているオオルリシジミのような蝶です。草原には、ダイコクコガネのような糞虫が生息し、草原を囲む森林には九州蝦夷虫（蟬）が生息しています。また、鳥たちはこれらの昆虫を求めこの地域にやってきます。熊本県では約 300 種の鳥が記録されており、そのうち半数が阿蘇の草原に生息しています。草原の小さな哺乳動物を餌にするノスリやツミのような猛禽類のほか、ホオジロやセッカ、コヨシキリなどのよう

な小鳥も見られます。阿蘇の他の生き物には、オオサンショウウオ、カジカのカエル、またはアマミタカチホヘビなどがあります。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 南阿蘇 VC

【整備予定媒体】 ウェブサイト、パンフレット

できあがった英語解説文

Aso Grassland

Covering a total area of 380 km², the landscape of the Aso Caldera features mountains, grasslands, and marshes. Grasslands account for approximately 220 km² of the total caldera area. These grasslands are a unique feature of the caldera, being made up of both native, semi-natural areas including meadows, pasture land, thatch fields, and marshes, as well as areas in which grasses and plants have been introduced and cultivated.

Thanks to their geographical location and the local climate, the Aso grasslands support a rich natural ecosystem in which a variety of plants and animals thrive. The area is home to a large livestock population. Agriculture flourishes, having been successfully adapted to the local conditions and the specific needs of the people here. These grasslands are commonly regarded as the reservoir of Kyushu, with natural underground water reservoirs storing rainwater in porous volcanic strata. The pure, mineral-rich water is supplied to around five million people in northern Kyushu.

These grassland areas have been managed so that invasions by fast-growing shrubs and trees, and subsequent forestation, have been avoided. Management of the land includes spring burnings, cutting, and maintaining cattle pastures.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

阿蘇の草原

総面積 380km²の阿蘇カルデラの風景は、山、草原、湿地で構成されています。この内、草原は約 220km²を占めています。阿蘇カルデラの特徴でもあるこれらの草原は、草地、沼地、牧草地などの自然・半自然のエリアと農耕のための植物を植えられた人工的なエリアで作られています。

特定の地理的位置と気候条件のおかげで、阿蘇の草原は多様な植物や動物が繁栄する豊かな自然生態系を作り上げることができています。この地域には大きな家畜棲息地があります。農業は地域の人々に適合し成功した産業でもあります。これらの草原は、九州の貯水池としても知られており、ここには雨水を貯める天然の地下水槽があり、九州北部に約 500 万人の人々が使用している純粋でミネラル豊富な水を生産しています。

この草原地帯は、春の野焼きや伐採、牧草地としての利用などの人の手によって、急速に育つ木々がこの地帯を森に

してしまわないよう、守られているのです。

本事業以前の英語解説文

なし

1264

No.18 Culture of the Aso Area, Minami Aso VC

<阿蘇くじゅう、熊本・大分>

【施設名】 南阿蘇 VC

【整備予定媒体】 ウェブサイト、パンフレット

できあがった英語解説文

The Culture of the Aso Area

The culture of the people of Aso is inextricably linked to the volcanoes and surrounding natural environment. Evidence of people living in the caldera dates back almost 30,000 years, with many remains being found from the Jomon period (pre-10,000–ca. 5th century BCE). Mainly found on the top and middle of the outer rims, these remains show that the area within the crater was once covered by a great lake. After the lake disappeared, the area became widespread grasslands. People soon inhabited this relatively flat land, using it for rice cultivation, farming, and as pasture. The grasslands have been maintained for many years through controlled burnings, cutting, and grazing.

Local people have venerated the Aso volcano since ancient times. Many shrines were erected in honor of the mountain, and there are festivals in which rituals are performed to pray for abundant crop harvests, health, and protection from natural disasters. The springtime Hifuri Festival and the summer Onda Festival are held to help ensure plentiful harvests. Yabusame, held every autumn, celebrates the harvesting of crops, and the wintertime Gomaki Festival is an occasion to pray for good health for the following year.

Due to the area's great natural beauty and history, Aso has long been an inspiration to poets and novelists. Natsume Soseki (1867–1916), Ochiai Naobumi (1861–1903), and Tokutomi Roka (1868–1927), three of Japan's great literary figures, have all referred to the beauty of Aso in their writing.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

阿蘇の文化

阿蘇の人々の文化は、火山や周辺の自然環境と密接に関連しています。カルデラに人が暮らしていたという証拠は、約3万年前に遡り、縄文時代（約1万6000年前から3000年前）の遺跡が多く発見されました。主にカルデアの外側の縁の上部と中央に見られるこれらの遺跡は、クレーター内の領域が広い湖で覆われていたことを示しています。湖が消えた後、その地域は広く草原になりました。人々はまもなく、この平らな土地に稲作、農業、および牧草地のために住むようになりました。草原は、野焼きや伐採、放牧によって長年にわたって維持されてきました。

古くから、この地に住む人々は阿蘇火山を崇拜してきました。山への信仰のための神社が多く建てられ、豊かな穀物収穫や健康的な生活、自然災害からの保護を願う儀式や祭りが執り行われました。今でも、春の火振り祭りや夏のおん

だ祭は、豊穰を祝うために執り行われています。また、秋の流鏝馬祭りは豊作を、冬の護摩木祭りは今後の健康を願って執り行われています。

阿蘇の偉大な自然の美しさと歴史は、詩人や小説家にも影響を与えてきました。夏目漱石、落合直文、徳富六花などのような日本を代表する作家は、作品の中で阿蘇の美しさについて言及しています。

本事業以前の英語解説文

なし

1265

No.19 Attaining Geo-Cultural Heritage Status, Minami Aso VC

<阿蘇くじゅう、熊本・大分>

【施設名】 南阿蘇 VC

【整備予定媒体】 ウェブサイト、パンフレット

できあがった英語解説文

Attaining Global Geopark Status

Aso was granted Global Geopark Network status in 2014 following a detailed scientific study into the geological, archaeological, ecological, and cultural value of the area.

Aso Caldera, measuring 18 km east to west and 25 km north to south, covers a total area of 380 km². The caldera is the remains of massive volcanic eruptions that took place about 270,000 years ago. In the center of the caldera are the five peaks of Mt. Aso, including Nakadake, an active crater. Nakadake has repeatedly erupted since prehistoric times and continues to emit volcanic gases today, a reminder of Aso's volcanic past. Seismic activity of the earth's crust here has shaped the topographical, geological, and cultural features of the area we see today.

The Aso Geopark covers the caldera area, the outer slopes, and the outer rims of the caldera. A remarkable range of natural features can be found here, including multi-colored volcanic rock strata and fault lines. The geology and topography have had a profound influence on local culture. The Aso area is an area of great international importance. It is also the site of the historically significant remains of shrines such as the Shimo Shrine, Kokuzo Shrine, and Aso Shrine. These shrines are each associated with the volcano and the ways it has shaped everyday life. Visitors can gain interesting insights into how the mountains have shaped local culture through the ages.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

ジオ・文化遺産の獲得

阿蘇地方の地質学的、考古学的、生態学的、文化的価値についての詳細な科学的観察の結果、阿蘇は 2014 年にジオパークの地位を付与されました。

東西 18km、南北 25km の阿蘇カルデラは、総面積 380km²あります。このカルデラは、およそ 27 万年前に始まった大規模な火山活動によってできました。カルデラの中心には、中岳を含む 5 つの山があります。中岳は古来より繰り返し噴火しており、現在も火山ガスを放出し続けています。阿蘇の火山活動の歴史を象徴するものであり、地形、地質、文化の特徴を形作っています。

阿蘇ジオパークは、カルデラの内側、外側の斜面、カルデラの外側の縁で構成されています。ジオパーク内に、火山岩層や断層線が見られ、このような天然資源が地元の文化に影響を及ぼしてきました。霜神社や国造神社、阿蘇神社などといった神社や史跡が残っているため、国際的に重要な場所となっています。これらの神社は、火山と日常生活のそれぞれへ関係しています。ここでは、山々がどのようにして時とともにこの地域の人々の文化を形作ってきたかを見ることができます。

本事業以前の英語解説文

なし

1266

No.20 Walking Trails - Rakudayama (Camel Mountain), Minami Aso VC

<阿蘇くじゅう、熊本・大分>

【施設名】 南阿蘇 VC

【整備予定媒体】 パンフレット

できあがった英語解説文

Walking Trails - Rakudayama (Camel Mountain)

The Minami Aso Visitor Center is the starting point for a number of hiking trails in the area where visitors can enjoy a natural landscape molded by historic volcanic activity.

On one of the hiking trails, visitors can enjoy views of Rakudayama (Camel Mountain), so called because of a 5 m-by-10 m rock in the shape of a camel's back. It is thought that the tabular rock was formed when magma was forced up through a crack in the bedrock caused by erosion of the softer stratum. The magma quickly cooled and solidified forming these rocks which, with a little imagination, resemble a camel's humps.

There are many points of interest along the route, including the pure natural waters of the Tsukimawari spring, where water gushes up from 60 m below ground. This spring is surrounded by the same type of tabular rock as found at Rakudayama. From here there is also an impressive view of Mt. Nekodake, a volcano pre-dating the mega eruption that caused the formation of the caldera. The trail also passes a small shrine, Bakuchi Iwa Shrine, created from a hollow in a rock that people subsequently filled with small stones and statues.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

散策マップ らくだ山

南阿蘇ビジターセンターは、歴史的な火山活動によって形成された自然の景観を楽しむことができる、複数の散策ルートの出発点です。

その一つは、らくだ山（キャメル山）へ向かうルートです。らくだ山は、5m×10m の岩がらくだの背中のように見えることから名前が付けられています。軟岩層の侵食による岩石の亀裂からマグマが浮上したときに板状の岩石が形成されたと考えられています。マグマはすぐに冷却され固められ、らくだの塊のように見えるこの岩石を形成しました。

地上 60m 地点から水が湧き出し形成されている月廻り泉は、らくだ山と同じ種類の板状の岩に囲まれており、この泉から様々な観光スポットを見ることができます。ここからは、印象的な根子岳の景色を見ることができ、根子岳の噴火が阿蘇カルデラの形成の原因であると言われています。またこのコースでは、ばくち岩神社と呼ばれる、大きな岩の窪みに

彫像が設置されている小さな神社を通ります。

本事業以前の英語解説文

なし

1267

No.21 Walking Trails - The Trail to Cedars of Takamori, Minami Aso VC

<阿蘇くじゅう、熊本・大分>

【施設名】 南阿蘇 VC

【整備予定媒体】 パンフレット

できあがった英語解説文

Walking Trails - The Trail to the Cedars of Takamori

The second hiking trail from the Minami Aso Visitor Center passes through the forests of Takamori, home to two giant cedars shrouded in an ancient myth. Takamori, a small town of about 6,000 people, is located in the eastern part of Kumamoto Prefecture, nestling on the southern side of the caldera rim. It has a beautiful view of Nekodake, one of the five peaks of Mt. Aso (the others being Mt. Takadake, Mt. Nakadake, Mt. Kishima, and Mt. Eboshi).

Takamori-don no Sugi, two famous cedar trees with trunk diameters of more than 10 m, and more than 400 years old, are located on the way up to the southern rim of the caldera, near the Kyushu Nature Trail. It is thought that the trees, one male and one female, seem to be reaching out to one another with their entwined branches. They are associated with the sixteenth century feudal Lord Takamori Korenao and one of his vassals. Following defeat at the Battle of Aso in 1586, they committed ritual suicide and are said to be buried under the cedars. The site is now known as a power spot that people visit to pray for good fortune in marriage. Visitors will also find a number of old shrines surrounded by lush forest along the route.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

散策マップ② 高森殿の杉

南阿蘇ビジターセンターが提供している2つ目の散策ルートは、2本の古代の神話に包まれた巨大な杉の木がある高森町の森林を通ります。高森は、熊本県の東側にあり、阿蘇カルデラの南側に位置する人口6,000人くらいの町です。高森からは、阿蘇山の5つの峰のひとつである根子岳（その他は高岳、中岳、杵島岳、烏帽子岳）の美しい景色を眺めることができます。

高森どんの杉という、幹の直径が10m以上で樹齢400年以上の2つの有名な杉の木が、カルデラの南端に向かうルートの途中に生えています。この2本の杉を、一本が男性、もう一本が女性と見立てると、あたかもお互いに手を伸ばしあっているように見えます。16世紀の大名、高森惟直と彼の家臣が、1586年の阿蘇の戦いで敗北して切腹した後、この木々の根本に葬られたといわれています。この場所は現在、結婚の幸運を祈るために人々が訪れるパワースポットとして知られています。この散策ルートを進めば、緑豊かな森に囲まれた多くの古い神社を見ることができます。

本事業以前の英語解説文

なし

1268

No.22 Walking Trails - Kamishikimi Kumanoimasu Shrine, Minami Aso VC

<阿蘇くじゅう、熊本・大分>

【施設名】 南阿蘇 VC

【整備予定媒体】 パンフレット

できあがった英語解説文

Walking Trails - Kamishikimi Kumanoimasu Shrine

The third hiking trail from the Minami Aso Visitor Center leads to the Kamishikimi Kumanoimasu Shrine. The shrine is hidden among the forests surrounding Takamori, a small town in this Aso region of Kumamoto Prefecture. The Kamishikimi Kumanoimasu Shrine is known locally for its profoundly spiritual atmosphere. There is a large rock with a cave in the shrine precincts. Myth has it that this rock, called Ugedo, was struck by the demon Kihachi while being chased by Takeiwatatsu no Mikoto, the mythical founder of Aso.

The route takes walkers through wonderful forest scenery. On the way, there is an ancient stone staircase, with moss-covered rocks, stone lanterns, and large *torii* (sacred gates) leading to the shrine itself. This shrine is dedicated to three deities: Izanagi and Izanami, the creators of the Japanese islands and progenitors of myriad deities, and Takeiwatatsu no Mikoto.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

散策マップ③ 上色見熊野座神社

南阿蘇ビジターセンターを出発点とする 3 つ目の散策ルートは、上色見熊野座神社まで行くコースです。熊本県の阿蘇地方にある町、高森を囲む森の中に神社があります。上色見熊野座神社は地元の人々の間では良く知られている場所であり、パワースポットとしても有名です。境内の階段の上には、洞窟のある大きな岩が見えます。これは、「うげど岩」と呼ばれる神話の残る岩で、阿蘇を造ったタケイワツノミコトに追われた鬼八法師が蹴破ったと言われています。

道は、圧倒的な森の景色を背景に、古い石の階段で進み、苔で覆われた岩、石の灯籠、大きな鳥居を通り抜け、神社につながっています。ここで祭られているのは日本の島や神々を造ったといわれているイザナギとイザナミ、タケイワツノミコトという神の 3 柱です。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 阿蘇野草園

【整備予定媒体】 看板

できあがった英語解説文

Aso Wild Grass Garden

General Introduction

The Aso Caldera is one of the largest calderas in the world. Covering a total area of 380km², this is a unique landscape of mountains, grasslands, and marshes. The Aso Wild Grass Garden is designed to allow visitors to observe the plants and flowers of the Aso Grassland in a setting that is as close as possible to their natural habitats. Within the five-hectare garden, visitors will see plants and flowers from Aso's four seasons, as well as local fauna, including wild birds, insects, and amphibians that thrive in this environment.

A network of pathways has been set out in the garden with signs providing information on the various plants, animals, and insects that can be found in the area. There are three graded walking courses for visitors. The Joyful Course (20–30 minutes) is the shortest and recommended for those who are new to the Wild Grass Garden. The Relaxing Course (30–40 minutes) is an easily-accessible path suitable for wheelchair users and recommended for those who want a relaxing view of the Wild Grass Garden. The Yoohoo! Course (approx. one hour) is recommended for those who would like a short hike to enjoy both views of the park and Mount Aso.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

阿蘇野草園

阿蘇カルデラは、世界でも最大級のカルデラの一つです。特徴ある風景は、総面積 380km²あり、山々、草原、沼地で構成されています。阿蘇野草園は、できるだけ自然に近い形で阿蘇草原の植物や花を鑑賞できるように設計されています。5 ヘクタールの庭園には、阿蘇の四季の植物や花、この自然の中に生息する野生の鳥、昆虫、両生類などの様々な生き物を観察することができます。

園内の道には、さまざまな植物、動物、昆虫に関する情報が記載された看板があります。園内には訪問者のために用意された難易度の異なる 3 つの散策ルートがあります。わくわくコース（20–30 分）は、最も短く、阿蘇野草園を初めてご利用の方にお勧めです。のんびりコース（30–40 分）は、阿蘇野草園の景色をゆっくりと楽しみたい人におすすめで、車いすの利用者にも適したコースとなっています。やっほーコース（概ね 1 時間）は、軽いハイキングで園内と阿蘇山の風景を楽しみたい方におすすめです。

本事業以前の英語解説文

In the wild plant garden, plants that grow in Aso throughout the four seasons of the year can be observed in their natural state. Aso is a treasure trove of plants for Japan. These vast grasslands have been maintained by volcanic activity, the cool climate and by livestock farming and other human activity. For these reasons, plants survive that are living fossils of plants that moved southward when Kyushu was joined to the Asian Continent. Moreover, plants unique and precious to Japan grow in the forests. In the garden, the growing environment for plants is maintained, and plants are grown from seeds so that they can be appreciated and the nature of Aso better understood. If one observes carefully, the state of mutual interaction between grass, forest, and other environments in which these plants grow can be seen.

1270

No.24 Unique Plants in the Aso Area, Aso Wild Grass Garden

<阿蘇くじゅう、熊本・大分>

【施設名】 阿蘇野草園

【整備予定媒体】 看板

できあがった英語解説文

Unique Plants in the Aso Area

Thanks to the unique natural environment of Aso's Caldera, a diverse range of nearly 1,600 plant species grow here. Of these, about 600 different plant and flower species are found in the grasslands. While many of these species can be seen throughout Japan, Aso is home to several rare plants and flowers that grow only in this area, including globe thistle (*Echinops setifer*), Oriental yellow violet (*Viola orientalis*), and clustered bellflower (*Campanula glomerata*).

Many plant species in the grassland areas are referred to as "living fossils" because they can be traced back to a time when Kyushu was still connected to the Asian continent. It is believed that these plants were native to northeastern China, making their way south through the Korean Peninsula during the Great Ice Age 300,000 years ago, and surviving today in the cool climate of the Aso region.

Flowers bloom in Aso throughout the year and are actively protected. This is done by limiting the spread of forests through controlled burning, mowing, and grazing. This allows plants to thrive across the grasslands. Conserving and regenerating the grasslands is a vital task. Without it, several of Aso's plant species would become extinct.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

阿蘇野草園

阿蘇の特異な植物

阿蘇カルデラの固有の自然環境のおかげで、約 1600 種の植物がここで生息しています。そのうち 600 種の植物や花が阿蘇の草原にあるものです。これらの植物の多くは日本全土で見ることができますが、ヒゴタイ、キスミレ、ヤツシロソウなど、この地域にしか見られない数多くの希少な植物や花が自生しています。

草原の中の多くの植物は、九州が大陸とつながっていた時期からのもので、生きた化石と呼ばれています。これらの植物は、元々は大陸の東北部に生息するもので、30 万年前の大氷河時代に朝鮮半島へと南下し、現在の阿蘇地方へたどり着いたと言われており、この地域の涼しい気候で自生しています。

阿蘇の草原には一年を通して花が咲きます。草原が森林にならないように、野焼き、草刈り、放牧などといった活動が行われます。そうすることで、阿蘇の植物が草原の中で繁栄することができます。草原を保全し再生することは重要な

仕事であり、それをしなければ、多くの阿蘇の植物が絶滅してしまうでしょう。

本事業以前の英語解説文

A variety of unique plants rarely seen in other regions grow in Aso. A major characteristic of Aso's flora is that among them are a number of plants referred to as living fossils for their origins in North Eastern China and the Korean Peninsula. These plants moved southward from the Asian Continent during the Great Ice Age of 300,000 years ago when Kyushu and Mainland China were joined together and survive today in the cool climate of the Aso region.

1271

No.25 Butterflies of Aso, Aso Wild Grass Garden

<阿蘇くじゅう、熊本・大分>

【施設名】 阿蘇野草園

【整備予定媒体】 看板

できあがった英語解説文

Butterflies of Aso

Kumamoto Prefecture is said to have the largest number of butterfly species in the whole of Kyushu. Out of the 117 species found in Kumamoto, 109 can be found in Aso.

The abundance of wildflowers in Aso's grasslands brings color to the landscape, attracting a variety of butterflies to the area. The 600 species of plants and flowers in the grasslands have adapted to the specific environment and cool climate, creating a unique biodiversity hotspot. This biodiversity plays a vital role in supporting the ecosystem, particularly for the butterfly larvae which feed on Aso's plants.

Some of the plants of Aso are known as "food plants" and support many butterfly species, including the Aso blue butterfly (*Shijimiaeoides divinus*), which eats only a type of plant called *kurara* (*Sophora flavescens*, shrubby sophora). As *kurara* grow in temperate grasslands, controlled burnings, which thin out competitive plants, and grazing, in which cattle eat low-growing plants but avoid *kurara*, provide them with an ideal habitat. Aso is now the only place in Kyushu in which this species of butterfly survives. The ecosystem that has formed as a result of this method of management is unique to Aso and hosts a number of other butterfly species that live only in the fields and grasslands of Aso, including the green-banded swallowtail butterfly (*Graphium sarpedon nipponum*), the pale blue tiger butterfly (*Parantica sita nipponica*), and the small copper butterfly (*Lycaena phlaeas daimio*).

上記解説文の仮訳（日本語訳）

阿蘇の花に集まる蝶たち

熊本県は、九州全土で蝶類が最も多いと言われています。熊本で確認されている117種のうち、109種が阿蘇に生息しています。

阿蘇の草原には豊富な野生の花が咲き誇るため、さまざまな蝶たちが集まっています。草原にある600種の植物や花は、特定の環境と涼しい気候に適応し、ユニークな生物多様性を作り出しています。この生物多様性は、特に阿蘇の植物を餌とする蝶の幼虫の生態系を支える上で重要な役割を果たします。

「餌植物」として知られている植物もあり、これらを中心に様々な蝶の種が生息しています。例えば、オオルリシジミ（*Shijimiaeoides divinus*）という蝶は、クララという植物を餌にしています。クララは温暖な草原で生長する植物で、ほかの植物を焼き払うための野焼き、またはほかの草を食べながらクララを避ける牛の放牧によって、クララが生き延びて、オオルリシジミの生息を支えています。オオルリシジミが生き残っているのは九州では阿蘇が唯一です。このような草原の管理方法によって生まれた生態系に、阿蘇の草原にのみ生息する他種の蝶の種が生息します。例として、アオスジアゲハ、アサギマダラ、ベニシジミなどがあげられます。

本事業以前の英語解説文

A variety of butterflies fly about this wild plant garden and Aso's grasslands gathering honey.

If you watch carefully, you can discern the different species of butterflies by their favorite flowers.

【施設名】 阿蘇野草園

【整備予定媒体】 看板

できあがった英語解説文

Forests of Aso

Japan's rich natural history can be appreciated in the Aso Caldera area. Green forests cover over 66,000 hectares, providing ample opportunity for nature observation in both old-growth evergreen broad-leaved forests and newer, afforested area.

Forestry is a flourishing industry in the Aso region. The caldera contains primary forests, as well as forests producing timber for fuel, and conifer (mainly cedar and cypress) plantations. The diverse forests of Aso are home to insects, birds, and animals that feed, among other things, on fallen leaves and trees. This recycles nutrients and contributes directly to the life-cycle of the forest.

Types of tree found in the Aso forests:

- *Sugi* (*Cryptomeria japonica*, Japanese cedar): Dense and strong, the timber is used for structural building purposes.
- *Hinoki* (*Chamaecyparis obtusa*, Japanese cypress): Similar to the Japanese cedar, but less dense and with good preservation characteristics, the timber is often used to build temples, shrines, and other structures.
- *Matsu* (*Pinus*, Japanese pine): A very resinous tree, it does not easily rot. The timber is used for building structural foundation beams.
- *Keyaki* (*Zelkova serrata*, Japanese zelkova): A lightweight wood whose surface is shiny when polished. The timber is often used to make ornamental furniture.
- *Kiri* (*Paulownia tomentosa*, paulownia): A light, soft wood that is easily worked. The timber is often used in interior design.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

阿蘇の森林

阿蘇カルデラ周辺では、日本の豊かな自然の歴史を見ることができます。緑豊かな森林面積は6万6000ヘクタールを超え、遠い昔からここにある常緑広葉樹林と、森林産業のために作られた新しい森林の両方を自然観察するための機会を提供します。

林業は阿蘇地域では、盛んに行われています。カルデラ内の森林は原生林や、薪炭林の他に、杉やヒノキなどのような、人工林として人間によって植えられた針葉樹を含んでいます。阿蘇の多様な森林には、落葉や枯れ木を食べる昆虫、鳥類、動物が生息し、栄養分をリサイクルし、森林の生活環に貢献しています。

阿蘇の森の中にある木の例：

- ・杉は、固い木材で、建造物に使われます。
- ・ヒノキは、杉に似ていますが、より軽量で保管しやすいため、寺院、神社などの建造物によく使用されます。
- ・松は、樹脂製の樹木で、腐敗しにくいいため、基礎梁や水柱などを構築するために使用されます。
- ・ケヤキは、磨かれたときに表面が光沢を帯びる軽量木材のため、しばしば装飾家具の製作に使われます。
- ・桐は、軽くて柔らかい木材で、簡単に加工できるため。しばしばインテリアデザインに使用されます。

本事業以前の英語解説文

なし

1273

No.27 The Animals of Aso, The Aso Wild Grass Garden

<阿蘇くじゅう、熊本・大分>

【施設名】 阿蘇野草園

【整備予定媒体】 看板

できあがった英語解説文

Animals of Aso

The unique environment of the Aso Caldera provides vital habitat for many animals. It is estimated that there are some 1,600 plants species in Aso, with about 600 of them found in the grasslands. This forms the basis of an ecosystem that attracts a wide variety of insects, butterflies, birds, and mammals.

Hares, foxes, raccoons, deer, weasels, wild boar, and badgers, all live in the Aso grasslands. About 300 species of birds have been recorded in Kumamoto Prefecture, half of them being found in the grasslands of Aso. Smaller birds such as buntings (*Emberiza cioides*), fan-tailed warblers (*Cisticola juncidis*), and Latham's snipes (*Gallinago hardwickii*) can be observed, as well as several raptors including the Japanese sparrowhawk (*Accipiter gularis*), the common buzzard (*Buteo buteo*), and the short-eared owl (*Asio flammeus*), which prey on small mammals in the grasslands.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

阿蘇の動物たち

阿蘇カルデラの固有の環境は、多くの動物の生息地となっています。阿蘇には 1600 種の植物があり、草原には 600 種が自生しています。草原は、多くの昆虫、蝶、鳥、哺乳類を引き寄せるユニークな生態系の基礎を作り出しています。

ウサギ、キツネ、アライグマ、シカ、イタチ、イノシシ、タヌキなどのような動物は、阿蘇草原に生息しています。熊本県では約 300 種の鳥が記録されており、半分が阿蘇の草原に生息しています。ホオジロ、ウグイス、オオジシギなど、小さな鳥のほか、草原の小さな哺乳類を餌食にしているハイタカ、ノスリ、コミズクなど、数多くの猛禽類も見られます。

本事業以前の英語解説文

Because animals that live in the mountains are quick and very cautious, they almost never can be seen. But their footprints are often seen in the mountains and grasslands. Find out the kind of animal by studying its footprints.

【施設名】 阿蘇野草園

【整備予定媒体】 看板

できあがった英語解説文

Oaks and Acorns of Aso

The acorn, or oak nut, is the fruit of oaks and their close relatives (genera *Quercus* and *Lithocarpus*, in the family Fagaceae). They usually form singly or in pairs, and are enclosed in a tough, leathery shell carried in a cup-shaped cupule.

The shape of the acorn will depend to some extent on the particular species of tree. The shape and appearance of the shell that surrounds the acorn also vary considerably, again depending on the type of tree. In Aso there are a number of different acorn-producing trees, each bearing their own unique acorn.

The Japanese oak (*Quercus mongolica* ssp. *crispula*), Konara oak (*Quercus serrata*), Shirakashi (*Quercus myrsinaefolia*), Ichiigashi (*Quercus gilva*), and Japanese evergreen oak (*Quercus acuta*), are all examples of trees that produce acorns with relatively small cupules that cover only a small portion of the acorn itself.

Japanese chestnut oak (*Quercus acutissima*) and Daimyo oak (*Quercus dentata*) trees, on the other hand, produce acorns with large, prominent cupules that cover most of the nut.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

阿蘇の木とドングリ

ドングリは、櫟の木とその近縁種（ブナ科コナラ属やマテバシイ属）の実である。通常は、硬い殻で囲まれた1つまたは2つの種子を含み、皿のような殻斗に入っています。

木の種類によって、ドングリの形に違いがあります。また、ドングリ形や殻斗の形にも、木の種類によって様々な種類があります。阿蘇に多様な樹木が生えており、それぞれ独特の形をした実を持っています。

ミズナラ、コナラ、シラカシ、イチイガシ、アカガシなどの場合、ドングリの一部だけ殻斗に覆われています。

一方、クヌギやカシワの場合、殻斗が大きく、ドングリの大部分を覆っています。

本事業以前の英語解説文

Depending on the species of the tree, there are small differences in the shape of the acorn. Moreover, the shell covering the fruit varies greatly depending on the variety of acorn. By knowing these characteristics one can know the name of the tree the acorn belongs to.

1275

No.29 View from the Observatory, Aso Wild Grass Garden

<阿蘇くじゅう、熊本・大分>

【施設名】 阿蘇野草園

【整備予定媒体】 看板

できあがった英語解説文

View from the Observatory

Mt. Nekodake (1,408 m) and Mt. Takadake (1,592 m) can be seen from the wood deck of the Minami Aso Visitor Center. The view is over lush grasslands and wooded areas against a backdrop of rolling green hills and mountains.

Visitors can trek the 2 km Yooahoo! Course, which is recommended for those who wish to enjoy a short hike to take in both views of the park and the rich natural environment here. About halfway along the course, the Tomizuka View Point, in the National Park Resort Village (Kyukamura) area, offers views of the Aso grassland. To the south, visitors can see Mt. Rakudayama (Camel Mountain), so called for its tabular volcanic rock structure that resembles a camel's humps.

Along this course, visitors can expect to see a diverse range of plants and animals, butterflies and insects, wild birds, and amphibian species which make this area their home. Please respect your surroundings and do not take any living creature, plant, or animal from the park, as many of the local species are rare or endangered.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

展望台からの景色

南阿蘇ビジターセンターウッドデッキからは、根子岳（1408m）と高岳（1592m）の山々が見えます。緑の丘や山々を背景に、緑豊かな牧草地や小さな森林地帯の景観を眺めることができます。

2km 程度のやっほーコースを歩けば、軽い登山をしながら園内の豊かな自然を楽しめます。コースの途中で、休暇村の富塚展望台があり、ここから阿蘇の草原を見ることが出来ます。南側にはらくだの背中の中を穿った岩にその名前の由来があるらくだ山（キャメル山）を眺望できます。

この散策コースでは、蝶や昆虫、野生の鳥、両生類など、ここに生息している様々な植物や動物を見ることができます。この地域の生物は多くが希少で、または絶滅危惧種であるため、散策する際には周りに気を付けて、公園から生き物、植物、または動物を持ち出さないようにお願いします。

本事業以前の英語解説文

The tree lined mountain range that can be seen straight ahead is part of the southern rim of the volcanic crater and crater wall. The grasslands along the base are an area of tall grass that is cut to provide hay to use as winter feed for Cattle and horses. The bumpy grassland to the right is an area of short grass that cattle and horses graze from spring through autumn. The mountain further to the right is an area that resembles a camel hump and called Rakudayama (“camel” and “mound”) by the people of the area. Additionally, inside the fence seen on the lower left is an area of short grass made for goat grazing.

【施設名】 長者原
【整備予定媒体】 看板

できあがった英語解説文

Chojabaru Visitor Center

Chojabaru Highlights

The Chojabaru Plateau, part of the Aso-Kuju National Park, is surrounded by the Kuju Mountain Range in Oita Prefecture. The Tadewara Marsh here was formed when the Shiramizu River was blocked by volcanic ash and debris from a volcanic eruption 6,300 years ago. Tadewara is an area rich in natural spring water, a wetland in which water-loving plants thrive. The area is introduced in detail at the Chojabaru Visitor Center, the starting point for a number of nature walks and a source of information for those wishing to learn more about the Chojabaru Plateau and the surrounding natural environment.

The Tadewara Marsh extends to the east of the Visitor Center, at the foot of three of the peaks in the Kuju Mountain Range: Mt. Mimata, Mt. Io, and Mt. Hossho. Along with the Bogatsuru Marsh, Tadewara has been registered as a Wetland of International Importance by the Ramsar Convention.

The Center provides visitors with the latest tourist information, exhibitions, pamphlets, movies, and visitor guides related to Chojabaru. Exhibitions focusing on the Chojabaru Plateau environment introduce rare species of plants, animals, and insects that live here, as well as human activities characteristic of this region.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

長者原ビジターセンター

長者原の特徴

長者原高原は、阿蘇くじゅう国立公園の一部で、大分県のくじゅう連山に囲まれています。タデ原湿原は、6300年前の噴火で発生した火山灰や岩屑で白水川（しらみずがわ）がせき止められて作られました。タデ原湿原は湧水が豊富で、四季折々、水を好む湿性植物の花を見ることができます。長者原ビジターセンターでは、タデ原湿原に関する情報を手に入れることができます。本施設は、様々な散策ルートの出発地点であり、長者原高原や周辺の自然環境についてもっと知りたい方のための情報センターでもあります。

タデ原湿原は、三俣山、硫黄山、星生山などが連なるくじゅう連山の麓にあり、ビジターセンターの東に広がっています。坊ガツルと共に、タデ原も、ラムサル条約の基準を満たす国際的に重要な湿原として登録されています。

このセンターでは、長者原に関する最新の観光情報、展示、パンフレット、映像、観光ガイドなどが利用できます。展示は、長者原の豊かな環境が中心で、この地域に生息する珍しい植物、動物、昆虫や、この地方に住んでいる人の特有の活動を紹介しています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 長者原
【整備予定媒体】 看板

できあがった英語解説文

Tadewara Area Guide

The Tadewara Wetland is situated on the northwest side of the Kuju Mountain Range at an elevation of approximately 1,000 m above sea level. Created by an upwelling of fresh spring water collected from the surrounding mountains, Tadewara is a valley rich with plant and animal life.

The natural wealth of the area, and its position at this altitude were important factors in the site being designated a Wetland of International Importance under the Ramsar Convention in 2005. To conserve the vegetation and prevent the forest from overrunning the area, the local community conducts controlled burnings in the wetland every spring.

There are three walking courses through the Tadewara Wetland, all of which start from the Chojabaru Visitor Center:

Trail A: Wheelchair accessible with fine views and easy terrain. Approximately 800 m long, the walk can be done in about 20 minutes.

Trail B: A longer trail around the wetland on which seasonal plants and flowers can be viewed. Approximately 1,500 m long, the walk can be done in about 40 minutes.

Trail C: The longest trail, a walk through both wetland and forest. Approximately 2,500 m long, the walk can be done in about 60 minutes.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

タデ原湿原 散策ルート案内

タデ原湿原は、くじゅう連山の北西に、海拔約 1000 メートルの高さに位置しています。タデ原は、周辺の山々から湧き出る新鮮な泉の水が集まって作られた、植物や動物の生態が豊かな低地です。

この地域の自然の豊かさ、そして標高の高さのため、2005 年、ラムサール条約の「国際的に重要な湿原」に指定されました。湿原独特の植生を維持するため、そして森林がこの地域に広がるのを防ぐため、地元の住民は毎年春に野焼

きを行っています。

長者原ビジターセンターを出発点とするタデ原湿原の散策ルートは、3つあります。

遊歩道 A: 眺めが良く、歩きやすい地形。車椅子利用可。

距離約 800m、所要時間約 20 分

遊歩道 B: 湿原を一周する長めのコース。季節ごとの植物や花を見ることができる。

距離約 1500m、所要時間約 40 分

遊歩道 C: 最長コース。湿原と森の両方を歩く。

距離約 2500m、所要時間約 60 分

本事業以前の英語解説文

なし

1278

No.32 Tadewara Marsh, Tadewara Marsh

<阿蘇くじゅう、熊本・大分>

【施設名】 タデ原
【整備予定媒体】 看板

できあがった英語解説文

Tadewara Marsh

The Tadewara Marsh is situated on the northwest side of the Kuju Mountain Range at an elevation of approximately 1,000 m. Due to Kuju's geographical location, geological structure, and heavy annual rainfall (more than 2,500 mm), mineral-rich groundwater collects in the strata. The porous volcanic soil and open grassland areas collect rainwater in natural underground reservoirs. These waters well up in lower lying areas, creating a range of freshwater environments such as springs, ponds, and marshes.

Tadewara Marsh is one of Kuju's typical freshwater environments. Created by the upwelling of fresh spring water draining from the surrounding mountains, Tadewara is a valley rich with plant and animal life. Freshwater reeds and other marsh plants support the rare aquatic insects that form the basis of a thriving ecosystem throughout the year.

In 2005, Tadewara and Bogatsuru were designated as Wetlands of International Importance under the Ramsar Convention, thus protecting and preserving these unique natural habitats.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

タデ原湿原

タデ原湿原は、くじゅう連山の北西に位置し、標高は約 1000 メートルです。くじゅうの独特な地理的位置、地質構造、年間降水量の多さ（2,500mm 以上）のため、ミネラル豊富な水が地下に溜まります。多孔質の火山性土壌と広大な草原地帯が、このような自然地下水タンクに雨水が溜まるのを促進します。低地では、水が湧き上がって、泉、池、湿原のような、いろいろな淡水環境を作ります。

タデ原湿原は、くじゅうで最も代表的な淡水環境の一つです。タデ原は、周囲の山々から湧き出た泉の淡水で作られ、植物や動物の生態が豊富な低地です。淡水の湿地に生える植物やアシが、希少な水生昆虫を支えています。このような昆虫が、一年を通して豊かな生態系の基礎を作っています。

この地域の独特な自然環境を保護、保存するため、2005 年、タデ原湿原と坊ガツル湿原は、ラムサール条約の「国際的に重要な湿原」に指定されました。

本事業以前の英語解説文

なし

1279

No.33 The River Sources of Tadewara, Tadewara Marsh

<阿蘇くじゅう、熊本・大分>

【施設名】 タデ原

【整備予定媒体】 看板

できあがった英語解説文

The River Sources of Tadewara

What makes the Tadewara Marsh so special is that it lies at a high altitude. Tadewara sits on the Handa Plateau at over 1,000 m above sea level. It was formed by waters from the mountain springs of Mt. Mimata and Mt. Yubi.

The streams of the Kuju area, fed by heavy rainfall in the region, cross the Handa Plateau. Annual rainfall of around 3,000 mm falls on the forests and grasslands of the area, flowing into the streams which in turn feed larger rivers such as the Naruko River that originates in Bogatsuru, and the highly-acidic Shiramizu River, which has its source high on Mt. Io.

Mt. Io, the only active volcano in the Kuju Mountain Range, releases sulfur into the Shiramizu River. This causes high acidity along and the whitish tint that gives the river its name. Almost no living creatures can survive in the inhospitable environment of the Shiramizu River. However, because the water source for the Tadewara Marsh is spring water, the marshland itself is home to a small fish called the Upstream fat minnow.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

タデ原の水源

タデ原が湿原として特徴的である主な理由は、標高の高さです。飯田高原の海拔 1000m 強に位置するタデ原湿原は、三俣山や指山から流れ出る泉の水で作られました。

くじゅう地域の小川は、飯田高原沿いを流れています。この地方は降水量が多く、雨から水を得ています。年間降水量約 3000mm が、この地域の森や草原に溜まり、小川に流れ込んでから、坊ガツルが源流の鳴子川や、硫黄山を源流とする高酸度の白水川のような川に水を与えています。

硫黄山は、くじゅう連山で唯一の活火山です。白水川には硫黄が流れ込んでいるため、白色で酸度が高く、この名前が付きました。硫黄山を水源にする白水川の過酷な環境で繁殖する生物はほとんどいませんが、湧水を水源とするタデ原湿原には、タカハヤという、小魚がいます。

本事業以前の英語解説文

なし

1280

No.34 Amagaike, Bogatsuru Marsh

<阿蘇くじゅう、熊本・大分>

【施設名】 坊がツル湿原

【整備予定媒体】 看板

できあがった英語解説文

Amagaike

There are several hiking trails in the Bogatsuru area where visitors can enjoy the natural landscape molded by historic volcanic activity. When taking the hiking route from Chojabaru to the Bogatsuru wetland, visitors pass through various natural environments, including the Amagaike area where high rainfall in the rainy season creates a pure spring water pond.

The hollow area, a former volcanic crater, fills with rainwater. Due to the characteristics of the volcanic rock beneath, this forms a pond for a number of weeks every year. The origin of the name Amagaike comes from the Japanese *ame*, which means “rain” or “sky.” Depending on the quantity of rainfall, there are months when the pond doesn’t form. However, after heavy rainfall—the area experiences around 2,500 mm annually—or a typhoon, the pond will usually form here.

Amagaike, located at 1,400 m above sea level, features a wooden walkway that forms part of the hiking route itself. The area is rich in vegetation, with rare wetland plants that attract various butterflies, insects, and animals. The diverse natural environment adds to the charm of the area and is a highlight of the hiking route.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

雨ヶ池

坊ガツル地域には、ハイキングコースがたくさんあり、観光客は、過去の火山活動によって作られた自然景観を楽しめます。長者原から坊ガツル湿原までのハイキングルートを選ぶと、様々な自然環境を見ることができるエリアを通ります。雨ヶ池という、降水量が多い時期に泉の純水でできる池も通ります。

この場所は旧火口で窪んだ低地のため、雨水が溜まります。地面の下にある火山岩の特徴のため、毎年数週間にかけてここで池が形成されます。雨ヶ池という名前は、「雨」や「空」を意味する日本語の「あめ」に由来しています。降水量によっては、池ができない時期もあります。しかし、大雨や台風の後には、通常はここに池ができます。この地域では、年間 2500mm 以上の雨が降ります。

雨ヶ池は、海拔 1400m の高さに位置し、ハイキングルートの一部にもなっている木製の歩道が特徴です。この地域は植生が豊かで、珍しい湿地植物が育ち、たくさんのチョウ、昆虫、動物などを引き寄せます。このような独特の自然環境が、この地域の魅力を増し、ハイキングルートの見どころとなっています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 猪瀬戸湿原

【整備予定媒体】 ウェブサイト、小冊子

できあがった英語解説文

Inoseto Wetlands

How the Inoseto Wetlands Were Formed

Situated between Mt. Tsurumi (1,374 m) and Mt. Yufu (1,583 m), with the Kijima Plateau on its western side, the Inoseto Wetlands, at an altitude of 700 m, was formed by the unique climate of the area. Due to its geographical location, geological structure, and heavy annual rainfall, mineral-rich groundwater collects in subterranean reservoirs and strata. Groundwater then wells up throughout the low-lying Inoseto area, producing a wetland environment that is rich in plant and animal life.

Human activity and land management around the Inoseto Wetlands have preserved the characteristic grasslands of the area. They are actively maintained by seasonal cutting and controlled burnings known as *noyaki* in Japanese. Pictures from the 1950s show the entire area as grassland, but a decreasing rural population and agricultural activity have led to an invasion of trees and the growth of forested areas. Recently, a project was initiated to regenerate the Inoseto Wetlands and reverse the forestation process.

In 1970, there was a plan to develop the Inoseto area as a golf resort. However, the locals in Yufu opposed the plans as they wished to preserve the diverse wetland ecosystem. The plan has since been shelved, and the site today is actively managed and protected as a wetland area.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

猪瀬戸湿原

成り立ち

猪瀬戸湿原は、鶴見岳(1374m)と由布岳(1583m)の間、標高 700メートルに位置し、西側には城島高原があります。この湿地は、独特の気候条件によって形成されました。特殊な立地と地質構成、また年間降水量が多いため、地表の下に、ミネラル豊富な地下水が溜まります。猪瀬戸では、この低地一帯に地下水が湧き出し、植物や動物の生態に富んだ湿地帯環境を作っています。

人が猪瀬戸湿原に関与することで、この地域の特徴的な草原が保存されています。木切りや、日本語で野焼きと呼

ばれる意図的な焼き払いなど、人が介入にすることによって、湿地は積極的に維持されています。1950年代の写真をみると、この地域全体が草原でした。しかし、農村人口や農業活動が減少したため、木々が侵入し、森林の部分が増えました。最近、猪瀬戸湿原を再生し、森林化を逆転させる活動が行われています。

1970年、猪瀬戸エリアをゴルフリゾートとして開発する計画が持ち上がりましたが、由布の住民が湿原の多様な生態系を守りたいと願い、開発に反対して、計画は中止されました。現在、この場所は日本の重要湿原として、国立公園の中で積極的に管理、保護されています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 猪瀬戸湿原

【整備予定媒体】 ウェブサイト、小冊子

できあがった英語解説文

Inoseto Wetlands

The Revival of the Spring Burning Activities

The grassland areas, characteristic of Inoseto, have been steadily decreasing in size since the 1950s. Rural depopulation and less agricultural activity in the area has led to an invasion of trees and the growth of forested areas. In 2005, however, a project was initiated to regenerate the Inoseto Wetlands and reverse the forestation process.

The project began with three years of research into the history of the wetlands, its vegetation, and the natural environment. Sections of the wetlands were used as test areas in which various grassland conservation methods were trialed: controlled burnings, mowing, and nature conservation. These tests showed that controlled burning offered the most effective way of maintaining and regenerating the grassland areas of Inoseto.

In 2012, after a 40-year break, controlled burnings were restarted with help from the Association for the Conservation of the Inoseto Wetlands and the owner of the land, Kijima Kogen Operations. Burnings have been done annually since then. In 2016, the Ministry of the Environment designated this area an Important Wetland Area, actively protecting and conserving the natural ecosystem and its diverse plant life.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

猪瀬戸湿原

野焼きの復活

猪瀬戸の特徴的な草原地帯は、1950年代以降、徐々に縮小しています。農村人口や農業活動の減少によって、木々が侵入し、森林地帯が増えました。2005年、猪瀬戸湿原を再生し、森林化を逆転させるプロジェクトが開始されました。

このプロジェクトは、3年間にわたって湿原の歴史、植生、自然環境を研究することから始まりました。湿原のいくつかの区画が実験区として使われ、野焼き、草刈り、放置など、草原を保護するための様々な方法が試されました。この実験によって、猪瀬戸の草原地帯を維持、再生するには、野焼きが最も効果的な方法であることが判明しました。

2012年、40年ぶりに、猪瀬戸湿原保全の会と、土地の所有者である、株式会社城島高原オペレーションズの協力を得て、野焼きが再開されました。それ以来、毎年、野焼きが行われています。2016年、環境省は、この地域を重要な湿原に指定し、自然生態系と多様な植物を積極的に保護、保全しています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 猪瀬戸湿原

【整備予定媒体】 ウェブサイト、小冊子

できあがった英語解説文

Inoseto Wetlands

The Wetland Area Today

The Inoseto Wetlands are today a most attractive place for visitors and hikers. In 2014, a hiking trail, allowing visitors to enjoy the natural landscape of the Kijima Plateau and wetland area, was opened. The start point of the trail is the Kijima Kogen Hotel, with different sections of the route taking between twenty and sixty minutes to walk.

The routes take in the natural ecosystem of the area and a range of plants in their wetland habitats, as well as the ruins of the Kyu Hita Kaido road (dating from the Edo period (1603–1868). This old road used to connect Beppu, Oita, and Kijima, with Hita. Hita, located in the west of Oita Prefecture, was an important province during the Edo period. The fief was protected by the ruling shogunate government, which meant the road could be used regularly by local daimyo (feudal lords) to travel to Hita to discharge their feudal duties, including the payment of taxes and contributions to the shogun. The road is thought to have been used until at least 80 years ago. Older folk remember it from their childhood.

On the roadside, there are remnants of small shrines and Jizo statues. It is thought that Jizo protects travelers. There are also the ruins of an old ice-house structure where they made and sold ice in years gone by.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

猪瀬戸湿原

猪瀬戸湿原の今

現在、猪瀬戸湿原は、観光客や登山者にとって魅力的な場所です。2014年には、トレッキングコースが導入され、城島高原や湿原地帯の自然景観を観光客も楽しめるようになりました。トレッキングの出発地点は、城島高原ホテルです。コースにはいろいろな区間があり、所要時間は20～60分です。

このコースで見られるのは、この地域の自然生態系や湿原を生息地とする多様な植物などです。また、大分県別府市や城島を日田とつなぐ、江戸時代(1603-1868)に作られた「旧日田街道跡」もあります。大分県西部に位置する日田は、江戸時代には、幕府の庇護を受けていた天領で、そのため、地方大名（英語では封建時代の統率者と説

明) が将軍への上納金や献上品を持って日田へ旅する際に、頻繁にこの道を使いました。地元のお年寄りが、子どもの頃、この道を見たと言っていることから、少なくとも 80 年前までは使われていたと考えられています。

路傍には、小さな神社跡や地蔵があります。地蔵は、旅人を守ると信じられています。また、昔、氷を作って売っていた古い氷室の跡もあります。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 タデ原湿原（長者原）
【整備予定媒体】 ウェブサイト、小冊子

できあがった英語解説文

Human Activities in Chojabaru

People have been living and farming in the Kuju region for thousands of years. Importantly, they cultivated and preserved the characteristic grasslands of Chojabaru, the wetlands, and the ancient forests of the area.

The grasslands of the Kuju Plateau are actively managed through mowing, controlled burning, and grazing. This has effectively prevented the unwanted spread and growth of trees. These activities ensure that many rare plants and animals thrive in this important ecosystem. Chojabaru is an ideal place to research and survey the area's vegetation and natural environment. Foreign species are monitored and eliminated, and new growth of native species is promoted through spring burnings known as *noyaki*.

Local people have learned to live in the shadow of the volcano, using the characteristics of the landscape to their advantage, developing a culture unique to Chojabaru and Aso-Kuju. They have benefited from the area's pure spring water and geothermal energy for use in cooking, drinking, and bathing. Farmers use the fertile grasslands to raise their livestock and grow plentiful crops. This way of life has been nurtured over thousands of years. The local communities live in harmony with nature.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

長者原の人々の活動

くじゅうでは、何千年もの間、人々が暮らし、農業を営んできました。飯田高原長者原の特徴的な草原、湿原、原生林は、人によって、耕され、保護されてきました。

くじゅう連山の草原は、木が繁茂するのを草刈り、野焼き、放牧などの方法で防ぐために、人が介入し、積極的に草原を保全しています。このような活動のおかげで、多数の珍しい、独特な植物や動物が、この重要な生態系で繁殖できています。そのため、長者原は、観察、植生の調査、外来種の駆除、または野焼きとして知られる春の焼き払いによる、植物の新たな成長の促進などを通して、この地域の植生や自然環境を調査するのに理想的な場所となっています。

地元住民は、火山の元で暮らすすべを身につけ、この地形の特色をうまく活用し、長者原や阿蘇くじゅう特有の文化を

発展させてきました。地元の人々は、この地域の泉の純水や地熱エネルギーを料理、飲料水、入浴などに利用することで、その恩恵を得ています。豊かな草原を利用して、家畜を育て、農作物を栽培しています。何千年もの間、このような暮らしが育まれてきました。地域一帯で、母なる自然との共生を見ることができます。

本事業以前の英語解説文

なし

1285

No.39 The Features and Attractions of Chojabaru, Tadewara Marsh

<阿蘇くじゅう、熊本・大分>

【施設名】 タデ原湿原（長者原）
【整備予定媒体】 ウェブサイト、小冊子

できあがった英語解説文

The Features and Attractions of Chojabaru

The Kuju Mountain Range is a group of five volcanic peaks at elevations of about 1,700 m, spreading some 15 km from east to west. Chojabaru is surrounded by these peaks and was created from ash and debris from local volcanic activity. It offers an outstanding viewpoint for observing the broad grasslands of the plateau against a backdrop of rugged mountains.

Chojabaru has a unique landscape, featuring marshlands, grasslands, and mountain scenery. This makes it popular among mountain climbers, hikers, and tourists. Steam is clearly visible rising from Mt. Io, Kuju's only active volcano. Flanked by Mt. Mimata and Mt. Hossho on either side, these peaks frame the iconic landscape of Chojabaru.

The plateau also features a number of freshwater environments. The Tadewara and Bogatsuru wetlands, both designated Ramsar Wetlands of International Importance, are known for their seasonal wildflowers and unique ecosystems. The hiking trails from the Chojabaru Visitor Center are a great opportunity to see and intimately experience the plateau, from virgin forests to gentle grasslands and volcanic mountains.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

高原の特徴と魅力

くじゅう連山は、標高 1700 メートル、東西 15 キロに広がる、5 つの火山群です。長者原は、これらの山に囲まれ、過去の火山活動による火山灰や噴火堆積物で形成されたエリアです。険しい山々を背景に、高原に広がる草原を見渡すには、最高の場所です。

長者原には、湿原、草原、そして山からなる独特の景観があり、登山者や観光客に人気です。くじゅうで唯一の活火山、硫黄山から立ち上る噴煙が今でも見え、横には三俣山と星生山が並んでいます。これは、長者原の象徴的な光景です。

また、この高原には、たくさんの淡水域という特徴もあります。タデ原湿原と坊ガツル湿原は、どちらもラムサール条約の「国際的に重要な湿原」に指定されています。季節ごとの野草や独特の生態系でも有名です。長者原ビジターセンタ

ーが出發地の遊歩道を歩くと、原生林からのどかな草原、火山群まで、この高原の特色を体験する、よい機会となります。

本事業以前の英語解説文

なし

1286

No.40 Hiking from Chojabaru, Tadewara Marsh

<阿蘇くじゅう、熊本・大分>

【施設名】 タデ原湿原（長者原）
【整備予定媒体】 ウェブサイト、小冊子

できあがった英語解説文

Hiking from Chojabaru

The Chojabaru Visitor Center is the starting point for the Chojabaru hiking trails into the Kuju Mountain Range. The mountains have an extensive network of hiking trails that offer spectacular views of the volcanic terrain and allow visitors to enjoy the four seasons of Kuju, with seasonal spring and summer flowers, autumn foliage, and winter frosts bringing wetlands, forests, and rugged mountain landscapes vividly to life.

After leaving the Chojabaru Visitor Center, hikers pass the Tadewara Marsh, then climb through ancient forests to Amagaike and continue to the Bogatsuru Marsh. Bogatsuru has mountain cottages and a free campground. Hikers have the interesting option to visit Hokkein Onsen, a secluded hot spring area that can be reached only on foot. From Bogatsuru, the Chojabaru trail joins a number of other hiking trails across the Kuju Mountains. Alternatively, hikers can return to the Chojabaru Visitor Center via the Sugamori Pass.

Hiking in the Kuju Mountain Range can be challenging. Please make sure you prepare properly and have the necessary equipment. To be prepared for all eventualities, be sure to submit a *tozan todoke* (mountain climbing registration form) at the visitor center and pick up essential information and guidelines from the Chojabaru Visitor Center before setting out on the trail.

In an emergency, please call:

Fire and emergency medical services	119
Police	110
Chojabaru Visitor Center	0973-79-2154

上記解説文の仮訳（日本語訳）

長者原からの登山

長者原ビジターセンターは、くじゅう連山の長者原登山ルートの出発点です。周辺の山々には、雄大な火山地形を望める登山コースがあり、訪問者は、春と夏は季節の花々、秋の紅葉、冬には霜に覆われた森林で、くじゅうの四季を楽しむことができます。

長者原ビジターセンターを出発した後、登山者はタデ原湿原を抜け、森林を超え、雨ヶ池を通過して、坊ガツル湿原へと続きます。坊ガツル湿原には山小屋や無料のキャンプ場があり、徒歩でのみアクセスできる人里離れた温泉街、法華院温泉を訪れることもできます。坊ガツルから、長者原の登山ルートは久住山の山々を巡るハイキングトレイルに合流します。登山者は、すがもり峠を経由して長者原ビジターセンターに戻れます。

くじゅう連山での登山は容易ではありません。登山を始める前に適切な装備をされているようご確認ください。万一の事態に備え、登山開始前に、長者原ビジターセンターから登山に関する必要な情報を入手し、山登り登録用紙を提出してください。

緊急の場合、以下の緊急連絡先にご連絡ください。

ケガをした場合 119

遭難の場合 110

長者原ビジターセンター 0973-79-2154

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 タデ原湿原（長者原）
【整備予定媒体】 ウェブサイト、小冊子

できあがった英語解説文

The Past and Present of the Grasslands

The Kuju Mountain Range, known as the “Roof of Kyushu,” has an average height of 1,700 m and contains the tallest peak on the island of Kyushu (Mt. Nakadake at 1,791 m). The range, created by ancient volcanic and seismic activity, has the Handa Plateau to the north and Kuju to the south, both situated at around 800 m above sea level. The altitude makes the area particularly cool in the summer.

Both the Handa and Kuju plateaus, created from volcanic ash and debris, are covered in broad grasslands. The grasslands are actively maintained by people through pasturing, mowing, and controlled springtime burnings, called *noyaki*. Without this management of the grasslands, trees would quickly move in, turning the land to forest, and the natural wealth of the grasslands would be lost.

In recent times, the grasslands have been shrinking in size as a result of the decline in the use of the grasses as fuel, animal feed, and thatch. Harvesting has been reduced, thus resulting in a corresponding loss of conservation. Grassland maintenance has also decreased as a result of the falling numbers of people in the area and subsequent decreases in land dedicated to agricultural use. Today, the preservation and regeneration of the grasslands is paramount. A volunteer program, in which volunteers from surrounding cities travel to the Aso-Kuju area to help with springtime burnings every year, is now in place.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

草原の昔と今

「九州の屋根」として知られるくじゅう連山は、平均標高は 1700m で、全九州（中岳は 1791m）で一番高い山頂を有しています。くじゅう連山は数万年前の火山噴火と地震によって作られ、北部には飯田高原、南には久住高原があります。飯田高原も久住高原も標高 800m 前後の高原で、夏はとても冷涼です。

火山灰や噴火から発生したデブリから作られた飯田・久住の両高原は、広大な草原に覆われています。草原は、牧草地としての利用や草刈り、「野焼き」と呼ばれる意図的な草原の焼き払いなどといった、人間の活動によって積極的に維持されています。このような活動は古くから行われています。この草原の維持活動がなければ、木々が草原に侵入

し、森林になることで草原の豊富な自然環境が失われます。

最近では、草原が縮小しています。燃料、放牧、および茅葺としての草の利用が減少したため、このような農業活動により保全されていた草原も失われる危険にあります。地域の人口減少と農地利用の減少に伴い、草原の維持活動も縮小してしまいました。今日では、草原の保全と再生はボランティア募集プログラムによって行われ、周辺の街からやってくる多くのボランティアが阿蘇くじゅうで毎年の春の焼き活動に参加しています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 タデ原湿原（長者原）
【整備予定媒体】 ウェブサイト、小冊子

できあがった英語解説文

Natural Wealth of the Marshland

The Tadewara Marsh is one of Kuju's most important freshwater environments. Created by the upwelling of fresh spring water from the surrounding mountains, Tadewara is a valley rich with plant and animal life. The geographical location and geological structure of the Tadewara Marsh supports a thriving ecosystem of thick, marshy grasses, rare and beautiful plants, endemic aquatic insects, and wild birds.

The high altitude, around 1,000 m above sea level, and relatively cool climate of the marsh promote the growth of a variety of wildflowers. More than 100 different species bloom in the area from spring to autumn, including the globe thistle (*Echinops setifer*), Japanese water iris (*Iris ensata*), purple and yellow loosestrife (*Lythrum anceps*), star lily (*Lilium concolor*), and Japanese ligularia (*Ligularia japonica*), attracting many types of butterflies and other insects.

The abundance of insects also attracts small birds to the marshlands, such as the chestnut-eared bunting (*Emberiza fucata*). Many of these species are only found in the unique conditions of the Tadewara Marsh, resulting in the area being designated a Ramsar Site of International Importance in 2005.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

湿地の自然財産

タデ原湿原はくじゅうの代表的な淡水環境の一つです。周囲の山々から湧き出る新鮮な湧水によって作られたタデ原は、多数多様な植物や動物が生息している低地です。タデ原湿原の立地と独特な地質構成は、湿地独特の草、希少で美しい植物、水生昆虫、野鳥などの生態系の繁栄を支えています。

海拔約 1000m の高さで湿原の涼しい気候条件は、様々な野生の花の成長を促進させます。春から秋にかけては、ヒゴタイ、ハナショウブ、紫色と黄色のミソハギ、ヒメユリ、マルバタケブキなど、100 種類以上の花が咲き誇り、多くの蝶やカバキコマチグモなどのような昆虫を引き寄せています。

昆虫はまた、湿地にホオアカなどのような鳥を引き寄せます。ここに生息する多くの生物はタデ原湿原の独特な環境で

しか見られないため、この地域は 2005 年に国際的な重要性のあるラムサール条約湿地に認定されました。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 タデ原湿原（長者原）

【整備予定媒体】 ウェブサイト、小冊子

できあがった英語解説文

Importance of Grassland Burning

The grassy wetland of Tadewara is maintained, for the most part, by human intervention such as controlled springtime burnings. If left without these burnings, the wetland would succumb to invasion by fast-growing shrubs and trees that would quickly develop into woodland, with the result that the diverse range of plant species found here could become extinct.

Wetland burnings take place in early spring when the old grasses make way for the new shoots to flourish. The 38 hectares of the Tadewara Marshland are tackled by a trained team of locals and volunteers, who start in the autumn months, around September, by sectioning out the wetland into manageable areas for burning and to prevent fires from spreading.

When it comes to spring burning, in March, fires are set at opposite ends of the wetland, meeting in the middle of the area, where they will naturally be extinguished. Volunteers are also on hand with water jets to help control any fires that become too large or out of control. Within the wetland, areas of shallow water and dry areas burn easily with only areas with deeper water in the wetland areas failing to burn. Controlled burning is an effective way to manage the natural ecosystem of Tadewara.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

野焼きの重要性

タデ原の草深い湿地は、ほとんどの場合、春の野焼きのような人々の手によって維持されています。野焼きがなければ、成長の早い灌木と木が草原に生えはじめ、この地を森に変えてしまい、この湿原に生息してきた植物の多様性が失われてしまいます。

古い草の代わりに新たな草が芽吹くように、野焼きは早春に行われます。38ヘクタールのタデ原湿原は、野焼きでの延焼を防ぐために、9月ごろに、地元の人と訓練されたボランティアが、湿原を監理しやすいセクションに区分けします。

3月の野焼きの時期が来ると、野焼きを行う地域の両端に火をつけ、火が真ん中へ燃える

ように調整します。そうすることで、最終的には燃えるものがなくなり、火は自然消滅します。ボランティアは、火があまりにも大きくなったり、制御不能になったりするようなことがないよう、火の調整を行うのに役に立つウォータージェットを持って、必要に応じて火を消します。深い湿地帯を除き、浅い水域や乾燥地帯は簡単に燃え広がります。野焼きはタデ原湿原を維持するためにとても効果的な方法です。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 タデ原湿原（長者原）
【整備予定媒体】 ウェブサイト、小冊子

できあがった英語解説文

Ramsar Convention Designation

The Ramsar Convention, also known as the Convention on Wetlands of International Importance, holds the distinction of being the first modern treaty between nations aimed at developing and maintaining an international network of wetlands that are vital for the conservation of biological diversity and for sustaining human life. The signing of the Convention on Wetlands took place in 1971, in the Iranian town of Ramsar. Since then, the Convention on Wetlands has been known as the Ramsar Convention.

The Ramsar Convention's main aims are to halt the loss of wetlands globally, and to conserve, through wise use and management, those that remain. Under the Ramsar Convention, a wide range of natural and artificial habitat types, from rivers to coral reefs, can be designated as wetlands, and sites that are considered representative, rare or unique wetlands, or wetlands that are important for conserving biological diversity, are designated as Ramsar Sites.

Tadewara Marsh was designated as a Ramsar Site in 2005 in order to protect and preserve the distinctive wetland environment of the area. Created by the upwelling of fresh spring water from the surrounding mountains, Tadewara has abundant plant and animal life. The high altitude of around 1,000m above sea level, ancient volcanic geology, and cool climate of the marsh support a thriving ecosystem of rare and beautiful plants, endemic aquatic insects, and wild birds.

More than one hundred different species of wildflower bloom in the area from spring to autumn, attracting a large number of butterflies and other insects. The insects attract rare birds, such as the chestnut-eared bunting (*Emberiza fucata*), to the marshes. Many of these species are found only here in the conditions specific to these marshes.

Another special feature of the Tadewara Marsh, contributing to its designation as a Ramsar Site, is the highly-acidic Shiramizu River (literally, “White Water River” in Japanese), which has its source high up on Mt. Io. Mt. Io is the only volcano in the Kuju Mountain Range that has recently been active, releasing sulfur into the Shiramizu River and causing high acidity and a whitish hue to the waters. Few living creatures can survive in the inhospitable environment of the Shiramizu River, except for a few, very small fish.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

ラムサール登録

ラムサール条約は、国際的に重要な湿地に関する条約で、生物多様性の保全と人の暮らしの継続に欠かせない湿地に関わる国際的なネットワークの構築と維持を目的としています。現代において、複数の国の間に結ばれた初めての条約で、1971年、イランのラムサール市で作成されました。そのため、ラムサール条約という通称で知られています。

ラムサール条約の主な目的は、世界中の湿地の減少を防ぎ、適正な使用と管理を通じて、湿原の保全を行っていくことです。ラムサール条約の規定により、河川からサンゴ礁まで様々な自然生息地や人工生息地を湿地として指定することができます。重要で珍しい湿地、または生物多様性保全の対象になるべき湿地は、ラムサール条約湿地として登録されます。

タデ原湿原は、固有の特徴を持つ湿地として認められ、その独特の湿地環境を保全するために、2005年にラムサール条約湿地として登録されました。周辺の山々からの新鮮な湧き水によって作られたタデ原では、多数多様な植物や動物が生息しています。火山活動によって形成された地質を持つタデ原は、海拔約1000mの高さに位置し、気候は涼しいです。このような条件がそろっているため、湿地は、希少で美しい植物、水生昆虫、野鳥などの生態系を支えています。

春から秋にかけて、100種以上の野生の花が咲き、多数の蝶やその他の昆虫が生息しています。昆虫は、ホオアカの様な珍しい鳥を沼地に引き寄せます。この鳥たちの多くは、この湿原特有の環境においてのみ生息しています。

ラムサール条約湿地として指定されているタデ原湿原のもう一つの特色は、硫黄山から流れ出している、高酸性の白水川（日本語で「白い水の川」）です。硫黄山は、くじゅう連山の火山で最近噴火した唯一の山で、硫黄が白水川に流れ出ることによって、高酸性と白い濁りが発生します。生物にとっては生息しづらい白水川では、小魚しか生息していません。

本事業以前の英語解説文

なし

1291

No.45 History of Bogatsuru, Bogatsuru Marsh

<阿蘇くじゅう、熊本・大分>

【施設名】 坊がツル湿原

【整備予定媒体】 ウェブサイト、小冊子

できあがった英語解説文

History of Bogatsuru

Surrounded by mountains, including Mt. Hiji and Mt. Taisen, the Bogatsuru Marsh is located almost in the center of the Kuju Mountain Range at an elevation of about 1,200 m above sea level. The high altitude of the marsh gives rise to a unique wetland environment inhabited by plants such as Japanese irises (*Iris ensata*) and bellflowers (*Campanula*).

Formed from volcanic springs at the foot of Mt. Kuju, Bogatsuru is considered a Wetland of International Importance under the Ramsar Convention. Sites that are considered rare or unique wetlands, or wetlands that are important for conserving biological diversity, are designated as Ramsar Sites. Bogatsuru Marsh was recognized as a Ramsar Site in 2005 for its thriving ecosystem of rare grasses and plants, endemic aquatic insects and wild birds, which fulfilled the criteria for Ramsar designation.

The marsh and surrounding mountains are traversed by several hiking trails and have long been an area popular with nature enthusiasts and walkers. To protect the area's indigenous species and maintain the natural environment of the marsh, there have been numerous conservation activities undertaken by trained locals and volunteers over the years, including controlled burnings, cutting, exterminating alien species, and maintaining mountain trails.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

坊ガツルの歴史

標高約 1200m の高さに広がる坊ガツル湿原は、平治岳と大船山に囲まれており、くじゅう連山の中心に位置しています。この標高の高さは、アヤマやキキョウなどの植物が自生する、固有の湿原環境をもたらしています。

久住山の麓に火山性温泉によって形成された坊ガツル地区は、ラムサール条約の登録湿地となっています。希少な生態系を持つ湿地や、湿原独特の生物多様性保全のために重要な地域がラムサール条約湿地に認定されます。2005年、坊ガツル湿地は珍しい草や植物、水生昆虫や野生の鳥類が生息する生態系があること認められ、ラムサール指定の基準を満たす湿原として、ラムサール条約湿原として登録されました。

湿原とその周辺の山々は、いくつもの登山コースが存在し、長い間、自然愛好家や登山者に親しまれています。この地域の在来種を保護し、湿原の自然環境を維持するために、訓練された地域の人やボランティアによって、野焼き、

伐採、外来種の撲滅、山道の維持などが行われてきました。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 坊がツル湿原

【整備予定媒体】 ウェブサイト、小冊子

できあがった英語解説文

Hokkein Onsen and the Grasslands

Bogatsuru Marsh is located in Chojabaru, 1,200 m above sea level. It lies alongside the Kuju Mountain Range on the left side of the Yamanami Highway that connects Yufuin in Oita Prefecture to the Mt. Aso area in Kumamoto. Hokkein Onsen, the highest hot spring area in Kyushu, is located within the Bogatsuru Marsh, and can only be reached by foot. The walk in takes around two hours on one of the hiking trails that start at the Chojabaru Visitor Center and goes across the mountain range.

Visitors can stay at Hokkein Onsen Sanso, a facility styled on a mountain hut. It has two buildings; one with guest rooms, and the other with baths, a dining room, and a large banquet hall. The baths are filled with 100% pure, natural hot-spring water, and have a superb view of Mt. Hiji.

The area features open grasslands against a backdrop of rugged mountain terrain, the sort of landscape typical of the Kuju area. The grassland habitat has been nurtured by people for thousands of years, through pasturing, mowing, and grassland burning. The grasslands are home to several rare plants which can be appreciated in different seasons, including marsh marigolds and violets in spring, azaleas and irises in summer, and bellflowers in autumn.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

法華院温泉と草原

坊がツル湿原は、海拔 1200m の長者原に位置し、大分県湯布院と熊本県の阿蘇山エリアを結ぶ「やまなみハイウェイ」の左側に、くじゅう連山に沿って広がっています。坊がツル湿原内にある法華院温泉は、九州で一番標高が高い温泉街で徒歩でのアクセスに限られています。長者原ビジターセンターを出発点とする山間散策コースを利用し2時間程度で到着します。

法華院温泉を訪れば、山小屋風の観光施設である法華院温泉山荘に宿泊することができます。客室の建物と、浴場、食事処、大宴会場の2つの建物からなります。お風呂は100%純粋な天然温泉で、そこからは平治岳の素晴らしい景色を眺められます。

険しい山地を背景として広大な草原が広がる光景は、くじゅうの代表的な特徴です。草原は、牧草地、草刈り、および草原の野焼きを通じて、長い間地域の人々の力によって保全されています。草原には、春のリウキンカやスミレ、夏のツツジとアヤメ、秋のキキョウなど、一年中見られる数多くの珍しい植物が生息しています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 坊ガツル湿原

【整備予定媒体】 ウェブサイト、小冊子

できあがった英語解説文

Spring Burning Activities

Bogatsuru Marsh is an area subject to traditional spring burning, known as *noyaki* in Japanese. Burning boosts the regeneration of grasses and plants in the area. In Bogatsuru, many species of fern, grass, and other plants have been recorded. Some of these are unique to this area of Kuju and have been designated as protected or endangered varieties. In order to maintain the vegetation, curb the spread of shrubs and trees, and keep the grasslands pristine, the local community, with the help of trained volunteers, conducts controlled burnings every spring.

Volunteers start in the autumn months, around September, by sectioning out the wetland into small areas following the contour lines. This helps to portion the land into manageable sections for burning and prevents fires from spreading into areas that do not need regeneration.

When it comes to spring burning in March, fires are set at opposite ends of the wetland, meeting in the middle where they will naturally be extinguished. Volunteers are also on hand with water jets to help control any areas in which the fires become too large or out of control. Within the wetland, areas of shallow water and dry areas burn easily. Areas covered by deeper water do not burn. The spring burnings act as an effective way of managing the regeneration of Bogatsuru.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

坊ガツル湿原 野焼き

坊ガツルは、日本でもよく知られている伝統的な春の野焼きの対象地域であり、これを行うことで新しい草がよく生えるよう促しています。坊ガツルでは、シダ、牧草、および他の植物の多くの種が記録されています。この中でいくつかの種はこの地域特有であり、保護または絶滅危惧種に指定されています。植生を維持し、低木や木々の広がりを抑制し、草原を元気に保つために地域では、訓練されたボランティアの助けを借りて、毎年春にこの野焼きを実施しています。

ボランティアは、9月頃から作業をはじめ、この湿原をいくつかの小さなセクションに分けます。管理しやすいいくつかのセクションに分けて燃焼させることで、野焼きをする必要のない場所への延焼を防ぐことができます。

3月の野焼きの時期が来ると、野焼きを行う地域の両端に火をつけ、火が真ん中へ燃えるように調整します。そうする

ことで、最終的には燃えるものがなくなり自然消滅します。ボランティアは、火があまりにも大きくなったり、制御不能になったりするようなことがないよう、火の調整を行うのに役立つウォータージェットを用意しています。非常に深い湿地帯を除き、浅い水域や乾燥地帯は簡単に燃え広がります。春の野焼きは、坊ガツル湿原の再生を効果的に管理する方法として機能しています。

本事業以前の英語解説文

なし

1294

No.48 A Natural Spring Pond, Oike

<阿蘇くじゅう、熊本・大分>

【施設名】 男池

【整備予定媒体】 ウェブサイト、小冊子

できあがった英語解説文

Oike, A Natural Spring Pond

The clear Oike spring wells up from the ground deep in the old-growth forest on the northern side of Mt. Kurodake in the Kuju Mountain Range. Each day, more than 20,000 tons of pure spring water gushes from the spring. The water naturally stays at around 12°C throughout the year, 6–7°C cooler than that of the surrounding lowland areas, due to its relatively high altitude of 850 m above sea level.

Oike's location and geology, in the heart of a forest of deciduous broad-leaved trees within a volcanic mountain range, mean that mineral-rich water stored underground wells up through the porous volcanic soil. The result is a spring with exceptional water quality that has been designated one of the Selected 100 Exquisite and Well-Conserved Waters by the Ministry of the Environment.

Local people have used water from Oike for drinking and agricultural purposes for many years. Today, to preserve the spring's naturally fresh water, the Yufu Tourist Association collects donations for cleaning and conservation work.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

男池 湧水池

くじゅう連山の黒田岳の北側には、古い森があり、そこには男池と呼ばれる泉が湧き出しています。毎日 2 万トン以上の純粋な湧水が出ています。海拔 850m という比較的高い標高のため、水温は年間約 12°C と周囲の低地部よりも 6～7°C 低いです。

男池は、落葉広葉樹の森に覆われた火山地帯にあり、地下に溜まったミネラル豊富な水が、多孔質の火山土を通過して湧き上がっています。この卓越した水質のため、環境省選定の「日本の名水百選」にも選ばれています。

昔から地域の人々は男池の水を飲用や農業目的で使用してきました。現在、池の綺麗な水を守るため、由布観光協会は保全に向けて寄付金を集めています。

本事業以前の英語解説文

なし

1295

No.49 A Walk through the Primary Forest of Mt. Kurodake, Oike

<阿蘇くじゅう、熊本・大分>

【施設名】 男池

【整備予定媒体】 ウェブサイト、小冊子

できあがった英語解説文

A Walk through the Primary Forest of Mt. Kurodake

A primary forest is kept in a particularly pristine state in the Mt. Kurodake area. Visitors can explore the lush forests and the many springs and waterfalls on a hike that sets out from Oike springs.

The path from the parking lot to the springs is nearly level. Visitors to Oike are encouraged to try the famous water that springs from the earth and are welcome to fill canisters or bottles with pure water from ponds. Setting off from Oike, hikers will notice that the surrounding forest is predominantly of Japanese oak, beech, and maple. Some of the large trees in this forest are over 300 years old. The walk from the pond runs alongside an accessible riverside path to the Meisui no taki Falls, well-known for its cooling plumes of mist.

The hiking trail gives visitors a chance to feel a connection with nature, take in the fresh mountain air, and enjoy the relaxing sound of flowing water. The route also offers a great opportunity to observe a variety of plants and animals that call this fertile landscape home.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

黒岳の原生林を散策

黒岳は、原生林が特に原始的な状態に残っている地域です。男池を出発点とする散策ルートでは、緑豊かな森や多くの泉、滝が見られます。

駐車場から男池までの道のりはほぼ平坦です。男池を訪れる人には、地下から湧き出る男池の名水で持参のボトルをいっぱいにするをおすすめします。男池を出発すると、周りの森林には主に檜の木、ブナ、カエデなどがあることに気づきます。樹齢300年以上もの大きな樹木もあります。男池を川沿いに歩いていくと冷たい水煙で知られる「名水の滝」という滝があります。

原生林の散策ルートでは、自然とのつながりを感じ、新鮮な山の空気を浴び、流れる水の清らかな音を楽しむことができます。このルートは、この豊かな自然の中の様々な植物や動物を観察する絶好の機会を与えてくれます。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 久住高原、沢水湧水地
【整備予定媒体】 ウェブサイト、小冊子

できあがった英語解説文

Grassland Views from the Kuju Plateau

The Kuju Mountain Range is a group of volcanic peaks standing at an average elevation of 1,700m and stretching 15km from east to west. The most famous peaks, Mt. Kuju (1,787m), Mt. Io (1,762m), Mt. Mimata (1,745m), and Mt. Nakadake (1,791m), are the site of the range's only active volcano, Mt. Io, and the tallest peak in Kyushu, Mt. Nakadake. The range, known as the "Roof of Kyushu," is on the Yamanami Highway, an impressive route connecting the Aso area in Kumamoto to Yufuin in Oita.

At the southern end of the Kuju Mountain Range lies the Kuju Plateau, a feature formed by volcanic ash and debris of historic seismic activity. The plateau itself is located at a height of about 1,000 m and is surrounded by a fertile natural environment and open grassland areas. Meadows of wildflowers cover the plateau, and herds of Japanese Akaushi cattle can be seen grazing on the lush grass.

The plateau also serves as a great viewpoint over the grasslands of the Chojabaru area against a backdrop of rugged mountains. There are many natural volcanic hot springs and hiking trails in the area.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

久住高原から見る草原の景色

くじゅう連山は、平均標高 1700m、東西 15km に広がる火山群です。有名な山では、久住山（1787m）、硫黄山（1762m）、三俣山（1745m）、中岳（1791m）があります。この中で、硫黄山は今でも噴火活動があり、中岳はくじゅう連山の最高峰です。くじゅう連山は「九州の屋根」とも呼ばれており、熊本県の阿蘇エリアと大分県の湯布院を結ぶ絶景にあふれる「やまなみハイウェイ」の途中に位置しています。

くじゅう連山の南部には、歴史的な地震活動による火山灰やデブリから作られた久住高原があります。台地自体は、豊かな自然と広大な草原に囲まれた約 1000m の高さに位置しています。野生の花が草原を覆い、新鮮な草で日本の赤牛の群れが放牧されているのを見ることができます。

険しい山々を背景にした、長者原地域の草原の素晴らしい景色を望むことができます。この地域には多くの自然火山温泉と豊富なハイキングコースがあります。

本事業以前の英語解説文

なし

1297

No.51 Noike Park, Kuju Plateau

<阿蘇くじゅう、熊本・大分>

【施設名】 久住高原、沢水湧水地
【整備予定媒体】 ウェブサイト、小冊子

できあがった英語解説文

Noike Park

Noike Park, opened to the public in 1873, was one of the first three public parks in Japan, along with Ueno Park in Tokyo and Arashiyama Park in Kyoto.

For many years before the area became a park, Noike was the site of a sacred shrine dedicated to a water deity. The shrine remains an important aspect of the park. At the entrance to the park, there is a *torii* (shrine gate) flanked by two giant cedar trees.

The pond in Noike Park is fed by the clear waters of the area's volcanic springs. An area with volcanic rock aquifers, pure spring water wells up to form ponds and other freshwater environments such as here at Noike. Noike is fed by two separate springs, one to the left and one to the right of the area, to form a unique freshwater habitat. Noike naturally remains at around 12–13°C throughout the year. Its water is 6–7°C cooler than that of the surrounding lowland areas, due to the park's relatively high altitude on the Kuju Plateau.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

納池公園

1873年に公開された納池公園は、東京の上野公園と京都の嵐山公園とともに、日本で初めて公園認定された3つの公園の中の1つです。

公園として開かれる前から、この土地には水神を祀る神社がありました。神社は現在も残っており、入り口には2本の杉の木の間に挟まれた鳥居があります。

納池公園の池には、この地域の火山の泉の澄んだ水が流れています。この地方には火山性の地下水が豊富にあり、納池のような低地の地域では、純粋な湧水が湧き出て池やその他の淡水環境を形成しています。また、納池の池には左右から2つの泉が流れており、固有の淡水生息地を形成しています。さらに、納池は年間を通じて水温が12～13°C程度で保たれており、久住高原の標高が比較的高いことから、水温が周囲の低地部よりも6～7°C低くなっています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 久住高原、沢水湧水地
【整備予定媒体】 ウェブサイト、小冊子

できあがった英語解説文

Kuju Plateau

Somi Grasslands Managed Burning

The Kuju Mountain Range refers to a group of five volcanoes that stretch 15km from east to west. At the base of the mountain range is Somi, an area of the Kuju Plateau characterized by open grasslands and an abundance of natural springs. The grasslands have a campground where visitors can stay and enjoy this wonderful natural environment.

The charm of the Somi campground lies in its clear water springs, cool forests, and the broad grassland that spreads as far as the eye can see. The grassland is managed through controlled burnings called *noyaki* that allow new grass to grow once the old, dead grass growth has been cleared. *Noyaki* in Kuju is done mainly by local farmers in the spring. In order to prevent the fires from spreading to areas that do not need to be burnt, firebreaks have to be opened in the grasslands first. Maintaining the broad, beautiful grasslands, though very hard work, is vital for the local farmers.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

くじゅう連山

沢水草原の保全

くじゅう連山は東西 15km 以上広がる 5 つの火山群のことを指します。山地の麓には、草原や広大な自然の湧き地が特徴的な久住高原が広がっており、その中に沢水というエリアがあります。草原にはキャンプ場があり、その地域では豊かな自然を楽しむことができます。

沢水キャンプ場の魅力は、湧き出る豊かな水と、涼しい森、それに目の前に広がる草原です。この草原は、野焼きという手法で、新しい草がよく生えるように、枯れ草を焼くことで維持されています。久住高原の野焼きは、早春、地元の牧場の人々によって行われます。また、野焼きする必要のない地域に火災が広がるのを防ぐために、野焼きする場所の周囲に草の刈り込みを行います。広い草原を維持することは、牧場の人々にとって大切で、とても大変な仕事です。

本事業以前の英語解説文

なし

1299

No.53 The Four Seasons of Kuju, Kuju Mountain Range

<阿蘇くじゅう、熊本・大分>

【施設名】 くじゅう連山

【整備予定媒体】 ウェブサイト、小冊子

できあがった英語解説文

Kuju Mountain Range

The Four Seasons of Kuju

The Kuju Mountain Range refers to a group of five peaks, distributed across an area 15km east to west, just over Aso's northern caldera wall in Oita Prefecture. Kuju boasts the tallest peaks on mainland Kyushu, the highest, Mt. Nakadake, reaching 1,791m. Other well-known peaks in the wider Kuju area are Mt. Kuju (1,787m) and Mt. Kurodake (1,587m), many of whose lower slopes are covered with primary forest. Hiking trails cross the mountains, offering opportunities to explore a fascinating landscape.

In 1934, the region was designated part of the Aso-Kuju National Park, an area of unique volcanic landscapes, sprawling grasslands, and awe-inspiring panoramic views. Kuju is a favorite with both Japanese and international hikers throughout the year as the scenery changes with the seasons. Due to the volcanic nature of the area, there is an abundance of underground hot springs. Visitors will find some of the best hot spring facilities in the country here.

Kuju is a popular destination for nature enthusiasts at any time of year, with beautiful scenery to be enjoyed in every season. In winter, the area is often covered with a blanket of snow, and hoar frost can cling to tree branches and grasses. Spring sees the area transformed into a natural wildflower garden, with fields of azalea blooming in early to late May drawing many visitors. Summer is the main mountain hiking season. August sees fields of wildflowers in bloom. These attract clouds of butterflies and other insects to the area, making it a great time for bird-watching. With autumn come the vivid colors of the leaves, particularly in the maple, oak, and other broad-leaved trees in the ancient deciduous forests. Mountainsides turn from lush green to shades of burnt orange, gold, and red. The vividness of the autumn colors differs from year to year, even in the same location; tints and timing are determined largely by the temperatures.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

くじゅう連山

四季折々の魅力

くじゅう連山は大分県にあり、東西 15km に分布する 5 つの山脈で、阿蘇カルデラの北部に位置します。くじゅう連山の中でもっとも高い山は九州本土最高峰でもある中岳（1,791m）です。その他の人気の山は、久住山

(1787m) と、原生林に覆われている黒岳 (1587m) です。絶景が楽しめる散策ルートが山々を横断し、多様な地形を探索する機会を提供しています。

1934 年にこの地域は、固有の火山の風景、広大な草原、そして絶景がそろう阿蘇くじゅう国立公園の一部として指定されました。くじゅうは、国籍問わずの登山者の間に、四季の変化を一年中楽しめるエリアとして人気があります。ここは火山地域であるため、豊富な地下温泉があり、優れた温泉施設があります。

くじゅうは自然愛好家に人気のある場所で、どの季節でも楽しむことができます。冬には、この地域はしばしば雪の毛布で覆われ、枝や草に霜がつきます。春には、広大な自然は花畑に変わり、5 月上旬から 5 月下旬にかけてツツジの花が咲き乱れ、多くの人々がこの地域を訪れます。夏は登山シーズンのピークです。特に 8 月は、野生の花が咲き乱れ、多くの蝶や他の昆虫が集まり、バードウォッチングにも最適です。秋には、緑豊かな風景はオレンジ色、金色、赤色など、さまざまな色合いに変わり、ここに生えているカエデや樅の木などの落葉広葉樹林は紅葉になります。紅葉の色の鮮明度は、温度によって毎年変わり、同じ場所であっても年によって異なる紅葉風景が楽しめます。

本事業以前の英語解説文

なし

一般社団法人 豊の国千年ロマン観光圏

1300

No.1-1 History of Usa Jingu

<豊の国、大分県>

【施設名】 宇佐神宮

【整備予定媒体】 パンフレット、Web サイト

できあがった英語解説文

First built in the eighth century, Usa Jingu (known as Usa Hachiman until the late 1800s) was originally part of a religious complex that contained both Shinto shrines and Buddhist temples. The complex was controlled by the Buddhist temple Mirokuji. It was the head of a sprawling religious community centered around the worship of the deity Hachiman in the Kunisaki Peninsula. The modern shrine is located on the same mountain as the first shrine dedicated to Hachiman, one of the most widely revered deities (*kami*) in Japan. In fact, up until the religious separation laws passed by the Meiji government in the latter half of the nineteenth century, the location of modern-day Usa Jingu was a place of syncretic religious worship. The Mirokuji-Usa Jingu complex also was the center of political power in what is now Oita Prefecture. Originally the head of thousands of religious sites across Japan, it lost its political power in the Kamakura period when political control moved from Kyushu to the main island of Honshu. Usa Jingu's 1,300-year history illustrates the complicated relationship between Shinto and Buddhism in Japan.

While Shinto is an animistic religion and native to Japan, Buddhism was brought to the country early in the sixth century CE. At the time, Buddhist teachings were combined with the native traditions that became known as Shinto. One of the forms of this syncretism was *shugendo*. As *shugendo* became widespread in northern Kyushu and connected to places like Usa Jingu, shrine-temples also spread throughout the area, where they filled a role similar to that of today's schools. They were spaces of combined religious practice, and that combination was also expressed in their architecture. For example, many of these sites had both Shinto *torii* gates and Buddhist *mon* gates. This combined practice came to an end in the mid-nineteenth century when Buddhism and Shinto were forced to separate by the government. The shrine-temple complex was broken apart and became known as Usa Jingu. The religious rites practiced here became exclusively Shinto until the post-war period.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

8世紀に最初建立された宇佐神宮(1800年代後半まで宇佐八幡として知られていた)は元が神道の神社と仏教の寺を含む宗教的複合施設の一部であった。施設は仏教の弥勒寺によって管理されていた。それは国東半島の八幡神崇拝を中心として広がっている宗教上の地域社会の長であった。今の神社は、日本で最も広く崇拝されている神々の一体である八幡に捧げられた最初の神社と同じ山に位置している。実際、19世紀後半の明治政府により可決された宗教分離法(神仏判然令?)ができるまで近代の宇佐神宮というのは融合的宗教の崇拝の場所であった。弥勒寺・宇佐神宮という複合施設はまた、現在大分県となっている地の政治的権力の中心であった。元々は日本中の何千もの宗教的敷地の長であったが、政治支配が九州から本州に移った鎌倉時代に政治的権力を失ってしまった。宇佐神宮の1300年の歴史は日本の神道と仏教の複雑な関係を示している。

神道が日本固有の霊魂崇拜の宗教であるのに対して、仏教は西暦 6 世紀の初期に我が国にもたらされたものである。当時は仏教の教えは神道として知られるようになっている土着の伝統と組み合わせられていた。この融合主義の形態の一つが修験道であった。修験道が九州北部で広まり宇佐神宮のような場所と結びつけられると、神宮寺もまたその地域中に広まり、そこでは今日の学校に似た役割を果たしていた。それらは結びついた宗教の実践の空間であった。そしてその結びつきはまた建築に於いても表現された。例えば、これらの敷地の多くには神道の鳥居と仏教の門の両方があった。この結びついた実践は、仏教と神道が政府によって強制的に分離させられた 19 世紀中頃に終わりを告げるようになった。神宮寺という複合施設は解体され、宇佐神宮として知られるようになった。ここで行われる宗教的儀式は戦後になるまで排他的に神道のものとなっていた。

本事業以前の英語解説文

Our worldwide pride, the Grand Head Shrine of Hachiman Shrine In Japan, it has been believed that gods exist far beyond Japan, in the mountains and oceans. It is thought that gods are nature itself, but sometimes fallible like humans. These beliefs from the Age of Gods integrate with Continental Culture and the symbol for both concepts is known as Hachiman Okami. The Hachiman Okami is thought of as a guardian who protects the nation of Japan itself.

1301

No.1-2 Usa Jingu

<豊の国、大分県>

【施設名】 宇佐神宮

【整備予定媒体】 パンフレット、Web サイト

できあがった英語解説文

The influence of the Mirokuji-Usa Jingu complex increased as Hachiman shrines began to spread around Japan, but it was not meant to last. Even though the unified Shinto-Buddhist shrine-temple complex controlled much of the land on the Kunisaki peninsula through the feudal-estate (*shoen*) system, the political relevance of Mirokuji-Usa Jingu began to wane when the center of Japanese power moved to Kamakura during the Kamakura period (1185–1333). The ruling Minamoto clan designated Hachiman as their tutelary deity, but they built a new shrine in Kamakura known as Tsurugaoka Hachimangu. Along with another shrine to Hachiman called Iwashimizu Hachimangu (near the imperial capital of Kyoto) these two shrines were located close to the seat of political power, and Mirokuji-Usa Jingu was distant by comparison. While Hachiman is still one of the most broadly-revered kami in Japan, today Usa Jingu has a position of honor rather than political control.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

弥勒寺・宇佐神宮複合施設の影響は八幡神社が日本中に広がり始めるにつれて大きくなった。しかしそれは長続きするものではなかった。統一された神道・仏教の神社・寺という複合施設が荘園制度で国東半島の地域の多くを管理していたが、弥勒寺・宇佐神宮の政治的な妥当性は、日本の政治権力が鎌倉時代(1185–1333)に鎌倉に移ったときに衰え始めた。統治している源氏が八幡を守護神と指定したが、彼らは新しい神社を鎌倉に建立し、それは鶴岡八幡宮として知られている。(京都の御所の近くにある) 石清水八幡宮と呼ばれるもう一つの八幡の神社と共にこれら二つの神社は政権の座の近くにあった。そして弥勒寺・宇佐神宮はこれに比べ遠方であった。八幡が日本ではまだ幅広く崇拝される神のひとつであるが、今日宇佐神宮は政治支配と言うよりは名誉という地位を有している。

本事業以前の英語解説文

なし

1302

No.1-3 Mount Omotosan

<豊の国、大分県>

【施設名】 宇佐神宮

【整備予定媒体】 パンフレット、Web サイト

できあがった英語解説文

At the height of their power, the leaders of the Mirokuji-Usa Jingu complex were the rulers of the entire surrounding region. They controlled dozens of satellite shrines and affiliated temples perched atop the mountain ridges and along the coastline of the Kunisaki Peninsula

Mount Omotosan, whose 647-meter-high peak lies directly south of Usa Jingu, is believed to be the dwelling place of the local Shinto deities (*kami*). It was the site of the first ever shrine to Hachiman, which eventually became Usa Jingu. By the eighth century CE, mountain monks known as *yamabushi* worshipped and conducted Shinto-Buddhist rituals on the mountain. Today, you can still find a trail dotted with religious markers and holy sites leading from Usa Jingu to the top of Mount Omoto which was likely made by the *yamabushi*. A small shrine, Omoto Yasaka Jinja, sits at the summit and still hosts various rituals and ceremonies.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

権力の最盛期には、弥勒寺・宇佐神宮複合施設の指導者達は周囲全体の地域の支配者であった。彼らは山の尾根にあるいは国東半島の沿岸に位置する下級神社や系列寺の多くを管理していた。

御許山、その標高 647 メートルの頂上は宇佐神宮の真南に位置するが、地元の神道の神々が宿る場所であると信じられている。それは八幡への最初の神社の場所であり、やがては宇佐神宮になった。西暦 8 世紀までには山伏として知られる山の僧たちが崇拜し、神道・仏教の儀式を山で行った。今日でもまだ宗教的な道標で記された痕跡と宇佐神宮から御許山の頂上に通ずる山伏によって作られたであろう神聖な場所を見つけることができる。御許八坂神社という小さな神社が頂上にあり、今もさまざまな儀式や祭典を行っている。

本事業以前の英語解説文

The myths of Japanese origins include a myth of three goddesses who had come down to Makimine at Usa. Makimine is another name for Mount Omoto (647m in altitude), located south of the Usa Shrine. And, there is Omoto Shrine is located close to the summit of Makimine. This sanctuary area is called Okumiya of Usa Shrine and people are forbidden to journey any further.

【施設名】 姫島

【整備予定媒体】 パンフレット、Web サイト

できあがった英語解説文

Located off Kunisaki Peninsula's coast, the tiny island of Himeshima is home to a small community of mostly fishermen and shrimp farmers. Despite its small size—just under seven kilometers long—Himeshima is a historically important island. Its existence was first recorded in the *Kojiki*, an eighth century text that recounts a predominant Japanese origin myth. According to this legend, the two gods Izanagi no Mikoto and Izanami no Mikoto came together to create the islands of Japan. Himeshima is mentioned as their twelfth creation.

This creation myth is supplemented by another legend regarding the island's name. Legend has it that a distraught princess from the Korean mainland fled to Himeshima (literally, "Princess Island") to avoid marriage to a Korean prince. Folk stories describing her time on the island have been passed down through generations. In one story, she would regularly blacken her teeth (a common cosmetic practice in pre-modern Japan) on a stone known as Kanetsukeishi, eventually creating an indentation in the shape of her brush and inkwell. This site is included among the Seven Wonders of Himeshima, a set of places that appear in the myths about the princess and that are connected to Himeshima's unique history and geography. Other sites include the Hyoshimizu spring and an unusual-shaped willow tree.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

国東半島の沿岸沖にある、姫島という小さな島は、ほとんどが漁師とエビ養殖業者からなる小さな地域社会の故郷となっている。その小ささ、わずか7キロメートルの距離しかないにもかかわらず、姫島は歴史的に重要な島である。その存在は主として日本独自の神話を記している8世紀の文献「古事記」に初めて記されていた。この伝説によると、二人の神伊弉諾尊と伊弉冉尊が日本の列島を造るため一緒にやって来た。姫島は12番目の創造島として述べられている。

この創造伝説は、島の名前に関するもう一つの伝説によって補足されている。伝説によると朝鮮本土から心を取り乱した姫君が姫島(文字通りお姫様の島)に朝鮮の王子との結婚を避けるために逃げてきたとある。島でのその当時を述べる民話が何世代にもわたって伝えられてきている。一つの話では、彼女は定期的にかねつけ石で歯を黒く染めていた(前近代的日本では一般的な化粧の習慣であった)。そしてやがてその石に彼女の筆と硯の形をしたくぼみを生むことになった。この遺跡は、姫と姫島の他に例を見ない歴史と地理の関連性に関する神話の基盤となる一連の遺跡である、姫島の7不思議に含まれている。他の遺跡は拍子水という温泉と異様な形の柳の木を含んでいる。

本事業以前の英語解説文

In the Japanese Genesis Creation Narrative, Himeshima was founded in the early stages of the Chaotic World. Himeshima was originally written about in the Japanese creation myth of Izanagi & Izanami in Kojiki.

Himeshima's history is deeply rooted to Tsunuganoarashito, the ancient prince of the Korean Peninsula. He appears in not only Japanese, but Korean history, although most details are still a mystery. The story about this prince as well as his princess, was born on the Asian continent, and their story migrated to Japan. It still remains an important part of the history of Himeshima. They have left various legends on this island. Let's guess what they felt and saw.

1304

No.1-5 Himeshima obsidian

<豊の国、大分県>

【施設名】 姫島

【整備予定媒体】 パンフレット、Web サイト

できあがった英語解説文

Obsidian from Himeshima is grey rather than black. Stone tools made from this grey obsidian have been found all along the Seto Inland Sea. Some of these tools date back over ten thousand years ago, indicating that there was significant trade on the Japanese archipelago prior to any written history of the area. Tools made from Himeshima's milky grey obsidian have been found as far south as Tanegashima, in Kagoshima prefecture, and as far east as Osaka. In 2013, Himeshima was registered as a National Geopark because of its unique obsidian and high concentration of volcanoes (seven in an area of under seven square kilometers).

上記解説文の仮訳（日本語訳）

姫島から出る黒曜石は黒と言うより灰色である。この灰色の黒曜石から作られる石器は瀬戸内海一帯で見つけられてきた。これらの道具のあるものは1万年以上にもさかのぼるものがあり、その地域に関するどのような書かれた歴史よりも先だって日本列島で重要な貿易があったことを示している。姫島の乳白色がかかった灰色の黒曜石で作られた道具は、南は鹿児島島の種子島まで、そして東は大阪に至るまで見つかった。2013年姫島は独特の黒曜石と火山が集中(わずか7平方kmの地域に7つの火山あり)していることで国立ジオパークとして登録された。

本事業以前の英語解説文

Milky white obsidian is contained in the indigenous rocks created when the island was formed. The unique wisdom and culture of this region were created to allow locals to survive in the rough environment, and this region's unique prayer is still used on this island.

1305

No.1-6 The lighthouse of Himeshima

<豊の国、大分県>

【施設名】 姫島

【整備予定媒体】 パンフレット、Web サイト

できあがった英語解説文

Himeshima's location near the mouth of the Seto Inland Sea has made the island an important reference point for ships traveling through the strait. Built in 1904, Himeshima Lighthouse sits atop the island's easternmost mountain, where it marks the location of the island's rocky coastline for passing ships. The structure is made from granite brought from Yamaguchi Prefecture, and was designed in the British lighthouse style brought to Japan by Richard Brunton (1841–1901). It is a good example of the westernization of Japanese architecture that came about after the Meiji Restoration in 1867.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

瀬戸内海の入口近くに位置しているため姫島はその海峡を通過する船にとって重要な標点となった。1904年に建てられた姫島灯台は島の最東端の山の頂上に鎮座し、そこで通過する船のために島の岩でゴツゴツした沿岸の位置を印している。その構造は山口県から取り寄せられた花崗岩で造られており、リチャード・ブラントン（1841–1901）により日本に広まったイギリスの灯台風に設計された。それは1867年の明治維新後現れてきた日本建築の西洋化のいい例である。

本事業以前の英語解説文

Himeshima's history is deeply rooted to Tsunuganoarashito, the ancient prince of the Korean Peninsula. He appears in not only Japanese, but Korean history, although most details are still a mystery. The story about this prince as well as his princess, was born on the Asian continent, and their story migrated to Japan. It still remains an important part of the history of Himeshima. They have left various legends on this island. Let's guess what they felt and saw.

1306

No.1-7 Hyoshimizu

<豊の国、大分県>

【施設名】 姫島

【整備予定媒体】 パンフレット、Web サイト

できあがった英語解説文

The freshwater spring of Hyoshimizu is one of Himeshima's seven wonders. This natural spring is said to have been found by the Korean princess herself. Wanting to wash her mouth, she prayed and clapped her hands together, and water began to bubble up from the ground. Hyoshimizu's water has been used for bathing for centuries. The water is naturally carbonated and rich in iron, and flows out of the ground at approximately 25°C. The nearby bathhouse contains two baths filled with Hyoshimizu spring water, one of which is heated to around 40°C.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

拍子水という淡水の泉は姫島の七不思議の一つである。この天然の泉は朝鮮の姫自身によって見つけられたと言われている。うがいをするため、彼女は祈り手をたたいたが、すると水が地面から泡立つように出始めた。拍子水は何世紀にも渡り、入浴のために使われている。その水は天然で炭酸を含み鉄分が豊富である、そして岩の割れ目からおよそ 25 度で湧き上がっている。隣にある浴場では拍子水で満たされた 2 つの浴室があり、そのうちの一つは約 40 度に加熱されている。

本事業以前の英語解説文

Hyoshimizu is one of the princess's legends. It is told that water sprang up when she prayed rhythmically while clapping her hands.

1307

No.1-8 The Sennindo

<豊の国、大分県>

【施設名】 姫島

【整備予定媒体】 パンフレット、Web サイト

できあがった英語解説文

The Sennindo overlooks Kannonzaki cape on the northwest side of Himeshima. Perched above the ocean on a cliff covered in the island's unique grey obsidian, this little building is another one of Himeshima's seven wonders. An island legend claims that one thousand people were able to hide here to avoid paying taxes to the local lord. The small building overlooks a volcanic crater with a secluded beach at its base. A pair of ospreys nest on a ledge on the cliff face. Though once mined for their obsidian, the cliffs have now been declared a Natural Monument and are protected from such activities.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

千人堂は姫島の北西の観音崎に位置している。島の独特の灰色の黒曜石が露出した、海の上にある絶壁に位置していて、この小さな建物はまた別の姫島の七不思議の一つである。島の伝説によれば千人の人々が地元の領主に税を納めるのを避けるためここに隠れることができたということである。その小さな建物からは隠れた浜辺と火山の火口を見渡せる。ミサゴがその絶壁の引っ張りのところに巣を作っている。かつては黒曜石を求めて採掘されたが、絶壁は今では国指定の天然記念物とされており、そのような活動から保護されている。

本事業以前の英語解説文

なし

1308

No.1-9 Otarashi Hachimansha and Bon Dances

<豊の国、大分県>

【施設名】 姫島

【整備予定媒体】 パンフレット、Web サイト

できあがった英語解説文

Otarashi Hachimansha is the center of Shinto worship on the island. Built to venerate the deity Hachiman and connected to Usa Jingu, this shrine is the largest on Himeshima. Separated from the culture of the Kunisaki peninsula, the Bon dances performed on the island are unique to Himeshima. During the annual Obon festival in August over fifty unique dances are performed. In 2012 these dances were selected by the Japanese government as *Intangible Folk Cultural Properties that need measures such as making records*. Most famous is the Kitsune Bon dance, in which local children dress up as Japanese foxes (*kitsune*) and dance to the beat of a *taiko* drum while holding large paper umbrellas. Each year, the islanders regularly create new dances that they perform for visitors during the festival.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

大帯八幡は島での新島崇拝の中心である。八幡を敬うために建立され、そして宇佐神宮と結びつけられ、この神社は姫島で最も大きい神社である。姫島が離島であるため、島で行われる盆踊りは姫島ならではのものとなっている。8月のお盆の期間には50以上のユニークなダンスが行われる。島民は2012年に「記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財」として日本政府によって精選された。一番有名なのはきつね盆踊りで、地元の子供たちがキツネとして着飾り、大きな紙傘を持って太鼓の鼓動に合わせて踊る。毎年、島民は祭りの間に訪問者のために新しい踊りを作っている。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 国東半島（全体）

【整備予定媒体】 パンフレット、Web サイト

できあがった英語解説文

Formed from the Mount Futago volcanic cone on the edge northeastern Kyushu, the Kunisaki Peninsula was at one time a region of major political power in Japan. In the eighth century, the legendary monk Ninmon created the ascetic practice known as Rokugo Manzan. This practice is a combination of Buddhist and Shinto worship and includes a year-long pilgrimage to twenty-eight holy caves hidden in the mountains of the peninsula. As the practice became more embedded in religious tradition the temples and shrines of the Mirokuji-Usa Jingu complex required their monks to complete the Rokugo Manzan before they could serve at the shrine-temple. Along the Rokugo Manzan path, acolytes built additional shrine-temples with which to better worship the deities. This religious system held political power in the region until it was displaced by warrior lords who in turn built the castle towns that dot the peninsula today. Syncretic Buddhist and Shinto worship continued until shortly after the Meiji restoration in 1867 when Buddhist temples and Shinto shrines were required to separate by the new government.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

九州北東の端にあり両子山の火山錐から形成された国東半島は一時期には日本の政治的大権力を持つ地域であった。8世紀には伝説の僧仁聞が六郷満山として知られる苦行をうみだした。この行は仏教と神道崇拝を組み合わせたものである。そして半島の山々に隠れた28の神聖な洞窟へ1年をかけた巡礼を行っている。行が宗教の伝統により組み込まれるようになるにつれて、弥勒寺・宇佐神宮施設にある寺と神社は僧たちに、神社・寺で仕えることができるまでに六郷満山を終えることを要求した。六郷満山の小径に沿って助手達はさらに神社・寺を建立し、神々をより崇拝できるようにした。この宗教体系がその地方の政治権力を握っていたが、やがて武士の領主にとって代われ、領主達は代わりに今日半島に散在する。城下町を築いた。融合された仏教と神道崇拝は、仏教の寺と神道の神社は新しい政府によって分離することを余儀なくされた1867年の明治維新後もしばらく続いた。

本事業以前の英語解説文

The peninsula in the northeast of Oita is called Kunisaki Peninsula. It has been told that the old faith in Japanese nature worship culture and buddhist culture which was conveyed from the continent had merged. Also, this was where Ninmon Bosatsu, considered as incarnation of Hachiman Okami, spread syncretism of Shinto and Buddhism to Japan. Many traces of training in the mountains are left at the place called Iwaya. Prayers of the predecessors can be sensed in shrines, temples and mountains.

Kunisaki Peninsula is an area where monks have the same rugged training as in Ancient Times. There is a path called Minemichi to go around the sanctuary, which is still there. Even up until today, Mineirigyo, the ceremony where

Rokugomanzan Temple's monks visit the sacred place, is held every decade. Kunisakihantou Minemichi Long Trail is based on the Mineirigyo course, and its length is over 130 km to trek and walk. There are ten courses to allow visitors to feel the real pleasure of training with rare rock formations, megaliths, stone Buddhas and Iwaya to be seen everywhere. It is fun to see the different sites each course passes through.

1310

No.1-11 Temples of Rokugo Manzan

<豊の国、大分県>

【施設名】 国東半島（全体）

【整備予定媒体】 パンフレット、Web サイト

できあがった英語解説文

Rokugo Manzan was a year-long pilgrimage around the Kunisaki peninsula. Those who completed this circuit were considered qualified to serve at the Mirokuji-Usa Jingu complex. One of the main stops on this pilgrimage was the inner sanctum of Futagoji Temple. The ascetic pilgrims would live in the cave for a few days, during which they performed ceremonies for the Buddha before moving on. Located near the center of the peninsula, this site has been a spiritual destination for over a thousand years. Two Nio statues protect the shrine along the road leading towards to Usa Jingu. South of Futagoji, Fukiji Temple is another stop on the Rokugo Manzan route. The Amida Hall at Fukiji is the oldest wooden structure in all of Kyushu.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

六郷満山は国東半島をめぐる1年を掛けての巡礼であった。この巡行を終えた人々は弥勒寺・宇佐神宮複合施設で仕える資格を持つと考えられた。この巡礼の主な宿泊地の一つは両子寺の内部にある聖地である。苦行を行う巡礼者達はこの洞穴で2, 3日過ごしたのだった。その間彼らは次へと進む前に仏に対する儀式を行っていた。半島の中心近くに位置し、この地は千年以上ものあいだ精神的な目的地であった。二つの仁王像が宇佐神宮へ通ずる道路沿いの神社を守っている。両子寺の南にある富貴寺は六郷満山の道筋にあるもう一つの宿泊地である。富貴寺の阿弥陀堂は九州全土で最も古い木造建築物である。

本事業以前の英語解説文

People in Kunisaki Peninsula had accepted a different culture, Buddhism. This cross-culture is carefully preserved. At the back of the temple both Iwaya, the place where monks train, and Rokushogongen, the god who protects the temple, are enshrined. There are many temples, such as Fukiji Temple that characterized as the political role of the manor system, and Japanese history from the Ancient Times can be learned there.

1311

No.1-12 Kumano Magaibutsu

<豊の国、大分県>

【施設名】 国東半島（全体）

【整備予定媒体】 パンフレット、Web サイト

できあがった英語解説文

As religious practices centered around the Mirokuji-Usa Jingu complex continued from the ninth to fourteenth centuries, the number of temples-shrines in the region grew to around 50. Two of the major testaments to this religious fervor are the cliffside carvings and stone monuments that still can be found throughout the peninsula. Most famous among these is Kumano Magaibutsu, a pair of Buddhist stone carvings set into a cliffside in Hirano, Bungotakada. One carving stands six meters high and is the largest depiction in Japan of Dainichi Buddha, the supreme Buddha of the cosmos. The other is eight meters tall and depicts Fudo Myo-o, a guardian of the faith.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

宗教的な行事が弥勒寺・宇佐神宮複合施設周囲に9世紀から14世紀にかけて集中したので、その地方の寺・神社の数はおよそ50まで増えた。この宗教上の熱意の主な証の二つは、半島中で今でも見られる絶壁の彫刻と石の祈念碑である。これらのうちもっとも有名なものは熊野磨崖仏で、豊後高田、平野の絶壁に設置された一対の仏陀の石像である。一つの彫刻は高さ6メートルあり、宇宙で最高の仏陀である大日如来で日本で最も大きく作られたものである。もう一方は8メートルの高さがあり、信仰の守護神である不動明王を表現している。

本事業以前の英語解説文

Many stone Buddhas are scattered in the mountains of Kunisaki Peninsula. Some are at temples, some are in the mountains. Kumano Magaibutsu stone buddha is a masterpiece among Buddha statues where the 8m Fudomyoo and 6m Dainichi Buddha are engraved on the rocks. There is also a unique tower known as Kunisaki pagoda. It is said that 80% of all stone Nio statues are on Kunisaki Peninsula, and it is the main area for stone Buddha culture in Japan.

1312

No.1-13 Gorinto and Kunisakito

<豊の国、大分県>

【施設名】 国東半島（全体）

【整備予定媒体】 パンフレット、Web サイト

できあがった英語解説文

In addition to the towering stone carvings of Kumano Magaibutsu, thousand-year-old stone monuments can be found littered along Kunisaki's narrow mountain paths and roads. The two most common types are the Gorinto and Kunisakito stone markers. Both are typically cut from a single stone but are made to resemble separate stones stacked together. Each level of the Gorinto represents one of the five traditional elements. Starting from the base, they are: Earth, Water, Fire, Wind and Void. Kunisakito are similar in design to the Gorinto except for an elongated top piece in the shape of several stacked lotus flowers that stretch into the sky.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

熊野磨崖仏のそびえ立つ石像に加え、千年にもなる石碑が国東の狭い山の小径や山道に沿って散在するのが見られる。最も一般的な二つの型は五輪塔、国東塔という石でできた道標である。両方とも典型的に一つの石から削られているが、別々の石が積まれたように見えるよう作られている。五輪塔のそれぞれの層は伝統的な5つの要素の一つを表している。下の層から見ていくと、土、水、火、風と宇宙空間である。国東塔は、一番上の層が縦長になり、いくつかの蓮の花が積み重なった形で空に向かって伸びている点を除いて、構想に於いて五輪塔に似ている。

本事業以前の英語解説文

Many stone Buddhas are scattered in the mountains of Kunisaki Peninsula. Some are at temples, some are in the mountains. Kumano Magaibutsu stone buddha is a masterpiece among Buddha statues where the 8m Fudomyoo and 6m Dainichi Buddha are engraved on the rocks. There is also a unique tower known as Kunisaki pagoda. It is said that 80% of all stone Nio statues are on Kunisaki Peninsula, and it is the main area for stone Buddha culture in Japan.

【施設名】 田染荘

【整備予定媒体】 パンフレット、Web サイト

できあがった英語解説文

Until the sixteenth century, the Mirokuji-Usa Jingu complex managed a network of twenty-four agricultural estates known as *shoen*. These estates helped maintain stability in the region by producing rice for the shrine-temple and its followers. One of these eleventh-century *shoen*, Tashibunoshō, still operates today. Nestled within a valley in Bungotakada, this intricately designed expanse of terraced rice fields gently curves around various land features to match the topography of the area. While other fields designed in this way have been made square to facilitate modern agriculture, Tashibunoshō has maintained the organic curves of each field. Additionally, these rice paddies are still farmed by hand rather than with machines. Before the introduction of a Western-style calendar, farmers used the position of the sun relative to the peaks of the surrounding mountains to determine when to plant and when to harvest their rice.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

16世紀まで、弥勒寺・宇佐神宮複合施設は24の荘園として知られる農地の組織網を管理していた。これらの農地が神社・寺とその信奉者のための米を生産することで地域の安定を維持するのに役立っていた。これら11世紀の荘園の一つ田染荘は現在も運用されている。豊後高田の谷間にあり、この複雑に形成された棚田の広がり、この地域の地形に合うさまざまな土地の形状に沿ってゆるやかな曲線を描いている。このように設計された他の田んぼは、近代農業を容易にするため正方形にされてきた。田染荘はそれぞれの田んぼの自然の曲線を維持してきた。さらに、これらの水田は今も機械でというよりも手作業で行われている。西暦のカレンダーが導入される前は百姓達は、いつ苗を植えるか、いつ米を収穫するかを決めるために、取り囲んでいる山間の頂上に対する太陽の位置を利用していた。

本事業以前の英語解説文

It must be wondered how life was a thousand years ago. Many figures from a millennium ago still remain at Kunisaki Peninsula. A rural manor, Tashibu-no-Sho, is one of those figures which was maintained in the Heian Period and authorized by the Usa Shrine. It is registered as a future heritage site of UNESCO. Pre-modern farming is still conducted here and the lighting, earth, wind, water and smell of the place are all things that are unchanged and preserved. The link to the past makes it an important cultural landscape of Japan.

The top of rocky mountain is called Mado Yaba in Tashibunoshō. Asahi Kannon and Yuhi Kannon are enshrined and

placed to face the village. The god of Amabiki Shrine is guarding the water and Buddha in Mado Yaba is symbolized as the sun. Tashibu-no-Sho is guarded by the power of both gods and Buddha. The agriculture here exists as a result of the power of nature, and people who appreciate nature with faith, such that this scenery has been there for more than a thousand years.

1314

No.1-15 The view that has lasted a thousand years

<豊の国、大分県>

【施設名】 田染荘

【整備予定媒体】 パンフレット、Web サイト

できあがった英語解説文

Tashibunoshō is the only *shoen* field that has maintained its original shape for over a thousand years. Designed in the eleventh century to provide irrigation to the fields below, the rice paddies follow the natural geography of the valley. In 2010, they were designated an Important Cultural Landscape. Usa Jingu still uses some of the rice grown at Tashibunoshō for ritual ceremonies and festivals. From December to January, the fields are illuminated with strings of lights, which has brought more visitors to the area. While this influx of tourism has helped to support the present generation of farmers, it is unclear who will maintain the paddies in the decades to come.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

田染荘は千年以上もの間元の形を維持してきている唯一の荘園である。下方にある田んぼへの灌漑を提供するために11世紀に設計されたが、水田は谷の自然の地形に従った。2010年に重要文化景観に指定された。宇佐神宮は今も儀式や祭事には田染荘で作られた米を少し使っている。12月から1月に田んぼはひとつなぎになった電球で照明され、そのためこの地域により多くの訪問者がやって来る。この観光の流れが現在の農民世代を支えるのに役立っているが、これから先何十年と水田を誰が維持するのかは明らかではない。

本事業以前の英語解説文

Tashibu-no-Sho is a landscape that hasn't changed for over one thousand years. Featured is a rice paddy surrounded by mountains that are often covered with fog in the morning offering fantastic scenery. The spring water from Amabiki Shrine's fountain has been used in the paddy for over one thousand years. The land which is curved naturally is used as a terrace. This scenery is created by both nature and people together. Plentiful water, and soil that has been plowed for many years created Shoen Rice, and it surely tastes good due to the years of history.

1315

No.1-16 Three castle towns

<豊の国、大分県>

【施設名】 3つの城下町

【整備予定媒体】 パンフレット、Web サイト

できあがった英語解説文

Until the twelfth century, the Mirokuji-Usa Jingu shrine-temple complex was the center of political power on the Kunisaki Peninsula. By the early seventeenth century, political control of the Kunisaki Peninsula was split up into three domains: Kitsuki, Hiji, and Nakatsu. Tokugawa Ieyasu (1543–1616), the man who unified the country under his rule in 1603, gave control of the region to a loyal retainer, Hosokawa Tadaoki (1563–1646). Tadaoki maintained control by placing his allies and family members at the three castles. The ruling clans changed over the centuries, but the towns remained. After the Hosokawa clan, other clans were given control of the region in accordance with their service to the Shogun and their own political successes.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

12世紀まで弥勒寺・宇佐神宮の神社と寺という複合施設は国東半島の政治的権力の中心であった。17世紀の初期までには、国東半島の政治的支配は3つの領土に分割されていた。すなわち杵築、日出、そして中津である。徳川家康(1543—1616)は、1603年自分の支配下で国を統一したのであるが、忠実な家臣である細川忠興にその地域の支配権を与えた。忠興は自分の盟友と家族を3つの城に付かせることで支配を維持した。支配する氏族は何世紀にも渡る間に代わったが、それぞれの町は変わらないままであった。細川家の後、他の氏族達が、将軍への奉公と政治的功績に従いその地域の支配権を与えられた。

本事業以前の英語解説文

Many castle towns were built by exploiting the features of the region's topography and geography - from the Sengoku Period when domestic conflicts happened constantly, to Edo Period, a peaceful era during which Japanese culture progressed. You can enjoy strolling around castles with different circumstances such as "castle town of the slope", "castle town of the river" and "castle town of the sea". Over 400 years of cultural accumulation remaining in each castle town can be perceived. By walking in the Edo Castle Town, the lives of samurai and merchants can be sensed.

1316

No.1-17 Nakatsu: The castle town by the river

<豊の国、大分県>

【施設名】 中津城下町

【整備予定媒体】 パンフレット、Web サイト

できあがった英語解説文

Strategically located along a river which shares its name, Nakatsu Castle is one of only three water castles in Japan. The its adjoining castle town was also designed to hinder the approach of attackers. Kuroda Yoshitaka (1546–1604) built Nakatsu Castle in 1588 after he was designated daimyo of the region by the warlord Toyotomi Hideyoshi (1537–1598). When Kuroda was moved to Fukuoka by the Tokugawa warlords in 1600, Hosokawa Tadaoki (1563–1646) replaced him and sent his son to occupy the castle. Later, the domain would be ruled by the Ogasawara clan (from 1632) and the Okudaira clan (from 1717).

The neighborhoods surrounding the castle are home to numerous temples and shrines, many of which were built by the daimyo during the Edo period (1603–1867). The most famous of these temples is Goganji, which is known for its unusual crimson walls. The colored walls memorialize the slaughter of Utsunomiya Shigefusa (1536–1588) and his associates. In 1587 Kuroda Yoshitaka had taken over the surrounding area from Shigefusa and in 1588 Shigefusa conspired to kill Kuroda Yoshitaka and take back power. When his plan was found out, he was killed here at Goganji along with his men. Supposedly, the bloodstains on the walls could not be covered with any amount of whitewash, and the walls were ultimately painted red instead. The visible notches on the exterior and interior of the building are believed to be from the fighting. Other notable temples in the area include Enryuji Temple, Jishoji Temple, and Ennoji Temple.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

戦略的にその名前を共有する川に沿った場所にあり、中津城は日本でたった3つしかない水城の一つである。それに隣接する城下町も攻撃する敵の接近を妨げるよう設計されていた。黒田孝高(1546-1604)は武将豊臣秀吉(1537-1598)によってその地域の大名に指名された後、1588年から中津城の築城を開始した。黒田が1600年、徳川家によって福岡に移されたとき、細川忠興(1563-1646)が彼に取って代わり、その城を占拠するために息子を送った。後になって、その領土は小笠原家(1632～)と奥平家(1717～)によって支配されることになる。

城を囲む近隣は数々の寺や神社の本拠地となっている。そしてその多くは江戸時代(1603-1867)に大名によって建立された。これらのうち最も有名なものは合元寺である。それは今異様なまでの赤い壁で知られている。その色は宇都宮鎮房とその仲間の殺戮を象徴するものである。鎮房は1588年に陰謀を企んだ権力強奪者だった黒田孝高を殺そうと企てた。彼の家来達はここ合元寺で殺されそうである。そして建物の内外にある切込みは殺戮中に残されたものだと言われているということだ。その地域での他の注目すべき寺には圓龍寺、自性寺、円能寺がある。

本事業以前の英語解説文

Nakatsu Castle was built on the bank of Nakatsu River, which flows into Buzen Sea. It was built by the feudal lord Kanbei Kuroda, and it is the oldest castle from those built in the Early Modern Times in Kyushu. After Kuroda reigned, the Hosokawa family, Ogasawara family, Okudaira family and the castle towns are kept even now. Culture and tradition are carefully handed down in this castle town. It can be seen in three things. First is the old area names, which were used during those periods are still used today. Second, there is a majestic festival called Nakatsu Gion, that people from each area run with their own Dashi float around the town. Third, there are craftsmen for indigo dye and Japanese umbrellas in this town. Many great men are from this town as well, such as Yukichi Fukuzawa who was the founder of Keio University. There are old houses, museums, well-trained volunteer guides and craftsmen that make your journey enjoyable.

1317

No.1-18 Fukuzawa Residence

<豊の国、大分県>

【施設名】 中津城下町

【整備予定媒体】 パンフレット、Web サイト

できあがった英語解説文

This Edo-period dwelling in Nakatsu was the home of Fukuzawa Yukichi (1835–1901), a man who would become a crucial figure in the westernization of Japan. After visiting the United States in 1860, he came back to Japan and advocated for the improvement of the education system in his 1872 book, *An Encouragement of Learning*. He would later go on to found Keio University in Tokyo. Today, his likeness is featured on the 10,000-yen note.

Fukuzawa's childhood home is located a few blocks away from Nakatsu Castle. In addition to the historical significance of the man who occupied it, the home itself is a good example of Edo-period (1603–1867) architecture, and the museum next door contains manuscripts and other artifacts from Fukuzawa's time there.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

この中津の江戸時代の住居は福沢諭吉(1835-1901)の故郷であった。彼は日本の西洋化における重要な人物になることになっていた。1860年合衆国を訪問した後、彼は日本に戻り1872年彼の著書「学問のすゝめ」で教育制度の改善を提唱した。彼はその後、東京に慶応大学を設立するに至った。今日では彼の肖像画が10,000円札に描かれている。

福沢の幼少期の家は中津城からわずかに離れたところにあった。その家に住んでいた人物の歴史的な重要性に加え、家そのものが江戸時代(1603-1867)の建築の素晴らしい例である。そして隣接する博物館には福沢がそこにいた時代の手記や他の遺物がある。

本事業以前の英語解説文

なし

1318

No.1-19 Artisans

<豊の国、大分県>

【施設名】 中津城下町

【整備予定媒体】 パンフレット、Web サイト

できあがった英語解説文

The town that surrounded Nakatsu castle has a robust history of craftsmanship. When Kuroda Yoshitaka (1546–1604) began construction on the castle in 1588 he brought with him craftsmen from the cities of Himeji and Hakata. The castle's long-standing stone walls were cut and stacked by hand and have remained standing to this day. Several workshops in Nakatsu, such as Wagasa Kobo Shuka, which still makes traditional Japanese umbrellas, and Yuba Somemonoten, which still uses traditional dyeing techniques to dye their fabrics, trace their history back to the artisans that lived in the town during the Edo period (1603–1867). Recently they have begun running hands-on workshops to teach visitors about these traditional skills.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

中津城を囲む町には職人技の活発な歴史がある。黒田孝高(1546–1604)が1578年に城の建築を始めたとき姫路と博多の両市から職人を連れてきた。城の長く続く石壁は手を使って削られ積まれたもので、それが今日まで同じ状態で残っているのである。中津にあるいくつかの作業場、例えば今でも伝統的な和傘を作っている和傘工房朱夏のような作業場と今も織物を染めるのに伝統的な染色技巧を使っている弓場染物店はその歴史を江戸時代(1603-1867)の町にいた熟練工までさかのぼる。最近では訪問者にこれらの伝統的技術について教える体験型のワークショップを運営し始めた。

本事業以前の英語解説文

なし

1319

No.1-20 Kitsuki: The castle town of hills

<豊の国、大分県>

【施設名】 杵築城下町

【整備予定媒体】 パンフレット、Web サイト

できあがった英語解説文

Located in the southern part of the Kunisaki Peninsula, Kitsuki Castle is surrounded by ancient samurai homes, earthen walls, and stone paths that stretch over rolling hills. Many of the houses retain their traditional thatched roofs. The castle dates back to 1394, when the samurai Kizuki Yorinao (dates unknown) ruled the region. His clan reigned until 200 years of civil war came to an end in 1600, and Hosokawa Tadaoki (1563–1646) was given the peninsula by the Tokugawa. Kitsuki Castle functioned as the center of political power in the Kunisaki Peninsula until the late nineteenth century. Rebuilt in 1970, the castle is known for being one of the smallest castles in Japan.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

国東半島の南部に位置して、杵築城は昔の武家屋敷に囲まれていて、土堀とゆるやかな丘陵地帯に伸びる石畳がある。城は1394年までさかのぼり、木付頼直(不詳)がその地方を支配していた。彼の一族が200年の戦国時代が終わりになる1600年まで支配していた。そして細川忠興が徳川氏によってその半島を与えられた。杵築城は19世紀後半まで国東半島の政治的権力の中心として役割を果たしてきた。1970年に再建され、その城は日本で最も小さい城の一つで知られている。

本事業以前の英語解説文

The castle town Kitsuki is the "castle town of the slope". In 1394, Yorinao Kizuki built his castle on the plateau projecting like a cape surrounded by the two rivers and the Seto Inland Sea. The area has a unique layout in the whole country, with merchant towns at both north and south elevations, and in the valley, putting Kitsuki Castle on the cape. There are about 15 large and small slopes that connect the hill and the town. The historical streets lined with several samurai residences still have remarkable aspects of the Early Modern Times and it has an atmosphere that transports you back in time to the Edo Period.

1320

No.1-21 Suya no Saka Street

<豊の国、大分県>

【施設名】 杵築城下町

【整備予定媒体】 パンフレット、Web サイト

できあがった英語解説文

Kitsuki was built on top of two hills and the valley between them. The samurai built their homes on the top of the hills and the merchants lived in the valley. These different parts of the town are connected by streets that run perpendicular to the hills, and a major road runs parallel up the valley.

Two of the most prominent streets that runs up the hills are Suya no Saka and Shioya no Saka, which connected the samurai homes on the hills to a merchant community in the valley. Their names derive from the shops (*suya* and *shioya*, respectively) that once existed at the bottom of the hill. In addition to the impressive stonework of the paths themselves, the view overlooking the town is worth a moment's appreciation.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

杵築は元々二つの丘の間の谷に築かれた。侍は丘の上に家を建て、商人は谷に住んでいた。町の行政区域は丘陵に対して垂直に繋がる通りで結ばれており、主要道路は谷間で平行に走っている。丘陵に走る最も有名な通りの二つは酢屋の坂と塩屋の坂である。それら名前の由来はかつて丘の麓にあった店(酢屋、塩屋)に由来する。印象的な石畳の小径そのものに加え、町を見渡す景観は一瞬の鑑賞に値する。

本事業以前の英語解説文

なし

1321

No.1-22 Ohara residence

<豊の国、大分県>

【施設名】 杵築城下町

【整備予定媒体】 パンフレット、Web サイト

できあがった英語解説文

The Ohara clan were one of the chief retainers to the Matsudaira clan, the rulers of Kitsuki from 1646 to the middle of the eighteenth century. The Ohara clan's home is one of the most well-maintained samurai residences in the city. Its traditional thatched roof, earthen walls, and tatami-and-wood-floored rooms are an excellent example of the houses of the upper echelon of the samurai class. Inside are a traditional stone kitchen, restroom, and an indoor archery practice space. The house is surrounded by a well-kept garden. Today the Ohara residence, Suya no Saka, and the surrounding streets are regularly used to film period dramas.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

大原家は、1646年から18世紀中頃まで木付の支配者であった松平家の主な家来の一族であった。大原家の屋敷はその町で最もよく状態が保たれている武家住居の一つである。その伝統的な茅葺きの屋根、土塀、そして畳と板の間の部屋は武士階級の上流層の屋敷の優れた例である。屋敷内には伝統的な石でできた台所、洗面所、屋内弓道練習場がある。屋敷は手入れの行き届いた庭に囲まれている。今日では大原邸、酢屋の坂の丘そして取り囲む通りは時代劇の撮影のため定期的に利用されている。

本事業以前の英語解説文

なし

1322

No.1-23 Hiji: The castle town by the sea

<豊の国、大分県>

【施設名】 日出城下町

【整備予定媒体】 パンフレット、Web サイト

できあがった英語解説文

Situated across from the city of Beppu, the remaining walls of Hiji Castle look out over Beppu Bay. Though the seventeenth-century castle is no longer standing, the surrounding streets give a glimpse of what Japan must have looked like during Edo period (1603–1867). Some of the structures built in the Edo period that still exist today are the Chidokan, Shouokuji Temple, and Wakamiya Hachiman Shrine. Of note is the Chidokan, a traditional school built in 1858. There, the children of local samurai families were taught a variety of subjects ranging from calligraphy to medicine.. This institution was one of 255 domain (*han*) schools that made up a nationwide, state-organized education system which existed parallel to the temple-organized *terakoya* education system. The Chidokan was moved to a new location on the Hiji Castle fortifications during its restoration in 1951.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

別府の町の向かいに位置して、日出城の残されている城壁は別府湾を見渡している。17世紀に築かれた城はもはや建ってはいないが、周りの通りからは江戸時代(1603-1867)の日本の様子を垣間見ることができる。江戸時代に建てられた建造物で今日まで現存するものには致道館、松屋寺、若宮八幡神社がある。特に注目すべきは致道館で、1858年に建てられた伝統的な学校である。その学校には武家の子供達に通っていて、書道から医学に至るまでの学科が教えられていた。この施設は、寺が組織していた寺子屋教育制度と並んで存在していた全国規模の国家による組織的な教育制度を成していた255の藩校の一つとして機能していた。致道館は1951年に日出城内の新しい場所に移築された。

本事業以前の英語解説文

You can feel the remnants of the Edo Period around Trident and Hiji castle facing Beppu Bay. The foundation of the current cityscape is the castle town when Hiji Castle was created. The Kinoshita family, the relatives of Hideyoshi Toyotomi, built the Hiji castle in 1602, and since that time the Kinoshita family has been ruled over 270 years. Torii where the lord made a donation to the temple and the shrine are still numerous in Hiji even now. Feeling the winds of history and the sea breeze, enjoy the spectacular view of Beppu Bay.

1323

No.1-24 Remains of Hiji Castle

<豊の国、大分県>

【施設名】 日出城下町

【整備予定媒体】 パンフレット、Web サイト

できあがった英語解説文

Hiji Castle was built in the early seventeenth century by Hosokawa Tadaoki (1563–1646) for his relative Kinoshita Nobutoshi (1577–1642), who relocated to Hiji from Himeji in western Honshu. Today, an elementary school has been built on the fortifications where the castle originally stood. As a nod to the site's historical significance, the school's design incorporates elements of the castle's architecture.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

日出城は17世紀初期に細川忠興(1563-1646)によって彼の親戚であった木下延俊(1577-1642)のために築かれたもので、彼は本州西部の姫路から日出へ移転したのであった。今日では日出城が建てられた跡地に小学校が建てられている。その歴史的な重要性にうなずかせるものとして、学校の設計は城の名残を色濃くのこしている。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 別府温泉

【整備予定媒体】 パンフレット、Web サイト

できあがった英語解説文

Nestled between the ocean and mountains rich in geothermal activity, Beppu contains almost 2,300 hot springs, a number that is second only to Yellowstone National Park in the United States. The city has embraced this geothermal phenomenon, and a unique bathing culture has developed over the centuries.

Prior to Beppu's status as a global sightseeing destination, local farmers congregated at hot springs to relax and socialize. Such daily rituals helped create a sense of community based around the intimacy of shared bathing. The publicly operated baths in Beppu, such as the famed Takegawara Onsen in the Motomachi neighborhood, are also community centers with extra room for neighborhood meetings and events. For locals, the public bath is not only a space to bathe, but also a place for strengthening community bonds.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

海と地熱活動の活発な山の間にはさまれて、別府にはほぼ2,300の温泉があり、合衆国のイエローストーン国立公園に次ぐ二番目の数となっている。町はこの地熱現象を喜んで受け入れ、何世紀にも渡って独特の温泉文化を発達させてきた。

別府の存在が世界的な観光目的地となる前には、各地の農夫達が温泉に湯治に来ていた。このような日常の慣習のおかげで、風呂を共有する緊密さに基づいた地域社会の感覚が産まれることになった。近隣の元町にある有名な竹瓦温泉のような公営で運営される別府の浴場は、町内会や行事のための特別な場所を備えた地域社会の中心となっている。地元の人たちにとって公衆浴場は単に入浴するための場所ではなく、地域社会の絆を強化する場所でもある。

本事業以前の英語解説文

If you walk around the city of Beppu, you'll find many local people with a pail in hand, heading to the public baths. Beppu Onsen is famous resort for the mineral-rich spring water, and the volume of spring water is the top in Japan. As the port was developed in 1871, it turned into a big hot spring resort so that many villas were built in Taisho and early Showa Period. Hot springs rooted in the lives of citizens, and the public baths became so very close to them, that there is a saying that "the back alleys are just hallways to their bath" as they consider the public bath as the ones in their houses.

1325

No.1-26 Early modern architecture and the vacation homes of Beppu

<豊の国、大分県>

【施設名】 別府温泉

【整備予定媒体】 パンフレット、Web サイト

できあがった英語解説文

As word of Beppu's famous hot springs spread across Japan in the late nineteenth and early twentieth centuries, wealthy Japanese began to purchase vacation homes in the area. Today, the hills around Beppu are dotted with well-preserved homes from this period, some of which are now operated as lodgings for domestic and international travelers. One such home is Yamada Besso, built by Yamada Eizo in 1930. Now operating as an inn, this home was built as a fusion of the Japanese and Western architectural styles popular at the time. The Yamada Besso was built with both tatami- and wood-floored rooms and incorporated Western architectural elements like the sitting room into a Japanese home. The inn is operated by the descendants of Yamada Eizo, who have modernized the home while maintaining its prewar charm.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

別府の有名な温泉の噂が 19 世紀後半から 20 世紀初期に掛けて日本中に広がるにつれ、裕福な日本人がその地に別荘を購入し始めた。今日別府周辺の丘陵地にはこの時代からよく保存された別荘が点在しており、その中には国内外からの旅行者のための宿泊地として運営されている。このようなものの一つである山田別荘は、1930 年に山田英三によって建てられた。現在は旅館として運営されているが、この別荘は当時人気のあった日本と西洋の建築様式が融合したものとして建てられた。山田別荘は畳の和式の部屋と板の間の洋室の両方を取り入れて建てられ、居間のような西洋の建築要素を日本の家に取り入れている。旅館は山田英三の子孫によって運営されており、その子孫達はその屋敷を戦前の魅力を残しつつ近代的なものにした。

本事業以前の英語解説文

なし

1326

No.1-27 Rojiura

<豊の国、大分県>

【施設名】 別府温泉

【整備予定媒体】 パンフレット、Web サイト

できあがった英語解説文

As tourism to Beppu grew in the nineteenth and twentieth centuries, residents competed to draw incoming tourists to their establishments in a city that overflowed with bathhouses. At the time the port functioned as the main entrance to the city and arriving visitors would walk up from the seaside into the upper part of the city to their lodgings. As competition for customers increased, neighborhoods began to cover their streets and alleys to lure in tourists seeking shelter from the frequent rain. These wooden super-structures have mostly been taken down, but some still exist, such as the one built over Takegawara Alley near the Takegawara onsen. Although the buildings in Beppu are modern, the streets in the area around Kannawa Onsen have been left unchanged, winding up and down the slopes like a maze filled with the steam of countless onsen.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

19世紀から20世紀にかけて別府への観光が盛んになるにつれて、住人達は公衆浴場であふれる町に自分たち自身で作った施設に観光客を引きつけようと競った。その当時、港はその町への主要な入口の役を果たしていて、新しく到着した人たちは海辺から町のより高い位置にある宿泊所まで歩いて行ったものだった。客取りの競争が激しくなると、その近隣はよく降る雨から雨宿りを求める観光客を引き込もうと表通りや裏通りを覆い始めるようになった。これらの竹でできた通りを覆う構造物はほとんど取り壊されてしまったが、竹瓦温泉近くの竹瓦小路の上につくられたもののように、まだ残っているものもある。別府の建物は近代的であるが、通りのほとんどは元のままの状態に残されていて、鉄輪温泉ではそれらは無数の温泉からの蒸気でいっぱい迷路のような登り・下りのある曲がりくねった坂道になっている。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 別府温泉

【整備予定媒体】 パンフレット、Web サイト

できあがった英語解説文

The Beppu Hells (Jigoku) are seven hot springs located to the north of Beppu city that form the backbone of tourism to the region. Leading up the mountain towards these hot springs are many shops selling a food called Jigoku-mushi. Steam from underground hot springs is used to cook vegetables and meat. Recently, local restaurants have used the steam to create new culinary sensations, including everything from steamed pork buns to steamed pudding. Many local homes also draw up onsen water for their personal baths and to heat their homes in the winter. The entire community around Beppu owes its existence to the onsen that permeate every part of life in the city.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

別府地獄というのは、その地の観光の根幹を形成する、別府市の北部に位置する七つの温泉である。山を登ってこれらの温泉に通ずる道では、地獄蒸しと呼ばれる食べ物を売る多くの店が並んでいる。地下の温泉から出る蒸気は野菜や肉を料理するのに使われる。最近では地元のレストランが蒸気を使って新しい食感を産みだしていて、それらは蒸した豚まんから蒸したプリンまでというようにあらゆるものが含まれる。地元では個人の風呂のため、そして冬には家を暖めるために温泉水を引き込む家庭も多くある。別府周辺の地域全体がその町の生活のあらゆる部分に浸透している温泉のおかげで存続している。

本事業以前の英語解説文

Kannawa Onsen has the breathtaking view of intense onsen steam going up. In this busy area with visitors where original spa culture was developed, you can try "Jigoku-Mushi", which means Steaming Hell, and is a cooking method that uses the steam of the springs. You are able to feel the slow-paced life and enjoy the relaxing background of the healing spa.

【施設名】 豊後高田昭和の町

【整備予定媒体】 パンフレット、Web サイト

できあがった英語解説文

Bungotakada became a castle town sometime during the period of recurrent civil war in the fifteenth and sixteenth centuries. The region has over a thousand years of history, but today the town is known for its *Showa no Machi*. The name refers to the latter half of the Showa period, from about the 1950s to the 1980s, which is often regarded as the “good old days.” First created by a collective of seven shops in 2001, the Showa no Machi is made up of forty shops that have been restored to the way they looked and operated in the 1950s and 60s. The collective requires members to display antiques and curios as part of its *itten ippo* (or “one shop, one treasure”) scheme, and the area feels as much like a museum as it does a commercial district. Although 400,000 tourists visit the town each year, most of the traffic is on holidays and weekends, and the town is peacefully quiet during the work week.

In order to maintain the profitability of each shop, the forty-odd members of the collective also abide by their *itten ippin* (“one shop, one product”) rule. This rule requires each shop to have a unique product for sale and forbids other shops from copying that product. Along the avenues, you can find treats from the period including *dagashi* candies and deep-fried croquettes; at the Showa Roman Kura center there is a collection of antique cars, and old bank notes are on display at the historic bank building. A restored antique bus runs through the town on weekends and holidays, and the area regularly hosts local gatherings and events.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

豊後高田は15世紀から16世紀にかけての戦乱期のある時期に城下町になっていた。その地は千年以上の歴史を有しているが、今日では「昭和の町」として知られている。その名前はおよそ1950年から1980年に渡る昭和時代の後半を表していて、それはしばしば「古き良き時代」と見なされている。2001年に最初七つの店からなる共同体によって造られたのだが、昭和の町は1950年代から1960年代の容貌と運営方法に戻された40の店舗から成り立っている。その共同体はそれぞれの店舗に「一店一宝」の計画の一端として骨董品や希少品を展示することを義務づけた。そうすることでその地域は商業地域であると感じるのと同じくらい博物館のように感じられるのである。毎年400,000人の観光客が町を訪れるが、人に行き来があるのはほとんど休日と週末で、その町の平日は穏やかで静かである。

それぞれの店の収益性を維持するために、共同体の40あまりの店舗はまた「一店一宝」の規則に従っている。この規則はそれぞれの店が独自の販売品を持つことを義務づけ、他店がその産物を模倣することを禁じている。その大通り沿いには駄菓子屋のあめ玉や揚げ物のコロッケなどを含む時代を感じさせるもてなしの品を見ることができる。昭和口マン蔵センターにはクラシックカーのコレクションがあり、古い紙幣が歴史的重要な銀行の建物に展示されている。修復された昔のバスが週末と祝日に町の中を走っている。そしてその地域は定期的に地元の集まりや行事を主催している。

本事業以前の英語解説文

Showa no Machi in Bungo-Takada City has many appearances of the Showa 30s, when the town was busy. The Modern Times memory of the Japanese is revived from the retro buildings and signboards that stand in shopping districts. Walk around the Showa-no-Machi, enjoying the old things that have been put out like treasures, and by listening and talking with the local people, you can feel the life of the Showa era.

Showa-roman-gura used to be the biggest rice warehouse in Bungo-Takada City and was renovated into a theme park. A museum exhibiting old toys, Reproduction of the streets of Showa 30's, and Exhibition reproducing the Showa elementary school are popular because these facilities bring Japanese people back to the Showa 30's which is like a fairy-tale after World War II, when people started to feel at peace and live with hope.

1329

No.2-1 Komo Jinja

<豊の国、大分県>

【施設名】薦神社
【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

The Komo Jinja shrine building was originally part of a Buddhist and Shinto shrine-temple complex surrounding Misumi Pond. The pond and Mt. Hachimen to the southwest have been associated with spiritual power for over 2,000 years. The mountain is the historic home of the Shinto deities, or kami, that are venerated in this area. Next to the pond is the old pathway leading to Usa Jingu, a historic center of spiritual power for the entire Kunisaki peninsula. Construction of the complex that became Komo Jinja began in the ninth century, but during the nineteenth-century Meiji restoration the shrine-temple complex was forced to separate its Shinto and Buddhist practices. During that time most of the Buddhist buildings were destroyed, but the Komo Jinja building survived. Today, the site is a *jinja* or Shinto shrine and is a place of Shinto worship despite its historically Buddhist architecture.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

薦神社の建物は元々三角池を囲む仏教と神道の神社・寺の複合施設の一部であった。その池と南西にある八面山は 2,000 年以上にわたり精神的な力と連想されてきた。その山はこの地域で崇められている神道の神々の歴史的に重要な住まいである。池の隣にあるのは、国東半島全体の歴史的な精神的権力の中心である宇佐神宮に通じる古道である。薦神社となる複合施設の建設は 9 世紀に始まった。しかし 19 世紀の明治維新の間に神社・寺の複合施設は神道と仏教の慣習を切り離すよう強要された。その間仏教の建物のほとんどは壊されてしまった。だが薦神社の建物は生き残ったのだった。今日ではその敷地は神社となっており、歴史的には仏教建築であるにもかかわらず神道の崇拝の場所となっている。

本事業以前の英語解説文

Komo Shrine in Nakatsu City is where the worship of Misumi Pond as a god using the ancient prayers has been conducted in the past. A temple was built in the 800s and it now functions as a combination for both nature worship and Buddhist traditions. Shinmon(Shrine gate) itself is designated as an important cultural site in Japan.

1330

No.3-1 Hachiman Nadagu

<豊の国、大分県>

【施設名】八幡奈多宮
【整備予定媒体】 看板

できあがった英語解説文

Hachiman Nadagu was built in 729 CE as a branch of Usa Jingu. It is built in the Hachiman-zukuri style, a type of architecture unique to Hachiman worship. The two long, gabled roofs with sloping eaves that cover the main building evoke the design of Usa Jingu itself. This shrine is the historic site of a ceremony to cleanse its visitors of spiritual impurities (*kegare*) by casting them into the ocean. The location of the shrine was almost certainly influenced by the discovery of a freshwater spring located unusually close to the sea. Just off the beach is an additional *torii* gate that is aligned to match the moonrise during the equinox.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

八幡奈多宮は西暦 729 年に宇佐神宮の分岐神社として建立された。それは八幡造形式、すなわち八幡崇拝に特有の建築様式で建てられている。本堂を覆う斜めになった軒のある二つの長い切り妻の屋根は宇佐神宮そのものの設計を思い起こさせる。この神社は訪問者達の穢れを海に投げ込むことによって浄化するという儀式の歴史的に重要な敷地である。神社の位置は、海に異常に近い場所にある淡水の泉の発見によりほぼ確実に影響されていた。浜辺から少し離れたところに、春分・秋分の時の月の出に合うよう調節された鳥居が追加されている。

本事業以前の英語解説文

なし

1331

No.4-1 Takegawara Onsen

<豊の国、大分県>

【施設名】竹瓦温泉
【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

First built in 1879, Takegawara Onsen is a symbol of the hot spring culture of Beppu. In 1938 the building was renovated, and its original bamboo roof was replaced with tiles. Accordingly, the onsen's name is a compound of the Japanese words for "bamboo" (*take*) and "tile" (*kawara*). Inside the bathhouse are both sand baths and hot spring baths.

Takegawara Onsen is both a tourist destination and a local community center. As with many of the publicly supported onsen in Beppu, the second floor is a community hall. This combination is unique to Beppu, where bathhouses are a space for locals to bathe and hold community meetings and events.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

1879年に最初建設されたが、竹瓦温泉は別府の温泉文化の象徴である。1938年に建物は改装され、元の竹屋根葺きの屋根は瓦に置き換えられた。浴場の中には砂風呂と温泉の両方がある。

竹瓦温泉は観光客の目的地でありまた地元の地域交流の中心でもある。別府の多くの公共温泉にあるように、二階は地域交流のための広間である。この組み合わせは別府独特のものである。そこでは地元住民が風呂につきり、町内会や行事を開く場所となっている。

本事業以前の英語解説文

なし

オール高千穂観光地域づくり協議会

【施設名】高千穂町観光協会

【整備予定媒体】WEB

<http://takachiho-kanko.info/en/sightseeing/>

できあがった英語解説文

The Town of Takachiho

Takachiho is located in northern Miyazaki Prefecture, in a scenic valley of natural landmarks, tea fields, and terraced rice fields. These fields and the network of water canals that support them, many built by the community over the past one hundred years and more, have been recognized as a Globally Important Agricultural Heritage System (GIAHS). The town has several nationally-recognized natural landmarks, such as the Takachiho Gorge with its steep 100-meter high walls and the picturesque Manai Falls at its center. Many visitors come to enjoy a boat ride during the day or the illuminated falls at night.

Home to several places featured in Japanese mythology, Takachiho's shrines are popular destinations. Many shrines have deep connections to Japanese myth and local legend. Amano Iwato Shrine, for example, houses the location of Amano Iwato, a sacred cave where the sun *kami* deity once hid from the world. Kushifuru Shrine on Kushifuru Peak honors the arrival of a vital mythological figure to earth: Ninigi no Mikoto, the grandson of the sun deity, and the mythological great-grandfather of the first emperor of Japan, Emperor Jimmu. Kushifuru Shrine marks the location where Ninigi is said to have arrived after descending from the heavens. In the Takachiho area, it is believed that Emperor Jimmu was born and raised on Takachiho's Kushifuru Peak with his three older brothers. One of those brothers, Mikeiri no Mikoto, is venerated at Takachiho Shrine, a shrine with a history tracing back over 1,900 years.

Takachiho is where visitors can experience *yokagura*, a nationally-recognized folk cultural asset. *Yokagura* is a theatrical Shinto dance, and at select times in the winter different communities in Takachiho gather for night-long performance ceremonies. Although usually a local tradition, visitors from other communities can also celebrate *yokagura* events. During the festivities, guests can enjoy traditional Takachiho cuisine such as *kappo dori* (a chicken dish cooked in a freshly cut bamboo stem) and *kappo sake* (sake served in a heated bamboo cup).

上記解説文の仮訳（日本語訳）

高千穂町

高千穂町は宮崎県北部にあり、茶畑・棚田等壮観な自然に囲まれている町です。

これらの棚田や茶畑は、繁栄を遂げてきた棚田と 100 年以上前から先人によって作られた山腹用水路、ここは、世界

農業遺産として認定されています。また 100m の高さの断崖がそそり立つ高千穂峡、その中央には絵のように美しい真名井滝などたくさんの国の天然記念物があります。多くの観光客は高千穂峡で、日中はボートで、夜は滝のイルミネーションを楽しんでいます。

高千穂の神社は日本神話ゆかりで人気を集めます。数多くの神社は日本の神話や地域の伝説と深く関係しています。例えば、天岩戸神社は、日の神である天照大神がこの世からお隠れになった天岩戸をご神体としてお祀りしています。くしふる神社は、天照大神の孫の瓊々杵尊が、天孫降臨したとされるくしふるの峰にあります。神道神話によると、瓊々杵尊は天皇家の初代天皇、神武天皇の曾祖父といわれています。高千穂地域では、神武天皇と三人の兄弟がくしふるの峰で生まれ育ったと信じられています。そのうちの一人の兄、三毛入野命は 1900 年の歴史のある高千穂神社に祀られています。

高千穂は国の「重要無形民俗文化財」に指定されている夜神楽の鑑賞を体験できる地域です。夜神楽は神楽・神道の伝統的歌舞であり、毎年冬の時期に、町内の集落ごとに、夜を徹して伝統的な儀式を行い奉納する行事です。これは地域の行事ではありますが、コミュニティ外の方も夜神楽に参加してみることができ、また高千穂の伝統料理、かつぼ鶏（竹筒を使った鶏料理）やかつぼ酒も楽しむことができます。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】高千穂町観光協会

【整備予定媒体】WEB

<http://takachiho-kanko.info/en/sightseeing/>

できあがった英語解説文

Creation According to Shinto Mythology

(Overview)

A Shinto interpretation of creation is that the world and its inhabitants are not “made” but “born,” and the divine couple Izanagi no Mikoto and Izanami no Mikoto play a central role in this narrative. The couple marry and give birth to the islands of Japan, as well as to several important natural deities that give the islands shape. This myth of Izanagi and Izanami introduces significant concepts, such as male and female roles, marriage, copulation and birth, death and the afterlife, and the birth and death cycle.

=====

Beginnings of “Kami”

In the beginning the world split into the heavens and the earth, and three *kami* deities of the heavenly realm came into being. Then the first reeds took root and sprouted, and two more *kami* deities came to be. These first five *kami* deities were formless and had no partners. Thereafter, however, pairs of “partner” *kami* deities were born in succession. The seventh and final generation was the male Izanagi no Mikoto and the female Izanami no Mikoto.

At this time, the land was yet unformed and floated aimlessly like oil upon water. So, the older deities charged the pair Izanagi and Izanami with the task of bringing order to the world and granted them a sacred spear with which to do so. Standing on a bridge, the two first looked down upon the primordial mire and decided to try mixing it. They stuck the spear in, turned it about, and when they drew it back out, a drop fell from its tip. This drop settled and became the first island, Onokoro Shima. It was here that the two descended to live.

Birth of the Islands of Japan

After descending to the island, Izanagi and Izanami became aware of the differences in their bodies and decided to join together to give birth to the country. And so, they married by circling a sacred post three times and taking their vows. Izanami spoke her vows first but their attempts to have children ended poorly so the two redid the marriage ceremony, this time with Izanagi speaking his vows first. This time, they successfully gave birth to the islands of Japan and a host of other *kami* deities to give them shape. This included deity of the seas, the wind, the mountains, and all manner of natural phenomena.

Land of Death

Unfortunately, Izanami was gravely injured giving birth to the fire *kami* deity, and soon died. Izanagi mourned and missed her terribly, and before long decided to travel to the land of the dead to get her back.

By the time Izanagi arrived and found Izanami, she had already eaten food of the underworld. This meant she was thus unable to return. Izanagi pleaded with Izanami anyway until she agreed to ask the deities of the land of the dead if she might leave to go back to the country they were still in the process of making. Before she went to ask, Izanami made one request: she bid Izanagi not to follow her, and to wait outside until she returned. Izanagi agreed.

A long time passed in Izanami's absence, and Izanagi grew impatient. At last, he decided to disregard Izanami's request and went to look for her. To his horror, he discovered her as a frightful, decaying corpse. Izanami was furious at being seen, and Izanagi fled in terror. He quickly exited the land of the dead. Izanami chased after him, but she soon found her way blocked by a large boulder and could follow Izanagi no further. Izanagi had placed the boulder, and so trapped Izanami in the land of the dead.

Izanagi's "Misogi"

After escaping, Izanagi declared the land of the dead an ugly and defiled place and decided to purify himself by cleansing. This act is today considered the origin of "misogi," a ritual cleansing done at Shinto shrines and ceremonies where one bathes or immerses oneself in water.

As Izanagi washed his face, three significant deities were born: the sun *kami* Amaterasu Omikami from his left eye, the moon *kami* Tsukuyomi no Mikoto from his right eye, and the *kami* of the seas Susanoo no Mikoto from his nose. Izanagi gave these three children the duties of ruling, respectively, the heavenly realm, the night realm, and the seas.

Takachiho and the "Creation"

While it is difficult to determine from ancient documents exactly where these events would have taken place, Takachiho local belief considers the island in the center of Onokoro Pond near Takachiho Gorge to be Onokoro Shima, the place where Izanami and Izanagi married, lived, and gave birth to the islands of Japan. In this belief, Takachiho is where the Japanese archipelago, both its natural formations and its inhabitants, was born.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

天地の初めと国生み

(要旨)

神道創世神話によると、世界とその住人は、「創られた」のではなく「生まれた」となっております。そして夫婦の神、伊弉諾尊と伊弉冉尊がこの国づくりのほとんどを果たしました。神が結婚し、日本国土（水穂の国）をはじめ、国土を形づくる数多くの子をお生みになりました。伊弉諾尊と伊弉冉尊の神話は、男と女、結婚のあり方、生死と死後の世

界、生死の伝説などを紹介する上でとても重要です。

=====

「神」の始まり

初めに、世界は地上界と天界に分かれました。そして高天原に三柱の神が生まれました。最初の葦が根を下ろし、芽吹くように二柱の神が更に現れました。これら五柱の神は別天つ神で、それぞれ独身（ひとりみ）で現れた形にならない神です。その後、次々と数世代の「夫婦」の神が現れ、最後に現れたのが、神代七代の男の伊弉諾尊と女の伊弉冉尊でした。

この時地上界は、まだ若く海に浮かぶ油のごとくただよっていました。年長の神たちは、この神々に聖なる矛を授け、地上界を治めるように遣わせました。二柱は、浮き棧橋に立って混沌を混ぜることにしました。矛を降ろして掻き回してから引き上げ、その矛の先から海水が落ちました。それが最初に出来た島で、この二柱が天から降りて住んだオノコロ島です。

日本列島の国生み

地上界に降臨した後、伊弉諾尊と伊弉冉尊は、お互いの身体に違いを知って、一緒になって残りの国を生むことを決めました。そして天の御柱を三回回って言葉を交わし結婚します。伊弉冉尊が先に言葉をかけたために、初めはちゃんとした子どもが生まれませんでした。結婚の儀式をやり直して、今度は、伊弉諾尊が先に言葉をかけました。こうして二柱は、日本の島々と海、風、山、全ての自然現象を治める神々を無事にお生みになりました。

死者の世界

しかし不運にも、伊弉冉尊が火の神をお生みになった時、伊弉冉尊は、重傷を負い、亡くなってしまいました。伊弉諾尊は悲しまれて、死者の世界へ伊弉冉尊を連れ戻しに行くことを決めました。

伊弉諾尊が着いた時には、伊弉冉尊はもう戻ることができないとされる黄泉の国の食べ物ですでに食べてしまった後でした。伊弉諾尊が懇願するので、伊弉冉尊は、まだやり残したこのとのある地上界のために、伊弉諾尊と一緒に戻ることができるかどうか、黄泉の国の神と話をすることにしました。その前に伊弉冉尊は伊弉諾尊に、戻るまで外で待ち決してわたしを見ないようにと言い残して行きました。伊弉諾尊はそれに応じました。

長い時間がすぎ、伊弉諾尊は我慢できませんでした。伊弉諾尊は、伊弉冉尊の言葉を聞かず、見に行くと、驚くことに伊弉冉尊は無残な姿になっていました。あまりの恐ろしさに伊弉諾尊は、一目散に妻から逃げました。伊弉冉尊は追いかけてきましたが、伊弉諾尊は大きな岩で黄泉の国への道を塞ぎ、伊弉冉尊が追ってこられないようにしました。

イザナギの「禊」

地上界に戻ると、伊弉諾尊は、黄泉の国が汚れた場所だと言って、汚れた体を清めました。神道の儀式で行われる水で身体を清めること、「禊」の始まりだと考えられています。

伊弉諾尊が顔を清めると代表的な三柱：左目から日の神天照大神、右目からは月の神月読命、鼻から海原の神素戔嗚尊が生まれました。伊弉諾尊は、この三柱にそれぞれ天の国、夜の国、海原を治めるように授けました。

高千穂と「国生み」

古い文書から、これらの出来事が起こった場所を正確に判断することは難しいことですが、高千穂信仰では、高千穂峡のそばのオノコロ池の中にある島こそが、伊弉諾尊と伊弉冉尊の二柱が結婚し、住み、日本の島々を生んだオノコロ島であると信じています。この信仰によって、高千穂は、地球、生命、そしてその住人が生まれた地とみなされています。

本事業以前の英語解説文

なし

1334

No.3 Mythological Tale: Opening Amano Iwato, The Heavenly Stone Cave, Takachiho

<高千穂、宮崎>

【施設名】高千穂町観光協会

【整備予定媒体】WEB

<http://takachiho-kanko.info/en/sightseeing/>

できあがった英語解説文

Mythological Tale: Opening Amano Iwato, The Heavenly Stone Cave

(The myth of luring the sun *kami*, Amaterasu Omikami, out of hiding)

(Overview)

In a famous Japanese mythical tale, the sun *kami* deity Amaterasu Omikami hid away in a cave and plunged the world into darkness. To lure her back out, myriads of *kami* deities enacted an elaborate ruse: they staged a festival with song and dance outside the cave's entrance. Amaterasu, perplexed by the revelry outside, cracked open the stone door of the cave to peek out, and the deities used the opportunity to pry open the door and fling it away. Thus, a festival helped restore light to the world.

Amaterasu is enshrined at Takachiho's Amano Iwato Shrine. It is here that Amano Iwato (the cave in which Amaterasu hid) and Amano Yasukawara (the area where the *kami* gathered to discuss their strategy to lure her out) are said to be located.

=====

The Ruler of the Sea, Susanoo

Three *kami* deities were born of Izanagi when he returned from the underworld: the sun *kami* deity Amaterasu Omikami, ruler of the heavenly realm; the moon *kami* deity Tsukuyomi no Mikoto, ruler of the night realm; and the *kami* deity of the sea Susanoo no Mikoto, ruler of the seas.

Among the three sibling deities, Susanoo alone shirked his responsibilities, and so Izanagi banished him from the heavens. Before Susanoo left, he decided to speak to his older sister, Amaterasu, and made his way to her realm. The commotion of his coming made Amaterasu suspicious of her mischievous brother's intentions, and they argued. Susanoo decided to retaliate with cruel pranks. First, he destroyed Amaterasu's rice fields and defiled her sacred hall, then he tossed a skinned horse into her sacred weaving hall. One of Amaterasu's weavers saw the horse and died of shock, causing Amaterasu terrible grief. Infuriated, she hid herself in a cave. As she is the *kami* deity that sits as the sun in the heavens, this plunged all into darkness and chaos.

Tales of Amano Iwato

The great multitudes of deities of the heavens were terribly distressed and gathered near the riverside at Amano Yasukawara to discuss how to lure Amaterasu the sun deity out again. First, they gathered up cockerels that crow at the break of dawn and set them to crowing. Next, they placed a large, holy *sakaki* tree outside the cave, and decorated it with strings of sacred *magatama* jewels, fine clothes, and an elegant mirror forged from materials of the heavenly mine. Then, the *kami* deity named Ame no Koyane no Mikoto recited a prayer, and the *kami* deity named Ame no Uzume no Mikoto began to perform a dance. This dance so pleased the assembled gods that they filled the air with laughter.

Bringing the Light Back to the World

Amaterasu grew perplexed by the festive noise outside and cracked open the stone door of the cave to peek out. She asked, “Since I am in here, should not all be in darkness? Why are you all dancing and laughing?” To this, the dancing deity Ame no Uzume answered, “We are merry for there is one more glorious than you out here among us.” This trick to draw Amaterasu worked. Curious, Amaterasu opened the stone door wider to catch a glimpse of the “glorious *kami* deity.” Instead, she was distracted by her own reflection in the mirror. A *kami* deity of incredible strength named Tajikarao no Mikoto waited at the entrance, and quickly grabbed hold of the door and flung it away. Thus, Amaterasu was lured out from hiding and light was restored to the world.

Amaterasu the sun deity is revered at Amano Iwato Shrine. From the West Sanctuary of the shrine, there is a view of the believed location of Amano Iwato cave, where Amaterasu hid. A short trail from the West Sanctuary leads to the entrance of the riverside cave said to be Amano Yasukawara, where the multitudes of *kami* gathered to discuss luring the sun deity from hiding. Visitors today often stack stones here to make wishes, which has led to tall piles of stones crowding the cave floor.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

神話「天岩戸開き」

(隠れている天照大神を誘い出す神話)

(要旨)

日本の代表的な神話の中に、日の神の天照大神が洞窟の中に隠れてしまい、そのため世の中が闇に閉ざされていました。天照大神を洞窟から誘い出ために、八百万の神々が集まり、相談して計画を練ります。神々は、洞窟の外に歌と踊りではやし立てます。天照大神は、世の中は闇なのに楽しそうに騒いでいるのを不思議に思い、扉を少し開けて外をのぞき、その間に、神々は、岩の扉をこじ開けそれを投げ飛ばします。こうして高天原にも地上界にもふたたび日の光が戻りました。

天照大神が隠れたとされる洞窟「天の岩屋戸」は高千穂の天岩戸神社にあり、そこに天照大神は祀られています。また天安河原は、八百万の神々が集まり神議されたと信じられているところです。

=====

海原の国の神、素戔嗚尊

伊弉諾尊が黄泉の国から戻った後、3柱の神が生まれました。日の神天照大神、月の神月読命、海原の神素戔嗚尊の3柱です。天照大神には高天原を、月読命には夜の国を、そして素戔嗚尊には海原の国を治めるようにそれぞれ授けました。

兄弟の中で、素戔嗚尊だけは海原の国を治めず、やがて国から追放されてしまいました。素戔嗚尊は、去る前に姉の天照大神に話に行きました。天照大神は素戔嗚尊が来るのは、善良な心からではないだろうと疑いを持ちました。2柱は、意見が合わず、素戔嗚尊は次々と乱暴をはたらきました。天照大神の田の畔を壊し、神殿を汚しました。さらには、素戔嗚尊は馬の皮を剥ぎ、それを天照大神の神聖な機屋に投げ込んだのです。機織りの娘は、これを見て驚き死んでしまいます。これを知った天照大神は、恐れと悲しみのため洞窟の中に閉じこもってしまいました。天照大神は高天原の太陽の神であったので、全世界は、闇と混沌に包まれてしまいました。

天の岩戸の神話

艱難辛苦の末、八百万の神々が天安河原に集い天照大神を誘い出す相談を交わしました。まず、夜明けと共に鳴く雄鶏を集め、鳴かせてみました。次に、宝石の勾玉を繋げ、天の香具山から採ってきた材料で大きな鏡や白い布帛（ふはく）、青い布帛を榊に飾り、洞窟の前に取り付けました。そして、天兒屋根命が唄い始め、天鈿女命が華やかな舞を披露すると、その周りに集まった八百万の神々は喜び、大声で笑い出しました。

光を取り戻す

外の大騒ぎを聞いて、天照大神は不思議に思いました。洞窟の岩戸をほんの少しだけ開けて覗き、おっしやいました。「私がここにこもっているのに、高天原も地上界も暗黒であろうと思うのに、どうして皆笑っているのだろうか。」天鈿女命は「あなた様にもまさる尊い神がおいでになりますので、喜び笑って、歌舞しております。」と答えました。天照大神はこの策戦に反応し、不思議に思い、この尊い神が誰であるのかを見るために、岩戸をもう少し開けました。するとその姿が鏡に映り天照大神はちらりと見ました。洞窟の入り口のそばに隠れていた手力男命は、戸をつかむとそれを投げ飛ばしました。こうして、天照大神が岩天の屋戸から出てこられたので、高天原も地上界も太陽が照り、明るくなりました。

日の神の天照大神は天岩戸神社に祀られています。天照大神が隠れていたとされる天岩屋戸は、西本宮から拝覧することができます。西本宮から少し道に歩き、八百万の神々が集い神議されたと伝えられる天安河原の洞窟へもつながっています。現在は、ここを訪ねた多くの人お願いを込めながら、この河原に石を積み上げていくため、洞窟とその周辺では、積み石が見渡す限りに広がっています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】高千穂町観光協会

【整備予定媒体】WEB

<http://takachiho-kanko.info/en/sightseeing/>

できあがった英語解説文

Mythological Tale: “Tenson Korin”

(The story of the sun *kami*'s grandchild, Ninigi no Mikoto, and his descent to earth)

(Overview)

According to the *Kojiki*, Japan's oldest remaining chronicle, the sun *kami* deity Amaterasu Omikami sent her grandson, Ninigi no Mikoto, to rule the lands of Japan. He took with him three gifts, a jewel, a mirror, and a sword (which would later become the imperial regalia of Japan). It is written that Ninigi and his procession made their way through the heavens and descended at “Kushifurutake of Takachiho.” Upon arrival, Ninigi declared the land good, and so established there a grand residence. Kushifuru no Mine, the mountain believed to be the site of this descent, is where Takachiho's Kushifuru Shrine now stands. In Japanese mythology, the first emperor of Japan is Ninigi's great-grandson.

=====

“Ninigi no Mikoto,” the Grandson of the Sun Deity

Amaterasu, the sun *kami* and ruler of the Heavenly Realm, looked down upon the earth and saw that it was in terrible chaos. So, she sent heavenly deities below to bring order to the land. It took many years of trial and tribulation, but finally it was done. She then declared, “My child, Ameno Oshihomimi no Mikoto, shall rule this land.” However, when she approached her son and ordered him to descend from the heavens to assume his duty, Ameno Oshihomimi explained that he had now married and had children. Presenting to Amaterasu his son, Ninigi no Mikoto, he suggested that Ninigi be sent to govern the islands of Japan in his place. Amaterasu looked upon her grandson and was convinced.

“Tenson Korin,” the Descent of Ninigi

And so, Ninigi prepared to descend from the Heavenly Realm. He gathered the jewel (*Yasakani no Magatama*) and the mirror (*Yata no Kagami*) that helped lure Amaterasu from her the cave, as well as the sword (*Kusanagi no Tsurugi*) that Susano no Mikoto had taken from the tail of a great serpent and presented to Amaterasu, his sister. These three treasures would later become the Imperial Regalia of Japan.

Amaterasu instructed Ninigi to rule the islands of Japan in her honor, and to treat the mirror he carried reverently as an embodiment of her spirit. Preparations thus complete, Ninigi departed the Heavenly Realm with several *kami* deity

accompanying him in a procession. It is written that Ninigi led the way through the heavens, and that the procession descended to "Kushifurutake of Takachiho" in Hyuga, Tsukushi Province, an ancient province located in the northern part of modern Kyushu. Upon arrival, Ninigi declared the land good, and so built there for himself a grand palace of stout columns with a soaring roof.

Kushifuru Shine, which venerates Ninigi, was built in 1694 upon the mountain where he and his procession are believed to have arrived. Prior to this, the mountain itself (now known as Kushifuru no Mine) was considered to be a residence of *kami* deities and was thus considered sacred. In Japanese mythology, Ninigi's great-grandson becomes the first emperor of Japan, and so the mythological heavenly origins of Japan's imperial line are traced back through him.

The Origin of Takachiho

There exists another legend in the Takachiho area about Ninigi's descent to the islands of Japan. In this legend, Ninigi and his procession met an impenetrable fog on their way to earth and lost the way forward. At that moment, two inhabitants of earth named Ōkuwa and Okuwa appeared. They urged Ninigi to take rice from the stalks he held in his hand and scatter it over the land. Upon doing so, the fog lifted and Ninigi and his entourage were able to descend safely to islands of Japan (earth). The precious (Japanese: 高 "taka") rice Ninigi scattered from many (Japanese: 千 "chi") rice stalks (Japanese: 稲穂 "ina-ho") is said to be the mythical derivation of the town name Takachiho (高千穂). A statue at the foot of "Country Gazing Hill" (Kunimigaoka) commemorates this legend.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

神話「天孫降臨」

（天照大神の孫、瓊々杵尊(ににぎのみこと)とその降臨にまつわる神話）

(要旨)

日本最古の現存する歴史書である古事記によると、日の神の天照大神は、この地上界(水穂の国)を統治するために孫である瓊々杵尊を送ったとされています。瓊々杵尊は3つの贈り物、宝石、鏡、剣をたずさえていました（これは、のちに三種の神器とされます）。瓊々杵尊とその一行は、高天原から高千穂の久士布流多氣に天降ったと記されています。降臨の後、瓊々杵尊は、ここを素晴らしい土地と認め、立派な住居をかまえました。現在、くしふる神社のある、くしふるの峰の一つが天孫降臨の峯であると信じられてきました。神道信仰によれば、日本最初の天皇は、瓊々杵尊の曾孫であるとされています。

=====

太陽の神の天照大使の孫、瓊々杵尊

高天原の主宰神である天照大神は、地上界を眺めて大混乱が起きていると考えていました。天照大神は、まず地上界を平定させるために神々を送りました。混乱と困難を回復するために長い時間がかかりました。ついに秩序は整い、天照大神は「我が子、アメノシホミノミコトよ、あなたがこの国を治めなさい。」と言いました。ところが、アメノシホミ

ノミコトは、自分は結婚をして子どもが生まれたと伝えました。瓊々杵尊という息子を見せ、自分の代わりにこの子を地上統治のために降臨させるのが良いと提案しました。天照大神は、その孫を見つめ、納得しました。

「天孫降臨」瓊々杵尊が天降った

そして瓊々杵尊は、高天原から天降る準備をしました。瓊々杵尊が出発する前に天照大神は3つの神聖な品を瓊々杵尊に授けました。それが、天照大使を岩屋戸(英語では洞窟と表記)から誘い出した際に使った宝(八尺瓊勾玉)と鏡(八咫鏡)、そして素戔鳴尊が大蛇の体内(尾)から見つかって、姉である天照大使に託した神剣(草薙剣)です。これらが、のちの三種の神器となります。

天照大神は鏡を取り、これを私の御霊であると思い大切に敬い祀るように、そして御心に従い地上を治めるよう命じます。こうして瓊々杵尊は、三種の神器をたずさえ、高天原から天降りました。一行は、筑紫国(現在の福岡で古代日本の国)日向の高千穂、久士布流多氣に天降ったと書かれています。到着後、瓊々杵尊は、ここを素晴らしい土地であるとし、高くそびえる太い柱と垂木の立派な宮殿を建て、そこに住みました。

瓊々杵尊を祀るくしふる神社は、その一行とともに天降りたと信じられている峯に1694年に創建されました。それ以前は、この峯自体(現在のくしふるの峰)を神の住処とし、神聖なものとして崇拝していました。神道信仰において、瓊々杵尊の曾孫は日本の最初の天皇となり、そしてその神話の中で、瓊々杵尊を通して日本の皇室の起源を辿ることができます。

「高千穂」の由来

神話が伝えられると共に、高千穂には、もう一つ瓊々杵尊降臨にまつわる伝説があります。伝説によると、瓊々杵尊と一行が高天原から降りてきた時、先を見通すことのできない霧に覆われ、道を見失ってしまいました。その時、この地に住むオオクワとオクワという二人が現れました。そして瓊々杵尊が手に持たれている稲千穂を刎にして、あたり一面にまかれるようにと進言しました。すると霧は晴れ、瓊々杵尊と一行は、無事に地上界に降りることができました。

高千穂という名前の神話での由来は、瓊々杵尊が蒔いたたくさん(日本語:千“CHI”)の稲穂(日本語:稲穂“INAHO”)に尊い(日本語:高“TAKA”)という意味の高をつけて高千穂とするものです。国見ヶ丘の麓にある銅像がこの伝説を伝えています。

本事業以前の英語解説文

なし

1336

No.5 Local Legend: Meeting and Marriage of Sarutahiko no Mikoto and Ame no Uzume no Mikoto, Takachiho

<高千穂、宮崎>

【施設名】高千穂町観光協会

【整備予定媒体】WEB

<http://takachiho-kanko.info/en/sightseeing/>

できあがった英語解説文

Local Legend: Meeting and Marriage of Sarutahiko no Mikoto and Ame no Uzume no Mikoto

(A *kami* deity of the heavens marries a *kami* deity of the earth)

(Overview)

Japanese mythology states that the *kami* deity Ame no Uzume no Mikoto, whose dance helped restore light to the world, was sent as a representative to confront a massive earth *kami* deity named Sarutahiko no Mikoto at a crossroads in the heavens. She was in the entourage of Ninigi no Mikoto, the child of the *kami* of the heavens, descending to rule the islands of Japan. Takachiho legend says that Ame no Uzume and Sarutahiko married once all arrived safely to earth, and that they built a residence together near Kushifuru Peak. Today, Aratate Shrine honors them as *kami* deities of matrimonial happiness and fulfilled wishes.

=====

Journey of the Descent

It is written in both the *Kojiki* and the *Nihon Shoki*, two ancient texts recording the origins of Shinto, that as Ninigi no Mikoto descended to take up rulership of the islands of Japan, he and his procession came upon a massive *kami* deity at a vast intersection in the heavens. This *kami* was illuminating the heavenly realm above and the islands below. At the sight of the deity, Ninigi turned to Ame no Uzume no Mikoto. She is the deity whose dancing helped return light to the world by luring Ninigi's grandmother, the sun *kami* deity Amaterasu Omikami, out of hiding.

Confronting the Earthly Guardian

Ninigi said to Ame no Uzume, "You may be delicate, but you can face down any deity. That is why I bid you to approach that deity there and ask, 'Who is it that stands in our way?'" Heartened by Ninigi's words, Ame no Uzume confronted the large *kami* deity and asked his name. The deity answered, "I am an earthly *kami* named Sarutahiko no Mikoto. I am here because I heard a child of the heavens would like to descend to earth, and I thought I would serve as a guide." Ninigi accepted the offer and, with Sarutahiko's guidance, all arrived safely at Kushifuru Peak.

Marriage of Heavenly and Earthly Deities

According to Takachiho legend, this meeting was a once-in-a-lifetime encounter for the heavenly deity Ame no Uzume

and the earthly deity Sarutahiko. As soon as they reached earth, the two married with the blessing of Ninigi, and in a great rush gathered any wood they could find from the surrounding area to build a home. Today the Aratate Shrine, whose name references the raw, unseasoned timber (Japanese: “ara-ki”) from which their home was built (Japanese: “tate”), venerates them and their relationship.

Ame no Uzume is known as a *kami* deity of song, dance, and the performing arts. She is celebrated fondly in Takachiho through *kaqura*, the Shinto theatrical dance said to originate with her. Sarutahiko is known as a *kami* deity of guidance in travel and education. Together, she and Sarutahiko are *kami* deities of matrimonial happiness, fulfilled wishes, and creative pursuits.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

伝説「猿田彦命と天鈿女命の出会いと結婚」

（天つ神と国つ神の結婚）

（要旨）

日本神話において、舞で誘いだし、世界に再び陽をとり戻すのを助けた天鈿女命は、降臨の途中、天の八衢で出会った巨大国つ神の猿田彦命の元に、対面するように送られました。天鈿女命は、天つ神の子どもである瓊々杵尊が天孫降臨する際、お供をしていました。高千穂伝説によれば、猿田彦命が瓊々杵尊を無事に地上へ導くと、この二神は結婚しました。そうして、二神はくしふるの峰のそばに、住居を建てました。今日、荒立神社では、この二神を夫婦円満、そして所願成就の神として崇拝しています。

=====

降臨の旅

神道信仰の古い原点となる2冊の書、古事記と日本書紀の両方に記されています。瓊々杵尊が地上界を治めるために天降りする途中、瓊々杵尊と一行は、天の八衢に立つ、国つ神と出会いました。その神は高天原から葦原中国（英語では「日本」と表現）までを照らしていました。この光を見た瓊々杵尊は、天鈿女命に目を向けます。天鈿女命は、瓊々杵尊の祖母である天照大神が隠れた際、舞で誘いだし世界に陽を取り戻した神です。

国つ神との対面

瓊々杵尊は、天鈿女命に「あなたはか弱いではあるが、向き合った神に対して、気後れせずに圧倒できる神です。だから、あなたが行ってその神に向かって『天つ神御子の天降りする道に、出ているのは誰か』と尋ねなさい。」と言われます。瓊々杵尊の言葉に励まされ、天鈿女命は、その容姿の大きな神に向かって名を尋ねます。その神は、「私は国つ神で、名は猿田彦命と言います。私がここにいる訳は、天つ神の御子が天降って来られる、と聞きましたので、先導の役をしたいと思い、迎えに来ました。」と答えます。瓊々杵尊と一行は、猿田彦命の導きにより、無事にくしふるの峰に到着しました。

天つ神と国つ神の結婚

高千穂伝説によると、この天つ神、天鈿女命と国つ神、猿田彦命の出会いがかけがえのない巡り合わせでした。二神は、地上界に着くと、瓊々杵尊の祝福の元ですぐに結婚しました。そのため急いで周りにある荒木を集め、新居を建てました。現在の荒立神社は、名前を、切り出したばかりの荒木（日本語の『荒木』）で家を建てた（日本語の『建』）ことに由来し、二神とその結びつきを尊崇しています。

天鈿女命は、歌、舞、芸能の神として知られています。天鈿女命は神楽を通して、高千穂で深く崇拝されており、天鈿女命の舞から始まった神道舞踊が、神楽の起源といわれています。猿田彦命は、中でも交通安全、教育の神として知られています。これら二神によって縁結び、夫婦円満、所願成就、芸能のご利益があるとされています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】高千穂町観光協会

【整備予定媒体】WEB

<http://takachiho-kanko.info/en/sightseeing/>

できあがった英語解説文

Legend Mikeiri no Mikoto and Kihachi

(An imperial son defeats a fearsome *kami*)

(Overview)

In the ancient *Nihon Shoki (Chronicles of Japan)* it is written that Mikeiri no Mikoto, the older brother to the first emperor of Japan, was lost at sea while heading to the east of Japan. However, Takachiho legend says that Mikeiri was not lost but instead returned to his hometown of Takachiho, and that upon his return, he battled and vanquished a fearsome deity named Kihachi. Kihachi had terrorized the local populace and seemed undefeatable. However, after a fierce battle, Mikeiri cut Kihachi up and buried him in three pieces, putting him to rest.

The Kihachi legend is a well-known one in Takachiho to this day, and traces of it can be found around the Takachiho area. Every year, Takachiho Shrine hosts the Boar Offering Festival to appease Kihachi's spirit so he does not rise to cause trouble again.

=====

Saving Princess Unome

It is said that long ago, a fearsome *kami* deity named Kihachi lived in a cave on Mt. Futagami. He descended the mountain to terrorize the people of Araragi Village, and thereafter, kidnapped Princess Unome and hid away in Oniga Iwaya cave.

Mikeiri no Mikoto, older brother to the first emperor of Japan, and a renowned warrior, had returned to his hometown Takachiho, and while crossing Takachiho's Gokase River spotted a beautiful woman reflected in the surface of a pond. He was immediately captivated. This reflection was of Princess Unome, and it revealed to him a terrible problem: Kihachi had stolen her to marry against her will. Moved by this plea for help, Mikeiri decided to vanquish Kihachi. Gathering forty-four vassals, he raided Kihachi's cave.

Fighting the Fearsome Kihachi

A fierce battle commenced, and Kihachi's strength proved formidable. Mikeiri managed to defeat Kihachi, but this was not the end. After a single night, Kihachi's buried remains returned to life, and he rose from the earth in a rage. At their

next battle, Mikeiri divided Kihachi into three parts—head, torso, and limbs—and buried them in separate places. This, at last, saw to it that Kihachi did not rise again. Mikeiri then married the rescued Princess Unome, and together they had eight children. His descendants are said to have ruled over Takachiho.

Legendary Sights in Takachiho

The physical remnants of this legend can be found around Takachiho today. Several are near Takachiho Gorge, including Nanatsuga Pond, where Mikeiri is said to have first seen Princess Unome, and the Stone of Kihachi's Might (Chikara Ishi), a 200-ton rock Kihachi is said to have hurled during that first battle. The three spots where Kihachi's parts are buried, indicated with stone monuments, can be visited. Kihachi's head is near Solest Takachiho Hotel, his torso is 50 meters west of Ryokan Shinsen, and his limbs are at the remains of Awaji Castle behind Takachiho High School.

As for the legend today, it is said in Takachiho that although Kihachi has been vanquished, his vengeful spirit sometimes rouses, bringing early frost to ruin crops. So, Takachiho Shrine holds an annual festival to placate Kihachi. A boar is offered, and Shinto priests chant a special song to put Kihachi to sleep. *Kagura*, a theatrical Shinto dance, is also performed. The festival is called the *Shishikake* (Boar Offering) Festival, and it is held on the third day of the twelfth month of the lunar calendar, which is in January most years.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

伝説「三毛入野命の帰還と鬼八伝説」

(皇子、荒神退治の伝説)

概要

神道信仰の原点が綴られている古い歴史書である、日本書紀（古代日本書）において、日本の初代天皇の兄の三毛入野命は、東征の途中、荒海で亡くなったと書かれています。しかし、高千穂伝説によれば、三毛入野命は、命を落とすことなく高千穂の国に帰還し、荒神・鬼八と戦い退治しました。鬼八は村人を苦しめてきた難攻不落の神です。しかし、厳しい戦いの末、三毛入野命は鬼八が二度と蘇ることのないように、三つに切って別々に埋めました。

これが現在まで、高千穂で有名な伝説の一つです。今も高千穂の周りには、この伝説の跡があちこちに残っています。毎年、高千穂神社では鬼八の祟りを鎮め、二度と悪行を働かないように「猪掛祭」が執り行われています。

=====

鶺鴒姫を助け出す

その昔、荒ぶる神・鬼八は、二上山の洞窟に住んでいたと言われています。鬼八は、山を降りては、あらゆる村人に悪行を行い、鶺鴒姫をさらって鬼ヶ岩屋にかくまっていました。

ある日、高千穂の国に帰還してきた日本の初代天皇の兄で有名な武士の三毛入野命が五ヶ瀬川を渡っていると、池のほとりの水鏡に美しい姫の姿が映っているのを見かけ、心を奪われてしまいます。この姫こそが鶺目姫であり、鬼八に無理やり連れてこられ、妻にさせられた、と知らされました。鶺目姫を助けたい一心で、三毛入野命は、鬼八を退治することに決め、四十四人の家来を集め、鬼八の洞窟に攻め入る準備をします。

荒神・鬼八との戦い

厳しい戦いが始まり、鬼八の強さと回復力ははかりしれません。三毛入野命が何度打ち負かしても鬼八は息を吹き返します。たとえ鬼八の亡骸を埋めても、たった一晩で鬼八は立ち上がり、岩を動かし、大声で荒れ狂うのです。そのため三毛入野命は次の戦いに鬼八の体を三つに切って、頭、胴、手足とバラバラに埋めました。ついに鬼八は、再び蘇ることができなくなりました。鬼八が退治され、三毛入野命は鶺目姫をめとり、8人の御子を育て上げます。そして子孫代々この高千穂を治めてきたと言われています。

高千穂にある伝説の跡

高千穂の町では、伝説にまつわる数多くの聖跡を目にすることができます。高千穂峡の近くにも、三毛入野命が初めて鶺目姫に出会ったとされる七杓池、三毛入野命との戦いで鬼八が三毛入野命に投げたとされる200トンの石「鬼八の力石」などがあります。鬼八が切られて埋葬したといわれる3つの鬼八塚も訪れることができます。首塚はソレスト高千穂ホテルのそば、胴塚は旅館神仙西50mのところ、そして、手足塚は高千穂高校の裏手にある淡路城跡にあります。

この伝説は、今も高千穂で生きつづけています。鬼八は退治されても、その怨念は深くたびたび祟りが出て、早霜が降り、作物に被害を与えたといわれています。そこで毎年、三毛入野命、鶺目姫とその子孫が祀られている高千穂神社で、鬼八の魂を鎮めるために猪を供えてお祭りが執り行われます。神官たちは「鬼八眠らせ唄」を歌い、祭りのために歌舞、神楽を奉納します。このお祭りは、「猪掛祭」と呼ばれ、旧暦の十二月三日に行われています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】高千穂神社

【整備予定媒体】WEB

<http://takachiho-kanko.info/en/sightseeing/>

できあがった英語解説文

Takachiho Shrine

Takachiho Shrine is one of the most important shrines in the area, as it serves as the representative shrine of all eighty-eight shrines in the eighteen neighborhoods of the Takachiho area. It is said to date back over 1,900 years.

The first three mythological generations of Japan's imperial line are honored at Takachiho Shrine. This includes the *kami* deity Ninigi no Mikoto, the first ruler of the earth and grandson of the sun *kami* deity Amaterasu. The shrine reveres Mikeiri no Mikoto, a direct descendant of Ninigi and an older brother of Japan's first emperor. Mikeiri is considered locally to be the first governor of Takachiho. In local legend, he saved the inhabitants of the area by defeating the fearsome *kami* deity Kihachi who terrorized them. Mikeiri has thus long been thought to ward off misfortune.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

高千穂神社

高千穂神社は、この地域で最も重要な神社で、高千穂 18 郷 88 社の総社です。1900 年の歴史があるといわれています。

高千穂神社は、日の神の天照大神の孫で地上界を治めた瓊々杵尊から始まる、日本の皇室の祖である最初の三世代の夫婦神を祀っています。

また、瓊々杵尊の直系であり、日本の初代天皇の兄にあたる三毛入野命も祀られています。地元では、三毛入野命は高千穂を統治したと考えられています。地元の伝説によると、三毛入野命は、村人を苦しめていた荒神鬼八を退治し、救ったと伝えられています。このように三毛入野命は禍から守ってくれると考えられてきました。

本事業以前の英語解説文

With a history stretching back some 1800 years, Takachiho Shrine is the most important Shinto shrine in the area and enshrines the deities of the other 88 main local shrines.

The Main Hall and a pair of iron guardian dog statues in the shrine collection are designated as Important National

Cultural Properties.

Dedicated to the deities Takachihosumegami and Jisshyadaimyoujin, Takachiho Shrine is widely believed to be an excellent site to pray for good harvests, lifting of bad luck, and marriage prospects.

Takachihosumegami is the joint name for three generations of a line of deities, also known as the Himuka or Hyuga Sandai. Jisshyadaimyoujin is a combination of ten different deities including Mikeirino-mikoto.

1339

No.8 Main Sanctuary, Takachiho Shrine

<高千穂、宮崎>

【施設名】高千穂神社

【整備予定媒体】WEB

<http://takachiho-kanko.info/en/sightseeing/>

できあがった英語解説文

Main Sanctuary

The existing Main Sanctuary of Takachiho Shrine was rebuilt in 1778. It was made in an architectural style for shrines characterized by a five-bay sanctuary (*gokenshazukuri*). This is one of the largest examples of this construction style in the Kyushu region. The Main Sanctuary was nationally recognized as an Important Cultural Property in 2004.

On the right-side wall of the Main Sanctuary, there is a carving said to depict the local legend of Mikeiri no Mikoto, the older brother to Japan's first mythological emperor, destroying the fearsome *kami* deity Kihachi. According to the legend, Mikeiri returned to his hometown of Takachiho to live and govern after his younger brother became emperor. There, he vanquished the tyrant Kihachi who had been terrorizing the people of the village. He did so by cutting him into three pieces and burying them in separate locations in the area. He also rescued Princess Unome from Kihachi and married her. Together, they had eight children.

In the Takachiho area, Mikeiri is associated with defeating malevolent *kami* deities that harass the mountain farming villages, and so considered a patron of industry and a divine protector against misfortune. Mikeiri, his legend, and his family are all honored at Takachiho Shrine.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

本殿

現在の本殿は、1778年に再建されており、五間流造（正面の柱間が五間ある神社の建築様式）で九州を代表する大規模な本殿建築です。2004年、国の重要文化財に指定されました。

本殿右側の壁には、日本最初の天皇の兄であり、荒神鬼八を退治したとされる、三毛入野命の地元伝説を描いた彫刻があります。伝説では、三毛入野命は、弟が天皇になった後、故郷の高千穂を治めるために戻ってきたと信じられています。それから村人に恐れられていた暴君鬼八を退治しました。さらに鬼八を三つに切り、この地域で別々の場所に埋めました。また、鬼八に捕らえられていた鶺鴒目姫を助け、結婚し、二神は8人の御子をお生みになりました。

高千穂地域では、三毛入野命は、山に住む村人に悪行を働いてきた荒神と長く戦い平らげたので、農産業・厄祓の

神として考えられています。三毛入野命、その伝説と彼の家族は、高千穂神社で深く敬慕されています。

本事業以前の英語解説文

なし

1340

No.9 Meoto Cedars (“The Married Cedars”), Takachiho Shrine

<高千穂、宮崎>

【施設名】高千穂神社

【整備予定媒体】WEB

<http://takachiho-kanko.info/en/sightseeing/>

できあがった英語解説文

Meoto Cedar Trees (“The Married Cedars”)

These two cedars grow from intertwined roots, representing mutual dedication similar to that of a married couple. Local belief says that visitors who circle the trees three times hand in hand with someone they love will both be blessed with a harmonious relationship, a peaceful home, and a wealth of children. The task of walking around the trees should not be taken lightly, however, as they are surrounded by gnarled roots. It is said that people who stumble will receive no blessings at all.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

夫婦杉

この二本の杉は、根元が一つになっていて、夫婦のような繋がりを表しています。地元信仰では、愛する人と手をつないで、この廻りを三回廻るとその二人は仲睦まじく、家内安全で子孫は繁昌すると伝えられています。しかし木の根が張り出しているため、足元に気をつけて廻るようにしないとなりません。万が一転ぶと、なんのご利益も受けられなくなってしまうといわれているからです。

本事業以前の英語解説文

なし

1341

No.10 Chichibu Cedar and Kagura Hall, Takachiho Shrine

<高千穂、宮崎>

【施設名】高千穂神社

【整備予定媒体】WEB

<http://takachiho-kanko.info/en/sightseeing/>

できあがった英語解説文

Chichibu Cedar Tree

This massive tree stands at 55 meters tall with a 9-meter circumference and is well over eight hundred years old. It is said that the Chichibu Cedar was planted by the famous warrior Hatakeyama Shigetada (1164–1205) when he was sent by the first shogun of Japan, Minamoto no Yoritomo (1147–1199), to pray for nationwide peace and tranquility at Takachiho Shrine. At the time, Shigetada planted two trees, but only this one remains. The second tree was felled by a typhoon in 1992, and the funds from selling it as raw material were used to build the new Kagura Hall. The name of the remaining tree, “Chichibu Cedar,” is believed to derive from the name of Shigetada’s hometown, Chichibu.

Kagura Hall

The newly restored Kagura Hall was opened in 1996. It now hosts *kagura* performances nightly at 8 pm year-round.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

秩父杉

この巨大な木は、高さ 55m、最大幹周 9m、樹齢 800 年以上とされています。知勇兼備の武将として有名な畠山重忠(1164–1205)が將軍源頼朝(1147–1199)の命により、国の平和と靖寧を願って送ったと伝えられています。畠山重忠は、高千穂に二本の杉を植えましたが、そのうち一本が残っています。もう一本は、1992 年の台風によって倒れてしまい、その巨木を売ったお金は古い建物の代わりに新しい神楽殿の建築に使われました。「秩父杉」の名前は、畠山重忠の故郷、秩父に由来すると伝えられています。

神楽殿

新しい神楽殿は、1996 年に開館されました。毎晩夜 8 時より年間を通して神楽の公演を行っています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】高千穂神社

【整備予定媒体】WEB

<http://takachiho-kanko.info/en/sightseeing/>

できあがった英語解説文

Ironwork Guardian Dogs (Komainu)

These precious ironwork guardian dogs were dedicated to the Takachiho Shrine by the first shogun of Japan, Minamoto no Yoritomo (1147–1199), during the Kamakura period (1185–1333). They were designated as a National Important Cultural Property in 1971 due to their age and cultural value. Originally, the dogs sat on either side of the shrine's entrance to protect against malevolent spirits.

Foundation Stone (Shizumeishi)

This stone is thought to have been used as a foundation stone long ago when the Takachiho Shrine was originally built by order of the eleventh emperor of Japan. Its presence served to appease earth spirits of the ground on which the shrine was built. Today it is a key element of the shrine grounds, and has become a site for praying to ease one's worries and find peace. Some say that spiritual energy can be felt emanating from it.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

鉄製狛犬

この非常に珍しい鉄製の狛犬一対は鎌倉時代（1185-1333）、初代将軍源頼朝(1147-1199)によって高千穂神社に奉納されました。この歴史的で文化的な価値を誇るために、1971年に国の重要文化財に指定されました。狛犬は、もともとは魔除けのために神社の入り口両脇に置かれていました。

鎮石

昔、高千穂神社が、第11代天皇によって初めて創建された時、この石が鎮石として用いられたと伝えられています。神社が建てられた地の霊を和らげるために置かれました。

現在、この鎮石は、境内の要となっています。石からエネルギーが出ているのが感じられ、この石に祈ると人の悩みや世の乱れが鎮められるといわれています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】くしふる神社

【整備予定媒体】WEB

<http://takachiho-kanko.info/en/sightseeing/>

できあがった英語解説文

Kushifuru Shrine

Kushifuru Shrine is dedicated to the *kami* deity Ninigi no Mikoto, or Ninigi, the grandson of the sun *kami* Amaterasu Omikami. According to Japanese mythology, Amaterasu charged Ninigi with the rule of the islands of Japan, and so he descended from the heavenly realm in a procession of *kami* deities. In 1694, a shrine to honor these deities was built on the mountain where they are believed to have arrived. Prior to this, the mountain itself was considered a residence of divine presence, and was thus venerated as sacred. Ninigi is a significant deity in Japanese mythology, as he is the mythical great-grandfather of the first emperor of Japan, and the mythological origins of Japan's imperial line are traced back through him.

Nature trails around Kushifuru Shrine lead to various sacred and mythological landmarks in the surrounding area. These include “The Peak of the Four Imperial Sons (*Shiojigamine*),” “The Far Precinct of the Heavenly Realm (*Takamagahara*),” “The Takachiho Monument (*Takachibo-hi*),” and “The Fudoki-Man'yo Hill.”

Kushifuru Peak

It is written in the *Kojiki*, Japan's oldest extant chronicle and collection of myths, that the sun deity Amaterasu directed her grandson Ninigi to descend from the heavenly realm and govern the earth. He did just that in a great procession of *kami* deities, and arrived at Kushifuru Peak. This myth is known as *Tenson Korin* (translated as “The Descent from the Heavens”). A shrine to honor Ninigi was established on the Takachiho mountain referred to today as Kushifuru no Mine (Kushifuru Peak). In the Takachiho area, this mountain is believed to be the location of Ninigi's divine arrival, and before a shrine was built, the mountain itself was considered a residence of the *kami* deities and therefore sacred ground.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

穂觸神社（くしふる神社）

(要旨)

くしふる神社は、天照大御神の孫である瓊々杵尊が祀られている神社です。日本神話によると、天照大御神の命により瓊々杵尊は、豊葦原・瑞穂国を鎮めるために多くの神々を従え、天降られたと伝えられています。1694年には、神々が降臨されたと信じられているこの峰に社殿を建立しました。古くは、社殿はなく山そのものをご神山として崇めていました。瓊々杵尊は、神話の代表的な神の一人であり、日本の初代天皇の曾祖父でもあります。そして日本の皇室の起源は瓊々杵尊を通してたどることができます。

くしふる神社周辺は、神話史跡コースの遊歩道が整備されています。「四皇子峰」「高天原遥拝所」「高千穂碑」「風土記・万葉の丘」などがあります。

穂觸の峰(くしふるのみね)

日本の古い歴史書でもあり日本神話の元とも言える古事記の中に、その昔、天照大御神が、孫である瓊々杵尊にこの地上を治めるために遣わしたとあります。天から瓊々杵尊は他の神々と共にくしふるの峰に降臨しました。これが天孫降臨です。その降臨の地と思われる高千穂地域の山中に神社が建立されました。今のくしふるの峰です。神社が建てられる前は、山そのものを神と崇めていました。

本事業以前の英語解説文

The shrine is on the Kushifuru summit where, according to legend, the first deity descended from the heavens to the Japanese islands.

In ancient times the Kushifuru summit itself was revered as an object of worship. The shrine was erected in 1694.

1344

No.13 Main Sanctuary, Peak of the Four Imperial Sons (Shiojigamine), and the Far Precinct of the Heavenly Realm (Takamagahara), Kushifuru Shrine

<高千穂、宮崎>

【施設名】くしふる神社

【整備予定媒体】WEB

<http://takachiho-kanko.info/en/sightseeing/>

できあがった英語解説文

Main Sanctuary (Honden)

Kushifuru Shrine was built in 1694 on Kushifuru Peak, long believed to be the sacred site of the descent of certain *kami* deities to earth. It is dedicated to Ninigi no Mikoto, who was entrusted with the rule of Japan according to Japanese myth. Other *kami* are also revered here, including Takemikazuchi, the martial *kami* whose “contest of strength” is fabled to be the origin of Japan’s national sport, sumo.

The Main Sanctuary’s intricate wood carvings were created by artisans of the seventeenth and eighteenth centuries. The inclusion of phoenix and dragon motifs shows a strong influence from Chinese mythology.

Peak of the Four Imperial Sons (Shiojigamine)

According to Takachiho area legend, this location was the birthplace and residence of the mythological first emperor of Japan, Emperor Jimmu, and his three older siblings, Itsuse no Mikoto, Inahi no Mikoto, and Mikeiri no Mikoto. Emperor Jimmu is said to have lived here until he set out for the ancient Yamato Province (present-day Nara Prefecture) at age 45. His military efforts laid the foundations for the Japanese imperial dynasty.

In Japanese mythology, the four imperial sons were direct descendants of Ninigi no Mikoto, who descended from the heavens to bring order to Japan, and are considered *kami* deities themselves. They appear in mythological episodes and local legends. One well-known Takachiho legend, for example, features Mikeiri, who aided the local people by defeating the fearsome *kami* deity Kihachi and burying him in pieces. The site where the four brothers are said to have been born is fenced off as a sacred area.

Far Precinct of the Heavenly Realm (Takamagahara)

It is said that, after their descent to earth, the *kami* deities climbed atop this hill and prayed to the heavens from afar. This area is now considered a spiritual spot that connects heaven and earth, where visitors can honor these *kami*

deities at the small shrine located here.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

本殿

くしふる神社は 1694 年に、穂觸の峰に社殿が建立され、長く神々が天降った神聖な場所と信じられてきました。日本神話によると初めて地上を治めたとされる瓊々杵尊が祀られています。その他の神も祀られて、中には武甕槌命(たけみかづちのみこと)らが力比べをした故事が相撲の始まりと伝えられています。

本殿に施された彫刻は、17 世紀と 18 世紀の職人によるものです。鳳凰や龍を含む彫刻は、中国神話の影響の大きさを表しています。

四皇子峰（しおうじがみね）

高千穂地方の伝説によると、この場所は、日本の最初の天皇である神武天皇と三人の兄弟である、五瀬命(いつせのみこと)、稲飯命(いなひのみこと)、三毛入野命(みけいりのみこと)の皇子が生まれ育ったところされています。神武天皇は、45 歳の時に大和の国（現在の奈良県）へ征服に向かうまで、ここで過ごしていたと考えられています。以来、神武天皇の軍事力の成果が日本皇帝時代の基盤をなしています。

日本神話によると、四皇子は、この地上を治めるために天降った瓊々杵尊の子孫であり、皇子たちも神であるとみなされています。四皇子は日本神話や地元の伝説にも登場します。高千穂の有名な伝説の一つに、三毛入野命が鬼八という悪神を退治し、ばらばらにして葬り人々を助けたと言う話があります。ここは神である四皇子の生誕の地であり御聖域とされ、俗世からは隔たりがありました。

高天原遥拝所（たかまがはらようはいしよ）

天孫降臨の後、神々はこの丘に立って遠くから天に向かって祈りを捧げたとされています。この地域は今も天と地を結ぶ神聖な場所とされ、ここの小さな神社で神々に敬意を表し祈る人もいます。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】天岩戸神社

【整備予定媒体】WEB

<http://takachiho-kanko.info/en/sightseeing/>

できあがった英語解説文

Amano Iwato Shrine

Amano Iwato (Heavenly Stone Cave) Shrine is a shrine dedicated to Amaterasu Omikami, the sun *kami* deity who rules the heavens. The shrine has two separate sanctuaries: the West Sanctuary (Nishi Hongu) and the East Sanctuary (Higashi Hongu). The West Sanctuary honors Amaterasu as she was known in her childhood, under the name of Ohirume no Mikoto. It marks the location believed to be described in a famous Japanese myth in which Ohirume (Amaterasu) hid herself in a cave, plunging the world into darkness, and was lured back out with a staged festival hosted by the *kami* deities of the Heavenly Realm. A short trail from the West Sanctuary leads to a riverside cave called Amano Yasukawara, where the *kami* deities of the Heavenly Realm are thought to have gathered to plan how to lure Amaterasu out of hiding.

The East Sanctuary, on the other hand, enshrines Amaterasu as she is known following her re-emergence from hiding, honoring the place where Amaterasu is thought to have once resided on earth.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

天岩戸神社

天岩戸神社は、天高原の神、天照大神を祀る神社です。西本宮と東本宮の二つの神社があります。西本宮では天照大神の幼少期の名前であるオオヒルメノミコトとしてお祀りしています。日本神話の中で、オオヒルメノミコト（天照大神）が天の岩戸屋にお隠れになり、世界が暗闇に包まれたとき、天照大神を誘い出すために八百万の神々が歌舞を繰り広げたとされる場所をお祀りしています。また西本宮からほど近くに、八百万の神々がどのように天照大神を誘い出したらいいか、神議したとされる天安河原もあります。一方、東本宮は、天照大神がお出ましになられた後、お住まいになられたとされる場所をお祀りしています。

本事業以前の英語解説文

This shrine venerates the nearby site of the Amanoiwato or "holy rock cave" where, according to Japan's oldest chronicles, the Kojiki and Nihon Shoki, the sun goddess Amaterasu hid herself when she was angered by the violence of her brother Susano-o.

On the opposite bank of the Iwato River is the Higashi Hongu or East Shrine, dedicated to the sun goddess Amaterasu.

【施設名】天岩戸神社

【整備予定媒体】WEB

<http://takachiho-kanko.info/en/sightseeing/>

できあがった英語解説文

East Sanctuary (Higashi Hongu)

The East Sanctuary became a part of Amano Iwato Shrine in 1970. Before this, it was known as Ujigami Shrine. Amaterasu Omikami is venerated here, as this is the first place she was believed to have resided after re-emerging from Amano Iwato cave. It is uncertain how long a shrine has been present on this site, but it is said that an existing shrine was rebuilt here in 812 by the military commander Oga Koremoto (dates unknown), who had a dream that so frightened him he dedicated himself to the worship of Amaterasu. The shrine was rebuilt again in 1707, because the structure had burned down while the nation was gripped by civil war over a century earlier.

A rotating statue of Ame no Uzume no Mikoto, the *kami* deity whose dancing helped lure Amaterasu out of hiding, is near the foot of the path that ascends to the Main Sanctuary.

Far Precinct and West Sanctuary (Nishi Hongu)

While the East Sanctuary honors Amaterasu Omikami as she is known after she re-emerges from the sacred cave, the West Sanctuary honors her as she was in her childhood. During this time, Amaterasu was known as Ohirume no Mikoto. The Sanctuary venerates her through an embodiment: the believed location of Amano Iwato, the cave where Amaterasu once hid herself and her light from the world. Amano Iwato is considered sacred, so it cannot be approached directly, but during guided tours it can be viewed from the Far Precinct, which directly faces it across the river.

Before entering the Far Precinct, one might notice a large magnolia tree called the *ogatamanoki*. This tree was designated a natural monument in 1969. It is said that the deity Ame no Uzume held branches from this tree as she danced in front of Amaterasu's cave. The bells used in the theatrical Shinto dance *kagura* are thought to derive from the shape of the red fruit that blossoms from *ogatamanoki* in the autumn.

Near the parking lot of the West Sanctuary is a statue of Tajikarao no Mikoto, a *kami* deity of great strength. According to Japanese mythology, he helped bring light back to the world by throwing open the door to Amaterasu's

cave when she peeked out. This statue depicts his great feat, which is often demonstrated in *kagyura* performance.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

東本宮

東本宮は、1970年に天岩戸神社の一部となりました。以前は、「氏神社」として知られていました。天照大神がここで祀られおり、天岩戸からお出ましになられてから、初めてお住まいになられた場所と信じられています。この場所にどのくらい前から、神社があったのかは確かではありませんが、武将、大神惟基が悪夢に恐れて、天照大神を深く崇敬し、812年に東本宮社殿を再興したと伝えられています。社殿は、戦国時代にたびたび焼失していて、その後1707年に再興されました。

天照大神がお隠れになったのを誘い出すために、舞をした天鈿女命の踊る像は、東本宮へ登る参道の麓近くに一つあります。

遥拝所/西本宮

東本宮は、天岩戸からお出ましになられた後の天照大神をお祀りしていますが、西本宮は、ご幼少の頃の天照大神を崇めています。この頃、天照大神は、オオヒルメノミコトとして知られていました。そしてオオヒルメノミコト自身ではなく、日本神話による、世界が暗闇に包まれた時、天照大神がお隠れになったとされる天岩戸をご神体としてお祀りしています。天岩戸は、神聖なものと考えられているため、直接拝むことはできませんが、神職さんのご案内により、川を挟んで正面にある天岩戸を遥拝所から参拝することができます。

遥拝所に入る前に、1969年に天然記念物に指定された大きな招霊の木と呼ばれるモクレン科の木を目にすることができます。天鈿女命が、天照大神を天岩戸から誘い出すために歌舞をした時に持っていたのが、この招霊の木の枝だといわれています。神道歌舞である神楽で使われる鈴は、秋に招霊の木になる赤い果実の形に由来すると考えられています。

西本宮の駐車場の近くに手力雄命の像があります。神話において、天照大神が天の岩屋戸から顔をのぞかせた時、手力雄命が岩戸を投げ飛ばし、それにより世界に明るさが戻りました。この像は、神楽の中でも見ることのできる手力雄命の偉業をも表しています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】天岩戸神社

【整備予定媒体】WEB

<http://takachiho-kanko.info/en/sightseeing/>

できあがった英語解説文

Amano Yasukawara

About a ten-minute walk along the Iwato River from the West Sanctuary is the riverside Amano Yasukawara cave. This is where the many *kami* deities of the Heavenly Realm are believed to have discussed how to lure the sun deity Amaterasu out from hiding and return light to the world. It was here the deities decided to create a festive atmosphere.

In the past, there was only a small shrine here and no path, but now there is both a large shrine and a shrine gateway. At some point, visitors began to stack stones around the cave floor as a form of wish-making. The stone stacks have grown tall, creating an atmosphere that feels spiritual. It is important for visitors to remember that these high piles of stones are precious prayers, and to tread the area carefully.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

天安河原

西本宮から岩戸川沿いを歩いて 10 分ほど行くと、天安河原の洞窟があります。日本神話においてここは、天照大神が天の岩屋戸にお隠れになった時に、八百万の神々が集まり、天照大神を誘い出してこの世に光を取り戻すための神議をしたとされる洞窟です。神々はここで歌舞をすることを決めました。

昔、ここには、小さな神社があるだけで、道はありませんでしたが、現在は大きな神社とそれに続く入り口があります。いつの頃からか、訪れた人が洞窟の周りにある石に願いを込めて積み始めました。現在では辺り一面に限りなく積まれた石により、訪れた人の無数の願いが天安河原の神聖性を高め、神秘的な雰囲気を一層引き立てています。これらの高い石の積みは訪ねた人の想いが込められたものなので、このエリアの中の足元を充分気を付けるように心がけましょう。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】荒立神社

【整備予定媒体】WEB

<http://takachiho-kanko.info/en/sightseeing/>

できあがった英語解説文

Aratate Shrine

Aratate Shrine is dedicated to the two *kami* deities, Ame no Uzume no Mikoto and Sarutahiko no Mikoto, and celebrates their marriage to each other. Ame no Uzume is known as a deity of song, dance, and the performing arts. Sarutahiko is known as a deity of guidance in travel and education, among other things. Together, they are *kami* deities of matrimonial happiness and fulfilled wishes.

The nature of this shrine draws followers with creative aspirations, including some well-known actors and actresses. Many who seek guidance in their careers or love life come here to pray and consult the priest.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

荒立神社

荒立神社には、天鈿女命と猿田彦命の二神が祀られています。また彼ら二神が結婚して住まわれた地とされています。天鈿女命は、歌、舞、舞台芸術の神としても知られています。猿田彦命は、中でも交通安全、教育の神として知られています。これら二神によって夫婦円満、所願成就のご利益があるとされています。

特にこの神社は、とても有名な俳優、女優など、芸道を極めようとする人々から篤い信仰を集めています。芸能と縁結びのご利益を求めて、また宮司さんに相談をするためにたくさんの方がお参りしています。

本事業以前の英語解説文

Aratate Shrine

According to legend, this was the wedding and dwelling site of Sarutahiko and the goddess Amenouzumeno-mikoto, who guided Ninigino-mikoto during his descent from the heavens on the order of his grandmother Amaterasu. The shrine for their marriage ceremony was hurriedly built from rough logs, and this is the origin of the name Aratate, literally “rough built.”

【施設名】荒立神社

【整備予定媒体】WEB

<http://takachiho-kanko.info/en/sightseeing/>

できあがった英語解説文

Prayer Hall (Haiden)

Inside the prayer hall are two paintings that express the essence of this shrine.

One depicts the *kami* deity Ame no Uzume during a renowned performance. In a famous mythical tale, her dancing helped lure the sun *kami* out of hiding, saving the world from eternal darkness. This performance is said to be the origin of the Shinto theatrical dance, *kagura*, performed in Takachiho.

The second painting depicts the first meeting of Ame no Uzume and Sarutahiko. In Japanese mythology, the two are said to have met at a crossroads in the heavens. Sarutahiko, a massive earth *kami* deity, stood in the path of a procession of *kami* deities from the heavenly realm as they descended to govern the islands of Japan. Ame no Uzume, a heavenly deity said to be delicate but bold, confronted Sarutahiko to ask his name. It was then that Sarutahiko offered to guide the group of deities to earth.

Takachiho legend says that the couple was so struck by this first meeting that they decided to marry at once. In a rush (in Japanese: “ara-i”), they gathered up materials from the surrounding area, including raw and unseasoned timber (in Japanese: “ara-ki”), and built (in Japanese: “tate”) their new home. As a result, Aratate Shrine derives its name from the immediacy of their union and the crude materials of their residence.

Striking Boards (Bang)

Various hanging wooden boards can be found around the shrine grounds, especially along the paths and within the grove. Mallets are provided, and it is said that hitting these boards seven times can bring about certain good fortunes. The *shichifukutokuju* board near the entrance may grant visitors’ deepest desires if they put their heart into each strike. Others may bring healing, opportunity, or love.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

拝殿

拝殿の中には、この神社の特徴を表す 2 枚の絵が掛けてあります。

1 枚目の絵には、天鈿女命の最も有名な舞が描かれています。有名な神話で、天照大神が岩戸に隠れ、全世界が永遠の暗黒に包まれた際に、天鈿女命の舞い踊りに天照大神が誘われ出て、再び世界に光が戻ったというものです。この天鈿女命の舞が高千穂で行われる神道歌舞、神楽の起源とされています。

2 枚目の絵には、天鈿女命と猿田彦命の初めての出会いが描かれています。日本神話によると、この二神は、天上で出会ったと記されています。高天原から天孫降臨する際、神の一行の行く手に立っていたのが、国津神の猿田彦命でした。か弱いけれど勇気があるとされていた天鈿女命が、その神に名を尋ねました。そうして、猿田彦命は降臨する神の一行の道案内を申し出ました。

高千穂伝説によれば、二神は、初めての出会いでもとも惹かれ合い、すぐに結婚することを決めました。周囲から切り出したばかりの荒い（日本語「アラ・い」）、十分に乾燥していない荒木（日本語「アラ・キ」）を集め、新しい家を建てました（（日本語「タテ」）。荒立神社は、命を祀る社も白木造りとし、早急に建てたことから、荒立（荒建）神社と名付けられたといわれています。

板木

神社の境内、特に小道沿いと林の中には様々な板木が吊るされています。木槌が設置しており、それぞれの板木を7回打つことによって願いが叶うご利益があるとされています。七福德寿板木は、入口のそばにあり、心を込めて7回叩くことで7つの願いが成就するとされています。他には、治癒、開運、恋愛の板木もあります。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】国見ヶ丘

【整備予定媒体】WEB

<http://takachiho-kanko.info/en/sightseeing/>

できあがった英語解説文

Kunimigaoka

Kunimigaoka (translated as “Country Gazing Hill”) derives its name from a legend that Tateiwatatsu no Mikoto, grandson of Japan’s mythical first emperor, stopped here on his way to assume governorship of the ancient Tsukushi Province (located in the northern part of Kyushu). From this hilltop, he could see in all directions the land that he was to rule, and thus the name was given.

Geographical Location and Surroundings

From a height of 513 meters, Kunimigaoka’s panoramic view features the renowned mountain ranges and valleys of Kyushu. To the east lies the broad Takachiho Basin, the setting of many Japanese myths. Mt. Aso, the largest active volcano in Japan, can be seen in the west. Kyushu’s mountainous region is off to the north, including Mt. Sobo with a peak of 1,756 meters. And finally, in the south is Mt. Futagami, one mountain said to be the location of the descent of many *kami* deities to earth, from which extend the Shiiba Mountains. Visible in the area surrounding Kunimigaoka are the famed rice terraces of Takachiho.

Sea of Clouds

Between September and November, Kunimigaoka is commonly visited as a place to view a “sea of clouds,” a natural phenomenon of cloud cover settling over the Takachiho Basin. Viewed from above, this creates the image of being afloat on a misty ocean. This phenomenon is most likely to occur on still, windless mornings when there is a temperature inversion over 15°C that traps sufficient humidity.

Folk Song “Kariboshi Kiri Uta”

Autumn’s changing colors as seen from Kunimigaoka are linked to a well-loved folk song called the “Kariboshi Kiri-Uta,” which is believed to originate in the Takachiho area. The title refers to the process of cutting and harvesting hay. This work song was sung in the past by laborers gathering feed in the fields for livestock before winter, and its somber melody conveys a sense of the isolation of rural life long ago.

Ninigi and Kunimigaoka

At the base of Kunimigaoka is a statue of Ninigi no Mikoto, or Ninigi, who is said to have descended from the

heavens to rule Japan. According to a legend from the Takachiho region, Ninigi and his procession encountered an impenetrable fog and lost sight of the way as they descended to earth. Two earthly beings named Ōkuwa and Okuwa then appeared and urged Ninigi to take rice from the stalks he held in his hand and scatter this rice over the land. Upon doing so, the fog lifted and Ninigi and his entourage arrived safely at their destination. The statue commemorates this legend.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

国見ヶ丘

国見ヶ丘は、伝説からその名がつけられました。神話において、日本の初代天皇の孫と考えられている、建磐龍命(たけいわたつのみこと)が筑紫の国（現在の九州の北部）へ統治に向かう途中にこの地に立ち寄ったとされています。この丘の頂上から、建磐龍命は、四方どの方角からも自分が支配する全ての土地を見ることができたと伝えられています。

立地と周辺

標高 513 メートルのこの国見ヶ丘からは、有名な連山や九州盆地を見渡すことができます。東には数多くの日本神話を持つ高千穂盆地、西には日本で一番大きな活火山、阿蘇山が望めます。北には、九州山地の主峰である祖母山（標高 1,756m）がそびえ、南には、天孫降臨の地と伝えられる二上山に続く椎葉の山々が連なっています。また、国見ヶ丘の周りには、高千穂の名高い棚田も見ることができます。

雲海

9 月から、11 月にかけて国見ヶ丘は高千穂盆地をつつみこむ自然現象である「雲海」の名所としても有名です。丘の上から眺めると、まるで霧の海に浮かんでいるようにさえ感じます。気温差が 15 度以上で、適度な湿度を保ち無風の朝に、雲海は発生します。

民謡「刈干切唄」

国見ヶ丘から眺める秋の紅葉は、多く愛唱されている民謡「刈干切唄」と結びつきがあります。この労働歌は、高千穂地方が発祥の地と言われています。曲名は、干し草を刈り取って収穫することから名付けられています。冬季の家畜の肥料とする草を山々から刈り集めた時に唄われたものです。昔の厳しいひなびた農村生活の中から生まれた哀調のメロディーは、世代を通して唄い継がれてきました。

瓊々杵尊と国見ヶ丘

国見ヶ丘には、神道伝説において、この世の初めての統治者となったと考えられている瓊々杵尊の像があります。高千穂地方の伝説によると、地上に天下りした瓊々杵尊と一行は、深い霧の中で道を見失ってしまいました。そこにこの地に住む大鉗（おおくわ）、小鉗（おくわ）という二人が現れて、瓊々杵尊が手に持たれている稲穂を舂にして、あたり一面にまかれるように進言しました。そうすると霧は晴れ、瓊々杵尊と一行は地上界に無事につくことができました。この像は、その伝説の場面の像です。

本事業以前の英語解説文

At 513 meters above sea level, Kunimigaoka offers panoramic views of the area. On cool, clear and windless autumn mornings, the view may become a "sea of clouds" blanketing the landscape beneath the summit.

The hilltop viewpoint has a one-star rating in the Michelin Green Guide to Japan.

【施設名】高千穂の夜神楽

【整備予定媒体】WEB

<http://takachiho-kanko.info/en/sightseeing/>

できあがった英語解説文

Yokagura at Takachiho

When the winter months roll in and most cities tuck in to brace for the cold, Takachiho's residents are instead in the midst of planning for a local custom that traces back well over eight hundred years: *yokagura*, nighttime *kagura*.

Yokagura is a Shinto ritual in the form of a theatrical dance that is performed in as many as twenty villages in the Takachiho region between the months of November and February. From dusk until dawn, *kagura* performers called *hosha* enact thirty-three highly specialized performances dedicated to local earth *kami* deities, to give thanks after the harvest and to pray for bountiful fields the following year.

For the people of Takachiho, this is a sacred ceremony that brings humans and *kami* deities together for a night of merriment. Accompanied by *taiko* drums, ringing bells, and rhythmic singing, the masked *hosha* performers serve as vessels for deities. Neighbors gather to watch, eat, and drink in the presence of these various mythical deities as they turn and shift in intricate patterns on the sacred *kagura* stage. During this ceremony, even visitors are considered kindred.

This custom has strong ties to local culture. The various communities in the Takachiho area each have their own *kagura* specialties, leading to differences small and large in the style and order of performances as well as the costumes, decorations, and audience etiquette. Takachiho Yokagura was designated a significant intangible folk cultural asset of Japan in 1978.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

高千穂の夜神楽（概要）

冬の時期になると、多くの街は寒さに対する備えをしますが、高千穂の住民は、800年以上続く地元の神事、夜神楽の準備のさなかにあります。

夜神楽は、高千穂地域のおよそ20の集落において、11月から2月の間に行われる舞踊劇の形の神事芸能です。夕暮れから明け方まで、神楽の舞手の奉仕者は、収穫に感謝し、来年の豊穡を祈願するために、その土地の氏神

様（地元住民の土地を守る神）に三十三番の神楽で奉納します。

高千穂の人々にとっては、夜神楽は恵みに感謝を捧げ、人と神々が共に舞い踊り夜を明かす神聖なる儀式です。太鼓、鈴の音、歌を伴い、面をかぶった奉仕者は、降りてきたご神体そのものとなります。里人は、神聖な神庭で廻り踊り複雑な形に変化しながら迎え入れた様々な神話の神々と共に集い、鑑賞し、飲食し、歌舞します。この儀式の中では、観光で来た方も参列者となります。

この習慣は、地元の文化と深いつながりがあります。高千穂のそれぞれの集落には、衣装、飾りつけ、観客鑑賞心得だけでなく、独自の神楽があって少しずつ違いがあります。夜を通して行われる「高千穂夜神楽」は、1978年に国の重要無形民俗文化財に指定されました。

本事業以前の英語解説文

Outside the official season for Takachiko yokagura, the ceremonial dance performance can still be enjoyed in the version known as Takachiho Kagura.

A performance of four representative dances from the kagura repertoire of 33 dances is held every evening from 20:00 to 21:00, at the Kaguraden performance hall on the grounds of the Takachiho Shrine. The dances are titled Tajikarao (Armstrong), Uzume (Goddess Uzume), Totori (Removing the Door) and Goshintai (Object of Worship).

These well-attended performances are genuine ceremonies, offered in rotation by dance groups from various local communities.

Takachiko yokagura dances are designated as an Important National Intangible Folk Culture Asset.

Location: Kaguraden at Takachiho Shrine

Date: Every day

Time: 20:00 ~ 21:00

Admission Fee: ¥700 per person

【施設名】高千穂の夜神楽

【整備予定媒体】WEB

<http://takachiho-kanko.info/en/sightseeing/>

できあがった英語解説文

***Kagura* Performers (Hosha)**

In the Takachiho region, those who train and perform *kagura* are referred to as *hosha*. They often begin training when they are young, around elementary school age, and are instructed by a local *kagura* master. When they are not performing, *hosha* are members of the community with various professions.

In the past, *hosha* roles were restricted to the eldest sons of important local families. This is because, in Japanese custom, eldest sons were often the inheritors of businesses and estates. Recently, however, there has been an increase in *hosha* from various backgrounds, including some performers who moved to the area from other regions.

***Kagura* Stage (Koniwa)**

The *koniwa* is the sacred space where the *kami* deities are invited to descend on the night of a *yokagura* performance. No one except the *hosha* performers may enter. Traditionally, the *koniwa* is established in the home of an elected host, so its location may change from year to year. Recently, some groups have begun using community centers.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

奉仕者（神楽の舞手）

高千穂地域では、神楽において舞手を演じる人は奉仕者（ほしや）と呼ばれます。多くの舞手は、小学生など小さい頃から練習を始め、地元の神楽師から指導を受けます。公演のないときは、奉仕者は、様々な職業を持つ地域の一員です。

昔、奉仕者になれるのは、地元の家族の長男に限られていました。これは、日本の風習によるもので、長男の多くは商売や財産の継承者だったためです。しかし現在では、ほかの地域から移り住んだ人など、様々な経歴を持った奉仕者が増えてきました。

神庭（神楽の舞台）

神庭（こうにわ）は、夜神楽の夜に儀式に降りてこられた神をお迎えするための神聖な場所です。入口は、舞人や世

話役以外は入ることができません。伝統的に、神庭は選ばれた民家に造られ、年ごとに順番に場所が変わります。最近、徐々に公民館で奉納されるようになりました。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】高千穂の夜神楽

【整備予定媒体】WEB

<http://takachiho-kanko.info/en/sightseeing/>

できあがった英語解説文

Masks (Omote-sama)

The masks used in *kagura* are called *omote-sama*. They are revered as an embodiment of the *kami* deities themselves and are treated with the utmost respect. Each *omote-sama* has its own expression and history, and some are said to date back to the beginning of the *kagura* custom over eight hundred years ago.

Kagura Paper Decorations (Erimono)

Paper is used in a number of Shinto rituals. For the *kagura*, special Japanese paper is cut into various designs called *erimono* to fence off and adorn the *koniva kagura* stage. Each local area uses different numbers and decoration styles of *erimono*, all with distinct meanings.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

面様（仮面）

神楽に使われる仮面は、面様（おもてさま）と呼ばれます。面様が神そのものであり、ご神体として崇拝し、最大の敬意を持って迎えられます。それぞれの面様は独自の表情と歴史を持ち、800年以上連綿と続く、神楽の発生と同時に伝えられてきたとされる古い面様も残されています。

彫り物（神楽紙飾り）

紙は、たくさんの神道芸能で使われます。神楽では、特別な和紙を色々な形に切った「彫り物」と呼ばれるものを神庭の四方に飾ります。地域によって枚数と飾り方が異なり、全ての彫り物に違った意味があります。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】高千穂の夜神楽

【整備予定媒体】WEB

<http://takachiho-kanko.info/en/sightseeing/>

できあがった英語解説文

***Kagura* Performances**

Yokagura consists of various combinations of thirty-three acts through a whole night. In these performances, *kami* deities from various legends make appearances. These deities have a wide array of temperaments, appearances, and skills, and sometimes they may interact with the audience up close should they feel inclined.

There are eighteen to twenty main villages that hold *kagura* in the Takachiho area. Performance length, style, rhythm, and order, as well as costume and decorations, can differ depending on the village. Takachiho is particularly known for its *yokagura* performance of the Amano Iwato (Heavenly Stone Cave) myth at dawn. This performance coordinates the sun *kami* deity Amaterasu Omikami's emergence from her cave with the exact time the sun actually rises. It also includes a dance from the *kami* deity believed to have founded *kagura*, Ame no Uzume no Mikoto.

***Yokagura* Etiquette**

Yokagura etiquette differs by area. In many regions, residents are encouraged to eat and drink, and the deities may partake of refreshments with them. While onlookers are strictly prohibited from entering the *koniva kagura* stage, *kami* may venture out to interact with the crowd. In Takachiho, it is customary to offer special cuisine such as *kagura udon* noodles, simmered food called *nishime*, and sake warmed and served in bamboo called *kappo zake*. There are certainly many things to be respected when attending *yokagura*, but most important is respect for one's neighbors and the community spirit.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

夜神楽三十三番

神楽は、三十三の演目から様々の構成で、夜を徹して舞い継がれます。これら演目の中で、様々な神話の神々が、舞い入ります。その舞は変化に富み、表情や技も多彩です。時には、見物客をも巻き込んで踊ります。

主に、高千穂地区には、18～20 の集落でそれぞれの神楽が行われます。演目の長さ、調子、順番、衣装、装飾まで、集落によって異なります。高千穂では、特に夜明けに行われる天岩戸の演目の夜神楽が有名です。この演目

は、日の出の時間に正確に合わせて天照大神が天の岩屋戸から出てきます。これと共に神楽の元になったと信じられている天鈿女命の舞も行われます。

夜神楽鑑賞の心得

夜神楽の鑑賞心得は、地域によって違いがあります。多くの地域では、里人が神々と共に食することは、しきたりとなっています。見物客が神庭（神楽の舞台）に入ることは、強く禁止されていますが、神々が民衆とふれあいに降りてこられることもあります。高千穂では、伝統料理の神楽うどんや煮しめやかっぱ酒（竹で出される熱燗）などがふるまわれることが通例です。夜神楽に参加する上で尊重しなければならぬことはたくさんありますが、一番大事なことは、皆が里人として一緒に同じ敬う気持ちを持って楽しく参加することです。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】高千穂神楽

【整備予定媒体】WEB

<http://takachiho-kanko.info/en/sightseeing/>

できあがった英語解説文

Experience *Kagura* at Takachiho Shrine's Kagura Hall

Takachiho Shrine's Kagura Hall now hosts performances nightly at 8 pm, year-round, for those who cannot attend the local *yokagura* performances when they are held at the end of the year between November and February.

Yokagura (*kagura* that is performed in the “*yo*” meaning night) is a Shinto ritual much like a theatrical dance that lasts from dusk to dawn. It is a Takachiho custom with roots that date back over eight hundred years, and in 1978 was designated a significant intangible folk cultural asset of Japan. While the custom is focused on the local community, interest in the performances from visitors has recently increased. So, in an effort to accommodate this interest and share Takachiho's heritage, four select performances from the thirty-three-episode repertory are now performed nightly:

The Dances of Tajikarao, Uzume, Totori (Removing the Door), and Goshintai (Embodiment of the Kami)

The first three dances relate to the tale of Amano Iwato (Heavenly Stone Cave) Japanese myth, which starts off with the sun *kami* deity Amaterasu Omikami shutting herself into a cave in exasperation at her younger brother's rash behavior. This plunges the world into darkness, and bewildered *kami* deities of the heavenly realm plot to lure her back out.

- “The Dance of Tajikarao” depicts a *kami* deity of great strength, named Tajikarao no Mikoto, who, uses various methods to search for Amaterasu before discovering the cave she is hiding in.
- In “The Dance of Uzume,” the *kami* deity Ame no Uzume no Mikoto performs a ribald dance in front of Amaterasu's cave. This dance makes the gathered *kami* roar with laughter, and this revelry piques Amaterasu's curiosity enough that she cracks open the door of the cave to peek out. This dance is said to be the origin of *kagura*.

- “The Dance of Totori” shows Tajikarao using his great strength to grip the door to the cave and, in the climax, rip it away. Although in the first dance Tajikarao is white-faced and yellow-haired, in this dance he is bright red with effort and his hair has turned jet black.

The last dance, “The Dance of Goshintai,” is a merry performance featuring the divine couple who gave birth to Japan, Izanagi no Mikoto and Izanami no Mikoto. Together they brew sake from fresh rice grains and drink together in matrimonial happiness. This performance serves as a prayer for a happy marriage, a wealth of offspring, and a prosperous harvest. Izanagi and Izanami can also be flirtatious, and they may venture off-stage to bestow blessings upon lucky members of the audience.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

高千穂神楽殿における神楽鑑賞

11 月から翌年 2 月の年末の間に行われる夜神楽をご覧になれない方のために、高千穂神社の神楽殿では、毎晩夜 8 時より年間を通して公演を行っています。

夜神楽（夜に行われる神楽）は夕暮れから夜明けにかけて行われる舞踊劇のような神道芸能です。この高千穂の風習は、800 年以上の歴史があり、1978 年に国の重要無形民俗文化財に指定されました。夜神楽は、地元の住民を中心に行っているものですが、最近では、神楽を楽しみにする観光客の方が増えてきました。そこで、高千穂の伝統を楽しんでもらうために、三十三演目の中から代表的な四番を選んで、現在では毎晩公開しています。

「手力雄の舞」「鈿女の舞」「戸取の舞」「ご神体の舞」

初めの三つの舞は、日本神話の天岩戸のお話で、天照大神が弟の乱暴な行動に激怒し、天の岩戸屋の中に閉じこもってしまったところから始まります。これにより世界は、暗黒に包まれてしまい、困惑した天高原の神々が、天照大神を誘い出そうとします。

- 手力雄の舞では、手力男命の偉大な力を描いており、あらゆる方法を使って天照大神を探し出し、最後には天岩戸を取り払います。
- 鈿女の舞では、天鈿女命が天岩戸の前で乱舞します。この舞はとても華やかであり、集まった神々が大声で笑ったため、天照大神の好奇心がかきたてられ、洞窟の外を見ようと岩戸を開けました。この舞が神楽のはじまりと伝えられています。
- 戸取の舞は、手力男命が偉大な力をつかって天岩戸をつかみ、取り払います。最初の舞の中で、手力男命は白い顔で黄色の髪ですが、この舞では、天岩戸を取り除く際力を込めたため、真っ赤な顔で真っ黒の髪になります。

最後の舞、ご神体の舞は、日本を生んだ夫婦の神、伊弉諾尊と伊弉冉尊の結婚の演目です。幸せな夫婦となっ

て、新鮮な稲からお酒を作り一緒に飲みます。この演目では、夫婦円満、子授安産、豊穰祈願が奉納されます。伊井諾尊と伊井冉尊は、愛想よく舞台の下に降りてきて、幸運にも祝福を授かる観客もいます。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】高千穂峡

【整備予定媒体】WEB

<http://takachiho-kanko.info/en/sightseeing/>

できあがった英語解説文

Overview

Takachiho Gorge was formed long ago by an eruption of nearby Mt. Aso. One of its main features is the layered look of the precipices on either side. Other attractions within the gorge include the 17-meter Manai Falls and an iconic view of three arched bridges. There are rental boats that can be rowed out into the gorge waters for an up-close experience.

Takachiho Gorge is deeply connected to local mythology. Nearby sites include an island called Onokoro Shima, believed to be the first made by the *kami* deities, and a massive stone referred to as the Stone of Kihachi's Might, which is said to have been hurled by the fearsome deity Kihachi during a legendary battle. On November 10th, 1934, Takachiho Gorge was designated a national place of scenic beauty and a natural monument.

Geological History

The layered look of Takachiho Gorge, known as columnar jointing, was created from the rapid cooling of fast-flowing lava that eroded over time into the present deep V-shaped valley. On average the precipices are 80 meters high, though some areas reach 100 meters. The edges of the gorge continue east and west for about 7 kilometers. In 1965, this area became a part of the Sobo-Katamuki Quasi-National Park (Note: Part of the name comes from the famed Mt. Sobo).

上記解説文の仮訳（日本語訳）

概要

高千穂峡は、阿蘇山の噴火によってできた渓谷です。両側にそそり立つ圧巻の断崖が特徴の一つです。また、高さ約 17m の真名井の滝、素晴らしい絶景と共に見ることができる3本のアーチ橋も高千穂峡の魅力です。また、貸しボートもあり、下から眺める真名井の滝も人気があります。

高千穂峡は、地元の神話と深い繋がりががあります。神が最初に造ったとされるおのころ島、そして荒神鬼八が投げたとされる「鬼八の力石」なども近くに点在しています。

1934年11月10日、高千穂峡は、国の名勝、天然記念物に指定されました。

地理的な背景

柱状節理として有名な高千穂峡のそそり立つ渓谷は、火砕流が急激に冷却されたためにできたもので、時を経て現在のような V 字型の断崖に侵食されてきました。平均 80m、場所によっては 100m の断崖が東西約 7 キロに渡って続いています。1965 年には、祖母傾国定公園の一部に指定されています。

本事業以前の英語解説文

The spectacular steep walls of the Takachiho Gorge were formed by columnar jointing, due to the rapid cooling of an ancient lava flow that filled the narrow valley of the Gokase River after an eruption of the Mt. Aso volcano.

The Takachiho Gorge was designated a National Scenic and Natural Monument in November 10, 1934.

【施設名】高千穂峡

【整備予定媒体】WEB

<http://takachiho-kanko.info/en/sightseeing/>

できあがった英語解説文

Manai Falls

Manai Falls is about 17-meters in height and is located in the middle of Takachiho Gorge. It was recently chosen as one of Japan's Top 100 Waterfalls for its scenic beauty. The sight of its waters crashing into the gorge is a highlight for visitors, and boats can be rented out during the day year-round to experience the falls up close from below. At night, Manai Falls is illuminated in different colors for mystic nighttime strolls.

The source of the waterfall is connected to Japanese mythology. The waters flow from a natural well of spring water at Ama Manai, a spot said to be the first source of water brought by the deities to the earthly realm.

Takachiho's Three Arched Bridges (Sanbashi) View

The Takachiho Gorge is said to be one of the few spots in all of Japan with a simultaneous view of three arched bridges. The three bridges showcase diverse construction technologies: 1) Shinbashi (stone construction over a concrete arch); 2) Takachiho Ohashi (steel bridge), Showa period (1926–1989); and 3) Shinto Takachiho Ohashi (concrete bridge), Heisei period (1989–2019).

上記解説文の仮訳（日本語訳）

真名井の滝

高千穂峡の中央に位置する真名井の滝は、約 17m の高さがあり、高千穂峡の象徴となっています。日本の滝百選に指定されている名瀑で、水面に落ちる美しい滝の様は、観光客にとって一番の見所となっています。天村雲命が、天孫降臨の際に「水種」を初めて持ち込み、これが天真名井として湧き出し、滝の源流となったといわれています。

夏の高千穂峡は、とても人気があります。年中では、貸しボートから真名井の滝を見上げることができます。また、夜には滝はライトアップされ、幻想的な明かりのもと渓谷を散策することができます。

高千穂三橋の景観

高千穂峡には、全国でも珍しいといわれる、三本のアーチ橋を一望できる場所があります。神橋（コンクリートを基礎にした石橋）、昭和時代竣工（1926-1989）高千穂大橋（銅鉄橋）、そして、平成時代竣工の神都高千穂大

橋（コンクリート橋）の三橋で、それぞれ多様な建築技術が活かされています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】棚田と山腹用水路

【整備予定媒体】WEB

<http://takachiho-kanko.info/en/sightseeing/>

できあがった英語解説文

Takachiho's Rice Terraces and Mountainside Irrigation Canals

Takachiho's famed rice terraces are green in the summer and golden in the autumn. These terraces, over 1,800 hectares, are supported by a network of over five hundred kilometers of canals created and maintained by town residents. Local dedication to these agricultural traditions has earned the area, which is located in the steep Takachihogo-Shiibayama intermountain region, a certification recognizing it as a Globally Important Agricultural Heritage System (GIAHS).*

=====

Takachiho is located in the Takachihogo-Shiibayama intermountain region, a steep, mountainous area that has long been challenged by a scarce supply of water for its agricultural needs. Until the Meiji period (1868–1912), villagers mostly farmed millet and maintained diets of assorted grains. However, a strong admiration for rice, which is a rich resource, motivated the people of the town to source water from higher ground, several dozen kilometers away and deep within the mountains. They thus constructed mountainside irrigation canals, originally all by hand. Today, these canals make up a network of over 500 kilometers, which allows for the cultivation of more than 1,800 hectares of terraced rice fields.

The people of Takachiho today maintain their agricultural heritage in the harsh environment of the intermountain region through community efforts. They continue to clean and maintain the canals, many of which are now one hundred years old or older, as well as to plant and harvest the fields. Fields today yield rice as well as other crops, such as Chinese cabbage and tobacco. Ownership of the fields is often dispersed and intermixed along single swaths of land.

*In 2015, the Takachihogo-Shiibayama intermountain region received the GIAHS certification. This means that the United Nations Food and Agriculture Organization, which launched the GIAHS initiative, seeks to promote and conserve this area as one with important agricultural systems and culture, and to ensure that these valuable assets are passed down to future generations.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

棚田と山腹用水路

(要旨)

高千穂の棚田では、夏には瑞々しい緑、秋には黄金色に輝きます。1800 ヘクタールを超える棚田は住民が 500 キロ以上完成させ維持してきました用水路から供給されたものです。地元の伝統的な農業を守り育ててきた高千穂郷・椎葉山の険しい山間地域が、世界農業遺産として認定されました。※

=====

高千穂は、非常に険しい山間部にある高千穂郷・椎葉山地域の中に位置し、農業に不可欠な水の不足と長い間戦ってきました。明治時代（1868-1912）まで、村人の多くは、ヒエを栽培し、様々な雑穀を常食としてきました。しかし、豊かな資源である米に対する人々の思いは強く、村人は団結して、数十キロ離れたより標高が高い山の奥地に水源を求めることを決め、手作業で山の斜面に用水路を建設しました。現在、この山腹用水路は、総延長 500 キロに及び、1800 ヘクタールを越す棚田が造成されています。

現在においても、高千穂の人々は、山間地域の厳しい環境のもと、共に手をかけてこの農業遺産を受け継いでいます。先人たちが行ってきたように、100 年以上たつ用水路を、人々は共に手をかけて大切に維持し、田んぼに苗を植え、稲を刈り取ります。米はもとより、白菜やタバコなど他の作物の畑にも恵みを与えています。所有権はなく、これらの田畑の維持は、近所同士の信頼に依っています。

※2015 年、高千穂・椎葉山地域は、世界農業遺産に認定されました。これは、世界農業遺産を立ち上げた国際連合農業機関によるもので、この地域独特の農業システムと文化の推進と維持を求め、これら貴重な資産の次世代への継承が認められたことを意味しています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】高千穂あまてらす鉄道

【整備予定媒体】WEB

<http://takachiho-kanko.info/en/sightseeing/>

できあがった英語解説文

Takachiho Amaterasu Railway

The Takachiho Amaterasu Railway is a 30-minute railway tour that traverses 2.55 kilometers of disused* tracks of the old Takachiho Railway. Passengers leave the station and cruise through tunnels and natural landscapes before the train reverses, passing twice by local attractions, such as the Aratate Shrine, Amano Iwato Shrine, and the Takachiho rice terraces. The tour highlight is the pinnacle stop atop Takachiho Iron Bridge, once the highest railway bridge in Japan.

To meet the increase of passengers, Takachiho Amaterasu Railway unveiled a new 30-passenger, diesel-engine “Super Grand Cart” in 2017. This train projects colorful lights to illuminate tunnels and has a glass floor to better enjoy the view from atop the Takachiho Bridge, 105 meters in the air. This view overlooks the Iwato River valley, including an expanse of the Takachiho rice terraces that are recognized as a GIAHS (Globally Important Agricultural Heritage System) by the Food and Agriculture Organization of the United Nations.

*Due to damage sustained in a 2005 typhoon, the Takachiho Railway, which ran for about 50 kilometers between Nobeoka and Takachiho, ceased operations. So, with the support of the area, local investors created a new company and converted the disused tracks into a novel touring experience.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

高千穂あまてらす鉄道

高千穂あまてらす鉄道は、約 2.55 キロの長さの廃線となった古い高千穂鉄道(※)を往復し、約 30 分の短い鉄道旅です。旅行者は駅から出発し、荒立神社、天岩戸神社、そして高千穂棚田など地元観光地を巡り、ライトアップされたトンネルや自然の景観を楽しめます。一番の見どころは、かつての日本一の高さに架かる高千穂鉄橋を渡り、頂上での停車するところです。

この旅は、大きな反響を呼び、人気に応えるため、高千穂あまてらす鉄道は、2017 年には 30 人乗りのディーゼルエンジンの「グランド・スーパーカート」を運行させました。トンネルの中では、カラフルなイルミネーションを楽しみ、ガラス張りの床からは、高千穂鉄橋の頂上 105m の絶景を眺めることができます。岩戸川渓谷を挟んで、国際連合農業機関による世界農業遺産と認定された、雄大な棚田の広がりを見ることが出来ます。

※2005 年の台風の被害によって、延岡と高千穂の約 50 キロ間を結んでいた高千穂鉄道は、廃線を余儀なくされました。そのため、地域の支援を受け、地元の出資者たちが新しい会社を設立し、廃線区間を整備し、新しい観光鉄道として再出発しました。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】流しソーメン

【整備予定媒体】WEB

<http://takachiho-kanko.info/en/sightseeing/>

できあがった英語解説文

Nagashi Somen (Flowing Noodles)

Nagashi somen is a popular summer food in Japan, consisting of thin, white noodles scooped from water flowing through a bamboo gutter and then dipped in sauce. It is said that the origins of this dish may lie in Takachiho.

Before refrigeration, villagers in the Takachiho area are said to have cooled boiled noodles in the freshwater of Tamadare Falls during the summer months. A man called Sato Mitsuyoshi wanted to make this local practice into a business. Unfortunately, the local department of public health would not grant him a license to sell food that had been run over bare riverbed rock, so Mitsuyoshi decided to emulate a natural spring by creating long “tracks” out of bamboo.

The restaurant near Takachiho Gorge called Chiho no Ie was established in 1955 by Mitsuyoshi, and visitors who enter will find a sign touting it as the birthplace of *nagashi somen*. Today, the restaurant has four bamboo gutters that stream the same cool, fresh water from Tamadare Falls. A recommended meal here is the *nagashi somen* set, consisting of the famous noodles along with Takachiho favorites such as *nishime* simmered vegetables, salad, *onigiri* rice balls, and charcoal-broiled trout. Visitors can enjoy the Takachiho specialty *kappo sake*, sake heated in a bamboo shoot to provide a naturally sweetened flavor.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

流しソーメン

「流しそうめん」は、日本で夏に人気のある食べ物です。細くて白い麺で、竹の樋を流れてくるそうめんを掬ってとり、つゆにつけます。これは高千穂発祥のメニューだという説があります。

冷蔵庫がなかった頃、夏の間、高千穂地域の村人たちは、茹でたそうめんを玉垂れの滝の湧き水で冷やしたといわれています。佐藤光義という方がこの地元の風習を商売化しようと考えました。残念ながら、保健所も岩肌に食べ物を直接流すことなど許可を出しませんでした。そこで光義氏は、長い竹樋を作り、湧水から流れるようにそうめんを流すことを考え出しました。

高千穂峡のそばにある千穂の家が、1955年に光義さん創業されたお店です。中に入ると元祖流しそうめんと書かれた

看板があります。現在、千穂の家には、4本の竹樋があり、玉垂れの滝から同じように冷たい湧き水を引いてきて、来店客の竹樋に流します。おすすめはそうめん定食で、そうめんの他に高千穂の郷土料理に欠かせない煮しめ（煮た野菜）、サラダ、おにぎり、刺身こんにゃくが付いています。そして炭火で焼いたヤマメもあります。また、自然な旨味と香りの青竹の中に酒を入れ温めて飲む、高千穂名物、「かつぼ酒」も楽しむことができます。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】かつぼ鶏・かつぼ酒

【整備予定媒体】WEB

<http://takachiho-kanko.info/en/sightseeing/>

できあがった英語解説文

***Kappo Zake* (Sake) and *Kappo Tori* (Chicken)**

Kappo cha tea and *kappo zake* are two beverages that are Takachiho specialties. They are brewed and served in a fresh, green bamboo tube, which is reminiscent of Takachiho's rural past when field workers used bamboo tubes to make tea from spring water and mountain-grown leaves. The term "kappo" is thought to come from the word for these tubes in the local Takachiho dialect. It may also be a vocal imitation of the sound the bamboo makes as water is poured from it. Moisture from fresh bamboo lends a natural sweetness to both tea and sake.

Kappo tori is a chicken dish that, like *kappo cha* tea, is cooked over a flame inside a bamboo tube. The care taken in its preparation is now considered an expression of hospitality in the Takachiho area, and so it is often served at special occasions such as local festivals. *Kappo tori* ingredients may differ by season or preference, but typically include chicken, *shiitake* mushrooms, burdock, and leeks. Seasoned with salt, pepper, and garlic, *kappo tori* takes about 30 minutes to cook. When the moisture from the bamboo begins to bubble up, it is ready to be served.

Enjoy *kappo zake*, *kappo tori*, and other local Takachiho delicacies at the Nakayama Castle Ruins Campground or Kagura no Kan Lodge. You can make your reservation on the Takachiho Tourism Center website.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

かつぼ鶏・かつぼ酒

「かつぼ茶」そして「かつぼ酒」は高千穂の名物です。新鮮な青竹の筒に水を注ぐ時、かつて高千穂で村人が山仕事の合間に、湧き水と山の茶葉で竹筒を使ってお茶を沸かしていたことが思い起こされます。「かつぼ」という言葉は、高千穂の方言で筒を指すところからきていると考えられます。また、水を注ぐ際の音からきているともいわれます。お茶にもお酒にも新鮮な青竹から油分が出て独特の甘い風味になります。

「かつぼ鶏」は鶏料理で、かつぼ茶と同じように竹筒の中に入れて、火にかけて料理します。今、高千穂地域で料理の準備の際大事なことは、おもてなしの態度であるとされています。地元のお祭りなど特別な行事の時は、よりおもてなしの心を持つようにします。かつぼ鶏の具材は、季節によってまた好みによって違いますが、主に、鶏肉、椎茸、ごぼう、ネギ、塩、胡椒、にんにくなどです。火にかけて約30分、竹から湯気が立ち上ってきたら、できあがりです。

高千穂ツーリズム協会のホームページで予約をして、神楽の館または仲山城跡キャンプ場でかつぼ酒、かつぼ鶏、またその他の高千穂の郷土料理をお楽しみください。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】高千穂牛

【整備予定媒体】WEB

<http://takachiho-kanko.info/en/sightseeing/>

できあがった英語解説文

Takachiho Beef

Takachiho beef is a locally raised, locally enjoyed specialty. The beef comes from Japanese black cattle who graze on locally produced feed and drink from the spring water of Mt. Sobo. Takachiho beef has gained national recognition in Japan for its quality and took the Prime Minister's Award in 2007 at the Ninth National Japanese Beef Ability Expo, commonly known as the "Wagyu Olympics." Takachiho's marbled meat is particularly renowned for its high-quality fat distribution and tenderness.

Takachiho beef is strictly defined as Japanese "Wagyu" beef that is A4 range quality or higher from cows born and raised within select districts of the Takachiho area. The cows must also be fed and processed by specific Takachiho livestock organizations. Out of about 500,000 cows in the area, 600 are groomed each year for Miyazaki beef. Of these, only 200 become "Takachiho beef." The amount produced yearly is limited, so it's rarely shipped to outside locations. Instead, it has become a Takachiho specialty that draws fans from around the nation and abroad to local restaurants, such as Yakiniku Hatsuei and Nagomi. (Note: Nagomi also sells Takachiho beef in its deli.)

Outside Nagomi are two cow statues that attest to Takachiho's cattle-raising heritage. One commemorates a famous breeding bull named Yasuhirogo, who is said to have sired over 220,000 cattle throughout western Japan. The other statue is Yasuhirogo's mother. In the Takachiho area, work cows have been raised for generations. Systematic efforts to improve and breed better stock began in earnest in the Meiji period (1868–1912), during which the initial focus was on milk production. Breeding bulls such as Yasuhirogo were exchanged with other regions including Kobe and Osaka in order to foster favorable traits. The Takachiho area began to raise beef cattle in the Showa period (1926–1989) and has carried on with this tradition ever since with great care. The generations of Takachiho cattle are said to be so well-documented that local cows' lineage can be traced back with greater accuracy than can that of the townspeople.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

高千穂牛

高千穂牛は、高千穂育ちの高千穂特産品です。これは地元の野草と祖母連山より湧き出る名水で飼育された日

本黒毛牛です。この高千穂牛は、2007年に開催された「和牛オリンピック」として知られる第9回全国和牛能力共進会においてその品質が認められ、内閣総理大臣賞を受賞しています。高千穂の霜降り牛は、特に品質の良ささが適度に入り、柔らかい舌触りが人気です。

高千穂牛は、高千穂地区の厳選された地域で生産、肥育され、高千穂家畜市場に上場された、格付け等級 A4以上の和牛であると厳密に定義されています。この周辺に約50万頭いる牛のうち、毎年600頭が宮崎牛として出荷されます。このうちわずか200頭だけが「高千穂牛」と認められます。年間出荷量は制限されているため、県外の市場に出ることはほとんどありません。その代わりに、高千穂牛は、高千穂の特産品となり、県内外から高千穂牛を求めて焼肉初栄や、和（なごみ）などのレストランへやってきます。（和では高千穂牛の販売もしています。）

レストラン和の外には、2頭の伝説となった高千穂牛の銅像があります。一頭は、西日本で22万頭を超える子牛を世に送り出したとされる伝説の種牛の安平号を追悼したものです。もう一頭は、その母親です。高千穂地域では、何世代も農耕や運搬目的の牛(work cow)を飼育してきました。明治時代（1868-1912）、組織的な努力と家畜生産性を高めるため、乳牛の改善から取り組み始めました。安平号のような種牛は繁殖のために、神戸や大阪など他の地区との間で、品種改良のため交換され始めた。高千穂地域では、昭和時代（1926-1989）から、肉牛の飼育を始め、細心の注意を払い肥育が行われています。高千穂牛の戸籍は、しっかり管理されており、地元の牛の系図は、人の系図よりも正確にさかのぼることができます。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】釜炒り茶

【整備予定媒体】WEB

<http://takachiho-kanko.info/en/sightseeing/>

できあがった英語解説文

Kamairicha (Tea)

A specialty of the Takachiho area, *kamairicha* is a tea almost exclusively made in the surrounding Nishiusuki District of Miyazaki Prefecture. Statistically, this variety of tea makes up about one percent of all green tea made in Japan. It is lighter in color than other green teas and served at a slightly warmer temperature. *Kamairicha* has a flavor comparable to some Chinese teas and is appreciated for its rich fragrance.

Most Japanese teas use a steaming process, but *kamairicha* is made through a “pan-roasted” technique that carefully heats, turns, and massages fresh leaves, giving the tea a signature curly-edged look. The tea is not allowed to oxidize through exposure to air, making it distinct from some popular Chinese teas like oolong.

The intricacy of the creation process leads to production of smaller batches, making *kamairicha* a delicacy. Even so, in the Takachiho area this tea has been a daily staple for centuries. Today there are thirty-three tea farms in the area, all family-owned and run, that continue to carefully cultivate and protect their tea heritage. One of these farms, Kai Seicha-en (Kai Family Tea Farm), was recognized with a Minister of Agriculture, Forestry and Fisheries Award in 2015 for the superior fragrance of their tea.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

釜炒り茶

釜炒り茶は、高千穂地域の特産品で、宮崎県西臼杵郡周辺に限られて作られています。統計では、全国の緑茶の約1%の生産量です。色は、他の緑茶に比べるとやや澄んでいて、若干熱めのお湯が適しています。釜炒り茶は、芳しく豊かな香りがします。味はさっぱりしていて、独特の口あたりは中国茶と似ています。

ほとんどの緑茶は蒸して作りますが、釜炒り茶は、「釜炒り」製法で作ります。生茶を注意深く釜の中で炒り、そして揉みながら乾燥させます。この時茶葉は、丸みを帯びた形状になります。また、茶葉は中国の烏龍茶のように酸化させません。

釜炒り茶の作り方は手間かかり、作られる量は限られているため、とても貴重です。それでも高千穂地域では、このお茶は古来より生活に欠かせない日常茶です。現在、高千穂地域には、33の家族経営の茶園があり、丁寧に栽培し釜炒り茶の伝統を守っています。この中の一つ甲斐製茶園（甲斐家の茶園）は、2015年の全国茶品評会の香りお茶部門で、農林水産大臣賞を受賞しました。

本事業以前の英語解説文

なし

1364

No.33 Three Peaks Vista, Sanshudai

<高千穂、宮崎>

【施設名】三秀台

【整備予定媒体】WEB

<http://takachiho-kanko.info/en/sightseeing/>

できあがった英語解説文

Sanshudai, Three Peaks Vista

Gokasho Plateau's Sanshudai (Three Peaks Vista) can be found a short distance down Miyazaki's Prefectural Road No. 8 off from National Route 325. It is a grassy plateau open to the breeze often visited for its natural solitude and refreshing view of the surrounding area. On a clear day, visitors can gaze out from this plateau and see three Kyushu mountains all ranked among the top 100 mountains of Japan. These are Mt. Sobo (1,756 m), Mt. Kuju (1,791 m), and Mt. Aso (1,592 m), the largest active volcano in Japan. Rare wildflowers bloom in the Sanshudai area, including the red *himeyuri* (princess lily). A well-timed visit will find the surrounding mountain sides painted in bright colors.

A large 8-meter monument with a bell on the plateau commemorates the November 6, 1890 climb of Mt. Sobo by Walter Weston, an English clergyman who helped popularize recreational mountain climbing in Japan at the turn of the twentieth century. Years later, Weston became a founding member of the Japanese Alpine Club.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

三秀台

五ヶ所高原の三秀台は国道 325 号沿いにある、狭い道（県道 8 号）を下るところにあります。ほどなく風が吹きわたる高原が広がって、自然と周辺の景色を感じられる場所です。晴れた日には、日本の百名山に名を連ねる、九州の三秀峰を臨むことができます。祖母山（1,756m）、久住山（1,791m）、そして日本最大の活火山、阿蘇山（1,592m）です。また、三秀台周辺では、赤いひめゆりなど珍しい野生の花がたくさん咲いています。最高の時期に訪れると、千々に輝き美しく彩られた山々を眺めることができます。

また、この高原には、鐘のついた 8m の高さのモニュメントがあります。これは 1890 年 11 月 6 日に、20 世紀の日本において、アルピニズム登山の普及に尽力した、イギリス人牧師であるウォルター・ウェストンが、祖母山に登山した記念したものです。彼は日本山岳会の設立に貢献したと言われています。

本事業以前の英語解説文

なし

環境省霧島錦江湾国立公園管理事務所

1365

No.1 Kirishima-Kinkowan National Park (JNTO)

<霧島錦江湾国立公園、鹿児島・宮崎>

【施設名】霧島錦江湾国立公園

【整備予定媒体】JNTO Global web site

できあがった英語解説文

Kirishima-Kinkowan National Park

Chart an Adventure from Ever-changing Sakurajima to the Mysteries of Kirishima

Kirishima-Kinkowan National Park in the south of Kyushu island offers a wide range of natural attractions, from an active volcano in its own bay, to beautiful coast line and beaches, and deep, mysterious forests. Part of today's park was the first national park in Japan.

Kinkowan Bay is comprised of a series of vast undersea volcanic caldera, craters formed when a volcano collapses, which were created by a number of huge eruptions countless millennia ago. At its center is a new active volcano, Sakurajima. Originally an island, an eruption by the volcano linked it to the mainland. Sakurajima is in a state of perpetual change caused by the volcano, which is in a constant state of low-level eruption. The gentle rise of ash that drifts over its peaks may fluctuate, but for the people who live on its slopes it is just part of their day-to-day life. Periodic magma flows are slowly reclaimed by vegetation, which itself changes with time. You can tell how long ago an eruption occurred by the types of plants that dominate.

Expand Your Senses in a Vibrant Natural Setting

Kinkowan Bay is full of life. Dolphins playfully appear above the water before diving down to the bubbling fumaroles below created by volcanic forces. This radiating heat extends to the park's southern beaches, where locals have engaged in sand bathing for centuries. On the beach, you can lie down and be covered in a cocoon of heated sand in which you can relax, as the gently lapping waters of the shoreline soothe your spirit. There are countless *onsen* hot springs in the area, not least on Sakurajima itself. Sakurajima is visible from many outdoor baths and footbaths that welcome all, whether you have been hiking or just taking in the views.

The fertile, nutrient-rich lands created by volcanic conditions produce enormous *daikon* radishes and provide feed for the region's world-class beef, pork, and chicken, while the pristine waters abound with delicious fish eaten as sashimi or cooked.

Venture to the Southern Coast

For those wanting to stray from the beaten path, you can follow the sweeping shoreline south. At the southernmost reaches of the park is Cape Sata, known for its breathtaking cliffs. Walk the picturesque route to the remote observatory and enjoy panoramic views of the historic lighthouse and seas beyond.

Explore the Forest of the Mountainous North

Alternatively, you can head north up to Kirishima, a mountainous, misty region home to countless legends. The entrance to this area is Kirishima Jingu Shrine, a site of immense spiritual significance that invites you to make your own pilgrimage. The large shrine and expansive grounds are famous for their seven mysteries, which you are invited to seek out for yourself as you explore, as well as nature trails that take you to peaceful forest glades well-suited to contemplation.

From this gateway you can enter the Kirishima Mountain Range, where mists mix with rising steam from the bubbling hot springs. You can eat local food steamed by volcanic jets, as well as take in numerous secluded mountain hot spring retreats that have been Japan's original nature resorts since antiquity.

Discover a Highland Resort in the Volcanic Peaks

In the heart of Kirishima you will find yourself in the highlands of Ebino Kogen, a sweeping plain flanked by towering volcanoes. While Japan's southern island of Kyushu generally enjoys higher than average temperatures, you can see snow at these heights until early spring, and the cooler temperatures provide a welcome break from the intense summer heat. This mountain resort is a paradise for nature enthusiasts and there are extensive hiking routes you can embark on all year round that range from the relaxing to the bracing as you explore the gentle trails or scale the volcanic peaks and lakes.

This vibrant, intense landscape is also known as Japan's first honeymoon route, and whatever your route you are sure to fall in love with its unique charm.

Discover the wild beauty of Kirishima-Kinkowan National Park, and let these fantastic lands take you on your own adventure.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

霧島錦江湾国立公園

変化しつづける桜島から霧島の神秘まで冒険を企てる

九州の南に位置する霧島錦江湾国立公園。ここでは湾の中にある活火山から、美しい海岸線やビーチ、神秘的な深林まで、多様な自然スポットを訪れることができます。今ある公園の一部は、日本最初の国立公園でもありました。

錦江湾は、何世紀も前に起こった数々の大噴火をうけて火山が崩壊する時にできた広大なくぼみである、一連の海底火山カルデラによって構成されています。そしてその中心にあるのが新しい活火山、桜島です。元々は島でしたが、火山の噴火にともない本土とつながりました。絶え間なく小噴火を繰り返すこの火山により、桜島は常に変化しつづけている状態にあります。山頂を漂う火山灰の穏やかな上昇時には変動しますが、山の斜面で暮らす人たちにとっては、これも日常生活の一部にすぎません。そして、マグマが周期的に流れ出たところには植物が再びゆっくりと育ちはじめ、植物そのものは時とともに変化していきます。そのため土地を占める植物の種類から、どれほど前に噴火があったのか分かります。

活みなぎる自然環境の中で感覚を押し広げる

錦江湾は活気に満ち溢れています。イルカが陽気に水面に現れたかと思うと、今度は下にある噴気孔——火山の勢いでブクブク泡立つ孔——めがけて水中に潜っていきます。ここで放たれる熱気は、地元の人たちが何世紀にもわたって砂湯を楽しんできた公園南部のビーチにまで届いています。ビーチに寝そべったら温められた砂に覆われ、繭にくるまれたかのような心地の中、海岸に優しく打ち寄せる波の音に精神を癒されながら寛げます。この地域には温泉も無数にあり、当の桜島はとりわけ突出しています。ハイキング帰りの方も眺めを楽しみたいだけの方も皆歓迎の露天風呂や足湯。その多くから、桜島を望むことができます。

火山の環境によって培われた栄養豊富な肥沃な土壌では巨大な大根が育ち、この地域が世界に誇る牛肉、豚肉、鶏肉のための飼料が確保できます。また、新鮮な水は美味しい魚に恵まれ、刺身にしたり焼いたりして食べられます。

南海岸を探検

観光コースから外れ探検したい方は、ゆるやかな海岸線を南に辿っていきましょう。公園の最南端には佐多岬があり、息を呑むような崖で有名です。人里離れた展望台まで絶景ルートを歩き、歴史ある灯台とその向こうに続く海のパノラマ風景をお楽しみください。

※Stray off the beaten path は直訳すると不自然になるため、意識しております。

北部の山々の森林を探索

代わりに霧島に向かって北上するのもあります。霧島は霧に覆われた山岳地域で、数多くの伝説が息づいています。この地域への入り口となるのが、霧島神宮。重要なパワースポットとなっており、訪れる人を巡礼に誘いかけます。その大きな神社と広大な敷地は七不思議でも有名です。探索しながら、その不思議な現象を探しあててみましょう。また、自

然遊歩道もあり、思いに耽るのにびったりな穏やかな森の空き地まで散策できます。

湧き出す温泉から上がる蒸気と霧が混ざり合う霧島連山へは、この玄関口から入ることができます。ここでは火山から噴出する蒸気で蒸した地元料理を食べたり、古来より日本独自の自然リゾートとされてきた、山にひっそり佇む数々の温泉でのんびりと静養したりすることができます。

火山峰で高原リゾートを発見

霧島の中央に行くと、そびえ立つ火山の山々に囲まれたえびの高原の、一面に広がる平野につきます。日本の南島である九州は一般的に平均より高い気温に恵まれていますが、この高さでは春先まで雪が見られます。そしてその涼しい気温が、酷暑から逃れられるいい息抜きになります。自然愛好家にとって楽園のようなマウンテンリゾートには、年中歩けるハイキングルートが多数あり、緩やかな遊歩道を散策したり火山峰・火山湖まで登頂したりと、ゆったりルートから挑戦的なルートまで多岐にわたるコースを楽しめます。

この活気溢れる凄まじい景観は、日本初の新婚旅行ルートだったことでも知られています。どんなルートを辿るにしても、その独特な魅力の虜になること間違いなしです。

霧島錦江湾国立公園の幻想的な地に導かれるがまま冒険し、公園の野生の美しさを発見しましょう。

本事業以前の英語解説文

なし

1366, 1367, 1368

No.2, No.3, No.4 Ogawa Waterfall

<霧島錦江湾国立公園、鹿児島・宮崎>

【施設名】雄川の滝
【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Ogawa Waterfall Walking Trails

Follow the 1200-meter trail deep into the forest and discover the Ogawa Waterfall. The 15 minute (one-way) Ogawa Waterfall Walking Trail follows the winding Ogawa Valley and first takes you under the Takimi Ohashi Bridge, a 150-meter-long arch bridge that spans the valley at a height of approximately 80 meters. Roughly halfway to the falls is a streamside rest area where you can relax by the babbling stream. The trail ends at the Ogawa Waterfall observation platform, where you can take in magnificent views of the falls themselves.

Ogawa Waterfall

The 60-meter-wide waterfall cascades for 46 meters into a plunge pool at its base. This pool turns a distinctive shade of emerald green when the conditions are just right. Contrasting with the pool is the rough geometric cliff face punctuated with subterranean streams spilling out from the rock face.

Natural Beauty Deep in the Valley

Be sure to note the various fruits, flowers, mosses, and trees that grow along the trail. Depending on the season, you will find the bright yellow flowers of the leopard plant, or the delicate white-and-pink blossoms of the creeping saxifrage. Take your time and meander along the nature trail following a stream that looks and sounds different depending on the water level of the falls themselves.

Important Safety Information About Ogawa Waterfall

- No swimming in the waterfall basin.
- In case of bad weather, during or after heavy rain, the trail may be closed.
- No entry to the trail after sunset.
- The trail includes narrow passages and stairways.
- Wear appropriate walking shoes and outdoor clothing.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

雄川の滝遊歩道

森の遊歩道に入り、1,200m 行くと雄川の滝が見えます。滝まで続く片道 15 分の遊歩道は、曲がりくねった雄川渓谷を通っています。最初に目にするのは滝見大橋です。滝見大橋は渓谷にかかる全長 150m のアーチ橋で、約 80m の高さでそびえています。雄川の滝まで半分ほどの所まで来ると、川のほとりに休憩所があり、せせらぎを聴きながらリラックスすることができます。遊歩道の終着点は雄川の滝展望所です。ここでは滝の壮大な姿を眺めることができます。

雄川の滝

幅 60m の滝は、46m の高さから滝壺に注ぎ込んでいます。条件が整っていれば、滝壺がエメラルドグリーンの独特の色合いでそまっているように見えます。幾何学模様のごつごつとした断崖は、その岩肌に空いた穴から地下水流が流れ出ており、滝壺の姿とコントラストを成しています。

渓谷を讚える自然の美しさ

遊歩道に沿って生息する様々な果実類、花々、苔、樹木にご注目ください。季節によっては、山吹色のツツブキの花や、白とピンクが繊細なユキノシタの花をご覧いただけます。雄川は滝の水位によって風景や音が多様に変化します。自然豊かな遊歩道で川を巡り、じっくりとご堪能ください。

雄川の滝に関する重要な安全情報

- 滝壺での遊泳は禁止です。
- 天候不良や大雨またはその後には、遊歩道が閉鎖されることがあります。
- 日没後は遊歩道に立ち入りできません。
- 遊歩道には幅が狭い通り道や階段があります。
- 歩きやすい靴とアウトドア用衣服でお越しください。

本事業以前の英語解説文

なし

1369

No. 5 Chiringashima Island

<霧島錦江湾国立公園、鹿児島・宮崎>

【施設名】知林ヶ島

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

The Story of Chiringashima Island

Near the mouth of Kinkowan Bay (also called Kagoshima Bay) is the island of Chiringashima. With a circumference of three kilometers and a maximum height of 90 meters above sea level, the island is popular from March to October, when at low and half tide the island is connected to mainland Kyushu by a sandbar known locally as the Chiri Ring Road.

Farmers on the island used to produce abundant potato, sweet potato, and rapeseed. Now, walking paths meander across the forested island. At the top of the island's hill, an observatory platform offers panoramic views to the south and west. Ring the bell at the top and wish for happiness. Legend has it that your wish will come true.

The island is a popular destination for couples. It is said that in the same way that the sandbar "unites" the island with the mainland, couples who walk along the sandbar together will be united in love.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

知林ヶ島の物語

知林ヶ島は錦江湾（別名、鹿児島湾）の入り口付近に位置し、外周は3km、最大標高は海拔約90mです。島の繁忙期は3月から10月にかけてです。この期間中、干潮・半潮時になると、地元で「ちりりんロード」として知られる砂州によって、島と九州本土がつながります。

知林ヶ島では昔、農家が芋やサツマイモ、菜種を豊富に栽培していました。今では、木々生い茂る島のいたる所に遊歩道が通っています。島の丘の頂上には展望所があり、南と西の景色を一望することができます。言い伝えによると、頂上の鐘を鳴らして幸せを祈れば、願いが叶うと言われています。

知林ヶ島はカップルに人気のスポットでもあります。砂州が島と本土を「結んで」いるように、カップルが砂州を歩くと2人は恋で結ばれると言われています。

本事業以前の英語解説文

なし

1370,1371

Nos.6, 7 Chiringashima Island

<霧島錦江湾国立公園、鹿児島・宮崎>

【施設名】知林ヶ島

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

A Sandbar that Appears and Disappears

Between March and October, an 800 meter sandbar appears in Kinkowan Bay between Ibusuki City and the island of Chiringashima. It forms each year at the boundary where sand driven by winds from the south meets waves coming from the north. When the wind direction changes between November and February, the sandbar disappears. Even between March and October its appearance is fleeting, rising above the bay for no more than five hours at a time, and sometimes as little as one hour.

The pleasing fragrance of the sea breeze off Chiringashima Island and the sandbar was chosen by the Ministry of the Environment as one of Japan's 100 Most Fragrant Landscapes.

Safely Enjoying the Sandbar

The sandbar disappears under the sea during high tide and in certain weather conditions. As it takes approximately 20 minutes to cross, please be sure to carefully time your crossing and return to Tara Misaki Point with time to spare.

The sea around Chiringashima Island is home to strong currents. Swimming, as well as crossing the sandbar outside of designated times, is strictly prohibited.

Additionally, please be advised that blue-ringed octopuses have been seen in this area. These creatures can be recognized by their distinctive blue and black rings. They are highly poisonous so exercise appropriate caution at all times.

Please note that there are no toilets or drinking water on Chiringashima Island.

Today, the sandbar will disappear at approximately _____.

Please return from the island no later than _____.

For low-tide times, please visit _____ or call the Ibusuki City Tourism Division at 0993-22-2111.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

姿を現したり消したりする砂洲

3月から10月にかけて、指宿市と知林ヶ島の間にある錦江湾には800mの砂洲が現れます。これは毎年、南風に吹かれた砂が北から来る波とぶつかる場所に形成されます。そして風向きが変わる11月から2月の間は、砂洲は消えます。3月から10月の間でも、砂洲の出現はつかの間です。砂洲が出現するのは一度につき5時間に過ぎず、時には1時間しか出現しないこともあります。

知林ヶ島に吹く心地良い香りの潮風と砂洲は、環境省より日本のかおり風景100選に選ばれました。

砂洲を安全に楽しむために

砂洲は満潮や特定の気候条件下では海の下に隠れます。渡るには20分ほどの時間を要しますので、時間に余裕を持って田良岬に戻ってこれるよう、砂洲を渡る時間を慎重に計ってください。

知林ヶ島を囲む海では潮の流れが強くなっています。遊泳や指定時間外の砂洲渡りは厳禁です。

また、近くでヒョウモンダコが目撃されていますので、ご注意ください。こちらの生物を見分ける特徴はその独特な黒と青の斑紋です。猛毒をもつため、常に十分用心してください。

尚、知林ヶ島にはお手洗いや飲料水はありませんので、ご了承ください。

今日、砂洲が消える時刻はおおよそ_____です。
_____までに必ず島までお戻りください。

干潮時に関しましては、_____までお越しいただくか、指宿市観光課
(0993-22-2111)までお電話ください。

本事業以前の英語解説文

The currents in this area are very fast, and swimming is prohibited.

The sandbar sinks into the ocean during high tide and during certain weather conditions. Always be mindful of the time, and return to Tara-misaki Point while an adequate amount of the sandbar remains.

Never try to swim or cross over when the sandbar has disappeared. It is extremely dangerous.

Please visit the island after making all necessary arrangements beforehand.

The sandbar appears during the period between March and October. During this time windswells blown in by winds from the south collide with waves coming from the north.

The sand carried in by the waves accumulates in the belt shaped shallows and forms the sandbar.

During the period from November to February, windswells caused by winds from the north carry away the sand accumulated in the shallows and makes the sandbar disappear.

You can look up low tide times from your cell phone.

Today the sandbar will disappear at approximately _____:_____.

Please return from the island no later than _____:_____.

1372, 1373, 1374, 1375, 1376, 1377, 1378

Nos.8, 9, 12, 13, 14, 15, 16 Kirishima

<霧島錦江湾国立公園、鹿児島・宮崎>

【施設名】霧島連山

【整備予定媒体】Web

できあがった英語解説文

Discover Kirishima: Explore a Land of Legends

Pass Through an Ancient Shrine Into Another World

Kirishima, literally “island of mist,” is a mountainous region shrouded in fog, myth and legend. Ancient Kirishima Jingu Shrine is the gateway to this mystical region and its mythology. The area is cited in Japan’s oldest written historical records, the *Kojiki*, which tells fantastical tales of gods and goddesses, as well as the birth of Japan and the first emperors. Kirishima Jingu Shrine enshrines Ninigi no Mikoto, the ancestor of Japan’s first emperor and the grandson of the sun goddess Amaterasu. Over countless generations, those seeking prosperity and luck in love have made their way to this shrine’s vast grounds to pray at the imposing vermilion structure before exploring the surrounding grounds.

A God Descends to Earth

Legend says that the god Ninigi no Mikoto came down from the heavens to rule over the earthly world. He descended to the top of Mt. Takachiho in the Kirishima Mountain Range and sank his three-pronged lance, the Amanosakahoko, into the ground to mark his arrival. This lance can supposedly still be seen today, jutting out from the rocks at the summit of the mountain. Ninigi no Mikoto is said to be the ancestor of the Japanese imperial family. According to legend Japan’s first emperor Jimmu was Ninigi no Mikoto’s great-grandson, and his descendants still possess the three sacred gifts of a sword, mirror, and *magatama* jewel given to him by the sun goddess, Amaterasu.

Furumiya Ato, the Site of the Former Kirishima Jingu Shrine

Although Kirishima Jingu Shrine is now located at the foot of the mountains, the original built in the sixth century was located much higher up at Setoo, a dip between the summit of Mt. Takachiho, where Ninigi no Mikoto is said to have descended to Earth and Hinotokomine (the ancient name for the Ohachi crater). The original shrine stood there until the middle of the tenth century, when volcanic eruptions at Ohachi forced the shrine to be moved to Takachihogawara, the current site of Furumiya Ato. The shrine was completely destroyed in a huge eruption in 1234 and rebuilt in 1484.

Visitors can visit the old shrine ruins at Furumiya Ato, where ceremonies are still held regularly. One of the most famous

is the Tenson Korin Festival, a yearly celebration of Ninigi no Mikoto's arrival on Earth which takes place on November 10th. Hikers can also enjoy impressive views of the Ohachi crater and Mt. Nakadake from here, and bright azaleas surround the site in late spring.

Soothe Your Soul in Kirishima's Healing Hot Springs

Kirishima derives its name from the mists that shroud it, and the steam from the many hot springs. Kirishima boasts a multitude of hot spring locations, each with a wide range of baths which offer a variety of temperatures, compositions, facilities, and views over the region. Some places offer not only a soothing bath to soothe sore muscles and ease your mind, but also provide meals featuring vegetables and eggs boiled in the mineral rich spring waters. With so many hot springs, it's almost impossible to choose just one. Fortunately, many hotels open their baths to non-guests for a small fee, so visitors may try as many as they please. After your bath enjoy a refreshing glass of natural spring water, filtered through the Kirishima Mountain Range.

A Gastronomic Paradise Packed with Local Delicacies

Kirishima offers a bountiful selection of delectable regional specialties that cater to all tastes. Notable local specialties include succulent pork, beef and chicken, best eaten with *shochu*, a type of local distilled liquor made from sweet potatoes.

Tea fans should sample Kirishima *cha*, the local green tea, considered one of the best in Japan. The tea bushes are cultivated in the cool climes and thick mists of the area, shielding them from ultraviolet rays, which yields a rich and full-bodied flavor.

Kirishima's *kurozu*, or black vinegar, is brewed outdoors in rows upon rows of centuries-old ceramic jars. The vinegar is said to aid digestion and lower blood pressure, and is very soft on the palate.

The Formation of the Kirishima Mountain Range

The Kirishima Mountain Range is a series of approximately twenty geologically complex volcanoes. A few of them are still active, which means that the area is in constant flux. The region first became active approximately 530,000 years ago when the volcanic crater of the Kobayashi Caldera was formed on the northeaster side of what is now the Kirishima Mountain Range. Some 340,000 years ago there was another huge eruption, forming the Kakuto Caldera to the northwest and largely completing the topography you see today. Other major eruptions include the eruption at Mt. Karakuni between 17,000 to 7,300 years ago, which created the region's highest peak. Though many of the volcanoes have not erupted in thousands of years, the landscape continues to change, as vegetation and forests transition and grow thicker with time.

Climb the Mystic Peaks

There are numerous hiking courses suitable for beginners and experts alike, ranging from two-hour treks to full day hikes with some climbing involved. The courses around Ebino Kogen Highlands offer relatively gentle walks even in the winter, taking you around three crater lakes and giving you a chance to get close to the wildflowers in the area. More experienced hikers may appreciate the Mt. Karakuni trail, which presents a real challenge and allows you to experience the volcano's slopes firsthand. Local tourist information centers and eco museums have all the information you need to make your visit a memorable one.

Please remember that there are still active volcanoes in the Kirishima Mountain Range. Be sure to check the latest information on volcanic activity before setting out.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

霧島発見：伝説が息づく島を探検

※Land of legends:直訳では「伝説の島」となってしまうため、誤解のないよう補足（息づく）を加えています。

古代神社を通り別世界へ

「霧の島」の名の通り、霧島は霧、神話、そして伝説にまつまれた山岳地帯です。古き霧島神宮はこの神秘的な地域とその神話への入り口。この地域は、日本最古の歴史書『古事記』——日本誕生や初代天皇に加え、神や女神に関する幻想的な説話を記した書——にも登場します。霧島神宮では、日本の初代天皇の先祖、そして太陽神である天照大神の孫とされている瓊瓊杵尊（ニニギノミコト）が祀られています。ここには何世代にも渡って、金運や恋愛運を求める人たちが神社の広大な敷地に足を運んできました。周辺地を探検する前に、立派な朱塗りの建物で祈るのです。

地上に降臨した神

伝説によると、神である瓊瓊杵尊は地上世界を統治するために天空から舞い降りたとされています。彼は霧島連山にある高千穂峰の頂上に降り立ち、持っていた三叉の槍、天逆鉾（アマノサカホコ）を地に突き立てて降臨を知らせました。この槍は山峰の岩から突き出ており今でも見ることができるといわれています。また、瓊瓊杵尊は日本の皇族の先祖とされています。伝説によると、日本初代天皇である神武天皇は瓊瓊杵尊のひ孫であり、その御子孫は、太陽神の天照大神から瓊瓊杵尊に授けられた三種の神器、剣・鏡・勾玉を今でも持っているといわれています。

旧霧島神宮の地、古宮址

霧島神宮は現在、山の麓に位置していますが、6世紀に建てられた当初の建物は、背門丘（セトヲ）——瓊瓊杵命が降臨したとされる高千穂峰と、火常峰（ヒノトコミネ、御鉢クレーターの旧名）の間の窪み——にあり、10世紀半ばまではここに鎮座していました。この時御鉢の火山噴火があり、古宮址の現在地、高千穂河原に移らざるをえなく

なったのです。1234年の大噴火で神社は全壊しましたが、1484年に再建されました。

古宮址の旧神宮跡では今も定期的に祭祀が行われており、訪問することができます。中でも最も有名な祭りの一つ、天孫降臨祭は、毎年瓊瓊杵尊の地上降臨を祝って11月10日に開催されます。登山者の方も、ここから御鉢クレーターと中岳の壮観な景色をお楽しみになれます。そして晩春には、あたりは鮮やかなツツジに囲まれます。

心を癒やす霧島温泉郷

霧島という名前は、この地を包む霧と、数々の温泉から噴き出る蒸気に由来します。霧島には多数の温泉施設が点在します。温泉の湯船は様々で、それぞれ異なる温度、化学成分、設備、景色をお楽しみいただけます。心地良い温泉で筋肉痛を和らげて心を落ち着かせるだけでなく、ミネラル豊富な温泉水でゆで上げた卵や野菜で彩られた食事を提供している温泉施設もあります。これだけ温泉の数が多いと、ひとつに絞るのはとても難しいことです。幸い、ホテルの多くはわずかな手数料で宿泊客以外にも湯船を解放しているので、好きなだけ温泉を試すことができます。湯船から上がった後、霧島山から流れ出した新鮮な天然温泉水を一杯いかがですか。

地元の名物が目白押しのおいしいグルメの楽園

霧島には、どんな好みをお持ちの方でも楽しめる名物料理がたくさん揃っています。注目の特産品は、ジューシーな豚肉や牛肉、そして鶏肉です。さつま芋が原料の地元醸造焼酎と一緒にいただくのがベストです。

お茶がお好きな方には地元の日本茶、霧島茶をお試しいただくことをお勧めします。霧島茶は日本屈指のお茶と考えられています。茶畑は、現地の霧深く冷涼な気候で栽培することで紫外線から守ることができ、コクのある豊かな香りの茶が生まれます。

霧島の黒酢は、何百年もの歴史がある陶器の壺に入れ、これを何列も並べ屋外で醸造します。このお酢は非常に口当たりが良く、消化を促し血圧を下げる働きがあるとされています。

霧島連山の形成

霧島連山は、複雑な地質構造の火山が約20個連なっています。中にはまだ活動しているものもいくつかあり、周りの地域は常に変化しています。この地域で最初に活動が始まったのは、現在の霧島連山となる場所の北東側に小林カルデラの火山性クレーターが形成された約530,000年前です。340,000年ほど前にも大噴火があり、北西側に加久藤カルデラを形成して今の地形がほぼ完成しました。他にも、17,000～7,300年前の間に起こった韓国岳の噴火はこの地域の最高峰を生み出しており、主要噴火の一つとなっています。多くの火山では何千年も噴火が起きていませんが、時の経過とともに草木や森林構造が推移、繁茂することで地形は変わり続けています。

神秘的な山頂への登山

登山コースはたくさんあり、2時間のトレッキングから、険しい箇所も登る日帰り登山まで、様々なレベルに適したルート

を用意しており、初心者にも上級者にも適しています。えびの高原のコースは冬でも比較的易しく、3つの火口湖を歩いてまわり地域の野花を間近で見ることができます。登山経験豊富な方であれば、韓国岳のルートが楽しめるでしょう。火山の急坂を直に経験することができ、本格的なチャレンジコースとなっています。現地の観光情報センターとエコミュージアムで必要な情報を余さず入手し、忘れられない旅にしましょう。

霧島連山にはまだ活動している火山もあることをお忘れなく。出かける前に火山活動の最新情報を必ずご確認ください。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】桜島

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Akamizu View Park and Sakebi no Shozo Statue

A park with sweeping views of Kinkowan Bay and Kagoshima City, the focal point is a statue made of lava rock entitled Sakebi no Shozo, “The Shout,” which commemorates a large, all-night concert held in 2004 by Nagabuchi Tsuyoshi, a famous singer from Kagoshima Prefecture.

Sakurajima Sea Fishing Park

Keen anglers can try their hand at the park’s pier, where largescale blackfish, marbled rockfish, and other sealife swim in the six-to nine-meter-deep water.

Nagisa Lava Trail

Connecting Nagisa Lava Park and Karasujima Observation Point, this three-kilometer trail winds its way along the lava fields created by the 1914 Taisho eruption. Along the trail observe how nature has gradually taken over the lava-strewn path since the eruption over a 100 years ago, starting with mosses and short grass and now including black pine flourishing among the volcanic rocks.

Yunohira Observatory

Located 373 meters above sea level on the slopes of the Mt. Kitadake peak of Sakurajima, Yunohira Observatory is the closest viewing platform to the mountain itself and offers 360-degree views of Kitadake, Kagoshima City and Kinkowan Bay. In clear weather you can see the Kirishima Mountain Range.

Sakurajima Dinosaur Park

This park is a hit with children and adults alike, as Sakurajima’s terrain lends itself well to imagining a land where dinosaurs might still roam the earth! There are seven enormous dinosaur statues, as well as slides over 10 meters high. There are climbing frames for kids to play in a unique setting.

Karasujima Observatory

Though it might not seem so at first glance, this area was actually an island separated from Sakurajima until the 1914 eruption during the Taisho period (1912–1926). Called Karasujima, or Crow Island, it now lays deep beneath the lava flow that consumed it and incorporated it into Sakurajima.

Furusato *Onsen* Resort

The Furusato *Onsen* Resort is home to a few quaint hot spring hotels which boast hot springs heated by Sakurajima itself. Guests can bathe while looking out over Kinkowan Bay.

Sakurajima Visitor Center

Discover everything there is to know about Sakurajima, from its history and inner workings to its vegetation, lava flows and so much more at the Sakurajima Visitor Center.

Arimura Lava Observatory

At the foot of Minamidake, sitting on a lava hill from the 1914 Taisho eruption, the observatory and its one-kilometer path allow you to appreciate the conical silhouette of the volcano from a completely different perspective. You can look out across Kinkowan Bay, and on clear days, Mt. Kaimondake may also be visible.

Sakurajima International Volcanic Sabo Center

Mudslides are a regular occurrence on Sakurajima, and at the Sabo Center visitors can learn about preventative technology, erosion control, and more through a number of interactive exhibits.

Hayashi Fumiko Literary Monument (Furusato Park)

A monument to novelist Hayashi Fumiko (1903–1951), whose mother lived on Sakurajima. She is best known for her short story “Horoki,” known in English as “*A Wanderer’s Notebook*.” Souvenir shops nearby sell her books and other memorabilia.

Kurokami Buried Shrine Gate

This three-meter-tall torii gate was almost completely buried in two meters of ash and pumice in the 1914 Taisho eruption, which sent volcanic matter 8,000 meters into the air. The gate stands as a reminder for future generations of the power of nature.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

赤水展望広場と叫びの肖像

錦江湾と鹿児島市を一望できる広場のメインは、『叫びの肖像』（“The Shout”）と題された溶岩で創られた像です。これは鹿児島県出身の有名歌手、長渕剛が 2004 年に開催した、大規模なオールナイトコンサートを記念して建てられました。

桜島海づり公園

釣り愛好家は公園の埠頭で釣りに挑戦できます。ここでは 6～9m の深さの水にメジナやカサゴなどの海洋生物が泳いでいます。

溶岩なぎさ遊歩道

溶岩なぎさ公園と烏島展望所とつながるのは溶岩なぎさ遊歩道です。1914 年の大正噴火によって形作られた溶岩原を通る、3km の遊歩道です。遊歩道に沿って、100 年以上前の噴火以来、溶岩がまき散らされた道がしだいに自然を取り戻した姿をご覧ください。はじめは苔や短い草ばかりでしたが、今では火山岩の間にクロマツが生い茂っています。

湯之平展望所

桜島の山頂である北岳の中腹に位置する海拔 373m の湯之平展望所は、山そのものに最も近い展望台です。ここでは北岳、鹿児島市、そして錦江湾を 360°見渡すことができます。天気が良いと、霧島連山も見られます。

桜島自然恐竜公園

子供にも大人にも大人気の公園。桜島の地形のおかげで、恐竜が今も地球上をうろついているような世界を思い描けます。巨大な恐竜の像は 7 つ、10m 以上の高さの滑り台もあります。独特な環境でお子様遊ぶジャングルジムもあります。

烏島展望所

一見そうは見えませんが、実はここ、大正時代（1912～1926 年）にあった 1914 年の噴火までは、桜島とは繋がっていない島でした。烏島と呼ばれた当初の島は、島を飲み込んだ溶岩の奥深くに眠っており、今では桜島の一部となっています。

古里温泉郷

古里温泉郷では趣のある温泉ホテルがいくつか営業しており、桜島自体によって熱せされた温泉をお楽しみいただけます。宿泊客は錦江湾を眺めながら浴槽に浸ることができます。

桜島ビジターセンター

桜島ビジターセンターでは、歴史や地域のメカニズム、植物、溶岩流だけに留まらず、桜島に関することなら何でも知ることができます。

有村溶岩展望所

1914年の大正噴火により南岳の麓にできた、溶岩の丘に位置する展望所と1kmの遊歩道。ここからの火山は円錐型に見え、まったく違う角度からの火山を拝むことができるロケーションです。錦江湾も望め、晴れた日には開聞岳が見られることもあります。

桜島国際火山砂防センター

桜島では土砂崩れはよくあることです。砂防センターにはインタラクティブな展示も多数あり、予防技術や砂防などについて学ぶことができます。

林芙美子文学碑（古里公園）

桜島暮らしの母親を持った小説家、林芙美子（1903～1951）に捧げた記念碑。彼女は短編小説『放浪記』——英語では“A Wanderer’s Notebook”で知られている——で最も有名です。近くのギフトショップでは彼女の本や記念品が売られています。

黒神埋没鳥居

高さ3mの鳥居は、1914年の大正噴火で2mもの灰や軽石を被りほぼ完全に埋没。この噴火では火山噴出物が8,000mも上空に舞いました。自然の脅威を知らしめる後世への教訓として、この鳥居は立っています。

本事業以前の英語解説文

なし

1380,1381

Nos.18, 19 Lake Miike

<霧島錦江湾国立公園、鹿児島・宮崎>

【施設名】御池

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Formation of Lake Miike

Approximately 4,600 years ago, the largest volcanic eruption in the history of the Kirishima Mountain Range occurred, leaving a gaping volcanic crater called a caldera. Water then filled the caldera to create Lake Miike.

With a depth of about 94 meters, and a circumference of roughly 3.9 kilometers, Lake Miike is both the largest and deepest of the Kirishima Mountain Range's caldera lakes. The lake is 305 meters above sea level and is surrounded by steep caldera walls that reach heights of 30 meters.

A Word of Caution About Land Leeches

The area around Lake Miike is home to land leeches. Visitors should make a conscious effort to avoid coming into contact with them. The leeches are active during the warmer months, generally June to September. While they don't pose a serious health risk if you are bitten, visitors should take the following precautions.

Be sure to wear high boots or long pants, and tuck pant-legs firmly into long socks. Spray feet liberally with repellent (see below), and wrap necks, shoulders and other exposed skin in repellent-soaked towels. A favorite habitat of the leeches is fallen leaves in the shade, so take care when walking the forest trails.

Suitable repellents include salt water (20% salt concentration), as well as commercial repellents.

Enjoying Your Visit to Lake Miike

Rising high behind Lake Miike, Mount Takachiho-no-mine overlooks the caldera lake and its shores, at times reflected in the lake's clear surface. Surrounded by thick forests of hardwood, the Lake Miike area is truly a nature-lover's paradise.

The lake's clean waters boast a bounty of fish, and its shores are a popular spot for anglers all year round.

Paddle boats, kayaks, and other watercraft are available for rent, and offer a relaxing way to enjoy the mountainous scenery while drifting lazily across the lake.

Out of the water and into the woods, well-maintained trails take hikers through the dense broadleaf evergreen forest and connect them with nearby Lake Koike, a small caldera lake to the west of Lake Miike. These woods, home to mushrooms, insects, and many other creatures, are nicknamed “*Yacho-no-Mori*”, or Wild Bird Forest for the many birds, a number of which are rare, that call the forest home. Not surprisingly, the Lake Miike area is a popular destination for birdwatchers.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

御池の形成

4,600 年ほど前、霧島連山史上最大の火山噴火があり、カルデラと呼ばれる火山性クレーターがぼっかりできました。のちにカルデラには水が溜まり、御池が形成されました。

深さ約 94m、円周およそ 3.9km の御池は、霧島連山のカルデラ湖の中で最大の深さと大きさを誇ります。湖は海拔 305m で、高さ 30m にも及ぶカルデラの急壁に囲まれています。

ヤマヒルに関する注意

御池周辺の地域にはヤマヒルが生息しています。接触することのないよう、訪れる方は十分に注意が必要です。ヒルは通常、6 月から 9 月にかけての暖かい月に活発です。噛まれても健康上のリスクは低いですが、訪れる際は以下の安全対策を行いましょ。

長靴に丈の長いズボンを必ず着用し、ズボンの裾は長い靴下にしっかり入れ込みます。虫除けスプレーをまんべんなく足にかけ（下記参照）、虫除け剤に浸けたタオルを首や肩など露出された肌にかけます。ヒルの好む棲みかには日陰にある落ち葉ですので、林道を歩く際は用心してください。

塩水（食塩濃度 20%）や市販の防虫剤などが虫除けにふさわしいです。

御池訪問の楽しみ方

御池の後ろにある高千穂峰は、カルデラ湖とその畔を見おろすように高くそびえ立っています。時には山の景色が、透き通った湖面に映り込みます。堅木の密林に囲まれた御池地域は自然愛好家にとって真の楽園といえましょ。

湖のきれいな水は豊富な魚を誇っており、畔は年中釣り人に人気のスポットとなっています。

パドルボードやカヤック、そのほかのウォータークラフトもレンタルすることができ、湖をゆったり流れながら山景色を楽しめる

くつろぎのひと時を提供します。

水から出たら今度は森へ。整備の行き届いた歩道を歩き、深い常緑広葉樹林を抜けると、近くに小池があります。小池は御池の西側に位置する小さなカルデラ湖です。きのご類や昆虫、そのほか多様な生物が棲んでいることから、この森は「野鳥の森」(“Wild Bird Forest”)として親しまれています。この森に生息する多様な鳥類の中には珍しいものもあり、御池地域は当然、野鳥観察で人気のスポットとなっています。

本事業以前の英語解説文

なし

1382, 1383, 1384

Nos.20, 21, 22 Cape Sata

<霧島錦江湾国立公園、鹿児島・宮崎>

【施設名】佐多岬
【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Cape Sata Observatory

Follow the undulating 800-meter path to reach the observatory for stunning panoramic views of the Pacific Ocean and the East China Sea. On clear days it is possible to see Mt. Kaimon, a 924-meter volcano also known as “the Mt. Fuji of Satsuma,” as well as the islands of Iojima, Takeshima, Tanegashima, and Yakushima.

Misaki Shrine

Located part way along the walking trails to the observatory, Misaki Shrine stands beneath the dense foliage of tropical trees. Though its exact origins are shrouded in mystery, it is said that the shrine was established in the year 708, in a cave on the steep rock face of Cape Sata. The shrine is now popular with those looking for luck in love due to its distinctive red color and countless *inome* motifs, which resemble hearts. The design actually represents the eye of the wild boar, an ancient Japanese symbol used to ward off harmful spirits.

Lighthouse Keepers' Square

Separated from the lighthouse itself, the British-designed lighthouse keepers' quarters sit at the southernmost tip of Cape Sata on the Osumi Peninsula. While only part of the original structure remains, both the lighthouse keeper's quarters and lighthouse itself are of important historical and cultural value to the area.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

佐多岬展望所

起伏のある遊歩道を 800m 歩くと、太平洋と東シナ海の雄大なパノラマ風景を見渡せる展望台にたどり着きます。晴れた日には別名「薩摩富士」とも呼ばれる標高 924m の火山、開聞岳に加え、硫黄島、竹島、種子島、屋久島も見られます。

御崎神社

展望台に続く遊歩道の途中に位置する御崎神社は、生い茂る亜熱帯の木々の間に佇んでいます。その正確な起源は謎に包まれています。神社は 708 年、佐多岬の険しい岩肌に佇む洞窟に建てられたといわれています。その特徴的な赤色や、所々に見られるハート型のような猪目のモチーフのおかげで、今は縁結びを求めてやってくる人々の間で有名です。このモチーフは実は猪の目を象徴しており、日本では古代より魔除けのシンボルとされています。

灯台守広場

灯台そのものからは切り離された灯台守広場。英国人により設計され、大隅半島の佐多岬最南端に位置しています。当初の構造の一部しか今は残っていませんが、灯台守広場も灯台も、この地域にとって重要な歴史的・文化的価値を有しています。

本事業以前の英語解説文

Sightseeing Spots

Enjoy the full view of the Pacific Ocean and the East China Sea. In clear weather, Mt. Kaimon (924 meters above sea level) which is sometimes referred to as the Fuji of Satsuma, and islands such as Ioujima, Takeshima, Tanegashima, and Yakushima can be seen.

Located alongside the jungle-like pathway to the Cape Sata Observatory, Misaki Shrine is said to have been established with a cave on a steep rock face of Cape Sata in 708, the same year Wado Kaichin. The oldest official Japanese currency was first minted.

Located separately from the Lighthouse, the Lighthouse Keeper's Quarters are of British design. Although only a small section of the original structure remains. These quarters along with the Lighthouse (the oldest in Japan) are important cultural and historical treasures.

1385,1386

No.23, 24 Cape Sata

<霧島錦江湾国立公園、鹿児島・宮崎>

【施設名】佐多岬

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Ruins of the First Lighthouse Keepers' Quarters

The site of the first lighthouse keepers' quarters is on a cliff edge above the Pacific Ocean, separated from the lighthouse itself by a short stretch of ocean. The house was designed and built by the British along with the lighthouse in 1871. The structure was made of stone with a single floor, roughly 70 meters square. It faced east towards the village of Tajiri. The residence was isolated and surrounded by pristine forests and steep cliffs. The Japanese and English families that worked here lived separately, as was the custom of the era. Though only part of the stone walls remains, the first lighthouse keepers' quarters are an important cultural and historical landmark.

Cape Sata Lighthouse

Sitting on a small island just off the southernmost tip of Osumi Peninsula, the Cape Sata Lighthouse is one of the oldest Western-style lighthouses in Japan. This was one of a number of lighthouses built after the opening of Japanese waters to foreign ships in the Meiji period (1868–1912) to fulfill Japan's treaties with foreign powers to improve the safety of coastal waters. The Cape Sata lighthouse protected ships passing Cape Sata headed for Shanghai and other distant ports. Designed and built by Scotsman Richard Henry Brunton (1841–1901), the original structure was made of steel and completed in October 1871.

To allow the lighthouse keepers to reach the lighthouse, two gondolas were built to join Owajima, the rocky island upon which the lighthouse sits, with the mainland. The first gondola connected the southernmost tip of Cape Sata to the small island of Nakanoshima, while the second joined Nakanoshima to Owajima.

Destroyed in 1945 during a wartime attack, the Cape Sata lighthouse was rebuilt in concrete in 1950. Still in use, it has been unmanned since 1985.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

初期の灯台守広場跡

初代の灯台守広場は太平洋に浮かぶ崖の縁に位置し、海により少し隔てられ灯台そのものからは切り離されています。

す。ここにある家は、灯台と一緒に 1871 年に英国人により設計・建設されたものです。一階建ての石構造で、面積は約 70 m²。田尻の村にむかって東に面していました。この住人は、手つかずの自然と断崖に囲まれ孤立していました。そしてこの時代の習わしにより、ここで働いていた日本人家族とイギリス人家族は別々に暮らしていました。今では石壁の一部しか残っていませんが、初代の灯台守広場は重要な歴史的・文化的史跡です。

佐多岬灯台

大隅半島最南端の沖合にある小さな島に鎮座する佐多岬灯台は、日本最古の西洋式灯台の一つです。沿岸水域の安全性向上を目的として結んだ外国勢力との条約を履行するために、明治時代（1868～1912 年）に日本の領海が外国船に開放されてから建てられた数々の灯台の一つです。佐多岬灯台は、上海や遠方の港に向かう途中に佐多岬を通った船を守ってきました。設計・建設を手がけたのはスコットランド人のリチャード・ヘンリー・ブラントン（1841～1901 年）。当時の構造は鉄でつくられ、1871 年 10 月に完成しました。

灯台守が灯台まで行くために、本土から灯台のある岩だらけの大輪島にかかるゴンドラが 2 台作られました。1 台目のゴンドラは佐多岬最南端から中之島とよばれる小さな島まで伸び、2 台目は中之島と大輪島を結んでいました。

佐多岬灯台は 1945 年の戦時中の攻撃により崩壊しましたが、1950 年にコンクリートで再建されました。今でも使われていますが、1985 年からは無人となっています。

本事業以前の英語解説文

なし

1387,1388,1389,1390,1391

Nos.25, 26, 27, 28, 29 Ebino Kogen Highlands

<霧島錦江湾国立公園、鹿児島・宮崎>

【施設名】えびの高原

【整備予定媒体】パンフレット

できあがった英語解説文

Escape from the stresses of modern life and get back to nature at Ebino Kogen Highlands, a nature resort of volcanoes, lakes, and forests in the heart of the Kirishima Mountain Range. Approximately 1,200 meters above sea level, the average temperature is about 6 degrees centigrade lower than the southern Kyushu average, rarely reaching 30 degrees centigrade even in the summer. The cooler climate means that the basin-shaped plateau is home to vegetation rarely seen so far south.

Flora and Fauna

This area is particularly famous for the Miyama Kirishima azaleas that bloom in late May and the Japanese pampas grass in late August to mid-October. Providing a soundtrack to your nature walk are birds such as the Japanese green woodpecker and cuckoos. Wild *shika* deer are plentiful, but please remember not to disturb them in their natural habitat and never offer them food.

Facilities

At the Ebino Eco Museum Center, visitors will find displays that explain the plateau's flora and fauna, as well as information on hiking and events, and everything you need to plan your route through the highlands. For those wanting to stay overnight and enjoy the exceptionally clear starry skies, there is a hotel nearby with a restaurant and day-use hot spring facilities, as well as a large campsite. There is a foot bath next to the car park.

Hiking

Trails of various levels of difficulty wind through the area, from short family-friendly hikes to medium- and long-haul treks heading deeper into the mountains. A nature trail that wends its way around the three lakes to the north of the plateau makes for a half-day route, and there are shorter walks that can be completed in around two hours.

Mountains and Lakes

Sitting high in the Kirishima Mountain Range, Ebino Kogen Highlands is surrounded by volcanic mountains. The highest, Mt. Karakuni, rises 1,700 meters above sea level. The area is also home to volcanic crater caldera lakes, most

notably the cobalt blue Lake Fudoike.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

霧島連山の中心に位置するえびの高原。火山や湖、森が豊かな大自然のリゾートで、自然に戻り現代生活のストレスから解放されましょう。海拔約 1,200m で、南九州の平均より 6℃ほど低い平均気温によって、夏でも 30℃を超えることは滅多にありません。冷涼な気候により、極南では珍しい植物もこの盆地状の高原では育ちます。

動植物

この地域は特に「ミヤマキリシマ」とよばれる 5 月下旬に咲くツツジと、8 月下旬～10 月半ばにかけてみられるススキで有名です。自然の中を歩く間サウンドトラックを奏でるのは、アオゲラやカッコウの鳥類。野生の鹿もたくさんみられますが、生息域で鹿を刺激しないようご注意ください。また、餌を与えるのも禁物です。

施設

えびのエコミュージアムセンターには、高原の動植物を説明する展示に加え、ハイキングやイベントに関する情報など、高原の散策ルートを決めるのに必要なものが揃っています。一泊して満天の星空を眺めたい方には、近くにレストランと日帰り温泉施設が揃ったホテルに加え、広いキャンプ場があります。駐車場の横には足湯もあります。

登山

この地域には様々なレベルのルートが点在しており、家族連れにうれしい短いコースや山の奥深くまで行く中・長距離トレッキングコースもあります。半日自然散歩コースでは高原の北側に向かい、3 つの湖の周りを進みます。他にも、2 時間ほどで帰ってこられる短めのコースもあります。

山と湖

霧島連山の高みに鎮座するえびの高原は火山に囲まれており、最高峰の韓国岳は海拔 1,700m にもなります。地域には火山性クレーターのカルデラ湖も見られ、中でも有名なのがコバルトブルーの不動池です。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】えびの高原
【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Ebino Kogen Highlands

The plateau of Ebino Kogen Highlands is 1,200 meters above sea level in the Kirishima Mountain Range. Records indicate that as early as the tenth century, the area was being visited by practitioners of shugendo, mountain ascetics, and the Satsuma feudal lords that ruled this area. During the Edo period (1603–1867), sulfur mining began in earnest in this area and continued until 1962. In the 1950s, Miyazaki Prefecture began developing the area for nature tourism, building huts for mountain climbers, and building a road to the plateau.

The landscape of Ebino Kogen Highlands has been shaped by the surrounding volcanoes whose toxic gases and volcanic activity have limited the variety of plants that can grow here. Japanese pampas grass, however, thrives in this difficult environment. In fact, a common theory on how the plateau was named involves the pampas grass, which turns reddish-brown —*ebi no iro* or “the color of shrimp”—in the fall as a result of the gases.

Miyama Kirishima azaleas prosper in this harsh environment. The high-altitude azalea—it grows in areas 700 meters above sea level and higher—blooms from late May until early June. As volcanic activity stabilizes and the soil quality improves, the surrounding forest may encroach on the azalea’s territory. However, for now, the region’s unique harsh environment is the Miyama Kirishima azalea’s greatest ally.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

えびの高原

えびの高原は霧島連山に位置し、海拔 1,200m のところにあります。記録によれば早くも 10 世紀ごろから、山で苦行を行う修験道の実践者や、地域を統治していた薩摩藩主がここを訪れていました。江戸時代（1603～1867 年）には硫黄採掘が本格的に始まり、1962 年まで続きました。1950 年代には自然観光のために宮崎県が地域開発を開始し、登山者用の小屋や高原に向かう道路を建設しました。

えびの高原の地勢は周囲の火山によって形成されており、その有害ガスや火山活動のために育つ植物が限られていました。そんな中、ススキはこのような厳しい環境でもたくましく伸びています。実際、秋になるとススキがガスの影響により

赤茶色——えびの色 (*the color of shrimp*) ——に変わることから、高原の名前の由来もススキに関連していると一般的に考えられています。

ミヤマキリシマのツツジも、この厳しい環境ですくすく育ちます。海拔 700m 以上の高地で育つこのツツジは、5 月下旬から 6 月初旬にかけて咲きます。火山活動が安定し土壌が良好になると、ツツジ生息域は周囲の森に飲み込まれる可能性があります。今のところはこの地域の独特な過酷環境がミヤマキリシマツツジの最大の支えとなっています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】えびの高原
 【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

The Vegetation of Ebino Kogen Highlands

Despite the volcanic activity and gases, a surprising variety of vegetation is able to not just put down roots, but thrive in the Ebino Kogen Highlands. The secret to this diversity is the subtle incremental changes in air and soil quality. While one plant might not be able to grow near volcanic vents, it might flourish just a short distance away.

Mongolian oak, Japanese beech, maple, and other tall trees grow along the nature trail that takes in the three crater lakes. Further out, around the Kawayu River, these deciduous trees thin and the forest is dominated by Japanese red pine, a tree better able to endure the poorer soil quality. Moving closer to Mt. Ioyama, the quality of the soil declines further, and the red pines start to thin.

Further up the roadway is Tsutsujigaoka, “Azalea Hill,” where Miyama Kirishima azaleas, as well as peegee hydrangeas and other shrubs grow. From here, the soil quality drops again, and Japanese pampas grass takes over, first growing thickly, but becoming gradually sparser closer to the volcano.

Nearing the volcanic vents, the pampas grass disappears, making way for a moss-like ground cover. In the immediate vicinity of the very active Mt. Ioyama, almost all vegetation disappears.

Photo Captions (Right to left, and bottom to top):

Thick forest grows where the land was once barren and rocky.

Miyama Kirishima azaleas and other small trees grow as soil quality worsens.

The soil becomes shallower, and Japanese pampas grass grows thickly.

The pampas grass thins as the soil quality declines.

Grass grows in soil created by moss.

In the cracks and cavities of the rock, moss grows: where all other vegetation may struggle, moss always finds a way to grow no matter how harsh the environment.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

えびの高原の植生

火山活動と火山ガスをよそに、えびの高原では驚くほど多種多様な植物が、根を張るだけでなく、生い茂っています。この多様性の秘密は、微妙に変わりゆく空気と土壌の質にあります。火口近くでは育たない植物も、ほんのすこし離れたところでは繁茂することがあるのです。

ミズナラ、ブナ、カエデなど、3つの火口湖をめぐる自然道には高木が立ち並んでいます。さらに進むと、川湯の周りではこれらの木々はまばらになり、代わりに粗悪な土壌にも耐えるアカマツが森林を占領しています。硫黄山に近づく土壌の質はさらに劣化し、アカマツもまばらになります。

車道をさらに上に進んで行くと、つつじヶ丘（*Azalea Hill*）があります。ここではミヤマキリシマツツジのほか、リウツギやその他の低木が育ちます。ここからは土壌の質がさらに低下し、代わってススキが見られます。最初の方では繁茂していますが、火山に近づくにつれて段々まばらになっていきます。

火口付近ではススキも消え、コケのような地被植物があらわれます。活火山である硫黄山のすぐ側では、植物はほぼ皆無です。

写真のキャプション（右から左、下から上）

かつて岩だらけの荒野だった地に繁茂する森林。

土壌の質が悪化するなか育つ、ミヤマキリシマツツジや小さな樹木。

土壌が浅くなり、生い茂るススキ。

土壌の質が低下し、まばらになるススキ。

コケでできた土壌に育つ草。

岩の割れ目やくぼみに生えるコケ。他の全植物が苦戦する中、どんなに厳しい環境でも育つ術を見つけるのがコケです。

本事業以前の英語解説文

なし

1394

No.34 Lake Onami-ike

<霧島錦江湾国立公園、鹿児島・宮崎>

【施設名】大浪池

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

The Formation of Lake Onami-ike

The Kirishima Mountain Range of southern Kyushu is home to over 20 volcanoes, including the larger Mt. Karakuni and Mt. Takachiho. These volcanoes resulted from a great number of eruptions that took place over hundreds of thousands of years. The waters of Lake Onami-ike sit in the crater created by one of these huge volcanic blasts.

Originally a relatively small volcano, Lake Onami-ike acquired its current form as the result of an eruption that took place approximately 45,000 years ago, predating Mt. Karakuni, Mt. Takachino, and many of the area's other volcanoes. So large was the eruption that the pumice and ash ejected from the volcano spread as far as the Miyazaki Plains approximately 50 kilometers to the east, where a 20-centimeter layer of volcanic debris rained down.

The magma expelled from the Lake Onami-ike volcano piled up around the crater, creating the shape of the mountain as it is today. Post-eruption, the crater filled with groundwater, forming the highest crater lake in Japan at 1,412 meters above sea level.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

大浪池の形成

南九州の霧島連山には、韓国岳と高千穂峰の大きめの山を含む 20 以上もの火山があります。これらの火山は何百年、何千年もの間に起こった噴火の数々によって生まれました。そのうちのひとつの大噴火で生まれたクレーターに水がたまってできたのが、大浪池です。

本来は比較的小さな火山でしたが、約 45,000 年前——韓国岳と高千穂峰を含む地域の数々の火山が生まれるより前——に起こった噴火を受け、現在の形になりました。この噴火は、吹き上げられた軽石や火山灰が 50km ほど東にある宮崎平野まで届き、ここで火山噴出物が 20cm も積もるほど、壮大なものでした。

大浪池の火山から流出したマグマはクレーターの周りに蓄積し、現在見られる山の形状となりました。噴火後、クレーターには地下水が溜まり、海拔 1,412m で日本最高峰の火口湖を形成しました。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】大浪池
【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

The Mysteries of Lake Onami-ike

The Mystery of Kirishima's Crater Lakes

Lake Onami-ike has a secret that it shares with many other crater lakes in the Kirishima Mountain Range. Even though there are no rivers or streams supplying the lake with water, its water level remains almost unchanged year-round. What could possibly be the reason behind this curious phenomenon?

There's more to Lake Onami-ike than meets the eye. The lake's water source is subterranean. The bottom of the crater sits below the water table, which is what fills the crater with water, reflecting the abundance of water in Kirishima.

Lake Onami-ike's Stunning Autumnal Foliage Explained

In autumn, the vegetation around Lake Onami-ike turns bright shades of red and yellow, even though this is not the case for nearby mountains such as Mt. Shinmoedake and the Ohachi Crater. This difference is caused by differences in how the different areas have developed over time.

In the vicinity of volcanoes that have recently experienced volcanic activity, like Mt. Shinmoedake and the Ohachi Crater, only grasses and sparse woodlands grow. Where more time has passed since the last eruption, like Lake Onami-ike, ecological succession has had time to progress, leading to the development of an ecosystem in which a more varied plant population exists in relative stability. The difference in variety causes the difference in autumn foliage.

Among the momi fir, southern Japanese hemlock, and various evergreens that grow around Lake Onami-ike are Japanese beech, oak, and other broadleaf deciduous trees. These trees, whose leaves change color in autumn, were widely distributed in southern Kyushu during the last ice age, which reached its peak approximately 20,000 years ago. As the climate warmed, however, they disappeared everywhere but in the high-elevation areas of the Kirishima Mountain Range.

The comparatively recent volcanic activity of volcanoes in other areas has destroyed the ecological communities once

home to deciduous forests descended from the ancient broadleaves. Since Lake Onami-ike last erupted approximately 45,000 years ago, its color-changing flora has been able to fully grow and stabilize.

The analysis of vegetation surrounding a volcano tells us a great deal about its origins and history. Look carefully at the grasses, shrubs, and trees growing in the Kirishima mountains as you explore, and experience the vibrant history of the mountain range.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

大浪池の神秘

霧島の火口湖の謎

大浪池は、霧島連山に点在する数多くの火口湖と同じ秘密をもっています。湖に水を供給する川や細流がないにも関わらず、水位はほぼ年中変わりません。この不思議な現象は一体何が原因で起こるのでしょうか？

大浪池の正体は、目に見えるものだけにとどまりません。湖の水源は地下にあります。クレーターの底面は地下水面の下に位置し、これがクレーターに水を貯めるのです。そしてこの現象が、霧島の水の豊かさを反映しています。

大浪池の紅葉が美しい理由

秋になると、大浪池の植物は、鮮やかな赤と黄色の色調で彩られます。近くの新燃岳や御鉢クレーターではこれが見られませんが、この違いは、異なる地域が発展していった過程での相違点により生まれます。

新燃岳や御鉢クレーターなど、近年火山活動を経験した火山帯においては、草やまばらな森林地しか育ちません。大浪池のように、最後の噴火から長い時間が経過しているところでは生態遷移も進んでおり、そのために多様な植物類が比較的安定して生息できる生態系が発展します。そしてこの多様性の違いが、紅葉に見られる違いを生み出します。

大浪池の周辺で育つ木には、もみの木、ツガ、多様な常緑樹の他に、ブナやナラなどの落葉広葉樹があります。これらの木々は秋になると葉が色変わりますが、南九州に広く分布していたのは最後の氷河期の間で、20,000 年前にピークを迎えました。気候が温暖になるにつれて、これらの木々はいたるところから消えました——霧島連山の標高が高い地域を除いて。

他の地域の火山では、比較的最近の火山活動により、古代の広葉樹の系統を引く落葉樹林が生息していた生態群集が破壊されました。大浪池の最後の噴火は 45,000 年ほど前であったため、色の变化する植物も十分に生長し、安定して育つことができます。

火山周辺にある植物の分析は、その起源と歴史について多くを物語ります。霧島連山を探検しながら地域の草や低

木、そのほかの木々をよく観察してみましょう。霧島連山の豊かな歴史に触れることができます。

本事業以前の英語解説文

なし

1396

No. 37 Lake Onami-ike

<霧島錦江湾国立公園、鹿児島・宮崎>

【施設名】大浪池
【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

The Legend of Lake Onami-ike

According to local legend, in ancient times a village head and his wife lived at the foot of a mountain. Though wealthy, there was one thing they both desired over anything else: a child.

After many years of wishing, hoping, and praying, the couple was finally blessed with a beautiful baby girl, whom they named Onami. They doted on her and she grew up kind and gentle. She became more beautiful and graceful with every passing day. As she reached adulthood, Onami began to receive offers of marriage from all over the land. But when her parents brought up the topic with her, she simply smiled sadly.

One night, as the moon shone brightly through the Kirishima forest, Onami suddenly announced, “I want to go to the mountain.”

Her father begged her not to go, but Onami insisted, so he accompanied her on the journey. They wandered through the trees, finally arriving at a lake. Onami’s eyes lit up as soon as she saw it. She suddenly broke free from her father’s grasp and jumped into the lake. As the ripples in the bluish black lake disappeared, the forest fell silent. In that moment Onami’s father realized she was not coming back and became mad with grief, calling her name.

He paced around the lake’s perimeter, but no matter how much he searched, Onami was never seen again.

It was only later that it became apparent that Onami was actually the dragon king of the lake. He had heard the village head and his wife’s desperate wish for a child and pitied them. To make their wish come true, the dragon king had turned himself into the couple’s child, if only for a while.

Since that day, the lake has been known as Lake Onami-ike.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

大浪池の伝説

この地域の伝説によると、大昔のこと、村長と村長夫人は山の麓に暮らしていました。裕福な2人でしたが、何よりも望んでいたことが一つありました。子供を授かることです。

夫婦は何年も願い、望み、祈り続け、ついに美しい女の子の赤ちゃんに恵まれました。彼らは赤ん坊を「お浪」と名付けます。両親に可愛がられたお浪は、優しく穏やかな子に育ちました。そして彼女は日に日に、より上品に美しくなっていました。成人したお浪は、あちこちから結婚の申し込みを受けるようになります。しかし、両親が結婚の話題を持ち出すと、彼女は悲しそうに微笑むばかり。

ある晩、霧島の森に明るい月光が差しこむと、お浪は突然、「山に行きたい」と言い出します。

彼女の父は思いとどまるよう懇願しましたが、お浪は言い張ります。そこで、彼は彼女にお供することにしました。2人は木々の間をさまよい、ついにある池に到着しました。それを見るやいなや、お浪の目が輝きます。そして彼女は掴まれていた父の手を突然振り切り、池に飛び込みました。青黒い池のさざ波が消えると、森は静まり返りました。この時、お浪が戻ってこないことに気がついたとたん、父は悲しみに気が狂い、彼女の名前を呼びます。

彼は池のほたりを行ったり来たりしましたが、どれだけ探しても、お浪の姿を見ることは二度とありませんでした。

お浪が実は池の竜王の化身だとわかったのは、後になってからのことです。村長夫妻が子を渴望していると聞いて可哀想に思い、せめて少しの間でも願いを叶えてやろうと、夫婦の子供に化けていたのです。

そしてこの日から、この池は大浪池として知られるようになります。

本事業以前の英語解説文

なし

1397, 1398, 1399, 1400, 1401,
1402, 1403, 1404, 1405, 1406

Nos.38, 39, 40, 41, 42, 43, 44, 45, 46, 59 Kinkowan Bay

<霧島錦江湾国立公園、鹿児島・宮崎>

【施設名】錦江湾

【整備予定媒体】パンフレット

できあがった英語解説文

Origin of Aira Caldera

Approximately 30,000 years ago, a massive volcanic eruption occurred in what is now Kagoshima, ejecting a huge amount of volcanic material into the air. The volcano's walls collapsed into the emptied inner chamber, and the vast Aira Caldera, 22 kilometers across and 200 meters deep, was formed. Sea water then flowed into this volcanic crater caldera, creating Kinkowan Bay—the local name for Kagoshima Bay.

Tagiri

In the northeast corner of Kinkowan Bay, another smaller caldera called Wakamiko was created by a separate eruption some 29,000 years ago. Deep in this underwater caldera, gas escaping from the submarine volcano beneath makes the water appear to boil. This phenomenon is caused by volcanic fume activity on the seafloor, and is known locally as *tagiri* from the Japanese word *tagiru* meaning “to boil.”

Wildlife

The unique topography of the Aira Caldera and the extraordinary ecosystem it fosters is home to a wide assortment of animal life. Crustaceans, mollusks, and various birds including the endangered black-faced spoonbill can be found on Shigetomi Beach. In the bay, keep your eyes peeled for dolphins.

Shigetomi Beach

There are more than just water sports on offer along this 600-meter expanse of sandy beach, which is also the largest tidal flat in the bay. An abundance of small sea life makes it a popular destination for finding clams, crabs, and other sea creatures. There are excellent views of Sakurajima all year long. The pine forest provides welcome shade in the summer.

Wakamikobana

This coastal route appears to jut into Kinkowan Bay and is famous for its ties to the legendary Yamato Takeru, a prince charged with subduing the Kumaso, an ancient people of southern Kyushu. A small shrine stands where Yamato is

said to have embarked on his journey.

Terayama

Located 400 meters above sea level, the Terayama observatory offers stunning views of the area's sights. With the panorama of Sakurajima in front of you, the Kirishima Mountain Range to the north and the waters of Kinkowan Bay below, it is a destination not to be missed.

Kamitsukuri Islands

The Kamitsukuri Islands is the collective term for three small islands in Kinkowan Bay: Hetakojima, Bentenjima, and Okikojima. The islands are made of rhyolite, a volcanic rock, which has eroded over thousands of years, leaving them riddled with intriguing geological formations.

Shirakanezaka

Designated a historic national road, this ancient cobbled roadway traverses the hills between Wakimoto in Aira City and Muregaoka in Kagoshima City. Deviating from the main route takes you to an observation deck where you can enjoy sweeping views of Sakurajima and Kinkowan Bay, as well as the 20-meter-high Nunobiki Waterfall.

Kanze (God's Shoal)

A white lighthouse looks out over the bay towards Kanze, a shoal between Sakurajima and Kagoshima City. At low tide, the sandy beach expands, and in the surrounding waters there are coral reefs, seaweed beds and abundant fish.

Mt. Takatoge

For 360-degree views of Sakurajima, Kinkowan Bay and surrounding sights, visit Mt. Takatoge and its 722-meter-high observation platform. From the coast the mountain can be seen to the northeast of Tarumizu City. Every spring it erupts in color thanks to the thousands of wild azaleas on its slopes.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

始良カルデラの起源

30,000 年ほど前、今の鹿児島となる地域で巨大な噴火があり、大量の火山性物質が空気中に吹き上げられました。これにより火山の壁が崩壊し、空になった火山内部に落ち込みました。こうして形成されたのが、直径 22km、深さ 200m の広大な始良カルデラです。そしてこの火山性クレーターに海水が入り込み、錦江湾——鹿児島湾の現地名——ができました。

たぎり

錦江湾の北東の角には、若尊と呼ばれる、もうひとつの小さなカルデラがあります。これは 29,000 年ほど前に起きた別

の噴火によるものです。この海中カルデラの奥深くでは、海底火山から出るガスにより水が沸騰しているように見えます。この現象は海底にある火山の噴気活動により生じるもので、“to boil”を意味する日本語「たぎる」からとって、地元では「たぎり」と呼ばれています。

野生生物

始良カルデラの独特な地勢と、ここで発展した生態系には、多様な動物種が生息しています。甲殻類、軟体動物、さらに絶滅危惧種のクロツラヘラサギを含む様々な鳥類などが、重富海水浴場では見られます。湾では、イルカ目撃のチャンスをお見逃しなく。

重富海水浴場

湾最大の干潟でもある、600m に伸びる砂浜で経験できるのはウォータースポーツだけではなく、小さな海洋生物に恵まれており、アサリやハマグリ、カニなどの海の生き物が見つかる場所としても有名なスポットです。そして年中、桜島の抜群の見晴らしを味わえます。また、松林は夏でも心地よい日陰をつくってくれます。

若尊鼻

錦江湾に突き出たように見える沿岸遊歩道は、南九州の古代民族、熊襲の征伐を担った伝説の王子、ヤマトタケルに関連があることで有名です。ヤマトが旅に乗り出したと言われている地点には、小さな神社が建っています。

寺山

海拔 400m に位置する寺山展望所からは、地域の名所を望む素晴らしい景観が見られます。目前の桜島のパノラマ景色に、北には霧島連山、下には錦江湾の海と、見逃せないスポットとなっています。

神造島

神造島は辺田小島、弁天島、沖小島と呼ばれる3つの小さな島の総称です。島は火山岩の一種である流紋岩が何千年もの間に侵食されてきており、興味深い地形がいたるところに見られます。

白銀坂

歴史国道に指定された石畳の古道は、始良市の脇元から鹿児島市の牟礼ヶ岡までの坂に伸びています。主要道を逸すると、桜島や錦江湾、さらに高さ 20m の布引の滝を一望できる展望台にたどり着きます。

神瀬（神の浅瀬）

白い灯台からは、神瀬——桜島と鹿児島市の間にある浅瀬——を面して、湾を見渡すことができます。干潮時は砂浜が広がり、ここを取り囲む水域にはサンゴ礁や藻場、そしてたくさんの魚が見られます。

高峠

桜島と錦江湾、そして周囲の名所を 360°見渡せるスポットなら、高峠に向かい高さ 722m の展望台を訪れましょう。沿岸からですと、垂水市の北東側に高峠が見えます。毎年春になると、峠の丘には野生のツツジが何千と咲き乱れ、一面鮮やかな色に染まります。

本事業以前の英語解説文

なし

1407

No.47 Hinamoridai

<霧島錦江湾国立公園、鹿児島・宮崎>

【施設名】夷守台

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Mt. Ohata Hiking Trail

The six-kilometer, three-hour (one-way) trail to Mt. Ohata (1,353 m) offers hikers panoramic views of the Kirishima Mountain Range. There are also long hiking routes branching off from Lake Ohata that take you to Mt. Hinamori (1,334 m) and Mt. Maruoka (1,327 m).

Hinamori Auto Campground

This fully-equipped campground 700 meters above sea level is nestled in the Kirishima Mountain Range. The grounds offer peaceful mountain scenery and starry skies in a climate that is cool even in the height of summer.

Safety Warning

Always check volcanic warnings before setting out, as the area's volcanic activity levels are subject to change. Note that the Hinamoridai main gate closes at 7:00 pm (5:00 pm in winter). Be sure to return with time to spare.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

大幡山ハイキングコース

大幡山（1,353m）まで片道 3 時間の 6km コースでは、霧島連山のパノラマ景色を眺めることができます。他にも大幡池から分岐する長距離のハイキングルートがあり、夷守岳（1,334m）と丸岡山（1,327m）に続いています。

ひなもりオートキャンプ場

霧島連山に行む、海拔 700m の設備完備のキャンプ場。真夏でも冷涼な気候で、穏やかな山の景色と、星の煌めく空を拝めます。

安全に関するご注意

地域の火山活動レベルは変わることがあるため、出かける前に必ず火山に関する警告を確認してください。夷守台のメインゲートは午後 7:00（冬期は午後 5:00）に閉まります。必ず時間に余裕をもって帰ってこられるようご注意ください。

い。

本事業以前の英語解説文

なし

1408, 1409, 1410, 1411, 1412, 1413

Nos.48, 49, 50, 51, 52, 53 Sakurajima

<霧島錦江湾国立公園、鹿児島・宮崎>

【施設名】桜島

【整備予定媒体】パンフレット

できあがった英語解説文

The Origins of Sakurajima

Approximately 30,000 years ago, a colossal eruption buried Kagoshima in magma up to 60 meters deep. A pyroclastic flow of ash, stone, and gas covered the area's mountains and valleys, rendering it flat in the space of a week. The volcanic crater cavity created by this epic eruption is the Aira Caldera.

Some 4,000 years later Sakurajima, located on the southern rim of the Aira Caldera, erupted for the first time, growing larger with each subsequent eruption. The northern peak, Kitadake, was active until 5,000 years ago. The southern peak, Minamidake, became active 4,500 years ago and is the peak that continues to erupt today.

Topography and Geology

Sakurajima, rising 1,117 meters above sea level, is the post-caldera volcano of the Aira Caldera. There are three peaks running north to south—Kitadake, Nakadake and Minamidake. The three peaks were formed by two volcanoes. The older volcano, Kitadake, is no longer active. The younger volcano, Minamidake, has been erupting continuously since 1955. It has two vents, Nakadake and Minamidake.

Sakurajima's magma originates from beneath Kinkowan Bay. Over the millennia, there have been seventeen massive eruptions from Sakurajima, although smaller eruptions occur on an almost daily basis. The “*jima*” of “Sakurajima” means “island,” and although once separate it is now attached to the mainland as a result of a lava flow from the 1914 Taisho eruption.

Lava and Vegetation

Far from being bare, lifeless expanses of rock, volcanoes are home to a huge variety of vegetation. Around Sakurajima's summit, closest to the volcanic vents, Japanese pampas grass and Japanese knotweed grow, while further down, Japanese eurya and Japanese green alder—deciduous evergreen shrubs—can be found. Further from the crater, Japanese black pine and Japanese bay trees thrive.

Lava flows are home to a diversity of vegetation, and because Sakurajima is home to five visible lava flows, it is possible

to see the stages of revegetation up close. On the Arimura Seashore it is possible to see three flows, from the An'ei (1779), Taisho (1914), and Showa (1946) eruptions. The newest flow is characterized by hardy black pine growing among otherwise bare rock, while the Taisho flow boasts more verdant vegetation, and the oldest is now home to thriving forests.

Culture, Industry, Living

In addition to the residents of Sakurajima itself, the city of Kagoshima with a population 600,000 sits in the shadow of Sakurajima. The area's long history of human settlement suggests that volcano-side living has benefits that outweigh the dangers. Indeed, the volcano provides fertile soil for farming, ignimbrite rock for walling, and ash for a number of industries.

Activities

Unique activities abound, from classes on volcano-ash pottery and baking pizzas in lava rock ovens to nighttime eruption cruises. Add to those hiking, cycling, kayaking, hot springs, guided tours and more, and Sakurajima offers adventures to suit all tastes.

Dealing with Ash

Ash is a part of life for those living around Sakurajima. Far from seeing it as just a nuisance, residents have come up with ways to live with the ash and even profit from industries that make use of it. Street sweeper trucks keep the roads clean, while households bag ash that dusts their property. Weather forecasts include information on wind direction, allowing people to prepare appropriately. While some may choose to wear face masks when working outside, the ash doesn't pose any health risks. Mostly, residents live their lives as normal, as have countless generations of inhabitants around Sakurajima.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

桜島の起源

約 30,000 年前、鹿児島を深さ 60m ものマグマで覆うほどの巨大噴火がありました。灰や石、ガスなどが混ざった火砕流は地域の山や谷を覆い尽くし、一週間の間にあたりは平坦になりました。そしてこの壮大な噴火により生まれた火山性クレーターのかぼみが、始良カルデラです。

その 4,000 年ほど後には、始良カルデラの南端に位置する桜島が初めて噴火しました。その後噴火があるたび、桜島は大きくなっていきました。北の峰、北岳は 5,000 年前に活動を休止。南の峰、南岳は 4,500 年前に活動を開始し、今も噴火を繰り返しています。

地形・地質

海拔 1,117 の高さを誇る桜島は、始良カルデラ形成後にできた火山で、北から南にかけて 3 つの主峰——北岳、中岳、南岳——をもちます。これら 3 つの主峰は 2 つの火山により形成されており、そのうち北岳は古く、もう活動していません。後発の火山、南岳は 1955 年より噴火を繰り返しています。尚、火口は中岳と南岳の二箇所にあります。

桜島のマグマは錦江湾の下からきており、誕生以来 17 回の大噴火を経験してきましたが、小噴火はほぼ毎日起きています。「桜島」の、“*island*” を意味する「島」にあるように昔は離島でしたが、1914 年の大正噴火がもたらした溶岩流により今は本土と陸続きになっています。

溶岩と植生

草木の少ない荒涼とした岩地とは程遠く、火山には膨大な種類の植物が自生しています。桜島の頂上付近では、火口の一番近い所にススキやイタドリが生息しています。そこから下ると、落葉性常緑樹のヒサカキやヤシャブシを見ることができます。火口からさらに離れると、クロマツや月桂樹が生い茂っています。

溶岩流には多様性に富む植物が自生しています。桜島では 5 つの溶岩流が地表から露出しており、植生回復の進行を間近で観察することができます。有村海岸では、安永（1779 年）、大正（1914 年）、昭和（1946 年）の噴火による、3 つの溶岩流を見ることができます。昭和溶岩流の特徴は、むき出しの岩肌にたくましく育つクロマツです。大正溶岩流の植生はより青々としています。安永溶岩流には樹木が生い茂るようになりました。

文化・産業・生活

桜島自体の住人に加え、600,000 人が暮らす鹿児島市も桜島の麓に位置しています。この地域への人間定住の長い歴史が物語るように、火山とともに暮らす生活は危険よりも恩恵の方が大きいことが伺えます。実際、農業に適した肥沃な土壌や、壁材に用いられる溶結凝灰岩、数々の産業に使われる灰など、火山は様々な恩恵を与えてくれます。

活動

独特な活動も豊富で、火山灰の陶芸クラスや、溶岩窯でのピザ焼き、夜間の噴火クルーズなどが体験できます。さらに登山やサイクリング、カヤック、温泉、ガイドツアーなど、桜島には誰でも楽しめるアドベンチャーが揃っています。

灰との暮らし

桜島周辺の住民にとって灰は生活の一部です。しかし、これが公害と考えられていないどころか、彼らは灰との共存の方法を生み出し、灰を利用する産業で利益まで得ています。路面清掃車で道路は綺麗に保たれ、各世帯も家にか

ぶった灰を袋に詰めます。そして、天気予報には風向きも含まれ、天候にふさわしい備えを促します。屋外作業の際にマスクを着用する人もいますが、灰に健康上のリスクはありません。桜島周辺に何世代にもわたって暮らしてきた住人同様、ここに暮らす人たちは概ね普通の暮らしを営んでいます。

本事業以前の英語解説文

なし

1414, 1415, 1416, 1417, 1418

Nos.54, 55, 56, 57, 58 Ibusuki

<霧島錦江湾国立公園、鹿児島・宮崎>

【施設名】指宿

【整備予定媒体】パンフレット

できあがった英語解説文

Sunamushi *Onsen* (Steam Sand Bath)

Get buried in sand and steam away your troubles at Sand Bath Hall Saraku and Sand-Steamed Hot Spring Sayuri, where yukata-clad guests are covered in hot spring-heated sand. After you have been enveloped in the healing sands, shower off and relax in the waters of a traditional hot spring *onsen*.

Mt. Kaimon

Perhaps this looks familiar? Nicknamed the Mt. Fuji of Satsuma (the former name for Kagoshima), Mt. Kaimon bears a striking resemblance to Japan's most famous conical mountain. A hiking trail winds its way up to the 924-meter peak, offering panoramas of the surrounding mountains, lakes, sea, and islands.

Lake Ikeda

The largest volcanic crater caldera lake in Kyushu, Lake Ikeda is 15 kilometers in circumference and 233 meters deep. Water sports rule on the lake, with kayak tours, wakeboarding, wakesurfing, and much more. Just watch out for Isshy, Lake Ikeda's legendary monster!

Lake Unagi

Tucked into the mountains four kilometers southwest of Ibusuki City, Lake Unagi is home to a unique form of cooking: *sume ryori*. Some are cooking apparatuses that harness the power of volcanic fumaroles to steam everything from potatoes to chicken and eggs.

Ibusuki Specialties

Ibusuki is a real gourmet paradise. Sample the smoky aroma and flavor of *katsuo-no-tataki*, seared skipjack tuna, or sip the local *shochu* sweet potato spirit Satsuma-style—diluted with hot water and served in *kurojoka*, traditional black Satsuma pottery.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

砂むし温泉 (Steam Sand Bath)

砂むし会館砂楽と砂むし温泉「砂湯里」では、浴衣を着たゲストが温泉の熱で温められた砂で覆われます。砂に埋もれて、蒸気で悩みを吹き飛ばしましょう。癒しの砂に包まれた後はシャワーを浴びて、伝統的な温泉 (*hot spring*) の水でくつろぎましょう。

開聞岳

これは馴染みがあるかも？別名「薩摩富士」（鹿児島島の旧名）とも呼ばれる開聞岳は、日本一有名な円錐型の山にそっくりです。924m の頂点までくねくねと進むハイキングコースからは、周囲の山や湖、海、島などを一望できます。

池田湖

火山性クレーターのカルデラ湖の中で九州最大の池田湖は周囲 15km、深さ 233m になります。湖ではカヤックツアーやウェイクボード、ウェイクサーフィンなどの活動がたくさんあり、ウォータースポーツが盛んです。ただ、池田湖の伝説のモンスター、イッシーには気をつけて！

鰻池

指宿市から 4km 南西に行ったところにある山に佇む鰻池。ここでは「スメ料理」とよばれる独特な調理方法がみられます。スメとは、火山の噴気孔の力を活用し、じゃがいもや鶏肉、卵などあらゆる食材を蒸すのに使われる調理器です。

指宿名物

指宿は真のグルメパラダイスです。鰹のタタキ (*seared skipjack tuna*) の燻った香りと風味を楽しむのもいいし、地元の焼酎（さつま芋の蒸留酒）を、お湯で薄めて伝統的な黒い薩摩陶器「黒茶家」に入れて飲む薩摩スタイルで味わうこともできます。

本事業以前の英語解説文

なし

屋久島外国人観光促進協議会

1419

No.1 Shiratani Unsuijyo Ravine, Yakushima

<屋久島、鹿児島>

【施設名】白谷雲水峡

【整備予定媒体】看板、パンフレット、アプリ

できあがった英語解説文

Shiratani Unsuijyo Ravine

Shiratani Unsuijyo Ravine is a natural forest with giant boulders, old hollow trees, waterfalls, and many rare species of plants and moss. It is located in the north of Yakushima. Its temperate coniferous forest of 424 ha sits at an elevation of 600–1200 m. The ravine is home to Japanese fir (*Abies firma*), Japanese cedar trees (*sugi* in Japanese) (*Cryptomeria japonica*), and Japanese hemlock (*Tsuga sieboldii*), as well as more than 550 species of moss.

The hiking trails along the ravine pass some of the oldest *sugi* trees on the island; those older than one thousand years are referred to as *yakusugi* as they are found only here. Hiking trails also pass a riverside spot with large moss-covered boulders, including Taikoiwa Rock or “big drum boulder.” Here visitors can get a spectacular view of the highest peaks on the island.

The ravine has three main hiking courses. The short one-hour Yayoi Sugi course is named for a *sugi* dating to the Yayoi period (approx. 300 BCE–300 CE). The longer three-hour Bugyo Sugi course passes a handful of extraordinary *yakusugi*. Finally, the four-hour course around the Taikoiwa Rock also passes many *yakusugi* and ends with a magnificent view of the mountain range of central Yakushima.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

白谷雲水峡

白谷雲水峡は、屋久島北部に位置し、巨石、空洞のある古木、滝、たくさんの珍しい植物や苔のある自然林です。標高 600～1200 メートルにある、424 ヘクタールの温帯針葉樹の森には、モミ(*Abies firma*)、杉(*Cryptomeria japonica*)、ツガ(*Tsuga sieboldii*)、550 種以上もの膨大な数の苔などが生育しています。白谷雲水峡のトレッキングコースでは、島で最も古い杉の木々のそばを通り抜けます。千年以上の(樹齢を持つ)これらの杉はこの場所(訳注：屋久島)でしか見られないので、屋久杉と呼ばれています。ハイキングトレールはまた、苔で覆われた巨石のある川辺、太鼓のような音がする巨岩＝太鼓岩などを通り、島の最高峰の絶景も眺めることができます。

この渓谷には、主なコースが 3 つあります。1 時間の短い弥生杉コースは、弥生時代(紀元前 300 年～西暦 300 年)にさかのぼる杉にちなんでいます。3 時間のもっと長い奉行杉コースでは、数本の素晴らしい屋久杉のそばを通りま

す。そして、4 時間の太鼓岩往復コースでも、たくさんの屋久杉のそばを通過して、最後は屋久島中部の絶景でしめくります。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】屋久島伝承蔵

【整備予定媒体】パンフレット、アプリ

できあがった英語解説文

Yakushima Densho Gura Shochu Distillery

Shochu is distilled liquor especially popular in Kyushu. It is typically made from rice, barley, buckwheat, and sweet potatoes or brown sugar. On Yakushima, it is generally made from sweet potatoes, which gives it a distinctive smell and smoky flavor.

The quality of *shochu* depends greatly on water conditions which makes the island of Yakushima, with its pristine waters, a logical choice to set up a distillery. The Yakushima Densho Gura Shochu Distillery, the main liquor producer on the island, was founded by the Hombo Company and started producing *shochu* on Yakushima in 1960. At the distillery, visitors can learn about the *shochu* brewing process, while the shop offers tastings of a variety of *shochu* as well as other liquors, such as sangria and whiskey made from local products.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

屋久島伝承蔵

焼酎とは、九州で特に人気のある蒸留酒です。焼酎は普通、米、大麦、そば、サツマイモ、または黒糖から作られ、屋久島ではサツマイモで作るのが一般的で、独特の香りとスモーキーな風味があります。焼酎の質は水質によって大きく左右されるので、美しい水に恵まれた屋久島に焼酎工場を設置しているのは、理にかなった選択です。屋久島伝承蔵という、島の中心的な蒸留所は、本坊酒造により設立され 1960 年に焼酎の製造を始めました。工場では、見学者は焼酎の実際の醸造過程について学ぶことができます。店舗では、いろいろな焼酎や、地元の特産品で作った、サングリアやウイスキーのような、お酒のテイastingができます。

本事業以前の英語解説文

なし

1421

No.3 Oko Waterfall, Yakushima

<屋久島、鹿児島>

【施設名】大川の滝

【整備予定媒体】パンフレット、アプリ

できあがった英語解説文

Oko Waterfall

Standing at an impressive 88 m high, Oko Waterfall is Yakushima's tallest waterfall. Its two falls unleash a large volume of water that can be heard throughout the valley. They sometimes become a single powerful stream during the rainy season and typhoons. This waterfall is one of only two places on Yakushima that allows visitors to get close to the falls, where its loud echo and refreshing spray can be experienced. Dragonflies can be spotted circling above the river in the autumn.

Oko Waterfall was listed one of Japan's 100 most impressive waterfalls by the Japanese Ministry of Environment in 1990. Its proximity to Seibu Rindo Forest Path and the charming village of Kurio in the southwest of the island makes this waterfall an excellent stop on a trip around the island.

Use care when approaching the falls during typhoons and the rainy season, though. In the typhoon season, between July and October, the river occasionally overflows and sometimes the water reaches as far as the parking area. It is in this period that Oko Waterfall becomes most powerful and impressive to watch.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

大川の滝

大川の滝は88メートルという見事な高さで、屋久島で最も高い滝です。その2つの滝の流れは渓谷中に聞こえるほどの大量の水を噴出し、梅雨や台風シーズンなどには1つの力強い流れになります。この滝は、滝の近くまで行くことができる、屋久島では2つの限られた滝の内のひとつです。近付くと大きな反響音やさわやかなしぶきを体験できます。秋には、川の上で旋回するトンボが見られます。

1990年には日本の環境省によって、日本の滝100選にも選ばれています。大川の滝は西部林道や栗生という島の南西部にある魅力的な村に近く、島の旅行中に立ち寄るのに絶好の場所です。台風や梅雨の時期に滝のそばへ行く場合には注意が必要です。7月から10月にかけての台風シーズン中は川がしばしば氾濫し、時には水位が駐車場の高さまで上がることもあります。大川の滝が最も迫力があり印象的なのはこの時期です。

本事業以前の英語解説文

なし

1422

No.4 Trohki Waterfall, Yakushima

<屋久島、鹿児島>

【施設名】トローキの滝

【整備予定媒体】パンフレット、アプリ

できあがった英語解説文

Trohki Waterfall

Trohki Waterfall is highly unusual; there is only one other like it in all of Japan. Trohki is just 5 m high and unleashes its water into the sea instead of a river or lake. The degree of its surge depends on the tides, but it can be quite wide. The name Trohki comes from the Japanese word *todoroki*, which refers to a roar or echo within nature such as lightning or thunder. In Japanese, then, the waterfall's name means Roaring or Thunderous Falls.

Visitors are prohibited from getting close to the falls, so it is possible to listen to the thunder of Trohki Waterfall echoing only from a distance. Two observation points offer magnificent views of the falls with Mt. Mocchomu in the background. The first of these observation decks is located down the path opposite the Pon-tan kan building. The narrow path gradually goes deeper into the woods and provides the closest view of the falls. Sometimes small orange crabs can be spotted along this route. The second observation deck is located in the Yakushima Botanical Research Park. The view from this deck is slightly better, but requires an entrance fee of 500 yen per adult.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

トローキの滝

トローキの滝は、非常に独特な滝です。高さは 5 メートルですが、川や湖ではなく、海に水が落ちています。このような滝は、日本では他に 1 つしかありません。流れの程度は、潮流にもよりますが、かなり大きいです。トローキという名前は、稲妻や雷鳴のような自然のごう音や反響を表す、日本語の「とどろき」に由来します。したがって、この滝の名前は、日本語ではとどろきの滝（訳注：英語ではごう音、雷鳴の滝と説明）という意味になります。

滝に近づくことは禁止されているため、遠くからトローキの滝のごう音を聞くことしかできません。2 か所の展望台から、モッコム岳を背にした雄大な姿を見ることができます。この展望台の 1 つは、ほんたん館の向かいにある道を下った所にあります。この細い道は、森の奥へと続き、滝が最も近くから見え、道沿いでは時折オレンジ色のカニを見かけます。もう 1 つの展望台は、屋久島有用植物リサーチパークにあります。この展望台からの眺めのほうが、ほんの少し良いですが、入園料(大人 500 円)が必要です。

本事業以前の英語解説文

なし

1423

No.5 Senpiro Waterfall, Yakushima

<屋久島、鹿児島>

【施設名】千尋の滝

【整備予定媒体】パンフレット、アプリ

できあがった英語解説文

Senpiro Waterfall

At 60 m tall, Senpiro Waterfall is a spectacular site. Its force is so strong that it created an enormous granite valley constituting one of the largest bedrocks in Japan. The name “Senpiro” is said to refer to the length of the rock on the left side of the ravine, which equals about one thousand people standing next to one another holding hands. Senpiro literally means “one thousand fathoms.” Near the falls, visitors can enter a trail to climb rocky Mt. Mocchomu, the steep mountain visible from most of the southern areas on the island.

Senpiro has three observation points. The first observatory can be reached by following the paved road going straight. Visitors can enjoy the closest view of the falls here, overlooking the valley. The second observatory, found in the parking area, offers a view of Yakushima’s coastal villages and beaches, as well as Mt. Mocchomu. The third, older observatory can be reached by following the path on the right of the car park entrance. Visitors here are offered a view of the southern coastline as well as the Senpiro Waterfall.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

千尋の滝

千尋の滝は、高さ 60 メートルの壮観な名所です。勢いが非常に強力なため、日本最大級の岩盤の 1 つから、巨大な花崗岩の谷を形成しました。千尋という、この滝の名前は溪谷の左側にある岩の大きさを表していると言われており、約 1000 人が手をつないで並んで立ったほどの長さです。千尋とは(日本語で)「千尋の長さ(訳注：one thousand fathoms)」という意味です。滝の近くから、岩だらけのモッコム岳を登る登山道に入ることができます。島南部のほとんどの場所から見える険しい山です。

千尋の滝には、3か所に展望台があります。1つは、舗装された道を進んで、真っ直ぐ前進すると着きます。観光客は、溪谷を見渡ししながら、最も近くで滝の眺めを楽しめます。駐車場にある 2 つ目の展望台からは、屋久島の海辺の村、海岸、モッコム岳の景観が見えます。3 つ目は、他よりは古い展望台です。駐車場に入って、右側にある通路を進むと着きます。ここからは、南部の海岸線や千尋の滝が見えます

本事業以前の英語解説文

なし

1424

No.6 Nagata Inakahama Beach, Yakushima

<屋久島、鹿児島>

【施設名】永田いなか浜

【整備予定媒体】パンフレット、アプリ

できあがった英語解説文

Nagata Inakahama Beach

Nagata Inakahama Beach is one of Yakushima's most beautiful beaches. Despite its granite-rich soft sand and stunning views of nearby Kuchinoerabu Island, the beach is relatively quiet throughout the year. It is busiest from May to July when thousands of green and loggerhead sea turtles visit the beach to nest. On some nights, up to about forty turtles come ashore to lay 60–100 eggs in the sands. Visitors wishing to view the turtles laying eggs need to make a reservation with an organized tour. This rule helps to protect and preserve the sea turtles' nesting grounds. From May 1 to August 31, the beach is out of bounds for visitors during the night between 7:30 pm and 5:00 am in the morning.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

永田いなか浜

永田いなか浜は、屋久島で最も美しい海岸の 1 つで、花崗岩を豊富に含んだ柔らかい砂があり、近くの口永良部島の素晴らしい景色を見ることができます。その雄大な眺めやビロードのような砂にも関わらず、いなか浜は年間を通して比較的静かです。数千匹のアオウミガメやアカウミガメが産卵のために海岸を訪れる、5 月から 7 月がもっともにぎやかです。夜、およそ 40 匹のカメが 60～100 個の卵を産んで、いなか浜に埋めることもあります。産卵するカメを見たいという方は、ツアーの予約をする必要があります。これはウミガメの営巣地を保護・保存するためのルールです。5 月 1 日から 8 月 31 日まで、ビーチは夜 7 時 30 分～午前 5 時まで立ち入り禁止となります。

本事業以前の英語解説文

なし

1425

No.7 Seibu Rindo Forest Path, Yakushima

<屋久島、鹿児島>

【施設名】西部林道

【整備予定媒体】パンフレット、アプリ

できあがった英語解説文

Seibu Rindo Forest Path

Located in the western part of Yakushima, Seibu Rindo Forest Path is bounded by a wide variety of subtropical trees and plants. This forest provides some of the best opportunities to view wildlife on the island. Animals are protected here and cannot be hunted, unlike in other parts of the island, where the large monkey and deer population is culled to control numbers. The forest is inhabited by Yaku macaques and Yaku deer, both subspecies of their northern Japanese counterparts. Male Yaku deer, for example, tend to have darker fur, and their antlers have less branching than those of their cousins.

Visitors can spot groups of monkeys and deer while driving slowly through the forest. It is best to observe the animals and take any photographs from the vehicle so they don't become overly familiar with humans and cause trouble to the islanders. If visitors are lucky, they can see the many monkeys grooming one another.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

西部林道

西部林道は、屋久島の西部に位置し、様々な種類の亜熱帯性の木や植物に囲まれています。この森では、島の野生動物を見かけるチャンスが最も多いでしょう。ここ(西部林道)では動物が保護されており、島の他の地域と違い、サルやシカの数を抑制するための狩りも禁止されています。森には、ヤクザルやヤクシカが生息しています。どちらも、北日本のシカの亜種です。例えば、雄のヤクシカは、北のシカと比べて毛の色が濃く、角の枝の数も少ない傾向にあります。

ゆっくりとドライブしながら森を通っていると、サルやシカの一群を見かけるでしょう。(動物たちが)人に慣れ過ぎたり、屋久島の住民に迷惑をかけたりしないためには、車の中から動物の写真撮影や、観察するのがベストです。運が良ければ、サルが互いに毛づくろいする様子を見られるでしょう。

本事業以前の英語解説文

なし

1426

No.8 Yakusugi, Yakushima

<屋久島、鹿児島>

【施設名】屋久杉

【整備予定媒体】パンフレット、アプリ

できあがった英語解説文

Yakusugi

Yakusugi is a unique species of very old Japanese cedar tree (*sugi* in Japanese) (*Cryptomeria japonica*) found only on Yakushima. The trees start to appear among broadleaf trees at around 500 m above sea level and can be found up to altitudes over 1000 m. *Yakusugi* have about 30% more resin than other trees thanks to the high rainfall and humidity on Yakushima, making their wood more resistant to rotting than that of other trees. This helps them to live for an extraordinarily long time, some surviving for thousands of years. *Sugi* aged one thousand years or more are bestowed the name *yakusugi*; the others are known as *kosugi*.

Historically *yakusugi* were almost exclusively objects of worship and hardly ever harvested. This started to change with the growing power of the Shimazu clan of Kagoshima in the late sixteenth century. The clan demanded tribute and taxes from Yakushima residents in the form of *yakusugi* wood to use as roof tiles. The use of *yakusugi* wood as lumber grew as modern tools such as the chainsaw made it easier to cut them down. Only after the rediscovery of the ancient Jomon *Sugi* in 1966 did the logging of *yakusugi* wood gradually cease.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

屋久杉

屋久杉は、杉(*Cryptomeria japonica*)の独特な種で、屋久島だけで見ることができます。この木は、海拔約 500メートル以上の広葉樹の間で見られ、標高 1000メートル以上の場所でも生育できます。屋久島は降雨量が多く、湿気が高いため、屋久杉には、他の木よりも約 30%も樹脂が多く、腐食しにくいのです。このような理由で、並外れて寿命が長く、樹齢数千年以上のももあります。樹齢 1000 年以上の木だけが屋久杉と呼ばれ、他は小杉と呼ばれています。

歴史的に屋久杉は、もっぱら崇拜の対象であったため、切り倒されることはほとんどありませんでした。これは、16 世紀後半に鹿児島の島津氏の力が増大するにつれ、変化し始めます。島津氏は、屋根を作る目的で、年貢として屋久杉を納めるよう、屋久島に要求しました。チェーンソーのような現代的な伐採道具の登場で、屋久杉の伐採はさらに加速しました。1966年に古代の縄文杉が再発見されたあと、屋久杉の伐採は徐々に終了しました。

本事業以前の英語解説文

なし

1427

No.9 Yakusugi Land, Yakushima

<屋久島、鹿児島>

【施設名】ヤクスギランド

【整備予定媒体】看板、パンフレット、アプリ

できあがった英語解説文

Yakusugi Land

Yakusugi Land is a recreational forest with hiking trails. It is known for its large concentration of *yakusugi*, a unique species of Japanese cedar tree, or *sugi* in Japanese (*Cryptomeria japonica*), found only on Yakushima. Tree stumps around the area are remnants of logging during the Edo period (1603–1867); some of the area’s oldest trees, though, were spared that fate due to their irregular shape. At least nine *yakusugi* aged more than one thousand years remain, and many other majestic trees and plants—such as elegant Orangebark stewartia and colorful Yakushima rhododendrons—can be seen in the forest.

The five hiking trails of Yakusugi Land take 30, 50, 80, 150, and 210 minutes respectively. The two shorter trails take visitors past the old Sennen Sugi (Millennial Sugi) and remarkable Futago Sugi (Twin Sugi). The longer hikes pass by even more ancient and spectacular *yakusugi*, such as Hahako Sugi (Mother and Child Sugi) and Oda Sugi, both estimated to be around 2,500 years old. The two shorter routes are paved with wood or stone, while the longer routes are mountain trails. Experienced hikers can take a detour halfway through the 150-minute trail and climb Mt. Tachu, where they will find a majestic 40 m-tall monolith at the summit.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

ヤクスギランド

ヤクスギランドは、トレッキングコースのあるレクリエーションの森です。屋久島だけに生育する、独特な杉 (*Cryptomeria japonica*) の種類である、屋久杉に大きく重点を置いていることで知られています。森のいたる所にある切株は、江戸時代(1603～1867)の伐採の名残です。このエリアの最古の木の多くは、形が不揃いなため、(伐採の)運命を逃れました。樹齢 1000 年以上の屋久杉が少なくとも 9 本残っています。この森では、樹皮がオレンジ色の上品なヒメシャラ、色とりどりのヤクシマツツジのような、たくさんの堂々とした木々や植物を見ることができます。

ヤクスギランドの 5 つのトレッキングコースのそれぞれの所要時間は、約 30 分、50 分、80 分、150 分、210 分です。2 本の短いコースでは、古い千年杉や見事な双子杉を通ります。長いほうのハイキングコースでは、母子杉や小田杉のように、どちらも樹齢約 2500 年と推定されている、さらに古く、壮麗な屋久杉を通ります。最初の 2 つの短いコースで

は、木または石で道が舗装されていますが、長いコースでは登山道に近いものになります。上級者は、150分のトレッキングの途中で迂回して、山頂に高さ40メートルの荘厳な一枚岩がある太忠岳を登ることもできます。

本事業以前の英語解説文

なし

1428

No.10 Kigen Sugi (Ancient Sugi), Yakushima

<屋久島、鹿児島>

【施設名】紀元杉

【整備予定媒体】看板、パンフレット、アプリ

できあがった英語解説文

Kigen Sugi (Ancient Sugi)

At an altitude of 1230 m and rising to a height of 19.5 m, Kigen Sugi is one of the highest and tallest *yakusugi* on the island. *Yakusugi* (*Cryptomeria japonica*) are Japanese cedar trees unique to Yakushima; they live for more than one thousand years. Kigen Sugi has a circumference of 8.1 m and is estimated to be about 3000 years old, making it also one of the oldest trees on Yakushima.

Kigen Sugi is home to at least twenty-one kinds of epiphytes, organisms which grow on the surface of a plant and add to the diversity and biomass of the local ecosystem. Of the many epiphytes living on the Kigen Sugi, the flowers of rhododendrons in spring and Japanese rowan trees in autumn are particularly beautiful.

Kigen Sugi can be found on the way to Yodogawa Trail Entrance along the Anbo Forest Road, a 15-minute drive from Yakusugi Land. A platform encircles Kigen Sugi and provides visitors with a 360-degree view of the tree. Kigen Sugi is the oldest and largest *yakusugi* tree visitors can access by car without entering hiking trails.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

紀元杉

紀元杉は、標高 1230 メートルの場所に生えた、樹高 19.5 メートルの島で一番高い屋久杉の 1 つです。屋久杉 (*Cryptomeria japonica*) は、屋久島ならではの杉の木で、1000 年以上生きます。紀元杉は周囲 8.1 メートル、推定樹齢約 3000 年で、屋久島最古の木の 1 つです。この木が老齢であることは、紀元（英語では epoch）という名前で強調されています。紀元杉には、少なくとも 21 種類の着生植物が存在します。着生植物とは、植物の表面で育つ有機体で、その地域の生態系に多様性や生物量(バイオマス)を加えています。紀元杉に生息する多くの着生植物のうち、春はツツジの花、秋はナナカマドが特にきれいです。

紀元杉は、ヤクスギランドから車で 15 分の安房林道沿い、淀川登山口へ向かう途中にあります。紀元杉を囲むデッキでは、この木を 360 度から見るができます。紀元杉はトレッキングコースに入らなくても車で行くことができる、最古かつ最大の屋久杉です。

本事業以前の英語解説文

なし

1429

No.11 Third Generation Cedar, Yakushima

<屋久島、鹿児島>

【施設名】三代杉

【整備予定媒体】看板、パンフレット、アプリ

できあがった英語解説文

Sandai Sugi (Third Generation Sugi)

In the constantly-regenerating forests of Yakushima, new trees arise from the remains of older moss-covered stumps. Sandai Sugi (Third Generation Sugi) is a rare case of three *sugi* trees growing on top of one another. When the first generation *yakusugi* fell after surviving for about 2000 years, a new one sprouted on top of it and reached the age of one thousand. When this second generation was cut down by loggers, a third generation *kosugi* arose, and is now just five hundred years old. Standing at 38.4 m high and with a circumference of 4.4 m, Sandai Sugi is the tallest tree of its kind on Yakushima and is found along the Jomon Sugi Trail.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

三代杉(訳注：英語では「三代目の杉」と記述)

屋久島の絶えず再生している森では、苔で覆われた古い切株から新しい木が生えます。三代杉（訳注：英語では三代目の杉と説明）は、三代の杉の木が前の世代の上に生えていった珍しい例です。一代目が約 2000 年生きた後、倒れ、その上に新しい杉が芽を出し、樹齢 1000 年に達しました。木こりがこの二代目を伐採し、三代目の小杉が生え、今では樹齢 500 年に達しています。三代杉は、樹高 38.4 メートル、周囲 4.4 メートルで、屋久島のこの種の木の中では最も高い木です。縄文杉へと向かう登山道の途上にあります。

本事業以前の英語解説文

なし

1430

No.12 Okina Sugi (Old Man Sugi), Yakushima

<屋久島、鹿児島>

【施設名】翁杉

【整備予定媒体】看板、パンフレット、アプリ

できあがった英語解説文

Okina Sugi (Old Man Sugi)

Once gigantic and imposing, Okina Sugi, is thought to have lived for around 2000 years. It once stood at 23.7 m tall, but with its base unable to hold its heavy weight and around 90% of its inside hollowed out by decay, the tree collapsed in September 2010. Only the hollow stump, with a perimeter of 12.6 m, is left.

Okina Sugi can be found on the Okabu Trail that leads to Jomon Sugi. It takes about 30 minutes from the trail entrance to get there, and he sits around 200 m before Wilson's Stump.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

翁杉(訳注：英語では老人の杉と説明)

かつて巨大で、堂々たる姿をしていた翁杉。樹齢は約 2000 年と考えられています。もともとは 23.7 メートルの高さの木でしたが、根本で重さを支えることができず、また腐敗が原因で内部のおよそ 90%が空洞化したこともあり、2010 年 9 月に倒れてしまいました。

(現在は)周囲 12.6 メートルの中空の切り株だけが残っています。

翁杉は、縄文杉へと通じる大株歩道にあります。入口からの所要時間は約 30 分で、ウィルソン株まで約 200 メートルです。

本事業以前の英語解説文

なし

1431

No.13 Wilson's Stump, Yakushima

<屋久島、鹿児島>

【施設名】ウイルソン株

【整備予定媒体】看板、パンフレット、アプリ

できあがった英語解説文

Wilson's Stump

Wilson's Stump is the remains of a gigantic two-thousand-year-old *yakusugi* cut down around five hundred years ago. With a trunk circumference of 13.8 m, the stump is surpassed in size only by the colossal Jomon Sugi. The stump's hollow is about 16 m², and a small shrine is found inside. When standing inside the stump, hikers can see a heart-shaped hole above them. Three descendants of Wilson's Stump also grow nearby, providing a good example of fallen tree regeneration.

The stump was named after the English botanist Ernest Henry Wilson (1876–1930), an early advocate of the preservation of Yakushima's forest. He discovered the stump during an expedition in 1914.

The *yakusugi* is thought to have been cut under orders of the sixteenth-century warlord Toyotomi Hideyoshi (1537–1598). In 1586, after winning a war against the Shimazu clan of Kagoshima, he forced them to deliver Yakushima's durable wood to build a temple to commemorate his exploits. The cutting of this tree was the beginning of a long history of lumbering on Yakushima. Wilson's Stump can be found along the Okabu Trail.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

ウイルソン株

ウイルソン株は、およそ 500 年前に切り倒された樹齢 2000 年の大きな屋久杉の残りです。この切株は周囲 13.8 メートルの大きさで、これより大きいのは、巨大な縄文杉のみです。切り株の空洞は約 16 平方メートルで、中に小さな祠があります。切り株の中に立てば、上にハート型の穴を見ることができるでしょう。ウイルソン株の 3 本の子孫も近くで育っており、倒木の再生を示す良い例となっています。

この切株は、イギリスの植物学者 E. H. ウィルソン(1876–1930)にちなんで名付けられました。ウィルソンは、屋久島の森の保護を早い時期から提唱し、1914 年、調査中にこの切株を見つけました。

この屋久杉(訳注：ウイルソン株)は、16 世紀の武将、豊臣秀吉(1537–1598)の命で切り倒されたと考えられています。1586 年、鹿児島島の島津家との戦いに勝利したあと、秀吉は島津家に対し、屋久島の丈夫な木を届けるよう命

じました。秀吉の功績を記念する、寺院の建設に利用するためです。

ウィルソン株の伐採は、屋久島におけるでの製材の長い歴史の始まりとなりました。

ウィルソン株は、大株歩道沿いにあります。

本事業以前の英語解説文

なし

1432

No.14 Daio Sugi (Great King Sugi), Yakushima

<屋久島、鹿児島>

【施設名】大王杉

【整備予定媒体】看板、パンフレット、アプリ

できあがった英語解説文

Daio Sugi (Great King Sugi)

Daio Sugi (Great King Sugi) is one of the largest and oldest *yakusugi* trees on Yakushima. The enormous tree is 24.7 m tall, has a circumference of 11.1 m, and is thought to be about three thousand years old. Before the discovery of the monumental Jomon Sugi, Daio Sugi was considered to be the oldest and largest of its kind on the island, and so was named the Great King. Unfortunately, with parts of its hollow visible from the outside, Daio Sugi is no longer in its best condition. However, unlike Jomon Sugi that can be seen only from an observatory, it is possible to approach Daio Sugi and view the tree up close.

Daio Sugi is located on the Okabu Trail close to Jomon Sugi. Okabu Trail is an extension of the trail that starts at the Arakawa Trail Entrance. Wilson's Stump is also found along this trail.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

大王杉

大王杉は、屋久島で最大、最古の屋久杉の1つです。この巨木は、高さ24.7メートル、周囲11.1メートル、推定樹齢約3000年です。有名な縄文杉が発見されるまでは、大王杉は島にあるこの種の木の中で最も古く、最大だと考えられており、そのため、大王杉と名付けられました。残念ながら、現在、大王杉は外側から空洞の一部が見え、もはや最高の状態ではありません。しかし、展望デッキからしか見ることができない縄文杉と違って、大王杉はそばに行くと、近くから見上げることができます。大王杉は、大株歩道沿い、縄文杉のすぐそばにあります。荒川登山口から続く道の延長にあります。ウィルソン株もこの道沿いにあります。

本事業以前の英語解説文

なし

1433

No.15 Futago Sugi (Twin Sugi), Yakushima

<屋久島、鹿児島>

【施設名】双子杉

【整備予定媒体】看板、パンフレット、アプリ

できあがった英語解説文

Futago Sugi (Twin Sugi)

Futago Sugi consists of two *kasugi* trees that have grown from the same felled tree trunk. The two trees then merged together in a natural phenomenon known as inosculation. The left tree is 22 m tall with a 1.7 m trunk circumference, while the right tree is 22.7 m tall and has a 2.1 m trunk circumference. The twins are estimated to be only around 150 years old, and so are known as *kasugi* rather than *yakusugi*, a term only for *sugi* more than one thousand years old. Futago Sugi can be found at Yakusugi Land, where all the walking trails pass it.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

双子杉

双子杉(訳注：英語では Twin Sugi Trees)は、切り倒された同じ木の幹から伸びる、2つの小杉から成ります。2つの木々は接合(inosculation)と呼ばれる自然現象によりひとつになっています。左の木は、樹高 22メートル、幹の周囲 1.7メートルで、右の木は、樹高 22.7メートル、周囲 2.1メートルです。双子杉は、まだ樹齢約 150年と考えられているため、樹齢 1000年以上の杉の呼称である屋久杉ではなく、小杉と呼ばれています。この杉は、ヤクスギランドにあります。全てのトレッキングコースでそばを通ります。

本事業以前の英語解説文

なし

1434

No.16 Jomon Sugi Cedar, Yakushima

<屋久島、鹿児島>

【施設名】縄文杉

【整備予定媒体】看板、パンフレット、アプリ

できあがった英語解説文

Jomon Sugi

The majestic Jomon Sugi is the oldest and largest *yakusugi* on Yakushima. The colossal tree stands at an elevation of 1,300 m, is 25.3 m high and has a circumference of 16.4 m. It is believed the tree dates back to the Jomon period (approx. 10000 BCE–300 BCE), hence its name. However, its hollow shape makes the tree hard to be dated precisely, and estimates have put it at between 2000 and 7200 years old. While nearby Wilson's Stump was harvested in the sixteenth century for its precious wood, Jomon Sugi was spared because of its irregular shape.

The discovery of Jomon Sugi by Iwakawa Teiji in 1968 gradually led to moves to protect the forests of Yakushima. The logging villages were all closed in 1970, leading to an increase in tourism. Once Yakushima was designated a World Heritage Site in 1993, an observation deck was built to restrict viewers from getting too close to the tree. The deck is 15 m away from the tree, and can be found toward the end of the Okabu Trail.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

縄文杉

荘厳な縄文杉は、屋久島で最古かつ最大の屋久杉です。この巨木は、標高 1300 メートルに位置し、樹高 25.3 メートル、周囲 16.4 メートルです。名前は、この木は縄文時代(およそ紀元前 10000～紀元前 300)にさかのぼると信じられており、それゆえこのような名前なのです。しかし、空洞のある木は正確な年代を定めるのは難しく、推定樹齢は 2000 年から 7200 年の間だとされています。近くにあるウィルソン株は、貴重な材木として 16 世紀に切り倒されましたが、縄文杉はでこぼこな形が理由で、伐採を免れました。

1968 年、岩川貞次という人物が縄文杉を発見し、屋久島の森を守ろうという動きが徐々に始まります。1970 年には、伐採地はすべて閉鎖され、観光客が増加しました。1993 年に屋久島が世界遺産に指定された後、縄文杉から 15 メートル離れたところに展望デッキが作られ、観光客が木に近づきすぎるのを制限するようになりました。この巨木は、大株歩道の端にあります。

本事業以前の英語解説文

なし

1435

No.17 Yoggo Valley, Yakushima

<屋久島、鹿児島>

【施設名】横河溪谷

【整備予定媒体】パンフレット、アプリ

できあがった英語解説文

Yoggo Valley

A small path behind the village of Nagata leads to the serene Yoggo Valley. The name Yoggo is thought to derive from the word *yokogo*, which means a place of relaxation and recreation in the local Nagata dialect.

For the villagers of Nagata, Yoggo Valley forms the boundary between the world of humans and the mountains of the gods. When men return from worship in the mountains, they are greeted here with liquor.

Between the valley's big granite rocks there is a large natural pool suitable for swimming, with water so clean it can be drunk. However, visitors should be careful when entering the water in Yoggo Valley during rainfall. The pool can overflow, and accidents have occurred here.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

横河溪谷

永田集落の奥にある小さな道は、静かな横河溪谷に通じています。横河という名前は、ここ永田集落の方言で、憩いや娯楽の場所を意味する「よこご」という言葉に由来します。

永田の住民にとって、横河溪谷は、人間の世界と神々の山の境界です。山での参拝から戻ると、ここで、お酒で迎えられます。

谷の大きな花崗岩の間に、泳ぐのに適した広い天然のプールがあり、その水はとてもきれいなので、飲むこともできます。しかし雨天時に横河溪谷の水に入る場合は、注意しましょう。過去には、溪流が氾濫し、大きな事故が起こったことがあります。

本事業以前の英語解説文

なし

1436

No.18 Hirauchi Kaichu Onsen, Yakushima

<屋久島、鹿児島>

【施設名】平内海中温泉

【整備予定媒体】パンフレット、アプリ

できあがった英語解説文

Hirauchi Kaichu Onsen

Hirauchi Kaichu Onsen is an undersea hot spring with a magnificent view of Yakushima's southern coast. According to oral legend, about four hundred years ago locals stumbled upon steam rising from the rocks on the beach. They decided to create small pools for bathing by piling up rocks, and those pools form the current hot spring.

Its beach location means Hirauchi Kaichu Onsen can be accessed only during low tide. It is open twice each day, for two hours before and two hours after low tide. There is a timetable hanging on a nearby building that details the day's access times.

Hirauchi Kaichu Onsen features three baths with space for about fifteen people each. All baths are gender-mixed, and visitors are allowed to keep a towel inside the water to preserve modesty. The temperature of the water is between 38 to 40°C and varies according to the volume of tides. Although free to enter, a donation of 200 yen is requested to help clean and maintain the onsen.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

平内海中温泉

平内海中温泉は、南部の海岸の絶景も見える、海中温泉です。言い伝えによると、約 400 年前、海岸の岩から立ち上る湯気を村人達がたまたま見つけました。彼らは岩を積み上げて、入浴用の小さな浴槽を作ることにし、この浴槽が現在の温泉になりました。

ビーチが近いので平内海中温泉は、干潮時のみ利用可能です。時間帯は変動しますが、通常、1 日 2 回の干潮時、前 2 時間、後 2 時間に利用できます。近くの建物にかけてある時刻表で、その日の入浴可能な時間帯を確認できます。

平打海中温泉には、約 15 人が入れる 3 つの混浴風呂があります。すべて混浴で、入浴客は湯船の中でもタオルの着用が認められています。水温は 38 度から 40 度で、潮の満ち引きの程度によって変わります。平内海中温泉は、入場無料ですが、温泉の清掃とメンテナンスのため、200 円の寄付にご協力ください。

本事業以前の英語解説文

なし

1437

No.19 Yudomari Onsen, Yakushima

<屋久島、鹿児島>

【施設名】湯泊温泉

【整備予定媒体】パンフレット、アプリ

できあがった英語解説文

Yudomari Onsen

Yudomari Onsen is located on the same coast as the Hirauchi Kaichu Onsen and shares similar spectacular views. However, unlike Hirauchi this hot spring separates the genders with a fence in the middle of the bath. It can also be enjoyed for longer periods as its temperature is around 39°C. The locals of Yakushima gather on clear nights under starry skies to discuss the latest news, giving Yudomari a more local and communal atmosphere than Hirauchi.

Another hot spring among the rocks farther down the path toward the sea has even more magnificent seaside views. However, that one is not gender-separated.

Yudomari Onsen is open twenty-four hours a day, seven days a week. A donation of 100 yen to go towards cleaning, and maintenance is encouraged. Visitors should note that the temperature of the water can be much lower in late autumn and winter, and should use caution when entering the baths at that time.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

湯泊温泉

湯泊温泉は、平内海中温泉と同じ海岸にあり、同じような海の絶景が見えます。しかし、平内海中温泉と違って、この温泉には、湯船の真ん中に柵があり、男女別になっています。温泉の水温は約 39 度のため、さらに長い時間楽しめます。晴れた夜、美しい星空の下で、屋久島の人々はここに集まって最新のニュースについて語り合います。平内海中温泉に比べると湯泊温泉にはよりローカルで共同体的な雰囲気があります。

海に向かってさらに遠くへ行くと、岩の間にもうひとつの温泉を見つけることができます。ここではさらに雄大な海の景色を眺めることができます。しかし、こちらは男女別ではありません。

湯泊温泉は、1 日 24 時間週 7 日開いています。清掃とメンテナンスのため、ぜひ 100 円の協力金を払ってください。晩秋や冬に湯泊温泉に入浴する場合、他の季節よりも水温がぐっと下がることに気を付けましょう。

本事業以前の英語解説文

なし

1438

No.20 Kurio River Mangroves, Yakushima

<屋久島、鹿児島>

【施設名】栗生川のメヒルギ群落

【整備予定媒体】パンフレット、アプリ

できあがった英語解説文

Kurio River Mangroves

A group of small mangroves (*Kandelia candel*) can be found in the southern coastal area of Yakushima, along the Kurio River. Unlike most plants and trees, mangroves contain complex salt filtration and root systems to cope with saltwater immersion, helping them to grow in salty conditions. Although not as large as the mangroves on neighboring Amami Island, this species has adapted to colder climates and so can be found as far north as Southern Kyushu. Mangroves appear only on this part of Yakushima, which is the warmest area on the island. The trees' beautiful white flowers start to bloom between June and July.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

栗生川のメヒルギ群落

屋久島の南海岸の地域では、栗生川沿いに、小さなマングローブの群落が見られます。ほとんどの植物や木と違って、海水の侵入に対応できるよう、マングローブには複雑な塩分ろ過機能や根系があり、塩分の多い条件下で成長することを助けています。近くにある奄美諸島のマングローブほど大きくはありませんが、この種のマングローブは、さらに低温の気候にも適応するため、南九州が北限です。それでも、屋久島では、島内で最も暖かい、この地域でしか見ることができません。6月から7月にかけて、美しい白い花が咲きます。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】屋久島町歴史民俗資料館

【整備予定媒体】パンフレット、アプリ

できあがった英語解説文

Yakushima History and Folk Museum

Located by scenic Miyanoura River, the Yakushima History and Folk Museum tells the history of the people of Yakushima and aims to preserve its culture for future generations. The museum features a permanent exhibition covering artefacts from ancient times to the present. Objects include prehistoric pottery, locally-produced textiles, and old fishing tools, many of which were acquired through excavations and donations.

One of the most impressive parts of the museum is a real-scale replica of a traditional house that was built before World War II on nearby Kuchinoerabu Island. The bamboo structure was based on old photographs and can be entered and viewed from the inside.

The museum's signs are only in the Japanese language, but a pamphlet with English information is available at the cashier. The museum is open Tuesday to Sunday from 9:00 am to 5:00 pm. The entrance fee is 100 yen for adults and 50 yen for school children.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

屋久島町歴史民俗資料館

屋久島町歴史民俗資料館は、景色のいい宮之浦川の近くにあります。屋久島の人々の歴史について展示し、その文化を将来の世代に引き継ぐことを目的としています。この資料館は、古代から現代までの工芸品をカバーする常設展示が特徴です。先史時代の土器、地元で作られた織物、昔の漁具などといった、発掘や寄贈で集められた多くの展示品があります。展示品の中で、最も印象深いものの1つは、近くの口永良部島にあった、戦前の民家の実物大の複製品です。この竹の建物は、古い写真をもとに建てられ、実際に入って、中から見ることができます。

資料館の看板は日本語に限られていますが、受付で英語の情報が載っているパンフレットをもらえます。資料館は、火曜日から日曜日、朝 9:00 から夕方 5:00 まで開いています。入館料は、大人 100 円、(高校生までの)学生は 50 円です。

本事業以前の英語解説文

なし

1440

No.22 Janokuchi Waterfall, Yakushima

<屋久島、鹿児島>

【施設名】蛇之口滝

【整備予定媒体】パンフレット、アプリ

できあがった英語解説文

Janokuchi Waterfall

Janokuchi Waterfall is one of Yakushima's three magnificent waterfalls, the other two being Oko and Senpiro. Its name translates as "snake-mouth." Wide streams of water from nearby Mt. Suzu flow over a large granite wall at Janokuchi. When viewed from the pool below, the waterfall appears about 30 m tall. Its stream, however, continues further upwards for about 100 m, making Janokuchi even taller than Oko.

The trail leading to Janokuchi is around 4 km long and takes about two hours to hike one way. A variety of subtropical plants can be seen along the way. Janokuchi welcomes much fewer visitors than the other waterfalls on the island thanks to the long trek to reach it, so there is a high chance of being able to enjoy the falls alone. The entrance to the trail starts at Onoaida Onsen, so hikers can soak in the hot springs after their hike.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

蛇之口滝

蛇之口滝は、大川の滝や千尋の滝と共に、屋久島の3つの素晴らしい滝の中の1つです。名前の意味は、「蛇の口（英語ではsnake-mouth）」です。近くの鈴岳を源とする水の流れが、巨大な花崗岩の壁を越えて流れ落ちます。滝壺からだと、滝の高さは30メートル程です。しかし、その流れはさらに約100メートル上流まで続いており、大川の滝よりも蛇之口滝のほうが高いとも言えます。

蛇之口滝へ向かう登山道は、約4キロで、片道の所要時間は約2時間です。途中では、いろいろな種類の亜熱帯植物を見ることができます。長いトレッキングを必要とするため、島内の他の滝と比べ、蛇之口滝を訪れる人は少なめです。1人で滝を楽しむ可能性が高いでしょう。登山口は尾之間温泉から始まっていて、登山の後に立ち寄るのに最適な温泉です。

本事業以前の英語解説文

なし

1441

No.23 Taikoiwa Rock, Yakushima

<屋久島、鹿児島>

【施設名】太鼓岩

【整備予定媒体】パンフレット、アプリ

できあがった英語解説文

Taikoiwa Rock

Taikoiwa is the highlight of one of Shiratani Unsuiyko Ravine's three hiking trails. Sitting at a height of 1050 m, the rock offers spectacular views of the island's mountain range. From here visitors can see most of the island's high peaks including Mt. Tachu, Mt. Miyanoura, and Mt. Nagata. The name Taikoiwa, meaning "drum rock," not only refers to the large size of the traditional Japanese drum, but also its sound. The rock emits a drum sound when hit, shifting in tone depending on which part of it is struck.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

太鼓岩

太鼓岩は、白谷雲水峡にある3つのコースのうち、1コースの見どころとなっています。標高1050メートルにあり、そこからは屋久島の山脈の壮観な景色を眺められます。ここからは、太忠岳、宮之浦岳、永田岳のような、島内で最も高い山々のほとんどを見ることができます。日本語で「太鼓の(drum)」「岩(rock)」を示す太鼓岩という名前は、日本の伝統的な打楽器の巨大さを意味するだけでなく、その音楽性にも関係しています。この岩を叩くと、太鼓のような音が聞こえ、岩のどこを叩くかによって、音色が変わります。

本事業以前の英語解説文

なし

1442

No.24 Arakawa Trail Entrance, Yakushima

<屋久島、鹿児島>

【施設名】荒川登山口

【整備予定媒体】パンフレット、アプリ

できあがった英語解説文

Arakawa Trail Entrance

The Arakawa Trail Entrance marks the beginning of one of Yakushima's newer trails, and it leads to the ancient Jomon Sugi. The trail was created about ninety years ago for trolley rails to transport lumber. One year after the first rails were laid, the village of Kosugidani was founded near its tracks. The long rails expanded for 26 km, eventually connecting Kosugidani and the nearby village Ishizuka with Anbo, which was at the time the island's main port.

Kosugidani flourished in the post-war decades, reaching a population of 540 in 1960. Now the village is abandoned, its logging office having closed in 1970. Remnants of the settlement, including an old school, can still be seen along the trail. The railroad track is still occasionally used to transport supplies and equipment.

A bus stopping at the Yakusugi Museum takes visitors to the Arakawa Trail Entrance in about thirty-five minutes. The trail leads to the island's most treasured *yakusugi*, the Jomon Sugi, which can be reached in about four or five hours on foot.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

荒川登山口

荒川登山口から続く道は、島内の新しい登山道の1つで、古い縄文杉へと通じています。材木を運ぶトロック軌道として約90年前に作られました。最初の軌道が完成してわずか1年で、軌道の近くに小杉谷集落ができました。26キロに渡る長い登山道は最後は小杉谷と、当時は屋久島の主要な陸揚げ港であった安房がある、近くの石塚村をつないでいます。

小杉谷は、戦後数十年間栄え、1960年には人口が540人でした。1970年に伐採事務所が閉鎖され、現在、村は閉鎖されています。縄文杉ルート沿いでは、古い小学校など、開拓地の跡を今なお見ることができます。現在では、この軌道が物資や備品の輸送に使われるのはごくまれです。屋久杉自然館に止まるバスだと、約35分で荒川登山口へ行けます。4～5時間で島で最も大切にされている屋久杉である縄文杉に到着します。

本事業以前の英語解説文

なし

1443

No.25 Onoaida Onsen, Yakushima

<屋久島、鹿児島>

【施設名】尾之間温泉

【整備予定媒体】パンフレット、アプリ

できあがった英語解説文

Onoaida Onsen

According to local legend, a hunter discovered Onoaida Onsen when he saw a deer healing its wounds in the hot springs. Today Onoaida Onsen is most popular with locals and with mountain climbers hiking the nearby two-hour trail leading to the Janokuchi Waterfall.

At around 46°C, these are the hottest springs on Yakushima. They can also be enjoyed year-round as they are located indoors. There are no towels, soap, or shampoo, though, so visitors should make sure to bring their own supplies. The bath is open daily from 7:00 am to 9:30 pm (Mondays from 12:00 pm). It costs 100 yen for children up to elementary school age (toddlers go free), or 200 yen for adults.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

尾之間温泉

地元の伝承によると、尾之間温泉は、シカがここで傷を癒すのを猟師が見つけたときに、発見されました。現在、尾之間温泉は、地元住民や、蛇之口滝へ通じる、近くの2時間コースを歩いた登山客にとっても人気があります。

尾之間温泉の温度は46°Cほどで、屋久島では最も熱い温泉です。屋内の施設なので、1年中楽しめます。尾之間温泉には、タオル、石鹸、シャンプーなどはありませんので、必ず持参するようにしましょう。営業時間は、毎日朝7:00～夜9:30（月曜日は昼12:00より営業）です。幼児は無料、小学生以上の子ども100円、大人200円です。

本事業以前の英語解説文

なし

1444

No.26 Issou Beach, Yakushima

<屋久島、鹿児島>

【施設名】一湊海水浴場

【整備予定媒体】パンフレット、アプリ

できあがった英語解説文

Isso Beach

Set in a calm bay, Isso Beach is one of the safest swimming options for families with children on Yakushima. It even has a life guard from July to August, and both showers and toilets are nearby. The beach provides some of the best snorkeling and diving opportunities on the island. Many kinds of fish and turtles can be seen during the summer months.

On the right coastal side stands the red *torii* gate of Hachiman Shrine, dedicated to the god of warriors. On a clear day from here visitors can see the small island of Satsuma Iojima.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

一湊海水浴場

静かな湾に位置する一湊海水浴場は、子ども連れの家族にとっては、屋久島で最も安全に泳げる場所の 1 つです。7 月から 8 月までは監視員がいて、シャワーとトイレも近くにあります。この海岸は、屋久島でシュノーケリングやダイビングをするのに最高で、夏にはたくさんの種類の魚やカメを見ることができます。

海岸の右側には、戦士の神である八幡神社の赤い鳥居があります。天気がいい日には、海のかなたに薩摩硫黄島という小さな島が見えます。

本事業以前の英語解説文

なし

1445

No.27 Harutahama Beach, Yakushima

<屋久島、鹿児島>

【施設名】春田浜海水浴場

【整備予定媒体】パンフレット、アプリ

できあがった英語解説文

Harutahama Beach

Harutahama Beach is an artificially constructed area where visitors can enjoy snorkeling and diving. Its closed-off environment makes for lower waves and quieter water, and so the beach is suitable for safe swimming, in particular for families with children. Showers and toilets are available within walking distance.

The rich coral reef here means some of the island's best snorkeling and diving opportunities are found here. It also offers good mountain views, while the island of Tanegashima is visible on the horizon on clear days. Small crabs and other small creatures can be seen along the seafloor.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

春田浜海水浴場

春田浜海水浴場は、人工的に作られた海水浴場で、シュノーケリングやダイビングが楽しめます。(岩で)囲まれた環境なので、波が低く、水も穏やかです。特に子ども連れの家族にとっては、安全に海水浴をするのに適した場所です。シャワーやトイレは海水浴場から徒歩圏内です。

サンゴ礁が豊富にあり、屋久島内でも最もシュノーケリングやダイビングに適している場所とも言えるでしょう。春田浜海水浴場は、山の眺めも良く、天気がいい日には、海のかなたに種子島が見えます。海岸沿いには、小さなカニなどの小さな生き物がいます。

本事業以前の英語解説文

なし

1446

No.28 Kurio Beach, Yakushima

<屋久島、鹿児島>

【施設名】栗生海水浴場

【整備予定媒体】パンフレット、アプリ

できあがった英語解説文

Kurio Beach

Found in the southwest of Yakushima and protected by sea walls, the calm waters of peaceful Kurio Beach are suited to families with children. Few swimmers venture out here, making it relatively quiet throughout the summer. Visitors from late April until late July might see loggerhead sea turtles nesting, although sightings are more likely at Nagata Inakahama Beach. Located nearby, Cape Tsukazaki has transparent waters and beautiful coral reefs, offering some of the best diving and snorkeling spots on the island. Toilets are available near the beach.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

栗生浜海水浴場

屋久島の南西にある栗生浜は、港を保護する堤防に守られた、のどかな海岸です。(海が穏やかなため、)子ども連れの家族に適しています。泳ぎに来る人は比較的少なく、夏の間も静かです。永田いなか浜のように、栗生浜でも、4月後半から7月後半にかけて、アカウミガメの産卵を見ることができるかもしれません。しかし、いなか浜よりもカメを見つける確率は低いようです。透明な海水と美しいサンゴ礁がある、近くの塚崎(つかざき)は、島内最高レベルのダイビング、シュノーケリングスポットです。トイレは海岸の近くにあります。

本事業以前の英語解説文

なし

1447

No.29 Pon-tan kan (Yakushima Product Promotion Center), Yakushima

<屋久島、鹿児島>

【施設名】ぼんたん館

【整備予定媒体】パンフレット、アプリ

できあがった英語解説文

Pon-tan kan (Yakushima Product Promotion Center)

The Yakushima Product Promotion Center, known as Pon-tan kan in Japanese, is named after two citrus fruits introduced from Taiwan in the early twentieth century. Today Yakushima is Japan's largest producer of *ponkan* and *tankan*, both a type of orange. The harvest season for *ponkan* is from December to January, and for *tankan* between February and March.

Visitors can purchase cakes, cookies, jam, and juice made from *ponkan* and *tankan* at the cafe and shop in the center. Many other locally-produced goods are also for sale, including vegetables, sweets, tea, and spices, some of them produced in the building itself. The center is an ideal place to buy souvenirs, and is open daily from 8:30 am to 5:30 pm. It is closed to the public over the New Year holiday.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

ぼんたん館

「ぼんたん館」として知られる、屋久島特産品振興センター(Yakushima Product Promotion Center)は、20世紀初頭に台湾から日本に紹介された2つの柑橘類にちなんで名付けられました。現在、屋久島は「ぽんかん」と「たんかん」と呼ばれる種類のオレンジの最大の生産地です。ポンカンの収穫期は12月から1月で、タンカンは2月から3月です。

ぼんたん館のカフェやお店では、ポンカンやタンカンで作った甘いケーキ、クッキー、ジャム、ジュースなどを購入できます。さらに、野菜、お菓子、茶葉、香辛料など、他にもたくさんの地元で生産された商品が販売されていて、館内で加工された商品もあります。お土産を買うのにぴったりの場所です。ぼんたん館は、毎日朝8:30から夕方5:30まで営業、年末年始のみ閉館しています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】屋久島有用植物リサーチパーク

【整備予定媒体】パンフレット、アプリ

できあがった英語解説文

Yakushima Botanical Research Park

Fruits, herbs, and plants from all over the world are grown in the Yakushima Botanical Research Park. Almost anything can be cultivated on the island thanks to its high amount of rainfall, rich soils, and subtropical coastal climate. In the research park, visitors can see rare plants and fruits, including dragon fruit and old banyan trees with their characteristic aerial roots.

One of the highlights of the Yakushima Botanical Research Park is its large pineapple garden, which gives the park an exotic character. The research park also has an observation deck with a breathtaking view of Trohki Waterfall with Mt. Mocchomu in the background. The park is open daily from 8:30 am to 5:30 pm from March to September (last entrance at 5:00 pm), and from 8:30 am to 5:00 pm from October to February (last entrance at 4:30 pm).

上記解説文の仮訳（日本語訳）

屋久島有用植物リサーチパーク

屋久島有用植物リサーチパークでは、世界中の果物、ハーブ、植物が育てられています。降雨量の多さ、豊かな土壌、亜熱帯の気候のおかげで、屋久島では、ほとんど何でも栽培できます。リサーチパークでは、気根が特徴的な古いガジュマルの木やドラゴンフルーツのような、珍しい植物や果物を見ることができます。

屋久島有用植物リサーチパークの見どころの1つは、大きなパイナップル園で、エキゾチックな個性を加えています。リサーチパークには、モッコム岳の絶景を背にしたトロキの滝が見える展望デッキもあります。開園時間は、3月から9月は毎日朝8:30から夕方5:30まで（入館は5:00まで）、10月から2月は朝8:30から夕方5:00まで（入館は4:30まで）です。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】屋久島環境文化村センター

【整備予定媒体】パンフレット、アプリ

できあがった英語解説文

Yakushima Environmental and Cultural Village Center

Yakushima Environmental and Cultural Village Center is an indispensable source of local history and information located within walking distance of the ferry port of Miyanoura. The facility has a permanent exhibition and a film projection area that highlights the relationship between Yakushima's inhabitants and the island's nature. Displays are illustrated with many visual and audio materials. They focus on the formation of the island and its natural habitat, as well as on the culture and lifestyles of the people living in the forests, by the sea, and in the mountains.

A tourist information center certified by the Japan National Tourism Office (JNTO) is located on the first floor, as well as a souvenir and local product shop, and a cafe. Access to this area is free of charge, though visitors must pay to see the exhibitions. Detailed English-language explanations and pamphlets, as well as films with English subtitles, make this center as accessible for foreign visitors as for domestic travelers.

The center is open daily, Tuesday to Sunday, from 9:00 am to 5:00 pm (last entrance at 4.30 pm). It is open on Mondays as well during summer holidays. Entry to the exhibition and theater costs 520 yen for adults, 360 yen for high school and university students, 260 yen for elementary and junior high school students, and is free for children up to six years old.

Before starting your exploration of Yakushima, do visit the Yakushima Environmental and Cultural Village Center.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

屋久島環境文化村センター

屋久島環境文化村センターは、地元の歴史や情報を集めるのには欠かせない場所。宮之浦のフェリーターミナルから徒歩圏内にあります。センターでは、常設展と映像エリアがあり、島民と屋久島の自然との関係が紹介されています。展示ではたくさんの視覚、聴覚資料を使った説明がなされており、島の形成や自然、そして森、海、山のそばで暮らす人々の文化や生活様式などが中心です。

最初のフロアには JNTO 認定の TIC、お土産や地元の品のショップ、カフェなどがあります。

展示を見るには入場料が必要ですが、このエリアは無料で入ることができます。センターには、英語での詳しい説明やチラシ、英語の字幕付きの映像があるため、国内からの旅行者と同じように、外国人観光客も利用しやすくなっています。

センターは毎日火曜日から日曜日、朝 9:00 から夕方 5:00（入館 4:30）まで開いており、夏休み中は月曜日も開いています。観覧料は、大人 520 円、高校生と大学生 360 円、小学生と中学生 260 円、6 歳までの幼児は無料です。

屋久島の探検を始める前に、屋久島環境文化村センターを訪問してください。

本事業以前の英語解説文

なし

1450

No.32 Yakusugi Museum, Yakushima

<屋久島、鹿児島>

【施設名】屋久杉自然館

【整備予定媒体】パンフレット、アプリ

できあがった英語解説文

Yakusugi Museum

The Yakusugi Museum is a facility dedicated to spreading knowledge about the Japanese cedar (*Cryptomeria japonica*), known as *yakusugi*, and the vegetation found on Yakushima. It is conveniently located on the way toward the Arakawa Trail Entrance.

An impressive panorama room exhibits the shifts in vegetation on the island, arranged vertically from subtropical plants and trees along the coast to subarctic vegetation near the mountain peaks. Other exhibitions include a detailed explanation of the evolution of logging tools on Yakushima, including old axes and early saws, and a demonstration of how *yakusugi* lumber was used to create roof shingles.

Fascinating also is the prize-winning design of the museum itself. Specialized Shinto shrine carpenters were employed to build the structure. The entrance was built using no nails or pins.

Audio guides in English are available at the reception desk. The museum is open daily from 9:00 am to 5:00 pm (last entrance at 4:30 pm). It is closed on the first Tuesday of every month, as well as at the end and the beginning of each year. Admission is 600 yen for adults, 400 yen for high school and university students, and 300 yen for elementary and junior high school students.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

屋久杉自然館

屋久杉自然館は屋久杉として知られる日本の杉(*Cryptomeria japonica*)と、屋久島の植生に関する知識を広めるための施設です。屋久杉自然館は、荒川登山口へ向かう途中の、便利なロケーションにあります。

パノラマ館は印象深く、亜熱帯植物から海岸沿いの木、山頂近くの亜寒帯植物へと垂直分布する、島の植生の変化に関する展示があります。他の展示品は、古い斧や初期の鋸のような、屋久島での伐採道具の進化についての詳しい説明や、屋久杉の材木を使って、屋根板を作る方法を解説しています。

最も魅力的なのは、デザインで受賞歴のある、この自然館そのものです。宮大工（英語では、神社専門の大工と説明）を雇って建設し、入り口で釘やピンを使っていません。

英語の音声ガイドを受付で貸し出しています。自然館は、毎日朝 9:00 から夕方 5:00(入館 4:30)まで開いていますが、毎月第 1 火曜日と年末年始は休館です。入館料は、大人 600 円、高校生と大学生 400 円、小学生と中学生 300 円です。

本事業以前の英語解説文

なし

1451

No.33 Nakama Village Banyan Trees, Yakushima

<屋久島、鹿児島>

【施設名】中間ガジュマル

【整備予定媒体】パンフレット、アプリ

できあがった英語解説文

Nakama Village Banyan Trees

In the charming village of Nakama stands a gate consisting of two large banyan trees. Banyan trees live and grow bigger by dropping aerial roots down from their branches, which eventually touch the ground and thicken into roots that support the tree. They also throttle other trees, earning them the name “strangler fig.”

The banyan tree gate was cut open by the villagers in 1923 so they could pass through it on their oxen carrying sugar cane to the sugar cane mill located beyond the trees. The village retains some of its laidback southern atmosphere to this day. However, like most villages on this part of the island, Nakama is also struck heavily by typhoons during the summer months. For this reason the villagers build their houses low and place stones on the roof. Visitors can stroll through the village to see these details.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

中間のガジュマル

魅力的な中間集落には、2本の大きなガジュマルから成る木の門があります。ガジュマルは、気根を枝から垂らすことで生育し、徐々に大きくなります。気根は最終的には地面に届き、太い根となり、木を支えます。また、他の木を絞めるため、「絞め殺しの木」（英語では絞め殺しのイチジク）とも呼ばれています。

ガジュマルの木の門は、1923年に村人たちによって切り開かれました。それにより、村人たちは彼らの牛が運ぶサトウキビを、木の向こうにあるサトウキビ工場へ送ることができるようになりました。この集落は、のんびりした南国の雰囲気は今なお残っていますが、島のこの地方のほとんどの集落と同じように、夏にはよく台風にみまわれます。このため、住民は家を低く建て、屋根には石を載せています。村を散策すると、このような興味深い家を細かく見ることができます。

本事業以前の英語解説文

なし

1452

No.34 Yakushima Lighthouse, Yakushima

<屋久島、鹿児島>

【施設名】屋久島灯台

【整備予定媒体】パンフレット、アプリ

できあがった英語解説文

Yakushima Lighthouse

Yakushima Lighthouse, located near the Seibu Rindo Forest Path in the northwest of the island, was built at the beginning of the nineteenth century. After the First Sino-Japanese War (1894–1895), Taiwan became a Japanese territory and trade rapidly increased between the islands. Yakushima Lighthouse became an important navigational aid for ships coming from the south. Its church-like design was based on a British lighthouse, and it is now a popular location for newly-married couples to take photos. Visitors are encouraged to take a look behind the lighthouse, where they will find a small shrine dedicated to Ebisu, the Japanese god of fishermen.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

屋久島灯台

屋久島灯台は、島の北西にある西部林道の近くにあり、19世紀初頭に建てられました。1894年～1895年の日清戦争の後、台湾は日本の領土となり、島同士の貿易が急速に盛んになったため、屋久島灯台は、南からやって来る船の航海を助ける重要な場所でした。イギリスの灯台を基にデザインされていて、今では、新婚カップルに人気の写真スポットとなっています。観光客は、ぜひ屋久島灯台の裏も見てください。日本の漁の神様、恵比寿を祀った小さな祠があります。

本事業以前の英語解説文

なし

環境省慶良間自然保護官事務所

1453

No.1 Stories to Experience: The Kerama Islands (Keramashoto National Park)

<環境省慶良間自然保護官事務所、沖縄>

【施設名】慶良間諸島国立公園

【整備予定媒体】JNTO Global Website

できあがった英語解説文

Paradise is Blue

A 40-kilometer boat ride west from Naha in Okinawa takes you to the Kerama Islands, an archipelago of thirty islands in the East China Sea. Depending on the type of boat, the trip takes from just 35 minutes to two hours.

Designated a national park in 2014 for their outstanding scenic beauty, the Keramas feature landscapes that combine high drama—sheer cliffs, steep mountains, windswept plains, and dense pine forests—with the dreamy serenity of crushed-coral beaches and placid bays.

The waters around the islands are famous for their vivid color. A special term—“Kerama Blue”—has even been coined to describe their unique palette of turquoise, sapphire, opal, cobalt, and sky blue. The sparkling clarity of the water results from it being continuously filtered by the coral, the sand, and the creatures that live on the coral reefs.

The Kerama coral reefs are very special. They account for over 60% of all the reef-building coral in Japan. There are nearly 250 varieties of coral. The reefs support a wonderfully diverse ecosystem, highlights of which include damselfish, butterflyfish, sea turtles, and humpback whales.

The Fantastic Four

Of the archipelago’s thirty or more islands, only four are inhabited. The largest of these, and the most mountainous, is Tokashiki. Being closest to Naha, Tokashiki is particularly popular with day-trippers. The lower-lying Zamami has a cozy, intimate vibe that makes it a favorite with independent travelers keen to soak up the atmosphere in a more leisurely way. Aka and Geruma, just south of Zamami, are small, densely forested islands that are home to the charming Kerama deer.

Prosperity and Tragedy

For such an idyllic, remote place, the Keramas have certainly seen their share of global events over the course of history. When Okinawa was under the rule of the Ryukyu kingdom from the fifteenth to the nineteenth centuries, the islands served as a staging post for vessels traveling between Okinawa and China. Seafarers who made fortunes in the

China trade built themselves solid houses surrounded by sturdy walls of carved coral, some of which survive to this day.

Sadly, parts of this historical legacy were lost in the last days of World War II. Being a base for the suicide attack boats with which the Japanese hoped to delay the American invasion of Okinawa, in March 1945 the islands were bombarded, and then captured. Many of the inhabitants took their own lives, a tragedy marked by memorials dotted around the islands.

A Thriving Culture

Despite these upheavals, the traditional culture and customs of the Keramas continue to flourish. Each village still has its age-old *utaki* sacred sites and *uganju* prayer places, while the special relationship with the sea is celebrated with festivals throughout the year. These include a *sabani* race, when traditional Okinawan fishing boats (six-man dug-outs with a sail) are raced to placate the sea gods, and to pray for good catches and the safety of the island's fishermen. During the *Umiugan* festival, people give thanks for the past year, and pray for safety at sea and bountiful catches of fish in the year to come.

By Land or By sea

The Keramas have numerous pristine beaches. Settle down on one and, when you're nicely warmed up, grab your snorkel and explore the rich marine life: sea turtles, colorful tropical fish, and the coral in all its technicolor glory. More adventurous types can hire stand-up paddle boards, or join a boat tour to some of the many uninhabited islets.

With 100 diving spots, the Keramas are one of the world's premier diving destinations. Even those who cannot dive or snorkel have the opportunity to appreciate the fascinating underwater world on a glass-bottomed boat trip from Aharen Harbor in Tokashiki or Zamami Habor in Zamami. For those looking for marine wildlife on a more heroic scale, the seas around the Keramas are host to humpback whales who migrate here in winter to rear their young. Whale-watching can be done from a boat or from hilltop viewpoints on land.

The most important islands have many designated viewpoints offering splendid vistas over the Kerama archipelago. There are also nature trails, along which you will find flora including Okinawa pines, Kerama azaleas, and Japanese bayberries.

The Keramas are a tranquil, timeless sanctuary, somewhere to get away from the stress and bustle of modern life. A place to revive the senses, enhanced by brilliant primary colors—blue sea, white beaches, green hills. Immersed in Kerama Blue, your blues might simply disappear!

上記解説文の仮訳（日本語訳）

青の楽園

沖縄の那覇から船に乗り、東シナ海を西へ 40km 行けば、そこは 30 ほどの島々からなる慶良間諸島です。船の種類にもよりますが、那覇港からは高速船やフェリーで 35 分～2 時間の旅です。

その景観のきわだつ美しさにより、2014 年に国立公園に指定された慶良間諸島は、断崖、急な山、風が吹き渡る平原、深い松林といったドラマチックさと、砕けたサンゴの砂浜や穏やかな入り江が醸し出す夢のような平穏さを併せ持つ地形を特徴としています。

島々を取り囲む海は、その鮮やかな色でよく知られています。ターコイズや、サファイア、オパール、コバルト、スカイブルーを混ぜた独特の色彩を表現するため、「ケラマブルー」という特別な言葉さえ作られたほどです。慶良間諸島の海水はサンゴや砂、そしてサンゴ礁に住む海洋生物によって絶えず濾過されており、その純度の高さがこの色彩を生み出しています。

慶良間諸島のサンゴ礁はとても特別なものです。日本のサンゴ礁の 60%以上の割合を占めています。慶良間諸島では、250 種近くのサンゴが見られます。そしてこのサンゴ礁が、スズメダイや、チョウチョウウオ、ウミガメ、ザトウクジラを含む多様性に富んだ素晴らしい生態系を支えています。

特に魅力的な 4 つの島

30 もの島々からなる慶良間諸島のうち、人が住んでいるのはたった 4 つの島だけです。中でも最大かつ最も山の多い島が渡嘉敷島です。那覇から一番近い渡嘉敷島は、日帰り旅行者に特に人気があります。海拔の低い座間味島は、心地よく親密な雰囲気があり、よりくつろいだ空気感に浸りたい個人旅行者に好まれています。座間味島のすぐ南にある阿嘉島と慶留間島は、樹々が生い茂る小さな島で、かわいらしいケラマジカの生息地です。

繁栄と悲劇

のどかな遠隔の地であるにもかかわらず、慶良間諸島は歴史の中で、世界的な出来事を多く目の当たりにしてきました。15 世紀から 19 世紀にかけて、沖縄が琉球王国の統治下にあった時代、慶良間諸島は沖縄と中国を行き来する船の中継地点として、役割を果たしました。中国との貿易で巨万の富を得た船乗りたちは、サンゴを彫って作った壁に囲まれた豪邸を建て、現在もその中の一部が残っています。

悲しいことに、こうした歴史的遺産の一部は第二次世界大戦の後期に失われてしまいました。米軍の沖縄侵攻を足止めすることを狙った日本軍の特攻艇の基地であった慶良間諸島は、爆撃を受けた 1945 年 3 月に侵略されました。島民の多くが自決したこの悲劇は、諸島のあちこちに点在する記念碑によって人々の記憶に留められています。

文化の繁栄

こうした大変動を体験したにもかかわらず、慶良間諸島の伝統文化と風習は現在も繁栄し続けています。各村には古来の神聖な場所「御嶽（うたき）」や「拝所（うがんじゅ）」が今も存在しており、海との特別な関係を祝う祭りが年間を通して行われています。その中には、海の神を鎮め、大漁と島の漁師の安全を祈願して行われる沖縄伝統のサバニ（6 人乗りの帆付き漁船）のレースや、昨年中の感謝を捧げ、海上の安全と大漁を願って行われる海御願（うみうが

ん) などがあります。

陸でも海でも

慶良間諸島には、美しく汚れのない白い砂浜が数多くあります。まずはそんな砂浜に腰を落ち着けて、ほどよく心の準備ができれば、シュノーケルをつけてウミガメや色とりどりの熱帯魚、鮮やかなブルーを生み出すサンゴなどの豊かな海洋生物を探しに行きましょう。冒険好きな方は、スタンドアップパドルボードやボートのツアーに参加して、数多くある無人島のいくつかに行ってみることもできます。

100ヶ所のダイビングスポットを有する慶良間諸島は、世界最高のダイビングの旅先の一つです。ダイビングやシュノーケルができない方であっても、渡嘉敷島の阿波連港や座間味島の座間味港から出航しているガラスボートの旅に出れば、水中の世界を体験することが可能です。超大型の野生海洋生物がお好きな方には、冬の時期、慶良間諸島周辺の海域に繁殖と子育てのため移動してくるザトウクジラを見ることができます。船上または丘の高台からのホエールウォッチングがお薦めです。

各島には慶良間諸島のすばらしい眺望を楽しめる展望台があります。また、リュウキュウマツやケラマツツジ、ヤマモモなどの植物を季節ごとに見つけることができる自然遊歩道もあります。

慶良間諸島は、静かで時代を超えた神聖な場所であり、ストレスと現代の喧騒から離れています。青い海や、白い砂浜、緑の丘といった光り輝く原色によって、感性を取り戻せる場所です。ケラマブルーに囲まれれば、ブルーな気持ちは吹き飛ばすかもしれません！

本事業以前の英語解説文

無し

1454

No.2 Keramashoto National Park

<環境省慶良間自然保護官事務所、沖縄>

【施設名】慶良間諸島国立公園
【整備予定媒体】ウェブサイト、看板

できあがった英語解説文

Famous for its pristine coral reefs, blue seas, and colorful marine life, the Keramashoto National Park has long been a legend among the international diving community. But there's more to the place than that: whether you're into nature walks and splendid views, whale-watching or deer-spotting, relaxing on beaches, or absorbing local culture, the park has something for you.

The Kerama Islands is a group of over 30 islands located roughly 40 kilometers west of Naha, the prefectural capital of Okinawa, in the East China Sea. The islands, of which just four—Tokashiki, Zamami, Aka, and Geruma—are now inhabited, were designated a national park on March 5, 2014 because of their outstanding scenic beauty. The park covers an area of around 94,000 hectares, of which 3,520 hectares are land and the remaining 90,475 are ocean. Around 1/10th of the ocean area is a registered Ramsar site under the Ramsar Convention.

An archipelago of sunken mountains

The islands were originally part of a mountain range that extended westward from northern Okinawa. With tectonic movements, the mountains sank into the sea—which is precisely why the islands look like submerged mountain tops protruding from the sea, a phenomenon geologists call a ria coastline. The predominant rock types are sandstone (tan), mudstone (gray) and phyllite (gray to black).

With steep mountains, sheer cliffs, windswept plains, and dense forest, the key note of the Kerama landscape is high drama. Nonetheless, there are plenty of placid bays and beautiful beaches with white sand made from crushed coral and the tiny star-shaped protozoa shells known as foraminifera. And everywhere you look is the famous Kerama Blue, an ever-changing tapestry of clear turquoise and sapphire, cobalt, and sky blue that's the result of the water being continuously purified and filtered by the coral rock, the sand, and by the creatures who live on the reefs.

The reefs provide food and habitats for colorful tropical fish including damselfish and butterfly fish. Sea turtles, who lay their eggs on the islands' beaches, are also found here. There are around 100 diving spots in the park, and you can also snorkel off the beaches to see the marine life from up close. Further out to sea, humpback whales migrate here to rear their young in the winter months, providing opportunities for whale-watching. On land, meanwhile, there is a chance you will come across Kerama deer, a unique insular subspecies of the Japanese sika deer that thrives here.

A Proud Seafaring History

The park also sheds light on the history and culture of the area. Traces of the culture of the Ryukyu Kingdom—when the Keramas flourished as a staging post on the Okinawa to China sea route—still remain. For people interested in military history, there is no shortage of sites and memorials associated with the opening days of the Battle of Okinawa. Meanwhile, from spring to autumn, traditional festivals are held celebrating the islanders' profound relationship with the sea.

Welcome to the Keramashoto National Park. Please help us preserve the beauty of this very special place by treating the natural environment and the animals who live in it with the care and respect they deserve.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

自然のままのサンゴ礁、青い海、カラフルな海の生物で有名な慶良間諸島国立公園は、国際的なダイビングコミュニティの中で、長い間伝説とされてきました。しかし慶良間諸島国立公園は、ダイビングのためだけの場所ではありません。自然の中を歩くこと、素晴らしい景色を楽しむこと、クジラを見たり、鹿を見つけたり、ビーチでくつろぎ、現地の文化を吸収したり、この国立公園はあなたにとって何かを与えてくれるはずです。

慶良間諸島は、沖縄の県庁所在地である那覇の約 40km 西の東シナ海に位置する、30 以上の島々から成る諸島です。現在、人が暮らす渡嘉敷、座間味、阿嘉、慶留間の 4 つの島は、2014 年 3 月 5 日に、その素晴らしい景色の美しさから国立公園の一つに認定されました。この公園は、約 94,000 ヘクタール の地域を占め、そのうち 3,520 ヘクタールは陸で、残りの 9,0475 ヘクタールは海です。また、海域の約 10 分の 1 に当たる海域公園地区すべてが、ラムサール条約湿地に登録されました。

海底山脈の群島

この諸島はもともと、沖縄県北部から西方に向けて広がる山脈の一部でした。地殻変動が起きたとき、山脈は海に沈みました。このことが、諸島が海から突き出た山のように見えることを説明しています。地質現象学者はこれを、リアス海岸と呼びます。岩石の主な種類は、砂岩（肌色）、泥岩（灰色）、千枚岩（灰色から黒）です。

険しい山脈、断崖、風が吹き渡る平原、深い樹々の森が、慶良間の景色がドラマティックに見える要因です。とはいえ、静かな湾や、砕けたサンゴや星形の原生生物（有孔虫）の殻からできた白い砂が広がる美しいビーチもたくさんあります。そして、有名な澄んだターコイズ色とサファイヤ色の常に変化するタペストリーのようなケラマブルー、サンゴ礫や砂、サンゴ礁に住む生物により何度も浄化され濾過され生み出されるコバルトブルーやスカイブルーが見渡す限り広がります。

サンゴ礁は、スズメダイやチョウチョウウオなどのカラフルな熱帯魚に食べ物や住み家を与えます。慶良間諸島の砂浜に

卵を産み落とすウミガメも見ることができます。公園には約 100 ヶ所以上のダイビングスポットがあり、ビーチからシュノーケリングし、間近で海の生き物を見ることもできます。ザトウクジラが冬の時期に繁殖と子育てのためにここに移り住むので、ホエールウォッチングの機会が得られます。一方、陸上では、一年を通してこの地に育った島独自の姿をしたニホンジカの亜種であるケラマジカと遭遇するチャンスがあります。

誇れる海洋の歴史

歴史と文化もまた、この公園で垣間見ることができます。慶良間諸島が沖縄とシナ海の航路の中継地点として栄えたころの琉球王国の文化の名残りが、今も残っています。軍事史に関心のある人にとっては、沖縄戦の開戦日に関する慰霊碑などがあります。一方、春から秋にかけて、島民と海の深いつなかりを祝うための伝統的な祭りが催されます。

慶良間諸島国立公園へようこそ。島の自然環境と島に生息する動物たちへの配慮と尊敬をもって、このとても特別な場所の美しさを保護することにご協力ください。

本事業以前の英語解説文

無し

【施設名】慶良間諸島国立公園

【整備予定媒体】ウェブサイト

できあがった英語解説文

The Keramas' "Big Island"

Tokashiki is the largest of the Kerama Islands. Located around 32 kilometers west of Naha in Okinawa, it is long and thin, measuring 9 kilometers from north to south, and 2.8 kilometers across at its widest point. Its landscape is dramatic, with steep mountains soaring straight up out of the sea to heights of 200-plus meters in the center (Mt. Arari) and the north (Mt. Akama), and sandstone plains covered in windswept pines at Aharenmisaki Enchi at the southern tip.

Out of necessity, people live and farm in the flat and low-lying parts of the island. (Thanks to its mountainous topography, Tokashiki has plenty of fresh water, which makes it good for rice farming.) The island has three villages: Tokashiki on the east coast, where the ferry from Naha arrives, is the largest; then there is Tokashiku, a small hamlet, a little further south and over on the west coast; and south of Tokashiku is Aharen, from which the Mitsushima Inter-Island Ferry departs to Aka and Zamami islands.

Despite its forbidding cliff-lined shoreline, Tokashiki possesses a couple of idyllic beaches—Tokashiku Beach and Aharen Beach—which sit in serene coves, protected from the elements by the surrounding mountains. With a dramatic landscape, Tokashiki is a great place for walks with spectacular views, with eight viewpoints and two nature trails.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

慶良間の「ビッグアイランド」

渡嘉敷島は、慶良間諸島の中で最大の島です。沖縄県那覇市の約 32km 西に位置し、細長く、南北で全長 9km、最も広いところで東西 2.8km あります。景色はドラマティックであり、南北にまっすぐそびえる険しい山脈をもち、海拔は中央部（阿良利山）と北部（赤間山）で 200m 余り、南端には阿波連岬園地があり、風衝のマツの木で覆われた砂岩の平原が広がっています。

故に、島民は島の平坦で低い場所に暮らし、農業を行っています。（山の多い地形のおかげで、渡嘉敷にはたくさんの水源があり、稲作農業がしやすい環境です。）この島には全部で 3 か所の集落があります。慶良間諸島内海航路「みつしま」が到着する東海岸部の渡嘉敷が一番大きく、南方へ少し進んだ西海岸部にある渡嘉志久は、小さな集

落になっています。渡嘉志久の南には阿波連があり、ここから阿嘉島・座間味島へフェリーが出発します。

険しい断崖の海岸線にもかかわらず、渡嘉敷には渡嘉志久ビーチや阿波連ビーチといったいくつかのどかなビーチがあります。山脈がそれらの周囲を厳しい気候から守っているのです。渡嘉敷島は、ドラマティックで壮観な景色を眺めるのに最適で、8つの展望台と2つの遊歩道がある最高の散策場所です。

本事業以前の英語解説文

無し

1456

No.4 Zamami Island

<環境省慶良間自然保護官事務所、沖縄>

【施設名】慶良間諸島国立公園

【整備予定媒体】ウェブサイト

できあがった英語解説文

Cozy, Compact, and Intimate

The biggest island in the Keramas' western cluster, Zamami is located around 40 kilometers west of Naha in Okinawa. By comparison to the dramatic mountainous landscape of Tokashiki, lower-lying Zamami feels cozy, compact, and intimate, making it especially popular with independent travelers who want to stay longer and really soak up the unique atmosphere of the Keramas. The island has three villages—Zamami, Ama, and Asa in descending order of size—and a population of around six hundred.

Zamami has five designated viewpoints—one of which is over 130 meters high—and two magnificent beaches, Ama Beach and Furuzamami Beach, where swimmers and snorkelers can enjoy brilliant white sand and the ever-shifting opals, jades and cobalts of Kerama Blue. Zamami is one of the world's leading dive sites, and divers make the pilgrimage year-round to enjoy the site of colorful fish and sea turtles swimming around its coral reefs. As a result, there are plenty of dive shops with equipment, instructors, and guides, ensuring that divers of every level can have a good time. In winter, humpback whales migrate to the open waters just north of the island to rear their young, making this a fantastic place for whale-watching.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

居心地がよく、コンパクトで、親密

慶良間諸島西部の座間味島は、沖縄県那覇市の約 40km 西に位置しています。渡嘉敷の山の多い風景とは対照的に、低地の座間味は居心地がよく、コンパクトで、親密であるため、慶良間独自の雰囲気実際に浸りたいと思っている長期滞在を希望する個人旅行者に特に人気です。この島には 3 つの集落があり、座間味、阿真、阿佐（大きき降順）を合わせると、人口は約 600 人にのぼります。

座間味には、5 か所の展望所があります。そのうちの一つは 130m 以上の高さがあります。阿真ビーチと古座間味ビーチの二つの美しいビーチでは、スイマーとシュノーケラーが光り輝く白い砂と、オパールブルー、ジェイドブルー（翡翠）、コバルトブルーへと絶えず変わるケラマブルーを楽しむことができます。座間味は世界でもトップクラスのダイビングができる場所で、ダイバーが一年を通してこの地を訪れ、サンゴ礁の周囲を泳ぐカラフルな魚やウミガメのいる海を楽しんでいます。

す。結果的に、数多くのダイビングショップが軒を連ね、ダイビングに必要な道具、インストラクター、ガイドが準備されているので、ダイバーが楽しい時を過ごすことができます。冬には、ザトウクジラがケラマ海域へ繁殖と子育てのために移り住んでくるので、この地域はホエールウォッチングには最高の場所です。

本事業以前の英語解説文

無し

1457

No.5 Aka / Geruma / Fukaji

<環境省慶良間自然保護官事務所、沖縄>

【施設名】慶良間諸島国立公園

【整備予定媒体】ウェブサイト

できあがった英語解説文

Three Diamonds of the Keramas

Aka Island is located roughly five kilometers to the south of Zamami. It is connected by bridges to the neighboring islands of Geruma and Fukaji.

Diamond-shaped Aka is the smallest of the three main islands of the Keramas. The population is around 300, half that of Tokashiki and Zamami. Forest covers much of the island, which is home to the Kerama deer, a designated Natural Treasure of Japan. Aka is also the site of Nishibama Beach, a one-kilometer stretch of sand with a classic archipelago view that may make it the most idyllic beach in the Keramas. The island has three designated viewpoints and numerous diving spots.

With a circumference of just five kilometers, mountainous Geruma is the smallest inhabited island in the Keramas, with a population of roughly 60 people. Covered with forests of Chinese fan palm, the island—like Yakabi to the northwest—is an officially designated sanctuary for Kerama deer. The historical highlight here is the Takara House, the best surviving example of a house of a seafarer who prospered from trading with China.

Fukaji is naturally flat, and so was chosen as the best place to site the local airport, which now takes up about half the total land area, the rest being forest. Uninhabited by humans, the local sea turtle population comes to Fukaji to lay their eggs on its shores. There is one viewpoint here, which it is fun to visit by bicycle, crossing the bridges. Mukaraku, an island just to the south, is a popular diving spot.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

慶良間の3つのダイヤモンド

阿嘉島は、座間味の南の約5 km のところに位置しています。隣接する慶留間島と外地島とは橋でつながっています。

ダイヤモンドの形をした阿嘉島は、主な慶良間諸島の中では一番小さな島です。人口は約300人、渡嘉敷島と座

間味島の半分です。森林が島の大部分を覆っていて、国指定天然記念物であるケラマジカの住み家となっています。阿嘉島にある北浜ビーチは、群島の景色が一望できる1km続く砂浜で、慶良間の中で最も綺麗なビーチと言えるでしょう。この島には3か所の展望所と数多くのダイビングスポットがあります。

全周が5kmしかない山の多い慶留間島は、慶良間の有人島の中では最も人口が少なく、その人口は約60人ほどです。クバの原生林で覆われたこの島は、北西の屋嘉比島と同じく、ケラマジカの保護区域です。ここでは、中国との貿易時代に栄えた船乗りの家として現存する歴史的建造物、高良家があります。

外地島はもともと平坦な島であったため、地元の空港を建設するには最高の場所でした。現在、島の約半分が空港で、残りは森林です。人は住んでいませんが、地元のウミガメたちが好んで海岸に卵を産みに外地にやってきます。ここにも展望所が1ヶ所あり、自転車で橋を渡って訪れると楽しめます。ムカラク島は、外地島の南にあり、有名なダイビングスポットがあります。

本事業以前の英語解説文

無し

【施設名】慶良間諸島国立公園

【整備予定媒体】ウェブサイト

できあがった英語解説文

Saving the Reef for Future Generations

The Ramsar Convention is an intergovernmental treaty that provides the framework for the conservation and wise use of wetlands. Japan has 50 Ramsar Sites or Wetlands of International Importance (as of February 2017). The Keramashoto Coral Reef was first designated a Ramsar Site in 2005. Then, in 2014, the original 353-hectare area was massively expanded to 8,290 hectares after the government's designation of the area as Keramashoto National Park.

Why Does Kerama Matter?

A few statistics show why Kerama is important. The Keramashoto Coral Reef accounts for 62% of all the reef-building coral in Japan. Almost 250 varieties of coral have been identified. Species include table, branch, antler, block and encrusting coral. In some places, more than 90% of the area is covered with corals. Furthermore, Kerama's coral reefs and the coral larvae they produce support an ecosystem of extraordinary biodiversity. The reefs are home to damselfish, butterflyfish, and sea turtles, including endangered species like the hawksbill turtle, green turtle, and loggerhead sea turtle. In the winter months, humpback whales migrate here to calve.

Eliminating Threats, welcoming Visitors

At one time, the reef was under serious threat from the coral-eating crown-of-thorns starfish. Ongoing efforts by the locals have now all but eradicated it from the area. Ramsar describes the Keramashoto Coral Reef and the surrounding areas as "among the most beautiful marine waters in Japan ... highly valued for nature observation and tourism." We are committed to preserving this very special place for future generations.

Learn more about the Ramsar Convention.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

未来の世代のためにサンゴ礁を守る

ラムサール条約は、湿地の保護と適正な利用の枠組みを提供する、政府間の条約です。日本には50ヶ所のラムサール条約登録地および湿地があります（2017年2月時点）。慶良間諸島のサンゴ礁は、2005年に初めてラムサール

ル登録地に認定されました。2014 年には、当初の 353 ヘクタールの海域が慶良間諸島国立公園として指定したのを受けて、8,290 ヘクタールまで大幅に登録区域が拡大されました。

慶良間はなぜ重要なのか？

いくつかの統計が、なぜ慶良間が重要なのか示しています。慶良間諸島のサンゴ礁は、日本の造礁サンゴの 62%の割合を占めています。約 250 種類のサンゴがあり、テーブル状、枝状、角状、塊状、被覆状など様々な形状を取り、サンゴ礁を造りだしています。場所によっては、地域の 90%以上がサンゴで覆われたところもあります。慶良間のサンゴ礁は非常に多くの生物多様性の生態系を支えています。また、サンゴ礁は、スズメダイ、チョウチョウウオなどの魚たち、タイマイやアオウミガメ、アカウミガメなど絶滅危惧種を含むウミガメたちの住み家です。さらに冬季には、ザトウクジラが繁殖と子育てのためにこの地に移り住んできます。

脅威を取り除く：観光客を歓迎

かつて、サンゴ礁はサンゴを捕食するオニヒトデの深刻な脅威にさらされました。地元民の継続的な取り組みにより、脅威はほとんどこの地域から取り除かれました。ラムサール条約では、慶良間諸島のサンゴ礁と周囲に広がる地域は、「日本で最も美しい海域を保有する地域の中でも、自然観察と観光事業に関して高い価値をもっている」と説明されています。私たちは未来の世代にとって、非常に特別なこの場所を保護することに熱心に取り組んでいます。

[ラムサール条約についてさらに詳しく知る](#)

本事業以前の英語解説文

無し

1459

No.7 Aharen Beach / Aharen Village / Youth Travel Village Campsite / Aharen Harbor

<環境省慶良間自然保護官事務所、沖縄>

【施設名】渡嘉敷島

【整備予定媒体】ウェブサイト

できあがった英語解説文

Beaches and Glass-bottomed Boats

Forming a long and gentle arc, the beautiful Aharen Beach is located in the southwest of Tokashiki, just to the north of Aharen Harbor. A good range of marine activities—snorkeling, banana boat rides, sea kayaking—is available here. Since sea turtles live in the bay, you may well get lucky and meet one while swimming. There are life guards on duty from April to October.

Aharen Village has a selection of places to stay and to eat. If you're looking for an economical holiday, why not pitch your tent at the Youth Travel Village Campsite at the north end of the beach? Cooking, toilet, and shower facilities are available.

From Aharen Harbor, you can take a ride on a boat with large underwater portholes that gives non-divers and non-swimmers a great way to get a good look at the coral, fish, and sea turtles at depths of up to seven or eight meters. The boat to Aka and Zamami also departs from here.

KEY FACTS: Youth Travel Village Campsite

Open: 365 days (Office hours: 8:30 am – 6:00 pm)

Phone: 098-987-2090

Wi-Fi: Yes

Facilities: Rental tents available. Toilet, kitchen, and shower facilities.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

ビーチとグラスボート

長く緩やかな弓形を描き、美しい阿波連ビーチは渡嘉敷島の南西、阿波連港の北に位置しています。ここではシュノーケリング、バナナボートライド、シーカヤックといった幅広い海のアクティビティを体験できます。湾にはウミガメが住んで

いるため、運が良ければ泳ぎながらウミガメに会えるかもしれません。4月から10月は、ライフガードが勤務中です。

阿波連集落は、滞在し食事をする場所の一つです。経済的な滞在を希望される場合は、ビーチの北端にある渡嘉敷村青少年旅行村にテントを張ってはどうでしょうか？調理、トイレ、シャワーなどの設備が利用できます。

阿波連港から、ダイビングや水泳をしない方でも大きい窓のグラスボートに乗り、7～8mの深さのサンゴや魚、ウミガメを観察ができます。阿嘉港と座間味港への船も、ここ阿波連港から出航します。

基本情報：渡嘉敷村青少年旅行村

営業日：年中無休（営業時間：8:30～18:00）

電話：098-987-2090

Wi-Fi：利用可能

設備：レンタルテント利用可能：トイレ、キッチン、シャワー設備完備

本事業以前の英語解説文

無し

1460

No.8 Tokashiku Village / Tokashiku Beach

<環境省慶良間自然保護官事務所、沖縄>

【施設名】渡嘉敷島

【整備予定媒体】ウェブサイト

できあがった英語解説文

Tranquil bay of turtles

A tiny village in the west of Tokashiki, the somewhat confusingly named Tokashiku has a magnificent beach about 800 meters long nestled in a placid cove sheltered by mountains on three sides. Sea turtles often come close to shore to eat the seaweed here, giving you the opportunity to swim alongside them. Further offshore, there is a reef with a diving spot. The large hotel overlooking the beach has showers and toilets that can be used for a small fee. There are some cafes, restaurants, and a grocery store. This is also a great place to watch the sunset.

(Just behind the beach, there is a WWII bunker that was used for concealing suicide attack boats.)

上記解説文の仮訳（日本語訳）

ウミガメたちの住む静かな湾

渡嘉敷の西にある小さな集落、渡嘉敷（Tokashiki）と間違えやすい名前の渡嘉志久（Tokashiku）には、約800mの長さの壮大なビーチが、穏やかな入り江に位置し、三方向を山脈に囲まれています。ウミガメはしばしば海岸まで近づき、海藻を食べに来るため、ウミガメのそばを泳ぐことができるかもしれません。さらに沖へ出ると、ダイビングスポットとなっているサンゴ礁があります。ビーチを見渡せる大きなホテルには、シャワーとトイレがあり、手ごろに利用できます。カフェや飲食店、売店があります。ここはさらに、夕日を見るのにも最高の場所です。

（ビーチのちょうど裏手には、第二次世界大戦の防空壕があり、これは特攻攻撃を仕掛ける船を隠すために使われました。）

本事業以前の英語解説文

無し

1461

No.9 Tokashiki Village and Harbor / Tokashiki Tourist Information / Tokashiki Museum

<環境省慶良間自然保護官事務所、沖縄>

【施設名】渡嘉敷島

【整備予定媒体】ウェブサイト

できあがった英語解説文

Your First Stop in the Keramas

Tokashiki is also the name of the village and harbor on the eastern shore side of Tokashiki Island. It is linked directly to the Okinawa main island by ferry and high-speed boat. While overseas visitors may not have much use for the village office, fire station, police substation, or primary school, the post office (with an ATM) and supermarkets could well come in handy.

The ferry moors right beside the ferry terminal. This contains a large air-conditioned waiting room, a gift shop, and *Tabi no Annai-nin*, a tourist information center with various brochures, and staff happy to advise you about places to go and things to do. If you would like a pleasant view of the harbor and the village, there is a viewpoint (*Minato no Mieru Tenbodai*) up a hill just to the south.

On the second floor of the terminal building and accessed by an external staircase at the back is the Village History and Folk Heritage Museum. The exhibits in this little museum are designed to illustrate the history of everyday life on the island. The highlight is definitely the five-meter-long skeleton of a humpback whale calf found washed up on the beach at Hanarijima Island. Other interesting exhibits include a scale model of the factory for making dried bonito shavings — only a fragment of a brick chimney survives from the actual place—and photographs and other objects from World War II. Note that explanations are in Japanese only and that advance reservations are required.

KEY FACTS: *Tabi no Annai-nin* Tourist Information Center

Open: 365 days a year (9:30am – 5:30pm)

Phone: 098-987-3122

Wi-Fi: Yes

Languages: Japanese only

KEY FACTS: Tokashiki Village History and Folk Heritage Museum

Open: Weekdays (9:00am – 5:00pm); reservation required, closed Sat., Sun., and public holidays

Phone: 098-987-2120
Entrance Fee: ¥100 (adults) ¥50 (children)
Languages: Japanese only

上記解説文の仮訳（日本語訳）

慶良間で最初に立ち寄る場所

渡嘉敷は、渡嘉敷島の東部海岸沿いにある集落と港の名称でもあります。渡嘉敷は、沖縄本島までフェリーや高速船で直接つながっています。外国人観光客にとっては、村役場や、消防署、駐在所、小学校などはあまり利用しないと思いますが、郵便局（ATM 付き）とスーパーマーケットは非常に便利かと思われます。

フェリーは、フェリーターミナルのすぐそばに着港します。フェリーターミナルには、広いエアコン付きの待合室、土産物店、「旅の案内人」があります。「旅の案内人」は、パンフレットや、訪問者におすすめの場所やことを丁寧に教えてくれます。港や村の良い景色を見たい場合は、南へ向かう丘の上に見晴らしの良い「港の見える丘展望台」があります。

ターミナルの建物の2階（裏手にある外階段で行ける場所）には、村の歴史と民俗資料館があります。この小さな博物館の展示物は、島の日常生活を描くように工夫されています。見どころはもちろん、ハナリ島のビーチに打ち上がった、ザトウクジラの子どもの5mの骨格標本です。その他の興味深い展示物には、今は赤レンガの一部のみを残す鰹節を作る工場の模型や、第二次世界大戦中の写真や他の展示物などがあります。ただし、展示物の説明は日本語のみとなっておりますので、ご注意ください。

基本情報：「旅の案内人」、観光案内所

営業日：年中無休（9:30～17:30）
電話：098-987-3122
Wi-Fi：利用可能
言語：日本語のみ

基本情報：渡嘉敷村歴史と民俗資料館

営業日：平日（9:00～17:00）、事前予約制 土日祝日閉館
電話：098-987-2120
入館料：大人100円、小人50円
言語：日本語のみ

本事業以前の英語解説文
無し

【施設名】渡嘉敷島

【整備予定媒体】ウェブサイト

できあがった英語解説文

Swords to Plowshares

Standing on the summit of Mt. Nishiyama in northeastern Tokashiki, this group of white buildings nestled among pine-studded lawns is a residential study facility. Students of all ages, teachers, civil servants, and groups from private companies, as well as families from throughout Japan, can come here for everything from intensive baseball practice to the study of ocean life—or just a relaxing holiday. The site, which was an American base for 12 years beginning in 1960, was converted to its present peaceful use in 1972, after the Americans returned it to Japan leading up to the 1973 reversion of Okinawa.

The entire facility is surrounded by a wall with a protruding outer lip that prevents the entry of poisonous snakes. After getting permission to go outside the wall, you can visit the actual site of one of the forced mass civilian suicides that took place in March 1945. Pass through a gate beside an old US military storehouse, go around a monument, and follow the steps down into the jungle until you come to a fenced-in clearing. Near the monument are panels with excerpts from contemporary American newspapers detailing the invaders' horror at the mass suicides.

There are also two viewpoints here, with views west to the Keramas and east to the main island of Okinawa, which are well worth making a stop at. If you're lucky, in winter you might catch sight of a whale or two, so bring your binoculars.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

剣を鋤に

渡嘉敷北東の北山（にしやま）の頂上に建つ、マツが点在する芝生の中にあるこの白い建物の集まりは、宿泊型の研修施設です。日本中の青少年（児童・生徒・学生）の団体、青少年教育指導者（学校・法人等）の団体、グループ・サークル、官公庁・企業、家族等が野球の練習や海洋生物の勉強のため、または余暇を過ごすためにここを利用します。1960年から12年間、米軍基地があったこの場所は、1973年の沖縄返還に先駆け、1972年には現在の平和的用途に変わりました。

施設全体は壁に囲まれていて、外側に突き出たヘリがあり、毒を持つヘビ「ハブ」が侵入してくるのを防いでいます。壁の

外へ行く許可をとれば、1945年3月に起きた集団自決の現場の一つを訪れることができます。古い米軍倉庫のそばにある門をくぐり抜け、慰霊碑を参り、森林地帯へと降りていきます。慰霊碑の近くには、沖縄集団自決の際の侵略者の恐怖が詳細につづられた、当時の米国新聞の切り抜きが貼られた碑があります。

ここにはさらに2か所の展望所があり、西には慶良間諸島を望む景色、東には沖縄本土を望む景色が楽しめ、どちらも立ち寄る価値があります。運が良ければ冬季にクジラを1頭か2頭見つけられるかもしれませんので、双眼鏡をお持ちください。

本事業以前の英語解説文

無し

1463

No.11 Hanarijima Island

<環境省慶良間自然保護官事務所、沖縄>

【施設名】渡嘉敷島
【整備予定媒体】ウェブサイト

できあがった英語解説文

Desert island blues

Situated directly in front of the harbor and beach of Aharen in the southwest of Tokashiki Island, this uninhabited island boasts beautiful white beaches and excellent diving, with many colorful tropical fish on show. If you want to relax on the beach here, get a lift across on the glass-bottomed boat or the banana boat in Aharen Harbor.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

無人島の青

渡嘉敷島の南西にある阿波連港と阿波連ビーチの正面に位置するこの無人島は、美しい白い砂浜と素晴らしいダイビングスポットを誇り、数多くのカラフルな熱帯魚も見られます。ここにある砂浜でゆっくりしたい場合は、阿波連港の底がガラス張りになっているグラスボートやバナナボートを手配しましょう。

本事業以前の英語解説文

無し

1464

No.12 Mihanabaru Nature Trail / Mihanabaru Viewpoint

<環境省慶良間自然保護官事務所、沖縄>

【施設名】渡嘉敷島

【整備予定媒体】ウェブサイト

できあがった英語解説文

A Windswept Bonsai Plain

This nature trail, which begins at a parking lot on the Kubiribaru Forest Road, is a relatively new attraction, having opened in spring 2017. From a narrow path surrounded by local varieties of trees you emerge onto a plain of vivid green Okinawa pines that slopes gently toward the sea. The walk itself is one kilometer, or 30 minutes, each way. Because the wind blows the trees into interesting, fantastical shapes, the locals used to uproot the best specimens to sell to bonsai enthusiasts. (This is now forbidden!) There are magnificent views east to the islands of Hate, Ugan, and Maejima, not to mention Okinawa itself.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

吹きさらしの盆栽平原

久比里原林道にある駐車場から始まるこの遊歩道は比較的新しい観光地で、2017年春に利用できるようになりました。地元の様々な種類の木々に囲まれた細い道を行くと、海に向かって静かに枝を突き出した鮮やかな緑色のリュウキュウマツの平原が視界に入ります。散歩自体は片道で1km、約30分かかります。風が木々に吹き付け、木々は風に耐えるため興味深い形になっているため、地元の人々はかつて盆栽愛好家に売るために最適な標本を採っていたこともありました。（現在は許可無く持ち帰ることは禁止されています。）沖縄本土はもちろん、ハテ島、ウガン島、前島などの諸島の東側に見える島々の壮大な景色も楽しめます。

本事業以前の英語解説文

無し

1465

No.13 Teruyama Enchi / Teruyama Viewpoint / Teruyama Enchi Nature Trail

<環境省慶良間自然保護官事務所、沖縄>

【施設名】渡嘉敷島

【整備予定媒体】ウェブサイト

できあがった英語解説文

Hill Walk with Fabulous Views

The Teruyama Enchi Nature Trail runs along a ridge roughly midway between Tokashiku Beach and Aharen Beach in the southwest of Tokashiki. In the springtime it is ablaze with azaleas (*Rhododendron scabrum* G. Don) and Japanese bayberries (*Morella rubra* Lour). Although the path is paved, the terrain is mountainous, so be prepared for a workout. At the summit of the hill, there is an observation platform reached by wooden steps. It has great views down to Aharen and Tokashiku beaches and out to the islands around Zamami. It's a good place for enjoying the sunset and, in winter, for whale spotting.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

素晴らしい景色とともに丘を歩く

照山園地遊歩道は、渡嘉敷の南西にある渡嘉志久ビーチと阿波連ビーチの大体中間地点の分水嶺沿いに続いています。春季には、ケラマツツジが咲き誇り、ヤマモモが実をつけます。歩道は整備されていますが、地形には山が多いので、運動ができるよう準備しておいてください。丘の頂上には、木製の階段を数段上るとたどり着ける展望台があります。ここでは阿波連ビーチや渡嘉志久ビーチ、座間味周辺の諸島を眼下に望める絶景が見られます。夕日を楽しむには良い場所で、冬季にはクジラを見る良いスポットでもあります。

本事業以前の英語解説文

無し

1466

No.14 Aharenmisaki Enchi Tenbodai / Aharenmisaki Enchi Viewpoint

<環境省慶良間自然保護官事務所、沖縄>

【施設名】渡嘉敷島

【整備予定媒体】ウェブサイト

できあがった英語解説文

Wuthering Heights, Kerama-Style

Sitting atop massive sandstone cliffs at the windswept southern tip of Tokashiki, Aharen Cape offers wild and spectacular views. To the southeast great waves of cobalt blue turn to electric blue as they break on reefs. To the southwest stands Unjima, a little island ringed with dark gray mudstone cliffs. Home to a lighthouse, Unjima is separated from Tokashiki by a narrow channel which the local fishermen once used to reach the beaches on Tokashiki's southeastern tip.

From the parking lot, steps lead down to a beach on the island's southwest side. The beach is rough underfoot, but you can walk to the end of the island and contemplate Unjima across the narrow strait.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

慶良間スタイルの嵐が丘

渡嘉敷島の南端に風が吹きすさぶ、大きな砂岩の崖の上にある阿波連岬園地は、野生的で壮観な景色がよく見えます。南東から大きなコバルトブルーの波がサンゴ礁にあたるたび、エレクトリックブルーに変わります。南側には、ウン島という小さな島がそびえ、暗灰色の砂岩の崖が周囲を環状に広がります。 灯台があるウン島は、渡嘉敷から狭い水路で分かれていて、ここはかつて地元の漁師が、渡嘉敷南西の端にある砂浜に行くのに使ったとされています。

駐車場から、階段が島の南西側にある砂浜に向かって通じています。砂浜の足元は粗いですが、島のはずれまで歩いていくことができ、細い水路を挟んでウン島を眺めることもできます。

本事業以前の英語解説文

無し

1467

No.15 Kubandaki / Kubandaki Viewpoint

<環境省慶良間自然保護官事務所、沖縄>

【施設名】渡嘉敷島

【整備予定媒体】ウェブサイト

できあがった英語解説文

A Holy Place

The Kubandaki viewpoint is located at the top end of Tokashiki's Aharen Beach on a 27-meter-high promontory sticking out to the southwest. Just to the west, is a traditional open site of worship (an *utaki* in Okinawan). The local people believed that the harvest god had come down from heaven to the island of Kuba and made his way from there to Aharen. Since it directly overlooks Kuba, Kubandaki became the place for worshipping the sacred island 10 kilometers away. A ceremony used to be conducted here for seafarers whose bodies were lost at sea. Even now, prayers are offered every July for sailors who have escaped disaster.

Just behind Kubandaki stands Mt. Kubayama, covered in *Kuba* plants, known in English as the Chinese fan or fountain palm (*Livistona chinensis*). In the old days, when seaborne trade with China flourished, the Chinese used to make the sails of their ships from these leaves.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

神聖な場所

クバダキの展望所は、南西に突き出た 27m の高さの岬にある、阿波連ビーチの端に位置しています。すぐ西側の下には、伝統的な参拝のための場所があります（沖縄方言で、ウタキと言います）。地元の人々は、収穫の神が天から久場島へ降りてきて、そこから阿波連に來訪したと言われています。久場に真向かう位置にあるクバダキは約 10 km 離れたこの神聖な島を参拝する場所になりました。現在でも、毎年 7 月には海で遭難した船乗りのために拝が行われます。

クバダキの裏手にあるクバ山はクバという植物で覆われていて、クバは英名で Chinese fan（シナビロウ）、または fountain palm（ピロウ）として知られています（学名 *Livistona chinensis*）。中国との貿易が盛んだった頃、唐船の帆を作るためのクバの葉をここらとったと伝えられています。

本事業以前の英語解説文

無し

1468

No.16 Summit of Mount Nishiyama / Mount Nishiyama observation point

<環境省慶良間自然保護官事務所、沖縄>

【施設名】渡嘉敷島

【整備予定媒体】ウェブサイト

できあがった英語解説文

The Top of the landscape

At 227 meters above sea level, the summit of Mt. Nishiyama in the north of the island is Tokashiki's highest point. (Rather confusingly, *nishi* means north in Okinawan but west in standard Japanese!) The summit has two viewpoints, one in the west and one in the east. From the western point, the panoramic view encompasses the islands of the Zamami cluster (Zamami, Amuro, Aka, Geruma and Fukaji), then Tonaki and Aguni, and, Kume. This is probably one of the most spectacular and extensive views in Okinawa. From the eastern viewpoint, you can see Kuroshima, Maejima, Keiseshima (Chibishi) and Okinawa itself. Centuries ago, this was the site of the last of a string of beacons lit to signal when ships bearing tribute and envoys from China were approaching the main island of Okinawa.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

頂上のさらに上

島の北部にあるにし山の頂上は、渡嘉敷島で最も高い海拔 227 メートルです。（さらに紛らわしいことに、西は沖縄の方言で北を意味しますが、標準日本語では西を意味するのです！）頂上には 2 か所の展望所があり、一つは西に、もう一つは東にあります。西側の方からは、座間味の群島（座間味、安室、阿嘉、慶留間、外地）を取り囲んで見え、さらに渡名喜島と粟国島、久米島も見えます。これはおそらく沖縄で最も壮観な展望の一つです。東側からは、黒島、前島、慶伊瀬島（チービシ）、そして沖縄本土が見えます。数世紀前は、ここは中国から贈り物を乗せた船と使者が沖縄本島に近づいてきたとき、一連の灯台（烽火）が合図を送る最後の場所でした。

本事業以前の英語解説文

無し

1469

No.17 Kushibaru Enchi / Kushibaru Viewpoint / Kushibaru Beach

<環境省慶良間自然保護官事務所、沖縄>

【施設名】阿嘉島・慶留間島・外地島

【整備予定媒体】ウェブサイト

できあがった英語解説文

The West is the Best

Kushibaru sits on the western tip of Aka, offering panoramic views across to the uninhabited islands of Yakabi and Kuba. About five kilometers' drive from Aka Harbor, Kushibaru does not get many visitors. The beach here is too shallow for swimming due to the coral reefs. When the tide is out, this makes it a great place for children to hunt for crabs and starfish. (Be sure to bring water shoes as the ground is rough underfoot.) Listen for the popping sound of water making its way into air pockets in the coral. On the way to the beach, you are very likely to see some representatives from the island's large Kerama deer population.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

素晴らしい西の展望

クシバルは阿嘉島の西端に位置していて、屋嘉比島や久場島などの無人島を見渡せます。阿嘉港から約 5 km 離れたところにあるクシバルには、あまり多くの観光客は来ません。このビーチはサンゴ礁の上に面しているため、泳ぐのに十分な深さがありません。しかし、干潮のとき、ここは子どもたちが蟹やヒトデを観察するのに最高の場所になります。（地面がでこぼこしているため、ウォーターシューズの準備をお忘れなく。）干潮時には、サンゴに空いた空気穴を流れる水の弾ける音を聞きましょう。ここに来る途中で、この島にいるケラマジカ数匹に出会えるかもしれません。

本事業以前の英語解説文

無し

1470

No.18 Shiratama no To War Memorial

<環境省慶良間自然保護官事務所、沖縄>

【施設名】渡嘉敷島

【整備予定媒体】ウェブサイト

できあがった英語解説文

Tears for the Dead

In early 1945, the Japanese army had some 200 suicide attack boats concealed on the Kerama Islands in the hope that they could help delay the American invasion of Okinawa. It was, however, the Americans who caught the Japanese by surprise when they launched a heavy naval bombardment of the Keramas on March 23, destroying suicide attack boats and the bunkers in which they were hidden. The Americans landed on the Zamami group of islands on March 26 and on Tokashiki on March 27, eventually using the Keramas as supply bases for the push into Okinawa itself.

The Japanese suicide attack squad and the local people fled the bombardment and went deep into the mountains. Panicked and with nowhere to hide, they ended up on Mt. Nishiyama in the north. On March 28, following orders they formed into groups to take their own lives. People with access to grenades, rifles, sickles, hoes or cutthroat razors were considered lucky; anyone without a weapon or blade of some kind just had to strangle themselves with improvised ropes or fling themselves into the burning forest.

The Shiratama no To (literally, “White Pearl Tower,” which is possibly a reference to tears) War Memorial was unveiled exactly six years later, on March 28, 1951. It commemorates 383 island residents, 81 Japanese soldiers, 92 civilian employees of the military, and 42 members of the defense corps. It originally stood at the actual mass suicide site on Mt. Nishiyama (where the National Okinawa Youth Friendship Center is now), but was moved here to Mt. Kizuyama in 1962 after the Americans expropriated Nishiyama for military purposes in 1960.

Every year, descendants of the people remembered here come to attend a memorial service on March 28, the island’s official Memorial Day. Look at the monument carefully. Even those who cannot read a word of Japanese will see from the way the same characters recur over and over that entire families perished.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

戦没者に流される涙

1945 年初頭、日本軍は沖縄本島への米軍侵略を遅らせることができるのではという希望を胸に抱き、慶良間諸島

に特攻攻撃用の船 200 隻を隠し持っていました。しかし、3 月 23 日、慶良間に大量の艦砲射撃を放ち、日本軍を不意打ちしたのは米軍で、彼らは特攻攻撃用の船と日本軍が隠れる防空壕を破壊しました。米軍は 3 月 26 日に座間味の群島に上陸、3 月 27 日に渡嘉敷に上陸。ついには、この座間味 諸島を沖縄本土上陸作戦の補給基地として利用しました。

日本軍の特攻攻撃隊は離散し、地元の人々は爆撃を恐れ、彼らは山の奥深くへと逃げ込みました。恐怖でうろたえどこにも隠れる場所がなく、彼らは北部にあるにし山で自決しました。3 月 28 日、命令に従い、彼らは集団自決したのです。手榴弾、小銃、鎌、鋤、剃刀が手に入った人々はまだ幸運だとみなされました。武器や刃物の類を持たない者は、即席の縄で窒息死するか、山火事の中に飛び込まなければならなかったのです。

白玉の塔（文字通り、「白真珠の塔」は、おそらく涙の意味です）戦争慰霊碑は、1951 年 3 月 28 日、6 年後に公になりました。慰霊碑は、383 名の島民、81 名の日本兵、92 名の軍人軍属、42 名の防衛軍を追悼しています。慰霊碑はもともと、実際に大量自決が起こった場所（ここには現在、国立沖縄青少年交流の家があります）に建っていましたが、1960 年に米軍が軍事目的でにし山を接収した後、1962 年にここギズ山に移されました。

毎年、戦死者の遺族が、この島で正式な慰霊の日の 3 月 28 日に、慰霊祭に参列しここで戦死者を追悼します。慰霊碑を注意深く見てみてください。日本語の単語が読めなくても、同じ文字が何度も繰り返されていることが分かるでしょうか。みなが家族で、一族が亡くなったことが記されています。

本事業以前の英語解説文

無し

1471

No.19 Sensekihi War Memorial

<環境省慶良間自然保護官事務所、沖縄>

【施設名】渡嘉敷島

【整備予定媒体】ウェブサイト

できあがった英語解説文

Testimony to the War's Tragic End

The American invasion of Japan began with the landings on the Kerama Islands on March 26, 1945. This war memorial located on the Sondo Aharen Road near the entrance to the Teruyama Enchi Nature Trail dates from 1979. It features a long and heart-breaking inscription written by the Japanese Catholic writer Sono Ayako, which is reproduced in its entirety below.

Sensekihi Inscription

Recorded here is the story of the savage battle fought on this island and the islanders' deaths in 1945.

From March 23 in the final year of the Great East Asian War, Tokashiki Island suffered unrelenting raids from American airplanes and naval bombardment from their task force vessels. The mountains burned and the island was enveloped in smoke. Unable to make night-time sorties with the plywood boats it had ready on the island, the Suicide Attack Boat Unit was ordered to scuttle them. Three hundred and fifteen fighting men from the 3rd Sea Raiding Squadron and from other units at the same base had to act as the island's garrison.

In a torrential downpour and hard pressed by the American offensive, the residents of the island gathered in groups at Onnagawara and a number of other places on March 27. On March 28, the following day, they elected to die by their own hand rather than fall into the hands of the enemy. With whole families sitting in a circle, they pulled the pins from hand grenades, or else the stronger fathers and sons took the lives of their weaker mothers and daughters. They were motivated by love. On and around that day, 394 residents of the island lost their lives.

Thereafter, the survivors were assailed by terrible hunger. People ate lizards, mice and the trunks of fern palms. As death approached, the lice which gathered in the seams of clothing would leave to be replaced by flies who came to lay their eggs in people's eyes as they struggled to keep breathing.

Of the three hundred and fifteen officers and men, eighteen died of hunger and fifty-two died as the result of the American assault. The army received the order to surrender on August 23, 1945.

On August 20, each of the units of the First Company forward position placed their weapons in a pile and made the parting address to their arms and the salute toward the Imperial Palace. The sun shone, the sky was blue, the sea was blue, and several hundred enemy vessels were quietly sailing around or at anchor in the surrounding sea. And the war came to a numbing end.

(From the Staff Diary)

Ayako Sono

March 1979

上記解説文の仮訳（日本語訳）

戦争の悲劇的結末への宣誓

日本への米軍侵略は、1945年3月26日、慶良間諸島への上陸で始まりました。この戦跡碑は、1979年から照山園地遊歩道の入り口近く、村道阿波連線にあります。これには日本人のカトリック教徒の作家、曾野綾子さんによる、長く悲痛な碑文が刻まれています。

戦跡碑碑文

ここに記すのは、昭和20年（1945年）この島に於いて戦われた激しい戦闘と、島民の死の歴史である。

大東亜戦争の最後の年の3月23日より、この渡嘉敷島は、米軍機の執拗な空爆と、機動部隊艦艇からの艦砲射撃にさらされた。山は燃え続け、煙は島を包んだ。当時島にあったベニヤ板張りの船を利用した、夜間攻撃用の特攻船艇部隊は、出撃不可能となり、艇を自らの手によって自沈するようにとの命令をうけた。こうして、当時、島にあった海上艇進三戦隊、同基地隊などの将兵315名は、僅かな火器を持っただけで、島の守備隊とならざるを得なかった。

3月27日、豪雨の中を米軍の攻撃に追いつめられた島の住民たちは、恩納河原ほか数か所に集結したが、翌28日敵の手に掛かるよりは自らの手で自決する道を選んだ。一家は或いは、車座になって手榴弾を抜き或いは力ある父や兄が弱い母や妹の生命を断った。そこにあるのは愛であった。この日の前後に394人の島民の命が失われた。

その後、生き残った人々を襲ったのは激しい飢えであった。人々はトカゲ、ネズミ、ソテツの幹までを食した。死期が近づくと人々の衣服の縫い目にたかっていたシラミはいなくなり、まだ辛うじて呼吸を続けている人の目に、早くもハエが卵を生みつけた。

315名の将兵のうち18名は栄養失調のために死亡し、52名は、米軍の攻撃により戦死した。昭和20年8月

23 日、軍は命令により降伏した。

8 月 20 日、第一中隊前進陣地ニ於テ、各隊兵器ヲ集積シ、遙カ東方皇居ヲ拝シ兵器訣別 式ヲ行ウ。太陽八輝
キ、青イ空、青イ海、周囲ノ海上ニハ数百ノ敵艦艇ガ静カニ遊戈或イハ碇泊中ナリ、唯、茫然、戦ヒ既ニ終ル」

(陣中日誌より)

昭和 54 年 (1979 年) 3 月

曾野 綾子選

本事業以前の英語解説文

無し

1472

No.20 Stone Wall of the Nemoto House

<環境省慶良間自然保護官事務所、沖縄>

【施設名】渡嘉敷島

【整備予定媒体】ウェブサイト

できあがった英語解説文

Wall of Money

Located close to Tokashiki Harbor, this grand wall is all that survives of the Nemoto House, a so-called “captain’s house” dating from the Ryukyu Kingdom (1429–1879). In those days, many ships traveled from Okinawa to China and to the Satsuma Domain in southern Kyushu bearing tribute, envoys, and goods. Captaining those ships was a recognized way to make one’s fortune; there was even a term for it: *toumoke*, “striking it rich in the China trade.”

Note how the massive walls—and the *himpun* standing just within the entrance to conceal the house door and ward off evil spirits—are made from carefully carved irregular blocks of limestone that fit together perfectly. This contrasts with the walls of ordinary people’s houses, which were built more haphazardly, rather like dry-stone walls. Traces of shrapnel damage are visible on the walls. (Part of the eastern corner, destroyed in World War II, was restored in 1997.) The 2.73-meter-high walls of the Nemoto House are actually higher than those of other similar captain’s houses in the Keramas.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

富豪の象徴の壁

渡嘉敷集落に位置する大きな石垣は、琉球王朝（1429-1879）にさかのぼる「船主の大邸宅」、根元本家のものとして現存するものです。当時、数多くの船が沖縄から中国、九州南部の薩摩藩へ、貢物、使者、商品を積んで渡航しました。これらの船の船長を務めるということは、財を成す方法でした。『唐儲け』という言葉があったほどです。

この大きな石垣と、家の戸口を隠し邪悪な魂を追い払う、入口の内側に建っているヒンプンは、互いに完璧に合うように、もともとは形のそろわない石灰岩を精巧に切り取って作られています。比較すると、一般住宅は石壁のように、もう少し無造作に建てられています。（第二次世界大戦に破壊された東側の角の一部分は、1997年に修復されました。）2.73mの高さの根本家の石垣は、慶良間島にあるほかの同じような船主の家よりも本当は高くできています。

本事業以前の英語解説文

無し

1473

No.21 Suicide Attack Boat Bunker

<環境省慶良間自然保護官事務所、沖縄>

【施設名】渡嘉敷島

【整備予定媒体】ウェブサイト

できあがった英語解説文

Desperate Measures at the War's End

As the tide of war turned in 1944, the Japanese increasingly resorted to suicide or *kamikaze* attacks. Although *kamikaze* planes are the best-known suicide weapon, suicide attack boats were also used to attack the US Pacific Fleet, and proved quite effective during the Philippines Campaign. Called *Maru-Re*, these lightweight plywood speedboats measured 5.6 meters long by 1.8 meters wide and weighed 1,200 kg, making them light enough to skim rapidly over the water en route to offloading two 120-kilogram depth charges on their target. In the Kerama Islands, the boats were operated by the 3rd Sea Raiding Squadron under the command of a Colonel Akamatsu. Located just behind Tokashiku Beach, this 12-meter-deep bunker was built to protect suicide attack boats from bombardment. It was dug out of hard black phyllite rock by conscripted laborers from Korea, probably with the help of members of the local Women's Youth Association.

This historic American footage from the end of World War II shows suicide attack boats in their bunkers and even an American serviceman joy-riding in one of the boats (at 3:00 minutes in).

上記解説文の仮訳（日本語訳）

戦争終結時の決死の行動

1944年に戦局が変わったとき、日本軍はいよいよ、特攻攻撃が神風特攻に出ようとしていました。神風特攻隊の飛行機は、特攻兵器として最も有名でしたが、特攻攻撃船も太平洋艦隊を攻撃するのに使用され、フィリピンの戦いのときにきわめて有効であると証明されました。マルレ艇と呼ばれるこれらの軽量ベニヤ板製の高速艇は、全長5.6m、全幅1.8m、重量は1,200kgあり、途中で2個の水中爆雷を標的に向かって降ろし、水の上を素早く移動するには十分軽量でした。慶良間諸島では、この船は赤松大佐の指揮のもと、海上挺進第三戦隊として操縦されました。渡嘉志久ビーチのちょうど裏手にある、12mの深さの防空壕は爆撃から特攻攻撃船を守るために作られました。これは、韓国人の徴収労働者が、おそらく地元的女子青年会の会員の手伝いもあり、硬くて黒い千枚岩を掘って作られたものです。

第二次世界大戦終結時の歴史的な米軍の映像には、防空壕の特攻攻撃戦と、この船に乗る米兵が映っています（映像の長さ3分）。

本事業以前の英語解説文

無し

1474

No.22 Kerama Airport / Fukaji View Point

<環境省慶良間自然保護官事務所、沖縄>

【施設名】阿嘉島・慶留間島・外地島

【整備予定媒体】ウェブサイト

できあがった英語解説文

Aerial Views

With its red-tiled roof, Kerama Airport incorporates elements of traditional Okinawan architecture. After peaking at 19,000 people in the mid-1990s, annual passenger numbers are now in the low hundreds, as the airport only accommodates charter flights and private aircraft, rather than regular flights.

Immediately in front of the airport, there is a patch of grass with a gate on the righthand side. Go through here and up the hill to get to the Fukaji viewpoint. It offers a pleasant view over the airport and the surrounding forest of Okinawa pines. To the north, you can see Geruma Elementary School (a popular movie location due to its picturesque setting) and Aka Harbor. If you're lucky, you might have a close encounter with a Kerama deer. (Please shut the gate after you, to make sure the deer stay inside.)

上記解説文の仮訳（日本語訳）

空から見た景色

赤い屋根瓦をもつ慶良間空港は、沖縄の伝統的な建築要素を考慮に入れて作られています。1990年代半ばのピーク時には19,000人の利用者がいましたが、この空港が定期便よりもチャーター便や民間航空機だけを収容するようになったため、毎年の乗客数は現在ではおよそ200～300人程度に減りました。

空港の正面には、右手側にゲートがある芝生の一帯が広がっています。ここを通り抜けて外地展望台まで丘を登りましょう。空港と周囲に広がるリュウキュウマツの森林地帯の上には、心地よい景色が広がっています。北部には、慶留間小学校（絵になる風景から、映画のロケ地にもなりました）と阿嘉港が見えます。運が良ければ、ケラマジカに間近で遭遇できるかもしれません。（シカが集落に入らないように、出入りの際はゲートを閉めてください。）

本事業以前の英語解説文

無し

1475

No.23 Inazaki Viewpoint and Tower

<環境省慶良間自然保護官事務所、沖縄>

【施設名】座間味島

【整備予定媒体】ウェブサイト

できあがった英語解説文

There She Blows!

At 119 meters above sea level, this viewpoint is the highest of the four viewpoints on Zamami. On a clear day, you can see all the way to the islands of Tonaki (19 km), Aguni (38 km) and Kume (50 km), as well as the north coast of Okinawa itself. Between the end of December and April, humpback whales, which migrate to the Keramas to breed and to rear their young, frolic in the seas here. (Bring your binoculars for best results!) The wooden tower beside the observation deck was built specifically for local professional whale watchers. They use it as a lookout, radioing the whale-watching boats with the details of where the whales are to be found.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

クジラがやってくる！

海拔 119m のこの展望台は、座間味北岸にある 4 つの展望所の中で最も高いところにあります。晴れた日には、沖縄本島はもちろん、渡名喜（19km）、粟国（38km）、久米（50km）の島々が見渡せます。12 月末から 4 月頃の間、繁殖と子育てのためにザトウクジラが慶良間海域に訪れます。（万全を期すため、双眼鏡をご持参ください！）展望台のそばにある木製の塔は、クジラの観測員のために建てられたものです。クジラの観測員はこの塔からクジラを探し、ホエールウォッチングをしている船に、どこでクジラが見られるか詳細を連絡します。

本事業以前の英語解説文

無し

1476

No.24 Nishibama Beach / Nishibama Terrace / Nishibama Viewpoint

<環境省慶良間自然保護官事務所、沖縄>

【施設名】阿嘉島・慶留間島・外地島

【整備予定媒体】ウェブサイト

できあがった英語解説文

A View to Dive For

Popular with snorkelers for its coral reefs and with excellent diving nearby, Nishibama Beach is a straight stretch of gleaming white sand and one of the very best places to experience Kerama Blue in all its glory. There is a new hip, minimalist three-story terrace right by the stairs leading down to the beach. On the top story, which is level with the car park, there is a wooden viewing terrace with wheelchair access. The second floor features tables and seating overlooking the beach and is ideal for relaxing, eating, or posting pictures to social media with the free Wi-Fi! The bottom floor offers a sand-free space for swimmers and snorkelers to place their things and relax. Behind the beach are a couple of small cafés (summer only). There are also steps leading up to the Nishibama Viewpoint. Like the beach itself, the viewpoint offers serene archipelago views across to Amuro, Zamami, Gahi and Agenashiku.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

ダイビングにふさわしい景色

サンゴ礁と、近くに素晴らしいダイビングスポットがあることでシュノーケラーに人気の北浜ビーチは、光り輝く白い砂がまっすぐに伸びる一筋の道で、華やかなケラマブルーを体験するのに最高の場所です。流行のミニマリストデザインの新しい3階建てテラスが、ビーチへと下る階段のすぐそばにあります。最上階には、駐車場と同じ高さで、車いすでも通れる木製の見晴らし台があります。2階には、ビーチを見渡せるテーブルと椅子があり、のんびりしたり食事をしたり、フリーWi-Fiを使ってソーシャルメディアに写真を投稿したりするには理想的です。1階には、スイマーやシュノーケラーのために砂のないスペースがあり、貴重品を管理したりただのんびりしたりできます。ビーチの裏手には、小さなカフェが数軒あります（夏期のみ）。北浜が一望できる展望所へと続く階段もあります。ビーチ自体がそうであるように、ここでは静かに安室、座間味、ガヒ、安慶名敷といった島々の景色を楽しめます。

本事業以前の英語解説文

無し

1477

No.25 Nishibama Terrace Board

<環境省慶良間自然保護官事務所、沖縄>

【施設名】阿嘉島・慶留間島・外地島

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

[Panel 1]

Secrets of the sand

The sand on Nishibama Beach gives the impression of being a beautiful, flawless white. Under magnification, however, you can see that it is actually composed of grains of different colors. That's because the sand is in fact made up of coral fragments and the remains of shellfish and other creatures that live on coral reefs, pulverized over time. To learn more about coral, why not drop in to the Sango Yuntaku-Kan Visitor Center in Aka Harbor?

[Panel 2]

Coral on the Rocks

Young corals live on the surface of rocks. When swimming, please take great care not to stand on any rocks or the coral growing on them. This will help preserve the coral for everyone to enjoy.

[Panel 3]

Skeleton of Young Coral

This is what the skeleton of a young coral looks like. Over the next few years, the long, perpendicular skeleton will grow into a columnar structure to support the body of the coral. When swimming, please take care not to tread on the young corals so their skeletons can grow properly.

[Panel 4]

Coral—Plant or Animal?

Coral may look like a plant, but in fact it's an animal related to the sea anemone. As this picture shows, coral polyps have countless semi-transparent tentacles which are used to catch and digest their prey.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

[Panel 1]

この砂浜のひみつ

一見真っ白に見えるビーチの砂、拡大してよくみると、実は様々な色の粒から鳴っていることが分かります。サンゴのかけらの他、貝などサンゴ礁にすむ様々な生きもの（遺骸）が、長い年月をかけ細かく砕かれて出来たものです。さんごゆんたく館にて、ご覧頂けます。

[Panel 2]

岩の上で成長する幼いサンゴ

海の中の岩の表面には、写真のような幼い小さなサンゴが暮らしています。

遊泳する時に、むやみに岩の上に立って、幼いサンゴを踏みつぶさないよう、サンゴの保全にご協力をお願いします。

[Panel 3]

幼いサンゴの骨格

写真は、幼いサンゴの体の中に出来ている骨の様子です。垂直に伸びた骨格は、これから何年もかけて大きく成長していくサンゴの体をささえる柱となります。遊泳する時に、幼いサンゴを踏みつぶさぬよう、サンゴの保全にご協力をお願いします。

[Panel 4]

サンゴは動物？植物？

サンゴには、写真のような半透明の触手が無数にあり、それらを用いてエサを捕らえて食べます。サンゴは一見植物のようですが、イソギンチャクと等と同じ仲間の動物です。

本事業以前の英語解説文

無し

1478

No.26 Kaminohama Viewpoint

<環境省慶良間自然保護官事務所、沖縄>

【施設名】座間味島
【整備予定媒体】ウェブサイト

できあがった英語解説文

Craggy Romance

Kaminohama is at the west end of Zamami, a 20 minute walk from Ama Beach and 40 minute walk from Zamami Harbor. It offers sweeping views of Tokashiki, Amuro, Agenashiku, and Gahi in the east and Kuba, Yakabi, and Tonaki in the west. The four crags of Ijakuja thrust dynamically out of the water directly in front of you to the south. For the romantically inclined, there's a patch of turquoise blue in the shape of a heart, the result of a patch of clear white sand beneath. This is a great place to enjoy romantic sunsets.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

ごつごつしたロマンス

神の浜は、阿真ビーチから徒歩約 20 分、座間味港から徒歩約 40 分の、座間味の西端にあります。東側には渡嘉敷島・安室島・安慶名敷島・嘉比島が一望でき、西側には久場島と屋嘉比島・渡名喜島が一望できます。南側には 4 つの「伊釈加釈」という岩石が、海からダイナミックに突き出しています。ターコイズブルーの海の中に現れるハート形の真っ白な砂地が見えるポイントです。またここは、ロマンチックな夕日を楽しむのに最高の場所でもあります。

本事業以前の英語解説文

無し

【施設名】阿嘉島・慶留間島・外地島
 【整備予定媒体】ウェブサイト、看板、パンフレット

できあがった英語解説文

Coral, Coffee, and a Chat

Built in the traditional Okinawan style with stone walls and a red-tiled roof, the Sango Yuntaku-Kan Visitor Center directly overlooks Aka Harbor. It's the perfect place to take a break and get your bearings after arriving on Aka Island. Pick up a map and get tips from the staff about what to do and where to go, all while enjoying a nice cup of coffee. You can also learn about the coral reefs that make the Kerama Islands so special. There are videos and wall-mounted panels to answer all your questions about coral. Are corals animals or plants? How are coral reefs formed? Why are the beaches here so white and the sea so blue? What sort of natural threats do the coral reefs face? What role does coral play in people's everyday lives here? *Sango* means coral in Japanese, and *yuntaku* means chat in Okinawan, so come to the Sango Yuntaku-Kan for a coffee, a chat, and to boost your knowledge about coral and Kerama Blue.

Open: 9:00am – 5:00pm (summer); 9:00am – 4:00pm (winter)

Wi-Fi: Yes

Phone: 098-987-3535

上記解説文の仮訳（日本語訳）

サンゴ、コーヒー、そしておしゃべり

石壁と赤い屋根瓦で作られた伝統的な沖縄の建築様式で建てられたさんごゆんたく館ビジターセンターは、阿嘉港にあります。ここでは、阿嘉島に着いた後、休憩し慶良間諸島を知るには最高の場所です。地図を手に取り、スタッフからこれからすべきことと、どこへ行くべきかについてヒントをもらい、プランを立てる間、コーヒーを楽しみましょう。慶良間諸島を特別な島にしているサンゴ礁について学ぶこともできます。サンゴに関するビデオや壁にかかったパネルもあります。サンゴは動物なのか植物なのか？サンゴ礁はどうやって形成されるのか？どうしてここビーチはこんなに白く、海はこんなにも青いのか？サンゴ礁が直面している自然の驚異の一種は何か？この地の人々の日常生活に、サンゴはどのような役割を果たしているのか？Sango（サンゴ）は日本語で珊瑚を意味し、yuntaku（ゆんたく）は沖縄の方言でおしゃべりを意味します。コーヒーを飲んだりおしゃべりしたり、サンゴとケラマブルーについて知識を高めたりするために、さんごゆんたく館に行きましょう。

営業時間：9:00～17:00（夏季）；9:00～16:00（冬季）

Wi-Fi：ご利用できます

電話：098-987-3535

本事業以前の英語解説文

無し

1480

No.28 Mount Takatsuki View Point

<環境省慶良間自然保護官事務所、沖縄>

【施設名】座間味島

【整備予定媒体】ウェブサイト

できあがった英語解説文

The Sheltering Bay

You can walk to this viewpoint in 20 minutes from Zamami Harbor. To reach the summit, there's a choice of a flagstone path or rough earthen stairs. The path is particularly attractive in spring when the Kerama azaleas and Japanese bayberries are in flower. At a height of 137 meters, the viewpoint overlooks Zamami Village. To the east is Agonoura Bay, where sailing vessels traveling between China and Okinawa used to wait for the winds to turn in the days of the Ryukyu Kingdom (and where ships today still take shelter from rough weather).

There's a second observation point further east that overlooks Zamami's Furuzamami Beach and Amuro Island.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

風待ち港

座間味港から 20 分で、この展望所まで歩いて行くことができます。頂上にたどり着くには、石畳の小道に行くか、階段に行くか、選択肢があります。この道はケラマツツジが満開になりヤマモモが実る春に、特に魅力的になります。137m の高さのこの展望所では、座間味の集落を一望できます。東部には安護の浦湾があり、ここはかつて中国と沖縄を渡航する帆船が、琉球王国の時代に、風向きが変わるのを待ったとされる、風待ち港として利用された場所です。（現在も船の避難港になっています。）

さらに東に行くと、渡嘉敷島と座間味の古座間味ビーチと安室島を見渡せる第二展望所があります。

本事業以前の英語解説文

無し

1481

No.29 Unajinosachi Viewpoint

<環境省慶良間自然保護官事務所、沖縄>

【施設名】座間味島

【整備予定媒体】ウェブサイト

できあがった英語解説文

Sunset on the Clifftops

This viewpoint in the northwest of the island stands at the end of a grand promontory above huge sandstone cliffs. For budding geologists, the main types of rock in the Keramas are sandstone and mudstone. The former tends to be tan, the latter dark gray. There's a natural wall of sandstone that was cut open on one side of the car park. Notice how it divides into clearly visible layers and contains no fossils. The locals refer to Unajinosachi as Sunset Point, because (obviously!) it's a great place to watch the sun do down. It is 3.3 kilometers from Zamami Harbor.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

崖の上の夕日

この島の北西にある展望台は、巨大な砂岩の崖の、大きな岬のはずれにあります。ここで地質学者を目指す方に役立つ情報の一つ。慶良間の岩の種類は砂岩と泥岩です。前者は肌色のものが多く、後者は暗灰色のものが多いです。この展望台の駐車場の片側には、自然により作られた切り立った砂岩の壁があります。これがどのように断層になり、化石がどうしてないのか、分かるでしょうか。地元の人々は女瀬の崎について、夕日を見るのに良い場所だと言っています。その理由は（明らかに！）太陽が沈むのを眺めるのに最高の場所だからです。この場所は、座間味港から3.3 kmのところにあります。

本事業以前の英語解説文

無し

【施設名】阿嘉島・慶留間島・外地島

【整備予定媒体】ウェブサイト

できあがった英語解説文

A Sea Captain's Mansion

The Takara House is one of just a handful of old buildings that survived the World War II naval bombardments of the Keramas intact. It dates from the late nineteenth century, when it was built for Pechin Nakandakari (? – 1877), a sea captain who had made his fortune through the China trade. In the Keramas, the generic term for a grand house is *sendosuya* or “captain’s house,” pointing to the fact that seafaring was the acknowledged route to riches. There was even a special word, *toumoke*, for “striking it rich in the China trade.” The red tiles replaced the original thatched roof in the early twentieth century, when the local economy was experiencing a boom thanks to demand for skipjack tuna. Notice how snugly the carved lumps of coral in the thick perimeter wall fit together, and the flamboyant curve of the wall itself as it culminates in a sharp point. This is a level of craftsmanship that did not come cheap!

Wind-Proof and Devil-Proof

The single-story house sits low behind its massive walls, and the roof tiles are lathered with white plaster to keep them firmly in place. These are both precautionary measures to protect the house from fierce typhoon winds. The house has five rooms and a kitchen. Traces of vermilion paint on the beams and ceiling panels suggest that the interior was once quite gaudy, while the use of Buddhist pine, a strong, straight-growing wood, is evidence of the prosperity of the occupants. There is a well at the front of the house and storage areas and a pig sty at the back. There is also a *himpun*—a massive standalone wall at the entrance—to conceal the house and to ward off evil spirits.

The house sustained damage in World War II — notice the pockmarks from shrapnel in the coral wall and the chunks torn out of some of the wooden pillars in the house itself — but remained lived-in until the turn of the century. It was designated a National Important Cultural Property in 1988.

Open: 9:00am – 5:00pm every day except Mondays and New Year

Admission: Adults ¥300, Children ¥160

上記解説文の仮訳（日本語訳）

船主の大邸宅

高良家は、第二次世界大戦のとき慶良間への艦砲射撃の中を残った、古い建物の一つです。高良家の歴史は、19世紀後半にまでさかのぼります。高良家はこの時代に、中国貿易で財を成した船主、仲村渠親雲上(なかんだかりべーチン)が建築しました。慶良間では、大きな家に対する総称を「船頭主家」と言い、船の船長を務めるということは、財を成す方法でした。『唐儲け』という言葉があったほどです。もともとの藁葺き屋根は、地元の経済がカツオの需要のおかげで好景気を経験していた 20 世紀初頭に、赤い屋根瓦に置き換えられました。厚い周囲の外壁に、切り取られたサンゴ礁がどれくらいぴったりと組み合わせられているか、また角に達するに従い鮮やかになる壁自体の曲線に気がきましょう。これは高度な職人技の域です！

風よけと魔除け

平屋建てのこの家は、強靱な壁の裏に低く鎮座し、赤い屋根瓦はしっかりと白漆喰で固定されています。これらは台風 of 激しい風からこの家を守るための予防手段です。この家には部屋が 5 つと台所が 1 つあります。梁には朱色で塗られた跡があり、天井の羽目板は、かつての内装がかなり派手なものであったことを示し、力強く真っ直ぐ成長する木であるチャーギ（マキの木）が使われていることは、持ち主の繁栄を表す証拠です。家の前には井戸があり、裏手には倉庫と豚小屋があります。ヒンプン（入口にある大きな直立する壁）は、家を隠し、邪悪な魂を追い払うために建っています。

高良家は、第二次世界大戦の被害を受けました。サンゴで造られた壁にできた榴散弾の跡や、家の中にある木製の柱にいくつか引き裂かれた跡があることに気がつくますが、世紀が変わった今も耐え残ります。高良家は、1988 年に国の重要文化財に指定されました。

営業日：月曜日と年始を除く、毎日 9:00～17:00

入場料：大人 300 円、子ども 160 円

本事業以前の英語解説文

無し

1483

No.31 Chishi Viewpoint

<環境省慶良間自然保護官事務所、沖縄>

【施設名】座間味島
【整備予定媒体】ウェブサイト

できあがった英語解説文

Cliff Above, Eggs Below

This is a spectacular cliff-top viewpoint in the north of Zamami Island, roughly 10 minutes' walk from Asa Village. To one side of the viewpoint is a beach where sea turtles come ashore to lay their eggs in the sand, to the other wild cliffs plunge straight into the sea.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

断崖を上に、眼下にウミガメの卵

座間味島北部にある壮大な崖の上の展望所は、阿佐集落から歩いて約 10 分のところにあります。展望台の片側にはビーチがあり、ここにはウミガメが卵を産み付けに上陸します。もう片方の側には、荒々しい崖が海に向かって真っすぐ突き抜けています。

本事業以前の英語解説文

無し

1484

No.32 Aka Hamlet / Aka Harbor / Statue of Shiro

<環境省慶良間自然保護官事務所、沖縄>

【施設名】阿嘉島・慶留間島・外地島

【整備予定媒体】ウェブサイト

できあがった英語解説文

Ships and Sea Dogs

Aka Island is the second-largest inhabited island of the Zamami Island cluster and is joined to the neighboring two islands of Geruma and Fukaji to the south by bridges. Both the ferry and the high-speed boat stop at Aka Harbor. Just beside the terminal there's a statue of Shiro, the real-life dog who was the subject of a sentimental 1980s Japanese movie, *Shiro & Marilyn*. Shiro regularly used to swim the three-kilometer distance from Aka to Zamami to visit Marilyn, his ladylove. Shiro is shown here standing up with his ears cocked and head tilted to one side, having caught Marilyn's scent. When you go to Zamami, why not visit the statue of Marilyn to compare the two?

上記解説文の仮訳（日本語訳）

船と海を渡る犬

阿嘉島は、座間味村で二番目に大きな有人島で、近隣の慶留間と外地の 2 つの島とは南の橋でつながっています。フェリーと高速船の両方が、阿嘉港に着きます。ターミナルのそばには、1980 年代のセンチメンタルな日本映画、『マリリンに逢いたい』の題材にもなった実在した犬、シロの像が建っています。シロはしばしば、阿嘉から座間味まで 3km の距離を、愛するマリリンのもとを訪れるために泳いでいました。耳を立て、頭を片側に傾けて、マリリンを見つけようとここに立っています。座間味に行った際は、マリリンの像も訪れて、二つの像を比較してはどうでしょうか？

本事業以前の英語解説文

無し

1485

No.33 Furuzamami Beach

<環境省慶良間自然保護官事務所、沖縄>

【施設名】座間味島
【整備予定媒体】ウェブサイト

できあがった英語解説文

A Michelin-starred Beach

The Michelin Guide awarded Furuzamami Beach a two-star rating (out of a possible three), describing it as “worth going out of your way for.” The long narrow beach faces the island of Tokashiki. The abundance of trees and almost complete absence of man-made structures contribute to the serenity of the view. Because the beach slopes quite steeply, large clumps of coral attracting schools of tropical fish can be found relatively close to shore. This abundance of sealife, and the calmness of the water makes it a fabulous place for snorkeling. Until the end of October, there are lifeguards on duty and parasols and loungers available to rent. Restaurant and toilet facilities are also available.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

ミシュランの星付きビーチ

ここはミシュランガイドが2つ星（3つ星中）を獲得する、「わざわざ行く価値のある場所」として紹介しています。この細長いビーチは、渡嘉敷島に面しています。一面に広がる樹々や人口建造物がほとんどないことが、この景観の美しさ、うらかさを助長させています。このビーチはすぐに水深が深くなっているため、熱帯魚の群れが住んでいるサンゴの大きな集まりが、海岸の比較的近くで見られます。海洋生物の豊富な、潮の流れのゆるやかなここは、シュノーケリングに最高の場所です。10月末までライフセーバーが配置されています。日傘とラウンジャーも10月の終わりまで借りることができ、レストランやトイレの設備がご利用できます。

本事業以前の英語解説文

無し

1486

No.34 Ama Village / Ama Beach / Ama Beach Campground <環境省慶良間自然保護官事務所、沖縄>

【施設名】座間味島

【整備予定媒体】ウェブサイト

できあがった英語解説文

Beach with Sea Turtles

Located in the west of Zamami Island, Ama Beach is one of two beaches on the island with lifeguards on duty. It is best to come at high tide since the water is quite shallow. Doing so will also increase your chances of encountering one of the sea turtles who frequent the area. The snorkeling is good and the beach has nice views over the nearby uninhabited islands of Gahi, Agenashiku, and Amuro.

Immediately behind the beach is a campground and a cluster of cottages which sleep up to ten people. You can rent tents, sleeping bags, and mats, and there are barbecue, kitchen, toilet, and shower facilities.

Ama Campground

Reception hours: 9:00am – 5:00pm, all year round

Phone: 098-987-3259

Wi-Fi: No

上記解説文の仮訳（日本語訳）

ウミガメがいるビーチ

座間味島の西に位置する阿真ビーチは、10月末までライフセーバーがいる2つのビーチの内の1つです。水深がとても浅いので、満潮時に行くのがベストです。そうすることで、この地域によく来るウミガメに出会えるチャンスも増えます。シュノーケリングにも適していますし、ビーチは、ガヒ、安慶名敷、安室といった無人島を望む景色も最高です。

ビーチのすぐ裏には、キャンプ場と10人まで宿泊できるコテージの集まりがあります。テントや寝袋、マットを借りることができ、バーベキュー、台所、トイレ、シャワーの設備があります。

阿真キャンプ場

受付時間：9:00～17:00（一年中）

電話：098-987-3259

Wi-Fi：ご利用できません

本事業以前の英語解説文

無し

1487

No.35 Geruma Village

<環境省慶良間自然保護官事務所、沖縄>

【施設名】阿嘉島・慶留間島・外地島

【整備予定媒体】ウェブサイト

できあがった英語解説文

Small is Beautiful

With a circumference of just five kilometers, Geruma is the smallest inhabited island in all the Keramas. In fact, the human population—roughly 60 people—might well be outnumbered by the deer population! Geruma Village is home to the Takara House, a traditional seafarer's house of great historical value. The local school with its red roof, vertical louvers, and green lawn overlooking the sea is picturesque. To get to Geruma from Aka Island, just stroll or cycle across the Aka Ohashi Bridge.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

小さいことは美しいこと

外周がたった 5km の慶留間は、慶良間の有人島の中で人口が最も少ない島です。実際に、その人口は約 60 人で、おそらくシカの数のほうが上回るかもしれません。慶留間村には、大きな歴史的価値のある伝統的な船乗りの家、高良家があります。海を見渡す、赤い屋根瓦、縦型のよろい戸、緑の芝がある地元の学校は、日本の絵になる風景です。阿嘉島から慶留間へ行くには、阿嘉大橋の上を歩いて行くか自転車で行くのが良いでしょう。

本事業以前の英語解説文

無し

1488

No.36 Aka Ohashi Bridge

<環境省慶良間自然保護官事務所、沖縄>

【施設名】阿嘉島・慶留間島・外地島

【整備予定媒体】ウェブサイト

できあがった英語解説文

Bridge over Untroubled Water

The Aka Ohashi Bridge opened in 1998 after five years of construction. The 530-meter-long concrete balanced arch bridge won a prize for its elegant proportions and graceful, airy design. Walk to the middle of the bridge to catch sight of sea turtles swimming in the sea below while enjoying the refreshing sea breeze. This is a great vantage point to enjoy the sight of Kerama Blue.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

明日に架ける橋

阿嘉大橋は、工事着手から5年後の1998年に開通しました。アーチ橋を支える530mの長さのコンクリートは、その優雅で品のある軽やかなデザインで、賞を得ました。さわやかな海風を浴びながら、海底を泳ぐウミガメを探しに、橋の中ほどまで歩きましょう。ケラマブルーの海と絶景が待っています！

本事業以前の英語解説文

無し

1489

No.37 Heiwa no To War Memorial

<環境省慶良間自然保護官事務所、沖縄>

【施設名】座間味島

【整備予定媒体】ウェブサイト

できあがった英語解説文

Tower of Peace

This war memorial stands about 10 minutes' walk up the slopes of Mt. Takatsuki overlooking Zamami Village. On March 26, 1945, as World War II was approaching its end, American forces landed on Zamami. This stone pillar engraved with the word "Tower of Peace" was erected 13 years later in March 1958. The wall behind it with the names of 1,200 islanders and fighting men who lost their lives during World War II was added in 1995. A memorial service is held here on March 26, the official Zamami Memorial Day, once every five years.

The memorial stands in a grove of ironwoods, trees which are commonly used as windbreaks in Okinawa. The explanatory plaque on the left of the grove includes some interesting pre-war black-and-white photographs of Zamami. The view over Zamami Village and the sea is serene, reminding us just how precious peace is.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

平和の塔

この戦争慰霊碑は、座間味村を見渡す高月山への坂を上って約 10 分のところに建っています。第二次世界大戦が終局を迎えようとしていた 1945 年 3 月 26 日、米軍が座間味に上陸しました。「平和の塔」という言葉が刻まれた石柱が、13 年後の 1958 年 3 月に建てられました。石壁の裏には、第二次世界大戦中に命を落とした 1,200 名の島民、民間人、軍人の名前が、1995 年に付け加えられました。ここでは五年に一度、座間味村の正式な慰霊の日、3 月 26 日に慰霊祭が催されます。

この慰霊碑は、モクマオウの木立の中に建っています。モクマオウは、沖縄で風よけとして通常使用されます。木立の左側には説明書きのある掲示板があり、興味深い座間味の戦前の白黒写真がいくつか貼られています。平和の塔から眺める座間味集落と海の風景は穏やかで平和の尊さを考えさせられます。

本事業以前の英語解説文

無し

1490

No.38 Asa Village / Agonoura Bay

<環境省慶良間自然保護官事務所、沖縄>

【施設名】座間味島

【整備予定媒体】ウェブサイト

できあがった英語解説文

Asa Village / Agonoura Bay

Rustic Village Evocative of the Past

Asa is a hamlet a little way east of Zamami Village. In the center of the village is a *bokora* miniature shrine and a stand of garcinia (*Garcinia subelliptica*) trees more than 100 years old that survived the naval bombardments of World War II. Wandering around the village's back lanes, you will come across a number of old houses made of Chinese black pine with sweeping red-tiled roofs with *shisa* lions standing guard on top of them.

At one end of the lane, there is an empty plot of land surrounded by a massive wall of coral known as *sendoron no ishigaki* or “the captain's wall.” In the days of the Ryukyu Kingdom (1429 – 1879), Zamami was a staging post for ships carrying tribute and envoys between Okinawa and China. These ships would often anchor in Agonoura to wait for favorable winds. Getting involved in the China trade was one surefire route to riches, hence the use of “captain's house” as a generic term for a grand walled residence. Two meters high and eight meters wide, the *himpun*—the standalone wall that conceals the house's entrance while keeping evil spirits out—is unusually massive.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

昔懐かしい田舎の村

阿佐集落は、座間味村を少し東に行ったところにある、小さな集落です。集落の中央には、拝所という神聖な場所と、第二次世界大戦の艦砲射撃を生き残った、樹齢百年を越えるフクギがそびえたっています。村の裏道を歩いて下ると、赤瓦の屋根の上に家を守るとされるシーサーが付いた、楕円でできた数多くの古民家に出会います。

一つの道の終わりには、船頭殿の石垣または「船頭の壁」として有名な、巨大なサンゴ石の壁に囲まれた空地があります。琉球王朝（1429-1879）の時代に、座間味は、沖縄と中国の間を貢物や使者を乗せて航行する船の中継地点でした。これらの船は、風向きが良くなるまで待つために、よく安護の浦に錨を下ろしました。中国貿易に関わることは、お金持ちになるための確実なルートの一つだったので、「船頭の家」という言葉が、壁に囲まれた裕福な住民の総称として使われたほどです。2mの高さと8mの横幅を持つヒンプン（邪悪な魂を退けながら、家の入口を隠す直立した壁）も、非常に巨大です。

本事業以前の英語解説文

無し

1491

No.39 Geruma Bridge

<環境省慶良間自然保護官事務所、沖縄>

【施設名】阿嘉島・慶留間島・外地島

【整備予定媒体】ウェブサイト

できあがった英語解説文

Antlers in Architecture

This bridge connects the island of Geruma to the adjacent island of Fukaji, the site of Kerama Airport. The decorative antler motifs at either end of the bridge are a visual nod to the local population of Kerama deer. If you're lucky, you may spot a deer, or catch sight of sea turtles swimming in the waters under the bridge as you make your way across.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

欄干に鹿の角

この橋は、慶留間島と、慶良間空港のある隣の外地島をつないでいます。橋の両端にある鹿の角をかたどった飾りは、地元のケラマジカの群れを思い起こさせる、見て頷けるものとなっています。運が良ければ、ケラマジカに出会えたり、橋の下の海を泳ぐウミガメを見られるかもしれません。

本事業以前の英語解説文

無し

1492

No.40 Statue of Marilyn

<環境省慶良間自然保護官事務所、沖縄>

【施設名】座間味島

【整備予定媒体】ウェブサイト

できあがった英語解説文

A Dog's Life and Love

Marilyn was one of the protagonists of the Japanese movie *Shiro & Marilyn*, a canine love story from the 1980s. Marilyn lived here on Zamami. Shiro, the male dog, lived on Aka Island, meaning that he had to do some serious swimming just to see his ladylove. Since they had three litters of puppies together, Shiro clearly had energy to spare! In this statue, which dates from 2000, Marilyn is shown sitting and waiting patiently for Shiro to come to her. Recently, visitors have started placing coins and shells around the statue hoping to become lucky in love themselves. Just a 10-minute walk from Zamami Village, the Marilyn statue is a pleasant place to sit down and enjoy the sunset.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

犬の人生と愛

マリリンは、1980年代の犬のラブストーリーを描いた日本映画『マリリンに逢いたい』の主人公の一匹でした。マリリンはここ座間味に住んでいました。オスの犬のシロは阿嘉島に住んでいて、つまりは愛するマリリンに会うためだけでも、必死で泳がなければならなかったということです。二匹が子どもを授かってからは、シロはますます元気があふれてきました！2000年からあるこの像には、マリリンが座って、シロが来るのを辛抱強く待っている様子が描かれています。最近では、観光客が恋愛運に恵まれるように、コインや貝殻を像の周りに置いていくようになりました。座間味村から10分歩いたところにあるマリリンの像は、座って夕日を眺めるのにも心地良い場所です。

本事業以前の英語解説文

無し

1493

No.41 Kobato no To War Memorial

<環境省慶良間自然保護官事務所、沖縄>

【施設名】阿嘉島・慶留間島・外地島

【整備予定媒体】ウェブサイト

できあがった英語解説文

A War Memorial for Children

The March 1945 invasion of the Kerama Islands by US forces was the trigger for mass civilian suicides. Entire families were wiped out, including young children. This monument specifically commemorates the children who lost their lives, hence the word *kobato* which means “dovelets” or “baby pigeons.” The memorial was sited to overlook the town and school so that the spirits of the children would feel at home.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

子どもたちのための戦争慰霊碑

1945年3月の慶良間諸島への米軍侵略は、集団自決の引き金になりました。幼い子供たちを含む、家族全員が自決しました。この慰霊碑は特に、命を失った子どもたちを追悼するものです。kobato（小鳩）という言葉の意味は、「小さい鳩」や「赤ちゃんの鳩」を意味します。この慰霊碑は、子どもたちの魂が、故郷に帰って来たように感じられるように、町や学校を見渡すところに建っています。

本事業以前の英語解説文

無し

1494

No.42 Zamami Village / Zamami Harbor / Zamami Tourist Information

<環境省慶良間自然保護官事務所、沖縄>

【施設名】座間味島

【整備予定媒体】ウェブサイト

できあがった英語解説文

Zamami from A to Z

Zamami Harbor is the gateway to Zamami and the other islands in the Zamami cluster. It is linked directly to Naha's Tomari Port by high-speed boat and ferry. From Zamami, you can also get a boat to Aka Island, which is connected to Geruma and Fukaji by a series of bridges. Zamami is the largest island in the cluster and Zamami Village the largest village of the three on the island. The village office here administers a total of 20 islands, though only three of them—Zamami, Aka, and Geruma—are inhabited.

Zamami has a post office with an ATM, three supermarkets, and places to both stay and eat. There's also a tourist information center inside the ferry terminal that can provide information in multiple languages on where to stay and what to do. Don't forget to drop in on the souvenir shop before you go. Buses depart from the harbor for the island's two beaches, Furuzamami and Ama, but there are plenty of places with bicycles for rent.

KEY FACTS: Zamami Tourist Information

Open: 9:00am -5:00pm, 7 days a week

Wi-Fi: Yes

Tel: 098-987-2277

上記解説文の仮訳（日本語訳）

座間味村のすべて

座間味港は、座間味島や座間味村のほかの島への入口です。座間味港は、那覇の泊港へ高速船やフェリーでつながっています。座間味から、阿嘉島まで船に乗ることもでき、阿嘉島は橋で慶留間島と外地島ともつながっています。座間味島には3つの集落があります。村役場は合計20もの島々を管理していますが、有人島は、座間味島、阿嘉島、慶留間島の3つのみです。

座間味には ATM 付きの郵便局、スーパーマーケット、泊まる場所や食事する場所があります。フェリーターミナルの

中には観光案内所もあり、ここではどこに泊まったら良いか、何ができるか複数言語で情報を提供してくれます。帰る前に土産物店に立ち寄るのを忘れなく。港から島の二つのビーチ、古座間味ビーチと阿真ビーチに向けてバスが出発しますが、自転車を借りて行ける場所もたくさんあります。

基本情報：座間味観光案内

営業時間：9:00～17:00、年中無休

Wi-Fi：利用可能です。

電話：098-987-2277

本事業以前の英語解説文

無し

1495

No.43 Amagusuku View Point

<環境省慶良間自然保護官事務所、沖縄>

【施設名】阿嘉島・慶留間島・外地島

【整備予定媒体】ウェブサイト

できあがった英語解説文

View to a Bridge

Amagusuku viewpoint is around 15 minutes' walk to the west of Aka Harbor on Aka's southern tip. The view takes in Aka Harbor, the Aka Ohashi Bridge, and the islands of Geruma and Fukaji. Immediately in front is the curiously shaped Sakubaru rock cluster, a popular diving spot which is attached to Aka Island by a sand spit at low tide. The plant life in the nearby woods is interesting, with flat lemon, Okinawa pines, Kerama azaleas, bayberries, and Okinawa oleanders. This is an excellent spot from which to enjoy the sight of the setting sun.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

橋のある島の景色

天城展望台は、阿嘉の南端にある阿嘉港の西へ歩いて約 15 分のところにあります。景色は、阿嘉港、阿嘉大橋、慶留間と外地などの島々を見渡せます。正面には、佐久原(さくばる)奇岩群があり、人気のダイビングスポットになっています。近くの森にある植物も興味深く、シークワサーや、イヌマキ、ケラマツツジやヤマモモオキナワキョウチクトウの木々があります。ここは夕日を見て楽しむにも最高の場所です。

本事業以前の英語解説文

無し

1496

No.44 Agenashiku Island

<環境省慶良間自然保護官事務所、沖縄>

【施設名】座間味島

【整備予定媒体】ウェブサイト

できあがった英語解説文

Island of Rest

Agenashiku is a small, uninhabited island lying between Zamami and Aka. You can get there by joining a kayak or stand-up paddle board tour, or by boat. The shallow waters on the west of the island are a great place for seeing all kinds of colorful tropical fish including butterfly fish. On the island itself, you may bump into a wild goat—and possibly even the spirit of Shiro, the dog, who used to take a break here when swimming across to see Marilyn, his ladylove. Agenashiku is recommended for families, but do be aware that the currents around the island can be very strong, so ask the ferry captain or a local for advice.

On Agenashiku, there are no lifeguards or toilet facilities. We advise wearing a lifejacket when swimming—and don't forget to bring a portable toilet.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

野生のヤギの島

安慶名敷は小さい無人島で、座間味と阿嘉の間に位置します。ここまではカヤックや SUP などのツアーで行くか、島渡しの船に乗って行くことができます。島の西の浅い海面は、チョウチョウウオなどのあらゆるカラフルな熱帯魚を見るには最高の場所です。島自体では、野生のヤギに偶然出会えるかもしれませんし、ひよつとすると愛するマリリンに会いに泳いで渡っているとき、よくここで休憩していた犬、シロのおもかげに会えるかもしれません。安慶名敷は家族連れにもお勧めですが、島では時間によって水の流れがとても速くなるので島渡しの船の船長か詳しい地元の方にアドバイスを受けて下さい。

安慶名敷では、ライフガードやトイレ設備はありません。遊泳時はライフジャケット着用していただき、携帯トイレを持参ください。

本事業以前の英語解説文

無し

1497

No.45 Gahi Island

<環境省慶良間自然保護官事務所、沖縄>

【施設名】座間味島

【整備予定媒体】ウェブサイト

できあがった英語解説文

Robinson Crusoe for a Day

Like its neighbor Agenashiku, Gahi is an uninhabited island you can reach by joining a kayak or stand-up paddle board tour, or by boat. Most of the island consists of white sandy beach, while the rest is covered with screw pine and sago palm. The surrounding waters are clear with wonderful Kerama Blue, and the sea bottom is pure white sand, making for a magical desert-island-for-a-day experience.

On Gahi, there are no lifeguards or toilet facilities. We advise wearing a lifejacket when swimming—and don't forget to bring a portable toilet.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

一日だけのロビンソン・クルーソーに

近隣の安慶名敷島のように、ガヒはカヤックや SUP などのツアーか島渡しの船に乗って行ける無人島です。島の大部分が白い砂浜でできていて、残りの部分はアダンやソテツで覆われています。周囲の海水は透明で目の前にはケラマブルーの海が広がり、海底には真っ白な砂が敷き詰められ、不思議な一日だけの無人島体験ができます。

ガヒでは、ライフガードやトイレ設備はありません。遊泳時はライフジャケット着用していただき、携帯トイレを持参ください。

本事業以前の英語解説文

無し

1498

No.46 Amuro Island

<環境省慶良間自然保護官事務所、沖縄>

【施設名】座間味島

【整備予定媒体】ウェブサイト

できあがった英語解説文

Radiant Fish

Amuro is the largest of the uninhabited islands with easy access from Zamami. You can get there by joining a kayak or stand-up paddle board tour, or else by boat. A little way away from the island's eastern shore, you will find clusters of coral that attract shoals of iridescent blue-green damselfish. Note that the water here is on the deep side, so the island is not recommended for visitors with small children.

On Amuro, there are no lifeguards or toilet facilities. We advise wearing a lifejacket when swimming—and don't forget to bring a portable toilet.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

暗闇で光る魚

安室は、座間味から簡単に行ける無人島の中では最大です。ここでも、カヤックやSUPなどのツアーか島渡しの船に乗って行くことができます。島の東部の海岸から少し離れたところには、虹色のスズメダイを大量に引き付ける、サンゴの群れが見つかります。ここの水深は深いので、この島はお子様にはお勧めできません。

安室では、ライフガードやトイレ設備はありません。遊泳時はライフジャケット着用していただき、携帯トイレを持参ください。

本事業以前の英語解説文

無し

1499

No.47 Kuba and Yakabi islands

<環境省慶良間自然保護官事務所、沖縄>

【施設名】阿嘉島・慶留間島・外地島

【整備予定媒体】ウェブサイト

できあがった英語解説文

The Islands that Time Forgot

Situated to the west of Zamami Island, Kuba and Yakabi are uninhabited islands where going ashore is not permitted. Until World War II, however, both places had flourishing economies and quite large populations. There was a copper mine on Yakabi with accommodation for the workers and schools for their children, but the entire 2,000-strong population left after the war. The whole island is now a preserve for Kerama deer. The “Kuba” in Kubajima’s name is a reference to the Kuba trees—*Livistona chinensis*, or Chinese fan palms—which cover the island (as they do many islands in the Keramas) and can be seen from the sea. Both places are popular diving spots.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

時間が止まった島

座間味島の西に位置する久場島と屋嘉比島は、上陸が許可されていない無人島です。しかし、第二次世界大戦前まで、この島は経済が潤い、多くの人々が住んでいました。両島には銅山あり、労働施設や子供たちのための学校もありましたが、全体で 2,000 人強の人々が第二次世界大戦の後でこの島を去りました。屋嘉比島・久場島周辺の海は人気のダイビングスポットが多数あります。また、屋嘉比島はケラマジカの保護区域になっています。久場島の名称の中の「久場」は、クバの木（学名：ビロウまたはシナビロウ）に由来します。クバの木は、島に自生していて慶良間諸島中で見ることができます。

本事業以前の英語解説文

無し

1500

No.48 Land Animals of the Keramashoto National Park

<環境省慶良間自然保護官事務所、沖縄>

【施設名】慶良間諸島国立公園

【整備予定媒体】ウェブサイト

できあがった英語解説文

Little Deer

If you come across any cultivated land in the Keramas, the chances are that it will be surrounded by tall fencing. This is because the farmers are doing their best to protect their crops from the local deer, a subspecies of the Japanese sika deer known as Kerama deer (*Cervus nippon keramae*). Introduced from mainland Japan in the seventeenth century, the Kerama deer developed in insular form, with darker fur and smaller heads and antlers.

The Kerama deer and two of its habitats, Geruma and Yakabi, were listed as Japanese Special Natural Monuments in 1972. Nonetheless, by the late 1970s it was estimated that only around 60 deer were living on the three islands of Geruma, Yakabi and Aka. Since then, the numbers have bounced back strongly thanks to conservation efforts, and you are very likely to have a close encounter in Aka or Geruma. The deer are highly strung, but quite accustomed to humans.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

ちいさな鹿

慶良間諸島で農地を見かけたら、おそらく高い柵で囲まれていることでしょう。これは、農家が最善を尽くして収穫物を地元の鹿から守るためにあります。この鹿は、ニホンジカの亜種、ケラマジカ（学名：Cervus nippon keramae）として知られています。日本本土から17世紀に導入されたケラマジカは島独自の進化を遂げ、体格も小さく、毛皮の色が濃く、小さい頭と角を持ちます。

ケラマジカとその2つの生息地、慶留間と屋嘉比は、1972年、国指定天然記念物に登録されました。1970年代後半には、推定約60頭の鹿が、屋嘉比、慶留間、阿嘉の諸島に生息していました。それ以来、鹿の数は保護の取り組みの結果、回復し、阿嘉や慶留間において、近くで遭遇する可能性が高いです。鹿は非常に神経質ですが、かなり人に慣れてしています。

本事業以前の英語解説文

無し

1501

No.49 Mukaraku Island

<環境省慶良間自然保護官事務所、沖縄>

【施設名】阿嘉島・慶留間島・外地島

【整備予定媒体】ウェブサイト

できあがった英語解説文

The Island that Rocks

Mukaraku is a small, uninhabited island just off the southern tip of Fukaji. The approach is somewhat difficult, but the island has several excellent diving spots. The water is transparent blue, the beaches white and sandy, and everywhere there is a riot of rocks — great crags, angled sheets of smooth sandstone, even little rocks eroded into bizarre shapes that stick up out of the sea like Giacometti sculptures.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

揺れ動く島

ムカラクは、外地島の南端からすぐの小さな無人島です。行くのは少し難しいですが、この島は素晴らしい景色を見るのに訪れる価値が十分あります。海水は透明な青で、ビーチは白くて砂が多く、どこにも多種多様な岩があり、大きな岩山、角度のある滑らかな砂岩の広がり、小さな岩でさえ奇妙な形に浸食され、ジャコモッティの彫刻のように海から突き出しています。

本事業以前の英語解説文

無し

【施設名】慶良間諸島国立公園

【整備予定媒体】ウェブサイト

できあがった英語解説文

A Culture Rooted in the Sea

When Okinawa was an independent kingdom from the fifteenth to the nineteenth centuries, the Kerama Islands served as a staging point for the tribute ships that plied their way between Okinawa and China. Because people who prospered always did so by means of the sea, whether the China trade or bonito fishing, traditional grand houses with their distinctive walls of massive coral were known as “captain’s houses.” One old house and several sets of massive coral walls survive, but intensive bombardment at the end of World War II destroyed much of the island’s historical heritage.

Festivals and Boat Races

Nonetheless, the traditional culture and customs of the Keramas continue to flourish. Each village still has its age-old *utaki* sacred sites and *uganju* prayer places, while the special relationship with the sea is celebrated with a series of festivals throughout the year. On Zamami Island, these include: the *hamauri* festival, held on the day in April with the greatest tidal range, with purification rituals to ensure the health and happiness of the island’s women; the *sabani* race in June when traditional Okinawan fishing boats (six-man dug-outs with a sail) are raced to placate the sea gods and pray for good catches and the safety of the island’s fishermen; and the *Umiugan* in September when women wade into the sea to give thanks for the past year, to pray for safety at sea, and for bounteous catches of fish. Every village observes this ritual.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

海に根付いた文化

沖縄が琉球王朝として 15 世紀から 19 世紀まで独立国家だったときに、慶良間諸島は沖縄と中国の間を行き来していた船の中継地点でした。財を成していた人々は、中国貿易であれカツオ漁であれ、常に海を商売の道具にし、分厚いサンゴ礁の石垣の伝統的な家屋は、「船頭の家」として知られていました。古い大邸宅が一つと、いくつかの巨大なサンゴ礁でできた石垣が残りましたが、第二次世界大戦の終盤に集中爆撃を受け、この島の物理的遺産の多くが破壊されました。

祭りとボートレース

にもかかわらず、慶良間の伝統文化や風習は栄え続けています。各村には今も、御嶽（うたき）と呼ばれる古来の神聖な場所や、拝所（うがんじゅ）と呼ばれる祈りの場所があり、海との特別な関係が、一年を通して一連の祭りで祝われます。座間味島には、次のような祭りがあります。島の女性の健康と幸せを祈る浜下り祭りが、満干の差が最も大きい旧暦の3月3日に催されます。6月にはサバニ帆漕レースが開催されます。伝統的な沖縄の漁船（6人の男性が乗る帆掛け船）に乗って、海の神を鎮め、大漁と島の漁師の身の安全を祈るため、レースをします。ウミウガンは旧暦の8月に催されます。この行事は一年間の感謝と今後の航海安全、大漁を祈願して各集落のうたきにお祈りします。

本事業以前の英語解説文

無し